

豊中市

子どもの生活に関する実態調査

令和7年（2025年）2月

豊中市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学

目次

はじめに	1
I 調査概要	3
1. 調査の目的	3
2. 調査方法	3
3. 調査内容	3
4. 調査対象者	3
5. 調査実施日	3
6. 調査配布・回収率(数)	3
7. 調査実施主体	5
8. 研究者一覧	5
9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い	5
II 調査結果	7
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕	7
2. 単純集計結果〔保護者〕	84
3. クロス集計および分析結果	182
3-1. 基本情報	182
(1) 経済状況	182
(2) 家庭状況（制度等）	201
3-2. 雇用	248
3-3. 健康	256
3-4. 家庭生活、学習	299
3-5. 対人関係	359
III 総合考察	427
1) 大阪府共同実施調査の意義	427
2) 単純集計	427
3) クロス集計	430
まとめ	432
IV 資料編	439

はじめに

2014年1月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されたことをスタートに、2014年8月「子供の貧困対策に関する大綱」が策定された。これら政府の動きを受けて、大阪市や大阪府内自治体含む大阪府は約10万件にも及ぶ子どもの生活に関する実態調査に共同で取り組んだ。府内すべてを網羅したこと、同じ調査で実施したことの意味は、大きい。なぜなら、各自治体がばらばらに実施し結果を見せても共通の指標にならず、この数値がどうなのか、意味があるのか、よくわからない実態も少なくない。世間でもかなり話題になり、マスコミに多数取り上げられた。この頃には、子どもの貧困が広く知られ社会問題化されつつあったが、この大規模な調査の動きは拍車をかけたのみならず、データ数の多さから、全て実証され、以下に示す政策にも少なからず影響をもたらした。

2019年6月「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が5年ぶりに見直され、「子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が施行された。それを受けて、同年11月「子供の貧困対策に関する大綱～日本の将来を担う子供たちを誰一人取り残すことがない社会に向けて～」が再策定された。大綱では、「支援が届いていない、又は届きにくい子ども・家庭に配慮して対策を推進する」、「困窮層が多様であること」、「社会的孤立に陥ることのないように配慮する」など新たな視点が基本方針として追加され、ヤングケアラーと思われる子どもや、外国籍や障がいを持つ子どもたちなど、具体的な困窮層の子どもや家庭が示された。同時に、2023年4月にこども家庭庁が発足され、貧困をはじめとする子どもを取り巻く社会問題にシームレスに向き合い、途切れない政策・支援を打ち立てていくことが期待されている。

こうして子どもの貧困に関する社会的認知や政策が知られるようになったが、子どもの実態はどう変わったのであろうか。政策の効果は表れたのであろうか。そんな思いをもって、大阪府では再度府内自治体とともに子どもの生活に関する実態調査が共同実施されることになった。全国的にここまで一体的に実施する都道府県は存在せず、大阪府が、大阪府内の大半を占める大阪市も含めて牽引した役割は大きい。

子どもの貧困については、前回と同様に、その国の貧困線未満の所得で暮らす相対的貧困の17歳以下の子どもの存在および生活状況を指す相対的貧困率でとらえる。OECDや厚生労働省調査の貧困率には等価可処分所得の中央値の50%が使用されているが、絶対的なものではなく、EU、ユニセフは公式の貧困基準のひとつに中央値の60%を使用（ただし、常に60%基準採用ではない）している。前回同様、60%のラインも含め検討している。子どもの相対的貧困率については、発表主体、統計利用データ年次によって変動する。内容的には、タウンゼンドの定義を元にChild Poverty Action Group (CPAG) が示している、①所得や資産など経済的資本 (capital) の欠如、②健康や教育など人的資本 (human capital) の欠如、③つながりやネットワークなど社会関係資本 (social capital) の欠如、の3つの資本の欠如を基本的な枠組みとしてとらえる。

I 調査概要

1. 調査の目的

豊中市では、すべての子どもが生まれ育った環境に左右されず、心身とも健やかに育ち、教育の機会が保障され、夢と希望をもって積極的に自らの生き方を選択し自立できるよう、子どもの未来応援施策を推進している。令和7年度(2025年度)からの次期計画策定にあたり、大阪府と共同で豊中市内の子どもの生活に関する実態調査を実施し、現状を把握するとともに得られた結果を分析することによって、後の施策展開を検討することを目的としている。

2. 調査方法

住民基本台帳より全数抽出した調査対象の世帯（保護者は重複あり）に、調査票を郵送し、郵送及びWEBフォームにて回収を得たもの。

3. 調査内容

巻末の調査票参照

4. 調査対象者

小学校5年生・その保護者（3,877世帯） 中学校2年生・その保護者（3,820世帯）

5. 調査実施日

豊中市：令和5年（2023年）8月25日～令和5年（2023年）9月15日

大阪府内全自治体：令和5年（2023年）6年月27日～令和5年（2023年）9月30日

6. 調査配布・回収率(数)

表1. 調査票の回収状況

		回収率(%)	回収数	配布数
豊中市	小学5年生	34.5	1,336	3,877
	小学5年生の保護者	37.6	1,457	3,877
	中学2年生	30.0	1,147	3,820
	中学2年生の保護者	33.5	1,278	3,820
	小学5年生・中学2年生合計	32.3	2,483	7,697
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	35.5	2,735	7,697
	計	33.9	5,218	15,394
大阪府全自治体	小学5年生	56.2	23,289	41,458
	小学5年生の保護者	55.0	22,819	41,458
	中学2年生	51.4	19,990	38,911
	中学2年生の保護者	49.8	19,390	38,911
	小学5年生・中学2年生合計	54.0	43,370	80,369
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	53.9	43,358	80,369
	計	54.0	86,728	160,738

※大阪府内全自治体の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

大阪府内全自治体回収状況配布・回収方法別

		回収率(%)	回収数	配布数
学校配布・学校回収	小学5年生	61.6	15,927	25,852
	小学5年生の保護者	62.6	16,178	25,852
	中学2年生	58.3	13,712	23,539
	中学2年生の保護者	58.2	13,707	23,539
	小学5年生・中学2年生合計	60.1	29,674	49,391
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	60.7	29,977	49,391
	計	60.4	59,651	98,782
学校配布・郵送回収	小学5年生	22.6	1,401	6,191
	小学5年生の保護者	22.2	1,376	6,191
	中学2年生	15.3	936	6,099
	中学2年生の保護者	15.5	943	6,099
	小学5年生・中学2年生合計	19.2	2,362	12,290
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	2,361	12,290
	計	19.2	4,723	24,580
郵送配布・郵送回収	小学5年生	21.3	2,003	9,415
	小学5年生の保護者	21.0	1,978	9,415
	中学2年生	17.8	1,646	9,273
	中学2年生の保護者	17.8	1,653	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	19.7	3,676	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.7	3,675	18,688
	計	19.7	7,351	37,376
学校配布・WEB回答	小学5年生	23.0	3,007	13,068
	小学5年生の保護者	17.0	2,228	13,068
	中学2年生	21.3	2,714	12,718
	中学2年生の保護者	16.0	2,037	12,718
	小学5年生・中学2年生合計	22.2	5,723	25,786
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	19.2	4,949	25,786
	計	20.7	10,672	51,572
郵送配布・WEB回答	小学5年生	10.1	951	9,415
	小学5年生の保護者	11.2	1,059	9,415
	中学2年生	10.6	982	9,273
	中学2年生の保護者	11.3	1,050	9,273
	小学5年生・中学2年生合計	10.4	1,935	18,688
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	12.8	2,396	18,688
	計	11.6	4,331	37,376

※各配布・回収方法の小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、学年不明分を含んだものとなっている（子ども：91件、保護者：1,149件）

※大阪府内全自治体の小学5年生、小学5年生保護者、中学2年生、中学2年生保護者、小学5年生・中学2年生合計、小学5年生保護者・中学2年生保護者合計の数値については、一部自治体の他学年分を含んだものとなっている。

※「計」は、「小学5年生・中学2年生合計」と「小学5年生保護者・中学2年生保護者合計」の合計となっている。

なお、未就学児童の保護者を対象とした調査も大阪府内の3自治体において実施した。さらに1自治体では、小5・中2以外の学年の児童とその保護者を対象とした調査も実施した。これらの合計配布数は、19,513件、回収数は、14,626件、回収率75.0%であった。

7. 調査実施主体

豊中市

調査研究業務受託者

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

8. 研究者一覧

担当者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

教授 山野 則子（業務責任者）

特任講師 橋本 磨和

シニア研究員 永田 麻衣 佐伯 厘咲 李 孟

協力者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

准教授 嵯峨 嘉子

研究補助者 公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 経済学研究科

准教授 牛 冰

武庫川女子大学 社会情報学部 社会情報学科 助教 駒田 安紀

大阪商業大学 公共学部 公共学科 助教 林 萍萍

奈良佐保短期大学 地域こども学科 講師 河村 信子

公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科

研究員 黄 健育 渡邊 陽亮

大阪公立大学大学院 現代システム科学研究科 専攻社会福祉学分野 林 慎吾

松浦 孝範 久地井 寿哉 渡邊 祐作

9. 大阪府内全自治体のデータ統合時の扱い

本報告書においては、豊中市と大阪府内全自治体をそれぞれ掲載している。豊中市のデータについては既に「I 調査概要 2～8」で述べた方法で収集したものである。大阪府内全自治体については、大阪府25市町村のデータに共同実施18市町村のデータを統合したものである。これら全自治体においては、小学生・中学生27問、保護者26問をそれぞれ共通設問として調査項目を設計し、全体を統合して扱うあるいは比較することが可能なものとした。なお、一部の市においては、これらの共通設問とは別途把握したい内容がある場合に限り、追加で独自設問を設けている。

調査の結果、府と他共同実施18市町との間で回収率や回収数に差が生じた。府では、予めサンプリングした対象8000件への配布を行いその約30%の回収となったのに対し、他共同実施市ではほとんどの市が全数配布の結果、高いところでは70%を超える回収率となっている。このため、自治体間で回収率あるいはサンプルサイズの補正を行うか否かについて検討し、補正は行わないとの結論に達した。

1点目の理由としては、今回の調査では調査票配布の方法に郵送配布と学校配布の2種類があり、いずれを用いるかは自治体の状況に基づいて決定された。配布方法が異なることで回収率に差が生じることは避けられないものであった。

2点目の理由としては、このような状況に対して、例えば回収率の高かった自治体についてデータの再サンプリングなどの方法を用いて削減を行うことも意見が出された。しかし、その

場合、どのような基準で選択するのかが恣意的になってしまうこと、削減後の結果を提示した場合、施策を提言するための貴重な調査結果であるにもかかわらずその一部が掬い取られないことになり、全数調査をした市においては意義が失われてしまう。

このような理由から、大阪府内全自治体のデータは回収したデータをすべて統合したものとなっている。

本報告書では、「豊中市」、「大阪府内全自治体」両者のグラフを掲載しているため、このように書き分けて論じていく。

なお、報告書においてはパーセンテージを用いて記述し、議論を進める。この中で、パーセンテージで示される数値同士の加・減・除を行う（合計する・差を把握する・何倍かに着目する）ことがあるが、実際に示された数値で算出しても結果が異なることがある。これは、示されている数値は小数第二位以下を四捨五入しているものであり、算出には四捨五入前の厳密な数値を用いていることによるものである。

Ⅱ 調査結果

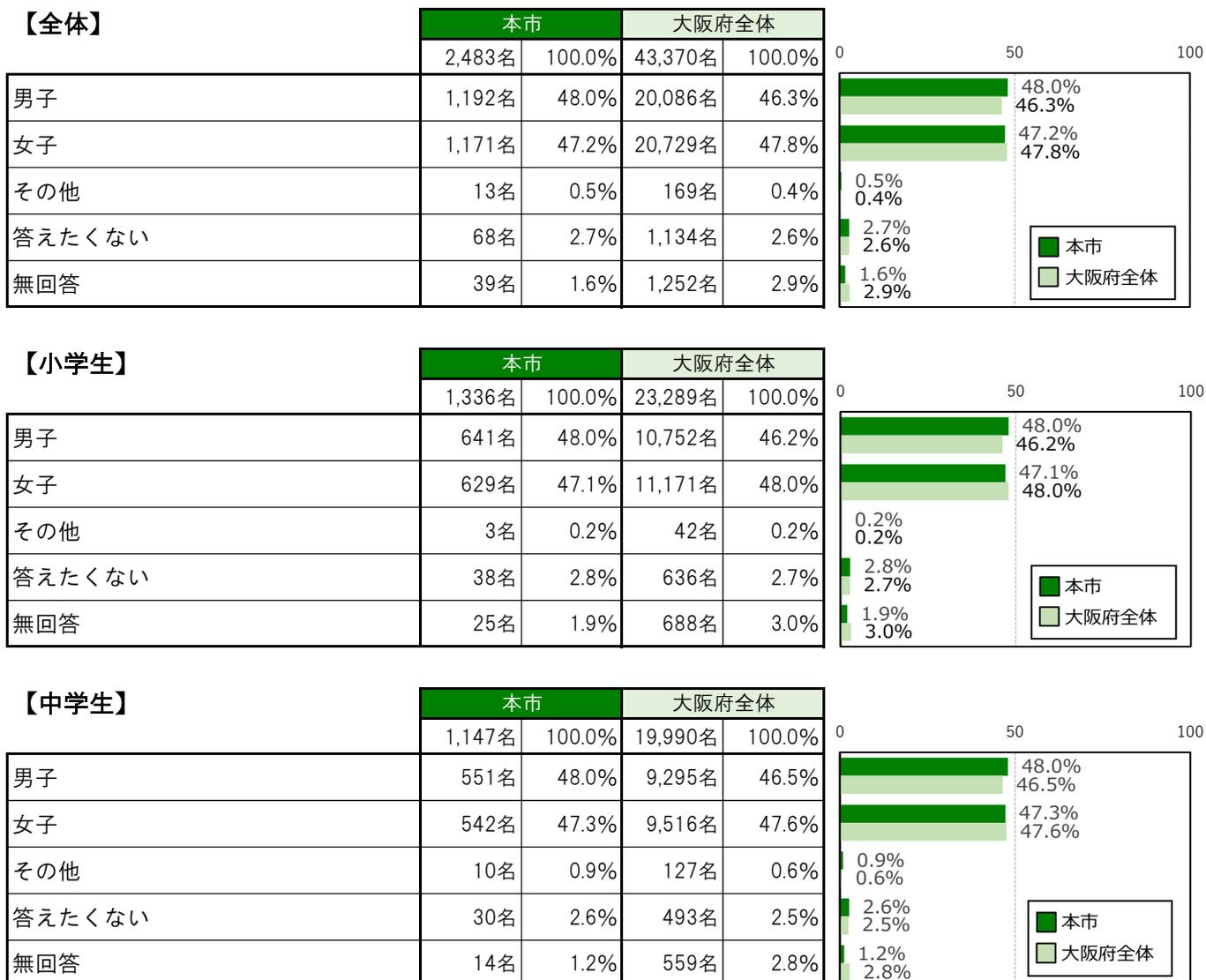
1. 単純集計結果〔小学生・中学生〕

豊中市

回答者の属性

問27 性別

全体は、「男子」が48.0%で最も多く、次いで「女子」が47.2%となっている。
 小学生は、「男子」が48.0%で最も多く、次いで「女子」が47.1%となっている。
 中学生は、「男子」が48.0%で最も多く、次いで「女子」が47.3%となっている。



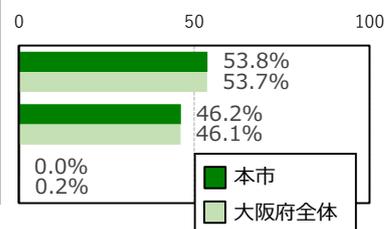
回答者の属性

問1 学年

回答者の学年は、「小学生」が1,336名・53.8%、「中学生」が1,147名・46.2%となっている。

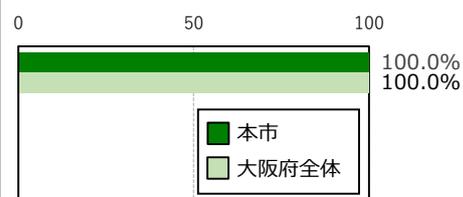
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	2,483名	100.0%	43,370名	100.0%
小学生	1,336名	53.8%	23,289名	53.7%
中学生	1,147名	46.2%	19,990名	46.1%
無回答	-	-	91名	0.2%



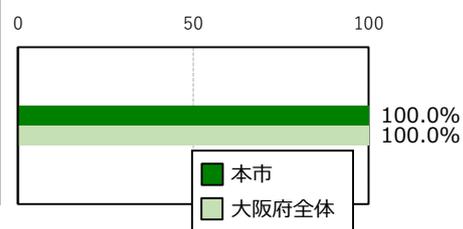
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	1,336名	100.0%	23,289名	100.0%
小学生	1,336名	100.0%	23,289名	100.0%
中学生	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
小学生	-	-	-	-
中学生	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
無回答	-	-	-	-



ふだんの生活のことについて

問2 起床時間の規則性

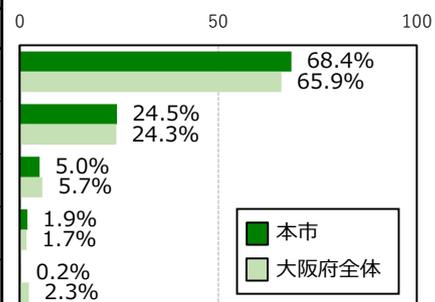
全体は、「起きている」が68.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が24.5%、「あまり、起きていない」が5.0%、「起きていない」が1.9%となっている。

小学生は、「起きている」が68.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が24.6%、「あまり、起きていない」が4.9%、「起きていない」が1.6%となっている。

中学生は、「起きている」が67.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば、起きている」が24.5%、「あまり、起きていない」が5.1%、「起きていない」が2.1%となっている。

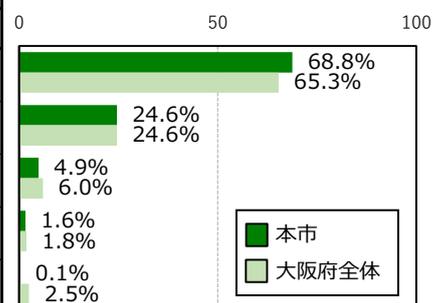
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	1,698名	68.4%	28,594名	65.9%
どちらかといえば、起きている	609名	24.5%	10,539名	24.3%
あまり、起きていない	124名	5.0%	2,478名	5.7%
起きていない	46名	1.9%	741名	1.7%
無回答	6名	0.2%	1,018名	2.3%



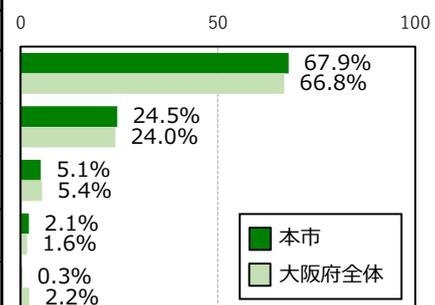
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	919名	68.8%	15,198名	65.3%
どちらかといえば、起きている	328名	24.6%	5,722名	24.6%
あまり、起きていない	65名	4.9%	1,386名	6.0%
起きていない	22名	1.6%	410名	1.8%
無回答	2名	0.1%	573名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
起きている	779名	67.9%	13,344名	66.8%
どちらかといえば、起きている	281名	24.5%	4,791名	24.0%
あまり、起きていない	59名	5.1%	1,088名	5.4%
起きていない	24名	2.1%	328名	1.6%
無回答	4名	0.3%	439名	2.2%



ふだんの生活のことについて

問3 就寝時間

全体は、「午後10時台」が33.9%で最も多く、次いで「午後11時台」が25.7%、「午後9時台」が18.3%、「午前0時台」が9.4%となっている。

小学生は、「午後10時台」が42.9%で最も多く、次いで「午後9時台」が30.8%、「午後11時台」が14.1%、「きまっていない」が6.5%となっている。

中学生は、「午後11時台」が39.2%で最も多く、次いで「午後10時台」が23.5%、「午前0時台」が17.9%、「きまっていない」が10.4%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

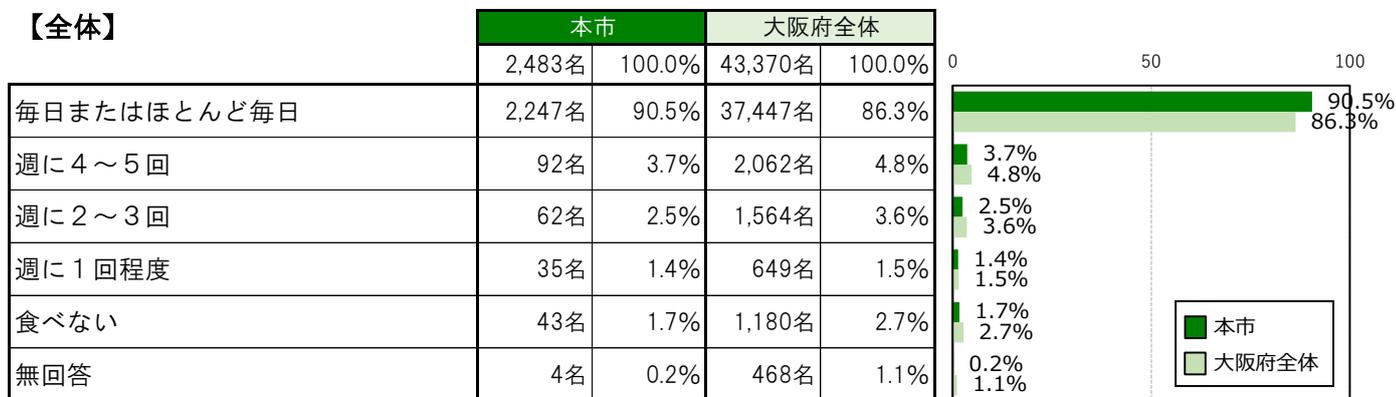
問4(1) 朝食の頻度

全体は、「毎日またはほとんど毎日」が90.5%で最も多く、次いで「週に4～5回」が3.7%、「週に2～3回」が2.5%、「食べない」が1.7%となっている。

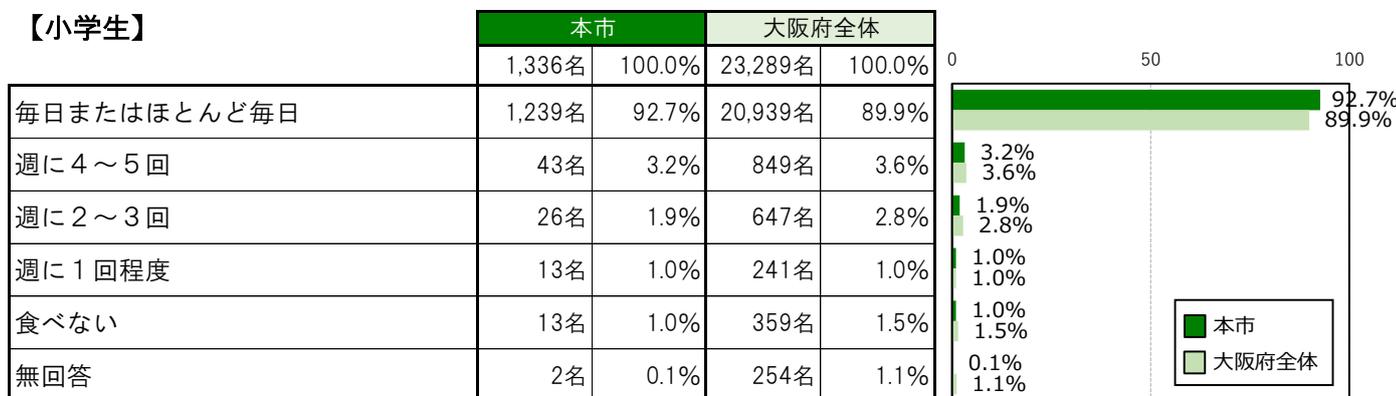
小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が92.7%で最も多く、次いで「週に4～5回」が3.2%、「週に2～3回」が1.9%、「週に1回程度」、「食べない」がそれぞれ1.0%となっている。

中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が87.9%で最も多く、次いで「週に4～5回」が4.3%、「週に2～3回」が3.1%、「食べない」が2.6%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問4(2) 朝食を食べない理由

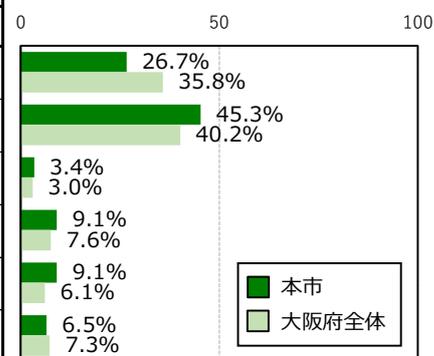
全体は、「おなかがすいていない」が45.3%で最も多く、次いで「時間がない」が26.7%、「食べる習慣がない」が9.1%、「用意されていない」が3.4%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が50.5%で最も多く、次いで「時間がない」が21.1%、「食べる習慣がない」が9.5%、「用意されていない」が6.3%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が41.6%で最も多く、次いで「時間がない」が30.7%、「食べる習慣がない」が8.8%、「用意されていない」が1.5%となっている。

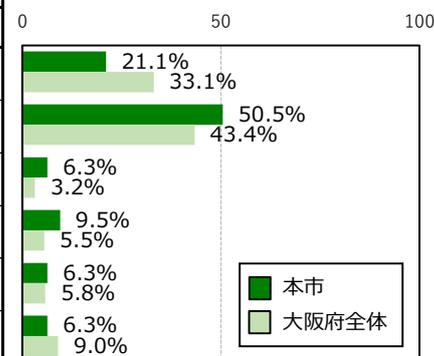
【全体】

	本市		大阪府全体	
	232名	100.0%	5,455名	100.0%
時間がない	62名	26.7%	1,954名	35.8%
おなかがすいていない	105名	45.3%	2,194名	40.2%
用意されていない	8名	3.4%	162名	3.0%
食べる習慣がない	21名	9.1%	414名	7.6%
わからない	21名	9.1%	334名	6.1%
無回答	15名	6.5%	397名	7.3%



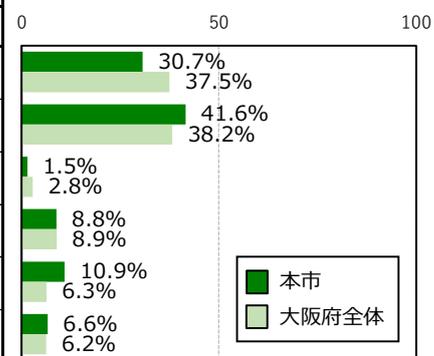
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	95名	100.0%	2,096名	100.0%
時間がない	20名	21.1%	694名	33.1%
おなかがすいていない	48名	50.5%	909名	43.4%
用意されていない	6名	6.3%	68名	3.2%
食べる習慣がない	9名	9.5%	116名	5.5%
わからない	6名	6.3%	121名	5.8%
無回答	6名	6.3%	188名	9.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	137名	100.0%	3,348名	100.0%
時間がない	42名	30.7%	1,257名	37.5%
おなかがすいていない	57名	41.6%	1,280名	38.2%
用意されていない	2名	1.5%	94名	2.8%
食べる習慣がない	12名	8.8%	298名	8.9%
わからない	15名	10.9%	212名	6.3%
無回答	9名	6.6%	207名	6.2%



ふだんの生活のことについて

問5（1）夕食の頻度

全体は、「毎日またはほとんど毎日」が97.3%で最も多くなっている。
 小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が97.2%で最も多くなっている。
 中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が97.5%で最も多く、次いで「週に4～5回」が1.0%となっている。



ふだんの生活のことについて

問5(2) 夕食を食べない理由

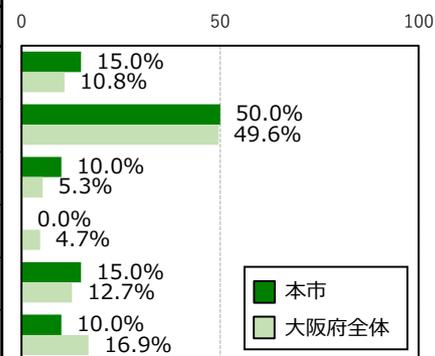
全体は、「おなかがすいていない」が50.0%（10名）で最も多く、次いで「時間がない」が15.0%（3名）、「用意されていない」が10.0%（2名）となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が40.0%（2名）で最も多く、次いで「用意されていない」が20.0%（1名）となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が53.3%（8名）で最も多く、次いで「時間がない」が20.0%（3名）、「用意されていない」が6.7%（1名）となっている。

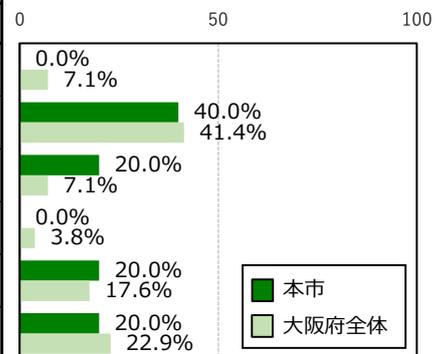
【全体】

	本市		大阪府全体	
	20名	100.0%	490名	100.0%
時間がない	3名	15.0%	53名	10.8%
おなかがすいていない	10名	50.0%	243名	49.6%
用意されていない	2名	10.0%	26名	5.3%
食べる習慣がない	-	-	23名	4.7%
わからない	3名	15.0%	62名	12.7%
無回答	2名	10.0%	83名	16.9%



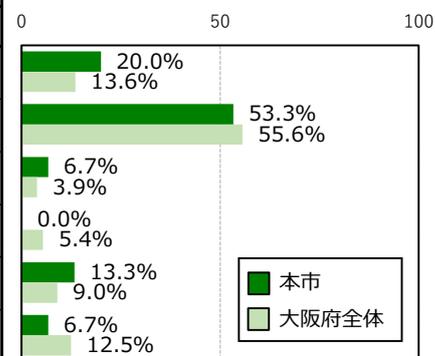
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	5名	100.0%	210名	100.0%
時間がない	-	-	15名	7.1%
おなかがすいていない	2名	40.0%	87名	41.4%
用意されていない	1名	20.0%	15名	7.1%
食べる習慣がない	-	-	8名	3.8%
わからない	1名	20.0%	37名	17.6%
無回答	1名	20.0%	48名	22.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	15名	100.0%	279名	100.0%
時間がない	3名	20.0%	38名	13.6%
おなかがすいていない	8名	53.3%	155名	55.6%
用意されていない	1名	6.7%	11名	3.9%
食べる習慣がない	-	-	15名	5.4%
わからない	2名	13.3%	25名	9.0%
無回答	1名	6.7%	35名	12.5%



ふだんの生活のことについて

問6（1）休日の昼食の頻度

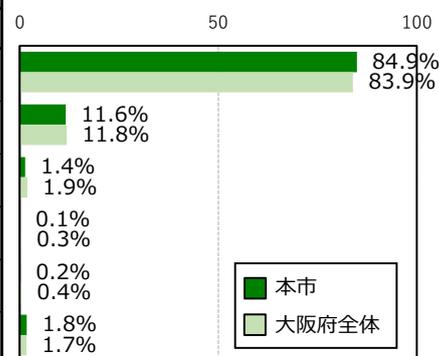
全体は、「必ず食べる」が84.9%で最も多く、次いで「食べることが多い」が11.6%、「食べないことが多い」が1.4%となっている。

小学生は、「必ず食べる」が86.9%で最も多く、次いで「食べることが多い」が9.5%、「食べないことが多い」が1.0%となっている。

中学生は、「必ず食べる」が82.5%で最も多く、次いで「食べることが多い」が13.9%、「食べないことが多い」が1.8%となっている。

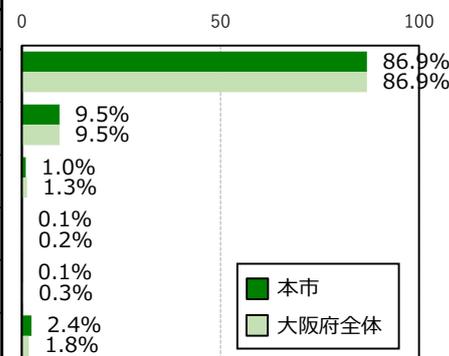
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
必ず食べる	2,107名	84.9%	36,388名	83.9%
食べるが多い	287名	11.6%	5,118名	11.8%
食べないことが多い	35名	1.4%	830名	1.9%
食べない	3名	0.1%	117名	0.3%
わからない	6名	0.2%	180名	0.4%
無回答	45名	1.8%	737名	1.7%



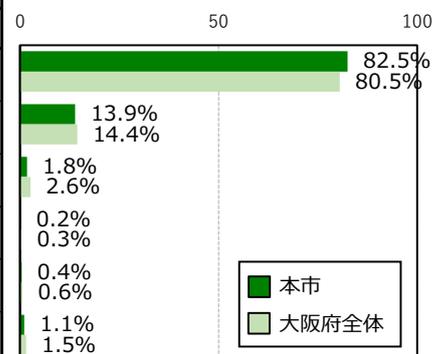
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
必ず食べる	1,161名	86.9%	20,227名	86.9%
食べるが多い	127名	9.5%	2,221名	9.5%
食べないことが多い	14名	1.0%	306名	1.3%
食べない	1名	0.1%	51名	0.2%
わからない	1名	0.1%	62名	0.3%
無回答	32名	2.4%	422名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
必ず食べる	946名	82.5%	16,090名	80.5%
食べるが多い	160名	13.9%	2,886名	14.4%
食べないことが多い	21名	1.8%	524名	2.6%
食べない	2名	0.2%	66名	0.3%
わからない	5名	0.4%	117名	0.6%
無回答	13名	1.1%	307名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問6(2) 休日に昼食を食べない理由

全体は、「おなかがすいていない」が61.0%で最も多く、次いで「時間がない」が16.3%、「食べる習慣がない」が3.9%、「用意されていない」が3.6%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が62.2%で最も多く、次いで「時間がない」が14.7%、「食べる習慣がない」が3.5%、「用意されていない」が2.8%となっている。

中学生は、「おなかがすいていない」が60.1%で最も多く、次いで「時間がない」が17.6%、「用意されていない」、「食べる習慣がない」がそれぞれ4.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問7 学校への遅刻

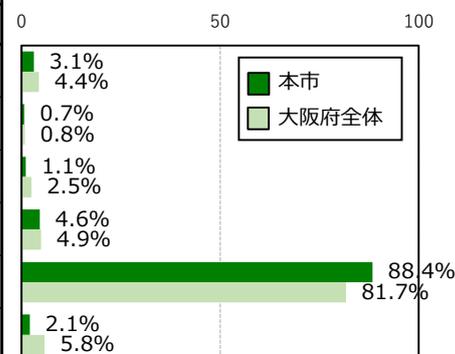
全体は、「遅刻はしない」が88.4%で最も多く、次いで「週に1回程度」が4.6%、「毎日またはほとんど毎日」が3.1%、「週に2～3回」が1.1%となっている。

小学生は、「遅刻はしない」が87.1%で最も多く、次いで「週に1回程度」が4.6%、「毎日またはほとんど毎日」が3.4%、「週に2～3回」が1.3%となっている。

中学生は、「遅刻はしない」が90.0%で最も多く、次いで「週に1回程度」が4.5%、「毎日またはほとんど毎日」が2.7%となっている。

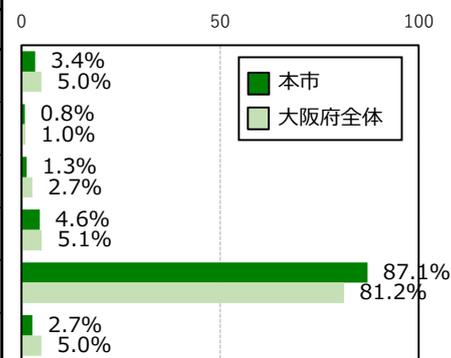
【全体】

	本市		大阪府全体	
	2,483名	100.0%	43,370名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	77名	3.1%	1,906名	4.4%
週に4～5回	18名	0.7%	333名	0.8%
週に2～3回	28名	1.1%	1,063名	2.5%
週に1回程度	113名	4.6%	2,132名	4.9%
遅刻はしない	2,196名	88.4%	35,435名	81.7%
無回答	51名	2.1%	2,501名	5.8%



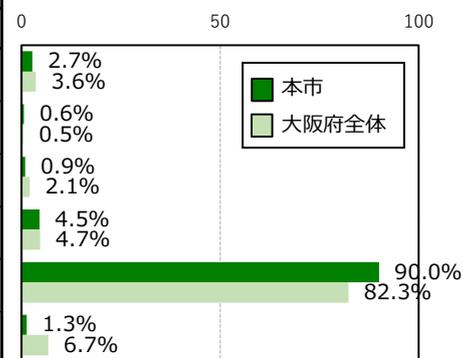
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	1,336名	100.0%	23,289名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	46名	3.4%	1,168名	5.0%
週に4～5回	11名	0.8%	223名	1.0%
週に2～3回	18名	1.3%	639名	2.7%
週に1回程度	61名	4.6%	1,194名	5.1%
遅刻はしない	1,164名	87.1%	18,907名	81.2%
無回答	36名	2.7%	1,158名	5.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
毎日またはほとんど毎日	31名	2.7%	729名	3.6%
週に4～5回	7名	0.6%	109名	0.5%
週に2～3回	10名	0.9%	423名	2.1%
週に1回程度	52名	4.5%	935名	4.7%
遅刻はしない	1,032名	90.0%	16,459名	82.3%
無回答	15名	1.3%	1,335名	6.7%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ①おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

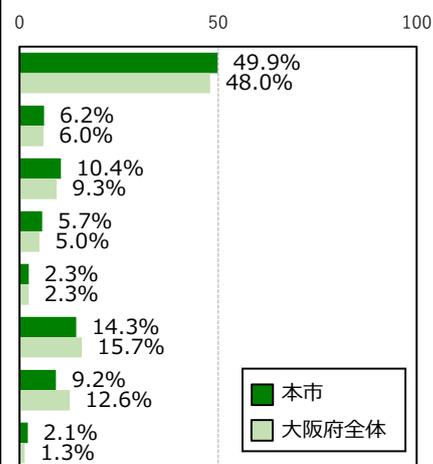
全体は、「ほとんど毎日」が49.9%で最も多く、次いで「ほとんどない」が14.3%、「週に2～3回」が10.4%、「まったくない」が9.2%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が57.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が11.7%、「週に2～3回」が10.4%、「まったくない」が6.7%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が41.6%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.3%、「まったくない」が12.0%、「週に2～3回」が10.3%となっている。

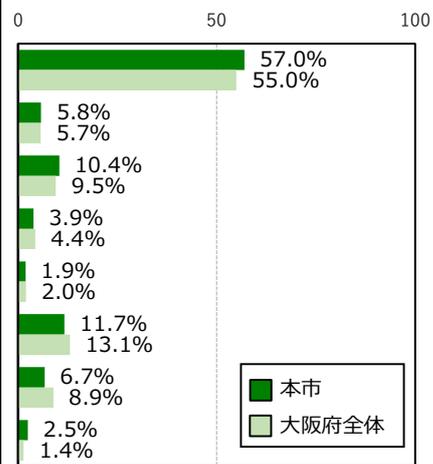
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	1,239名	49.9%	20,810名	48.0%
週に4～5回	154名	6.2%	2,583名	6.0%
週に2～3回	257名	10.4%	4,012名	9.3%
週に1回程度	142名	5.7%	2,155名	5.0%
月に1～2回	57名	2.3%	995名	2.3%
ほとんどない	355名	14.3%	6,794名	15.7%
まったくない	228名	9.2%	5,475名	12.6%
無回答	51名	2.1%	546名	1.3%



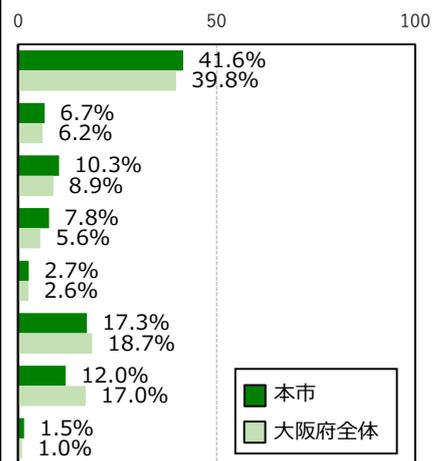
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	762名	57.0%	12,809名	55.0%
週に4～5回	77名	5.8%	1,328名	5.7%
週に2～3回	139名	10.4%	2,222名	9.5%
週に1回程度	52名	3.9%	1,023名	4.4%
月に1～2回	26名	1.9%	469名	2.0%
ほとんどない	156名	11.7%	3,042名	13.1%
まったくない	90名	6.7%	2,065名	8.9%
無回答	34名	2.5%	331名	1.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	477名	41.6%	7,962名	39.8%
週に4～5回	77名	6.7%	1,248名	6.2%
週に2～3回	118名	10.3%	1,780名	8.9%
週に1回程度	90名	7.8%	1,128名	5.6%
月に1～2回	31名	2.7%	526名	2.6%
ほとんどない	199名	17.3%	3,737名	18.7%
まったくない	138名	12.0%	3,400名	17.0%
無回答	17名	1.5%	209名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ②おうちの大人のひとと一緒に夕食を食べているか

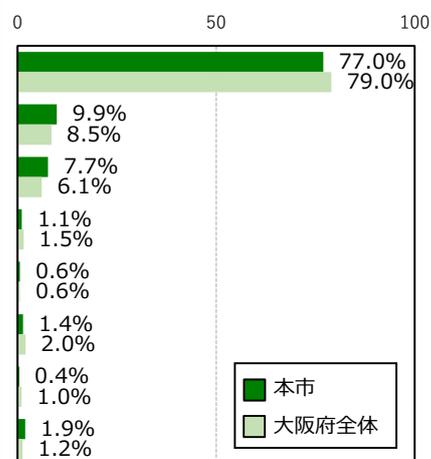
全体は、「ほとんど毎日」が77.0%で最も多く、次いで「週に4～5回」が9.9%、「週に2～3回」が7.7%、「ほとんどない」が1.4%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が82.1%で最も多く、次いで「週に4～5回」が7.3%、「週に2～3回」が5.7%、「ほとんどない」が1.0%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が71.1%で最も多く、次いで「週に4～5回」が13.0%、「週に2～3回」が10.0%、「週に1回程度」が1.9%となっている。

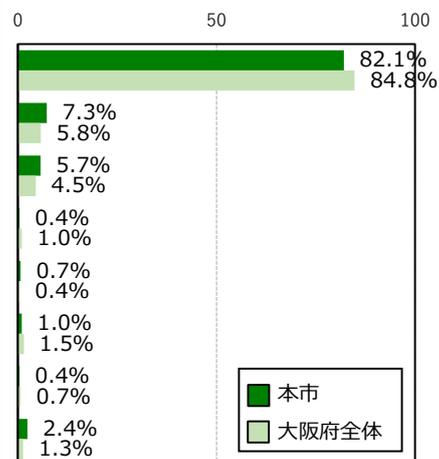
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	1,912名	77.0%	34,246名	79.0%
週に4～5回	246名	9.9%	3,679名	8.5%
週に2～3回	191名	7.7%	2,667名	6.1%
週に1回程度	28名	1.1%	656名	1.5%
月に1～2回	16名	0.6%	262名	0.6%
ほとんどない	34名	1.4%	889名	2.0%
まったくない	10名	0.4%	455名	1.0%
無回答	46名	1.9%	516名	1.2%



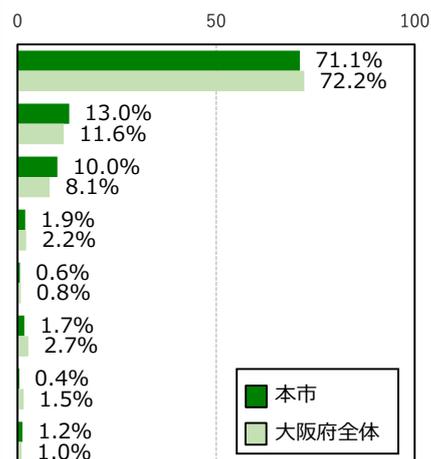
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	1,097名	82.1%	19,748名	84.8%
週に4～5回	97名	7.3%	1,360名	5.8%
週に2～3回	76名	5.7%	1,048名	4.5%
週に1回程度	6名	0.4%	222名	1.0%
月に1～2回	9名	0.7%	100名	0.4%
ほとんどない	14名	1.0%	349名	1.5%
まったくない	5名	0.4%	154名	0.7%
無回答	32名	2.4%	308名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほとんど毎日	815名	71.1%	14,429名	72.2%
週に4～5回	149名	13.0%	2,310名	11.6%
週に2～3回	115名	10.0%	1,616名	8.1%
週に1回程度	22名	1.9%	431名	2.2%
月に1～2回	7名	0.6%	162名	0.8%
ほとんどない	20名	1.7%	539名	2.7%
まったくない	5名	0.4%	301名	1.5%
無回答	14名	1.2%	202名	1.0%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ③おうちの大人の人に朝、起こしてもらうか

全体は、「ほとんど毎日」が42.6%で最も多く、次いで「ほとんどない」が15.1%、「週に4～5回」が12.0%、「まったくない」が10.1%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が43.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が15.3%、「週に4～5回」が11.9%、「まったくない」が9.7%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が42.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が15.0%、「週に4～5回」が12.2%、「まったくない」が10.5%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ④おうちの手伝いをしているか

全体は、「ほとんど毎日」が20.9%で最も多く、次いで「週に2～3回」が18.1%、「ほとんどない」が16.3%、「週に1回程度」が15.1%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が22.3%で最も多く、次いで「週に2～3回」が20.1%、「週に1回程度」が15.6%、「ほとんどない」が14.7%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が19.4%で最も多く、次いで「ほとんどない」が18.0%、「週に2～3回」が15.7%、「週に1回程度」が14.5%となっている。



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑤おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

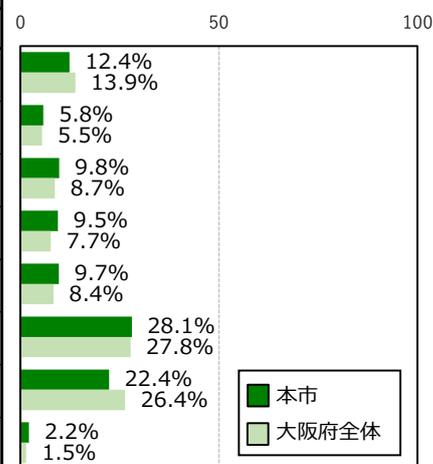
全体は、「ほとんどない」が28.1%で最も多く、次いで「まったくない」が22.4%、「ほとんど毎日」が12.4%、「週に2～3回」が9.8%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が24.3%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が18.9%、「週に2～3回」が14.1%、「まったくない」が13.5%となっている。

中学生は、「まったくない」が32.9%で最も多く、次いで「ほとんどない」が32.6%、「月に1～2回」が11.9%、「週に1回程度」が8.2%となっている。

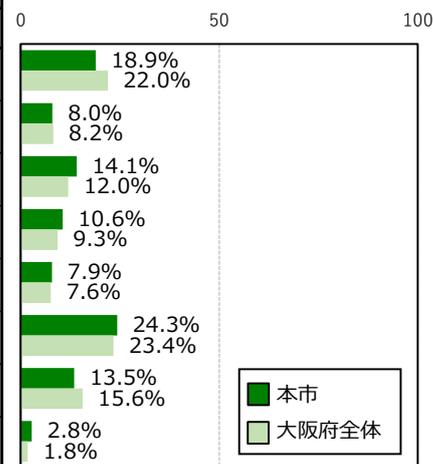
【全体】

	本市		大阪府全体	
	2,483名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	308名	12.4%	6,031名	13.9%
週に4～5回	143名	5.8%	2,392名	5.5%
週に2～3回	244名	9.8%	3,792名	8.7%
週に1回程度	236名	9.5%	3,336名	7.7%
月に1～2回	242名	9.7%	3,640名	8.4%
ほとんどない	698名	28.1%	12,077名	27.8%
まったくない	557名	22.4%	11,452名	26.4%
無回答	55名	2.2%	650名	1.5%



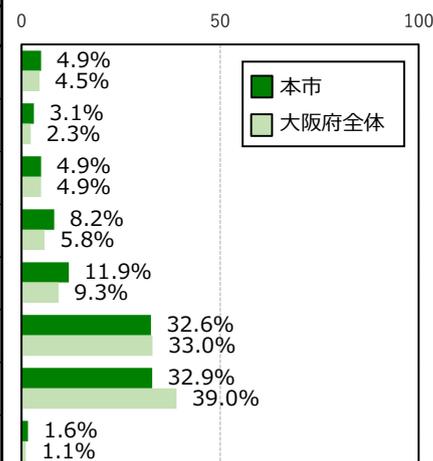
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	1,336名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	252名	18.9%	5,112名	22.0%
週に4～5回	107名	8.0%	1,921名	8.2%
週に2～3回	188名	14.1%	2,804名	12.0%
週に1回程度	142名	10.6%	2,176名	9.3%
月に1～2回	106名	7.9%	1,777名	7.6%
ほとんどない	324名	24.3%	5,454名	23.4%
まったくない	180名	13.5%	3,626名	15.6%
無回答	37名	2.8%	419名	1.8%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	56名	4.9%	905名	4.5%
週に4～5回	36名	3.1%	465名	2.3%
週に2～3回	56名	4.9%	983名	4.9%
週に1回程度	94名	8.2%	1,151名	5.8%
月に1～2回	136名	11.9%	1,857名	9.3%
ほとんどない	374名	32.6%	6,601名	33.0%
まったくない	377名	32.9%	7,803名	39.0%
無回答	18名	1.6%	225名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑥おうちの大人のひとと学校でのできごとについて話すか

全体は、「ほとんど毎日」が42.9%で最も多く、次いで「週に4～5回」、「週に2～3回」がそれぞれ16.1%、「週に1回程度」が8.2%、「ほとんどない」が7.7%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が47.8%で最も多く、次いで「週に4～5回」が15.6%、「週に2～3回」が15.1%、「ほとんどない」が6.6%となっている。

中学生は、「ほとんど毎日」が37.1%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.3%、「週に4～5回」が16.6%、「週に1回程度」が10.1%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑦おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

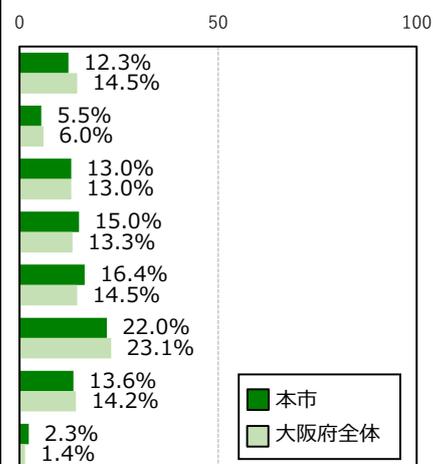
全体は、「ほとんどない」が22.0%で最も多く、次いで「月に1～2回」が16.4%、「週に1回程度」が15.0%、「まったくない」が13.6%となっている。

小学生は、「週に1回程度」が18.7%で最も多く、次いで「週に2～3回」が17.4%、「ほとんどない」が16.5%、「ほとんど毎日」が15.5%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が28.4%で最も多く、次いで「まったくない」が20.7%、「月に1～2回」が19.4%、「週に1回程度」が10.6%となっている。

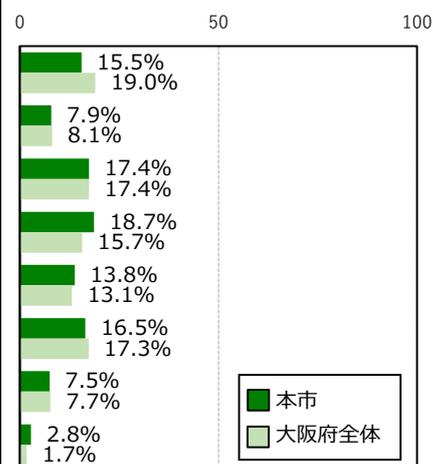
【全体】

	本市		大阪府全体	
	2,483名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	305名	12.3%	6,287名	14.5%
週に4～5回	137名	5.5%	2,582名	6.0%
週に2～3回	322名	13.0%	5,629名	13.0%
週に1回程度	372名	15.0%	5,782名	13.3%
月に1～2回	407名	16.4%	6,304名	14.5%
ほとんどない	546名	22.0%	10,004名	23.1%
まったくない	338名	13.6%	6,164名	14.2%
無回答	56名	2.3%	618名	1.4%



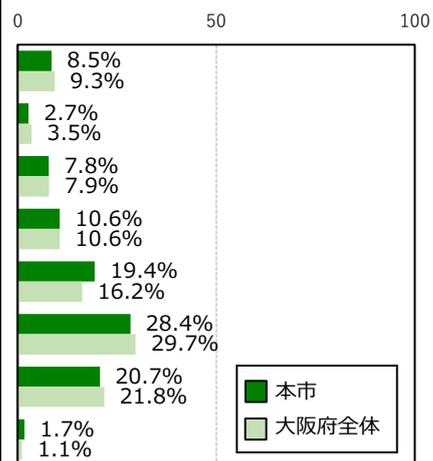
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	1,336名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	207名	15.5%	4,417名	19.0%
週に4～5回	106名	7.9%	1,880名	8.1%
週に2～3回	232名	17.4%	4,047名	17.4%
週に1回程度	250名	18.7%	3,656名	15.7%
月に1～2回	184名	13.8%	3,054名	13.1%
ほとんどない	220名	16.5%	4,038名	17.3%
まったくない	100名	7.5%	1,801名	7.7%
無回答	37名	2.8%	396名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	98名	8.5%	1,860名	9.3%
週に4～5回	31名	2.7%	693名	3.5%
週に2～3回	90名	7.8%	1,571名	7.9%
週に1回程度	122名	10.6%	2,114名	10.6%
月に1～2回	223名	19.4%	3,240名	16.2%
ほとんどない	326名	28.4%	5,944名	29.7%
まったくない	238名	20.7%	4,352名	21.8%
無回答	19名	1.7%	216名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑧おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

全体は、「週に2～3回」が18.9%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が17.7%、「ほとんどない」が16.8%、「週に1回程度」が13.7%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」、「週に2～3回」がそれぞれ18.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が17.7%、「週に1回程度」が12.9%、「週に4～5回」が11.8%となっている。

中学生は、「週に2～3回」が19.9%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が17.3%、「ほとんどない」が15.8%、「週に1回程度」が14.6%となっている。



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑨おうちの大人の人と文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をするか

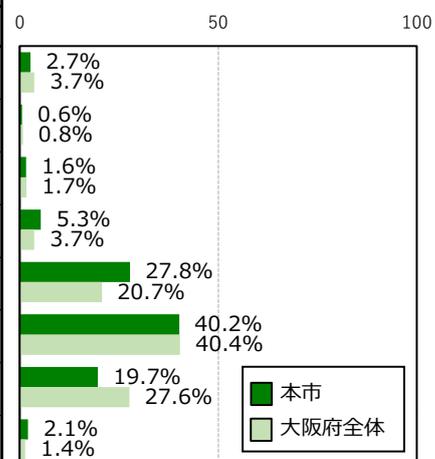
全体は、「ほとんどない」が40.2%で最も多く、次いで「月に1～2回」が27.8%、「まったくない」が19.7%、「週に1回程度」が5.3%となっている。

小学生は、「ほとんどない」が36.8%で最も多く、次いで「月に1～2回」が32.3%、「まったくない」が14.2%、「週に1回程度」が7.9%となっている。

中学生は、「ほとんどない」が44.2%で最も多く、次いで「まったくない」が26.0%、「月に1～2回」が22.7%、「週に1回程度」が2.3%となっている。

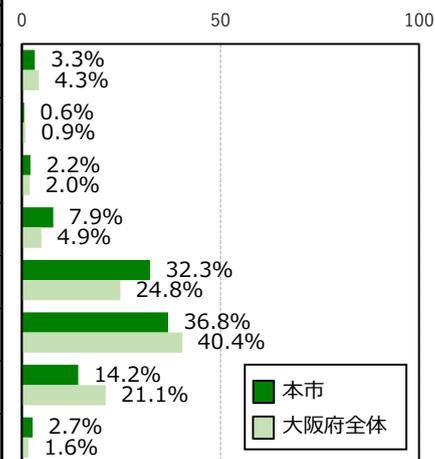
【全体】

	本市		大阪府全体	
	2,483名	100.0%	43,370名	100.0%
ほとんど毎日	68名	2.7%	1,596名	3.7%
週に4～5回	14名	0.6%	344名	0.8%
週に2～3回	40名	1.6%	730名	1.7%
週に1回程度	131名	5.3%	1,609名	3.7%
月に1～2回	691名	27.8%	8,999名	20.7%
ほとんどない	999名	40.2%	17,538名	40.4%
まったくない	488名	19.7%	11,956名	27.6%
無回答	52名	2.1%	598名	1.4%



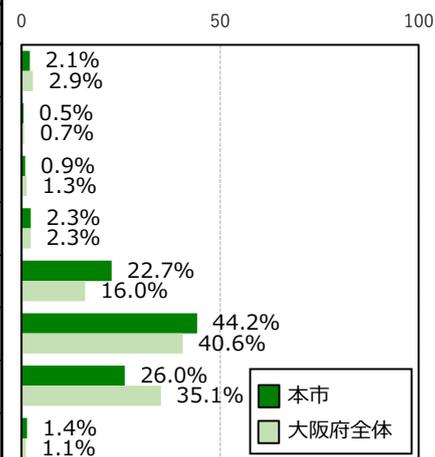
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	1,336名	100.0%	23,289名	100.0%
ほとんど毎日	44名	3.3%	1,008名	4.3%
週に4～5回	8名	0.6%	204名	0.9%
週に2～3回	30名	2.2%	471名	2.0%
週に1回程度	105名	7.9%	1,140名	4.9%
月に1～2回	431名	32.3%	5,780名	24.8%
ほとんどない	492名	36.8%	9,401名	40.4%
まったくない	190名	14.2%	4,910名	21.1%
無回答	36名	2.7%	375名	1.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
ほとんど毎日	24名	2.1%	583名	2.9%
週に4～5回	6名	0.5%	140名	0.7%
週に2～3回	10名	0.9%	257名	1.3%
週に1回程度	26名	2.3%	466名	2.3%
月に1～2回	260名	22.7%	3,195名	16.0%
ほとんどない	507名	44.2%	8,112名	40.6%
まったくない	298名	26.0%	7,020名	35.1%
無回答	16名	1.4%	217名	1.1%



ふだんの生活のことについて

問8 保護者との関係性 ⑩おうちの大人の人と一緒に外出するか（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）

全体は、「週に1回程度」が31.5%で最も多く、次いで「週に2～3回」が25.3%、「月に1～2回」が22.5%、「ほとんど毎日」が8.5%となっている。

小学生は、「週に2～3回」が33.2%で最も多く、次いで「週に1回程度」が29.8%、「月に1～2回」が12.1%、「ほとんど毎日」が10.6%となっている。

中学生は、「月に1～2回」が34.6%で最も多く、次いで「週に1回程度」が33.6%、「週に2～3回」が16.0%、「ほとんど毎日」が6.0%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問9 毎日の生活で楽しいこと

全体は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が81.4%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が63.5%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が54.6%、「ひとりで過ごしているとき」が49.4%となっている。

小学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が83.1%で最も多く、次いで「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が72.5%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が50.5%、「ひとりで過ごしているとき」が40.9%となっている。

中学生は、「ともだちと一緒に過ごしているとき」が79.5%で最も多く、次いで「ひとりで過ごしているとき」が59.4%、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」が59.3%、「おうちの人と一緒に過ごしているとき」が53.0%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問10 放課後を一緒に過ごす人

全体は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が65.1%で最も多く、次いで「学校のともだち」が55.2%、「きょうだい」が48.2%、「クラブ活動・部活動の仲間」が34.3%となっている。

小学生は、「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が69.7%で最も多く、次いで「学校のともだち」が64.0%、「きょうだい」が53.1%、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」が28.5%となっている。

中学生は、「クラブ活動・部活動の仲間」が67.0%で最も多く、次いで「おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど）」が59.7%、「学校のともだち」が45.0%、「きょうだい」が42.6%となっている。



※1 2016年調査では「クラブ活動の仲間」

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、全体は、「ひとりである」が6.5ポイント高いが、「学校のともだち」が4.5ポイント低くなっている。

小学生は、「学校のともだち」が8.5ポイント低い、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」が3.9ポイント高くなっている。

中学生は、「ひとりである」が11.0ポイント高いが、「クラブ活動・部活動の仲間」（2016年調査では「クラブ活動の仲間」）が6.1ポイント低くなっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



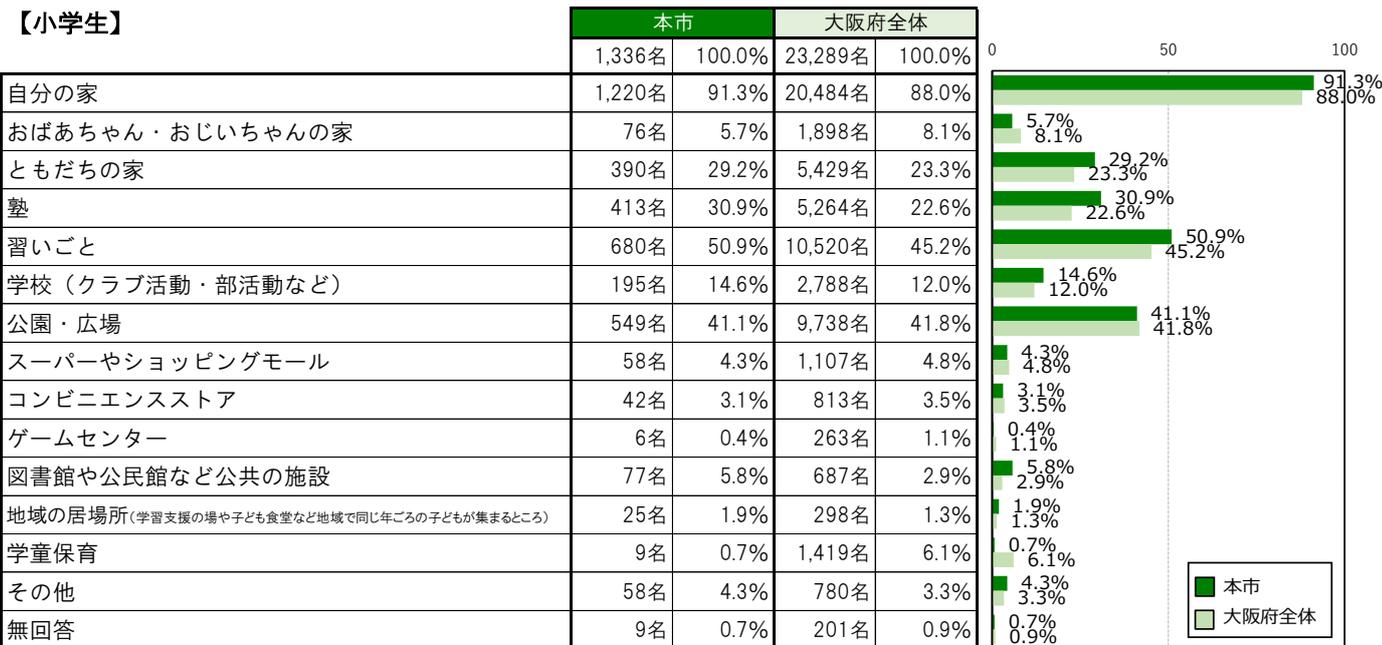
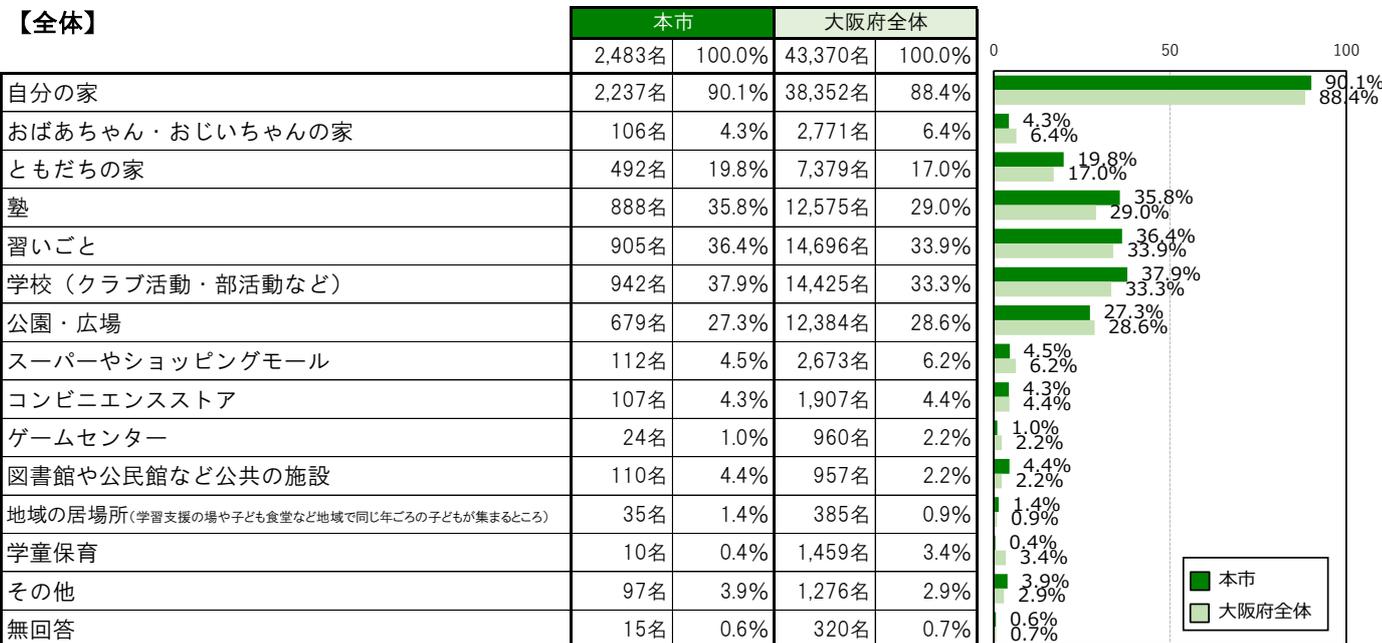
ふだんの生活のことについて

問11 放課後を過ごす場所

全体は、「自分の家」が90.1%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が37.9%、「習いごと」が36.4%、「塾」が35.8%となっている。

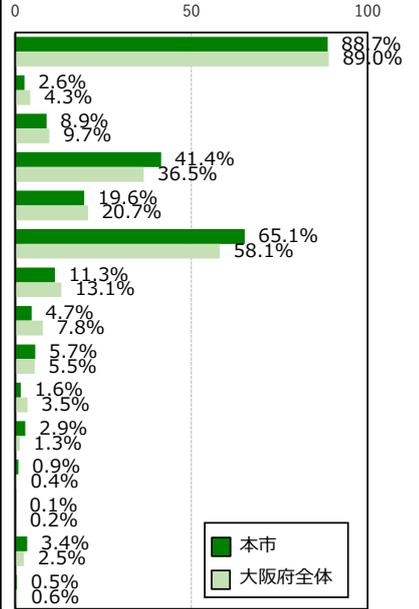
小学生は、「自分の家」が91.3%で最も多く、次いで「習いごと」が50.9%、「公園・広場」が41.1%、「塾」が30.9%となっている。

中学生は、「自分の家」が88.7%で最も多く、次いで「学校（クラブ活動・部活動など）」が65.1%、「塾」が41.4%、「習いごと」が19.6%となっている。



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
自分の家	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
おばあちゃん・おじいちゃんの家	30名	2.6%	868名	4.3%
ともだちの家	102名	8.9%	1,933名	9.7%
塾	475名	41.4%	7,287名	36.5%
習いごと	225名	19.6%	4,147名	20.7%
学校（クラブ活動・部活動など）	747名	65.1%	11,607名	58.1%
公園・広場	130名	11.3%	2,625名	13.1%
スーパーやショッピングモール	54名	4.7%	1,560名	7.8%
コンビニエンスストア	65名	5.7%	1,090名	5.5%
ゲームセンター	18名	1.6%	696名	3.5%
図書館や公民館など公共の施設	33名	2.9%	268名	1.3%
地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所）	10名	0.9%	86名	0.4%
学童保育	1名	0.1%	36名	0.2%
その他	39名	3.4%	494名	2.5%
無回答	6名	0.5%	114名	0.6%



ふだんの生活のことについて

問12 授業以外の勉強状況

全体は、「自分で勉強する」が68.4%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が52.4%、「おうちの人に教えてもらう」が38.2%、「ともだちと勉強する」が20.2%となっている。

小学生は、「自分で勉強する」が68.9%で最も多く、次いで「おうちの人に教えてもらう」が50.1%、「塾で勉強する」が44.8%、「ともだちと勉強する」が20.0%となっている。

中学生は、「自分で勉強する」が67.8%で最も多く、次いで「塾で勉強する」が61.3%、「おうちの人に教えてもらう」が24.2%、「ともだちと勉強する」が20.4%となっている。

【全体】

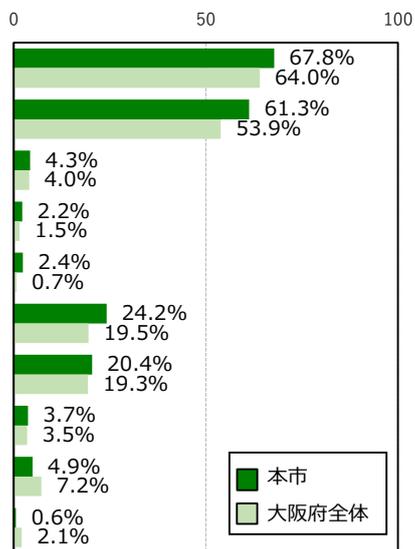


【小学生】



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
自分で勉強する	778名	67.8%	12,789名	64.0%
塾で勉強する	703名	61.3%	10,777名	53.9%
学校の補習を受ける	49名	4.3%	805名	4.0%
家庭教師に教えてもらう	25名	2.2%	300名	1.5%
地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	27名	2.4%	134名	0.7%
おうちの人に教えてもらう	278名	24.2%	3,895名	19.5%
ともだちと勉強する	234名	20.4%	3,859名	19.3%
その他	42名	3.7%	697名	3.5%
学校の授業以外で勉強はしない	56名	4.9%	1,443名	7.2%
無回答	7名	0.6%	421名	2.1%



ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日(月～金曜日)

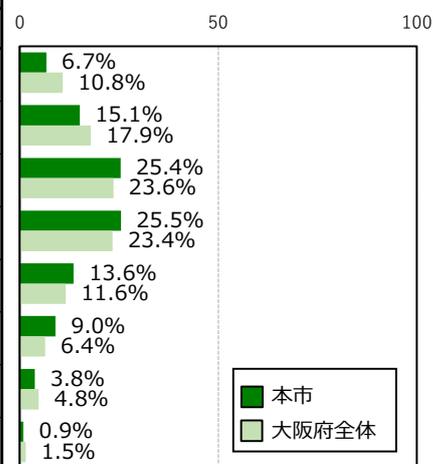
全体は、「1時間以上、2時間より少ない」が25.5%で最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が25.4%、「30分より少ない」が15.1%となっている。

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が30.3%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が23.2%、「30分より少ない」が16.6%となっている。

中学生は、「1時間以上、2時間より少ない」が28.2%で最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が19.6%、「2時間以上、3時間より少ない」が17.6%となっている。

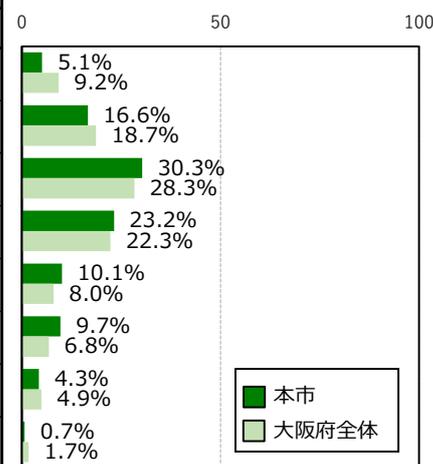
【全体】

	本市		大阪府全体	
	2,483名	100.0%	43,370名	100.0%
まったくしない	167名	6.7%	4,696名	10.8%
30分より少ない	375名	15.1%	7,745名	17.9%
30分以上、1時間より少ない	630名	25.4%	10,239名	23.6%
1時間以上、2時間より少ない	634名	25.5%	10,157名	23.4%
2時間以上、3時間より少ない	337名	13.6%	5,024名	11.6%
3時間以上	223名	9.0%	2,762名	6.4%
わからない	95名	3.8%	2,098名	4.8%
無回答	22名	0.9%	649名	1.5%



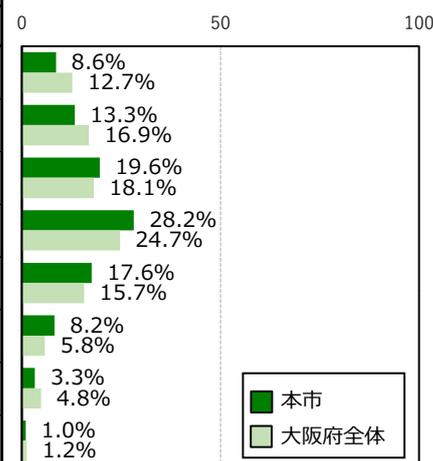
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	1,336名	100.0%	23,289名	100.0%
まったくしない	68名	5.1%	2,154名	9.2%
30分より少ない	222名	16.6%	4,360名	18.7%
30分以上、1時間より少ない	405名	30.3%	6,598名	28.3%
1時間以上、2時間より少ない	310名	23.2%	5,196名	22.3%
2時間以上、3時間より少ない	135名	10.1%	1,865名	8.0%
3時間以上	129名	9.7%	1,589名	6.8%
わからない	57名	4.3%	1,131名	4.9%
無回答	10名	0.7%	396名	1.7%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
まったくしない	99名	8.6%	2,534名	12.7%
30分より少ない	153名	13.3%	3,373名	16.9%
30分以上、1時間より少ない	225名	19.6%	3,617名	18.1%
1時間以上、2時間より少ない	324名	28.2%	4,943名	24.7%
2時間以上、3時間より少ない	202名	17.6%	3,147名	15.7%
3時間以上	94名	8.2%	1,168名	5.8%
わからない	38名	3.3%	959名	4.8%
無回答	12名	1.0%	249名	1.2%



ふだんの生活のことについて

問13 授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）

全体は、「30分以上、1時間より少ない」が20.3%で最も多く、次いで「30分より少ない」が19.0%、「1時間以上、2時間より少ない」が16.9%、「まったくしない」が16.5%となっている。

小学生は、「30分以上、1時間より少ない」が22.7%で最も多く、次いで「30分より少ない」が21.3%、「まったくしない」が16.2%、「1時間以上、2時間より少ない」が15.7%となっている。

中学生は、「1時間以上、2時間より少ない」が18.3%で最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が17.6%、「まったくしない」が16.7%、「30分より少ない」が16.2%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



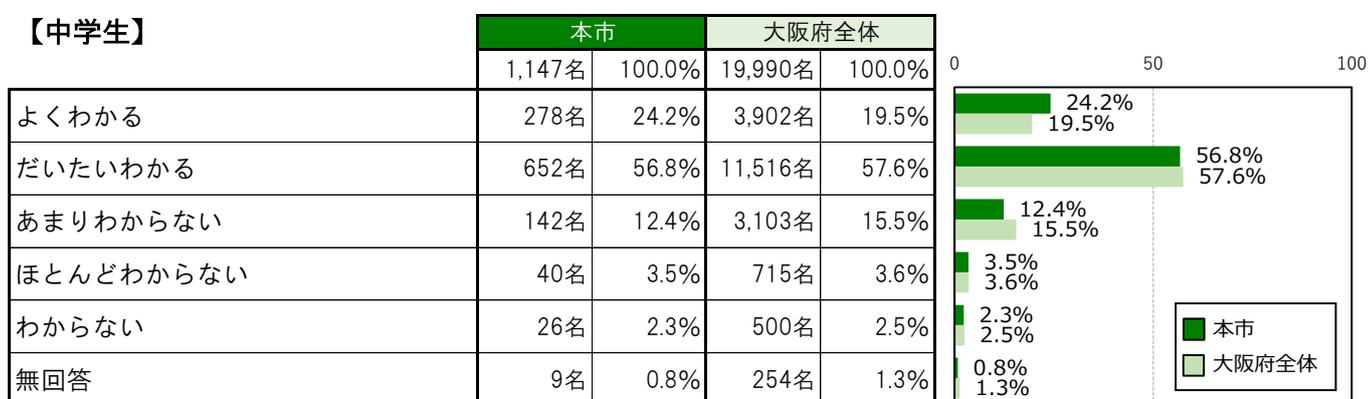
ふだんの生活のことについて

問14（1）学校の勉強で気持ちに近いもの

全体は、「だいたいわかる」が53.7%で最も多く、次いで「よくわかる」が32.5%、「あまりわからない」が8.9%、「ほとんどわからない」が2.5%となっている。

小学生は、「だいたいわかる」が51.0%で最も多く、次いで「よくわかる」が39.6%、「あまりわからない」が6.0%、「ほとんどわからない」が1.6%となっている。

中学生は、「だいたいわかる」が56.8%で最も多く、次いで「よくわかる」が24.2%、「あまりわからない」が12.4%、「ほとんどわからない」が3.5%となっている。



ふだんの生活のことについて

問14（2）授業がわからなくなった時期

全体は、「中学1年生のころ」が33.1%で最も多く、次いで「小学3・4年生のころ」が26.6%、「小学5年生になってから」が15.3%、「小学1・2年生のころ」が11.9%となっている。

小学生は、「小学3・4年生のころ」が55.4%で最も多く、次いで「小学1・2年生のころ」が24.1%、「小学5年生になってから」が19.6%となっている。

中学生は、「中学1年生のころ」が51.0%で最も多く、次いで「小学5年生になってから」、「中学2年生になってから」がそれぞれ13.0%、「小学3・4年生のころ」が11.1%、「小学6年生のころ」が6.7%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問15 授業以外の読書時間

全体は、「まったくしない」が34.0%で最も多く、次いで「30分より少ない」が33.1%、「30分以上、1時間より少ない」が16.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が7.3%となっている。

小学生は、「30分より少ない」が31.4%で最も多く、次いで「まったくしない」が31.0%、「30分以上、1時間より少ない」が20.1%、「1時間以上、2時間より少ない」が8.3%となっている。

中学生は、「まったくしない」が37.5%で最も多く、次いで「30分より少ない」が35.2%、「30分以上、1時間より少ない」が12.7%、「1時間以上、2時間より少ない」が6.1%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

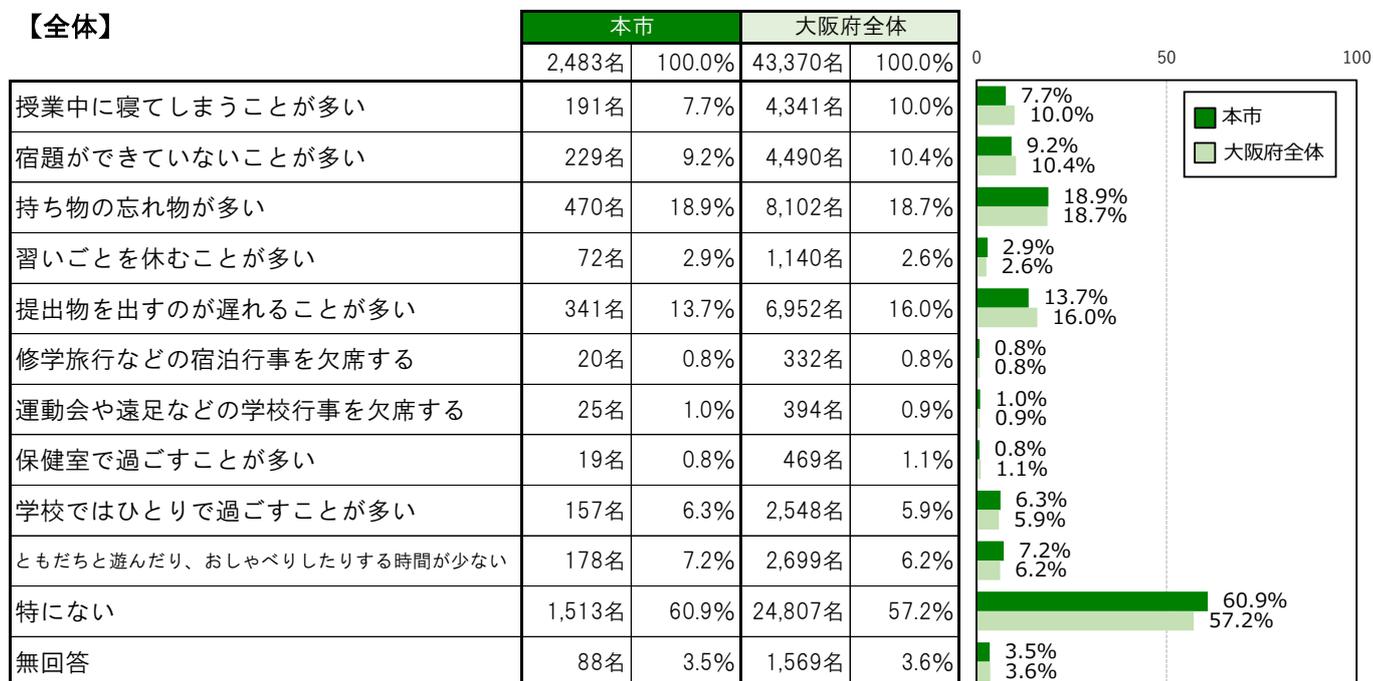
問16 学校や学校の行事等の状況

全体は、「持ち物の忘れ物が多い」が18.9%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が13.7%、「宿題ができていないことが多い」が9.2%、「授業中に寝てしまうことが多い」が7.7%となっている。

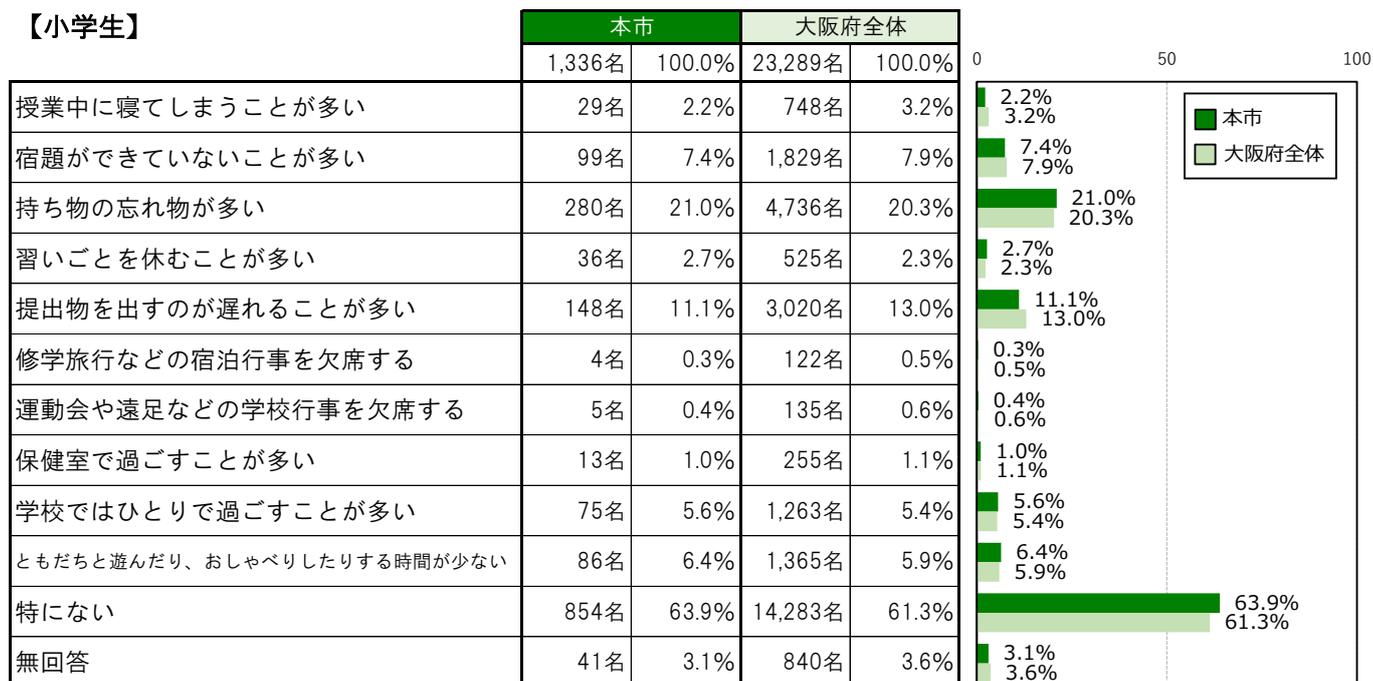
小学生は、「持ち物の忘れ物が多い」が21.0%で最も多く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が11.1%、「宿題ができていないことが多い」が7.4%、「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が6.4%となっている。

中学生は、「提出物を出すのが遅れることが多い」が16.8%で最も多く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」が16.6%、「授業中に寝てしまうことが多い」が14.1%、「宿題ができていないことが多い」が11.3%となっている。

【全体】

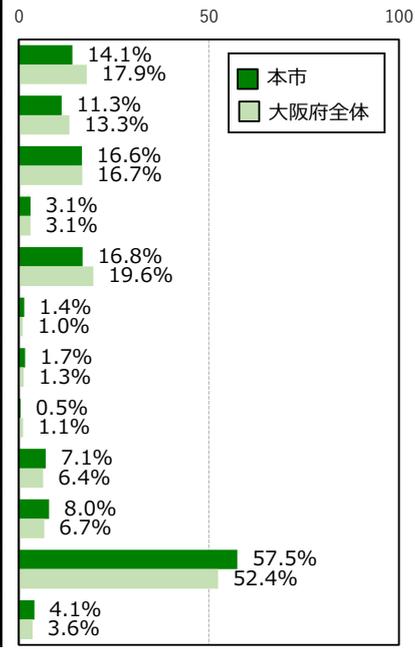


【小学生】



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
授業中に寝てしまうことが多い	162名	14.1%	3,581名	17.9%
宿題ができていないことが多い	130名	11.3%	2,650名	13.3%
持ち物の忘れ物が多い	190名	16.6%	3,342名	16.7%
習いごとを休むことが多い	36名	3.1%	612名	3.1%
提出物を出すのが遅れることが多い	193名	16.8%	3,912名	19.6%
修学旅行などの宿泊行事を欠席する	16名	1.4%	208名	1.0%
運動会や遠足などの学校行事を欠席する	20名	1.7%	258名	1.3%
保健室で過ごすことが多い	6名	0.5%	214名	1.1%
学校ではひとりで過ごすことが多い	82名	7.1%	1,281名	6.4%
ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	92名	8.0%	1,331名	6.7%
特にない	659名	57.5%	10,481名	52.4%
無回答	47名	4.1%	721名	3.6%



ふだんの生活のことについて

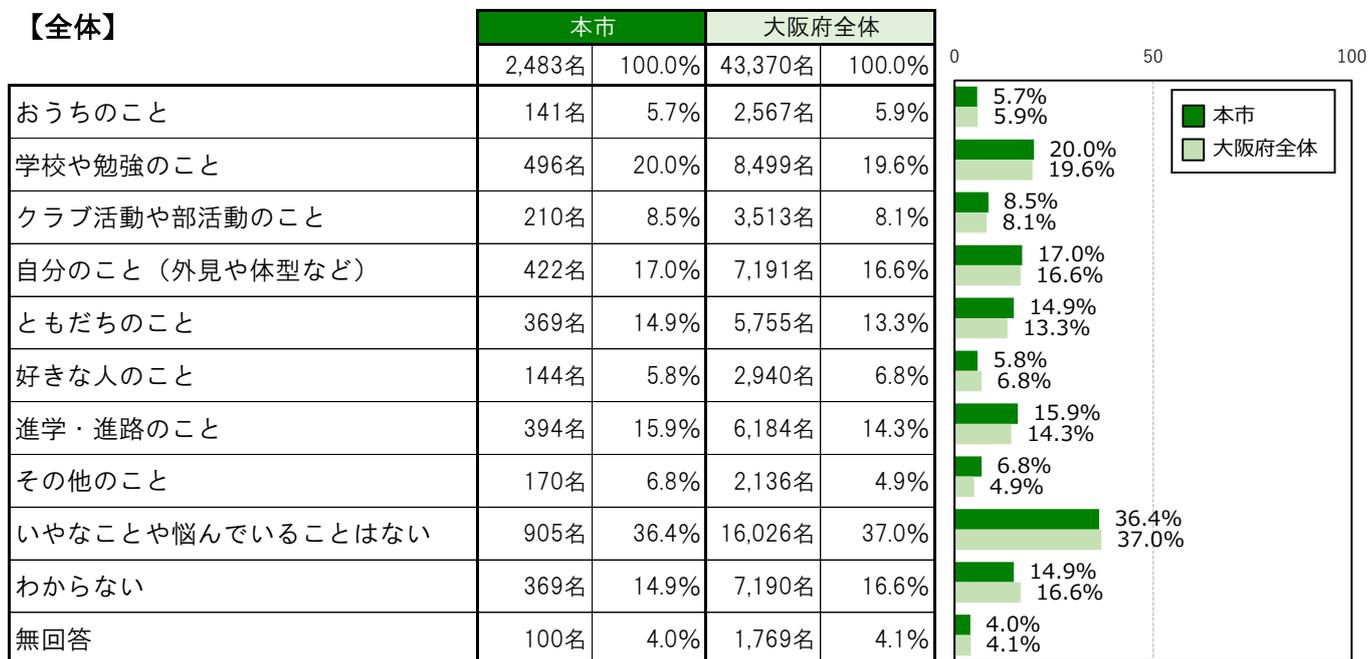
問17 嫌なことや悩んでいること

全体は、「いやなことや悩んでいることはない」が36.4%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が20.0%、「自分のこと（外見や体型など）」が17.0%、「進学・進路のこと」が15.9%となっている。

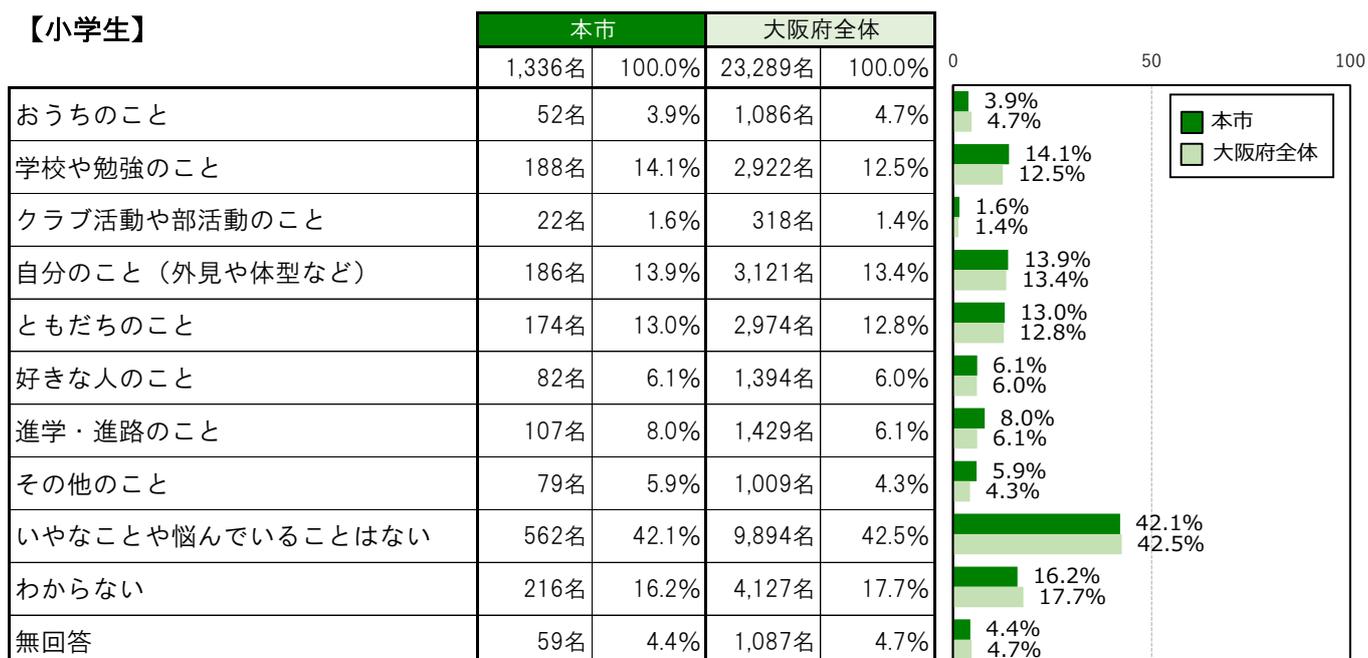
小学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が42.1%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が14.1%、「自分のこと（外見や体型など）」が13.9%、「ともだちのこと」が13.0%となっている。

中学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が29.9%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が26.9%、「進学・進路のこと」が25.0%、「自分のこと（外見や体型など）」が20.6%となっている。

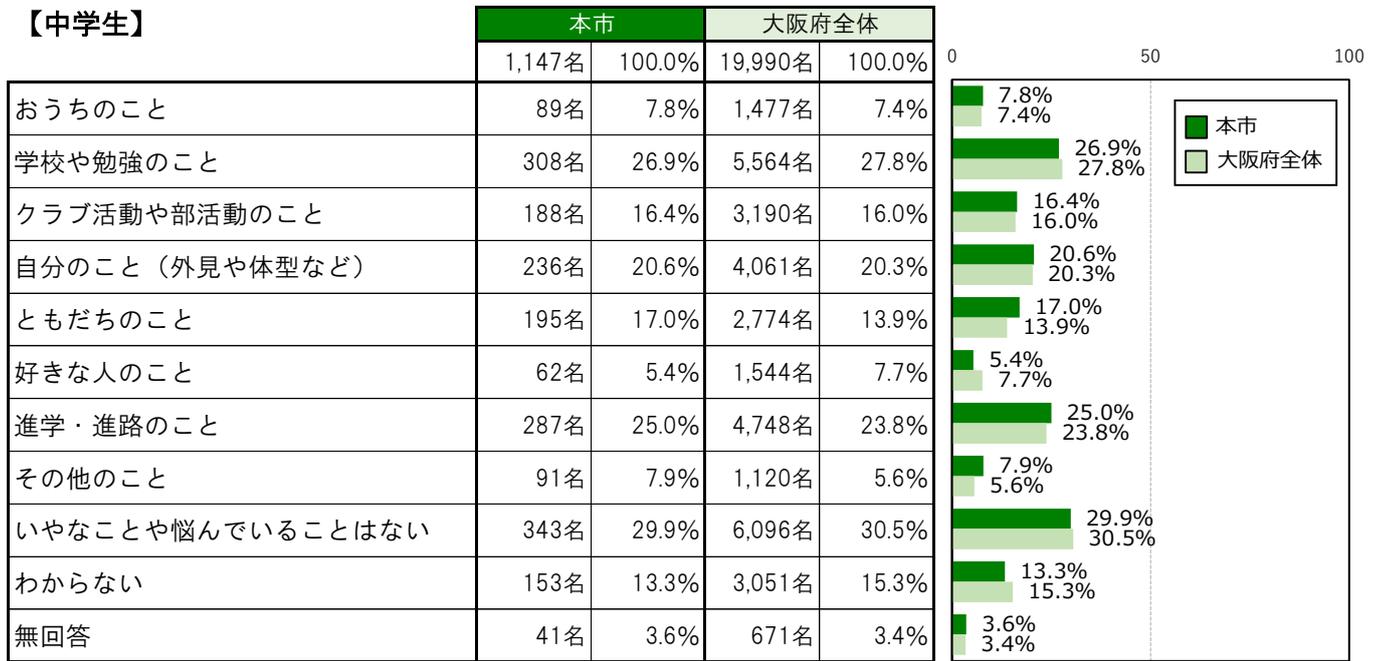
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

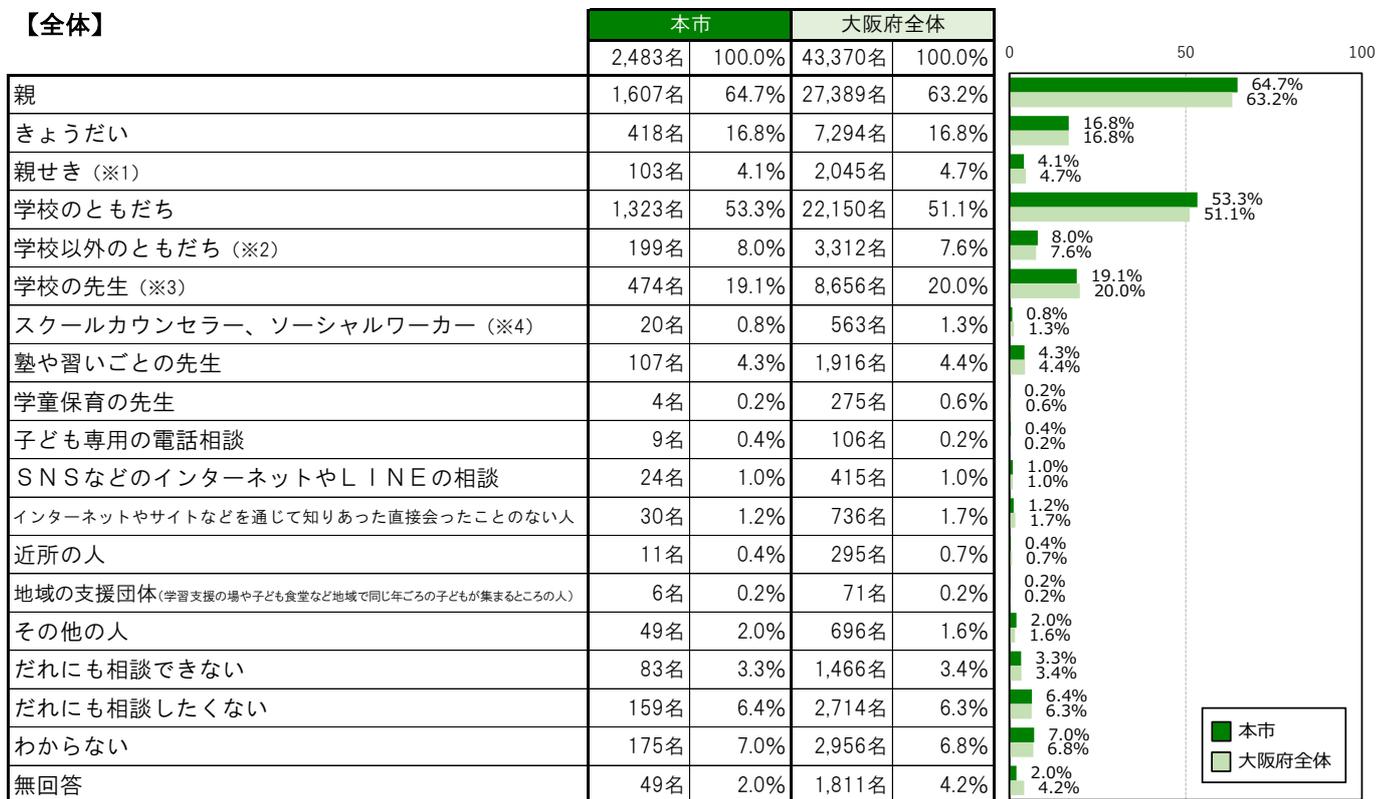
問18 嫌なことや悩んでいるときの相談相手

全体は、「親」が64.7%で最も多く、次いで「学校のともだち」が53.3%、「学校の先生」が19.1%、「きょうだい」が16.8%となっている。

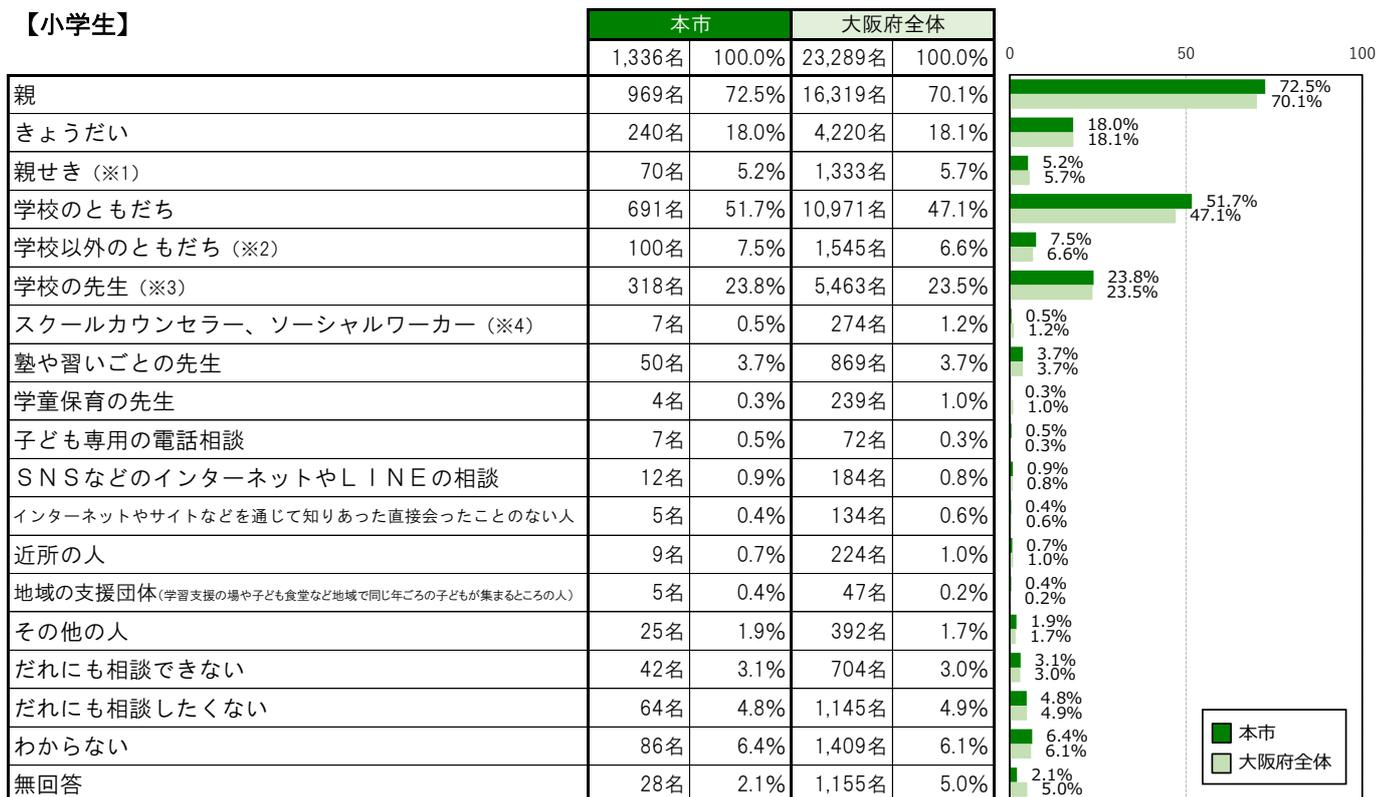
小学生は、「親」が72.5%で最も多く、次いで「学校のともだち」が51.7%、「学校の先生」が23.8%、「きょうだい」が18.0%となっている。

中学生は、「親」が55.6%で最も多く、次いで「学校のともだち」が55.1%、「きょうだい」が15.5%、「学校の先生」が13.6%となっている。

【全体】

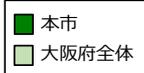


【小学生】



【中学生】

	本市		大阪府全体		0	50	100
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%			
親	638名	55.6%	11,019名	55.1%	55.6%	55.1%	
きょうだい	178名	15.5%	3,063名	15.3%	15.5%	15.3%	
親せき(※1)	33名	2.9%	705名	3.5%	2.9%	3.5%	
学校のともだち	632名	55.1%	11,141名	55.7%	55.1%	55.7%	
学校以外のともだち(※2)	99名	8.6%	1,761名	8.8%	8.6%	8.8%	
学校の先生(※3)	156名	13.6%	3,177名	15.9%	13.6%	15.9%	
スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー(※4)	13名	1.1%	286名	1.4%	1.1%	1.4%	
塾や習いごとの先生	57名	5.0%	1,041名	5.2%	5.0%	5.2%	
学童保育の先生	-	-	35名	0.2%	0.0%	0.2%	
子ども専用の電話相談	2名	0.2%	34名	0.2%	0.2%	0.2%	
SNSなどのインターネットやLINEの相談	12名	1.0%	230名	1.2%	1.0%	1.2%	
インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人	25名	2.2%	601名	3.0%	2.2%	3.0%	
近所の人	2名	0.2%	71名	0.4%	0.2%	0.4%	
地域の支援団体(学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所の人)	1名	0.1%	24名	0.1%	0.1%	0.1%	
その他の人	24名	2.1%	302名	1.5%	2.1%	1.5%	
だれにも相談できない	41名	3.6%	760名	3.8%	3.6%	3.8%	
だれにも相談したくない	95名	8.3%	1,566名	7.8%	8.3%	7.8%	
わからない	89名	7.8%	1,537名	7.7%	7.8%	7.7%	
無回答	21名	1.8%	646名	3.2%	1.8%	3.2%	



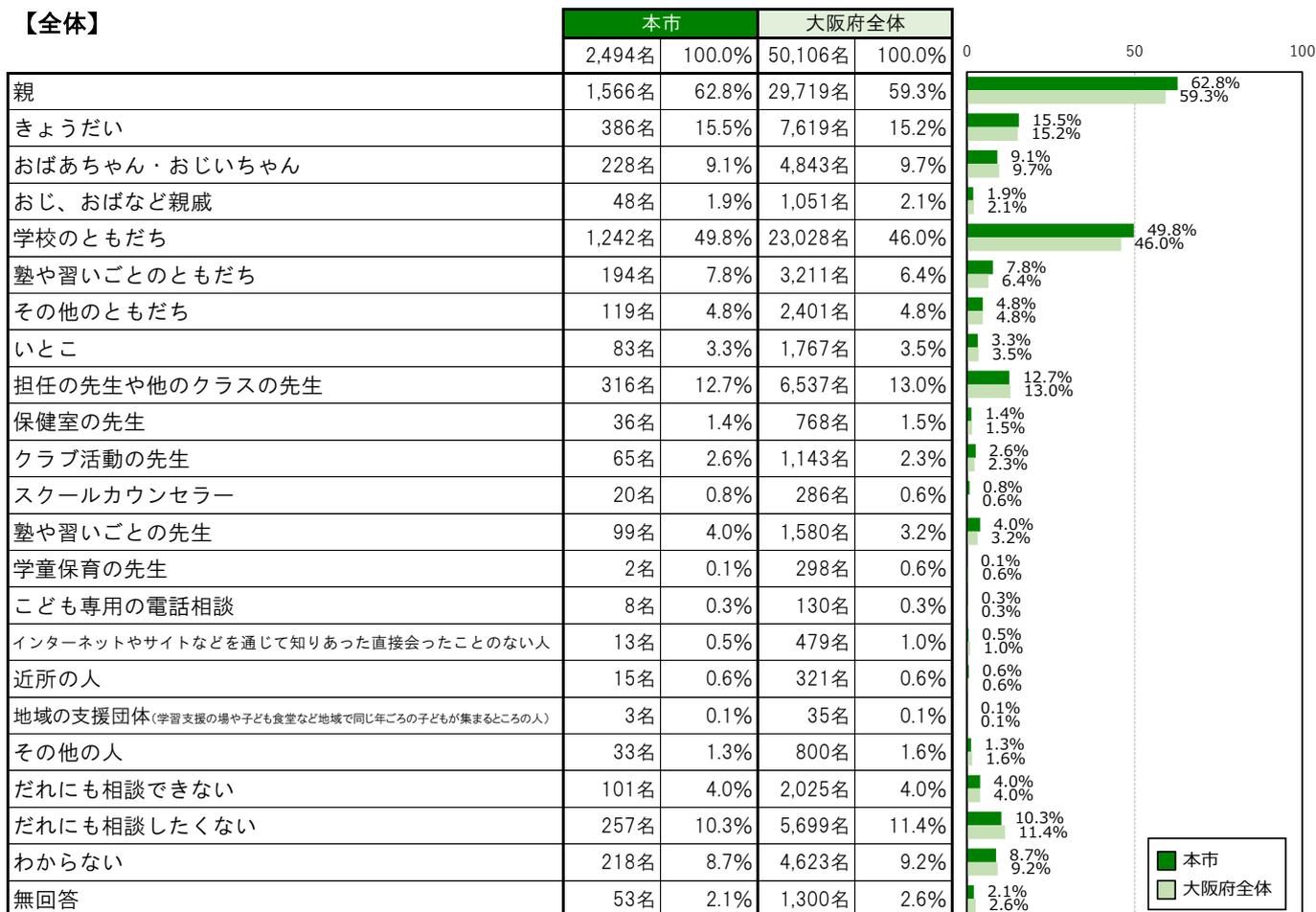
※1 2016年調査では「おじ、おばなど親戚」
 ※2 2016年調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」
 ※3 2016年調査では「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」
 ※4 2016年調査では「スクールカウンセラー」

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、全体は、「学校の先生」（2016年度は「担任の先生や他のクラスの先生」と「保健室の先生」をあわせた割合）が5.0ポイント高いが、「学校以外のともだち」（2016年調査では「塾や習いごとのともだち」「その他のともだち」をあわせた割合）が4.6ポイント低くなっている。

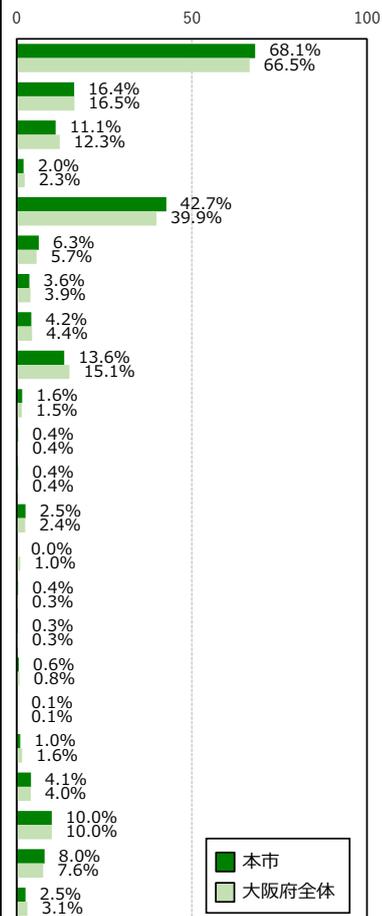
小学生は、「学校のともだち」が9.0ポイント、「学校の先生」が8.6ポイント、それぞれ高くなっている。

中学生は、「学校以外のともだち」が7.2ポイント低くなっている。



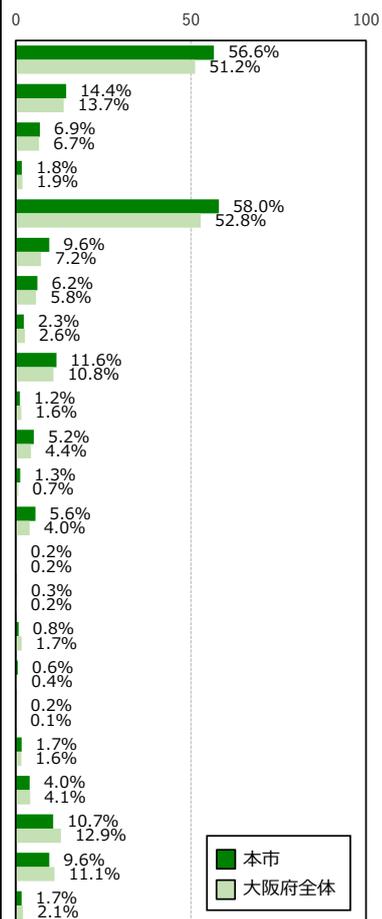
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	1,343名	100.0%	26,540名	100.0%
親	914名	68.1%	17,649名	66.5%
きょうだい	220名	16.4%	4,384名	16.5%
おばあちゃん・おじいちゃん	149名	11.1%	3,258名	12.3%
おじ、おばなど親戚	27名	2.0%	613名	2.3%
学校のともだち	574名	42.7%	10,593名	39.9%
塾や習いごとのともだち	84名	6.3%	1,523名	5.7%
その他のともだち	48名	3.6%	1,039名	3.9%
いとこ	56名	4.2%	1,156名	4.4%
担任の先生や他のクラスの先生	182名	13.6%	3,997名	15.1%
保健室の先生	22名	1.6%	399名	1.5%
クラブ活動の先生	5名	0.4%	116名	0.4%
スクールカウンセラー	5名	0.4%	116名	0.4%
塾や習いごとの先生	34名	2.5%	628名	2.4%
学童保育の先生	-	-	253名	1.0%
こども専用の電話相談	5名	0.4%	91名	0.3%
インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人	4名	0.3%	83名	0.3%
近所の人	8名	0.6%	224名	0.8%
地域の支援団体 <small>(学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所の人)</small>	1名	0.1%	17名	0.1%
その他の人	14名	1.0%	417名	1.6%
だれにも相談できない	55名	4.1%	1,050名	4.0%
だれにも相談したくない	134名	10.0%	2,652名	10.0%
わからない	108名	8.0%	2,015名	7.6%
無回答	34名	2.5%	811名	3.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	1,151名	100.0%	23,558名	100.0%
親	652名	56.6%	12,068名	51.2%
きょうだい	166名	14.4%	3,235名	13.7%
おばあちゃん・おじいちゃん	79名	6.9%	1,584名	6.7%
おじ、おばなど親戚	21名	1.8%	438名	1.9%
学校のともだち	668名	58.0%	12,434名	52.8%
塾や習いごとのともだち	110名	9.6%	1,688名	7.2%
その他のともだち	71名	6.2%	1,362名	5.8%
いとこ	27名	2.3%	611名	2.6%
担任の先生や他のクラスの先生	134名	11.6%	2,540名	10.8%
保健室の先生	14名	1.2%	369名	1.6%
クラブ活動の先生	60名	5.2%	1,027名	4.4%
スクールカウンセラー	15名	1.3%	170名	0.7%
塾や習いごとの先生	65名	5.6%	952名	4.0%
学童保育の先生	2名	0.2%	45名	0.2%
こども専用の電話相談	3名	0.3%	39名	0.2%
インターネットやサイトなどを通じて知りあった直接会ったことのない人	9名	0.8%	396名	1.7%
近所の人	7名	0.6%	97名	0.4%
地域の支援団体 <small>(学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所の人)</small>	2名	0.2%	18名	0.1%
その他の人	19名	1.7%	383名	1.6%
だれにも相談できない	46名	4.0%	975名	4.1%
だれにも相談したくない	123名	10.7%	3,047名	12.9%
わからない	110名	9.6%	2,607名	11.1%
無回答	19名	1.7%	485名	2.1%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

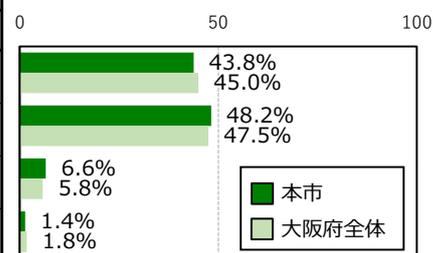
全体は、「ときどきそうだ」が48.2%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が43.8%、「そんなことはない」が6.6%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が48.1%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が46.5%、「そんなことはない」が4.3%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が48.5%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が40.7%、「そんなことはない」が9.2%となっている。

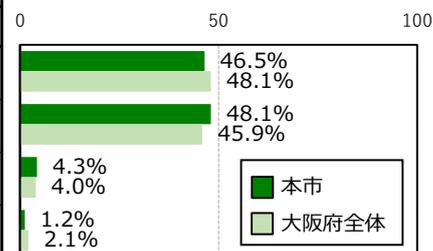
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	1,088名	43.8%	19,505名	45.0%
ときどきそうだ	1,198名	48.2%	20,583名	47.5%
そんなことはない	163名	6.6%	2,517名	5.8%
無回答	34名	1.4%	765名	1.8%



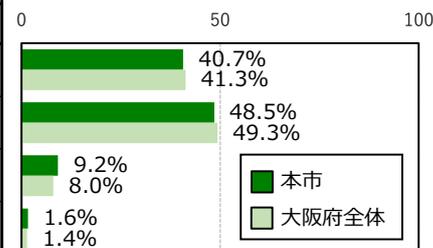
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	621名	46.5%	11,206名	48.1%
ときどきそうだ	642名	48.1%	10,683名	45.9%
そんなことはない	57名	4.3%	922名	4.0%
無回答	16名	1.2%	478名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	467名	40.7%	8,256名	41.3%
ときどきそうだ	556名	48.5%	9,858名	49.3%
そんなことはない	106名	9.2%	1,595名	8.0%
無回答	18名	1.6%	281名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

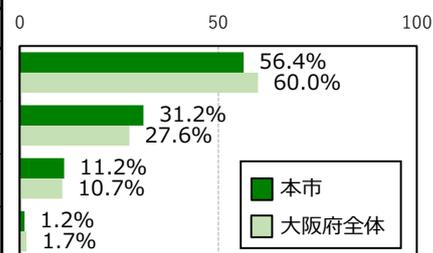
全体は、「いつもそうだ」が56.4%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が31.2%、「そんなことはない」が11.2%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が59.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が29.6%、「そんなことはない」が9.5%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が52.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が33.0%、「そんなことはない」が13.1%となっている。

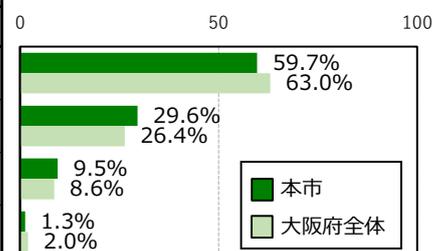
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	1,401名	56.4%	26,039名	60.0%
ときどきそうだ	774名	31.2%	11,956名	27.6%
そんなことはない	277名	11.2%	4,638名	10.7%
無回答	31名	1.2%	737名	1.7%



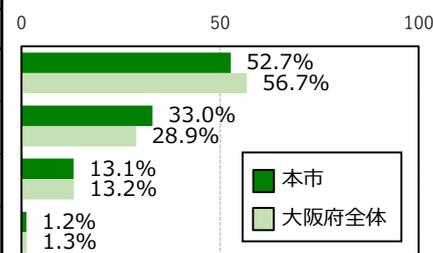
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	797名	59.7%	14,666名	63.0%
ときどきそうだ	395名	29.6%	6,154名	26.4%
そんなことはない	127名	9.5%	1,996名	8.6%
無回答	17名	1.3%	473名	2.0%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	604名	52.7%	11,325名	56.7%
ときどきそうだ	379名	33.0%	5,773名	28.9%
そんなことはない	150名	13.1%	2,634名	13.2%
無回答	14名	1.2%	258名	1.3%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

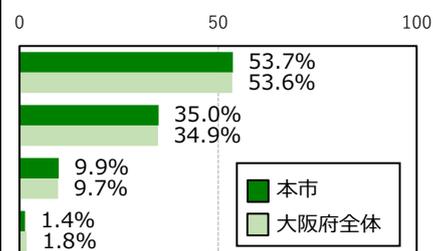
全体は、「いつもそうだ」が53.7%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が35.0%、「そんなことはない」が9.9%となっている。

小学生は、「いつもそうだ」が63.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が29.6%、「そんなことはない」が5.5%となっている。

中学生は、「いつもそうだ」が42.2%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が41.4%、「そんなことはない」が14.9%となっている。

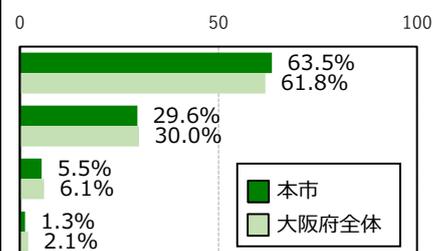
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	1,333名	53.7%	23,234名	53.6%
ときどきそうだ	870名	35.0%	15,146名	34.9%
そんなことはない	245名	9.9%	4,217名	9.7%
無回答	35名	1.4%	773名	1.8%



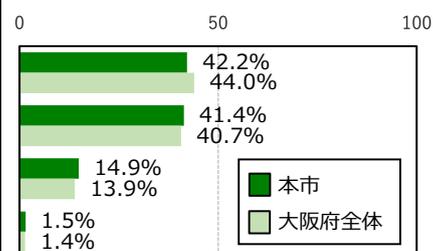
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	849名	63.5%	14,397名	61.8%
ときどきそうだ	395名	29.6%	6,978名	30.0%
そんなことはない	74名	5.5%	1,431名	6.1%
無回答	18名	1.3%	483名	2.1%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	484名	42.2%	8,796名	44.0%
ときどきそうだ	475名	41.4%	8,128名	40.7%
そんなことはない	171名	14.9%	2,782名	13.9%
無回答	17名	1.5%	284名	1.4%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

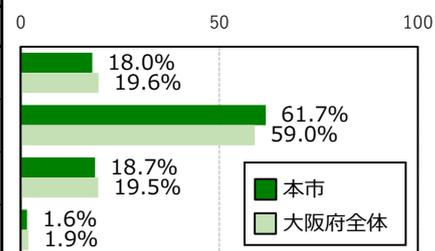
全体は、「ときどきそうだ」が61.7%で最も多く、次いで「そんなことはない」が18.7%、「いつもそうだ」が18.0%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が65.6%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が19.2%、「そんなことはない」が13.4%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が57.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が24.8%、「いつもそうだ」が16.7%となっている。

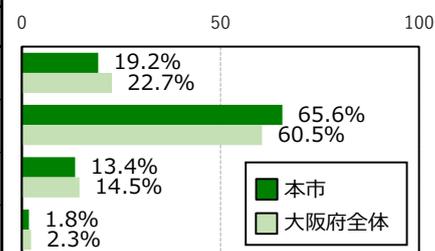
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	448名	18.0%	8,503名	19.6%
ときどきそうだ	1,531名	61.7%	25,567名	59.0%
そんなことはない	464名	18.7%	8,460名	19.5%
無回答	40名	1.6%	840名	1.9%



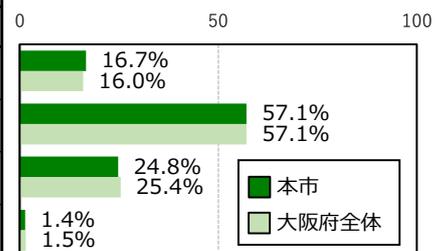
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	257名	19.2%	5,283名	22.7%
ときどきそうだ	876名	65.6%	14,099名	60.5%
そんなことはない	179名	13.4%	3,367名	14.5%
無回答	24名	1.8%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	191名	16.7%	3,199名	16.0%
ときどきそうだ	655名	57.1%	11,416名	57.1%
そんなことはない	285名	24.8%	5,081名	25.4%
無回答	16名	1.4%	294名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

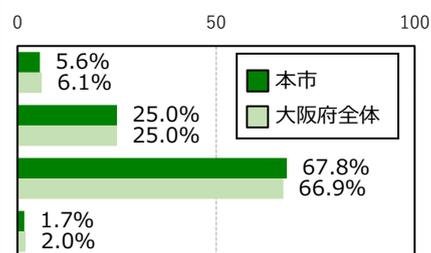
全体は、「そんなことはない」が67.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が25.0%、「いつもそうだ」が5.6%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が74.9%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が19.8%、「いつもそうだ」が3.5%となっている。

中学生は、「そんなことはない」が59.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が31.0%、「いつもそうだ」が8.0%となっている。

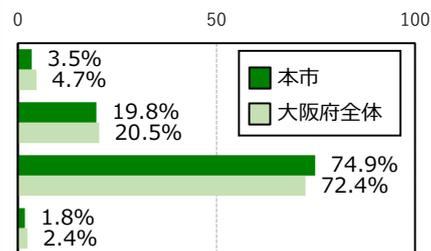
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	139名	5.6%	2,628名	6.1%
ときどきそうだ	620名	25.0%	10,860名	25.0%
そんなことはない	1,683名	67.8%	29,021名	66.9%
無回答	41名	1.7%	861名	2.0%



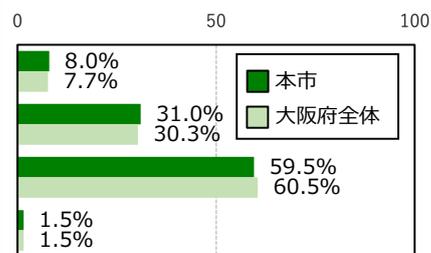
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	47名	3.5%	1,091名	4.7%
ときどきそうだ	265名	19.8%	4,776名	20.5%
そんなことはない	1,000名	74.9%	16,872名	72.4%
無回答	24名	1.8%	550名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	92名	8.0%	1,534名	7.7%
ときどきそうだ	355名	31.0%	6,057名	30.3%
そんなことはない	683名	59.5%	12,095名	60.5%
無回答	17名	1.5%	304名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

全体は、「そんなことはない」が47.3%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が41.6%、「いつもそうだ」が9.5%となっている。

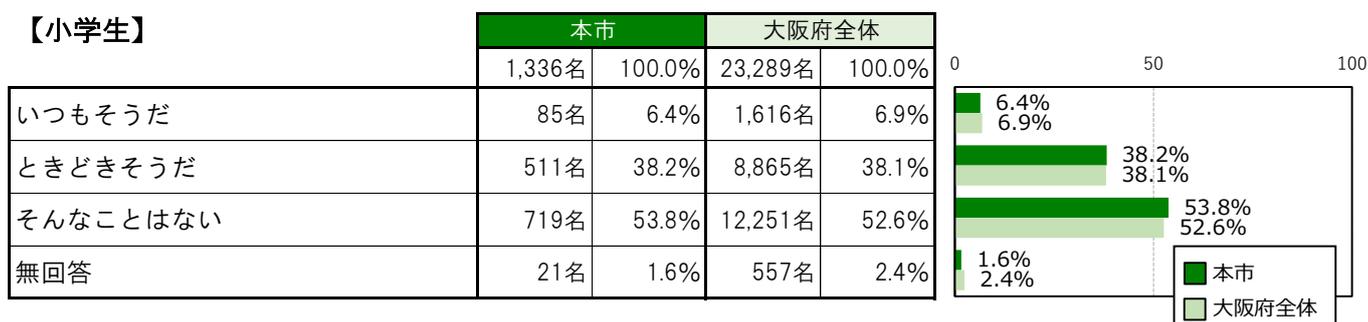
小学生は、「そんなことはない」が53.8%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が38.2%、「いつもそうだ」が6.4%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が45.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が39.8%、「いつもそうだ」が13.3%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

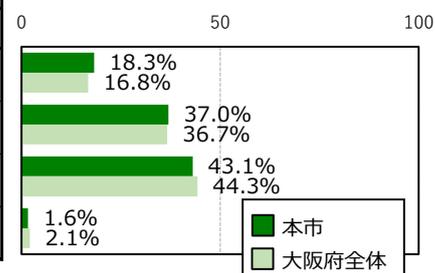
全体は、「そんなことはない」が43.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が37.0%、「いつもそうだ」が18.3%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が50.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が35.2%、「いつもそうだ」が13.1%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が39.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が35.0%、「いつもそうだ」が24.4%となっている。

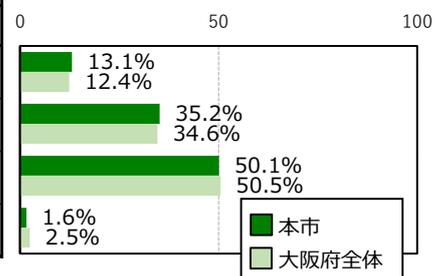
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	455名	18.3%	7,300名	16.8%
ときどきそうだ	919名	37.0%	15,932名	36.7%
そんなことはない	1,070名	43.1%	19,222名	44.3%
無回答	39名	1.6%	916名	2.1%



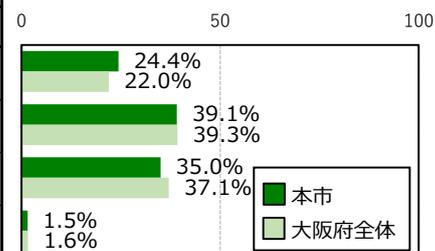
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	175名	13.1%	2,893名	12.4%
ときどきそうだ	470名	35.2%	8,049名	34.6%
そんなことはない	669名	50.1%	11,759名	50.5%
無回答	22名	1.6%	588名	2.5%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	280名	24.4%	4,399名	22.0%
ときどきそうだ	449名	39.1%	7,848名	39.3%
そんなことはない	401名	35.0%	7,422名	37.1%
無回答	17名	1.5%	321名	1.6%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

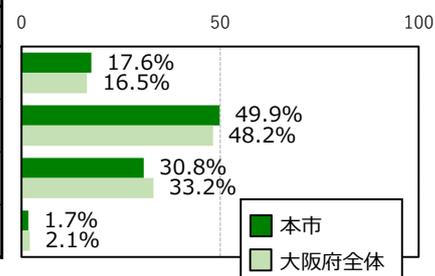
全体は、「ときどきそうだ」が49.9%で最も多く、次いで「そんなことはない」が30.8%、「いつもそうだ」が17.6%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が48.1%で最も多く、次いで「そんなことはない」が37.9%、「いつもそうだ」が12.0%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が52.0%で最も多く、次いで「いつもそうだ」が24.1%、「そんなことはない」が22.5%となっている。

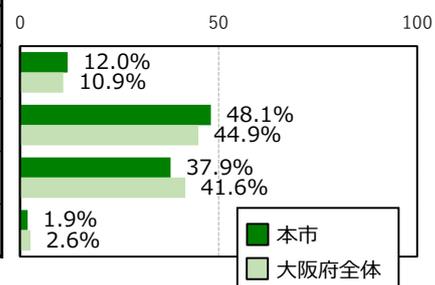
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	436名	17.6%	7,152名	16.5%
ときどきそうだ	1,240名	49.9%	20,902名	48.2%
そんなことはない	765名	30.8%	14,387名	33.2%
無回答	42名	1.7%	929名	2.1%



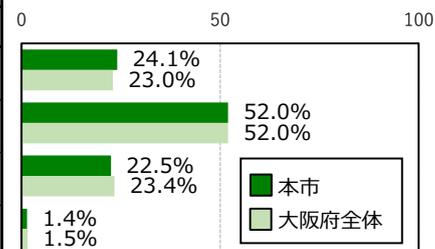
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	160名	12.0%	2,541名	10.9%
ときどきそうだ	643名	48.1%	10,454名	44.9%
そんなことはない	507名	37.9%	9,677名	41.6%
無回答	26名	1.9%	617名	2.6%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	276名	24.1%	4,606名	23.0%
ときどきそうだ	597名	52.0%	10,396名	52.0%
そんなことはない	258名	22.5%	4,682名	23.4%
無回答	16名	1.4%	306名	1.5%



ふだんの生活のことについて

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑨いろいろする

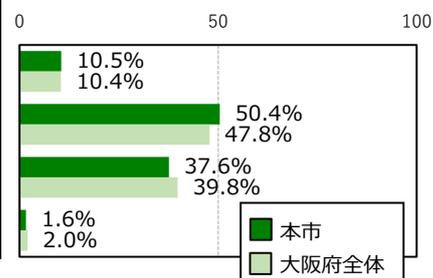
全体は、「ときどきそうだ」が50.4%で最も多く、次いで「そんなことはない」が37.6%、「いつもそうだ」が10.5%となっている。

小学生は、「ときどきそうだ」が49.6%で最も多く、次いで「そんなことはない」が38.2%、「いつもそうだ」が10.4%となっている。

中学生は、「ときどきそうだ」が51.3%で最も多く、次いで「そんなことはない」が36.8%、「いつもそうだ」が10.5%となっている。

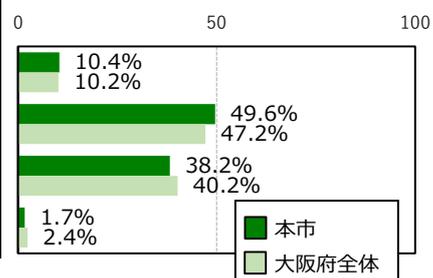
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	260名	10.5%	4,525名	10.4%
ときどきそうだ	1,251名	50.4%	20,712名	47.8%
そんなことはない	933名	37.6%	17,270名	39.8%
無回答	39名	1.6%	863名	2.0%



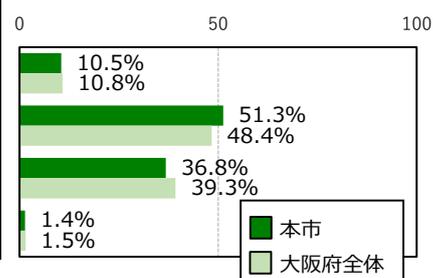
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	139名	10.4%	2,364名	10.2%
ときどきそうだ	663名	49.6%	10,997名	47.2%
そんなことはない	511名	38.2%	9,370名	40.2%
無回答	23名	1.7%	558名	2.4%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いつもそうだ	121名	10.5%	2,152名	10.8%
ときどきそうだ	588名	51.3%	9,674名	48.4%
そんなことはない	422名	36.8%	7,865名	39.3%
無回答	16名	1.4%	299名	1.5%



ふだんの生活のことについて

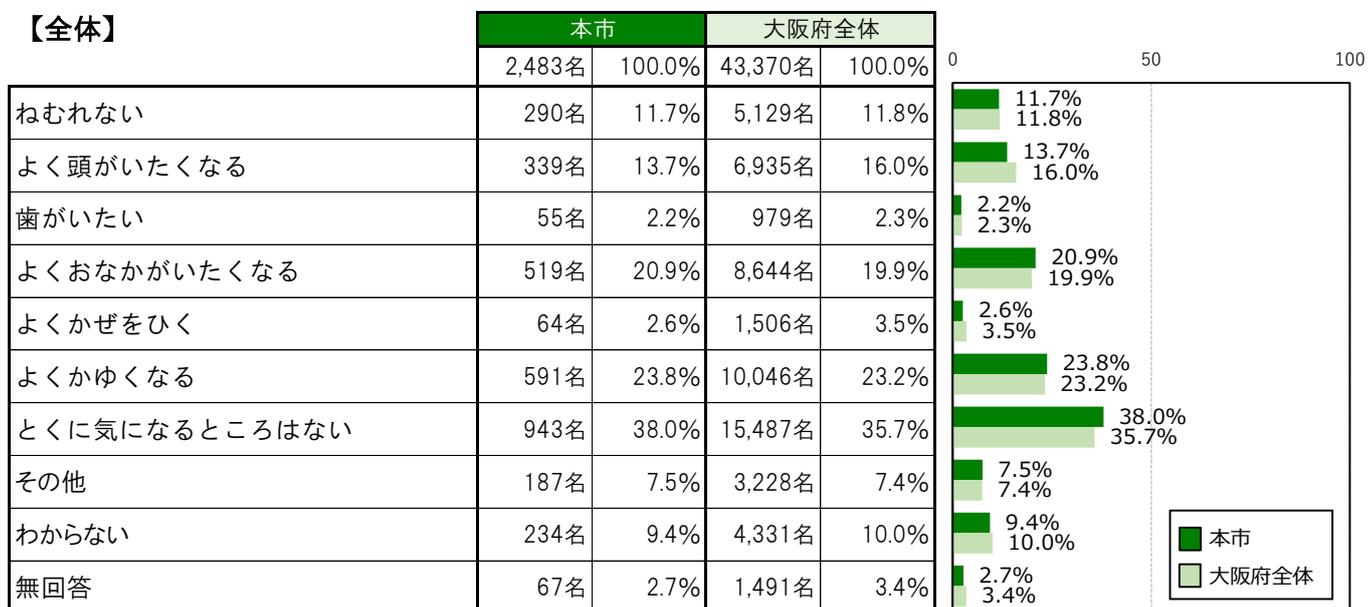
問20 自分の体の状態で気になること

全体は、「とくに気になるところはない」が38.0%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が23.8%、「よくおなかがいたくなる」が20.9%、「よく頭がいたくなる」が13.7%となっている。

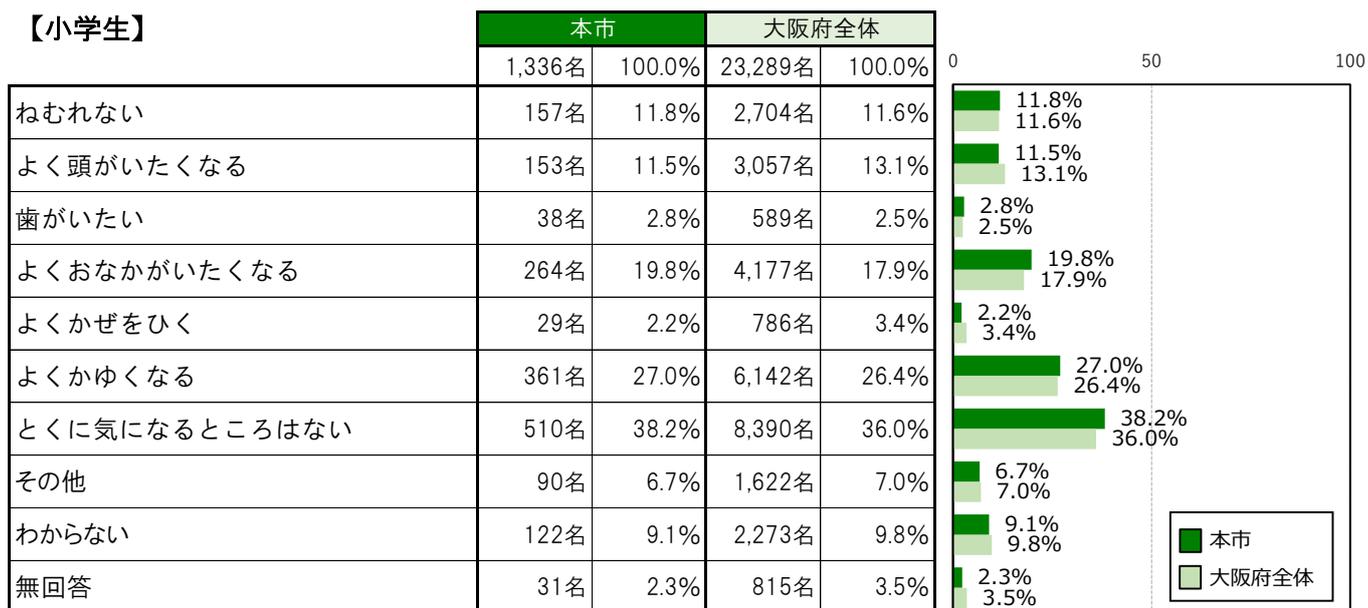
小学生は、「とくに気になるところはない」が38.2%で最も多く、次いで「よくかゆくなる」が27.0%、「よくおなかがいたくなる」が19.8%、「ねむれない」が11.8%となっている。

中学生は、「とくに気になるところはない」が37.8%で最も多く、次いで「よくおなかがいたくなる」が22.2%、「よくかゆくなる」が20.1%、「よく頭がいたくなる」が16.2%となっている。

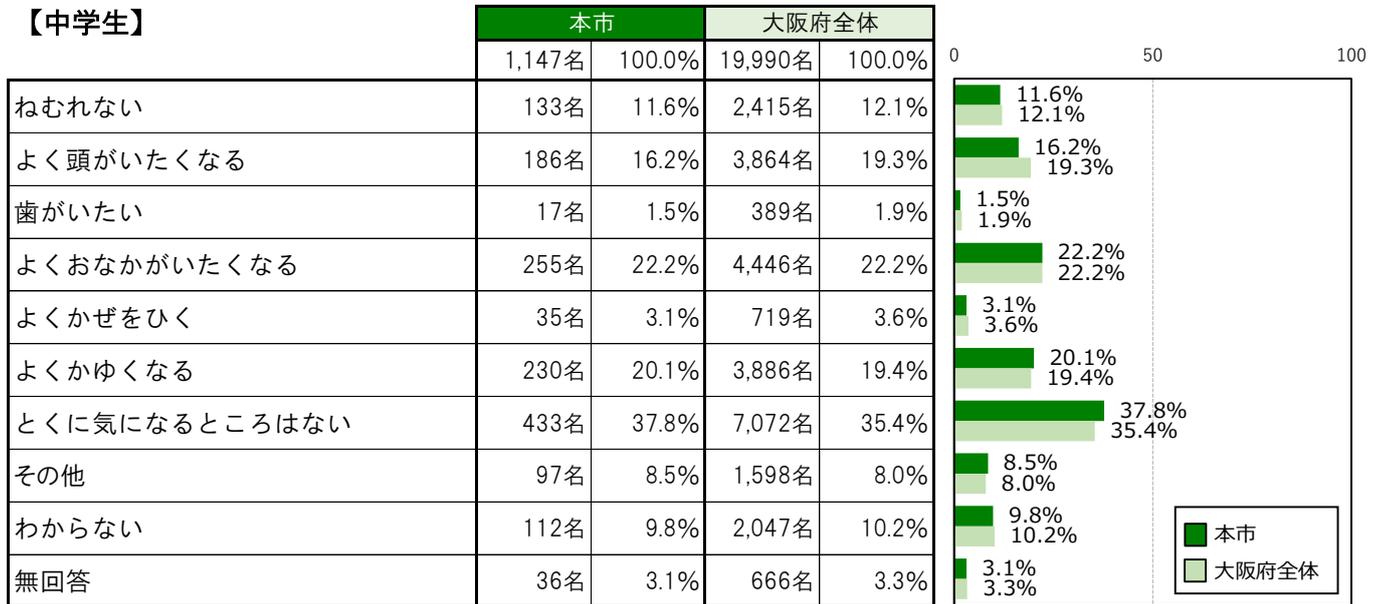
【全体】



【小学生】



【中学生】



ふだんの生活のことについて

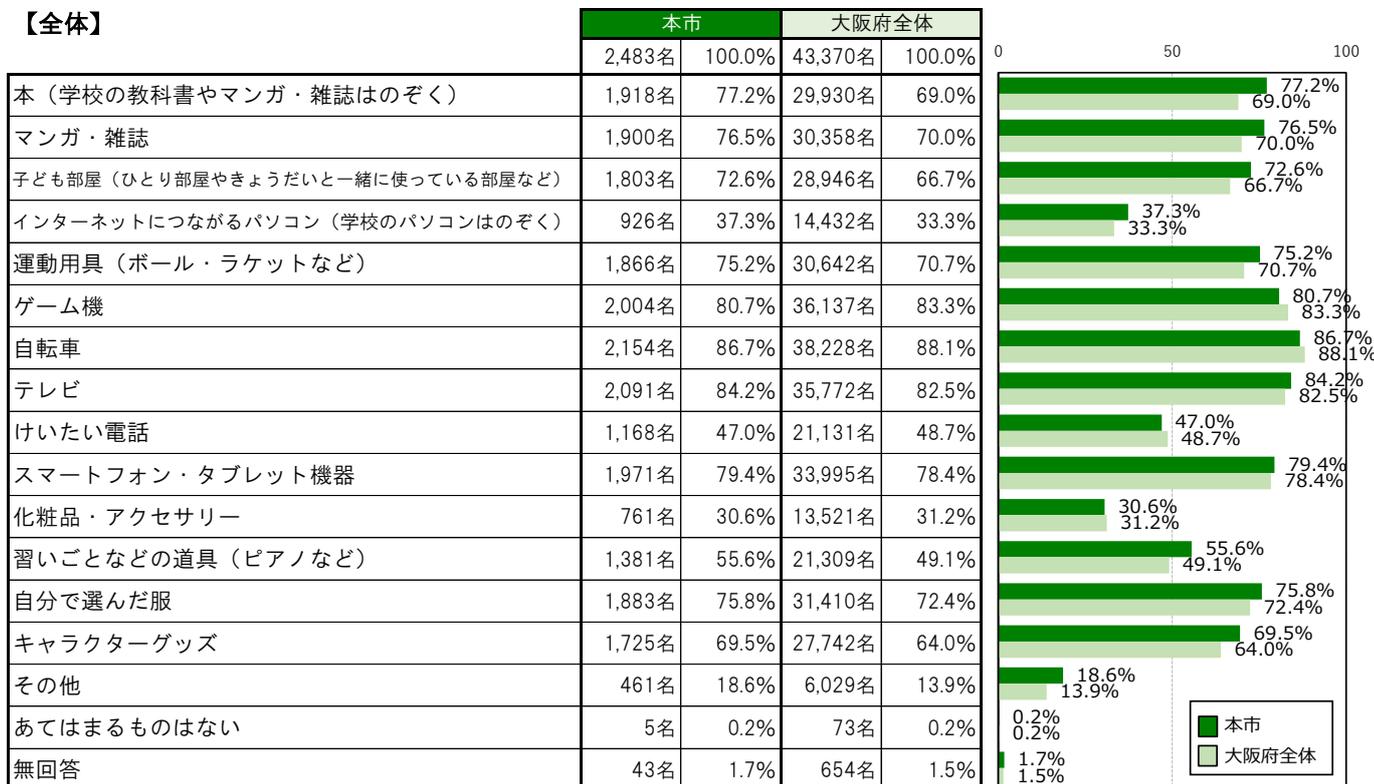
問21 持っているもの、使うことができるもの

全体は、「自転車」が86.7%で最も多く、次いで「テレビ」が84.2%、「ゲーム機」が80.7%、「スマートフォン・タブレット機器」が79.4%となっている。

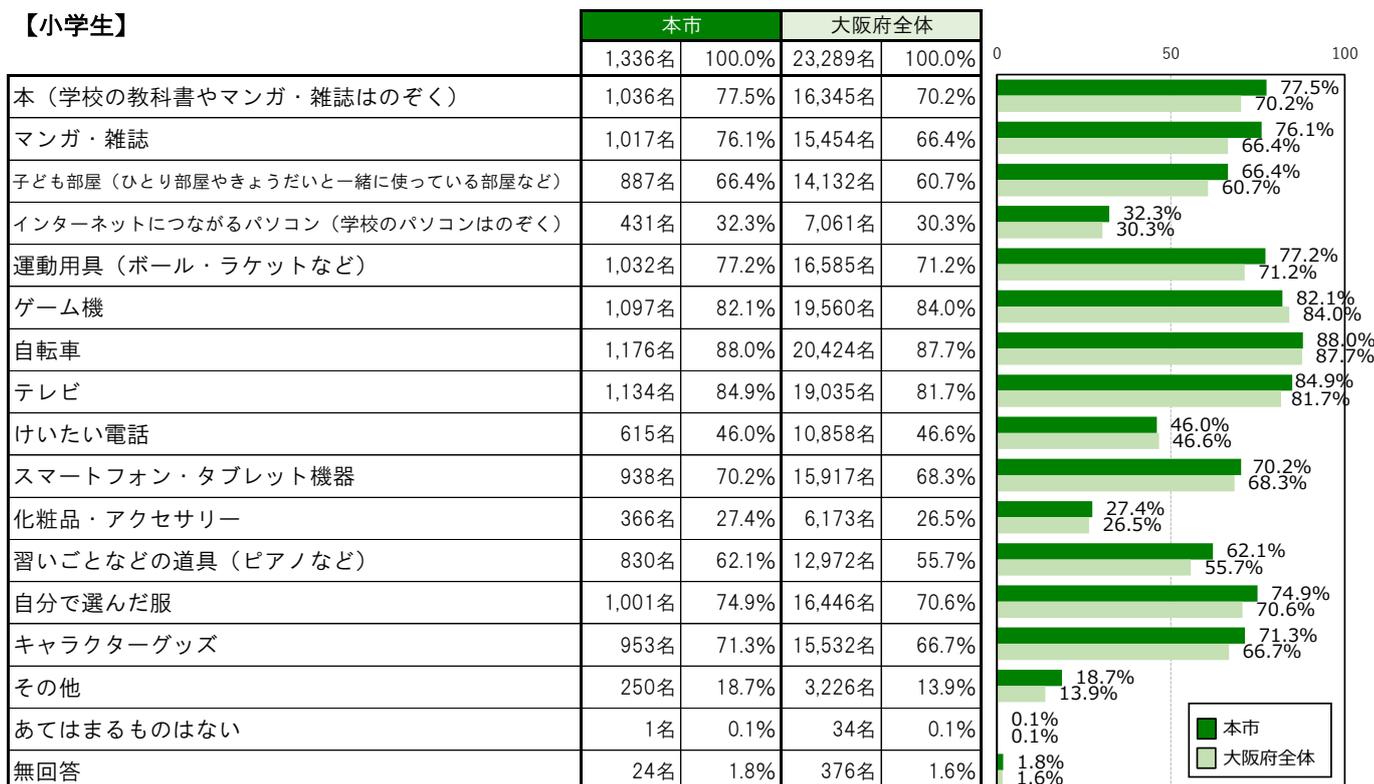
小学生は、「自転車」が88.0%で最も多く、次いで「テレビ」が84.9%、「ゲーム機」が82.1%、「本（学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく）」が77.5%となっている。

中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」が90.1%で最も多く、次いで「自転車」が85.3%、「テレビ」が83.4%、「子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など）」が79.9%となっている。

【全体】

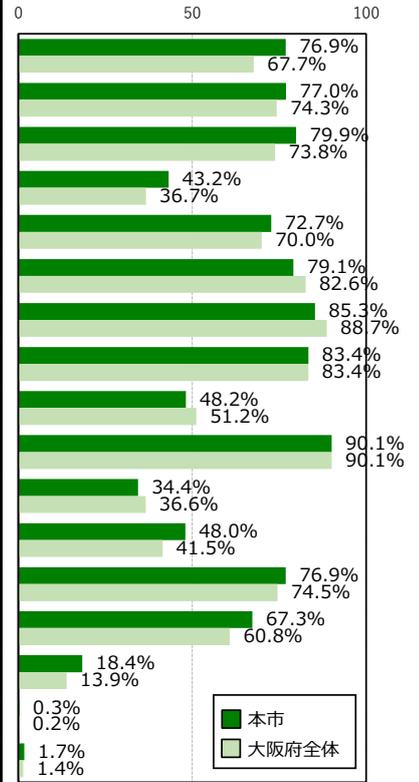


【小学生】



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
本（学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく）	882名	76.9%	13,525名	67.7%
マンガ・雑誌	883名	77.0%	14,848名	74.3%
子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など）	916名	79.9%	14,755名	73.8%
インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）	495名	43.2%	7,334名	36.7%
運動用具（ボール・ラケットなど）	834名	72.7%	13,997名	70.0%
ゲーム機	907名	79.1%	16,510名	82.6%
自転車	978名	85.3%	17,735名	88.7%
テレビ	957名	83.4%	16,665名	83.4%
けいたい電話	553名	48.2%	10,236名	51.2%
スマートフォン・タブレット機器	1,033名	90.1%	18,012名	90.1%
化粧品・アクセサリー	395名	34.4%	7,324名	36.6%
習いごとなどの道具（ピアノなど）	551名	48.0%	8,294名	41.5%
自分で選んだ服	882名	76.9%	14,894名	74.5%
キャラクターグッズ	772名	67.3%	12,152名	60.8%
その他	211名	18.4%	2,787名	13.9%
あてはまるものはない	4名	0.3%	38名	0.2%
無回答	19名	1.7%	273名	1.4%



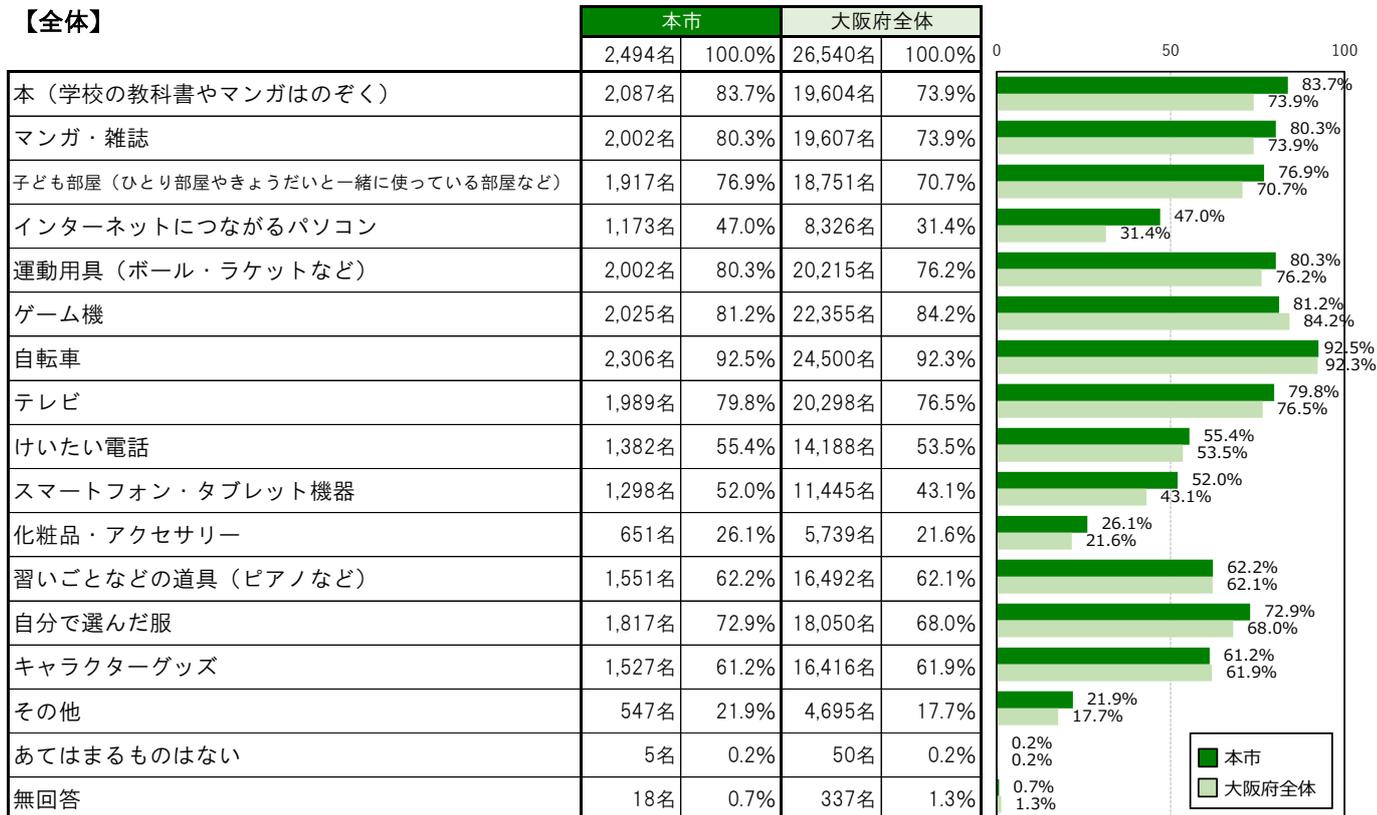
●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、全体は、「スマートフォン・タブレット機器」は27.4ポイント高いが、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」は9.7ポイント低くなっている。

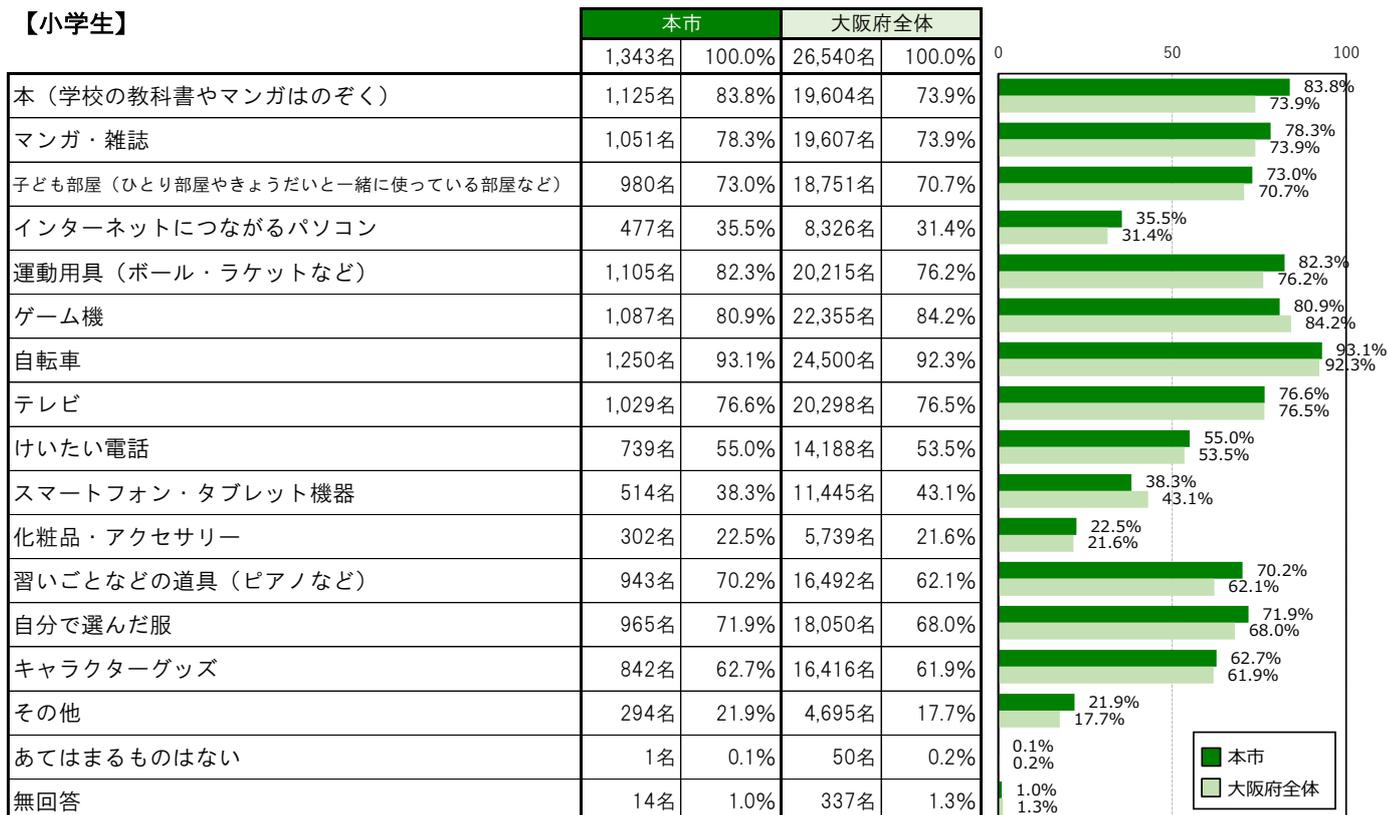
小学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は31.9ポイント高いが、「けいたい電話」は9.0ポイント低くなっている。

中学生は、「スマートフォン・タブレット機器」は22.0ポイント高いが、「インターネットにつながるパソコン（学校のパソコンはのぞく）」は17.3ポイント低くなっている。

【全体】

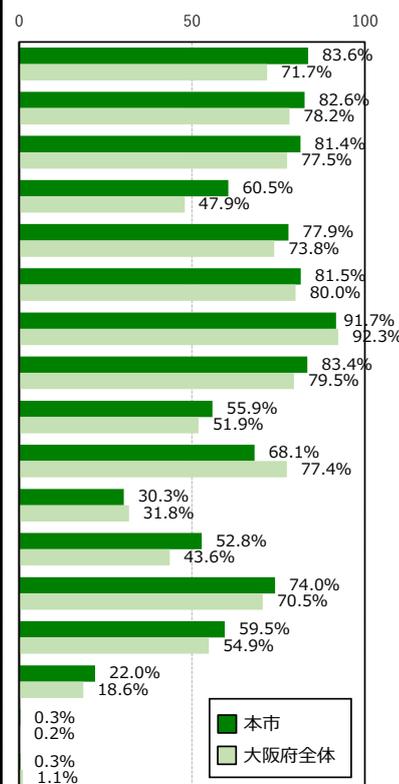


【小学生】



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
本（学校の教科書やマンガはのぞく）	962名	83.6%	16,891名	71.7%
マンガ・雑誌	951名	82.6%	18,423名	78.2%
子ども部屋（ひとり部屋やきょうだいと一緒に使っている部屋など）	937名	81.4%	18,253名	77.5%
インターネットにつながるパソコン	696名	60.5%	11,289名	47.9%
運動用具（ボール・ラケットなど）	897名	77.9%	17,391名	73.8%
ゲーム機	938名	81.5%	18,851名	80.0%
自転車	1,056名	91.7%	21,745名	92.3%
テレビ	960名	83.4%	18,732名	79.5%
けいたい電話	643名	55.9%	12,238名	51.9%
スマートフォン・タブレット機器	784名	68.1%	18,237名	77.4%
化粧品・アクセサリー	349名	30.3%	7,492名	31.8%
習いごとなどの道具（ピアノなど）	608名	52.8%	10,275名	43.6%
自分で選んだ服	852名	74.0%	16,612名	70.5%
キャラクターグッズ	685名	59.5%	12,940名	54.9%
その他	253名	22.0%	4,377名	18.6%
あてはまるものはない	4名	0.3%	54名	0.2%
無回答	4名	0.3%	262名	1.1%



ふだん考えていることについて

問22 すぐに立ち直ることができる

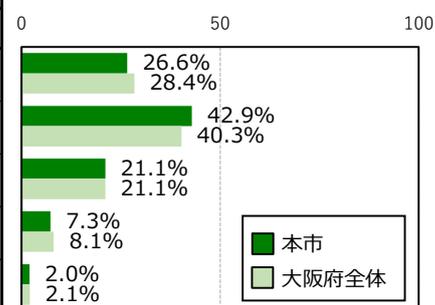
全体は、「どちらかというと思う」が42.9%で最も多く、次いで「そう思う」が26.6%、「どちらかというと思わない」が21.1%、「そう思わない」が7.3%となっている。

小学生は、「どちらかというと思う」が43.0%で最も多く、次いで「そう思う」が28.4%、「どちらかというと思わない」が20.2%、「そう思わない」が6.5%となっている。

中学生は、「どちらかというと思う」が42.8%で最も多く、次いで「そう思う」が24.5%、「どちらかというと思わない」が22.2%、「そう思わない」が8.3%となっている。

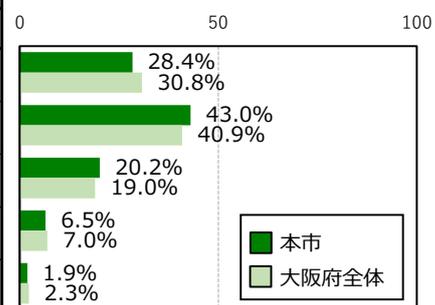
【全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
そう思う	660名	26.6%	12,318名	28.4%
どちらかというと思う	1,066名	42.9%	17,480名	40.3%
どちらかというと思わない	525名	21.1%	9,144名	21.1%
そう思わない	182名	7.3%	3,521名	8.1%
無回答	50名	2.0%	907名	2.1%



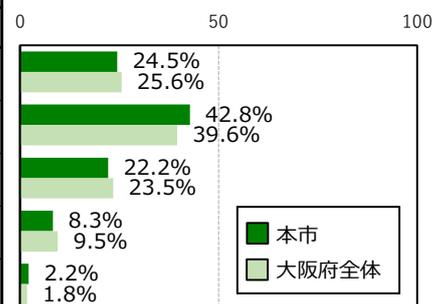
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
そう思う	379名	28.4%	7,172名	30.8%
どちらかというと思う	575名	43.0%	9,521名	40.9%
どちらかというと思わない	270名	20.2%	4,431名	19.0%
そう思わない	87名	6.5%	1,625名	7.0%
無回答	25名	1.9%	540名	2.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
そう思う	281名	24.5%	5,119名	25.6%
どちらかというと思う	491名	42.8%	7,917名	39.6%
どちらかというと思わない	255名	22.2%	4,703名	23.5%
そう思わない	95名	8.3%	1,891名	9.5%
無回答	25名	2.2%	360名	1.8%



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（1）自分に自信がある

全体は、「どちらかというところある」が37.0%で最も多く、次いで「どちらかというところない」が27.5%、「ある」が21.1%、「ない」が12.4%となっている。

小学生は、「どちらかというところある」が41.2%で最も多く、次いで「どちらかというところない」が24.4%、「ある」が24.1%、「ない」が8.5%となっている。

中学生は、「どちらかというところある」が32.1%で最も多く、次いで「どちらかというところない」が31.0%、「ある」が17.5%、「ない」が16.9%となっている。



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（2）自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

全体は、「どちらかというとできる」が38.5%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が26.8%、「できる」が25.9%、「できない」が7.1%となっている。

小学生は、「どちらかというとできる」が39.6%で最も多く、次いで「できる」が27.5%、「どちらかというとできない」が25.1%、「できない」が6.4%となっている。

中学生は、「どちらかというとできる」が37.2%で最も多く、次いで「どちらかというとできない」が28.8%、「できる」が23.9%、「できない」が8.0%となっている。



ふだん考えていることについて

問23 ふだん考えていること（3）自分の将来の夢や目標を持っている

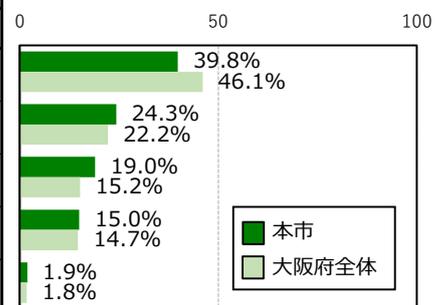
全体は、「持っている」が39.8%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が24.3%、「どちらかというと持っていない」が19.0%、「持っていない」が15.0%となっている。

小学生は、「持っている」が52.2%で最も多く、次いで「どちらかというを持っている」が22.5%、「どちらかというと持っていない」が14.4%、「持っていない」が9.4%となっている。

中学生は、「どちらかというと持っている」が26.3%で最も多く、次いで「持っている」が25.4%、「どちらかというと持っていない」が24.4%、「持っていない」が21.6%となっている。

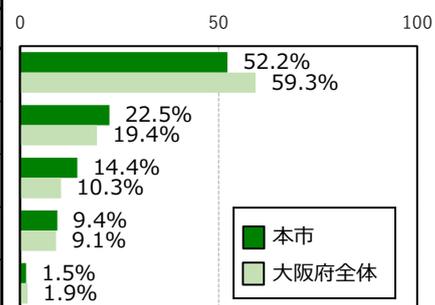
【全体】

	本市		大阪府全体	
	2,483名	100.0%	43,370名	100.0%
持っている	988名	39.8%	19,990名	46.1%
どちらかというを持っている	603名	24.3%	9,645名	22.2%
どちらかというと持っていない	473名	19.0%	6,609名	15.2%
持っていない	373名	15.0%	6,354名	14.7%
無回答	46名	1.9%	772名	1.8%



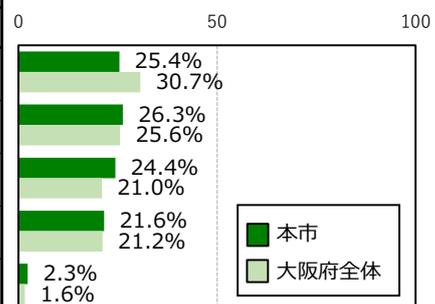
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	1,336名	100.0%	23,289名	100.0%
持っている	697名	52.2%	13,811名	59.3%
どちらかというを持っている	301名	22.5%	4,518名	19.4%
どちらかというと持っていない	193名	14.4%	2,398名	10.3%
持っていない	125名	9.4%	2,108名	9.1%
無回答	20名	1.5%	454名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
持っている	291名	25.4%	6,139名	30.7%
どちらかというを持っている	302名	26.3%	5,108名	25.6%
どちらかというと持っていない	280名	24.4%	4,195名	21.0%
持っていない	248名	21.6%	4,235名	21.2%
無回答	26名	2.3%	313名	1.6%



ふだん考えていることについて

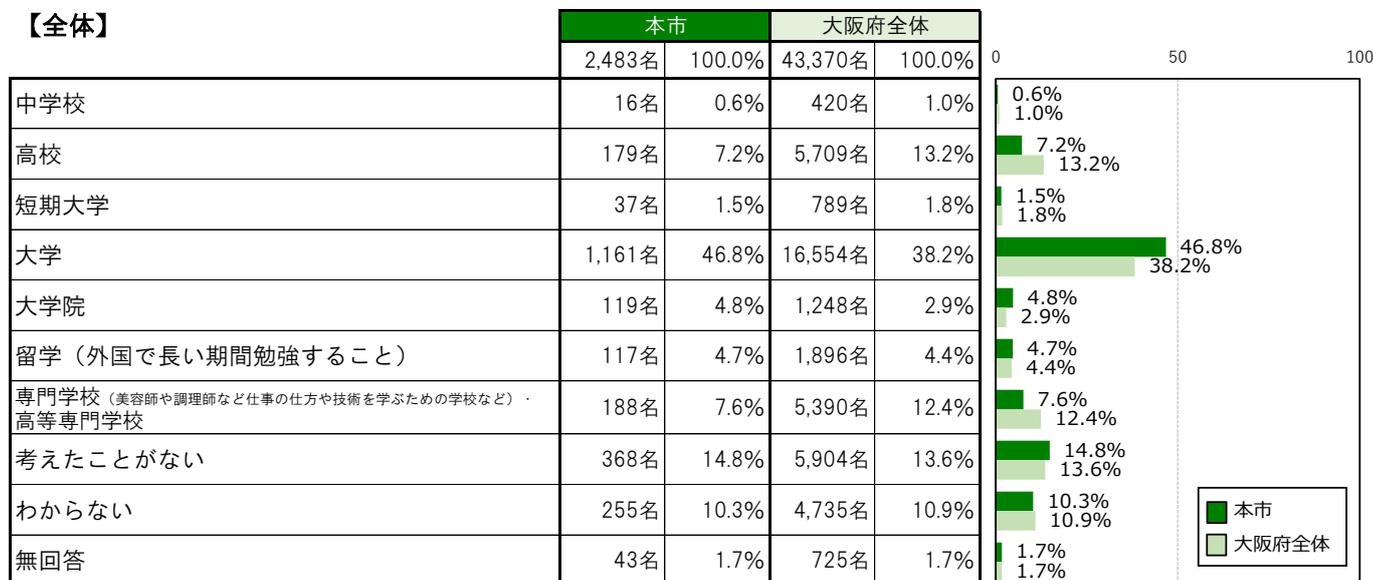
問24 希望する進学先

全体は、「大学」が46.8%で最も多く、次いで「考えたことがない」が14.8%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が7.6%、「高校」が7.2%となっている。

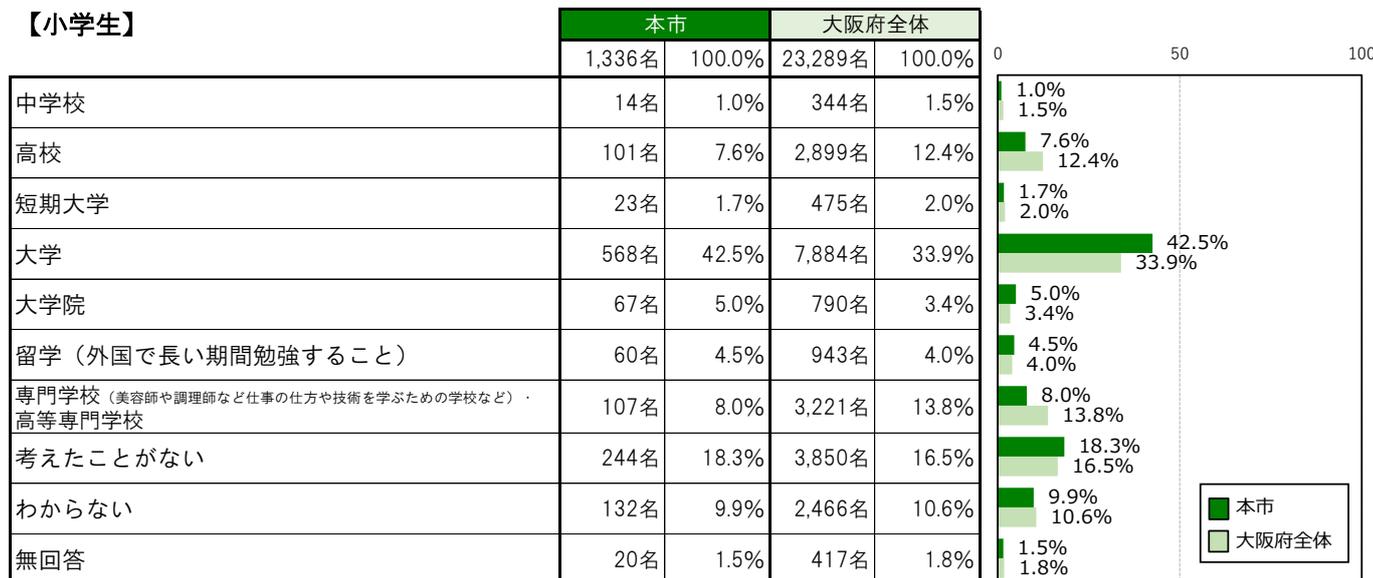
小学生は、「大学」が42.5%で最も多く、次いで「考えたことがない」が18.3%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が8.0%、「高校」が7.6%となっている。

中学生は、「大学」が51.7%で最も多く、次いで「考えたことがない」が10.8%、「専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・高等専門学校」が7.1%、「高校」が6.8%となっている。

【全体】

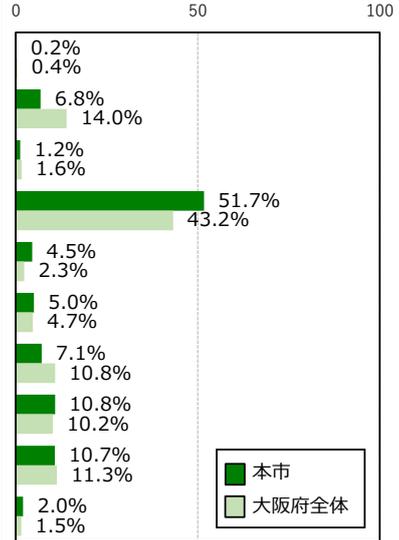


【小学生】



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	1,147名	100.0%	19,990名	100.0%
中学校	2名	0.2%	75名	0.4%
高校	78名	6.8%	2,801名	14.0%
短期大学	14名	1.2%	312名	1.6%
大学	593名	51.7%	8,638名	43.2%
大学院	52名	4.5%	456名	2.3%
留学（外国で長い期間勉強すること）	57名	5.0%	945名	4.7%
専門学校（美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など）・ 高等専門学校	81名	7.1%	2,160名	10.8%
考えたことがない	124名	10.8%	2,043名	10.2%
わからない	123名	10.7%	2,257名	11.3%
無回答	23名	2.0%	303名	1.5%



あなたのことについて

問25 (1) 子どもの居場所の利用状況 ①平日の夜や休日を過ごすことができる場所(学童保育など)

全体は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が40.4%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が30.2%、「利用したことがある」が23.6%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が4.8%となっている。

小学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が41.0%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が26.7%、「利用したことがある」が26.1%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が4.8%となっている。

中学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が39.8%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が34.2%、「利用したことがある」が20.6%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が4.8%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25 (1) 子どもの居場所の利用状況

②昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.3%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が26.1%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が15.9%、「利用したことがある」が8.6%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.6%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が23.1%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が17.1%、「利用したことがある」が10.0%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が48.0%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が29.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が14.6%、「利用したことがある」が7.0%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25 (1) 子どもの居場所の利用状況

③勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）

全体は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が49.2%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が31.5%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が13.1%、「利用したことがある」が5.1%となっている。

小学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が51.6%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が30.5%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が12.6%、「利用したことがある」が4.0%となっている。

中学生は、「利用したことはない（今後も利用したいか分からない）」が46.4%で最も多く、次いで「利用したことはない（今後も利用したいと思わない）」が32.6%、「利用したことはない（あれば利用したいと思う）」が13.6%、「利用したことがある」が6.5%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25 (1) 子どもの居場所の利用状況 ④何でも相談できる場所(電話やネットの相談をふくむ。)

全体は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が55.5%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が30.3%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が10.2%、「利用したことがある」が2.7%となっている。

小学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が57.5%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が27.6%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が10.6%、「利用したことがある」が2.8%となっている。

中学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が53.2%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が33.4%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が9.8%、「利用したことがある」が2.7%となっている。



あなたのことについて

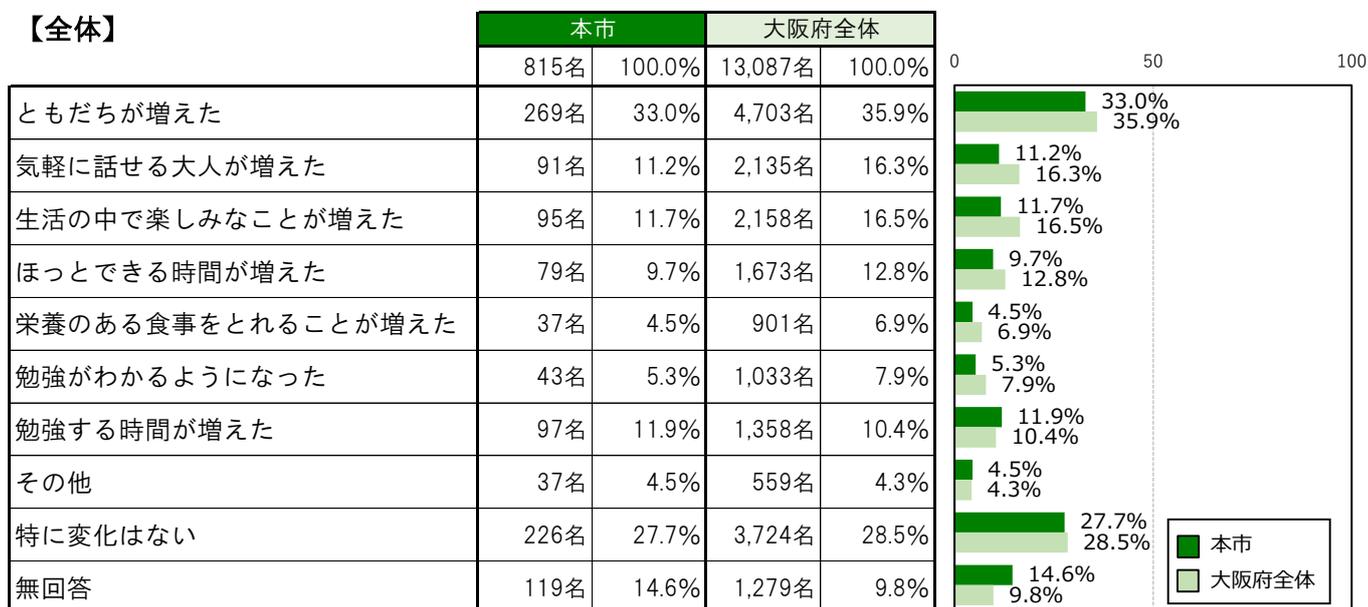
問25（2）子どもの居場所を利用したときの変化

全体は、「ともだちが増えた」が33.0%で最も多く、次いで「勉強する時間が増えた」が11.9%、「生活の中で楽しみなことが増えた」が11.7%、「気軽に話せる大人が増えた」が11.2%となっている。

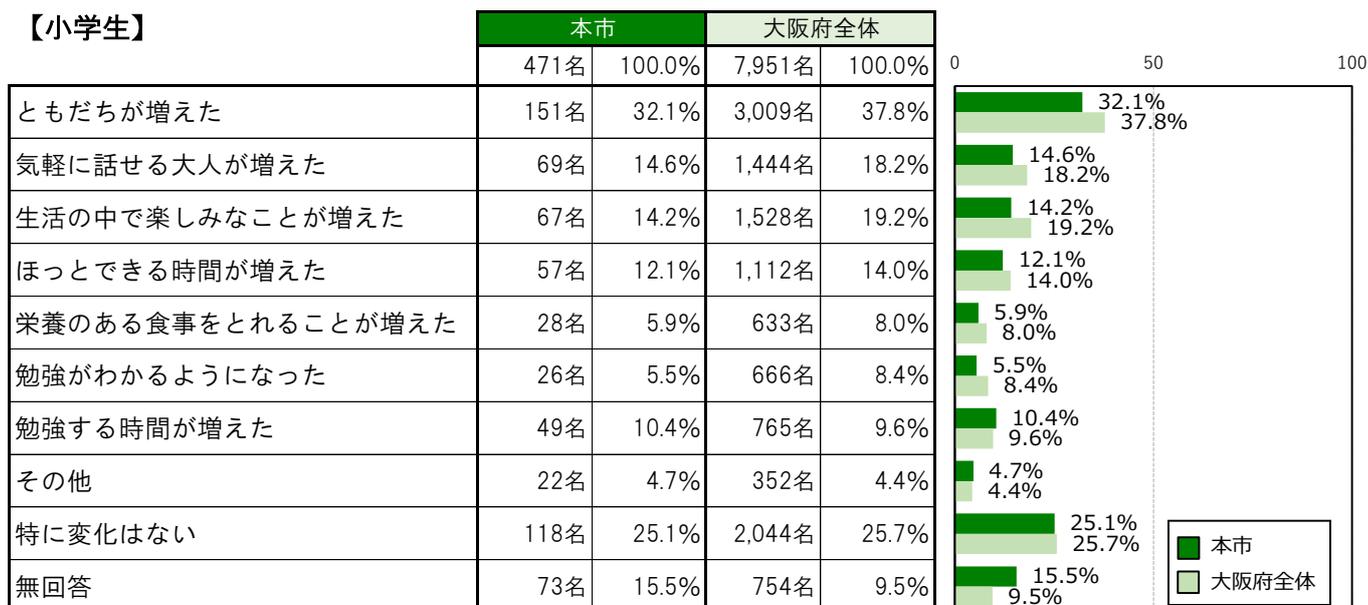
小学生は、「ともだちが増えた」が32.1%で最も多く、次いで「気軽に話せる大人が増えた」が14.6%、「生活の中で楽しみなことが増えた」が14.2%、「ほっとできる時間が増えた」が12.1%となっている。

中学生は、「ともだちが増えた」が34.3%で最も多く、次いで「勉強する時間が増えた」が14.0%、「生活の中で楽しみなことが増えた」が8.1%、「気軽に話せる大人が増えた」、「ほっとできる時間が増えた」がそれぞれ6.4%となっている。

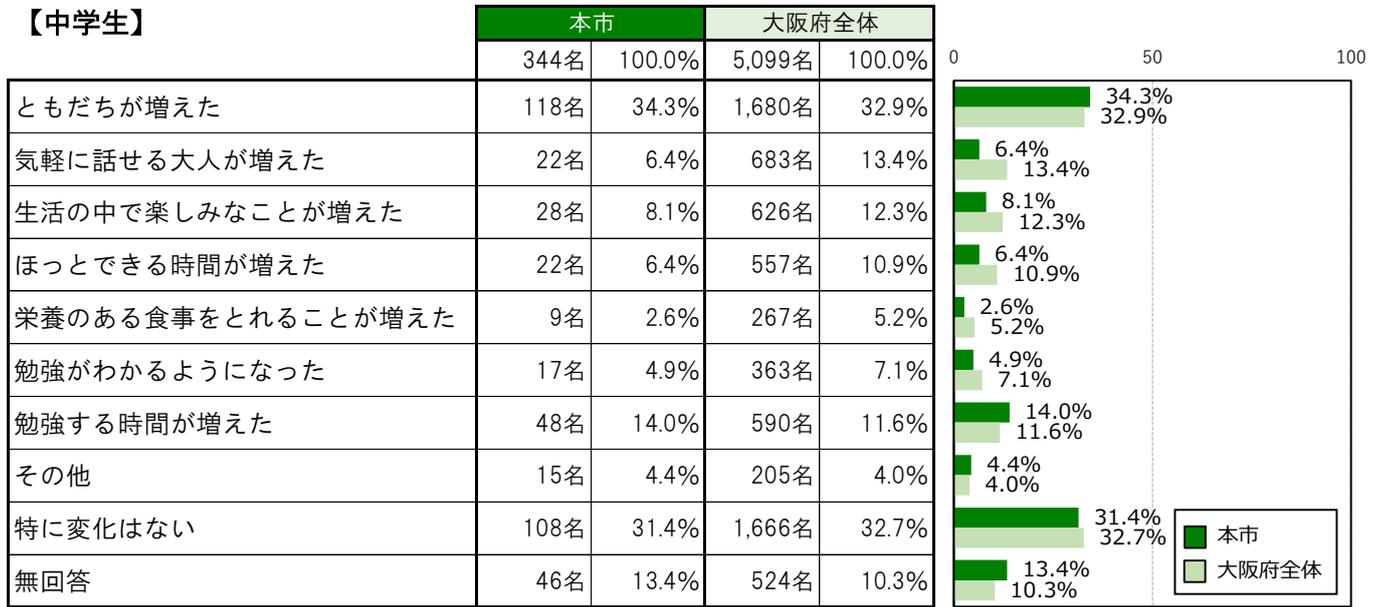
【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問25 (3) 子どもの居場所を利用したことがない理由

全体は、「行きたいと思わないから」が29.5%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が24.9%、「家で過ごしたいと思うから」が19.9%、「何をしているかわからないから」が6.5%となっている。

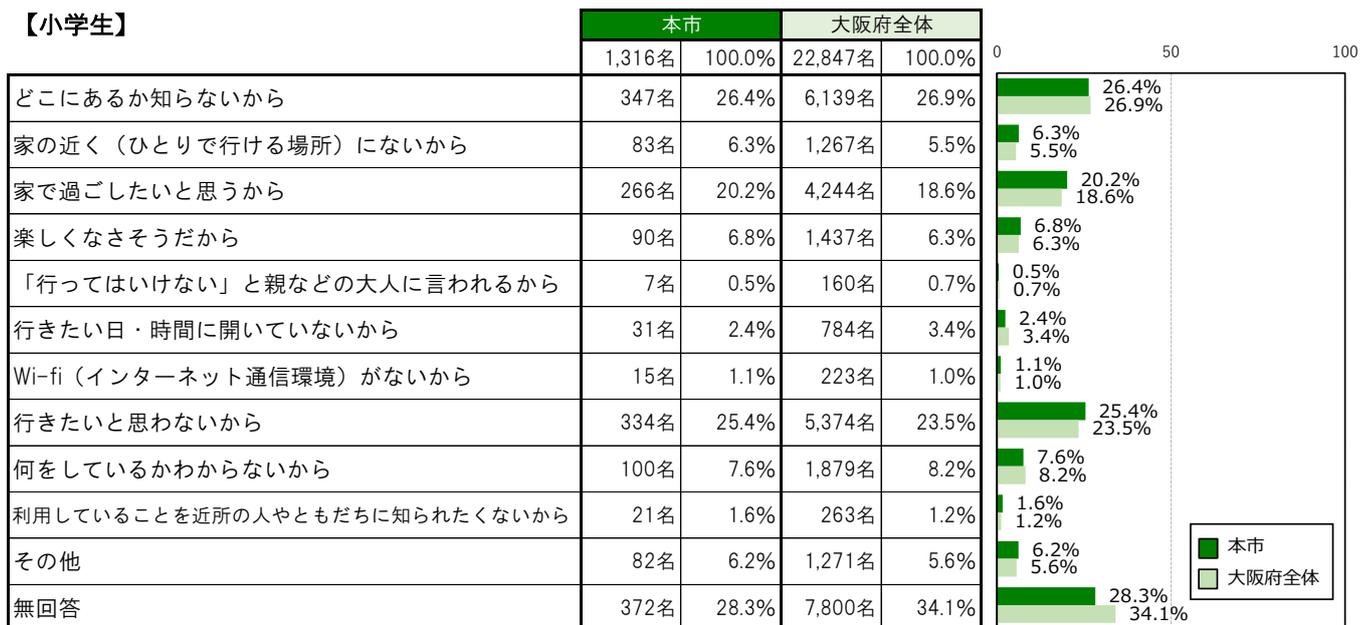
小学生は、「どこにあるか知らないから」が26.4%で最も多く、次いで「行きたいと思わないから」が25.4%、「家で過ごしたいと思うから」が20.2%、「何をしているかわからないから」が7.6%となっている。

中学生は、「行きたいと思わないから」が34.2%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が23.3%、「家で過ごしたいと思うから」が19.5%、「楽しくなさそうだから」が5.8%となっている。

【全体】

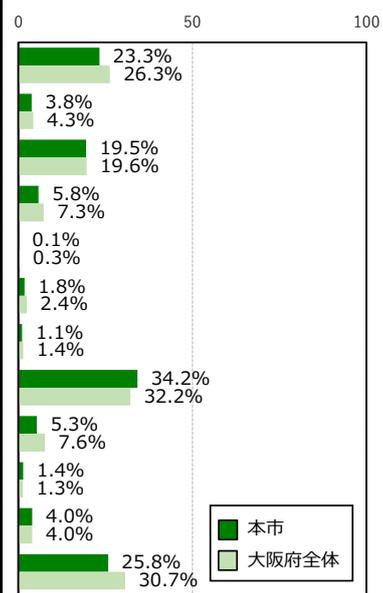


【小学生】



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	1,137名	100.0%	19,674名	100.0%
どこにあるか知らないから	265名	23.3%	5,172名	26.3%
家の近く（ひとりで行ける場所）にないから	43名	3.8%	855名	4.3%
家で過ごしたいと思うから	222名	19.5%	3,857名	19.6%
楽しくなさそうだから	66名	5.8%	1,427名	7.3%
「行ってはいけない」と親などの大人に言われるから	1名	0.1%	53名	0.3%
行きたい日・時間に開いていないから	21名	1.8%	465名	2.4%
Wi-fi（インターネット通信環境）がないから	13名	1.1%	268名	1.4%
行きたいと思わないから	389名	34.2%	6,330名	32.2%
何をしているかわからないから	60名	5.3%	1,496名	7.6%
利用していることを近所の人やともだちに知られたくないから	16名	1.4%	264名	1.3%
その他	46名	4.0%	795名	4.0%
無回答	293名	25.8%	6,044名	30.7%



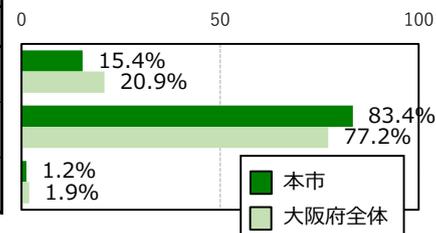
あなたのことについて

問26（1）自分が世話をしている人の有無

全体は、「いる」が15.4%、「いない」が83.4%となっている。
 小学生は、「いる」が19.2%、「いない」が79.7%となっている。
 中学生は、「いる」が10.9%、「いない」が87.8%となっている。

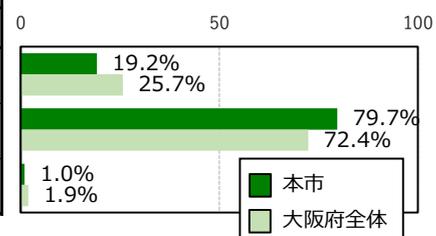
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	382名	15.4%	9,054名	20.9%
いない	2,072名	83.4%	33,476名	77.2%
無回答	29名	1.2%	840名	1.9%



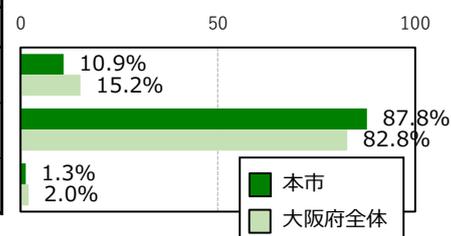
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	257名	19.2%	5,988名	25.7%
いない	1,065名	79.7%	16,856名	72.4%
無回答	14名	1.0%	445名	1.9%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	125名	10.9%	3,045名	15.2%
いない	1,007名	87.8%	16,553名	82.8%
無回答	15名	1.3%	392名	2.0%



あなたのことについて

問26（2）世話をしている相手

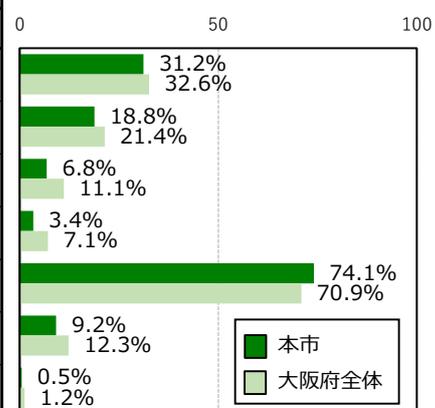
全体は、「きょうだい」が74.1%で最も多く、次いで「お母さん」が31.2%、「お父さん」が18.8%、「おばあちゃん」が6.8%となっている。

小学生は、「きょうだい」が73.9%で最も多く、次いで「お母さん」が31.5%、「お父さん」が18.7%、「おばあちゃん」が8.6%となっている。

中学生は、「きょうだい」が74.4%で最も多く、次いで「お母さん」が30.4%、「お父さん」が19.2%、「おばあちゃん」が3.2%となっている。

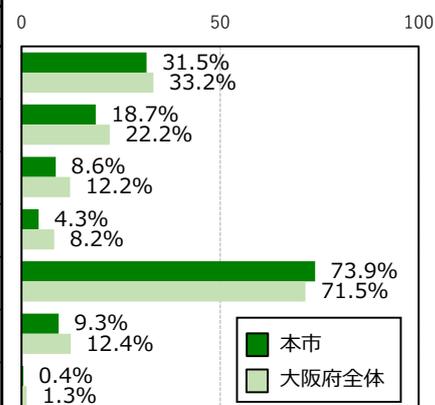
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	119名	31.2%	2,954名	32.6%
お父さん	72名	18.8%	1,939名	21.4%
おばあちゃん	26名	6.8%	1,009名	11.1%
おじいちゃん	13名	3.4%	647名	7.1%
きょうだい	283名	74.1%	6,419名	70.9%
その他	35名	9.2%	1,117名	12.3%
無回答	2名	0.5%	112名	1.2%



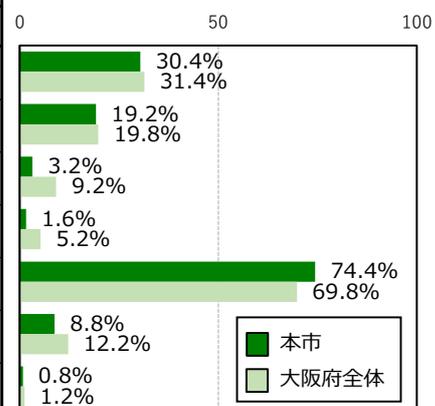
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	81名	31.5%	1,990名	33.2%
お父さん	48名	18.7%	1,332名	22.2%
おばあちゃん	22名	8.6%	728名	12.2%
おじいちゃん	11名	4.3%	489名	8.2%
きょうだい	190名	73.9%	4,280名	71.5%
その他	24名	9.3%	741名	12.4%
無回答	1名	0.4%	75名	1.3%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	38名	30.4%	957名	31.4%
お父さん	24名	19.2%	604名	19.8%
おばあちゃん	4名	3.2%	280名	9.2%
おじいちゃん	2名	1.6%	157名	5.2%
きょうだい	93名	74.4%	2,125名	69.8%
その他	11名	8.8%	370名	12.2%
無回答	1名	0.8%	37名	1.2%



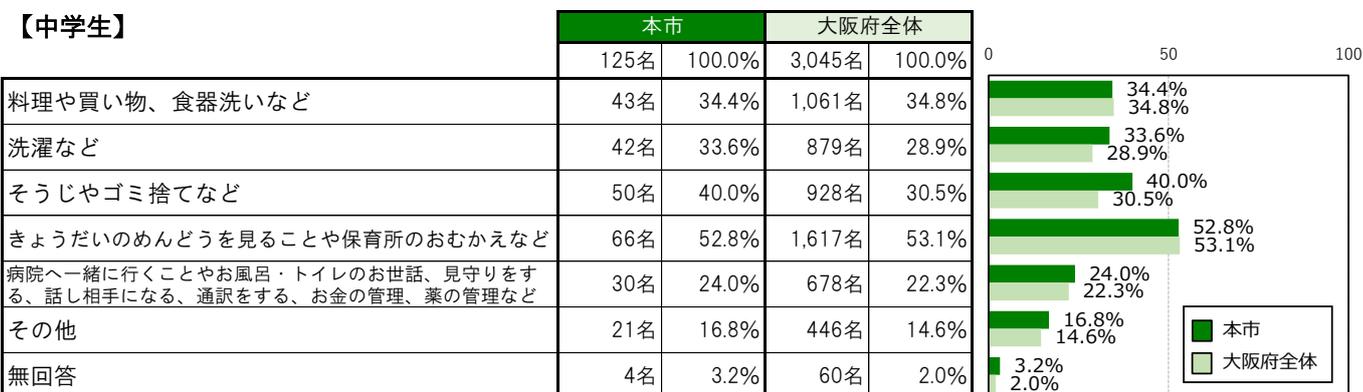
あなたのことについて

問26 (3) 世話をやっている内容

全体は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が55.8%で最も多く、次いで「そうじやゴミ捨てなど」が34.3%、「料理や買い物、食器洗いなど」が33.0%、「洗濯など」が28.3%となっている。

小学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が57.2%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が32.3%、「そうじやゴミ捨てなど」が31.5%、「洗濯など」が25.7%となっている。

中学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が52.8%で最も多く、次いで「そうじやゴミ捨てなど」が40.0%、「料理や買い物、食器洗いなど」が34.4%、「洗濯など」が33.6%となっている。



あなたのことについて

問26(5) 世話をする頻度

全体は、「ほぼ毎日」が53.1%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が17.8%、「週に1日または2日」が15.4%、「1か月に数日」が8.9%となっている。

小学生は、「ほぼ毎日」が52.5%で最も多く、次いで「週に3日～5日」が19.5%、「週に1日または2日」が17.5%、「1か月に数日」が5.8%となっている。

中学生は、「ほぼ毎日」が54.4%で最も多く、次いで「1か月に数日」が15.2%、「週に3日～5日」が14.4%、「週に1日または2日」が11.2%となっている。

【全体】



【小学生】



【中学生】



あなたのことについて

問26（6）学校がある日に世話をする1日の時間

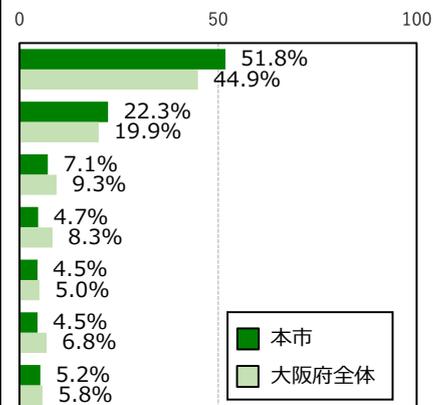
全体は、「1時間より少ない」が51.8%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が22.3%、「2時間以上、3時間より少ない」が7.1%、「3時間以上、5時間より少ない」が4.7%となっている。

小学生は、「1時間より少ない」が50.6%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が24.1%、「2時間以上、3時間より少ない」が7.0%、「7時間より多い」が5.8%となっている。

中学生は、「1時間より少ない」が54.4%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が18.4%、「2時間以上、3時間より少ない」が7.2%、「5時間以上、7時間より少ない」が6.4%となっている。

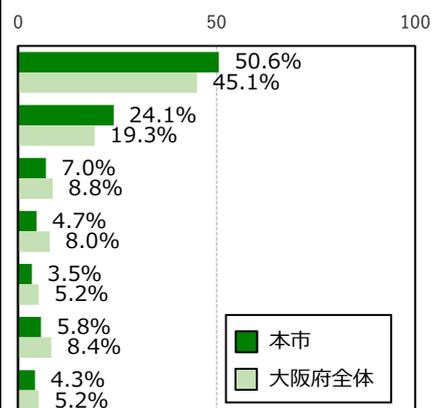
【全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
1時間より少ない	198名	51.8%	4,062名	44.9%
1時間以上、2時間より少ない	85名	22.3%	1,805名	19.9%
2時間以上、3時間より少ない	27名	7.1%	843名	9.3%
3時間以上、5時間より少ない	18名	4.7%	751名	8.3%
5時間以上、7時間より少ない	17名	4.5%	450名	5.0%
7時間より多い	17名	4.5%	617名	6.8%
無回答	20名	5.2%	526名	5.8%



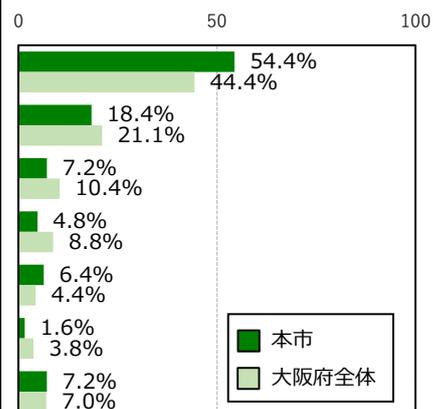
【小学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
1時間より少ない	130名	50.6%	2,700名	45.1%
1時間以上、2時間より少ない	62名	24.1%	1,156名	19.3%
2時間以上、3時間より少ない	18名	7.0%	525名	8.8%
3時間以上、5時間より少ない	12名	4.7%	482名	8.0%
5時間以上、7時間より少ない	9名	3.5%	314名	5.2%
7時間より多い	15名	5.8%	500名	8.4%
無回答	11名	4.3%	311名	5.2%



【中学生】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
1時間より少ない	68名	54.4%	1,353名	44.4%
1時間以上、2時間より少ない	23名	18.4%	644名	21.1%
2時間以上、3時間より少ない	9名	7.2%	316名	10.4%
3時間以上、5時間より少ない	6名	4.8%	267名	8.8%
5時間以上、7時間より少ない	8名	6.4%	135名	4.4%
7時間より多い	2名	1.6%	116名	3.8%
無回答	9名	7.2%	214名	7.0%



あなたのことについて

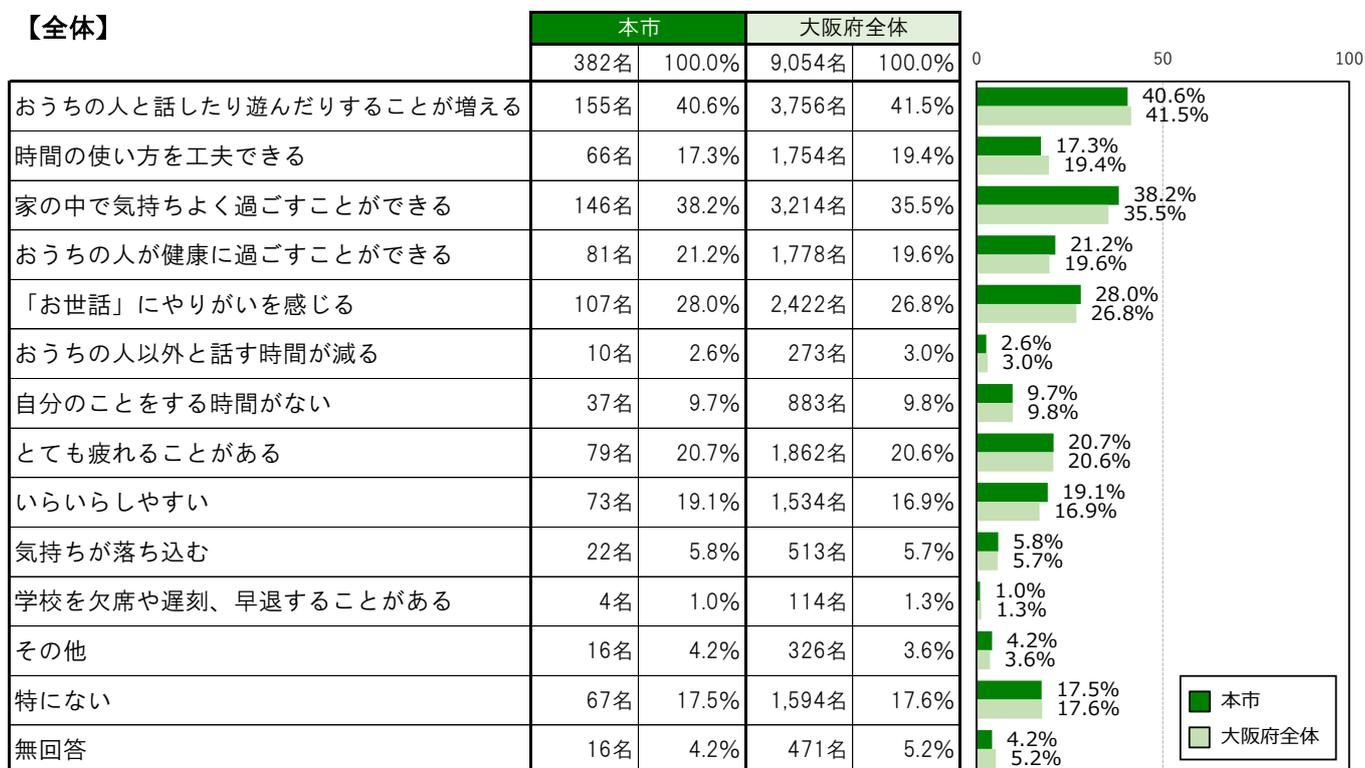
問26(7) 世話をしていることの影響

全体は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が40.6%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が38.2%、「お世話」にやりがいを感じる」が28.0%、「おうちの人健康に過ごすことができる」が21.2%となっている。

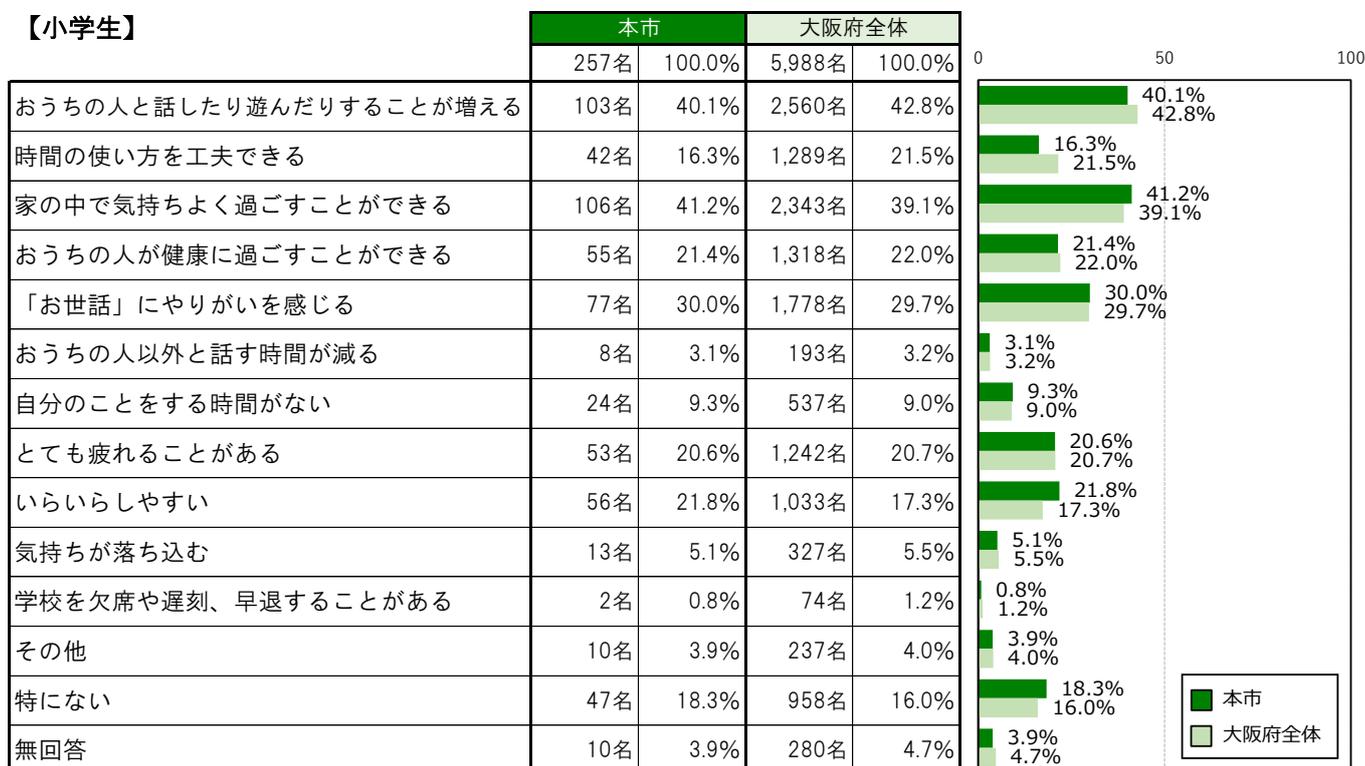
小学生は、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が41.2%で最も多く、次いで「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が40.1%、「お世話」にやりがいを感じる」が30.0%、「いらいらしやすい」が21.8%となっている。

中学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が41.6%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が32.0%、「お世話」にやりがいを感じる」が24.0%、「おうちの人健康に過ごすことができる」、「とても疲れることがある」がそれぞれ20.8%となっている。

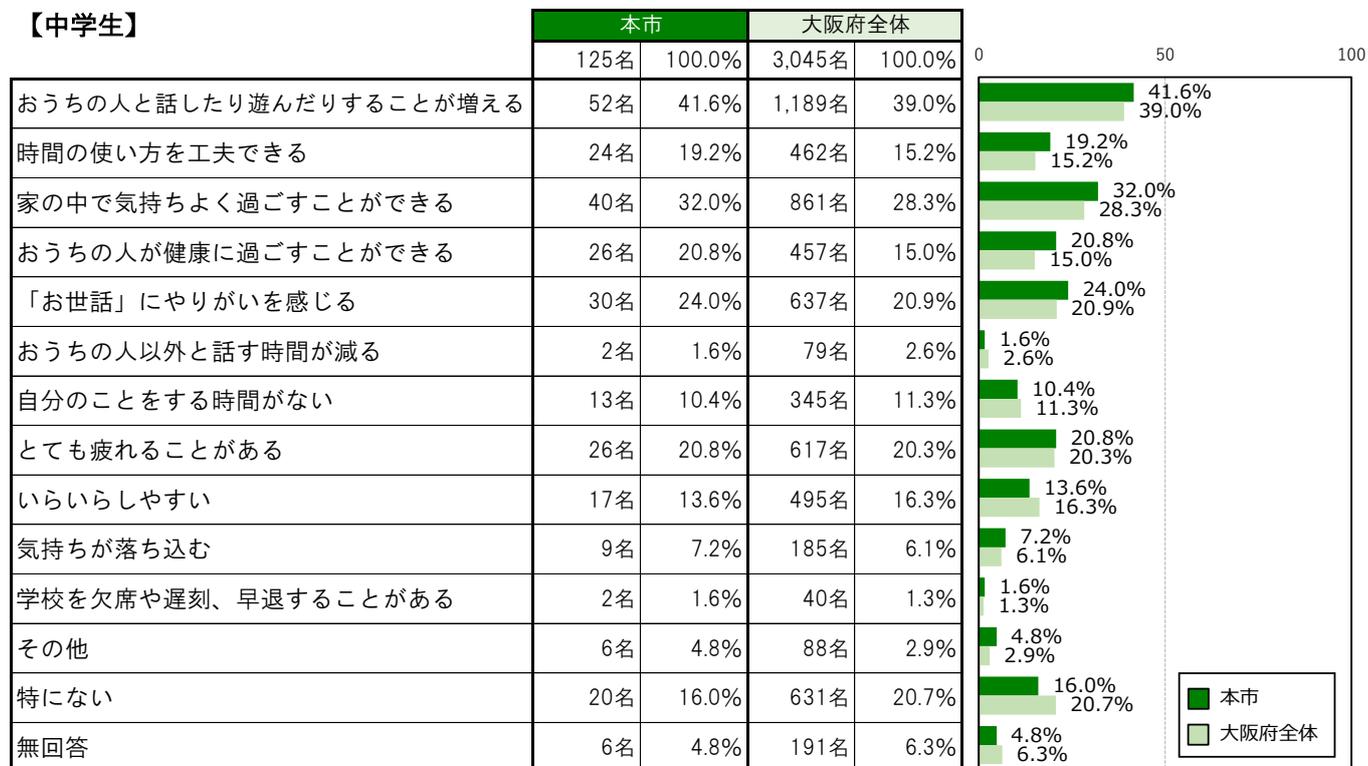
【全体】



【小学生】



【中学生】



2. 単純集計結果〔保護者〕

豊中市

子どもとの関係について

問1 子どもとの続柄

保護者全体は、「お母さん」が83.0%で最も多く、次いで「お父さん」が14.3%となっている。
 小学生の保護者は、「お母さん」が82.5%で最も多く、次いで「お父さん」が14.8%となっている。
 中学生の保護者は、「お母さん」が83.6%で最も多く、次いで「お父さん」が13.8%となっている。

【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
お母さん	2,270名	83.0%	36,436名	84.0%
お父さん	392名	14.3%	3,426名	7.9%
おじいさん・おばあさん	6名	0.2%	154名	0.4%
おじ、おばなど親戚	-	-	15名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	1名	0.0%	91名	0.2%
その他の人	-	-	14名	0.0%
無回答	66名	2.4%	3,222名	7.4%

【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
お母さん	1,202名	82.5%	19,261名	84.4%
お父さん	216名	14.8%	1,776名	7.8%
おじいさん・おばあさん	2名	0.1%	75名	0.3%
おじ、おばなど親戚	-	-	7名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	-	-	47名	0.2%
その他の人	-	-	3名	0.0%
無回答	37名	2.5%	1,650名	7.2%

【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
お母さん	1,068名	83.6%	16,208名	83.6%
お父さん	176名	13.8%	1,488名	7.7%
おじいさん・おばあさん	4名	0.3%	77名	0.4%
おじ、おばなど親戚	-	-	7名	0.0%
施設職員・ファミリーホーム・里親	1名	0.1%	44名	0.2%
その他の人	-	-	8名	0.0%
無回答	29名	2.3%	1,558名	8.0%

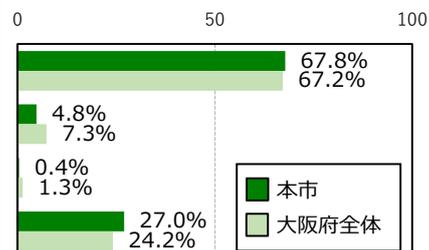
世帯の状況について

問2 世帯構成 ①おばあさん

保護者全体は、「いない」が67.8%で最も多く、次いで「1人」が4.8%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が68.5%で最も多く、次いで「1人」が4.7%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が66.9%で最も多く、次いで「1人」が5.0%となっている。

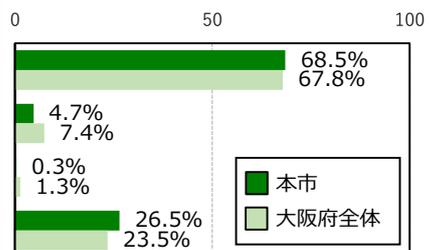
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	1,853名	67.8%	29,081名	67.2%
1人	132名	4.8%	3,181名	7.3%
2人	11名	0.4%	555名	1.3%
無回答	739名	27.0%	10,483名	24.2%



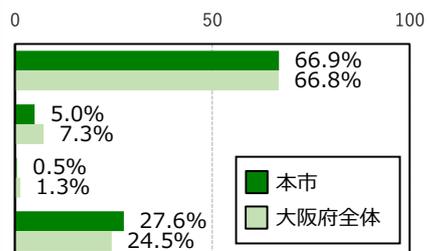
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	998名	68.5%	15,456名	67.8%
1人	68名	4.7%	1,681名	7.4%
2人	5名	0.3%	286名	1.3%
無回答	386名	26.5%	5,363名	23.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	855名	66.9%	12,942名	66.8%
1人	64名	5.0%	1,422名	7.3%
2人	6名	0.5%	257名	1.3%
無回答	353名	27.6%	4,744名	24.5%



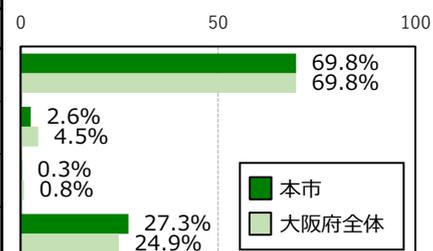
世帯の状況について

問2 世帯構成 ②おじいさん

保護者全体は、「いない」が69.8%で最も多く、次いで「1人」が2.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が70.6%で最も多く、次いで「1人」が2.4%となっている。
 中学生の保護者は、「いない」が68.8%で最も多く、次いで「1人」が2.8%となっている。

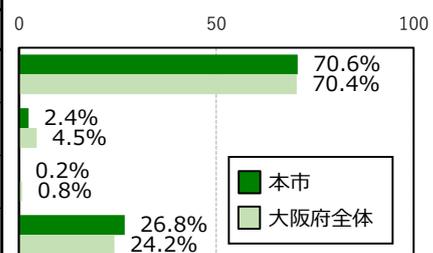
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	1,908名	69.8%	30,230名	69.8%
1人	71名	2.6%	1,932名	4.5%
2人	8名	0.3%	340名	0.8%
無回答	748名	27.3%	10,798名	24.9%



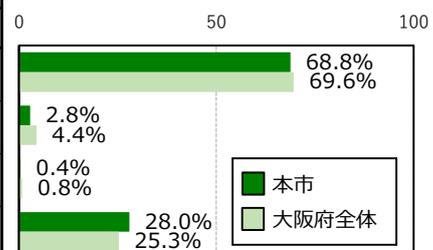
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	1,029名	70.6%	16,050名	70.4%
1人	35名	2.4%	1,031名	4.5%
2人	3名	0.2%	186名	0.8%
無回答	390名	26.8%	5,519名	24.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	879名	68.8%	13,474名	69.6%
1人	36名	2.8%	853名	4.4%
2人	5名	0.4%	148名	0.8%
無回答	358名	28.0%	4,890名	25.3%



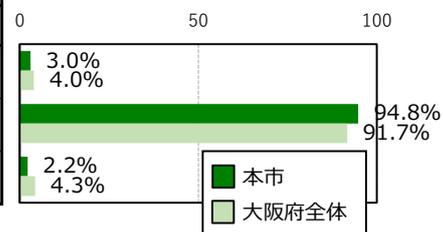
世帯の状況について

問2 世帯構成 ③お母さん

保護者全体は、「1人」が94.8%で最も多く、次いで「いない」が3.0%となっている。
 小学生の保護者は、「1人」が95.4%で最も多く、次いで「いない」が2.5%となっている。
 中学生の保護者は、「1人」が94.1%で最も多く、次いで「いない」が3.5%となっている。

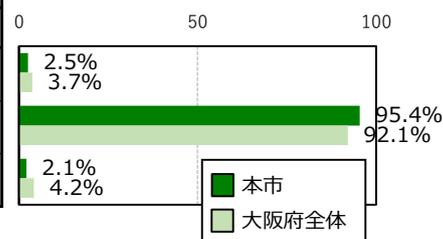
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	82名	3.0%	1,729名	4.0%
1人	2,592名	94.8%	39,706名	91.7%
無回答	61名	2.2%	1,865名	4.3%



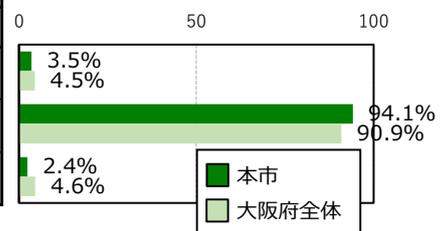
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	37名	2.5%	841名	3.7%
1人	1,390名	95.4%	20,990名	92.1%
無回答	30名	2.1%	955名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	45名	3.5%	872名	4.5%
1人	1,202名	94.1%	17,597名	90.9%
無回答	31名	2.4%	896名	4.6%



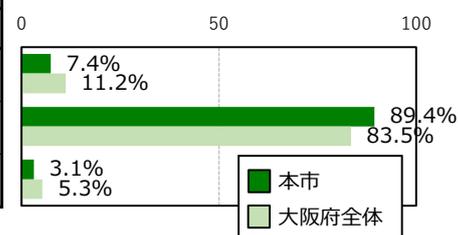
世帯の状況について

問2 世帯構成 ④お父さん

保護者全体は、「1人」が89.4%で最も多く、次いで「いない」が7.4%となっている。
 小学生の保護者は、「1人」が90.3%で最も多く、次いで「いない」が7.1%となっている。
 中学生の保護者は、「1人」が88.5%で最も多く、次いで「いない」が7.7%となっている。

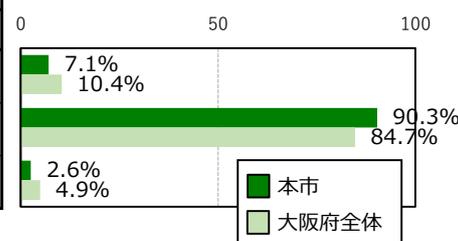
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	203名	7.4%	4,852名	11.2%
1人	2,446名	89.4%	36,166名	83.5%
無回答	86名	3.1%	2,282名	5.3%



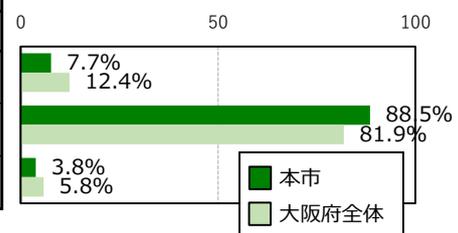
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	104名	7.1%	2,372名	10.4%
1人	1,315名	90.3%	19,301名	84.7%
無回答	38名	2.6%	1,113名	4.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	99名	7.7%	2,394名	12.4%
1人	1,131名	88.5%	15,852名	81.9%
無回答	48名	3.8%	1,119名	5.8%



世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑤姉・兄

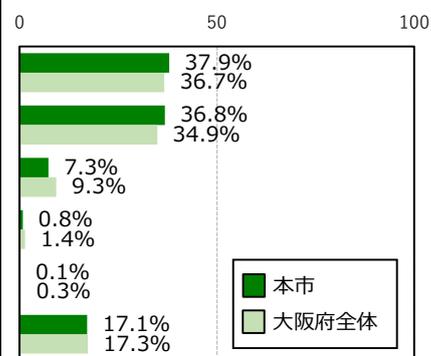
保護者全体は、「いない」が37.9%で最も多く、次いで「1人」が36.8%、「2人」が7.3%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が38.4%で最も多く、次いで「1人」が35.4%、「2人」が8.1%、「3人」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「1人」が38.3%で最も多く、次いで「いない」が37.3%、「2人」が6.3%となっている。

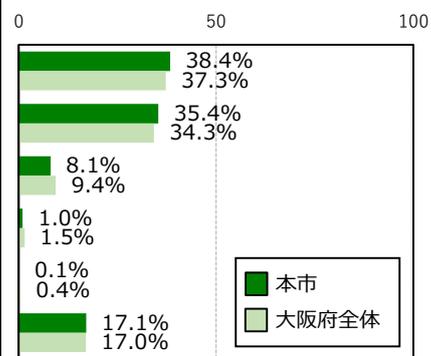
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	1,036名	37.9%	15,909名	36.7%
1人	1,006名	36.8%	15,123名	34.9%
2人	199名	7.3%	4,039名	9.3%
3人	23名	0.8%	601名	1.4%
4人以上	3名	0.1%	145名	0.3%
無回答	468名	17.1%	7,483名	17.3%



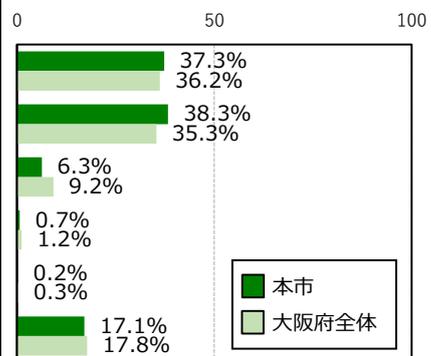
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	559名	38.4%	8,507名	37.3%
1人	516名	35.4%	7,823名	34.3%
2人	118名	8.1%	2,148名	9.4%
3人	14名	1.0%	350名	1.5%
4人以上	1名	0.1%	90名	0.4%
無回答	249名	17.1%	3,868名	17.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いない	477名	37.3%	7,016名	36.2%
1人	490名	38.3%	6,827名	35.3%
2人	81名	6.3%	1,782名	9.2%
3人	9名	0.7%	239名	1.2%
4人以上	2名	0.2%	50名	0.3%
無回答	219名	17.1%	3,451名	17.8%



世帯の状況について

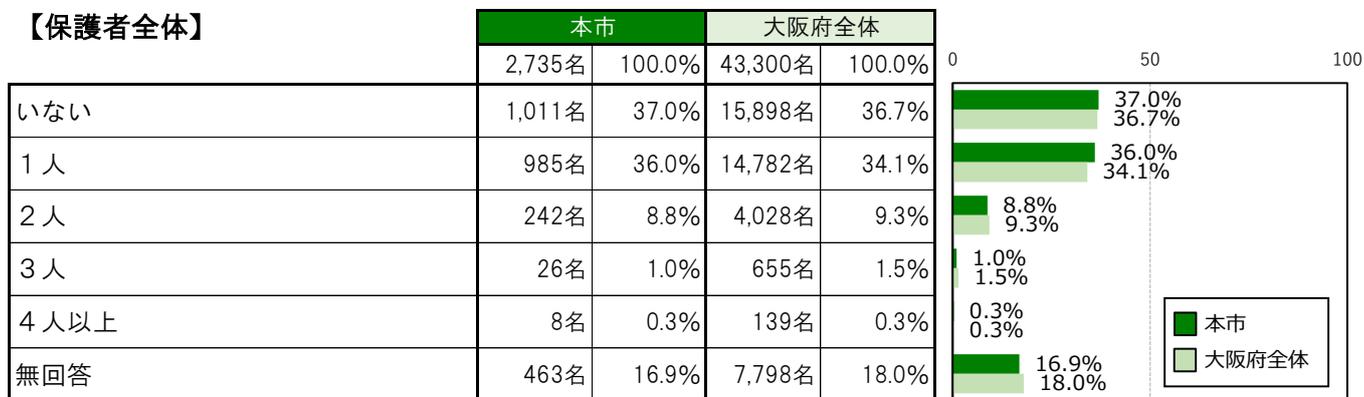
問2 世帯構成 ⑥妹・弟

保護者全体は、「いない」が37.0%で最も多く、次いで「1人」が36.0%、「2人」が8.8%、「3人」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が37.5%で最も多く、次いで「1人」が36.0%、「2人」が8.9%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が36.3%で最も多く、次いで「1人」が36.0%、「2人」が8.8%、「3人」が1.2%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



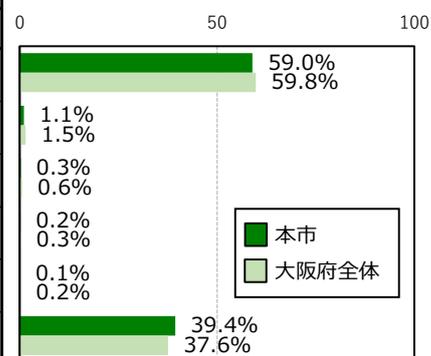
世帯の状況について

問2 世帯構成 ⑦その他

保護者全体は、「いない」が59.0%で最も多く、次いで「1人」が1.1%となっている。
 小学生の保護者は、「いない」が59.1%で最も多くなっている。
 中学生の保護者は、「いない」が58.9%で最も多く、次いで「1人」が1.3%となっている。

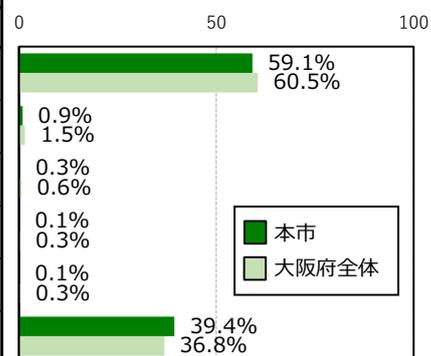
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	2,735名	100.0%	43,300名	100.0%
いない	1,614名	59.0%	25,890名	59.8%
1人	29名	1.1%	628名	1.5%
2人	7名	0.3%	261名	0.6%
3人	5名	0.2%	133名	0.3%
4人以上	3名	0.1%	98名	0.2%
無回答	1,077名	39.4%	16,290名	37.6%



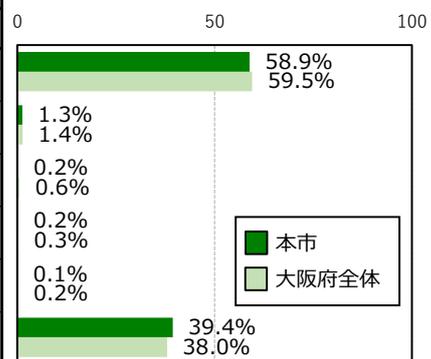
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,457名	100.0%	22,786名	100.0%
いない	861名	59.1%	13,780名	60.5%
1人	13名	0.9%	347名	1.5%
2人	5名	0.3%	139名	0.6%
3人	2名	0.1%	73名	0.3%
4人以上	2名	0.1%	59名	0.3%
無回答	574名	39.4%	8,388名	36.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,278名	100.0%	19,365名	100.0%
いない	753名	58.9%	11,529名	59.5%
1人	16名	1.3%	275名	1.4%
2人	2名	0.2%	119名	0.6%
3人	3名	0.2%	55名	0.3%
4人以上	1名	0.1%	36名	0.2%
無回答	503名	39.4%	7,351名	38.0%



世帯の状況について

問2 世帯構成 <世帯員の続柄>

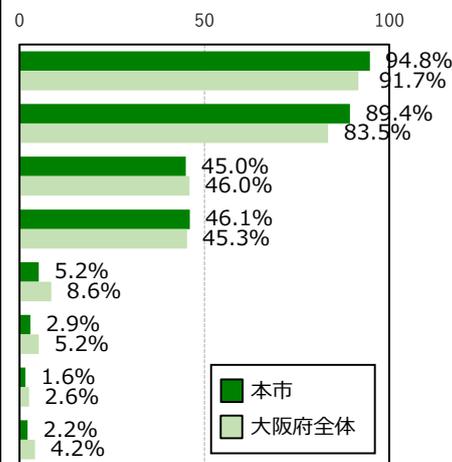
保護者全体は、「お母さん」が94.8%で最も多く、次いで「お父さん」が89.4%、「妹・弟」が46.1%、「姉・兄」が45.0%となっている。

小学生の保護者は、「お母さん」が95.4%で最も多く、次いで「お父さん」が90.3%、「妹・弟」が46.1%、「姉・兄」が44.5%となっている。

中学生の保護者は、「お母さん」が94.1%で最も多く、次いで「お父さん」が88.5%、「妹・弟」が46.2%、「姉・兄」が45.5%となっている。

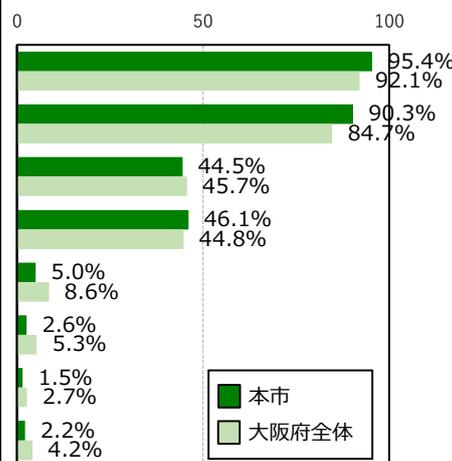
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	2,592名	94.8%	39,706名	91.7%
お父さん	2,446名	89.4%	36,166名	83.5%
姉・兄	1,231名	45.0%	19,908名	46.0%
妹・弟	1,261名	46.1%	19,604名	45.3%
おばあさん	143名	5.2%	3,736名	8.6%
おじいさん	79名	2.9%	2,272名	5.2%
その他	44名	1.6%	1,120名	2.6%
無回答	61名	2.2%	1,839名	4.2%



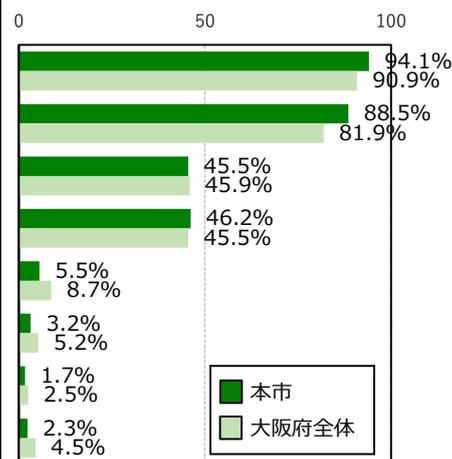
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	1,390名	95.4%	20,990名	92.1%
お父さん	1,315名	90.3%	19,301名	84.7%
姉・兄	649名	44.5%	10,411名	45.7%
妹・弟	671名	46.1%	10,217名	44.8%
おばあさん	73名	5.0%	1,967名	8.6%
おじいさん	38名	2.6%	1,217名	5.3%
その他	22名	1.5%	618名	2.7%
無回答	32名	2.2%	953名	4.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
お母さん	1,202名	94.1%	17,597名	90.9%
お父さん	1,131名	88.5%	15,852名	81.9%
姉・兄	582名	45.5%	8,898名	45.9%
妹・弟	590名	46.2%	8,818名	45.5%
おばあさん	70名	5.5%	1,679名	8.7%
おじいさん	41名	3.2%	1,001名	5.2%
その他	22名	1.7%	485名	2.5%
無回答	29名	2.3%	876名	4.5%



世帯の状況について

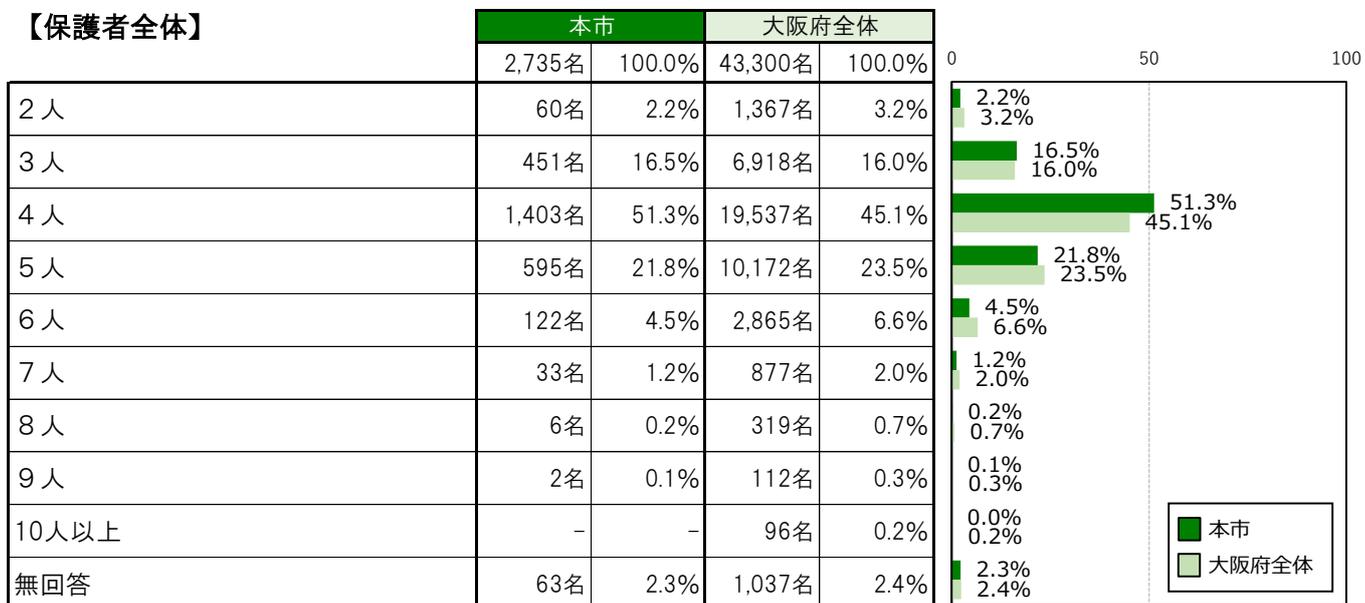
問2 世帯構成 ③世帯人数

保護者全体は、「4人」が51.3%で最も多く、次いで「5人」が21.8%、「3人」が16.5%、「6人」が4.5%となっている。

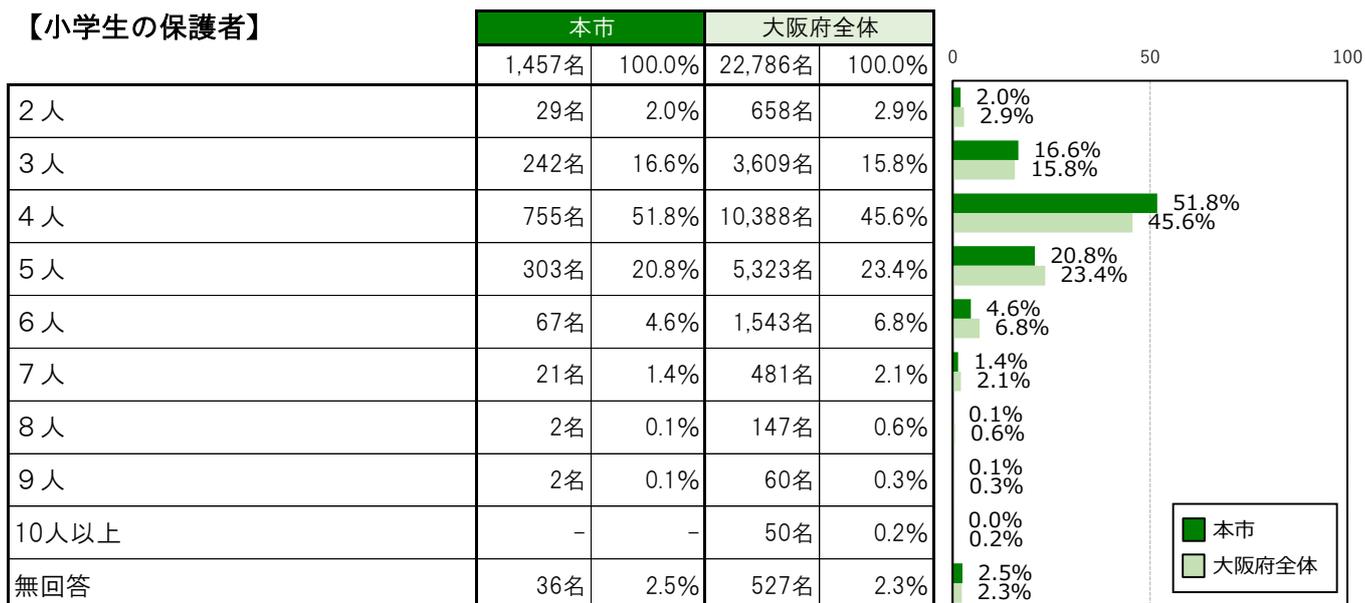
小学生の保護者は、「4人」が51.8%で最も多く、次いで「5人」が20.8%、「3人」が16.6%、「6人」が4.6%となっている。

中学生の保護者は、「4人」が50.7%で最も多く、次いで「5人」が22.8%、「3人」が16.4%、「6人」が4.3%となっている。

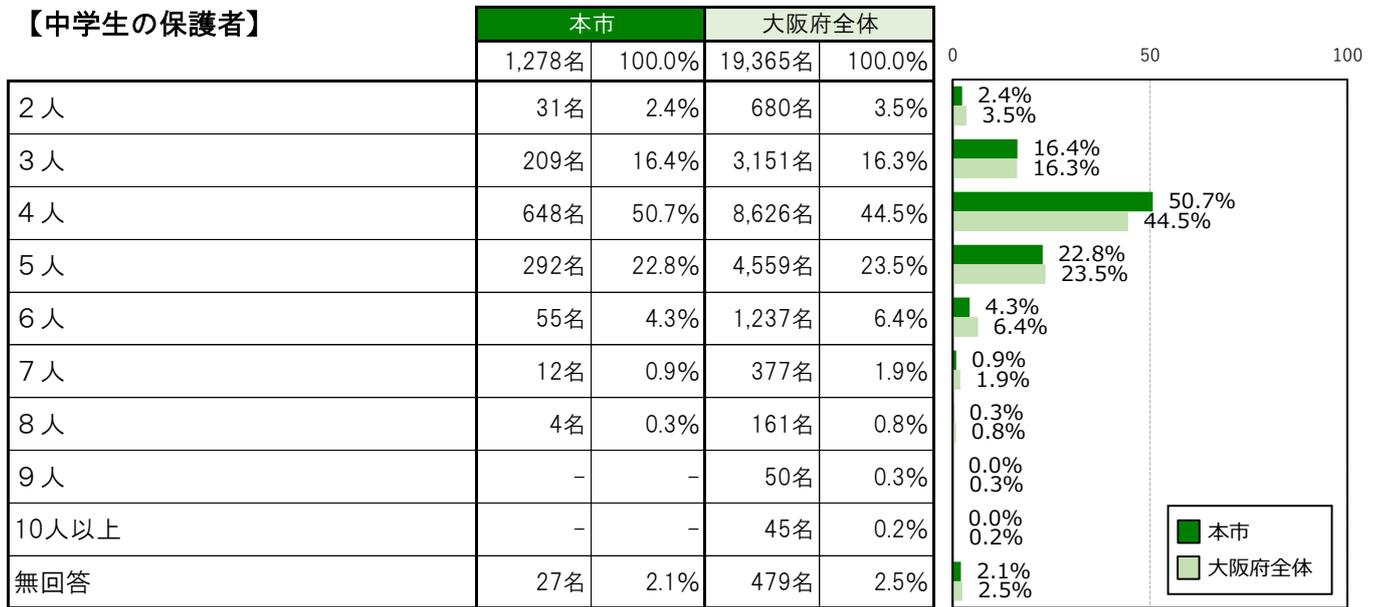
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問3 親の婚姻状況

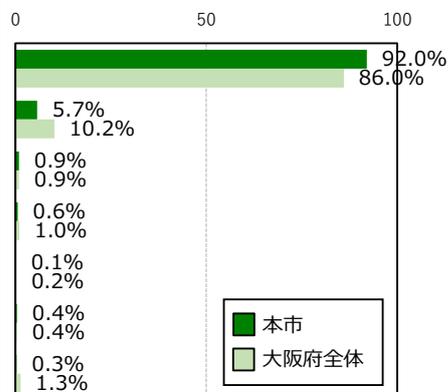
保護者全体は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が92.0%で最も多く、次いで「離婚」が5.7%となっている。

小学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が93.6%で最も多く、次いで「離婚」が4.3%となっている。

中学生の保護者は、「結婚している（再婚や事実婚を含む。）」が90.1%で最も多く、次いで「離婚」が7.2%、「死別」が1.3%となっている。

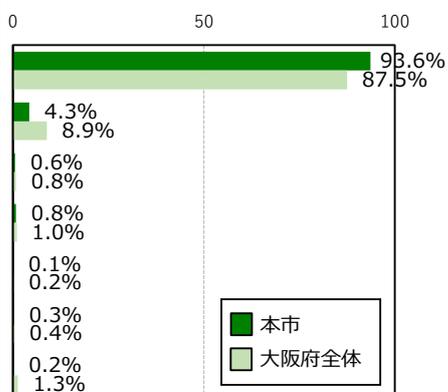
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	2,515名	92.0%	37,253名	86.0%
離婚	155名	5.7%	4,407名	10.2%
死別	25名	0.9%	400名	0.9%
未婚	16名	0.6%	412名	1.0%
わからない	4名	0.1%	77名	0.2%
いない	11名	0.4%	177名	0.4%
無回答	9名	0.3%	574名	1.3%



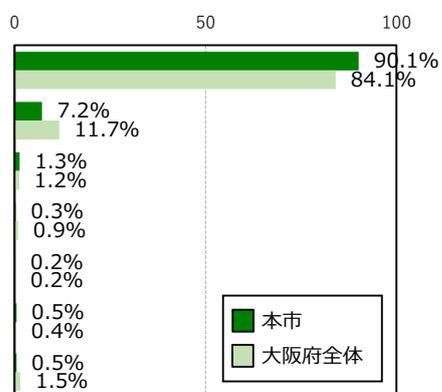
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	1,364名	93.6%	19,949名	87.5%
離婚	63名	4.3%	2,030名	8.9%
死別	9名	0.6%	172名	0.8%
未婚	12名	0.8%	224名	1.0%
わからない	2名	0.1%	39名	0.2%
いない	4名	0.3%	84名	0.4%
無回答	3名	0.2%	288名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
結婚している（再婚や事実婚を含む。）	1,151名	90.1%	16,290名	84.1%
離婚	92名	7.2%	2,273名	11.7%
死別	16名	1.3%	223名	1.2%
未婚	4名	0.3%	181名	0.9%
わからない	2名	0.2%	34名	0.2%
いない	7名	0.5%	82名	0.4%
無回答	6名	0.5%	282名	1.5%



世帯の状況について

問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り

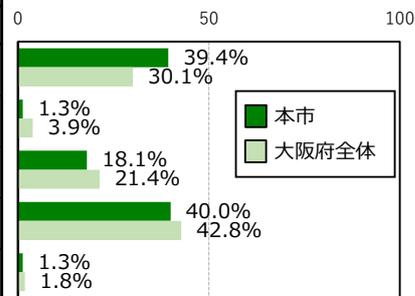
保護者全体は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が40.0%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が39.4%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が18.1%となっている。

小学生の保護者は、「取り決めをしており、受け取っている」が42.9%で最も多く、次いで「取り決めをしておらず、受け取っていない」が41.3%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が14.3%となっている。

中学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が39.1%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が37.0%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が20.7%となっている。

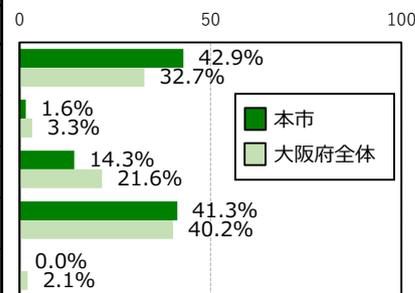
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
取り決めをしており、受け取っている	61名	39.4%	1,325名	30.1%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	2名	1.3%	174名	3.9%
取り決めをしているが、受け取っていない	28名	18.1%	941名	21.4%
取り決めをしておらず、受け取っていない	62名	40.0%	1,888名	42.8%
無回答	2名	1.3%	79名	1.8%



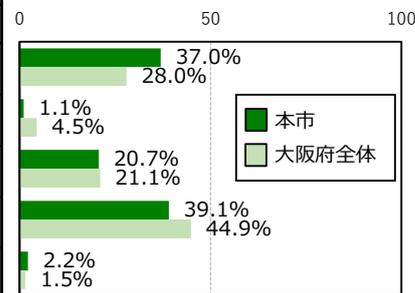
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
取り決めをしており、受け取っている	27名	42.9%	664名	32.7%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	1名	1.6%	68名	3.3%
取り決めをしているが、受け取っていない	9名	14.3%	438名	21.6%
取り決めをしておらず、受け取っていない	26名	41.3%	817名	40.2%
無回答	-	-	43名	2.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
取り決めをしており、受け取っている	34名	37.0%	636名	28.0%
特に取り決めはしていないが、受け取っている	1名	1.1%	103名	4.5%
取り決めをしているが、受け取っていない	19名	20.7%	479名	21.1%
取り決めをしておらず、受け取っていない	36名	39.1%	1,020名	44.9%
無回答	2名	2.2%	35名	1.5%



世帯の状況について

問5 住居形態

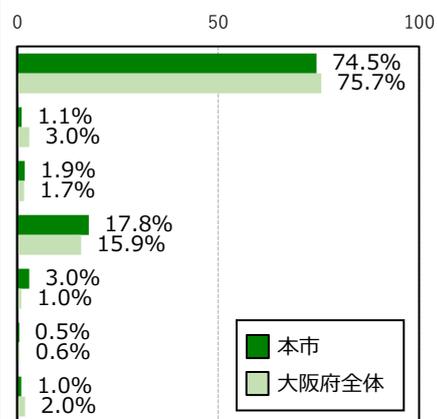
保護者全体は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が74.5%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が17.8%、「官舎・社宅」が3.0%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が1.9%となっている。

小学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が73.8%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が19.1%、「官舎・社宅」が3.2%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が1.6%となっている。

中学生の保護者は、「持ち家（親・きょうだいの名義を含む）」が75.4%で最も多く、次いで「民間の賃貸住宅」が16.4%、「官舎・社宅」が2.9%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」が2.3%となっている。

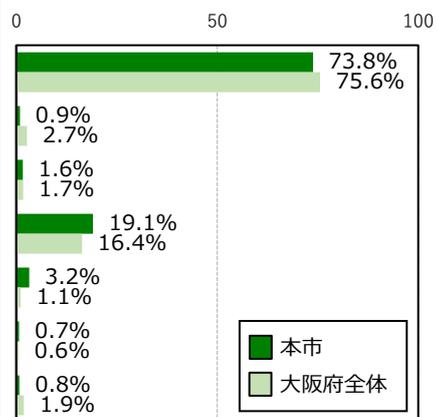
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	2,038名	74.5%	32,784名	75.7%
府営・市営の住宅	31名	1.1%	1,316名	3.0%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	53名	1.9%	752名	1.7%
民間の賃貸住宅	488名	17.8%	6,890名	15.9%
官舎・社宅	83名	3.0%	438名	1.0%
その他	14名	0.5%	257名	0.6%
無回答	28名	1.0%	863名	2.0%



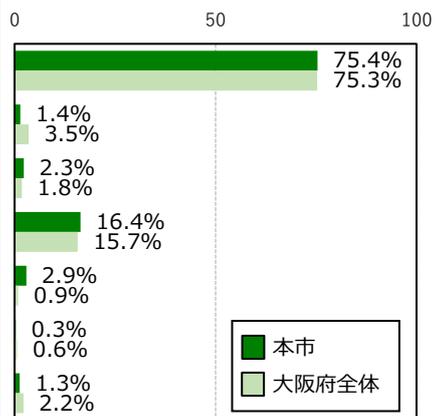
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	1,075名	73.8%	17,221名	75.6%
府営・市営の住宅	13名	0.9%	620名	2.7%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	24名	1.6%	386名	1.7%
民間の賃貸住宅	278名	19.1%	3,738名	16.4%
官舎・社宅	46名	3.2%	255名	1.1%
その他	10名	0.7%	129名	0.6%
無回答	11名	0.8%	437名	1.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	963名	75.4%	14,585名	75.3%
府営・市営の住宅	18名	1.4%	676名	3.5%
UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	29名	2.3%	356名	1.8%
民間の賃貸住宅	210名	16.4%	3,036名	15.7%
官舎・社宅	37名	2.9%	171名	0.9%
その他	4名	0.3%	121名	0.6%
無回答	17名	1.3%	420名	2.2%



世帯の状況について

問6(1) 家計の状況

保護者全体は、「貯蓄ができています」が54.1%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が23.2%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄ができています」が56.5%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が21.1%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄ができています」が51.4%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が25.5%となっている。

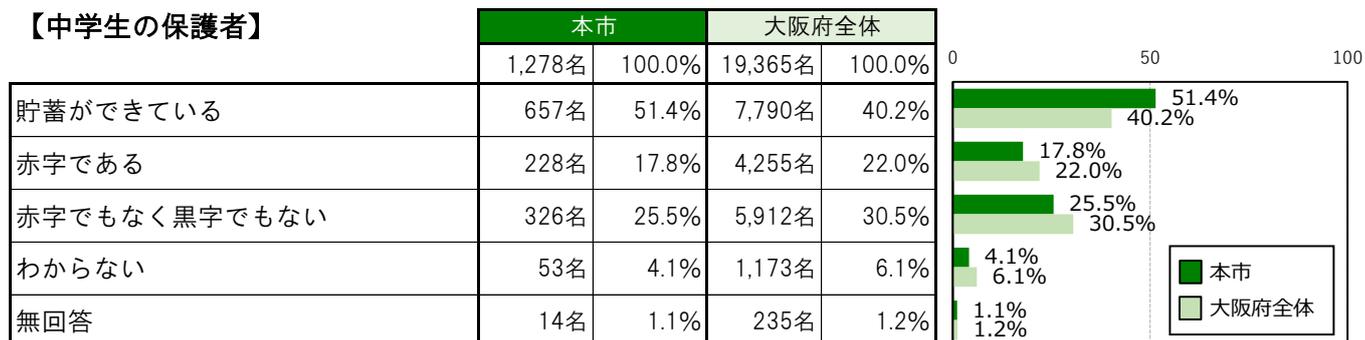
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問6(2) 子どもの将来のための貯蓄状況

保護者全体は、「貯蓄をしている」が73.8%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が24.7%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄をしている」が74.9%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が23.9%となっている。

中学生の保護者は、「貯蓄をしている」が72.6%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が25.6%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

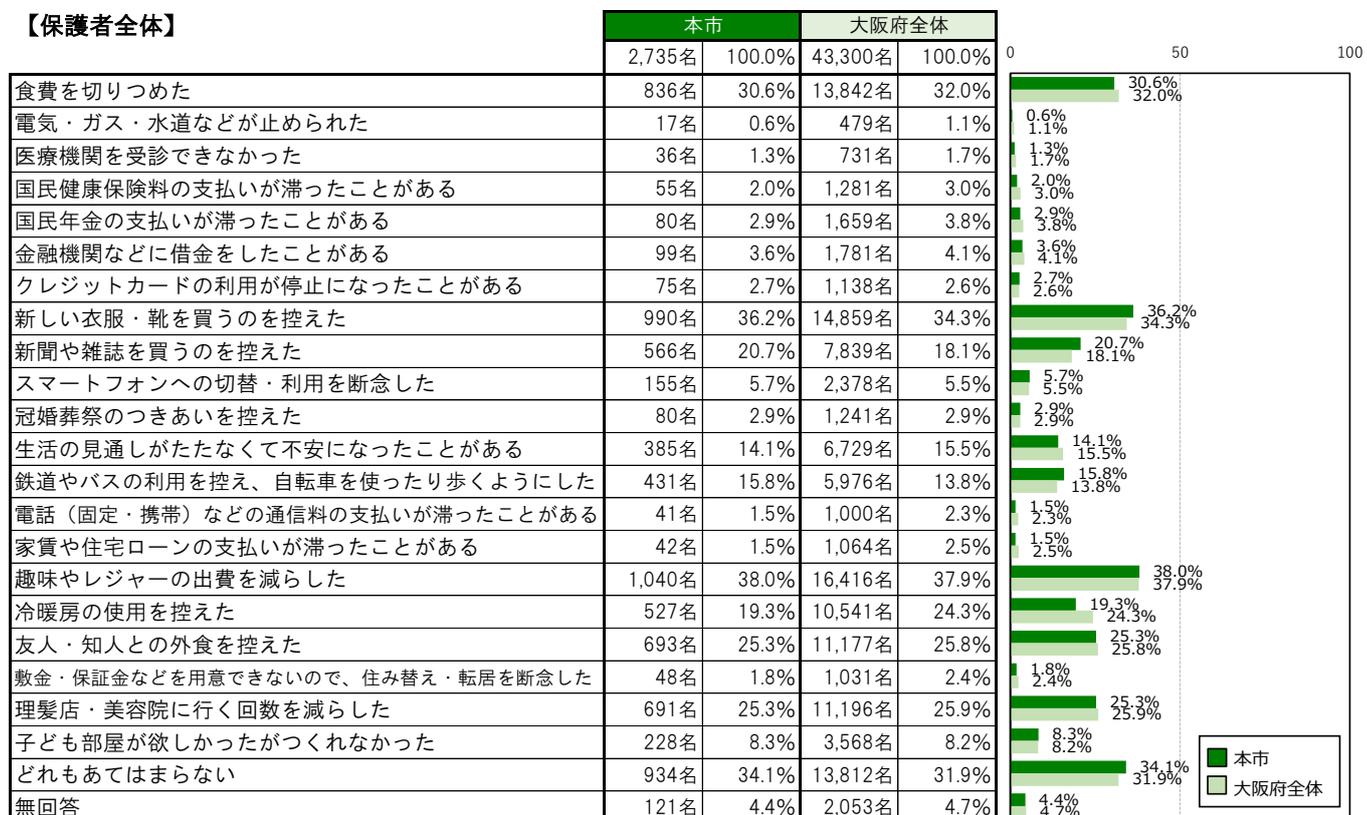
問7 経済的な理由による経験

保護者全体は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が38.0%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が36.2%、「どれもあてはまらない」が34.1%、「食費を切りつめた」が30.6%となっている。

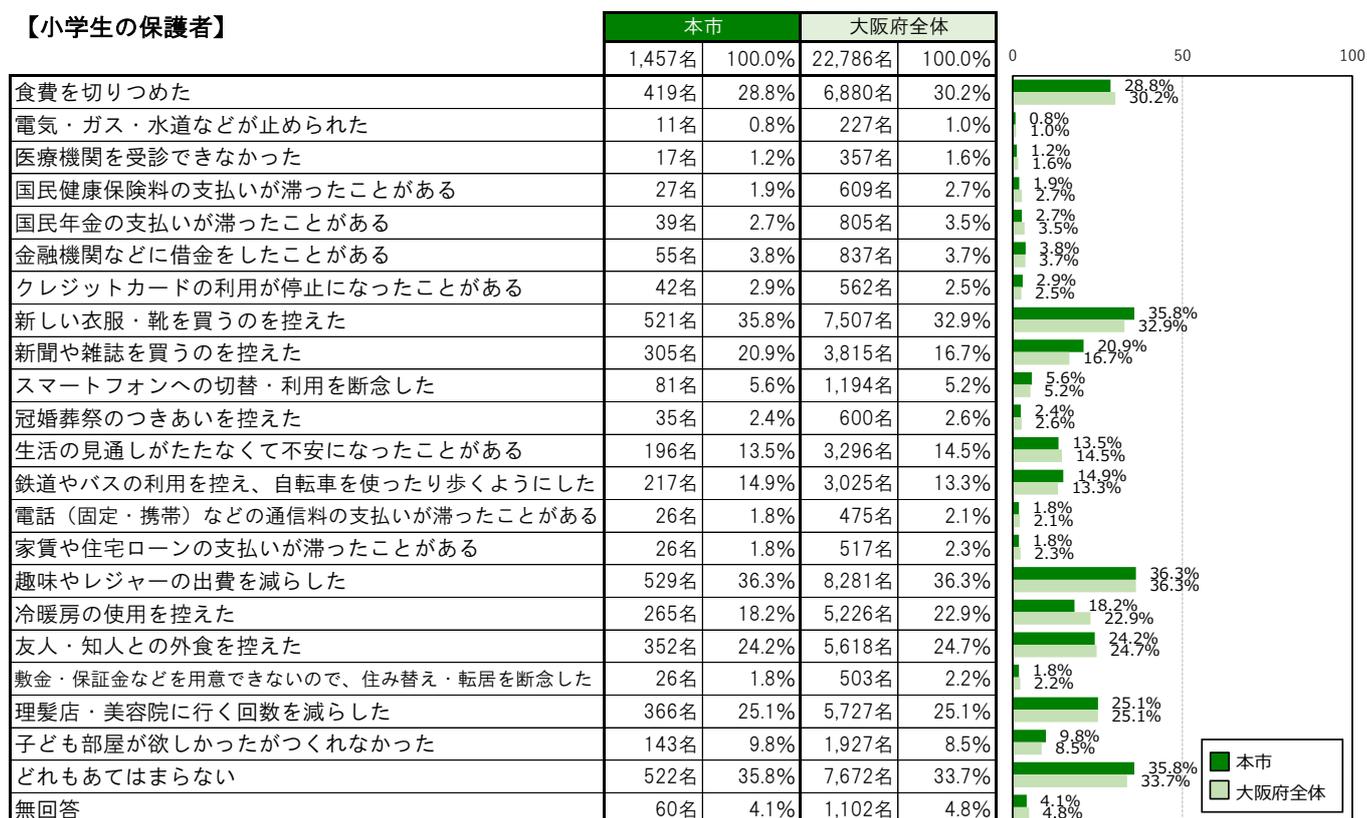
小学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が36.3%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」、「どれもあてはまらない」がそれぞれ35.8%、「食費を切りつめた」が28.8%となっている。

中学生の保護者は、「趣味やレジャーの出費を減らした」が40.0%で最も多く、次いで「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が36.7%、「食費を切りつめた」が32.6%、「どれもあてはまらない」が32.2%となっている。

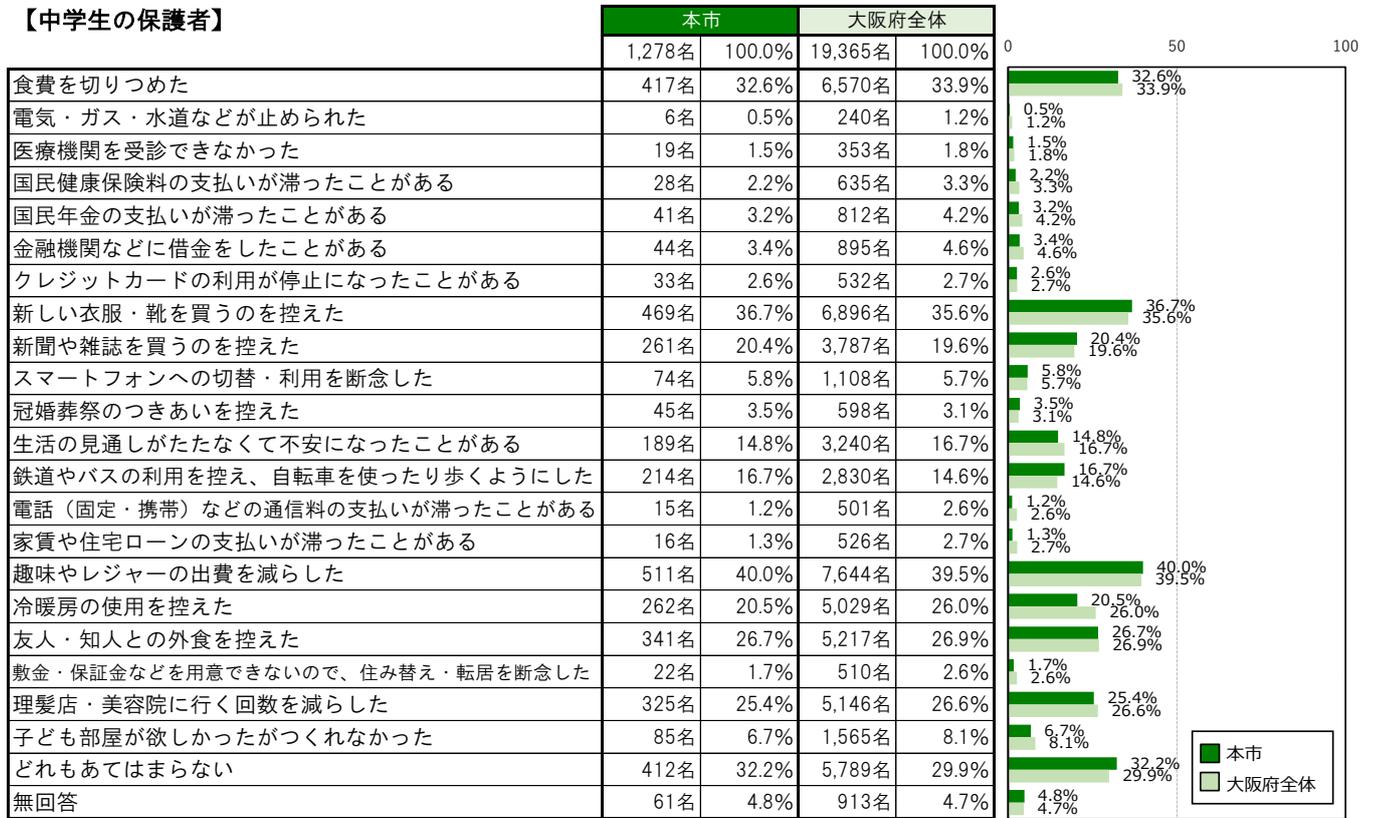
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



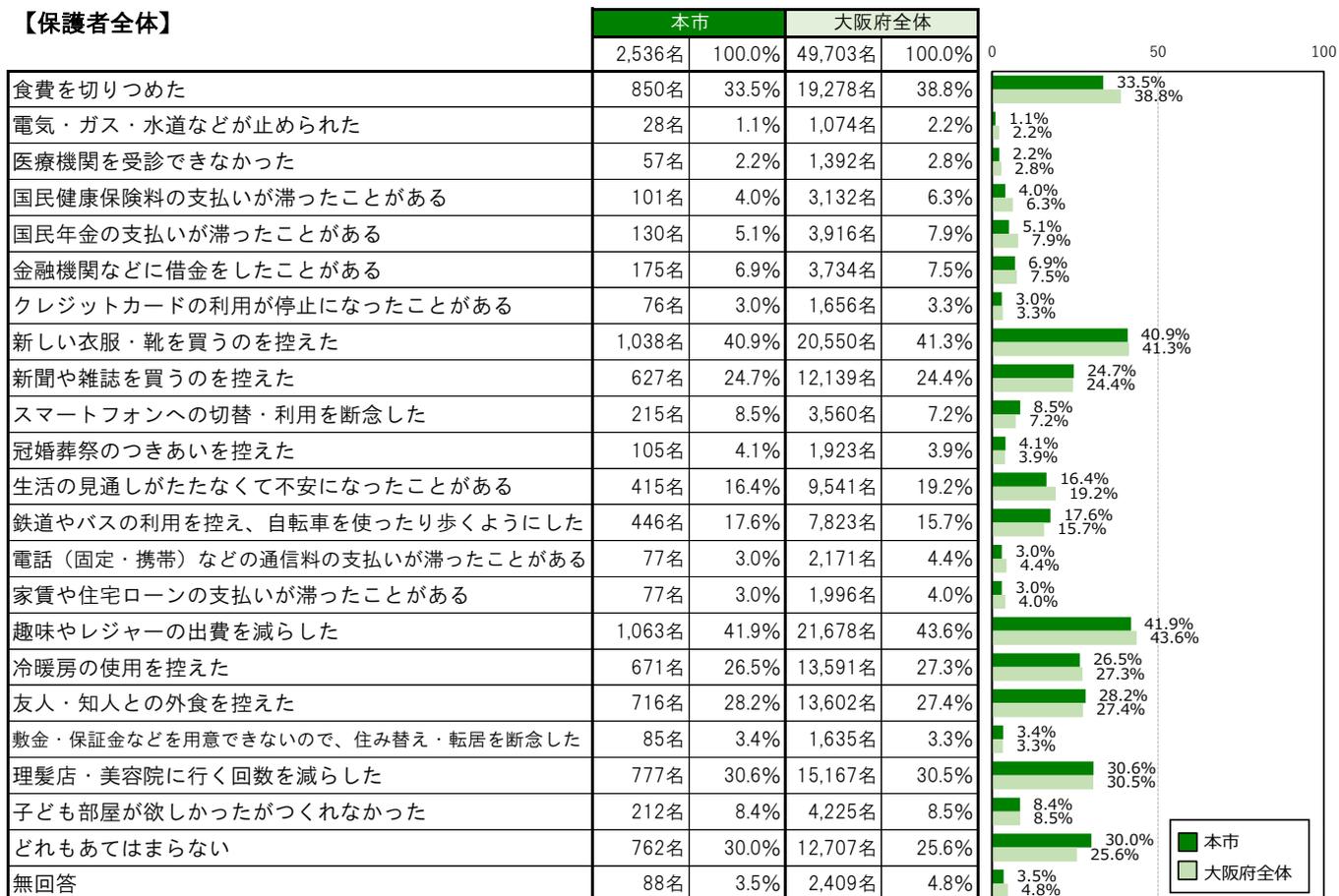
●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「冷暖房の使用を抑えた」が7.2ポイント、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が5.3ポイント、それぞれ低くなっている。

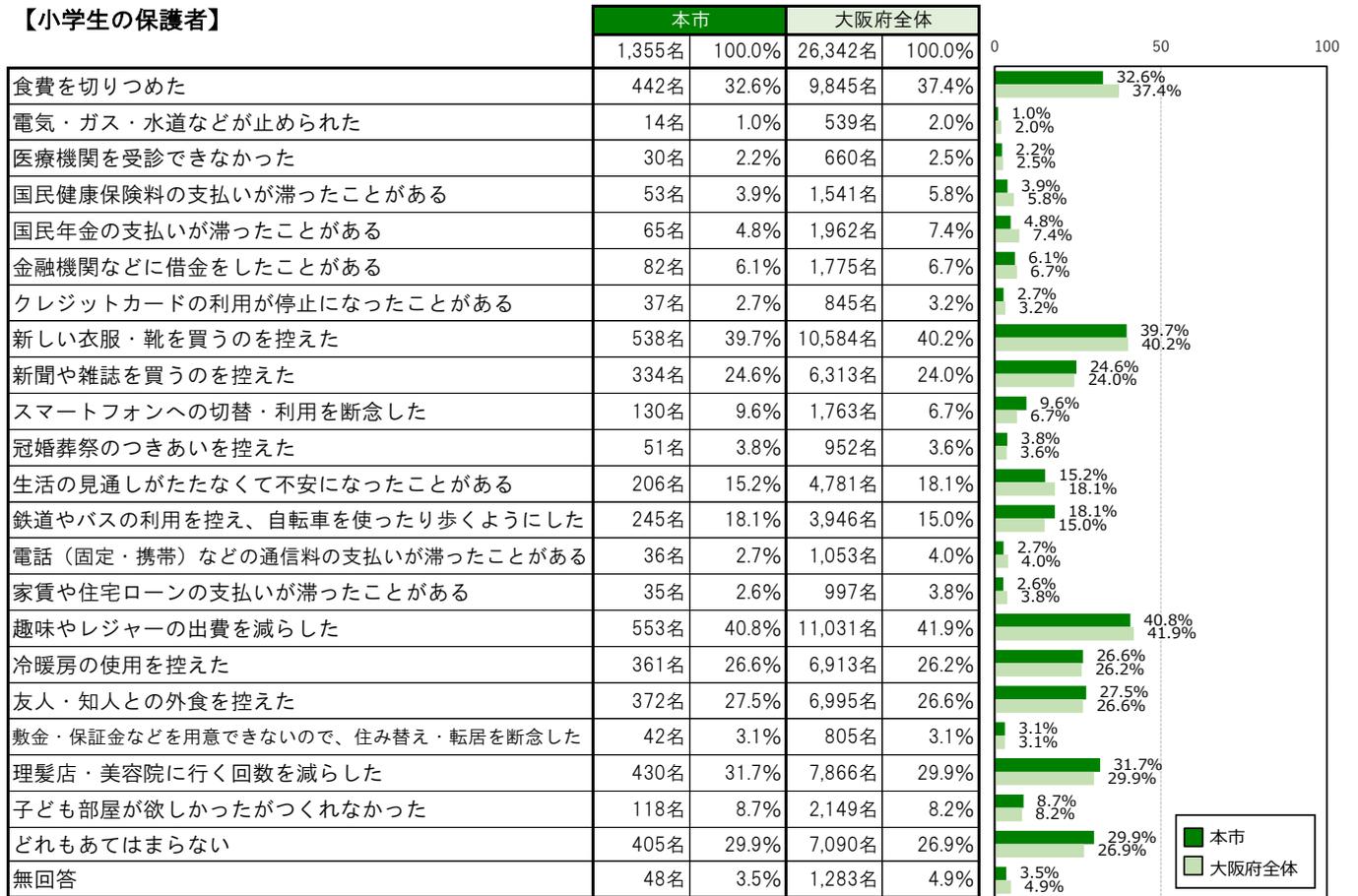
小学生の保護者は、「冷暖房の使用を抑えた」が8.4ポイント、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が6.6ポイント、それぞれ低くなっている。

中学生の保護者は、「冷暖房の使用を抑えた」が5.7ポイント、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が5.6ポイント、それぞれ低くなっている。

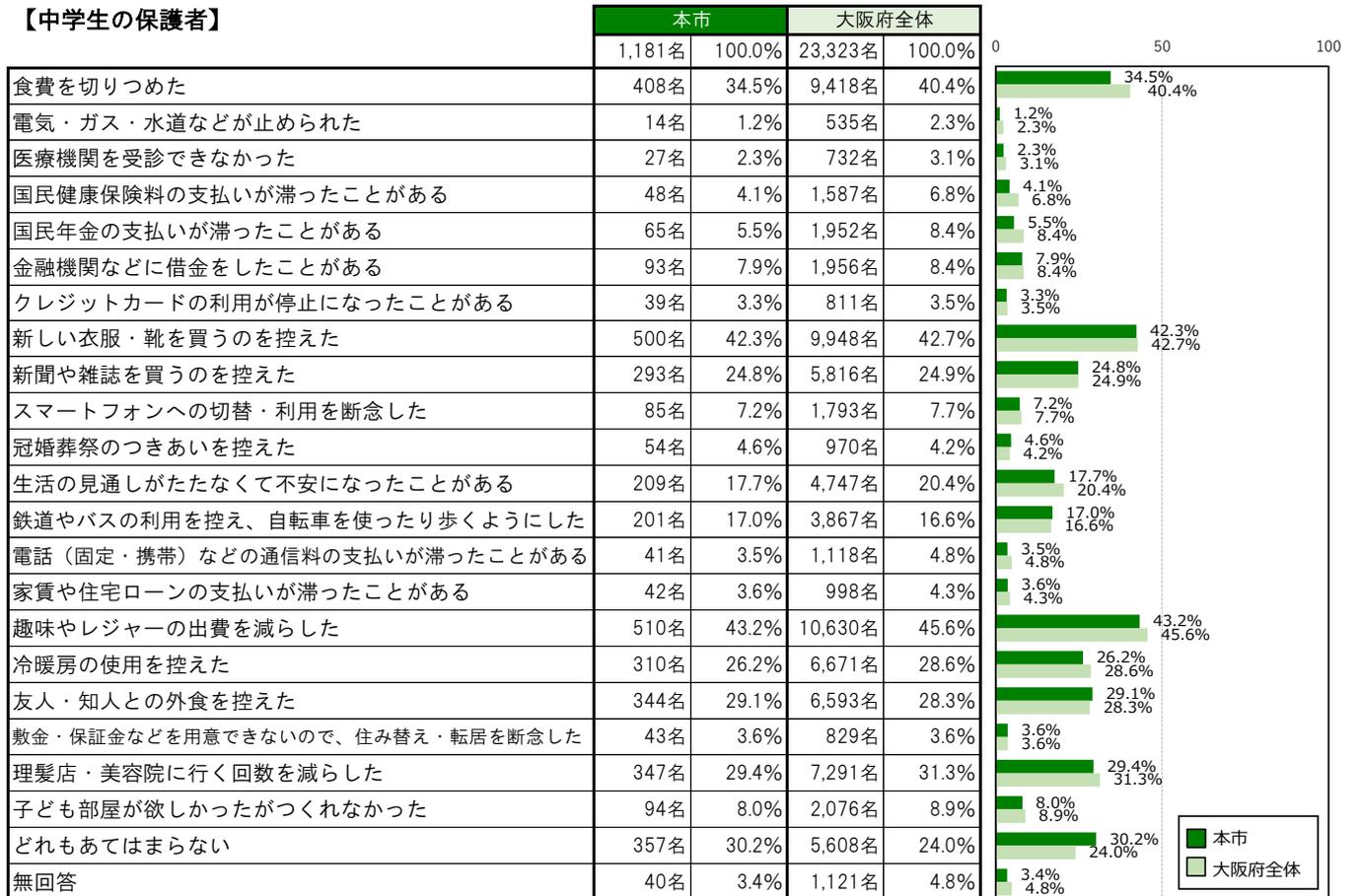
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問7 経済的な理由による経験（はく奪指標）

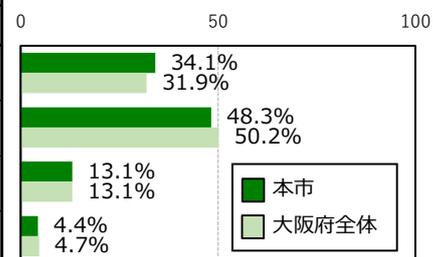
保護者全体は、「1～6個に該当」が48.3%で最も多く、次いで「該当なし」が34.1%、「7個以上に該当」が13.1%となっている。

小学生の保護者は、「1～6個に該当」が47.1%で最も多く、次いで「該当なし」が35.8%、「7個以上に該当」が13.0%となっている。

中学生の保護者は、「1～6個に該当」が49.7%で最も多く、次いで「該当なし」が32.2%、「7個以上に該当」が13.3%となっている。

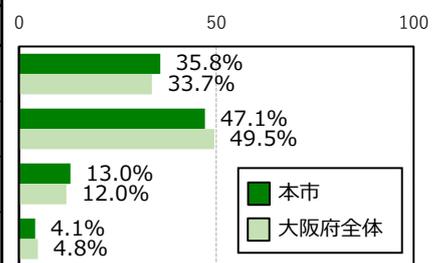
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
該当なし	934名	34.1%	13,812名	31.9%
1～6個に該当	1,321名	48.3%	21,747名	50.2%
7個以上に該当	359名	13.1%	5,688名	13.1%
無回答	121名	4.4%	2,053名	4.7%



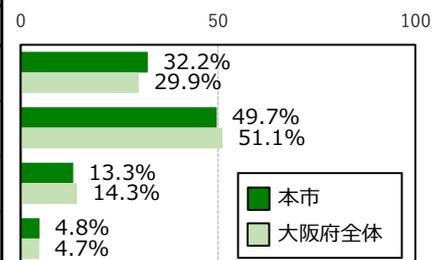
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
該当なし	522名	35.8%	7,672名	33.7%
1～6個に該当	686名	47.1%	11,270名	49.5%
7個以上に該当	189名	13.0%	2,742名	12.0%
無回答	60名	4.1%	1,102名	4.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
該当なし	412名	32.2%	5,789名	29.9%
1～6個に該当	635名	49.7%	9,888名	51.1%
7個以上に該当	170名	13.3%	2,775名	14.3%
無回答	61名	4.8%	913名	4.7%



●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「該当なし」が3.9ポイント高くなっている。
 小学生の保護者は、「該当なし」が5.9ポイント高くなっている。
 中学生の保護者は、「7個以上に該当」が3.8ポイント低くなっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問8 お母さんの最終学歴

保護者全体は、「大学卒業」が40.5%で最も多く、次いで「高専、短大、専門学校等卒業」が36.1%、「高等学校卒業」が13.4%、「大学院修了」が4.5%となっている。
 小学生の保護者は、「大学卒業」が43.3%で最も多く、次いで「高専、短大、専門学校等卒業」が34.0%、「高等学校卒業」が13.0%、「大学院修了」が4.7%となっている。
 中学生の保護者は、「高専、短大、専門学校等卒業」が38.3%で最も多く、次いで「大学卒業」が37.4%、「高等学校卒業」が13.8%、「大学院修了」が4.2%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

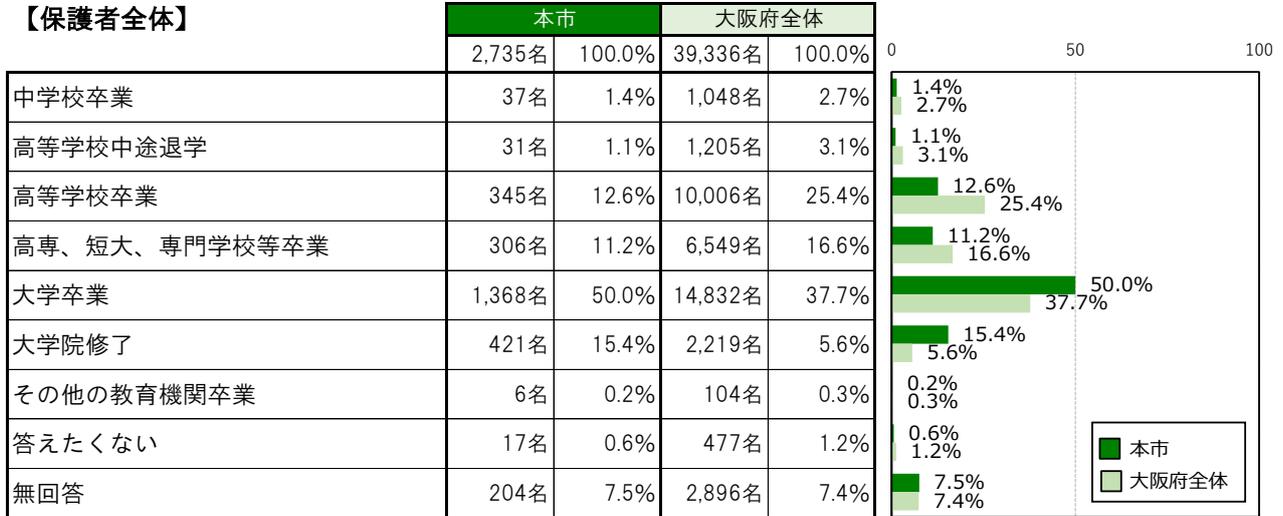
問8 お父さんの最終学歴

保護者全体は、「大学卒業」が50.0%で最も多く、次いで「大学院修了」が15.4%、「高等学校卒業」が12.6%、「高専、短大、専門学校等卒業」が11.2%となっている。

小学生の保護者は、「大学卒業」が48.9%で最も多く、次いで「大学院修了」が17.6%、「高専、短大、専門学校等卒業」が12.1%、「高等学校卒業」が11.7%となっている。

中学生の保護者は、「大学卒業」が51.3%で最も多く、次いで「高等学校卒業」が13.6%、「大学院修了」が12.9%、「高専、短大、専門学校等卒業」が10.2%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



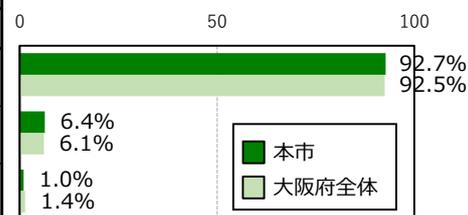
世帯の状況について

問9 お母さんの有無

保護者全体は、「いる」が92.7%、「いない」が6.4%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が93.3%、「いない」が5.8%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が91.9%、「いない」が7.0%となっている。

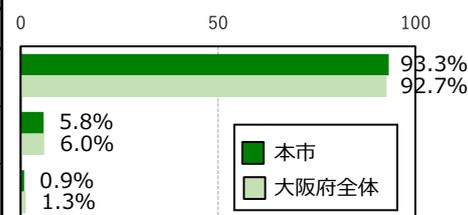
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	2,534名	92.7%	40,053名	92.5%
いない	175名	6.4%	2,634名	6.1%
無回答	26名	1.0%	613名	1.4%



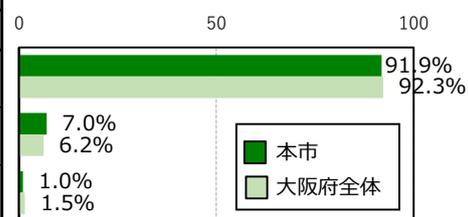
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,359名	93.3%	21,115名	92.7%
いない	85名	5.8%	1,368名	6.0%
無回答	13名	0.9%	303名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,175名	91.9%	17,877名	92.3%
いない	90名	7.0%	1,192名	6.2%
無回答	13名	1.0%	296名	1.5%



世帯の状況について

問9 お母さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が42.3%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が25.5%、「仕事を探していない」が13.9%、「自営業・家業」が6.6%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が40.7%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が25.9%、「仕事を探していない」が15.5%、「自営業・家業」が6.5%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が44.3%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が24.9%、「仕事を探していない」が12.2%、「自営業・家業」が6.6%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



●2016年度 調査結果【参考データ】

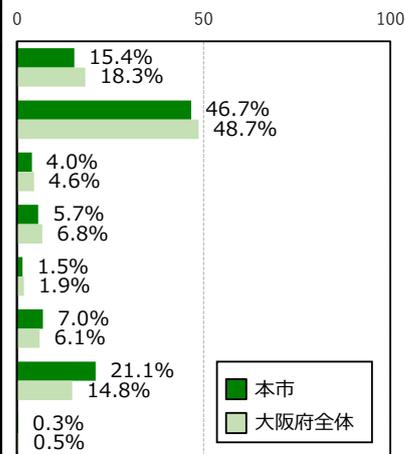
2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」は10.1ポイント高いが、「仕事を探していない」は7.2ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は11.9ポイント高いが、「仕事を探していない」は9.1ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」は7.9ポイント高いが、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」は5.9ポイント低くなっている。

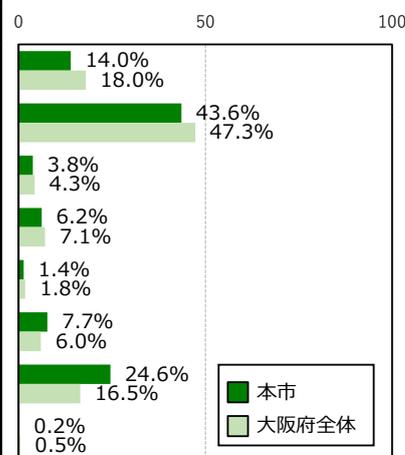
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	2,386名	100.0%	46,466名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	368名	15.4%	8,505名	18.3%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	1,115名	46.7%	22,634名	48.7%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	96名	4.0%	2,138名	4.6%
自営業・家業	135名	5.7%	3,162名	6.8%
その他の就業形態	35名	1.5%	861名	1.9%
仕事を探している	168名	7.0%	2,825名	6.1%
仕事を探していない	504名	21.1%	6,870名	14.8%
無回答	7名	0.3%	220名	0.5%



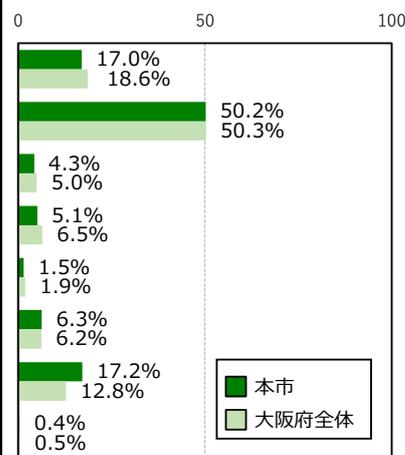
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,267名	100.0%	24,698名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	178名	14.0%	4,449名	18.0%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	553名	43.6%	11,693名	47.3%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	48名	3.8%	1,060名	4.3%
自営業・家業	78名	6.2%	1,742名	7.1%
その他の就業形態	18名	1.4%	446名	1.8%
仕事を探している	98名	7.7%	1,479名	6.0%
仕事を探していない	312名	24.6%	4,084名	16.5%
無回答	3名	0.2%	116名	0.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,119名	100.0%	21,737名	100.0%
勤め（常勤・正規職員）	190名	17.0%	4,053名	18.6%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）	562名	50.2%	10,927名	50.3%
勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）	48名	4.3%	1,076名	5.0%
自営業・家業	57名	5.1%	1,419名	6.5%
その他の就業形態	17名	1.5%	414名	1.9%
仕事を探している	70名	6.3%	1,344名	6.2%
仕事を探していない	192名	17.2%	2,778名	12.8%
無回答	4名	0.4%	104名	0.5%



世帯の状況について

問9 お母さんが仕事を探していない理由

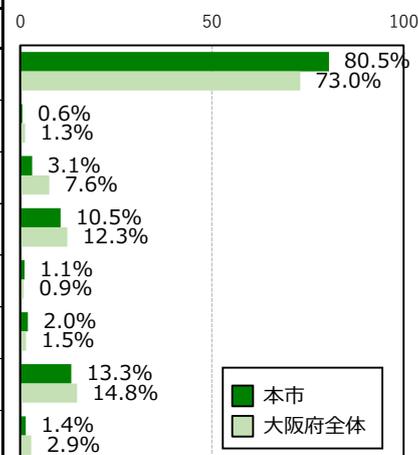
保護者全体は、「家事や育児に専念したいため」が80.5%で最も多く、次いで「病気療養のため」が10.5%、「おうちの人の介護や介助のため」が3.1%となっている。

小学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が83.3%で最も多く、次いで「病気療養のため」が10.0%、「おうちの人の介護や介助のため」が3.3%となっている。

中学生の保護者は、「家事や育児に専念したいため」が76.2%で最も多く、次いで「病気療養のため」が11.2%、「おうちの人の介護や介助のため」が2.8%となっている。

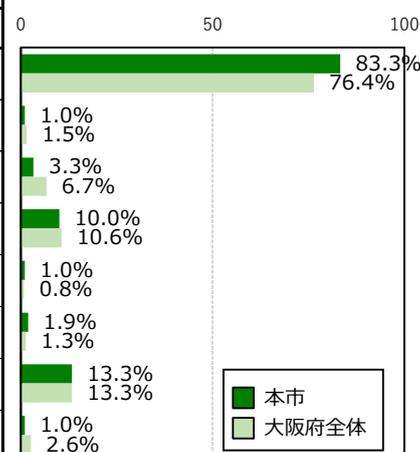
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	353名	100.0%	4,027名	100.0%
家事や育児に専念したいため	284名	80.5%	2,939名	73.0%
学生のため	2名	0.6%	51名	1.3%
おうちの人の介護や介助のため	11名	3.1%	307名	7.6%
病気療養のため	37名	10.5%	496名	12.3%
年金収入があるため	4名	1.1%	35名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	7名	2.0%	62名	1.5%
その他	47名	13.3%	595名	14.8%
無回答	5名	1.4%	115名	2.9%



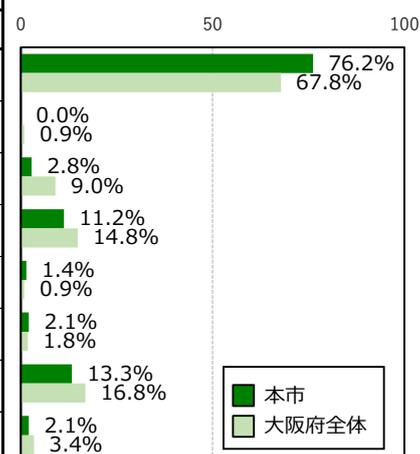
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	210名	100.0%	2,381名	100.0%
家事や育児に専念したいため	175名	83.3%	1,820名	76.4%
学生のため	2名	1.0%	36名	1.5%
おうちの人の介護や介助のため	7名	3.3%	160名	6.7%
病気療養のため	21名	10.0%	252名	10.6%
年金収入があるため	2名	1.0%	20名	0.8%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	4名	1.9%	32名	1.3%
その他	28名	13.3%	317名	13.3%
無回答	2名	1.0%	61名	2.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	143名	100.0%	1,570名	100.0%
家事や育児に専念したいため	109名	76.2%	1,064名	67.8%
学生のため	-	-	14名	0.9%
おうちの人の介護や介助のため	4名	2.8%	141名	9.0%
病気療養のため	16名	11.2%	232名	14.8%
年金収入があるため	2名	1.4%	14名	0.9%
家賃収入、株式運用などの収入があるため	3名	2.1%	29名	1.8%
その他	19名	13.3%	263名	16.8%
無回答	3名	2.1%	54名	3.4%



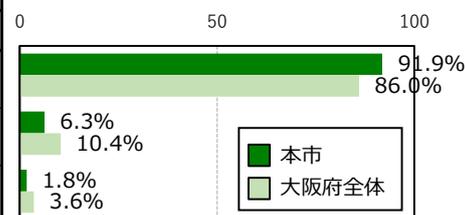
世帯の状況について

問9 お父さんの有無

保護者全体は、「いる」が91.9%、「いない」が6.3%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が92.7%、「いない」が5.8%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が90.9%、「いない」が7.0%となっている。

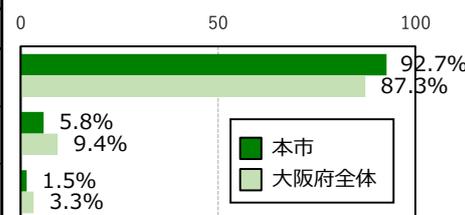
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	2,513名	91.9%	37,256名	86.0%
いない	173名	6.3%	4,504名	10.4%
無回答	49名	1.8%	1,540名	3.6%



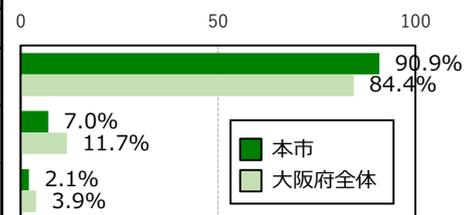
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,351名	92.7%	19,882名	87.3%
いない	84名	5.8%	2,149名	9.4%
無回答	22名	1.5%	755名	3.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,162名	90.9%	16,352名	84.4%
いない	89名	7.0%	2,261名	11.7%
無回答	27名	2.1%	752名	3.9%



世帯の状況について

問9 お父さんの就業状況

保護者全体は、「勤め（常勤・正規職員）」が85.8%で最も多く、次いで「自営業・家業」が11.9%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.4%となっている。

小学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が86.5%で最も多く、次いで「自営業・家業」が11.8%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.2%となっている。

中学生の保護者は、「勤め（常勤・正規職員）」が85.0%で最も多く、次いで「自営業・家業」が12.0%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が1.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】

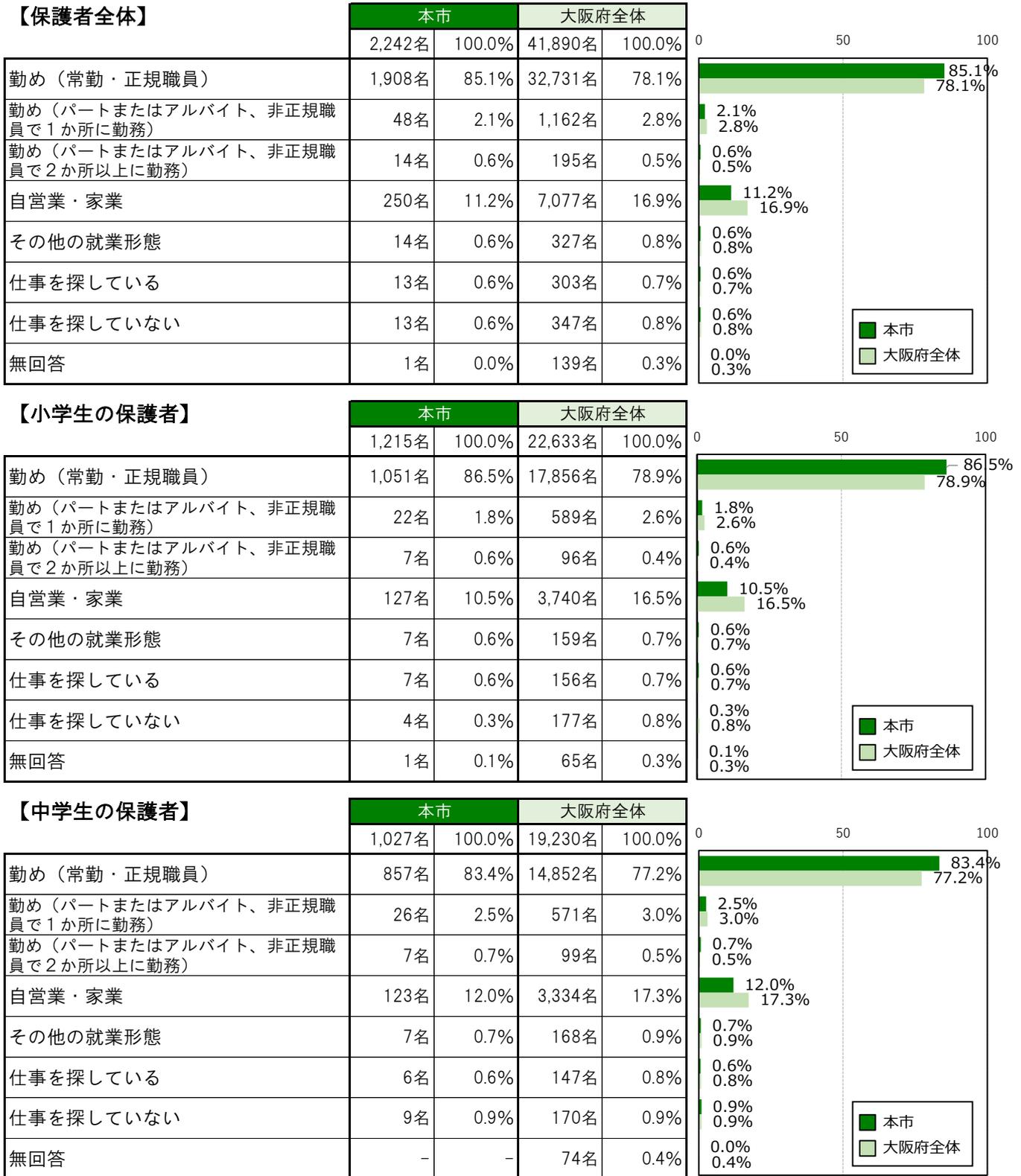


【中学生の保護者】



●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体、小学生の保護者、中学生の保護者のいずれも大きな差は見られない。



世帯の状況について

問9 お父さんが仕事を探していない理由

保護者全体は、「病気療養のため」が50.0%（4名）で最も多く、次いで「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が25.0%（2名）となっている。

小学生の保護者は、「病気療養のため」が66.7%（2名）で最も多く、次いで「家事や育児に専念したいため」が33.3%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「病気療養のため」、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」がそれぞれ40.0%（2名）で最も多く、次いで「年金収入があるため」が20.0%（1名）となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



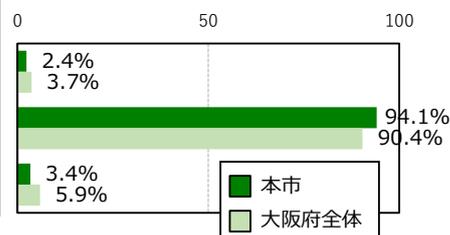
世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の有無

保護者全体は、「いる」が2.4%、「いない」が94.1%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が2.1%、「いない」が95.1%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が2.8%、「いない」が93.1%となっている。

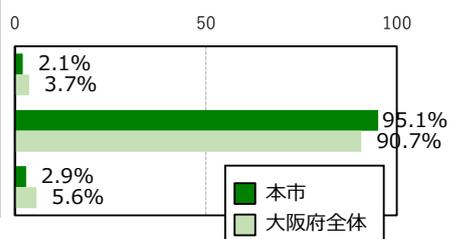
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いる	66名	2.4%	1,611名	3.7%
いない	2,575名	94.1%	39,140名	90.4%
無回答	94名	3.4%	2,549名	5.9%



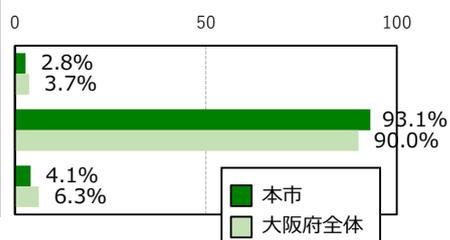
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いる	30名	2.1%	854名	3.7%
いない	1,385名	95.1%	20,666名	90.7%
無回答	42名	2.9%	1,266名	5.6%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
いる	36名	2.8%	718名	3.7%
いない	1,190名	93.1%	17,432名	90.0%
無回答	52名	4.1%	1,215名	6.3%



世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人の就業状況

保護者全体は、「仕事を探していない」が33.3%で最も多く、次いで「自営業・家業」が28.8%、「勤め（常勤・正規職員）」が21.2%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が10.6%となっている。

小学生の保護者は、「自営業・家業」、「仕事を探していない」がそれぞれ33.3%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」が16.7%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が10.0%となっている。

中学生の保護者は、「仕事を探していない」が33.3%で最も多く、次いで「勤め（常勤・正規職員）」、「自営業・家業」がそれぞれ25.0%、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」が11.1%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、母数が少ないため一概には言えないが、保護者全体は、「自営業・家業」は12.1ポイント高く、「仕事を探していない」が11.1ポイント低くなっている。

小学生の保護者は、「勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）」は16.5ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「仕事を探していない」は14.2ポイント低くなっている。



世帯の状況について

問9 親以外に主として家計を支えている人が仕事を探していない理由

保護者全体は、「年金収入があるため」が90.9%（20名）で最も多く、次いで「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が13.6%（3名）、「病気療養のため」が9.1%（2名）となっている。

小学生の保護者は、「年金収入があるため」が80.0%（8名）で最も多く、次いで「おうちの人の介護や介助のため」、「病気療養のため」、「家賃収入、株式運用などの収入があるため」がそれぞれ10.0%（1名）となっている。

中学生の保護者は、「年金収入があるため」が100.0%（12名）で最も多く、次いで「家賃収入、株式運用などの収入があるため」が16.7%（2名）となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



世帯の状況について

問10 保護者が家にいる時間帯

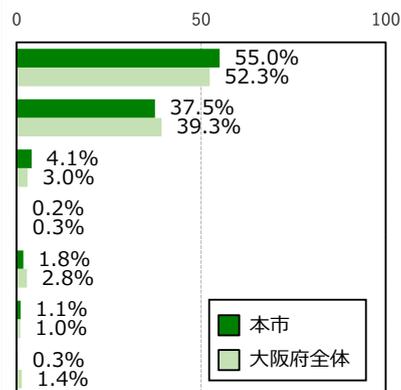
保護者全体は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が55.0%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が37.5%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が4.1%、「帰宅時間が決まっていない」が1.8%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が57.3%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が36.6%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が3.1%、「帰宅時間が決まっていない」が1.8%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」が52.4%で最も多く、次いで「お子さんの夕食時間には家にいる」が38.5%、「お子さんの寝る時間には家にいる」が5.3%、「帰宅時間が決まっていない」が1.7%となっている。

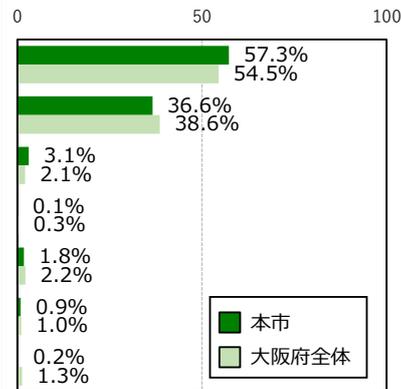
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	2,735名	100.0%	43,300名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	1,505名	55.0%	22,638名	52.3%
お子さんの夕食時間には家にいる	1,025名	37.5%	17,029名	39.3%
お子さんの寝る時間には家にいる	113名	4.1%	1,283名	3.0%
お子さんが寝た後に帰ってくる	5名	0.2%	129名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	48名	1.8%	1,212名	2.8%
その他	30名	1.1%	416名	1.0%
無回答	9名	0.3%	593名	1.4%



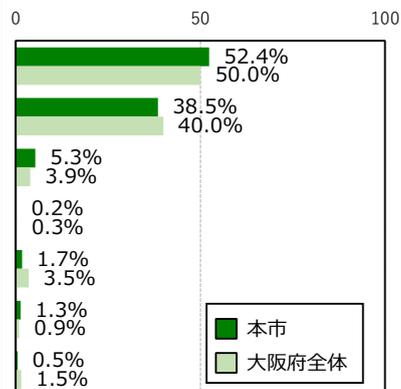
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,457名	100.0%	22,786名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	835名	57.3%	12,408名	54.5%
お子さんの夕食時間には家にいる	533名	36.6%	8,796名	38.6%
お子さんの寝る時間には家にいる	45名	3.1%	489名	2.1%
お子さんが寝た後に帰ってくる	2名	0.1%	66名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	26名	1.8%	505名	2.2%
その他	13名	0.9%	222名	1.0%
無回答	3名	0.2%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,278名	100.0%	19,365名	100.0%
お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	670名	52.4%	9,674名	50.0%
お子さんの夕食時間には家にいる	492名	38.5%	7,739名	40.0%
お子さんの寝る時間には家にいる	68名	5.3%	747名	3.9%
お子さんが寝た後に帰ってくる	3名	0.2%	61名	0.3%
帰宅時間が決まっていない	22名	1.7%	676名	3.5%
その他	17名	1.3%	182名	0.9%
無回答	6名	0.5%	286名	1.5%



世帯の状況について

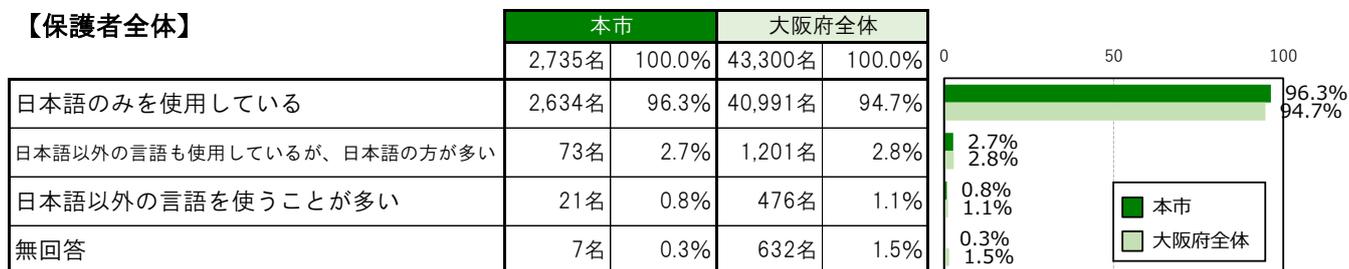
問11 日本語以外の言語の使用状況

保護者全体は、「日本語のみを使用している」が96.3%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.7%となっている。

小学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が96.5%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.5%となっている。

中学生の保護者は、「日本語のみを使用している」が96.1%で最も多く、次いで「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」が2.9%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



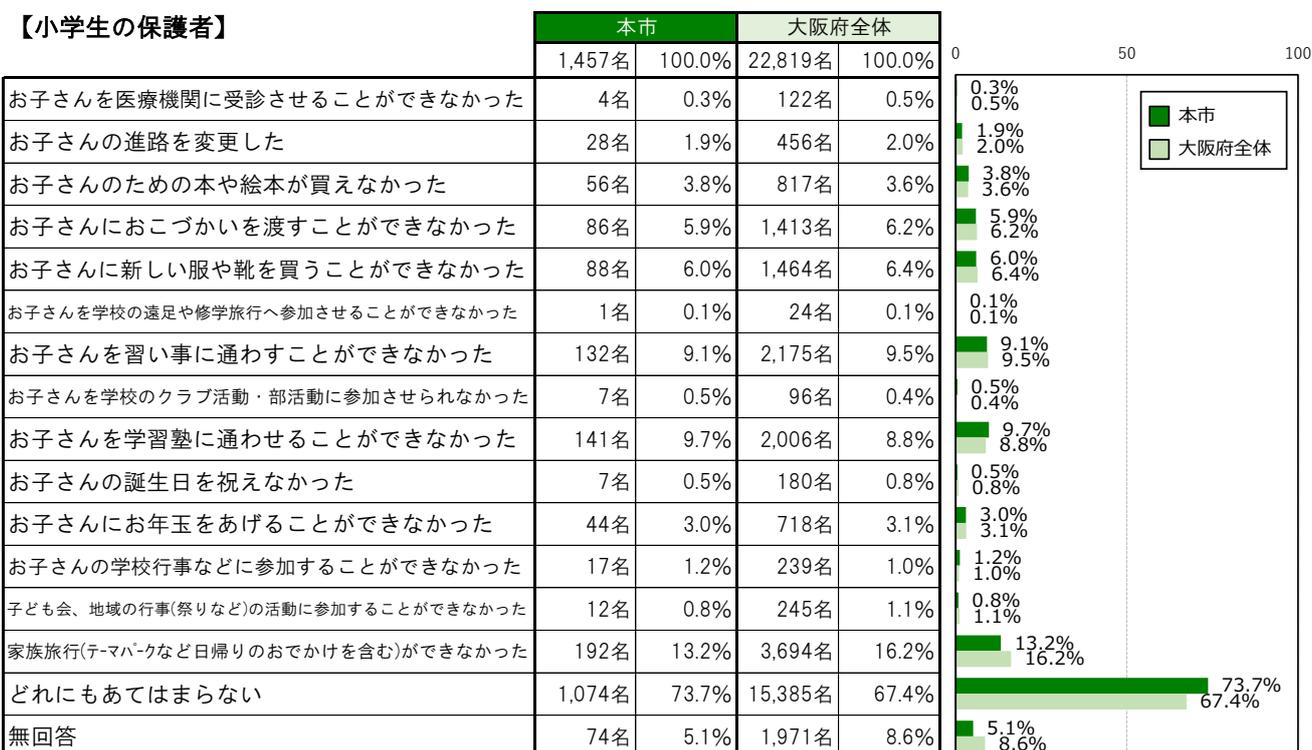
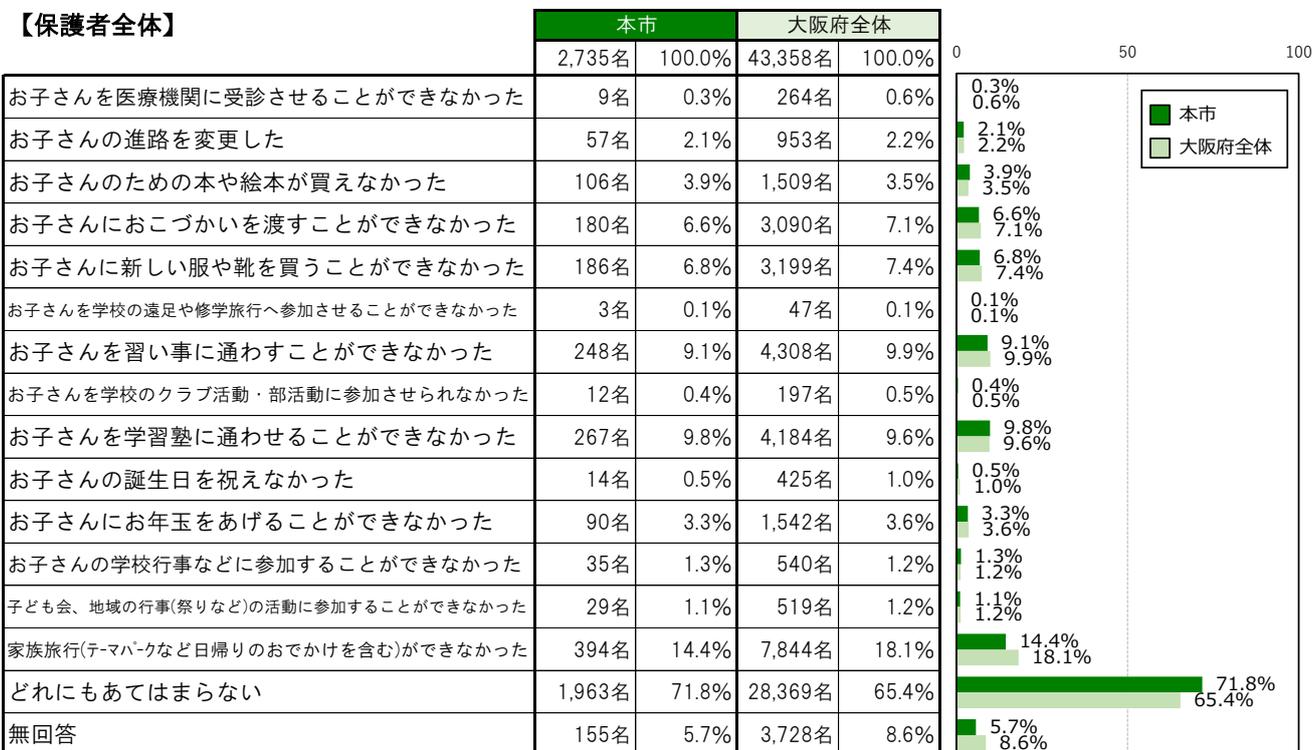
子どもに関することについて

問12 経済的な理由による子どもに関する経験

保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が71.8%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が14.4%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が9.8%となっている。

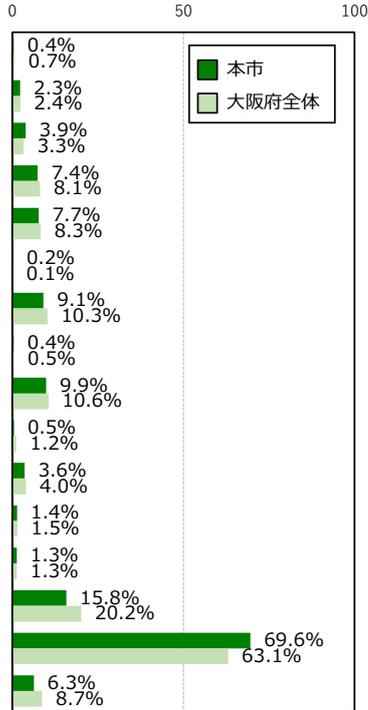
小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が73.7%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が13.2%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が9.7%となっている。

中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が69.6%で最も多く、次いで「家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった」が15.8%、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」が9.9%となっている。



【中学生の保護者】

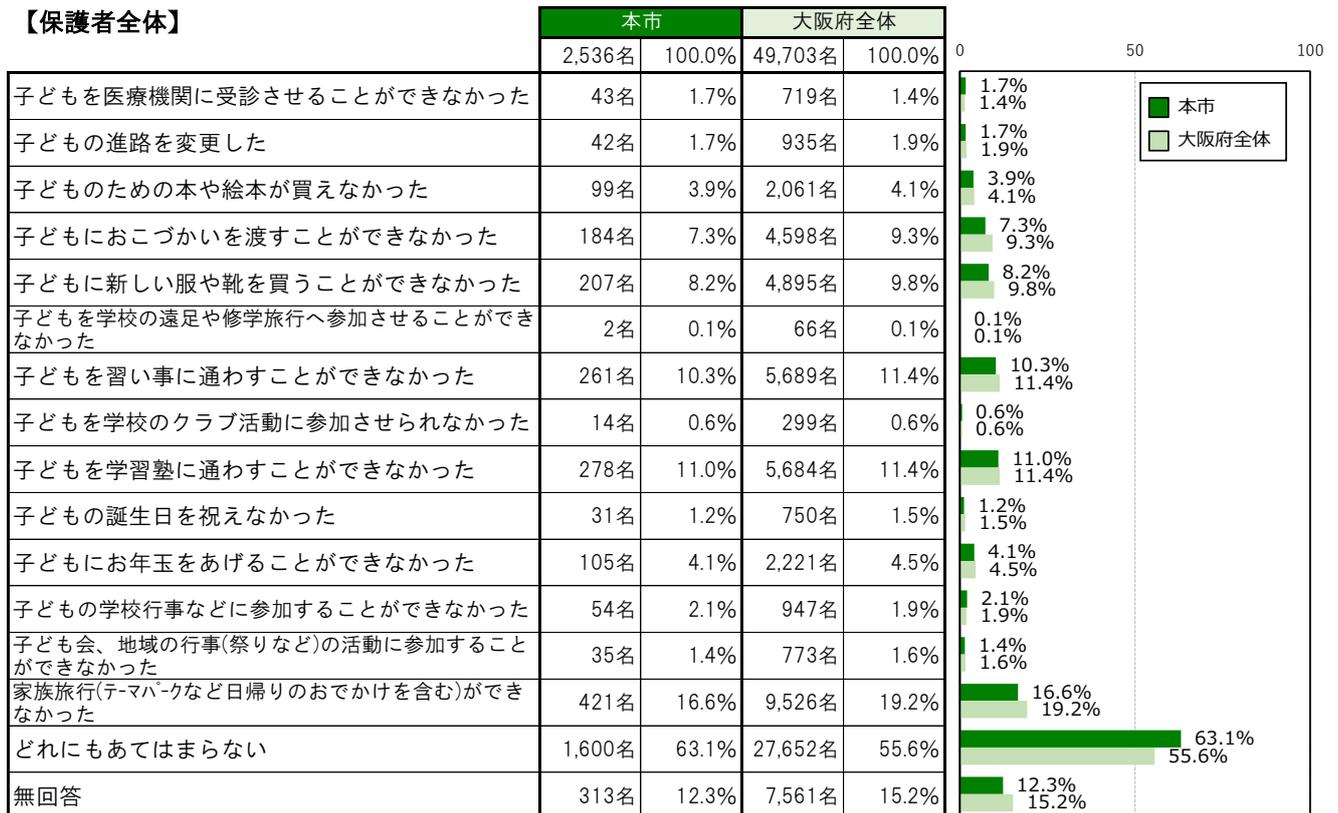
	本市		大阪府全体	
	1,278名	100.0%	19,390名	100.0%
お子さんを医療機関に受診させることができなかった	5名	0.4%	135名	0.7%
お子さんの進路を変更した	29名	2.3%	472名	2.4%
お子さんのための本や絵本が買えなかった	50名	3.9%	636名	3.3%
お子さんにおこづかいを渡すことができなかった	94名	7.4%	1,575名	8.1%
お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった	98名	7.7%	1,608名	8.3%
お子さんを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	2名	0.2%	22名	0.1%
お子さんを習い事に通わすことができなかった	116名	9.1%	1,990名	10.3%
お子さんを学校のクラブ活動・部活動に参加させられなかった	5名	0.4%	96名	0.5%
お子さんを学習塾に通わせることができなかった	126名	9.9%	2,054名	10.6%
お子さんの誕生日を祝えなかった	7名	0.5%	237名	1.2%
お子さんにお年玉をあげることができなかった	46名	3.6%	777名	4.0%
お子さんの学校行事などに参加することができなかった	18名	1.4%	286名	1.5%
子ども会、地域の行事(祭りなど)の活動に参加することができなかった	17名	1.3%	259名	1.3%
家族旅行(テーマパークなど日帰りのおでかけを含む)ができなかった	202名	15.8%	3,926名	20.2%
どれにもあてはまらない	889名	69.6%	12,238名	63.1%
無回答	81名	6.3%	1,685名	8.7%



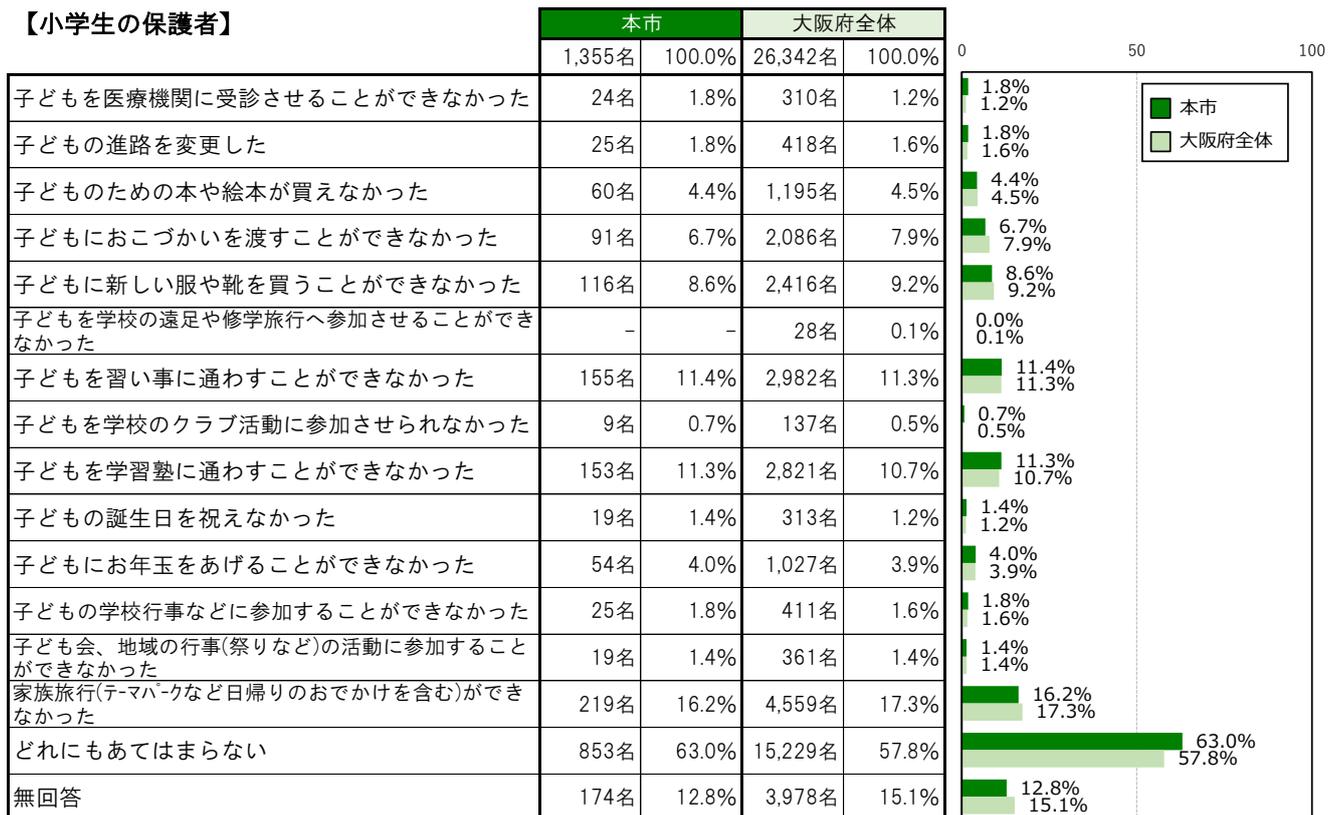
●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「どれにもあてはまらない」が8.7ポイント高くなっている。
 小学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が10.7ポイント高くなっている。
 中学生の保護者は、「どれにもあてはまらない」が6.3ポイント高くなっている。

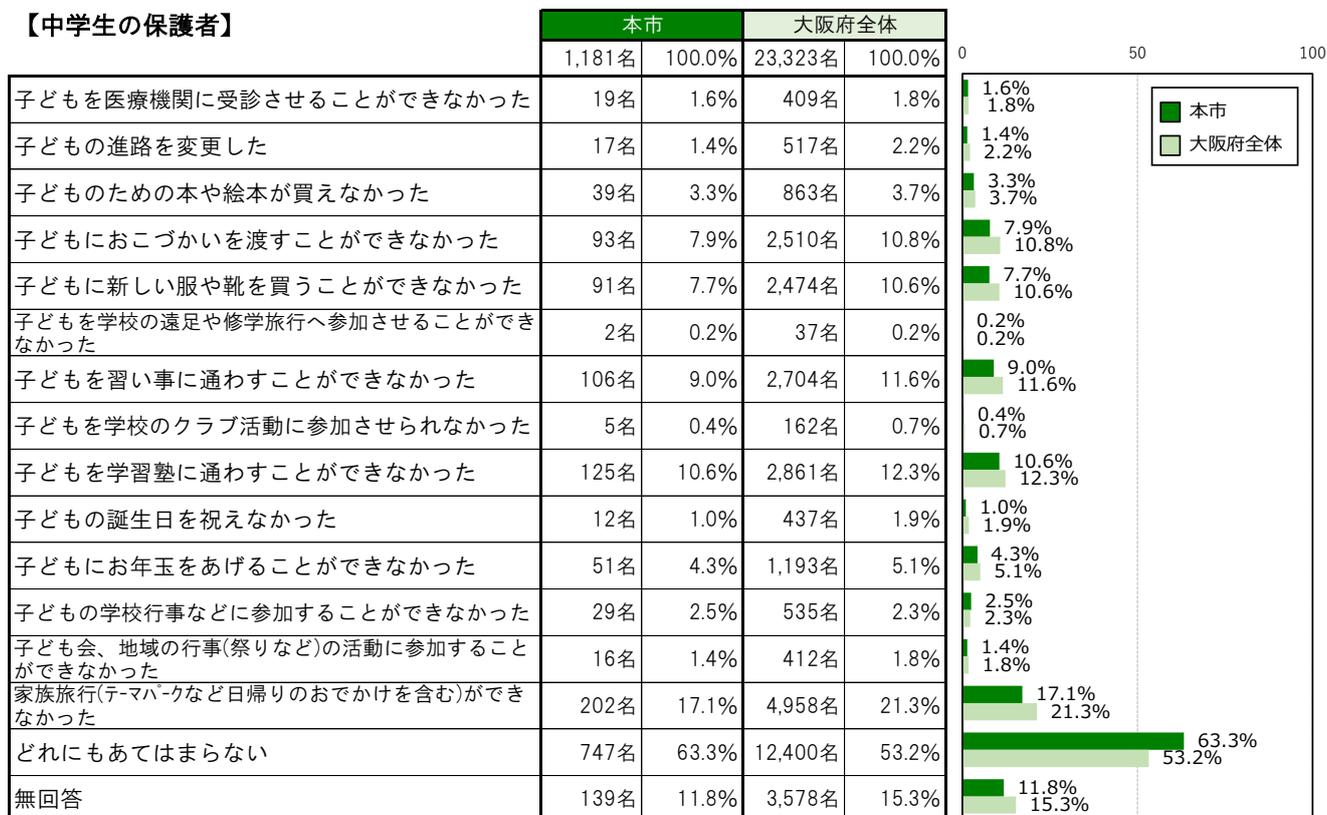
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13(1) 子どもへの信頼度

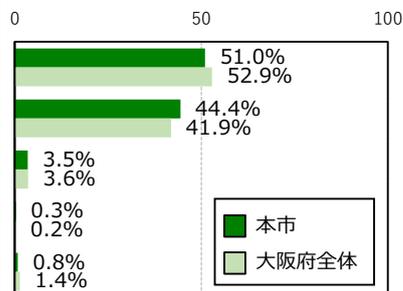
保護者全体は、「とても信頼している」が51.0%で最も多く、次いで「信頼している」が44.4%、「あまり信頼していない」が3.5%となっている。

小学生の保護者は、「とても信頼している」が53.1%で最も多く、次いで「信頼している」が42.6%、「あまり信頼していない」が3.2%となっている。

中学生の保護者は、「とても信頼している」が48.7%で最も多く、次いで「信頼している」が46.4%、「あまり信頼していない」が3.8%となっている。

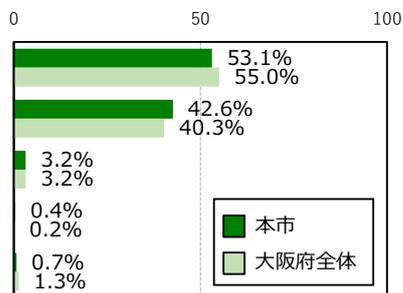
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	1,396名	51.0%	22,948名	52.9%
信頼している	1,214名	44.4%	18,151名	41.9%
あまり信頼していない	95名	3.5%	1,566名	3.6%
信頼していない	8名	0.3%	101名	0.2%
無回答	22名	0.8%	592名	1.4%



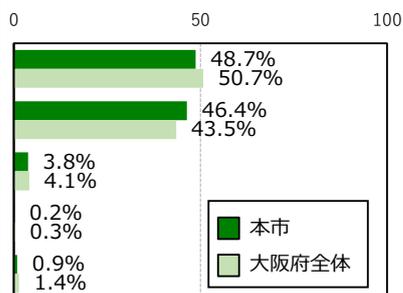
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	774名	53.1%	12,553名	55.0%
信頼している	621名	42.6%	9,191名	40.3%
あまり信頼していない	46名	3.2%	720名	3.2%
信頼していない	6名	0.4%	48名	0.2%
無回答	10名	0.7%	307名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても信頼している	622名	48.7%	9,835名	50.7%
信頼している	593名	46.4%	8,429名	43.5%
あまり信頼していない	49名	3.8%	796名	4.1%
信頼していない	2名	0.2%	50名	0.3%
無回答	12名	0.9%	280名	1.4%



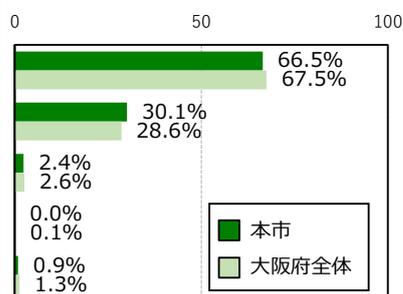
子どもに関することについて

問13(2) 子どもとの会話頻度

保護者全体は、「よくする」が66.5%で最も多く、次いで「する」が30.1%となっている。
 小学生の保護者は、「よくする」が71.0%で最も多く、次いで「する」が27.2%、「あまりしない」が1.2%となっている。
 中学生の保護者は、「よくする」が61.4%で最も多く、次いで「する」が33.5%となっている。

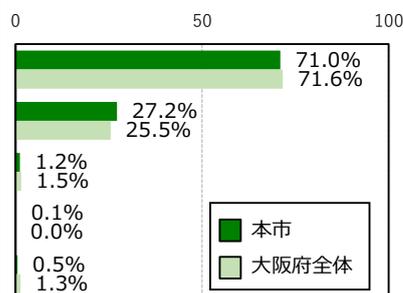
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	1,820名	66.5%	29,262名	67.5%
する	824名	30.1%	12,391名	28.6%
あまりしない	65名	2.4%	1,110名	2.6%
しない	1名	0.0%	30名	0.1%
無回答	25名	0.9%	565名	1.3%



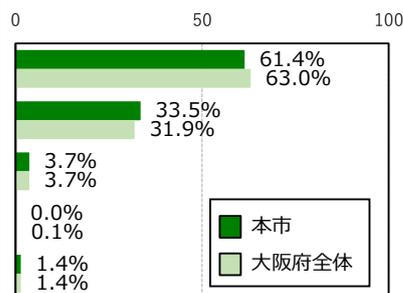
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	1,035名	71.0%	16,345名	71.6%
する	396名	27.2%	5,827名	25.5%
あまりしない	18名	1.2%	337名	1.5%
しない	1名	0.1%	10名	0.0%
無回答	7名	0.5%	300名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
よくする	785名	61.4%	12,214名	63.0%
する	428名	33.5%	6,176名	31.9%
あまりしない	47名	3.7%	719名	3.7%
しない	-	-	19名	0.1%
無回答	18名	1.4%	262名	1.4%



子どもに関することについて

問13（3）平日での子どもとの関わり時間

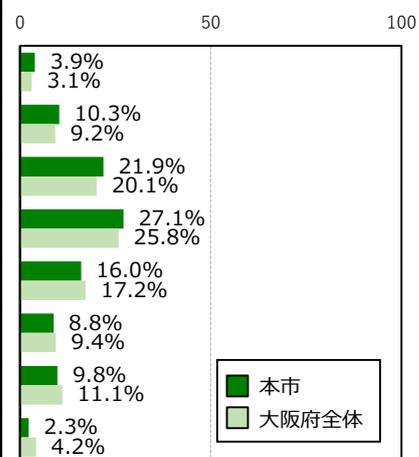
保護者全体は、「1時間～2時間未満」が27.1%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が21.9%、「2時間～3時間未満」が16.0%、「15分～30分未満」が10.3%となっている。

小学生の保護者は、「1時間～2時間未満」が25.6%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が19.6%、「2時間～3時間未満」が18.7%、「4時間以上」が12.3%となっている。

中学生の保護者は、「1時間～2時間未満」が28.7%で最も多く、次いで「30分～1時間未満」が24.4%、「15分～30分未満」が13.6%、「2時間～3時間未満」が12.8%となっている。

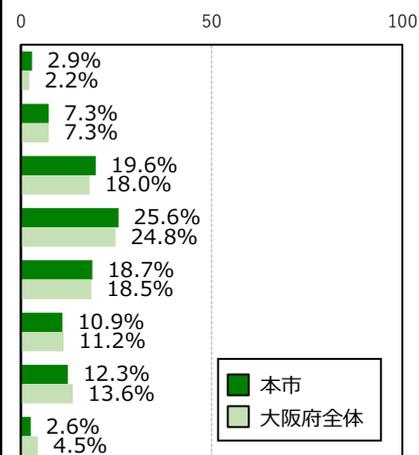
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	2,735名	100.0%	43,358名	100.0%
0～15分未満	106名	3.9%	1,323名	3.1%
15分～30分未満	281名	10.3%	3,978名	9.2%
30分～1時間未満	598名	21.9%	8,701名	20.1%
1時間～2時間未満	740名	27.1%	11,171名	25.8%
2時間～3時間未満	437名	16.0%	7,479名	17.2%
3時間～4時間未満	242名	8.8%	4,091名	9.4%
4時間以上	269名	9.8%	4,813名	11.1%
無回答	62名	2.3%	1,802名	4.2%



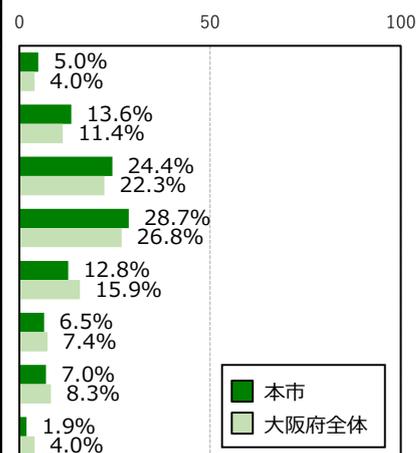
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,457名	100.0%	22,819名	100.0%
0～15分未満	42名	2.9%	494名	2.2%
15分～30分未満	107名	7.3%	1,662名	7.3%
30分～1時間未満	286名	19.6%	4,099名	18.0%
1時間～2時間未満	373名	25.6%	5,657名	24.8%
2時間～3時間未満	273名	18.7%	4,224名	18.5%
3時間～4時間未満	159名	10.9%	2,561名	11.2%
4時間以上	179名	12.3%	3,100名	13.6%
無回答	38名	2.6%	1,022名	4.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,278名	100.0%	19,390名	100.0%
0～15分未満	64名	5.0%	771名	4.0%
15分～30分未満	174名	13.6%	2,205名	11.4%
30分～1時間未満	312名	24.4%	4,316名	22.3%
1時間～2時間未満	367名	28.7%	5,203名	26.8%
2時間～3時間未満	164名	12.8%	3,075名	15.9%
3時間～4時間未満	83名	6.5%	1,435名	7.4%
4時間以上	90名	7.0%	1,617名	8.3%
無回答	24名	1.9%	768名	4.0%



子どもに関することについて

問13（3）休日での子どもとの関わり時間

保護者全体は、「2時間～4時間未満」が21.8%で最も多く、次いで「2時間未満」が19.0%、「4時間～6時間未満」が17.8%、「10時間以上」が12.2%となっている。

小学生の保護者は、「4時間～6時間未満」が20.2%で最も多く、次いで「2時間～4時間未満」が18.7%、「10時間以上」が16.2%、「2時間未満」、「6時間～8時間未満」がそれぞれ12.1%となっている。

中学生の保護者は、「2時間未満」が26.8%で最も多く、次いで「2時間～4時間未満」が25.4%、「4時間～6時間未満」が15.2%、「10時間以上」が7.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問13(4) 子どもの将来への期待度

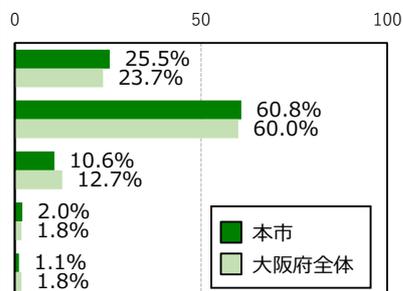
保護者全体は、「期待している」が60.8%で最も多く、次いで「とても期待している」が25.5%、「あまり期待していない」が10.6%となっている。

小学生の保護者は、「期待している」が61.4%で最も多く、次いで「とても期待している」が26.1%、「あまり期待していない」が9.2%となっている。

中学生の保護者は、「期待している」が60.1%で最も多く、次いで「とても期待している」が24.7%、「あまり期待していない」が12.2%となっている。

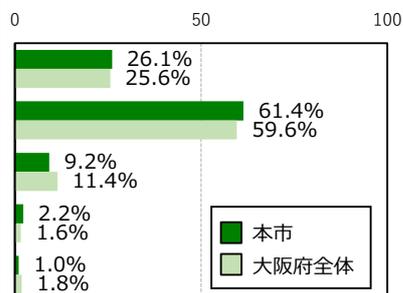
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
とても期待している	697名	25.5%	10,264名	23.7%
期待している	1,663名	60.8%	26,035名	60.0%
あまり期待していない	290名	10.6%	5,485名	12.7%
期待していない	56名	2.0%	779名	1.8%
無回答	29名	1.1%	795名	1.8%



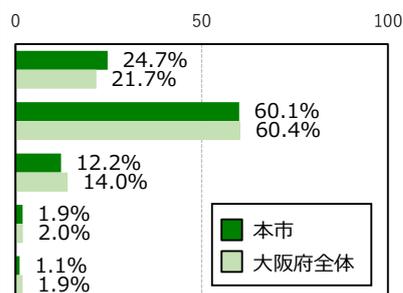
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
とても期待している	381名	26.1%	5,831名	25.6%
期待している	895名	61.4%	13,610名	59.6%
あまり期待していない	134名	9.2%	2,603名	11.4%
期待していない	32名	2.2%	363名	1.6%
無回答	15名	1.0%	412名	1.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
とても期待している	316名	24.7%	4,207名	21.7%
期待している	768名	60.1%	11,704名	60.4%
あまり期待していない	156名	12.2%	2,717名	14.0%
期待していない	24名	1.9%	388名	2.0%
無回答	14名	1.1%	374名	1.9%



子どもに関することについて

問13（5）子どもの授業参観や運動会などの学校行事への参加状況

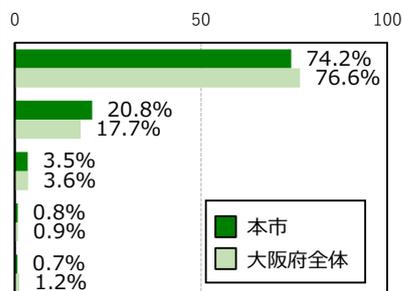
保護者全体は、「よく参加している」が74.2%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が20.8%、「あまり参加していない」が3.5%となっている。

小学生の保護者は、「よく参加している」が83.9%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が14.4%となっている。

中学生の保護者は、「よく参加している」が63.1%で最も多く、次いで「ときどき参加している」が28.0%、「あまり参加していない」が6.5%となっている。

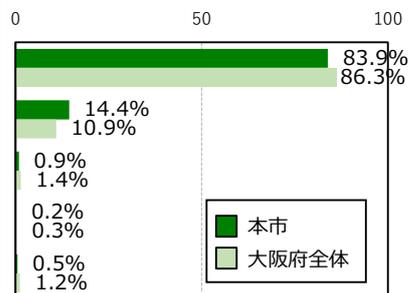
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
よく参加している	2,029名	74.2%	33,215名	76.6%
ときどき参加している	568名	20.8%	7,691名	17.7%
あまり参加していない	96名	3.5%	1,550名	3.6%
まったく参加していない	23名	0.8%	376名	0.9%
無回答	19名	0.7%	526名	1.2%



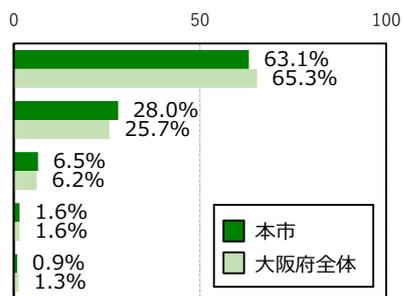
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
よく参加している	1,223名	83.9%	19,697名	86.3%
ときどき参加している	210名	14.4%	2,477名	10.9%
あまり参加していない	13名	0.9%	309名	1.4%
まったく参加していない	3名	0.2%	58名	0.3%
無回答	8名	0.5%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
よく参加している	806名	63.1%	12,665名	65.3%
ときどき参加している	358名	28.0%	4,975名	25.7%
あまり参加していない	83名	6.5%	1,202名	6.2%
まったく参加していない	20名	1.6%	304名	1.6%
無回答	11名	0.9%	244名	1.3%



子どもに関することについて

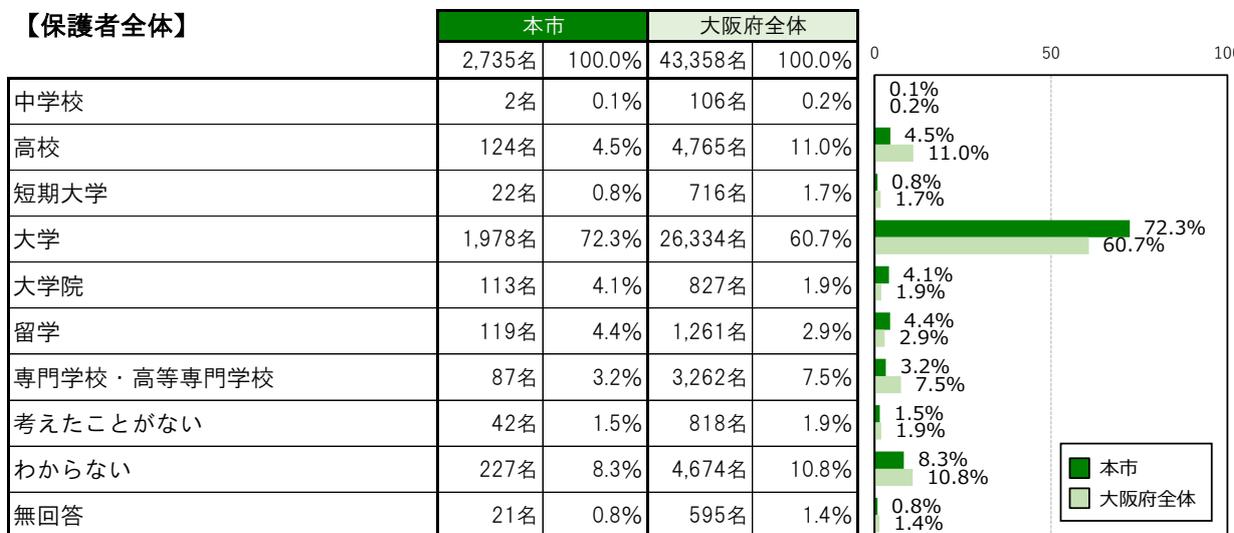
問14 子どもに希望する進学

保護者全体は、「大学」が72.3%で最も多く、次いで「高校」が4.5%、「留学」が4.4%、「大学院」が4.1%となっている。

小学生の保護者は、「大学」が71.2%で最も多く、次いで「留学」が4.9%、「高校」が4.1%、「大学院」が4.0%となっている。

中学生の保護者は、「大学」が73.6%で最も多く、次いで「高校」が5.0%、「大学院」が4.3%、「留学」が3.7%となっている。

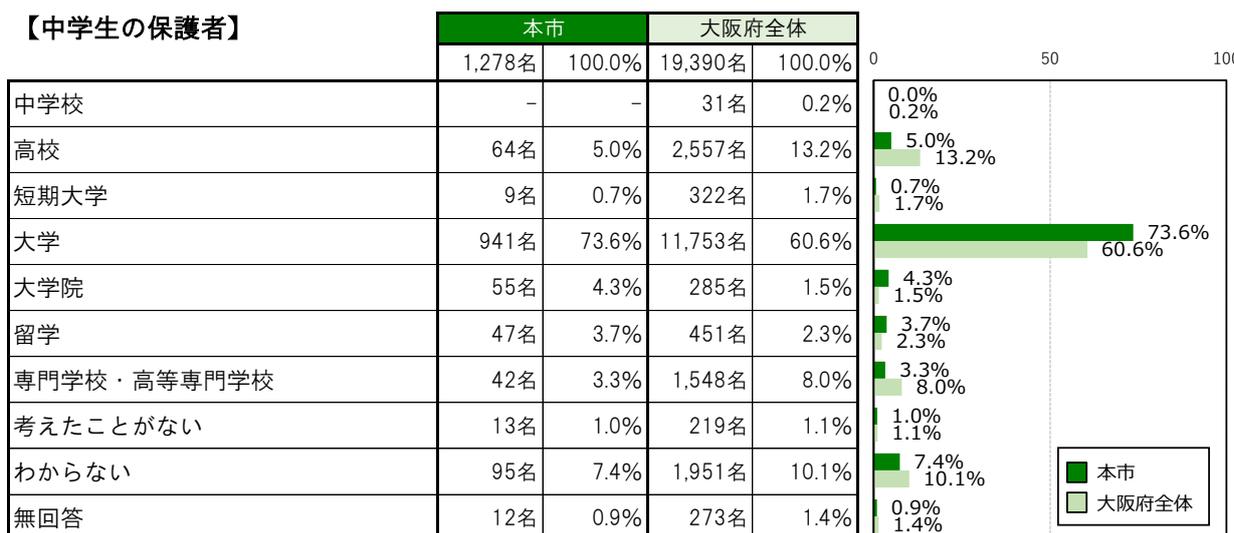
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



子どもに関することについて

問15 子どもの通学状況

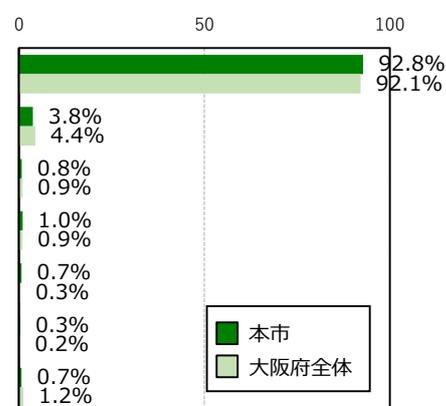
保護者全体は、「ほぼ毎日通っている」が92.8%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.8%、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が94.2%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が3.3%となっている。

中学生の保護者は、「ほぼ毎日通っている」が91.1%で最も多く、次いで「欠席は年間30日未満である」が4.4%、「欠席が年間60日以上、1年未満である」が1.3%となっている。

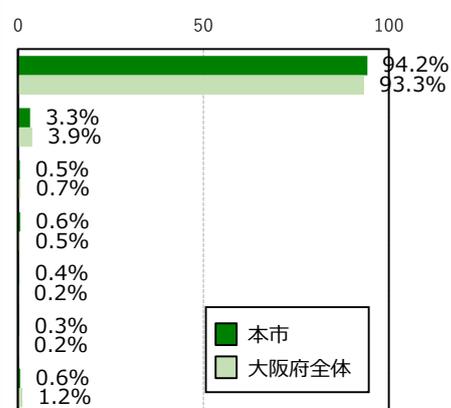
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	2,537名	92.8%	39,916名	92.1%
欠席は年間30日未満である	104名	3.8%	1,900名	4.4%
欠席が年間30日以上、60日未満である	21名	0.8%	406名	0.9%
欠席が年間60日以上、1年未満である	26名	1.0%	379名	0.9%
欠席が1年以上続いている	20名	0.7%	127名	0.3%
わからない	7名	0.3%	108名	0.2%
無回答	20名	0.7%	522名	1.2%



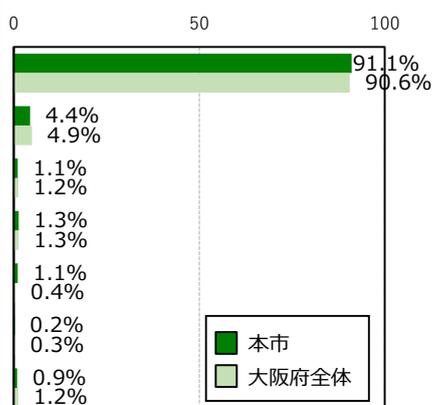
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	1,373名	94.2%	21,301名	93.3%
欠席は年間30日未満である	48名	3.3%	895名	3.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	7名	0.5%	158名	0.7%
欠席が年間60日以上、1年未満である	9名	0.6%	107名	0.5%
欠席が1年以上続いている	6名	0.4%	36名	0.2%
わからない	5名	0.3%	44名	0.2%
無回答	9名	0.6%	278名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
ほぼ毎日通っている	1,164名	91.1%	17,568名	90.6%
欠席は年間30日未満である	56名	4.4%	945名	4.9%
欠席が年間30日以上、60日未満である	14名	1.1%	232名	1.2%
欠席が年間60日以上、1年未満である	17名	1.3%	257名	1.3%
欠席が1年以上続いている	14名	1.1%	86名	0.4%
わからない	2名	0.2%	62名	0.3%
無回答	11名	0.9%	240名	1.2%



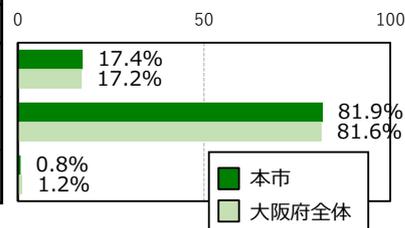
子どもに関することについて

問16（1）子どもの居場所の利用経験

保護者全体は、「利用したことがある」が17.4%、「利用したことがない」が81.9%となっている。
 小学生の保護者は、「利用したことがある」が20.2%、「利用したことがない」が79.1%となっている。
 中学生の保護者は、「利用したことがある」が14.1%、「利用したことがない」が85.0%となっている。

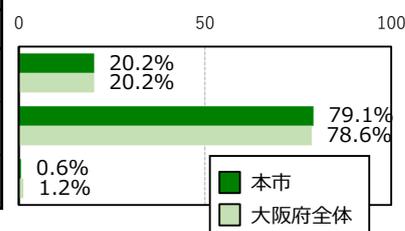
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
利用したことがある	475名	17.4%	7,459名	17.2%
利用したことがない	2,239名	81.9%	35,367名	81.6%
無回答	21名	0.8%	532名	1.2%



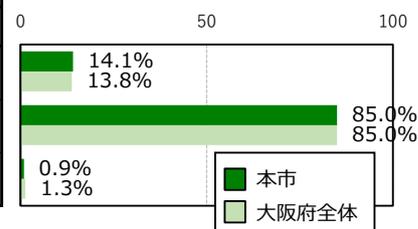
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
利用したことがある	295名	20.2%	4,599名	20.2%
利用したことがない	1,153名	79.1%	17,945名	78.6%
無回答	9名	0.6%	275名	1.2%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
利用したことがある	180名	14.1%	2,667名	13.8%
利用したことがない	1,086名	85.0%	16,472名	85.0%
無回答	12名	0.9%	251名	1.3%



子どもに関することについて

問16（2）子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

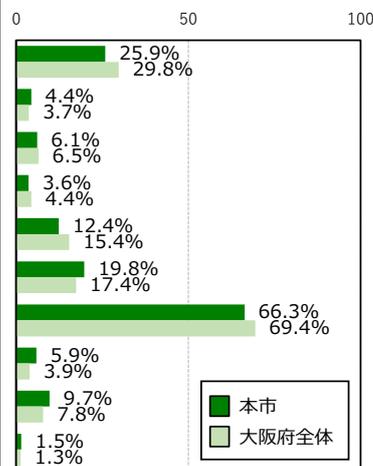
保護者全体は、「お子さんが楽しんでいるから」が66.3%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が25.9%、「宿題など勉強を見てくれるから」が19.8%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が12.4%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が71.5%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が27.5%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が15.9%、「宿題など勉強を見てくれるから」が14.2%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が57.8%で最も多く、次いで「宿題など勉強を見てくれるから」が28.9%、「地域の人とつながれるから」が23.3%、「低額（または無料）でご飯が食べられるから」が6.7%となっている。

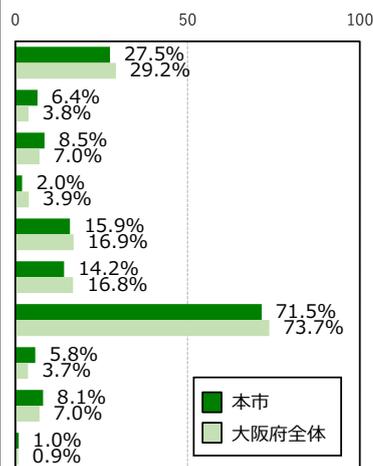
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
地域の人とつながれるから	123名	25.9%	2,226名	29.8%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	21名	4.4%	275名	3.7%
栄養バランスのとれた食事がとれるから	29名	6.1%	484名	6.5%
運営者が相談に乗ってくれるから	17名	3.6%	329名	4.4%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	59名	12.4%	1,152名	15.4%
宿題など勉強を見てくれるから	94名	19.8%	1,301名	17.4%
お子さんが楽しんでいるから	315名	66.3%	5,178名	69.4%
特になし	28名	5.9%	291名	3.9%
その他	46名	9.7%	579名	7.8%
無回答	7名	1.5%	95名	1.3%



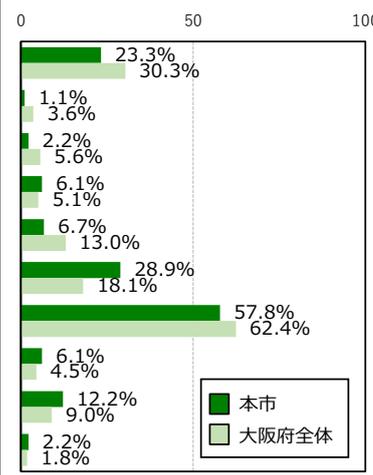
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
地域の人とつながれるから	81名	27.5%	1,344名	29.2%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	19名	6.4%	173名	3.8%
栄養バランスのとれた食事がとれるから	25名	8.5%	322名	7.0%
運営者が相談に乗ってくれるから	6名	2.0%	180名	3.9%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	47名	15.9%	778名	16.9%
宿題など勉強を見てくれるから	42名	14.2%	773名	16.8%
お子さんが楽しんでいるから	211名	71.5%	3,388名	73.7%
特になし	17名	5.8%	168名	3.7%
その他	24名	8.1%	324名	7.0%
無回答	3名	1.0%	43名	0.9%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
地域の人とつながれるから	42名	23.3%	808名	30.3%
お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから	2名	1.1%	97名	3.6%
栄養バランスのとれた食事がとれるから	4名	2.2%	150名	5.6%
運営者が相談に乗ってくれるから	11名	6.1%	136名	5.1%
低額（または無料）でご飯が食べられるから	12名	6.7%	348名	13.0%
宿題など勉強を見てくれるから	52名	28.9%	482名	18.1%
お子さんが楽しんでいるから	104名	57.8%	1,664名	62.4%
特になし	11名	6.1%	120名	4.5%
その他	22名	12.2%	241名	9.0%
無回答	4名	2.2%	47名	1.8%



子どもに関することについて

問16(3) 子どもの居場所を利用しない理由

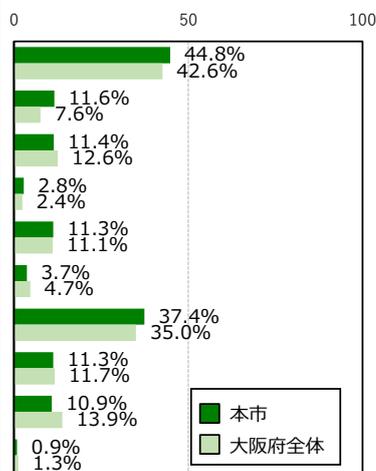
保護者全体は、「どこにあるか知らないから」が44.8%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が37.4%、「家の近く（小学校区内）にないから」が11.6%、「家で過ごしてほしいと思うから」が11.4%となっている。

小学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が50.0%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が33.9%、「家の近く（小学校区内）にないから」が14.7%、「家で過ごしてほしいと思うから」が12.1%となっている。

中学生の保護者は、「利用したいと思わないから」が41.2%で最も多く、次いで「どこにあるか知らないから」が39.1%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が12.7%、「何をしているかわからないから」が11.0%となっている。

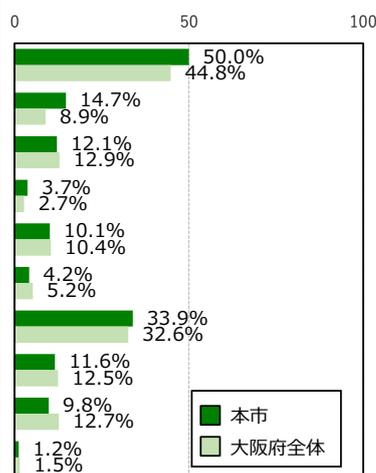
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	2,239名	100.0%	35,367名	100.0%
どこにあるか知らないから	1,002名	44.8%	15,060名	42.6%
家の近く（小学校区内）にないから	260名	11.6%	2,697名	7.6%
家で過ごしてほしいと思うから	255名	11.4%	4,452名	12.6%
居場所のイメージがよくないから	62名	2.8%	862名	2.4%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	254名	11.3%	3,936名	11.1%
行きたい日・時間に開いていないから	83名	3.7%	1,647名	4.7%
利用したいと思わないから	838名	37.4%	12,386名	35.0%
何をしているかわからないから	253名	11.3%	4,149名	11.7%
その他	244名	10.9%	4,908名	13.9%
無回答	20名	0.9%	473名	1.3%



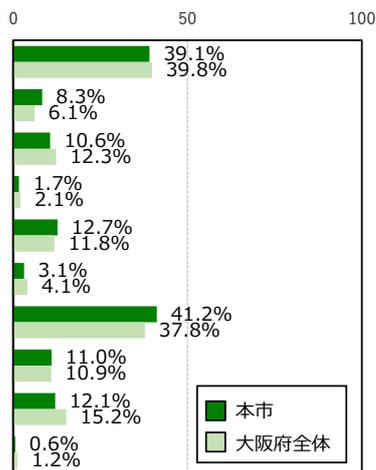
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,153名	100.0%	17,945名	100.0%
どこにあるか知らないから	577名	50.0%	8,048名	44.8%
家の近く（小学校区内）にないから	170名	14.7%	1,594名	8.9%
家で過ごしてほしいと思うから	140名	12.1%	2,318名	12.9%
居場所のイメージがよくないから	43名	3.7%	476名	2.7%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	116名	10.1%	1,873名	10.4%
行きたい日・時間に開いていないから	49名	4.2%	936名	5.2%
利用したいと思わないから	391名	33.9%	5,849名	32.6%
何をしているかわからないから	134名	11.6%	2,243名	12.5%
その他	113名	9.8%	2,278名	12.7%
無回答	14名	1.2%	261名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,086名	100.0%	16,472名	100.0%
どこにあるか知らないから	425名	39.1%	6,563名	39.8%
家の近く（小学校区内）にないから	90名	8.3%	1,006名	6.1%
家で過ごしてほしいと思うから	115名	10.6%	2,030名	12.3%
居場所のイメージがよくないから	19名	1.7%	347名	2.1%
お子さんが「行きたくない」と言っているから	138名	12.7%	1,950名	11.8%
行きたい日・時間に開いていないから	34名	3.1%	673名	4.1%
利用したいと思わないから	447名	41.2%	6,227名	37.8%
何をしているかわからないから	119名	11.0%	1,797名	10.9%
その他	131名	12.1%	2,509名	15.2%
無回答	6名	0.6%	195名	1.2%



保護者のことについて

問17 初めて親となった年齢

保護者全体は、「27～30歳」が33.3%で最も多く、次いで「31～34歳」が30.1%、「35～39歳」が15.5%、「24～26歳」が11.6%となっている。

小学生の保護者は、「27～30歳」が32.6%で最も多く、次いで「31～34歳」が29.4%、「35～39歳」が17.2%、「24～26歳」が11.2%となっている。

中学生の保護者は、「27～30歳」が34.2%で最も多く、次いで「31～34歳」が30.8%、「35～39歳」が13.5%、「24～26歳」が12.1%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

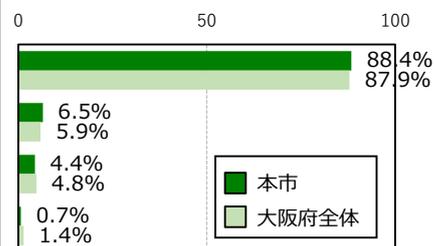
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

①心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人

保護者全体は、「いる」が88.4%、「いない」が6.5%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が87.9%、「いない」が6.7%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が88.9%、「いない」が6.3%となっている。

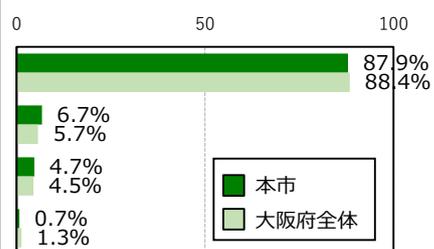
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	2,417名	88.4%	38,049名	87.9%
いない	179名	6.5%	2,548名	5.9%
わからない	121名	4.4%	2,099名	4.8%
無回答	18名	0.7%	604名	1.4%



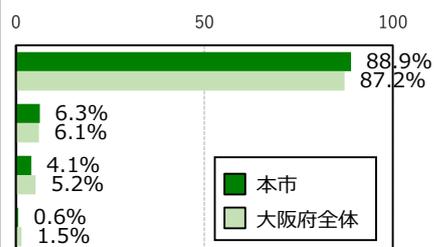
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,281名	87.9%	20,150名	88.4%
いない	98名	6.7%	1,304名	5.7%
わからない	68名	4.7%	1,026名	4.5%
無回答	10名	0.7%	306名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,136名	88.9%	16,885名	87.2%
いない	81名	6.3%	1,173名	6.1%
わからない	53名	4.1%	1,016名	5.2%
無回答	8名	0.6%	291名	1.5%



保護者のことについて

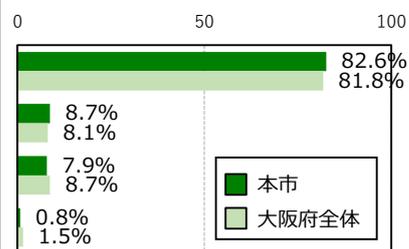
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

②気持ちを察して思いやってくれる人

保護者全体は、「いる」が82.6%、「いない」が8.7%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が81.7%、「いない」が9.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が83.5%、「いない」が8.1%となっている。

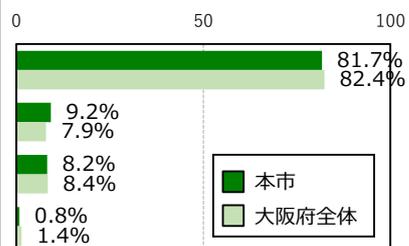
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	2,258名	82.6%	35,406名	81.8%
いない	238名	8.7%	3,491名	8.1%
わからない	216名	7.9%	3,748名	8.7%
無回答	23名	0.8%	655名	1.5%



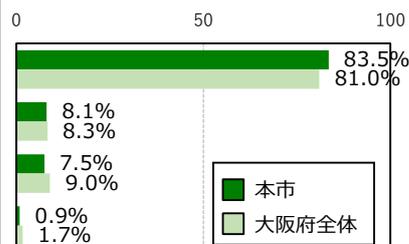
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,191名	81.7%	18,767名	82.4%
いない	134名	9.2%	1,791名	7.9%
わからない	120名	8.2%	1,904名	8.4%
無回答	12名	0.8%	324名	1.4%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,067名	83.5%	15,691名	81.0%
いない	104名	8.1%	1,610名	8.3%
わからない	96名	7.5%	1,741名	9.0%
無回答	11名	0.9%	323名	1.7%



保護者のことについて

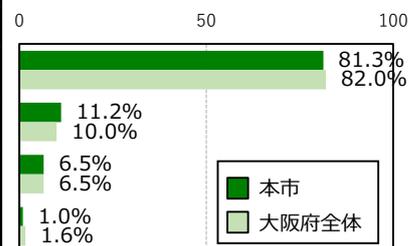
問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

③趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人

保護者全体は、「いる」が81.3%、「いない」が11.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が80.7%、「いない」が11.2%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が82.0%、「いない」が11.2%となっている。

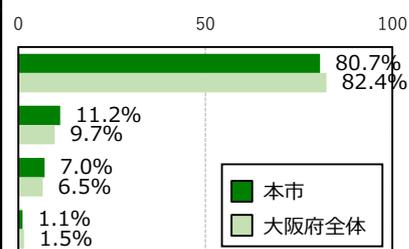
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	2,224名	81.3%	35,496名	82.0%
いない	306名	11.2%	4,317名	10.0%
わからない	179名	6.5%	2,806名	6.5%
無回答	26名	1.0%	681名	1.6%



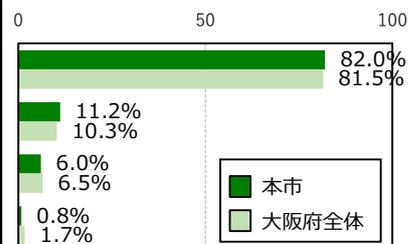
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,176名	80.7%	18,771名	82.4%
いない	163名	11.2%	2,201名	9.7%
わからない	102名	7.0%	1,474名	6.5%
無回答	16名	1.1%	340名	1.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
いる	1,048名	82.0%	15,782名	81.5%
いない	143名	11.2%	1,990名	10.3%
わからない	77名	6.0%	1,259名	6.5%
無回答	10名	0.8%	334名	1.7%



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

④子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人

保護者全体は、「いる」が77.0%、「いない」が10.8%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が77.1%、「いない」が10.8%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が76.8%、「いない」が10.8%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑤子どもの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）

保護者全体は、「いる」が65.9%、「いない」が17.6%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が67.3%、「いない」が16.3%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が64.2%、「いない」が19.1%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑥子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人

保護者全体は、「いる」が69.9%、「いない」が25.2%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が70.1%、「いない」が25.1%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が69.8%、「いない」が25.4%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問18 支えてくれたり、手伝ってくれる人の有無

⑦留守を頼める人

保護者全体は、「いる」が62.6%、「いない」が32.0%となっている。
 小学生の保護者は、「いる」が62.5%、「いない」が31.6%となっている。
 中学生の保護者は、「いる」が62.7%、「いない」が32.5%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

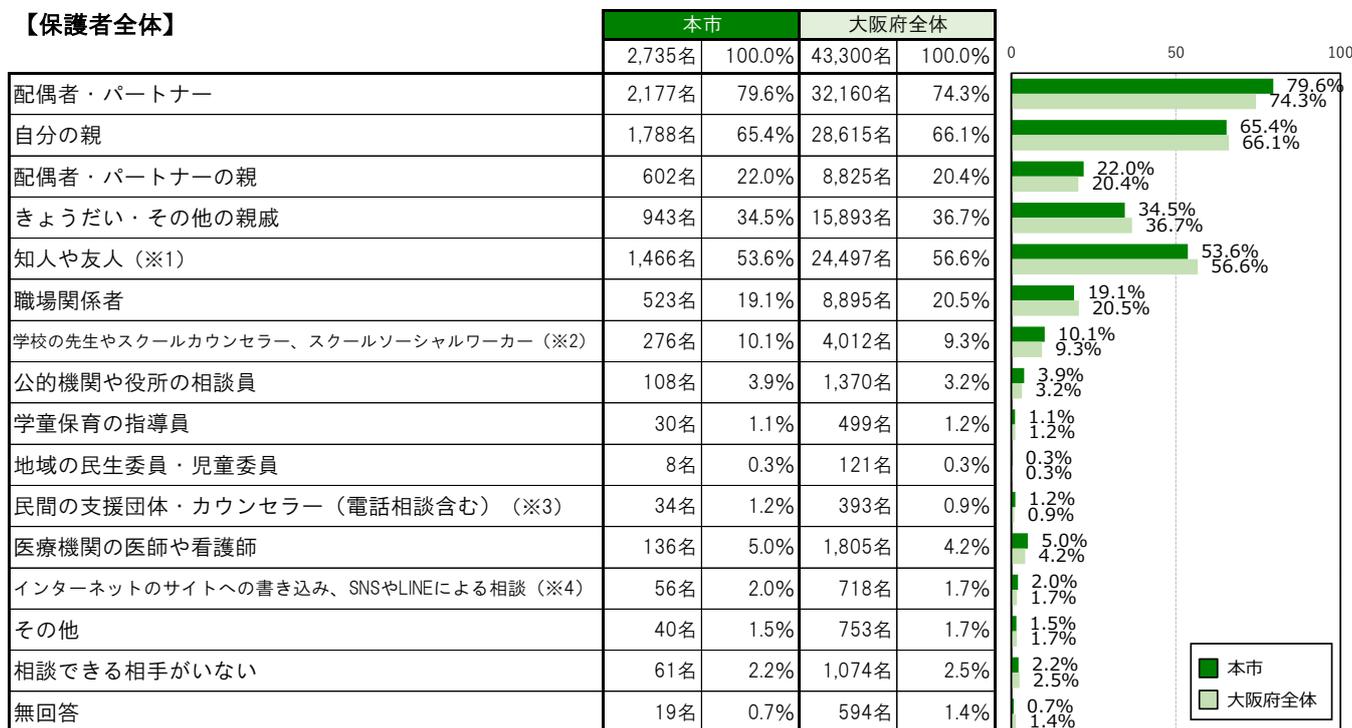
問19 本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

保護者全体は、「配偶者・パートナー」が79.6%で最も多く、次いで「自分の親」が65.4%、「知人や友人」が53.6%、「きょうだい・その他の親戚」が34.5%となっている。

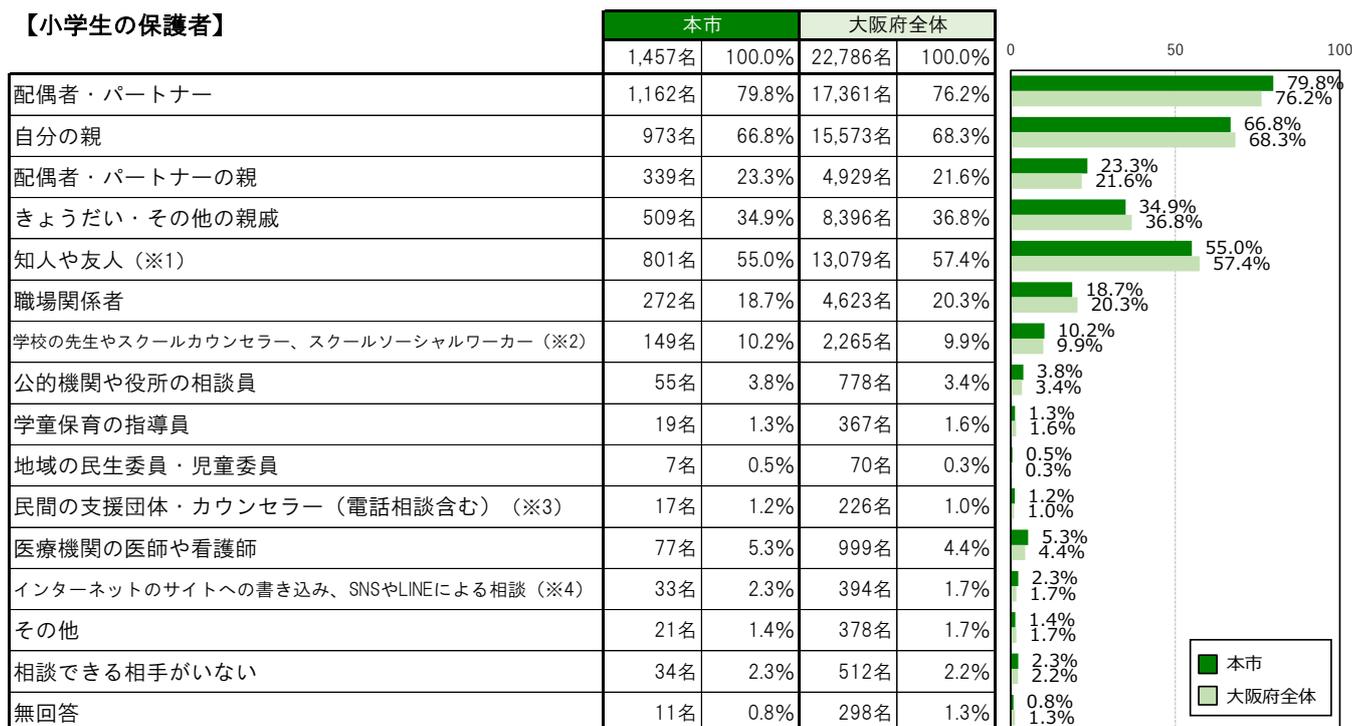
小学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が79.8%で最も多く、次いで「自分の親」が66.8%、「知人や友人」が55.0%、「きょうだい・その他の親戚」が34.9%となっている。

中学生の保護者は、「配偶者・パートナー」が79.4%で最も多く、次いで「自分の親」が63.8%、「知人や友人」が52.0%、「きょうだい・その他の親戚」が34.0%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



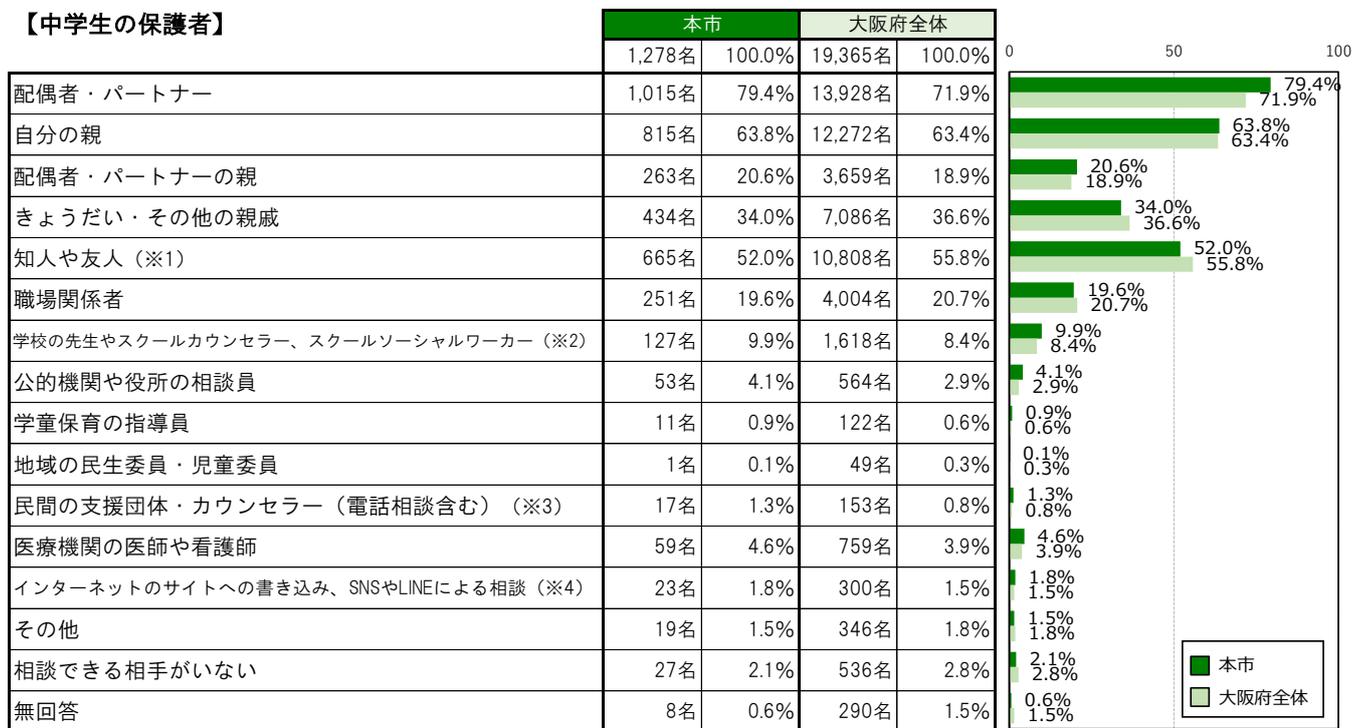
※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

【中学生の保護者】



※1 2016年度調査の「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」を「知人や友人」に変更

※2 2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」

※3 2016年度調査の「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」を「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」に変更

※4 2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

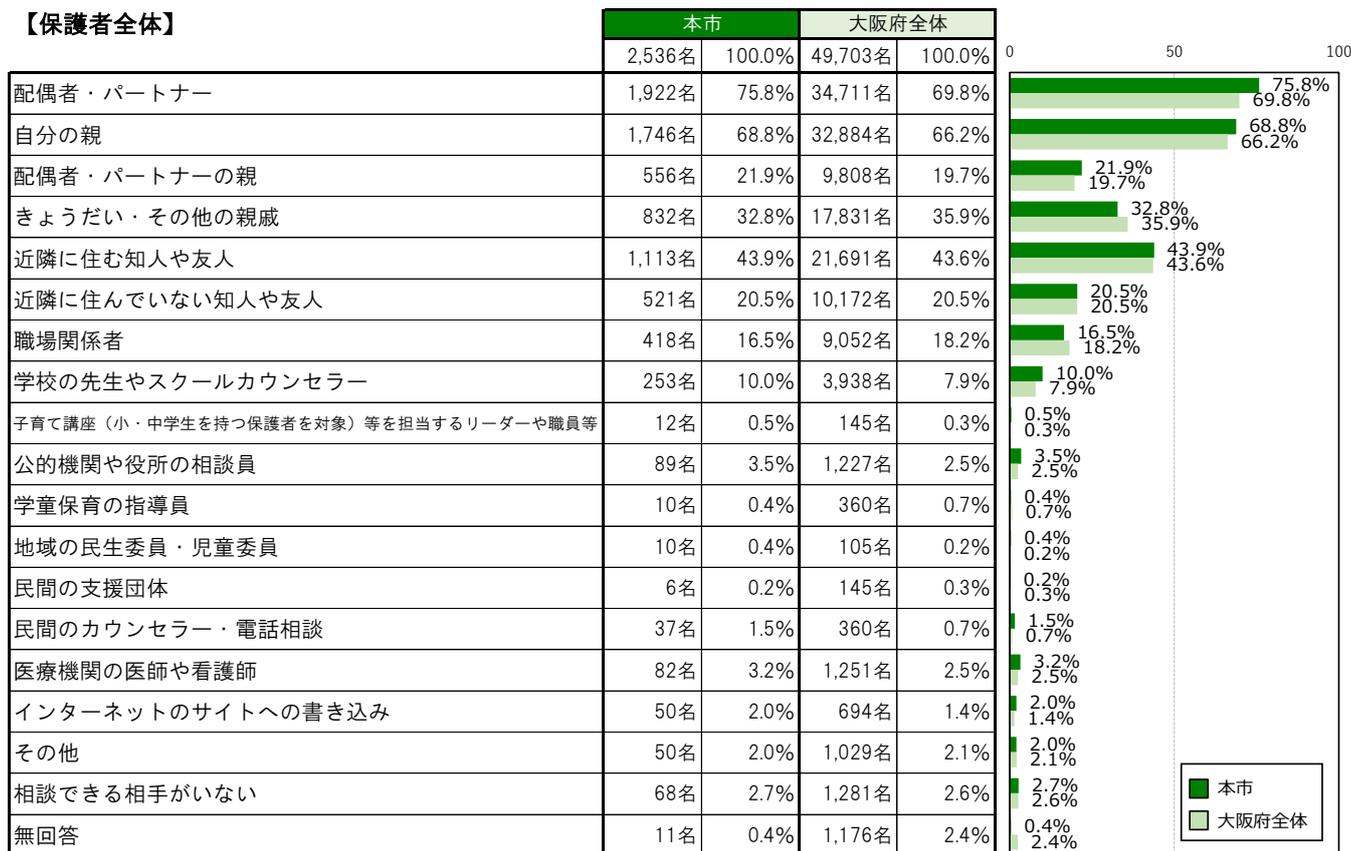
●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「知人や友人」（2016年度は「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」の合計）が10.8ポイント低くなっている。

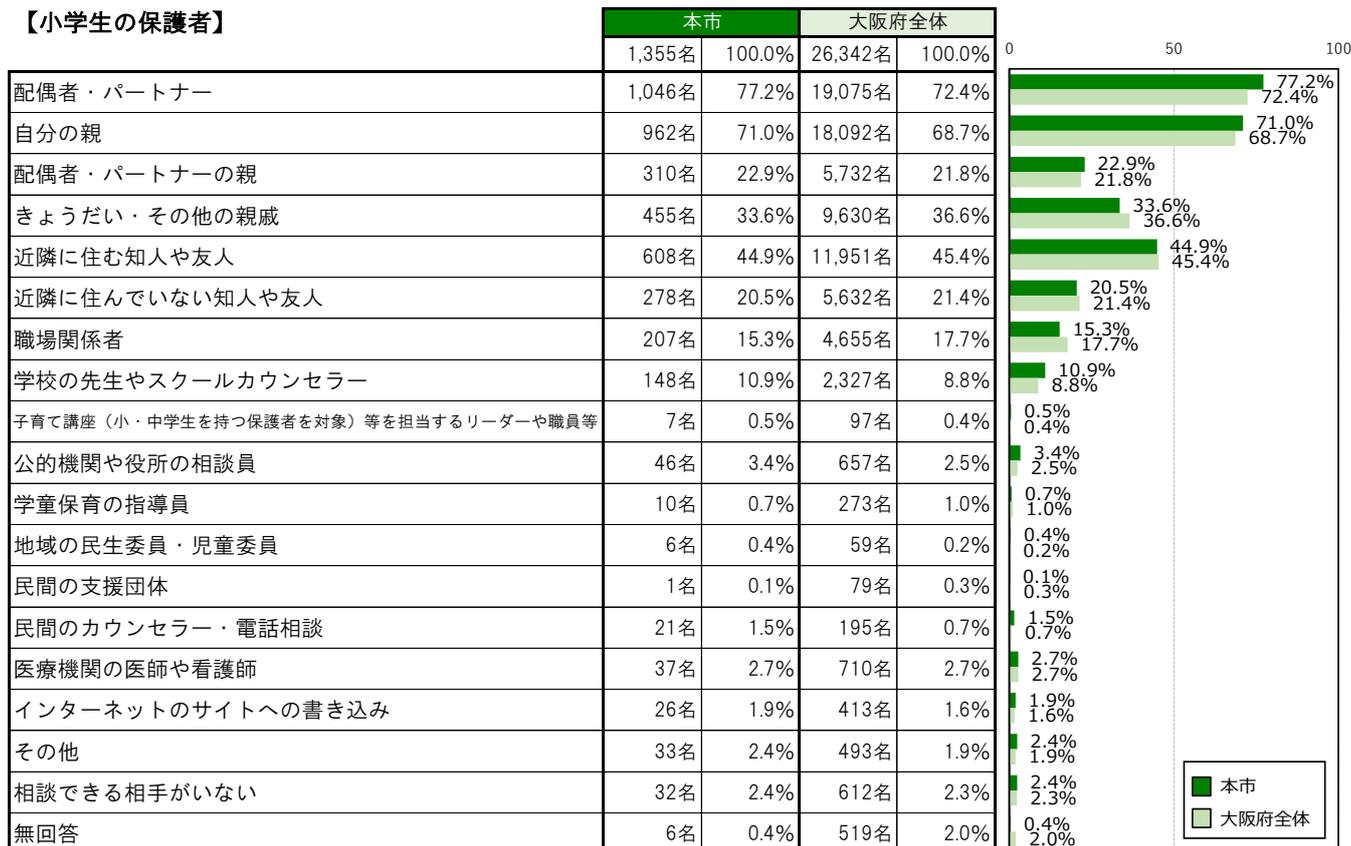
小学生の保護者は、「知人や友人」が10.4ポイント低くなっている。

中学生の保護者は、「知人や友人」が11.4ポイント低くなっている。

【保護者全体】

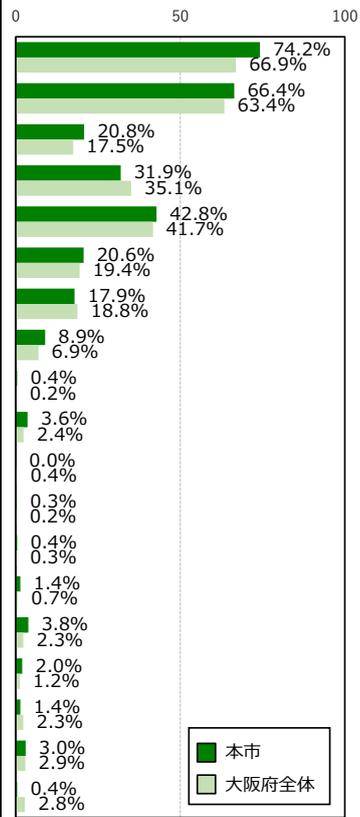


【小学生の保護者】



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
配偶者・パートナー	876名	74.2%	15,612名	66.9%
自分の親	784名	66.4%	14,777名	63.4%
配偶者・パートナーの親	246名	20.8%	4,074名	17.5%
きょうだい・その他の親戚	377名	31.9%	8,194名	35.1%
近隣に住む知人や友人	505名	42.8%	9,732名	41.7%
近隣に住んでいない知人や友人	243名	20.6%	4,536名	19.4%
職場関係者	211名	17.9%	4,395名	18.8%
学校の先生やスクールカウンセラー	105名	8.9%	1,605名	6.9%
子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等	5名	0.4%	48名	0.2%
公的機関や役所の相談員	43名	3.6%	563名	2.4%
学童保育の指導員	-	-	87名	0.4%
地域の民生委員・児童委員	4名	0.3%	46名	0.2%
民間の支援団体	5名	0.4%	64名	0.3%
民間のカウンセラー・電話相談	16名	1.4%	165名	0.7%
医療機関の医師や看護師	45名	3.8%	537名	2.3%
インターネットのサイトへの書き込み	24名	2.0%	281名	1.2%
その他	17名	1.4%	534名	2.3%
相談できる相手がいない	36名	3.0%	668名	2.9%
無回答	5名	0.4%	653名	2.8%



保護者のことについて

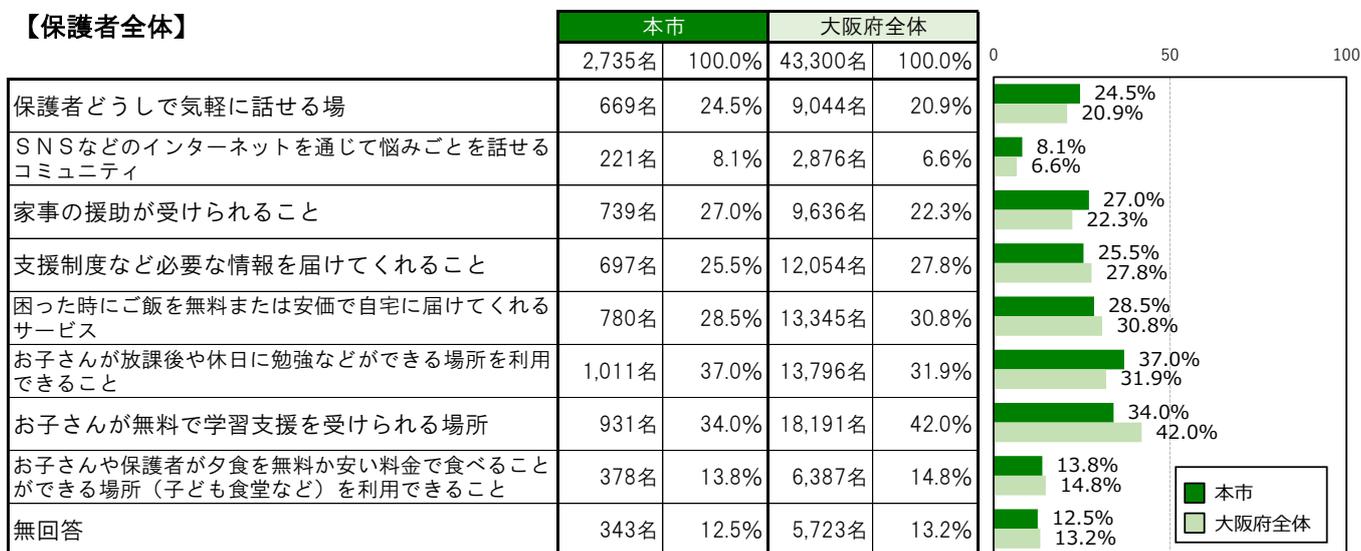
問20 身近にあると思うこと

保護者全体は、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が37.0%で最も多く、次いで「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が34.0%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けられるサービス」が28.5%、「家事の援助が受けられること」が27.0%となっている。

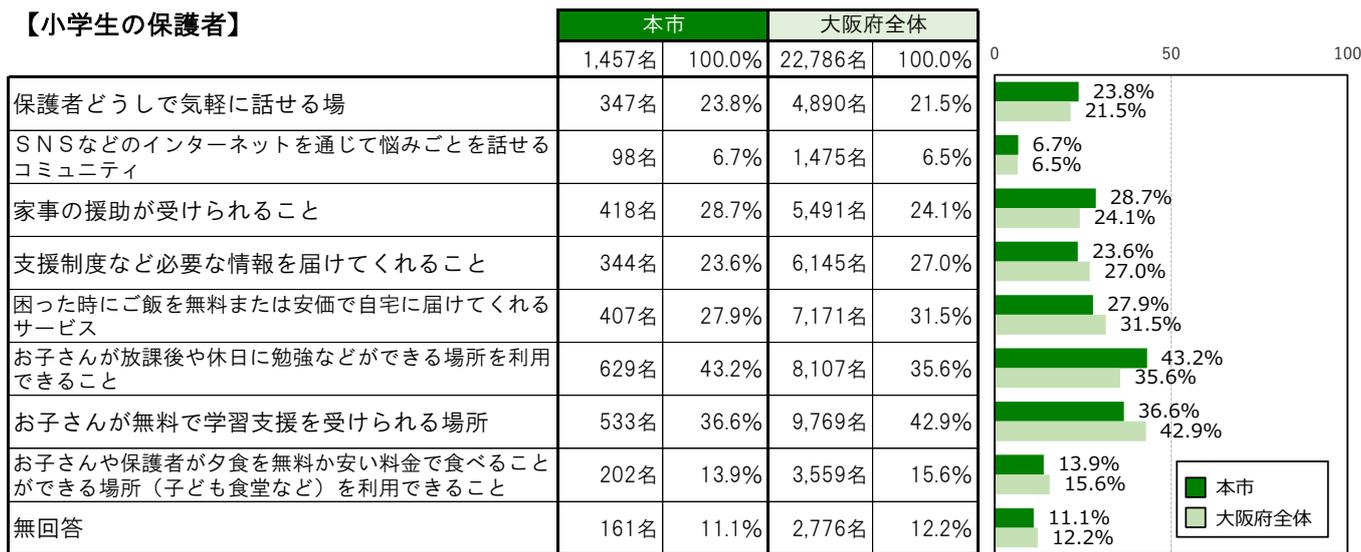
小学生の保護者は、「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が43.2%で最も多く、次いで「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が36.6%、「家事の援助が受けられること」が28.7%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けられるサービス」が27.9%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が31.1%で最も多く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が29.9%、「困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けられるサービス」が29.2%、「支援制度など必要な情報を届けてくれること」が27.6%となっている。

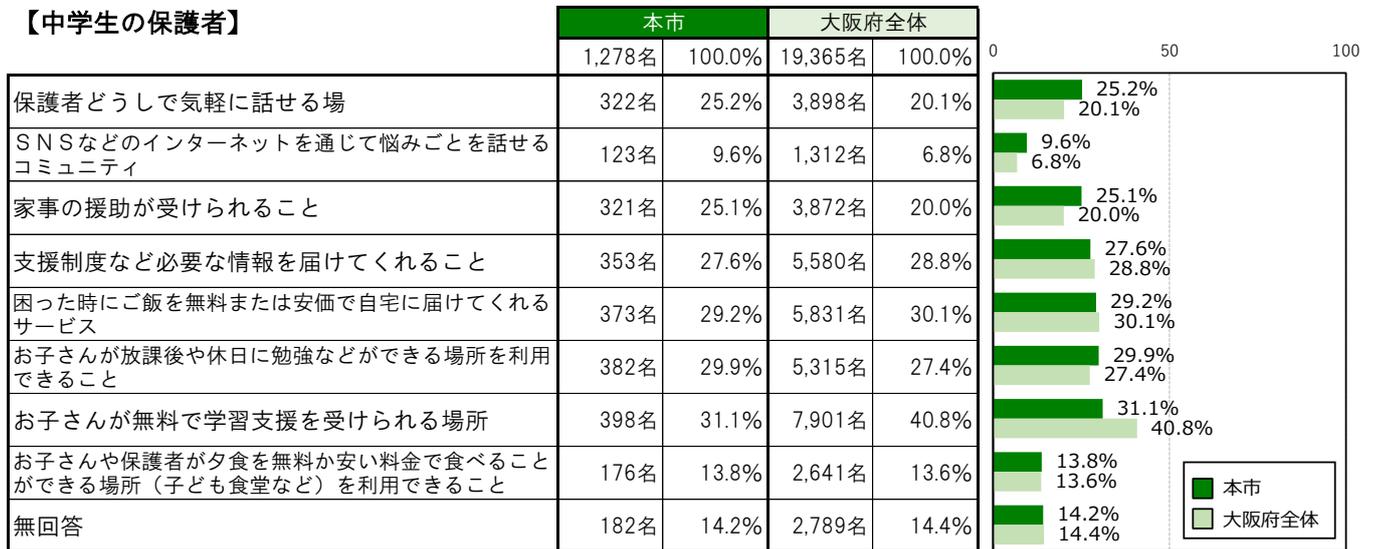
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問21(1) 生活を楽しんでいるか

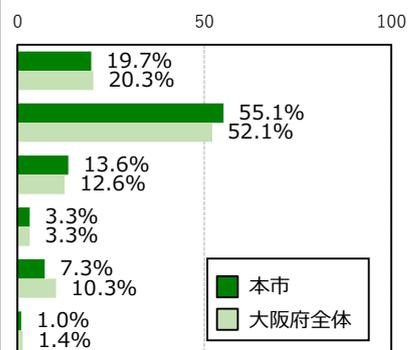
保護者全体は、「楽しんでいる」が55.1%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が19.7%、「あまり楽しんでいない」が13.6%となっている。

小学生の保護者は、「楽しんでいる」が55.1%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が20.5%、「あまり楽しんでいない」が12.7%となっている。

中学生の保護者は、「楽しんでいる」が55.1%で最も多く、次いで「とても楽しんでいる」が18.9%、「あまり楽しんでいない」が14.7%となっている。

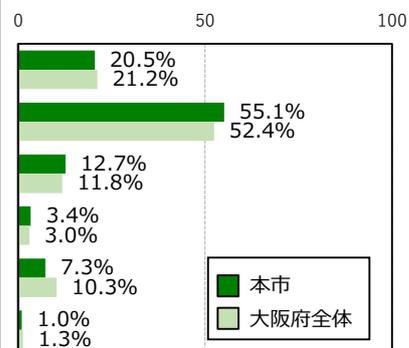
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても楽しんでいる	540名	19.7%	8,791名	20.3%
楽しんでいる	1,507名	55.1%	22,555名	52.1%
あまり楽しんでいない	373名	13.6%	5,466名	12.6%
楽しんでいない	89名	3.3%	1,411名	3.3%
わからない	199名	7.3%	4,473名	10.3%
無回答	27名	1.0%	604名	1.4%



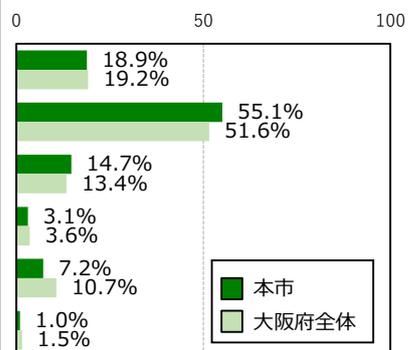
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても楽しんでいる	298名	20.5%	4,835名	21.2%
楽しんでいる	803名	55.1%	11,934名	52.4%
あまり楽しんでいない	185名	12.7%	2,699名	11.8%
楽しんでいない	50名	3.4%	680名	3.0%
わからない	107名	7.3%	2,340名	10.3%
無回答	14名	1.0%	298名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
とても楽しんでいる	242名	18.9%	3,719名	19.2%
楽しんでいる	704名	55.1%	9,994名	51.6%
あまり楽しんでいない	188名	14.7%	2,592名	13.4%
楽しんでいない	39名	3.1%	690名	3.6%
わからない	92名	7.2%	2,070名	10.7%
無回答	13名	1.0%	300名	1.5%



保護者のことについて

問21（2）将来に対して希望を持っているか

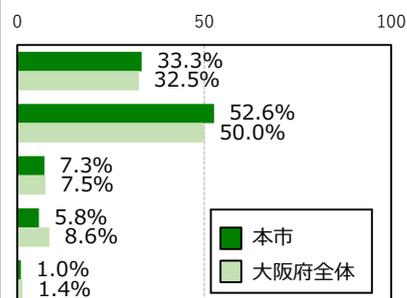
保護者全体は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が52.6%で最も多く、次いで「希望が持てる」が33.3%、「希望が持てない」が7.3%となっている。

小学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が52.2%で最も多く、次いで「希望が持てる」が33.8%、「希望が持てない」が7.6%となっている。

中学生の保護者は、「希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある」が53.1%で最も多く、次いで「希望が持てる」が32.6%、「希望が持てない」が7.0%となっている。

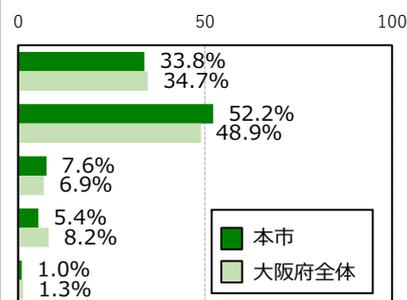
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	910名	33.3%	14,080名	32.5%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	1,439名	52.6%	21,662名	50.0%
希望が持てない	201名	7.3%	3,239名	7.5%
わからない	159名	5.8%	3,718名	8.6%
無回答	26名	1.0%	601名	1.4%



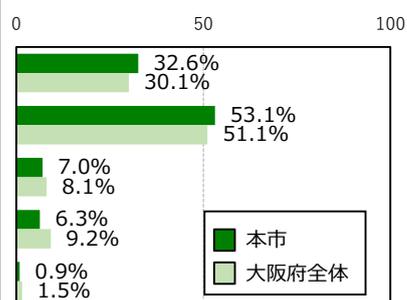
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	493名	33.8%	7,896名	34.7%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	761名	52.2%	11,142名	48.9%
希望が持てない	111名	7.6%	1,575名	6.9%
わからない	78名	5.4%	1,874名	8.2%
無回答	14名	1.0%	299名	1.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
希望が持てる	417名	32.6%	5,831名	30.1%
希望が持てる」ときもあれば、持てないときもある	678名	53.1%	9,890名	51.1%
希望が持てない	90名	7.0%	1,574名	8.1%
わからない	81名	6.3%	1,774名	9.2%
無回答	12名	0.9%	296名	1.5%



保護者のことについて

問21(3) ストレスを発散できるものがあるか

保護者全体は、「あるときもあれば、ないときもある」が45.6%で最も多く、次いで「ある」が41.6%、「ない」が7.3%となっている。

小学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が45.4%で最も多く、次いで「ある」が42.3%、「ない」が7.2%となっている。

中学生の保護者は、「あるときもあれば、ないときもある」が45.9%で最も多く、次いで「ある」が40.9%、「ない」が7.4%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問21(4) 自分が幸せだと思うか

保護者全体は、「幸せだと思う」が55.1%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が31.4%、「あまり幸せだと思わない」が5.6%となっている。

小学生の保護者は、「幸せだと思う」が54.2%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が32.9%、「あまり幸せだと思わない」が5.1%となっている。

中学生の保護者は、「幸せだと思う」が56.1%で最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が29.7%、「あまり幸せだと思わない」が6.1%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



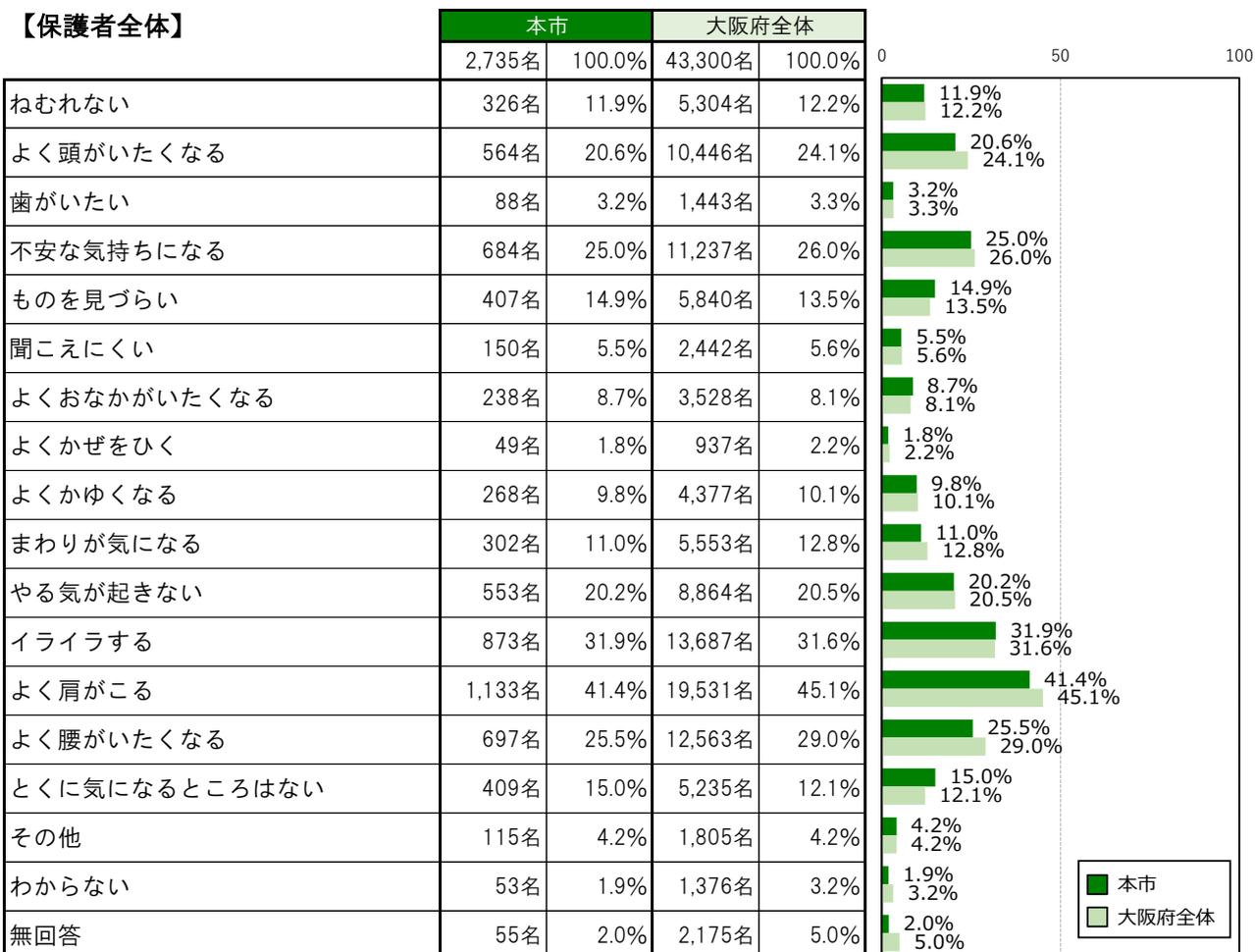
保護者のことについて

問22 自分の体や気持ちで気になること

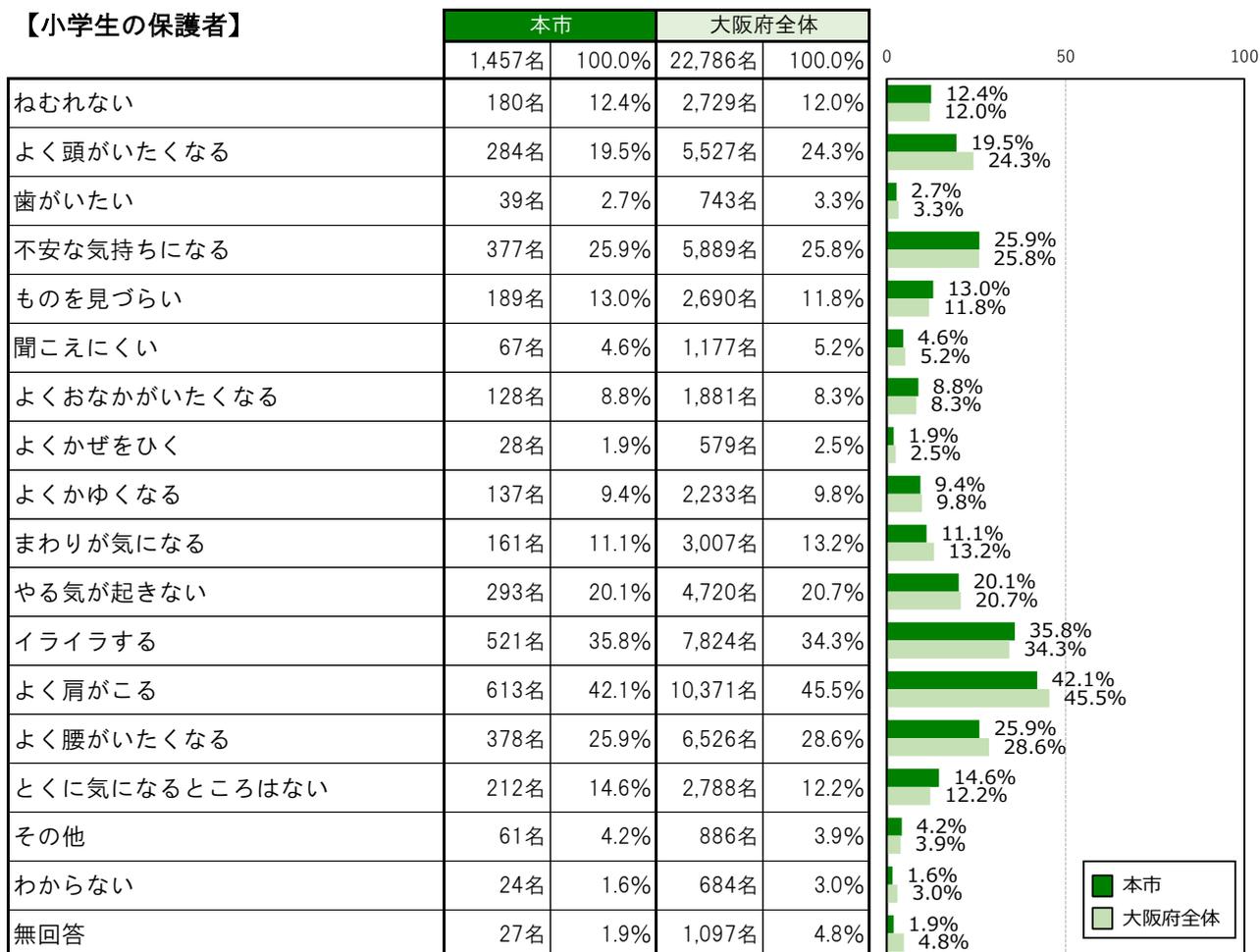
保護者全体は、「よく肩がこる」が41.4%で最も多く、次いで「イライラする」が31.9%、「よく腰がいたくなる」が25.5%、「不安な気持ちになる」が25.0%となっている。

小学生の保護者は、「よく肩がこる」が42.1%で最も多く、次いで「イライラする」が35.8%、「不安な気持ちになる」、「よく腰がいたくなる」がそれぞれ25.9%、「やる気が起きない」が20.1%となっている。

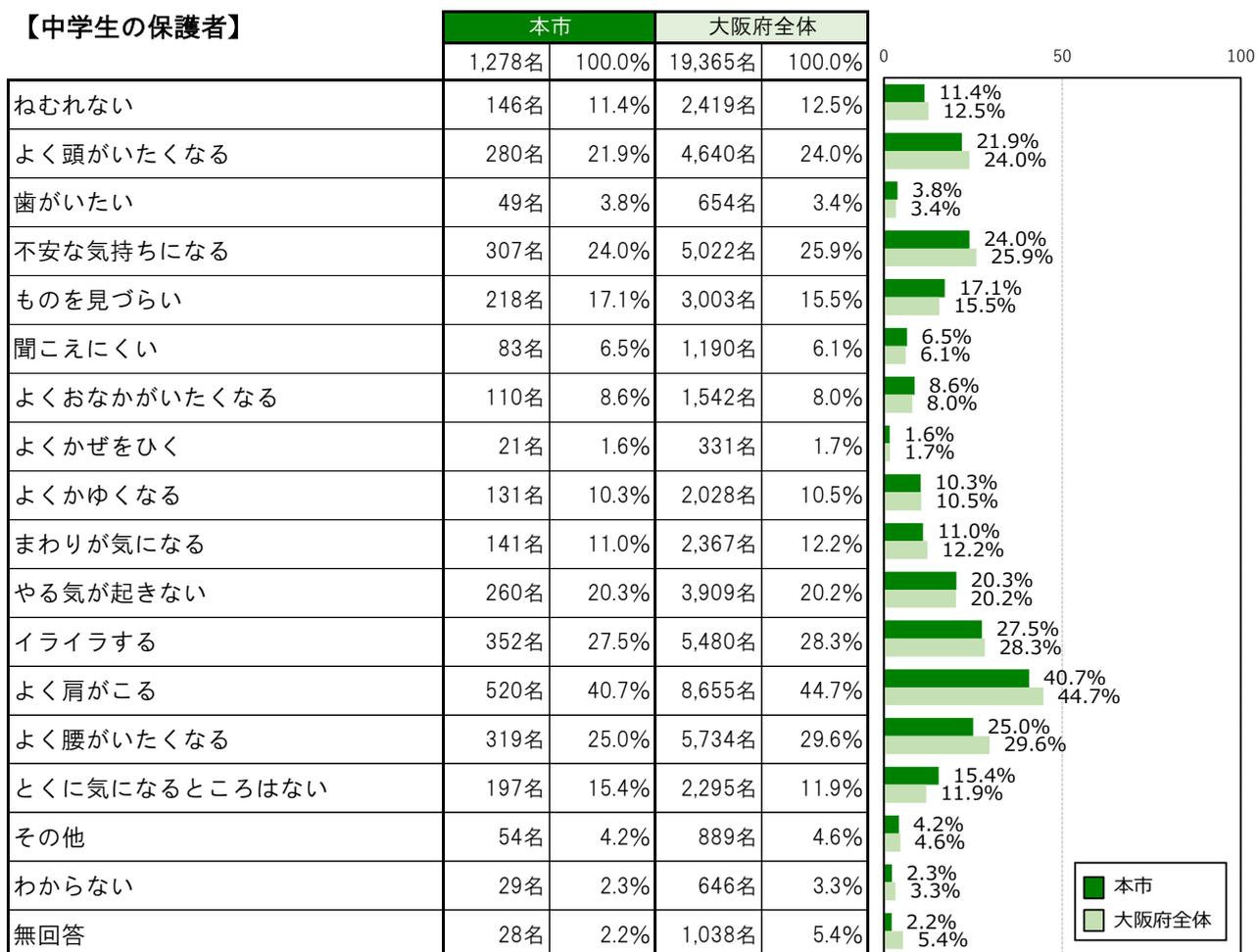
中学生の保護者は、「よく肩がこる」が40.7%で最も多く、次いで「イライラする」が27.5%、「よく腰がいたくなる」が25.0%、「不安な気持ちになる」が24.0%となっている。



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助

保護者全体は、「利用したことがない」が82.8%で最も多く、次いで「現在利用している」が8.8%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.8%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が85.0%で最も多く、次いで「現在利用している」が7.3%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が5.6%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が80.3%で最も多く、次いで「現在利用している」が10.5%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が6.0%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはない」）が21.6ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が22.6ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が20.5ポイント高くなっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 a 就学援助 <利用したことがない理由>

保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が93.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が94.4%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.2%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が93.2%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.2%となっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護

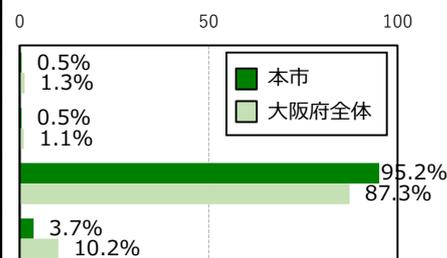
保護者全体は、「利用したことがない」が95.2%で最も多く、次いで「現在利用している」、「現在利用していないが、以前利用したことがある」がそれぞれ0.5%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が95.6%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.5%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が94.8%で最も多く、次いで「現在利用している」が0.6%となっている。

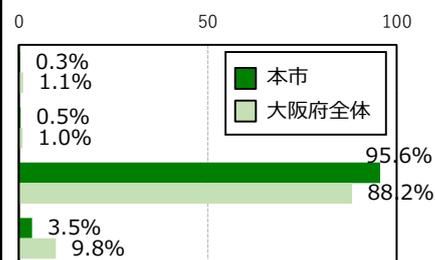
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	13名	0.5%	580名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	15名	0.5%	497名	1.1%
利用したことがない	2,605名	95.2%	37,793名	87.3%
無回答	102名	3.7%	4,430名	10.2%



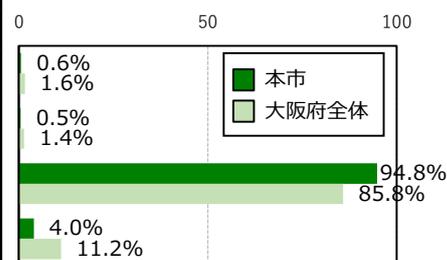
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	5名	0.3%	254名	1.1%
現在利用していないが、以前利用したことがある	8名	0.5%	218名	1.0%
利用したことがない	1,393名	95.6%	20,090名	88.2%
無回答	51名	3.5%	2,224名	9.8%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	8名	0.6%	316名	1.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	7名	0.5%	267名	1.4%
利用したことがない	1,212名	94.8%	16,608名	85.8%
無回答	51名	4.0%	2,174名	11.2%



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはない」）が21.9ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が22.7ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が21.1ポイント高くなっている。



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 b 生活保護 <利用したことがない理由>

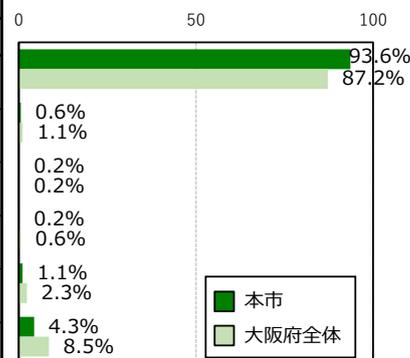
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから」が93.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから」が94.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が0.9%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから」が92.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.3%となっている。

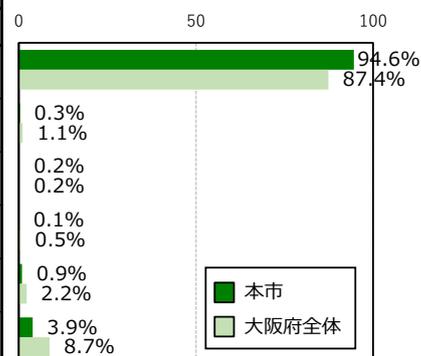
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから	2,439名	93.6%	32,964名	87.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	15名	0.6%	434名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	5名	0.2%	73名	0.2%
利用したいが、手続がわからなかったり、利用しにくいから	6名	0.2%	230名	0.6%
それ以外の理由	28名	1.1%	867名	2.3%
無回答	112名	4.3%	3,225名	8.5%



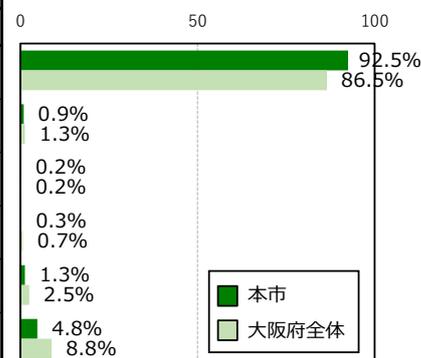
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから	1,318名	94.6%	17,567名	87.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	4名	0.3%	211名	1.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	0.2%	31名	0.2%
利用したいが、手続がわからなかったり、利用しにくいから	2名	0.1%	104名	0.5%
それ以外の理由	12名	0.9%	433名	2.2%
無回答	54名	3.9%	1,744名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから	1,121名	92.5%	14,367名	86.5%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	11名	0.9%	219名	1.3%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2名	0.2%	40名	0.2%
利用したいが、手続がわからなかったり、利用しにくいから	4名	0.3%	117名	0.7%
それ以外の理由	16名	1.3%	411名	2.5%
無回答	58名	4.8%	1,454名	8.8%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口

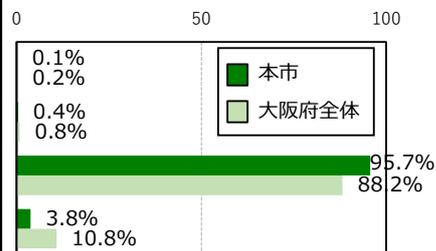
保護者全体は、「利用したことがない」が95.7%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.4%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が96.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.4%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が95.3%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.5%となっている。

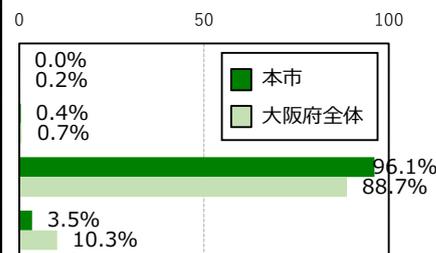
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	2名	0.1%	101名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	12名	0.4%	338名	0.8%
利用したことがない	2,618名	95.7%	38,173名	88.2%
無回答	103名	3.8%	4,688名	10.8%



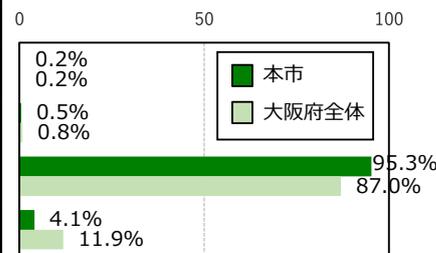
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	-	-	55名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	6名	0.4%	163名	0.7%
利用したことがない	1,400名	96.1%	20,220名	88.7%
無回答	51名	3.5%	2,348名	10.3%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
現在利用している	2名	0.2%	44名	0.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	6名	0.5%	162名	0.8%
利用したことがない	1,218名	95.3%	16,851名	87.0%
無回答	52名	4.1%	2,308名	11.9%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 c 生活困窮者の自立支援相談窓口 <利用したことがない理由>

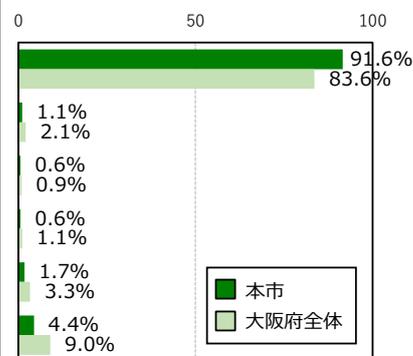
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.7%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が92.9%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.0%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.3%となっている。

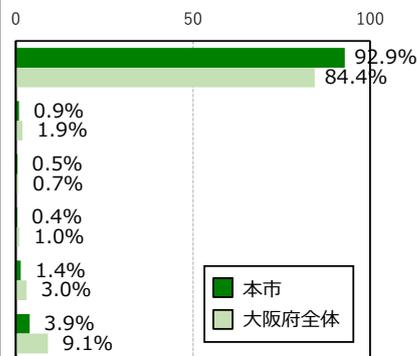
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	2,399名	91.6%	31,919名	83.6%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	28名	1.1%	790名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	15名	0.6%	332名	0.9%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	17名	0.6%	410名	1.1%
それ以外の理由	44名	1.7%	1,275名	3.3%
無回答	115名	4.4%	3,447名	9.0%



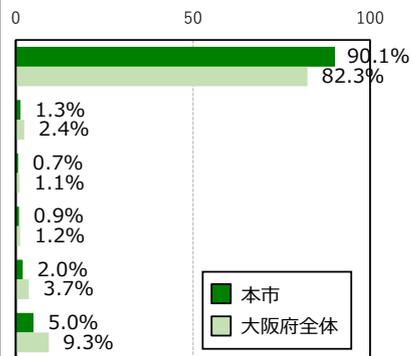
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,301名	92.9%	17,059名	84.4%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	12名	0.9%	382名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	7名	0.5%	134名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	6名	0.4%	193名	1.0%
それ以外の理由	20名	1.4%	609名	3.0%
無回答	54名	3.9%	1,843名	9.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,098名	90.1%	13,863名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	16名	1.3%	397名	2.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	8名	0.7%	192名	1.1%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	11名	0.9%	204名	1.2%
それ以外の理由	24名	2.0%	625名	3.7%
無回答	61名	5.0%	1,570名	9.3%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当（ひとり親世帯のみ）

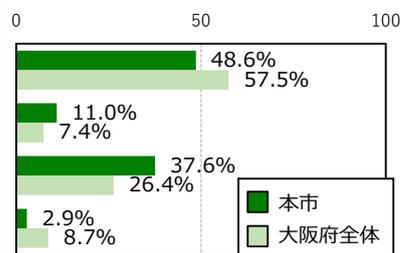
保護者全体は、「現在利用している」が48.6%で最も多く、次いで「利用したことがない」が37.6%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が11.0%となっている。

小学生の保護者は、「現在利用している」が50.5%で最も多く、次いで「利用したことがない」が36.6%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が9.7%となっている。

中学生の保護者は、「現在利用している」が47.0%で最も多く、次いで「利用したことがない」が38.5%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が12.0%となっている。

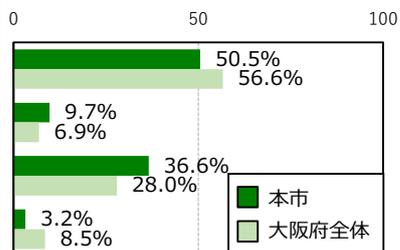
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	102名	48.6%	2,948名	57.5%
現在利用していないが、以前利用したことがある	23名	11.0%	380名	7.4%
利用したことがない	79名	37.6%	1,354名	26.4%
無回答	6名	2.9%	444名	8.7%



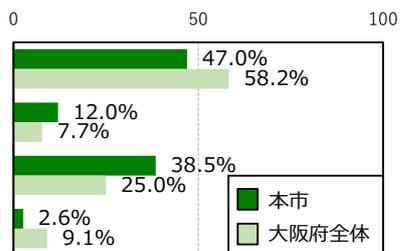
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	47名	50.5%	1,385名	56.6%
現在利用していないが、以前利用したことがある	9名	9.7%	168名	6.9%
利用したことがない	34名	36.6%	686名	28.0%
無回答	3名	3.2%	208名	8.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	55名	47.0%	1,483名	58.2%
現在利用していないが、以前利用したことがある	14名	12.0%	196名	7.7%
利用したことがない	45名	38.5%	636名	25.0%
無回答	3名	2.6%	232名	9.1%



※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

※ ひとり親世帯のみで集計。

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「利用したことがない」（2016年度調査では「受けたことはない」）が9.8ポイント高くなっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が10.5ポイント高くなっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が9.2ポイント高くなっている。



※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 d 児童扶養手当 <利用したことがない理由> (ひとり親世帯のみ)

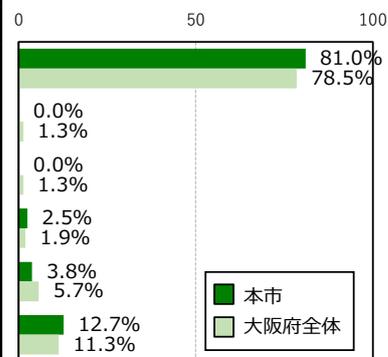
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから」が81.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.8%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから」が82.4%で最も多く、次いで「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」、「それ以外の理由」がそれぞれ2.9%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから」が80.0%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が4.4%となっている。

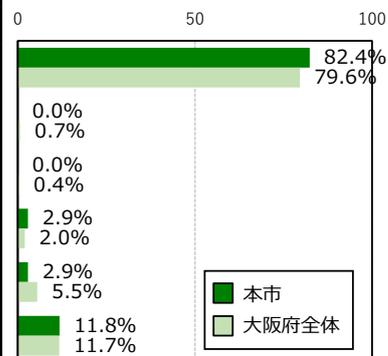
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから	79名	100.0%	1,354名	100.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	-	-	17名	1.3%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	18名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	2名	2.5%	26名	1.9%
それ以外の理由	3名	3.8%	77名	5.7%
無回答	10名	12.7%	153名	11.3%



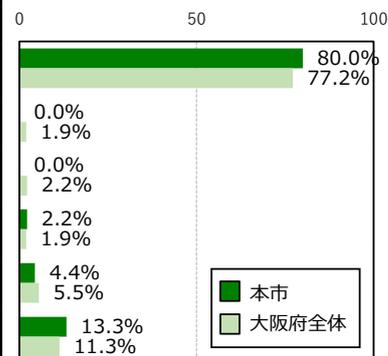
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから	34名	100.0%	686名	100.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	-	-	5名	0.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	3名	0.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	2.9%	14名	2.0%
それ以外の理由	1名	2.9%	38名	5.5%
無回答	4名	11.8%	80名	11.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思っから	45名	100.0%	636名	100.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	-	-	12名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	-	-	14名	2.2%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	1名	2.2%	12名	1.9%
それ以外の理由	2名	4.4%	35名	5.5%
無回答	6名	13.3%	72名	11.3%



※ ひとり親世帯のみで集計。

保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター

保護者全体は、「利用したことがない」が95.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.7%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が95.6%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.5%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が94.5%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が0.9%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 e 母子家庭等就業・自立支援センター <利用したことがない理由>

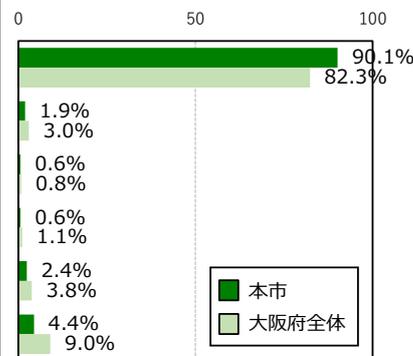
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.4%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.9%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.4%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.1%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が3.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が2.5%となっている。

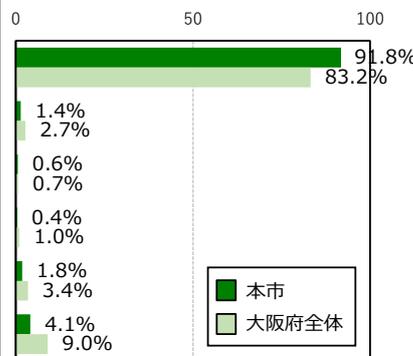
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	2,343名	90.1%	31,197名	82.3%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	49名	1.9%	1,139名	3.0%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	15名	0.6%	316名	0.8%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	16名	0.6%	401名	1.1%
それ以外の理由	63名	2.4%	1,448名	3.8%
無回答	115名	4.4%	3,403名	9.0%



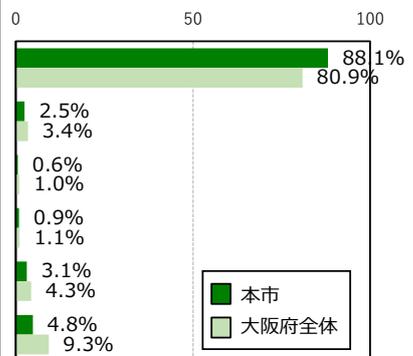
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,279名	91.8%	16,718名	83.2%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	19名	1.4%	540名	2.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	8名	0.6%	138名	0.7%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	5名	0.4%	203名	1.0%
それ以外の理由	25名	1.8%	686名	3.4%
無回答	57名	4.1%	1,818名	9.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,064名	88.1%	13,516名	80.9%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	30名	2.5%	572名	3.4%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	7名	0.6%	169名	1.0%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	11名	0.9%	188名	1.1%
それ以外の理由	38名	3.1%	714名	4.3%
無回答	58名	4.8%	1,554名	9.3%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金

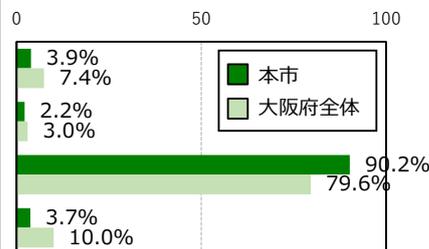
保護者全体は、「利用したことがない」が90.2%で最も多く、次いで「現在利用している」が3.9%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.2%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が91.5%で最も多く、次いで「現在利用している」が3.2%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.9%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が88.7%で最も多く、次いで「現在利用している」が4.8%、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が2.5%となっている。

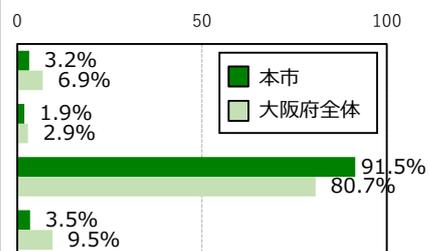
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	107名	3.9%	3,205名	7.4%
現在利用していないが、以前利用したことがある	59名	2.2%	1,293名	3.0%
利用したことがない	2,467名	90.2%	34,472名	79.6%
無回答	102名	3.7%	4,330名	10.0%



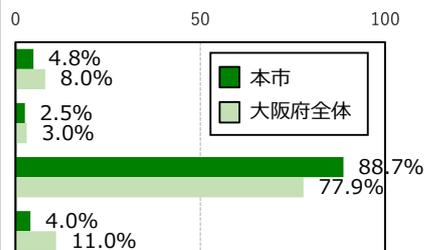
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	46名	3.2%	1,562名	6.9%
現在利用していないが、以前利用したことがある	27名	1.9%	672名	2.9%
利用したことがない	1,333名	91.5%	18,390名	80.7%
無回答	51名	3.5%	2,162名	9.5%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	61名	4.8%	1,557名	8.0%
現在利用していないが、以前利用したことがある	32名	2.5%	588名	3.0%
利用したことがない	1,134名	88.7%	15,094名	77.9%
無回答	51名	4.0%	2,126名	11.0%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 f 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金
 <利用したことがない理由>

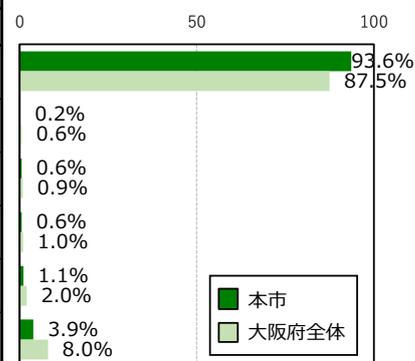
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が93.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.1%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が94.5%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が92.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.2%となっている。

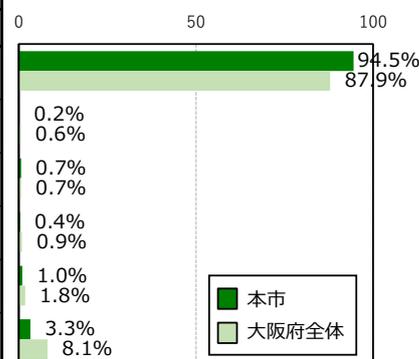
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	2,467名	100.0%	34,472名	100.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	2,310名	93.6%	30,150名	87.5%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	5名	0.2%	201名	0.6%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	15名	0.6%	322名	0.9%
それ以外の理由	14名	0.6%	336名	1.0%
無回答	27名	1.1%	696名	2.0%
無回答	96名	3.9%	2,767名	8.0%



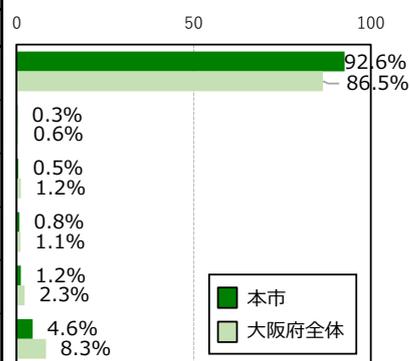
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,333名	100.0%	18,390名	100.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	1,260名	94.5%	16,160名	87.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	2名	0.2%	102名	0.6%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	9名	0.7%	133名	0.7%
それ以外の理由	5名	0.4%	168名	0.9%
無回答	13名	1.0%	338名	1.8%
無回答	44名	3.3%	1,489名	8.1%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	人数	割合	人数	割合
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,134名	100.0%	15,094名	100.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	1,050名	92.6%	13,056名	86.5%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	3名	0.3%	98名	0.6%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	6名	0.5%	182名	1.2%
それ以外の理由	9名	0.8%	162名	1.1%
無回答	14名	1.2%	343名	2.3%
無回答	52名	4.6%	1,253名	8.3%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）

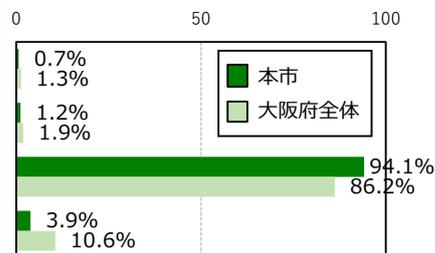
保護者全体は、「利用したことがない」が94.1%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.2%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が94.6%で最も多く、次いで「現在利用している」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が93.7%で最も多く、次いで「現在利用していないが、以前利用したことがある」が1.5%となっている。

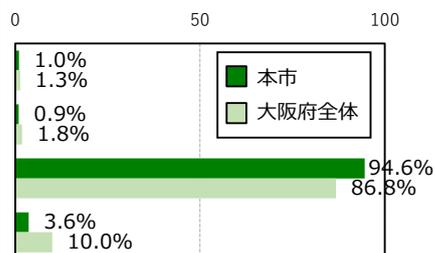
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	20名	0.7%	569名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	32名	1.2%	814名	1.9%
利用したことがない	2,575名	94.1%	37,313名	86.2%
無回答	108名	3.9%	4,604名	10.6%



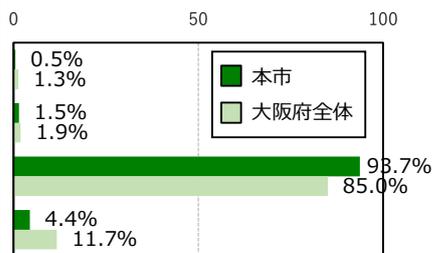
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	14名	1.0%	298名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	13名	0.9%	419名	1.8%
利用したことがない	1,378名	94.6%	19,782名	86.8%
無回答	52名	3.6%	2,287名	10.0%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	名	割合	名	割合
現在利用している	6名	0.5%	258名	1.3%
現在利用していないが、以前利用したことがある	19名	1.5%	372名	1.9%
利用したことがない	1,197名	93.7%	16,467名	85.0%
無回答	56名	4.4%	2,268名	11.7%



保護者のことについて

問23 支援制度の利用状況 g 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）
 <利用したことがない理由>

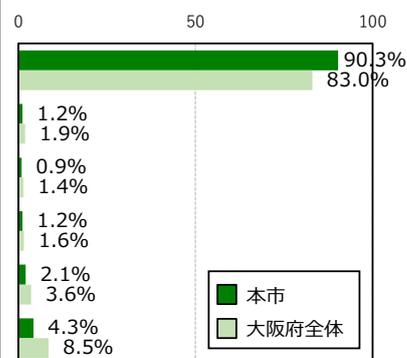
保護者全体は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が90.3%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.1%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」がそれぞれ1.2%となっている。

小学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が91.8%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が1.5%、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」が1.2%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.0%となっている。

中学生の保護者は、「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから」が88.6%で最も多く、次いで「それ以外の理由」が2.8%、「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が1.3%となっている。

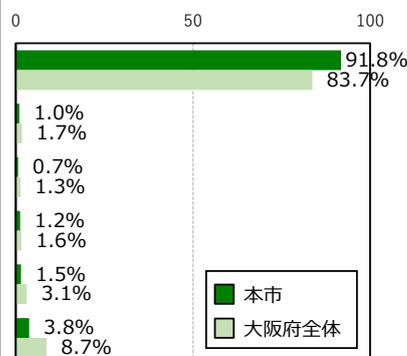
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	2,575名	100.0%	37,313名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	2,326名	90.3%	30,971名	83.0%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	30名	1.2%	708名	1.9%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	24名	0.9%	529名	1.4%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	30名	1.2%	611名	1.6%
それ以外の理由	53名	2.1%	1,331名	3.6%
無回答	112名	4.3%	3,163名	8.5%



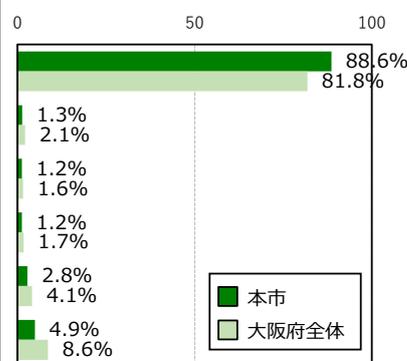
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,378名	100.0%	19,782名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,265名	91.8%	16,548名	83.7%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	14名	1.0%	343名	1.7%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	10名	0.7%	258名	1.3%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	16名	1.2%	308名	1.6%
それ以外の理由	20名	1.5%	613名	3.1%
無回答	53名	3.8%	1,712名	8.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,197名	100.0%	16,467名	100.0%
制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だと思うから	1,061名	88.6%	13,474名	81.8%
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	16名	1.3%	350名	2.1%
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	14名	1.2%	263名	1.6%
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	14名	1.2%	284名	1.7%
それ以外の理由	33名	2.8%	675名	4.1%
無回答	59名	4.9%	1,421名	8.6%



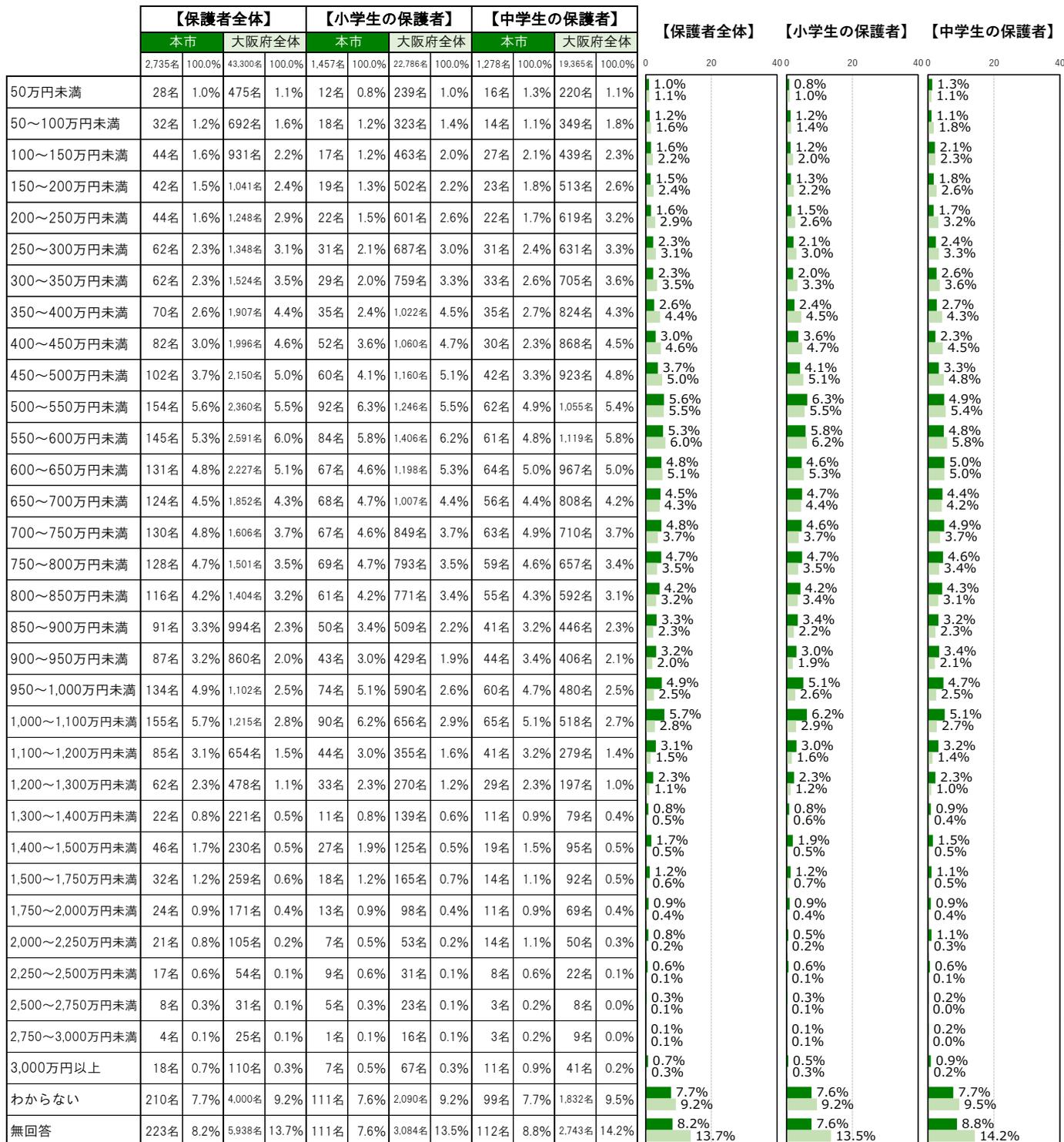
保護者のことについて

問24 世帯収入

保護者全体は、「1,000～1,100万円未満」が5.7%で最も多く、次いで「500～550万円未満」が5.6%、「550～600万円未満」が5.3%、「950～1,000万円未満」が4.9%となっている。

小学生の保護者は、「500～550万円未満」が6.3%で最も多く、次いで「1,000～1,100万円未満」が6.2%、「550～600万円未満」が5.8%、「950～1,000万円未満」が5.1%となっている。

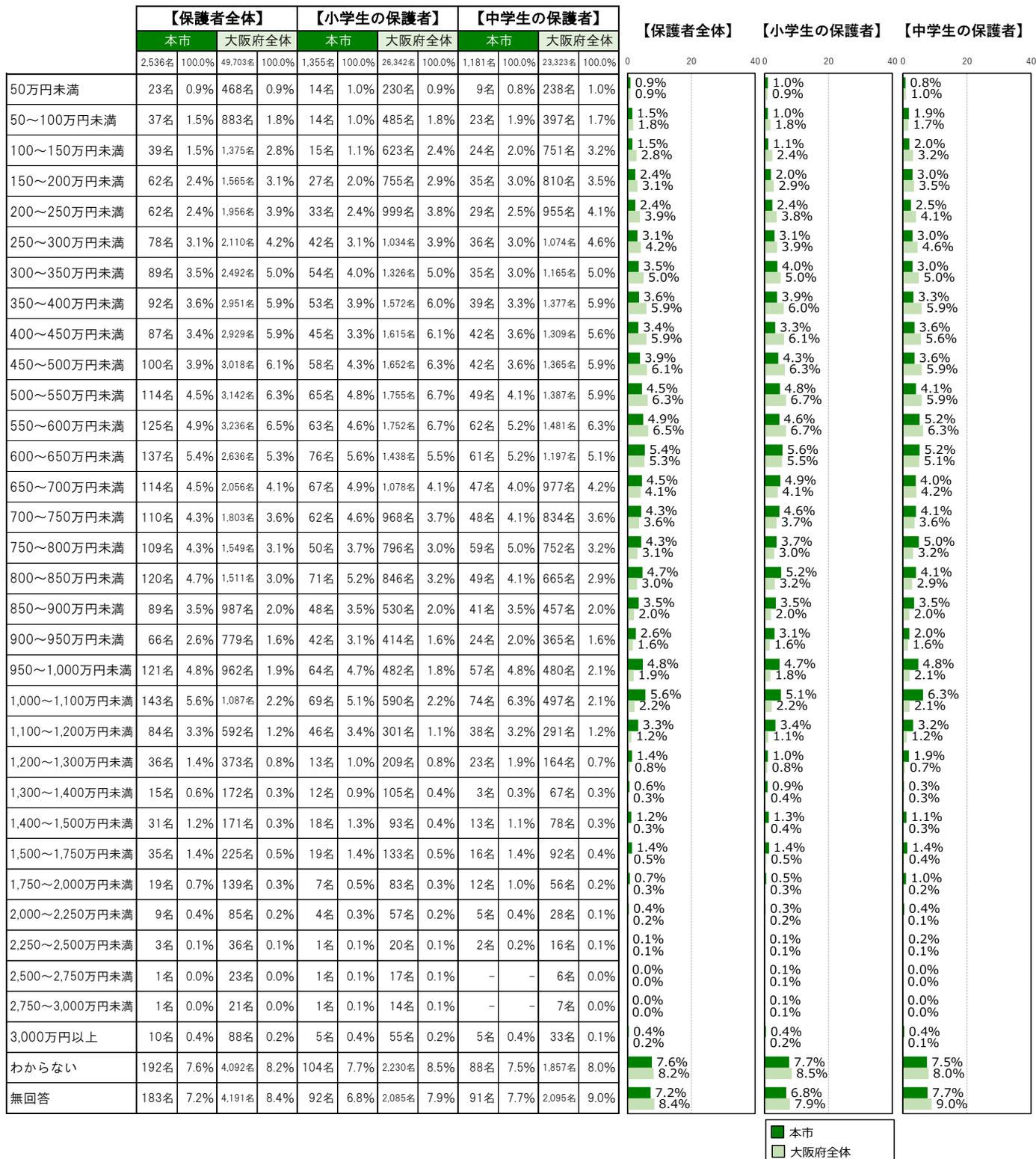
中学生の保護者は、「1,000～1,100万円未満」が5.1%で最も多く、次いで「600～650万円未満」が5.0%、「500～550万円未満」、「700～750万円未満」がそれぞれ4.9%となっている。



■ 本市
■ 大阪府全体

●2016年度 調査結果【参考データ】

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「300～350万円未満」が1.2ポイント低くなっている。
 小学生の保護者は、「300～350万円未満」が2.0ポイント低くなっている。
 中学生の保護者は、「900～950万円未満」が1.4ポイント高くなっている。



■ 本市
 ■ 大阪府全体

世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要があり、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。

出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

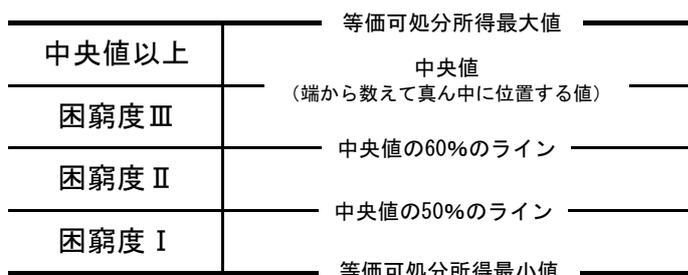


図 困窮度の分類と基準

中央値は347万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は13.5%であった。なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率は15.9%であった。

【保護者全体】



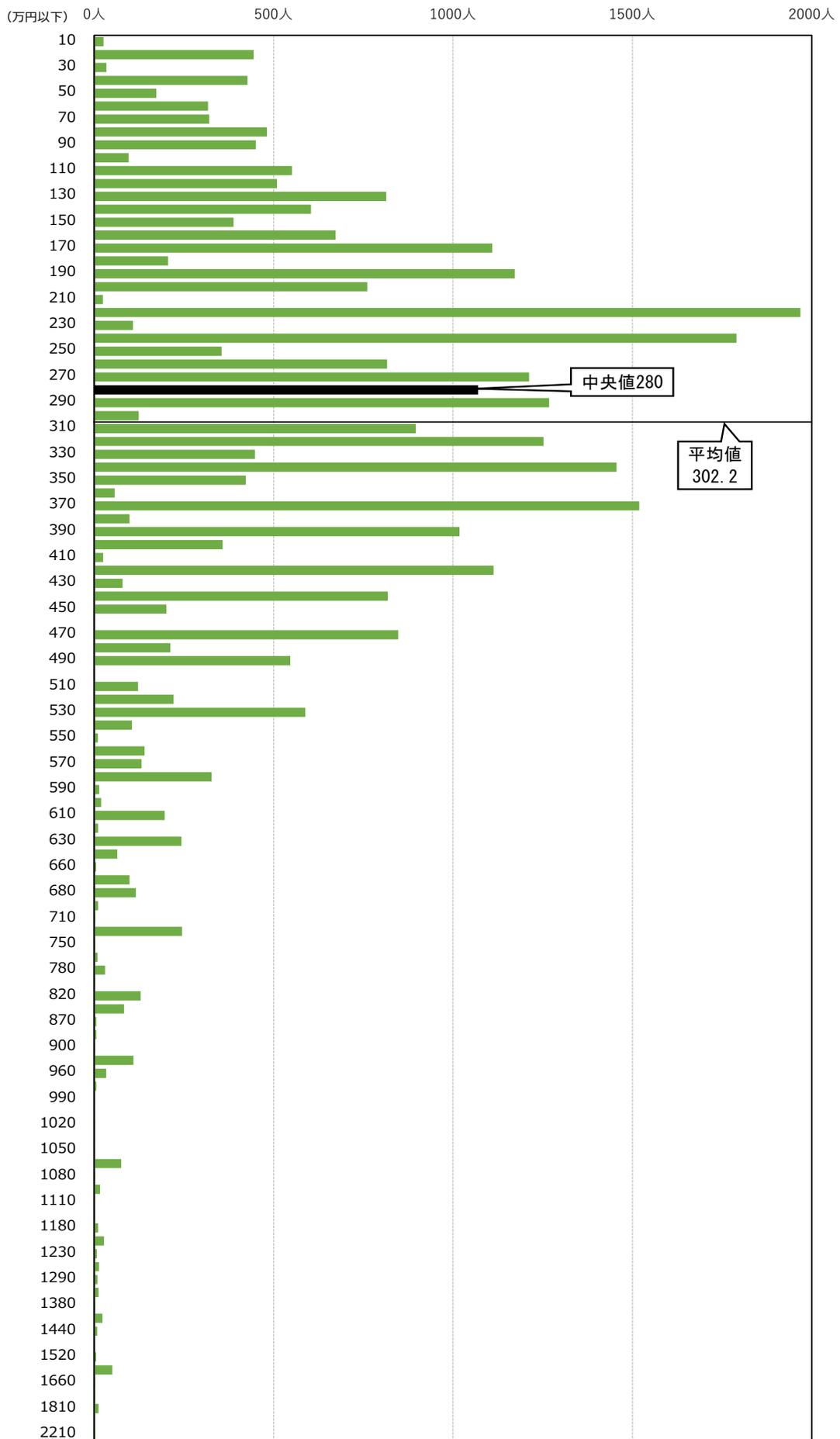
保護者全体は、「中央値以上」が49.9%で最も多く、次いで「困窮度Ⅲ」が32.8%、「困窮度Ⅰ」が13.5%、「困窮度Ⅱ」が3.8%となっている。

●2016年度 調査結果〔参考データ〕

2016年度調査と比較すると、保護者全体は、「困窮度Ⅲ」が6.2ポイント高くなっている。

【保護者全体】





※ 2016年度調査では、中央値255万円、平均値272.7万円であった。
 注) 2023年度調査ではグラフ作成方法を改訂している。

図 大阪府内全自治体における等価可処分所得の分布

保護者のことについて

問25 同居家族が新型コロナウイルスに感染した延べ回数

保護者全体は、「いない」が30.1%で最も多く、次いで「1回」が16.5%、「3回」が14.2%、「2回」が14.1%となっている。

小学生の保護者は、「いない」が31.0%で最も多く、次いで「1回」が16.6%、「2回」が13.7%、「3回」、「4回」がそれぞれ12.8%となっている。

中学生の保護者は、「いない」が29.2%で最も多く、次いで「1回」が16.4%、「3回」が15.8%、「2回」が14.7%となっている。

【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



保護者のことについて

問26 (1) 住居の間取り

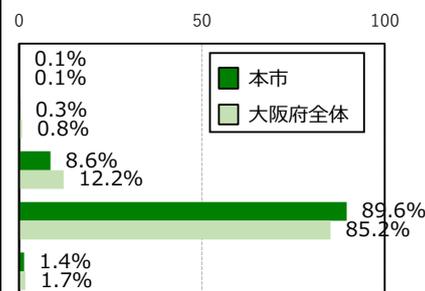
保護者全体は、「居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上」が89.6%で最も多く、次いで「居室2部屋（2K、2DK、2LDK）」が8.6%となっている。

小学生の保護者は、「居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上」が89.2%で最も多く、次いで「居室2部屋（2K、2DK、2LDK）」が9.0%となっている。

中学生の保護者は、「居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上」が90.1%で最も多く、次いで「居室2部屋（2K、2DK、2LDK）」が8.1%となっている。

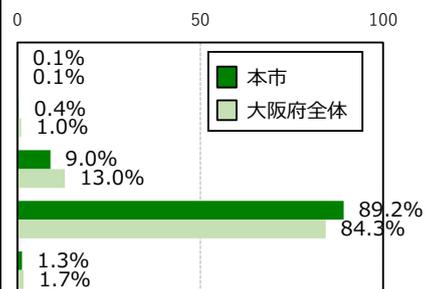
【保護者全体】

	本市		大阪府全体	
	2,735名	100.0%	43,300名	100.0%
ワンルーム	3名	0.1%	43名	0.1%
居室1部屋（1K、1DK、1LDK）	8名	0.3%	358名	0.8%
居室2部屋（2K、2DK、2LDK）	234名	8.6%	5,272名	12.2%
居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上	2,451名	89.6%	36,876名	85.2%
無回答	39名	1.4%	751名	1.7%



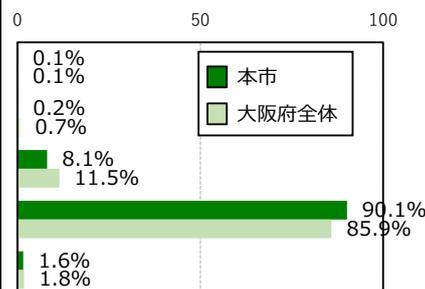
【小学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,457名	100.0%	22,786名	100.0%
ワンルーム	2名	0.1%	21名	0.1%
居室1部屋（1K、1DK、1LDK）	6名	0.4%	217名	1.0%
居室2部屋（2K、2DK、2LDK）	131名	9.0%	2,951名	13.0%
居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上	1,299名	89.2%	19,206名	84.3%
無回答	19名	1.3%	391名	1.7%



【中学生の保護者】

	本市		大阪府全体	
	1,278名	100.0%	19,365名	100.0%
ワンルーム	1名	0.1%	21名	0.1%
居室1部屋（1K、1DK、1LDK）	2名	0.2%	134名	0.7%
居室2部屋（2K、2DK、2LDK）	103名	8.1%	2,233名	11.5%
居室3部屋（3K、3DK、3LDK）以上	1,152名	90.1%	16,638名	85.9%
無回答	20名	1.6%	339名	1.8%



保護者のことについて

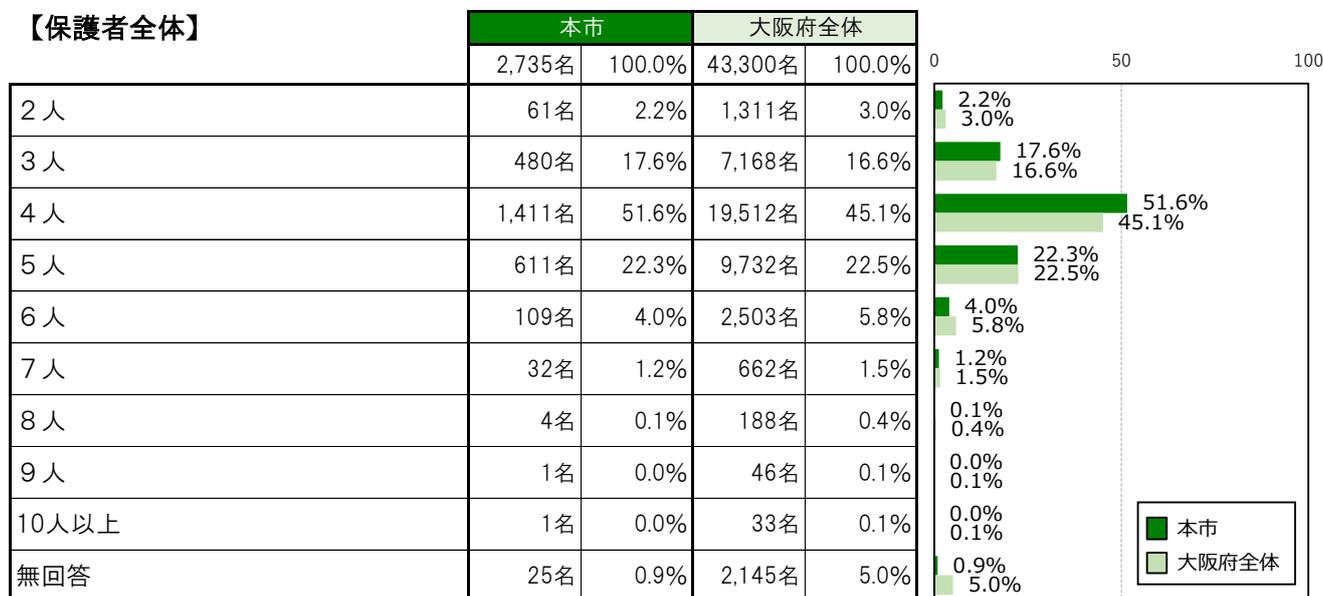
問26(2) 同居人数

保護者全体は、「4人」が51.6%で最も多く、次いで「5人」が22.3%、「3人」が17.6%、「6人」が4.0%となっている。

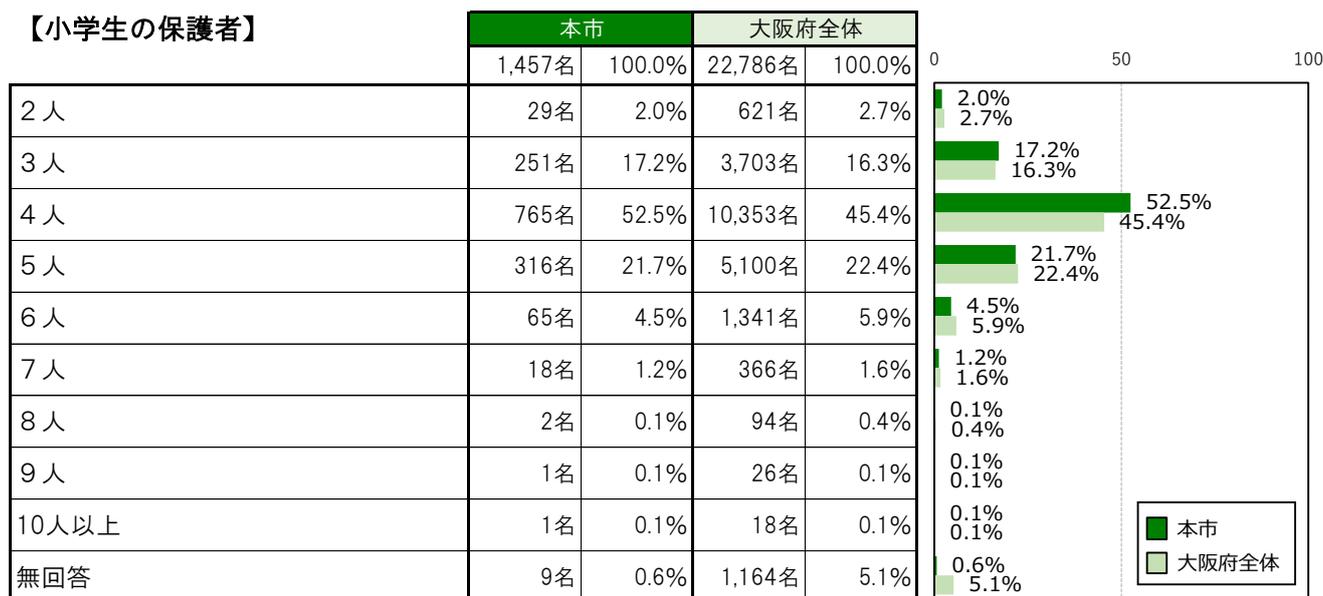
小学生の保護者は、「4人」が52.5%で最も多く、次いで「5人」が21.7%、「3人」が17.2%、「6人」が4.5%となっている。

中学生の保護者は、「4人」が50.5%で最も多く、次いで「5人」が23.1%、「3人」が17.9%、「6人」が3.4%となっている。

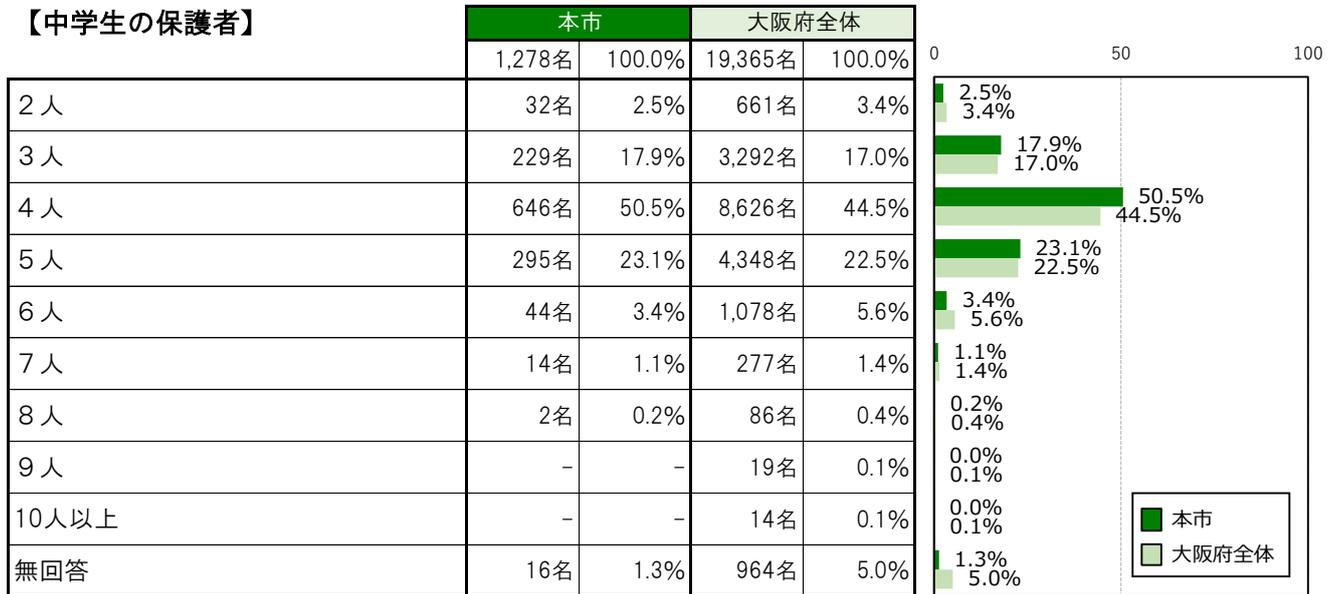
【保護者全体】



【小学生の保護者】



【中学生の保護者】



3. クロス集計および分析結果

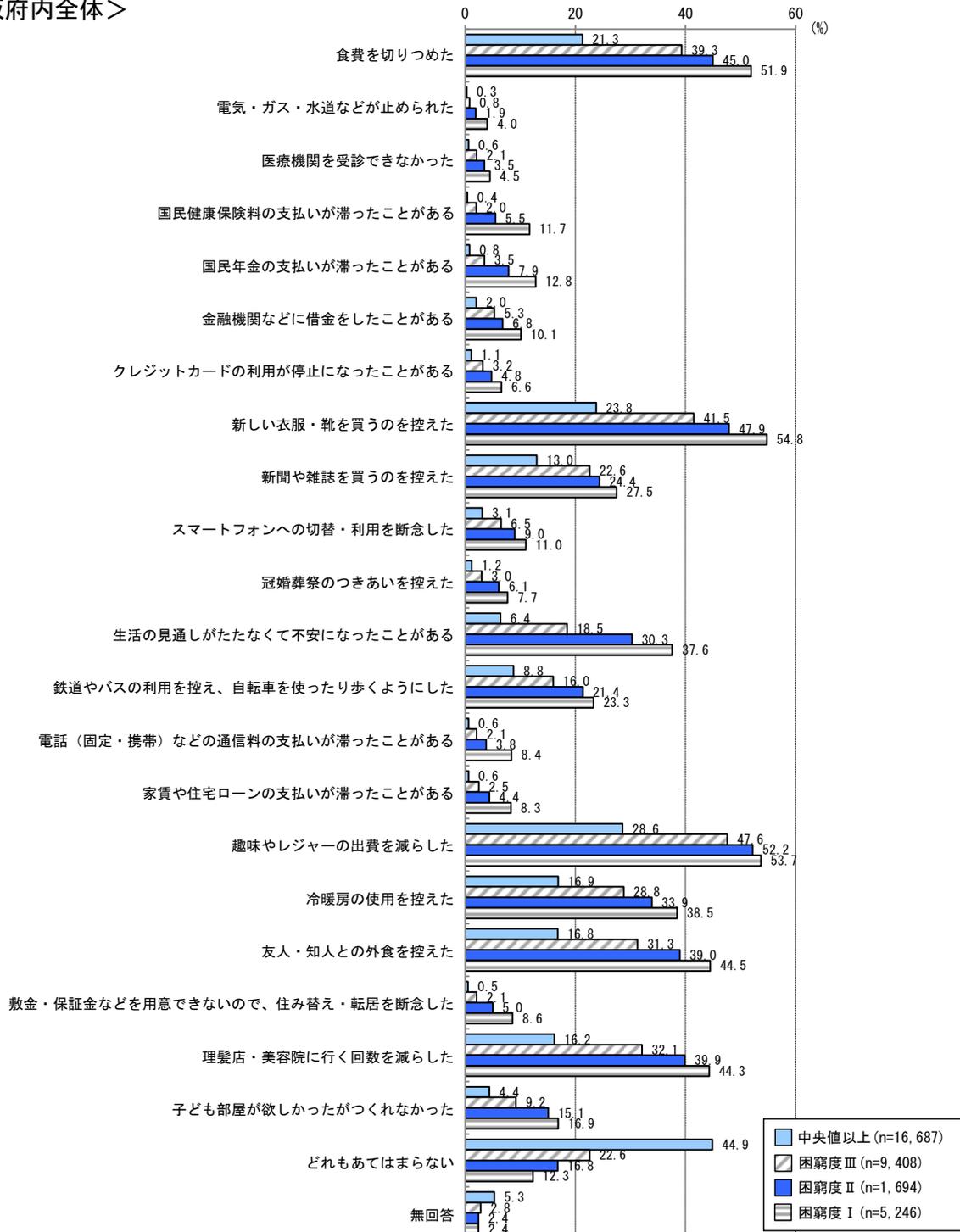
以下のグラフは、主に困窮度別に示している。大阪府内全自治体の傾向については記述していないが、多くにおいて、本自治体調査結果と同様の傾向が見られる。さらに顕著な傾向が見られるものもある。

3-1. 基本情報

(1) 経済状況

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<豊中市>

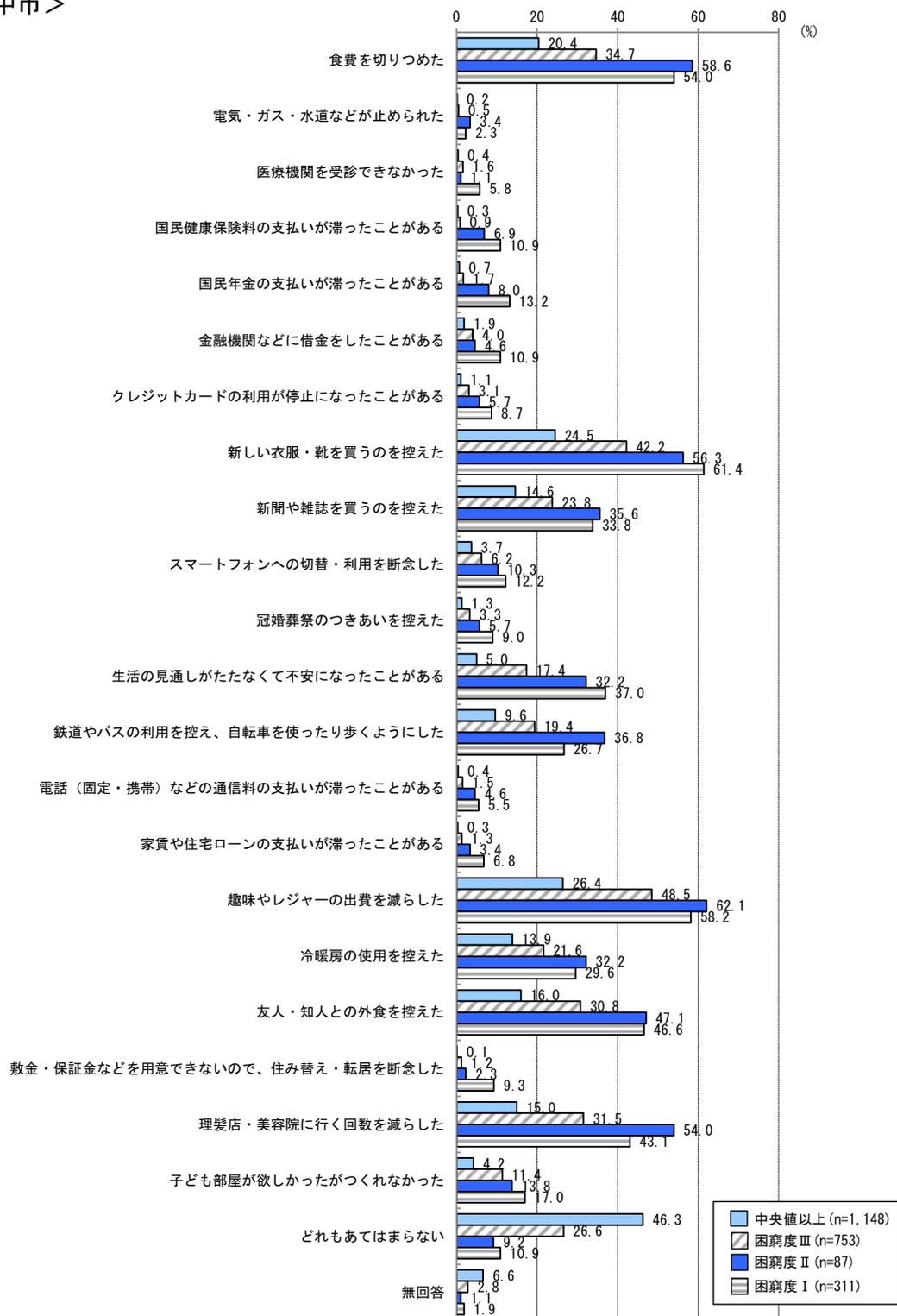
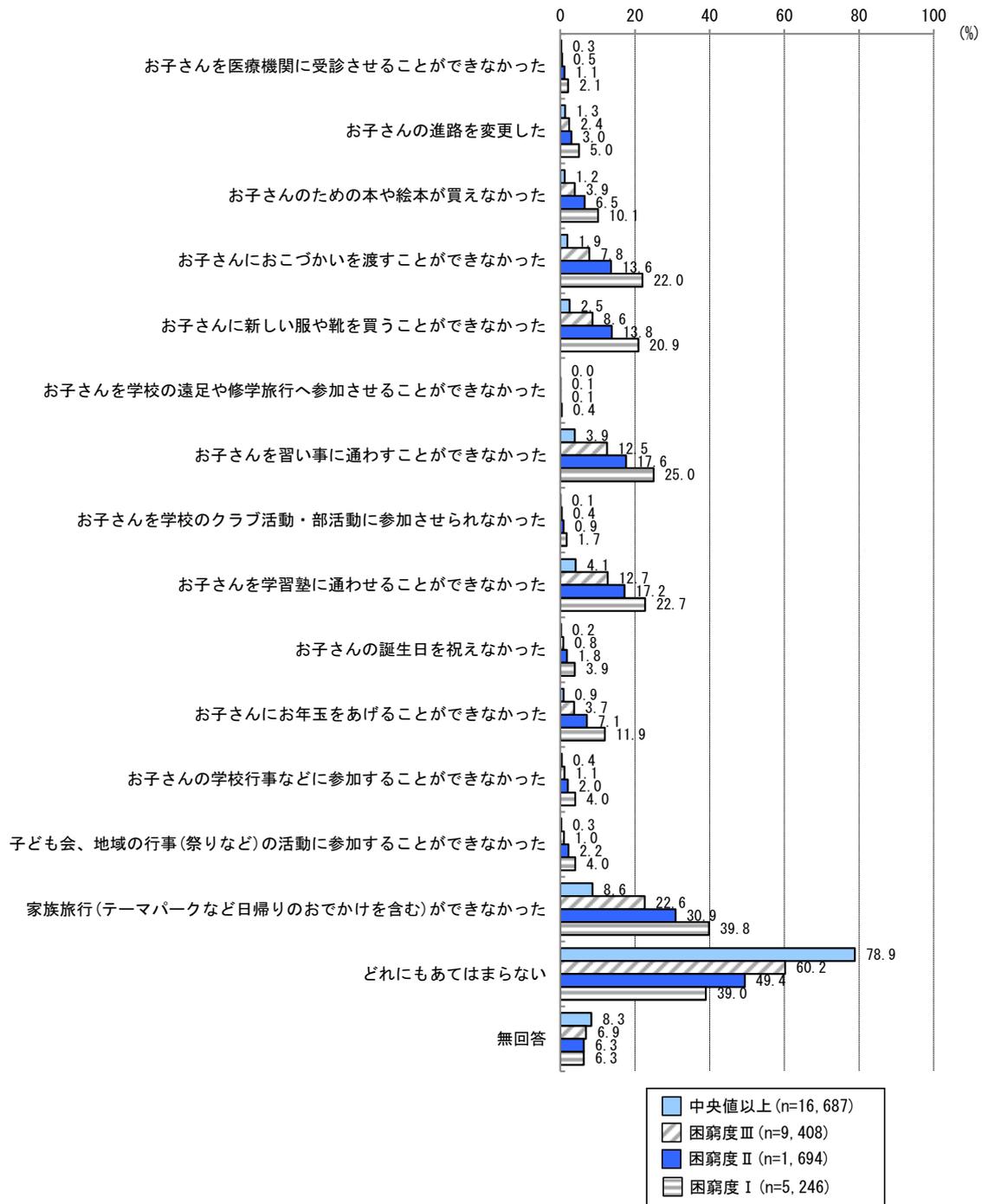


図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験

困窮度別に経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した」が9.3%（中央値以上群に対して93倍）、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」が10.9%（同じく36.3倍）、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」が6.8%（同じく22.7倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また「どれもあてはまらない」は中央値以上群で46.3%に対して、困窮度Ⅰ群において10.9%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<豊中市>

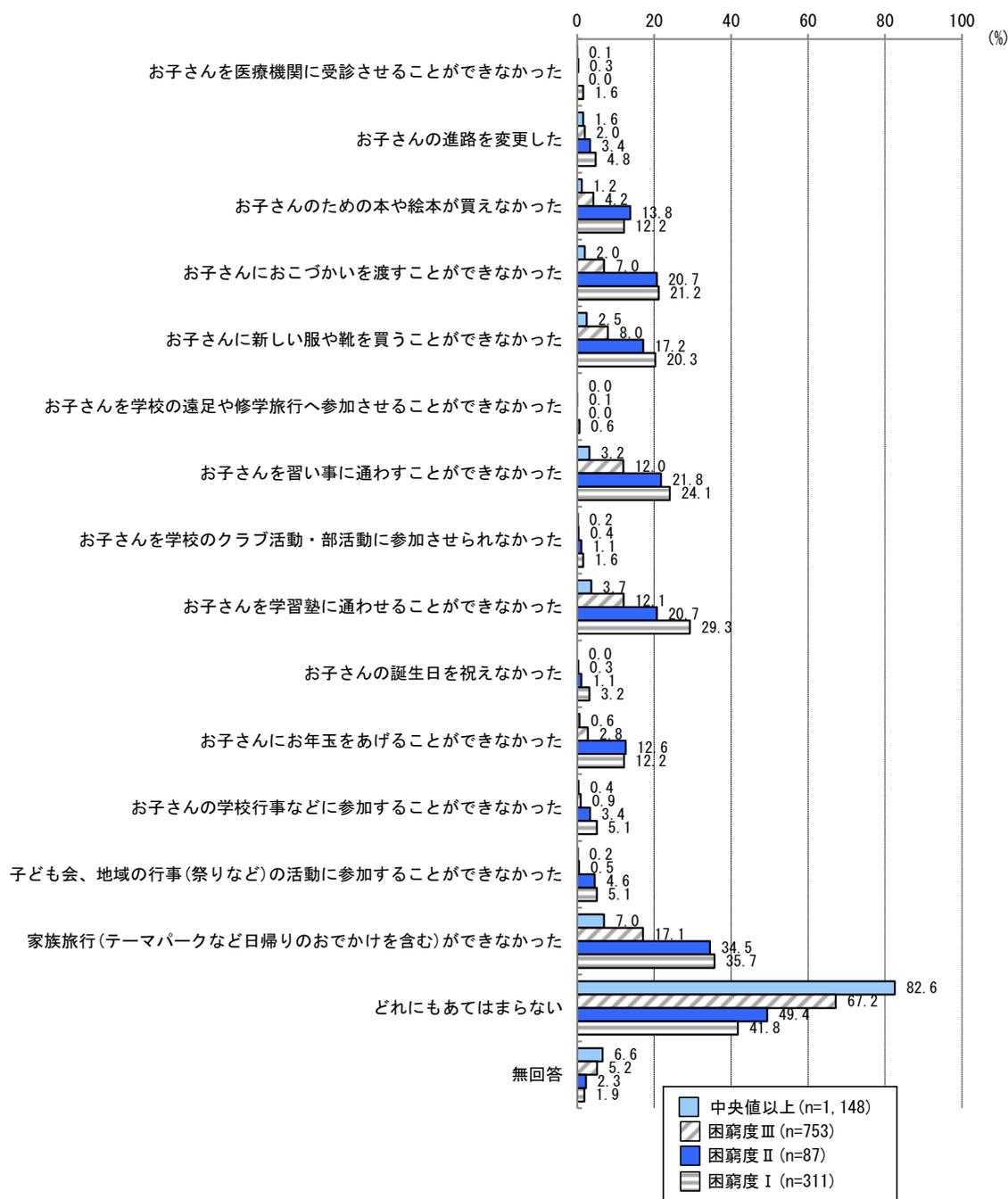


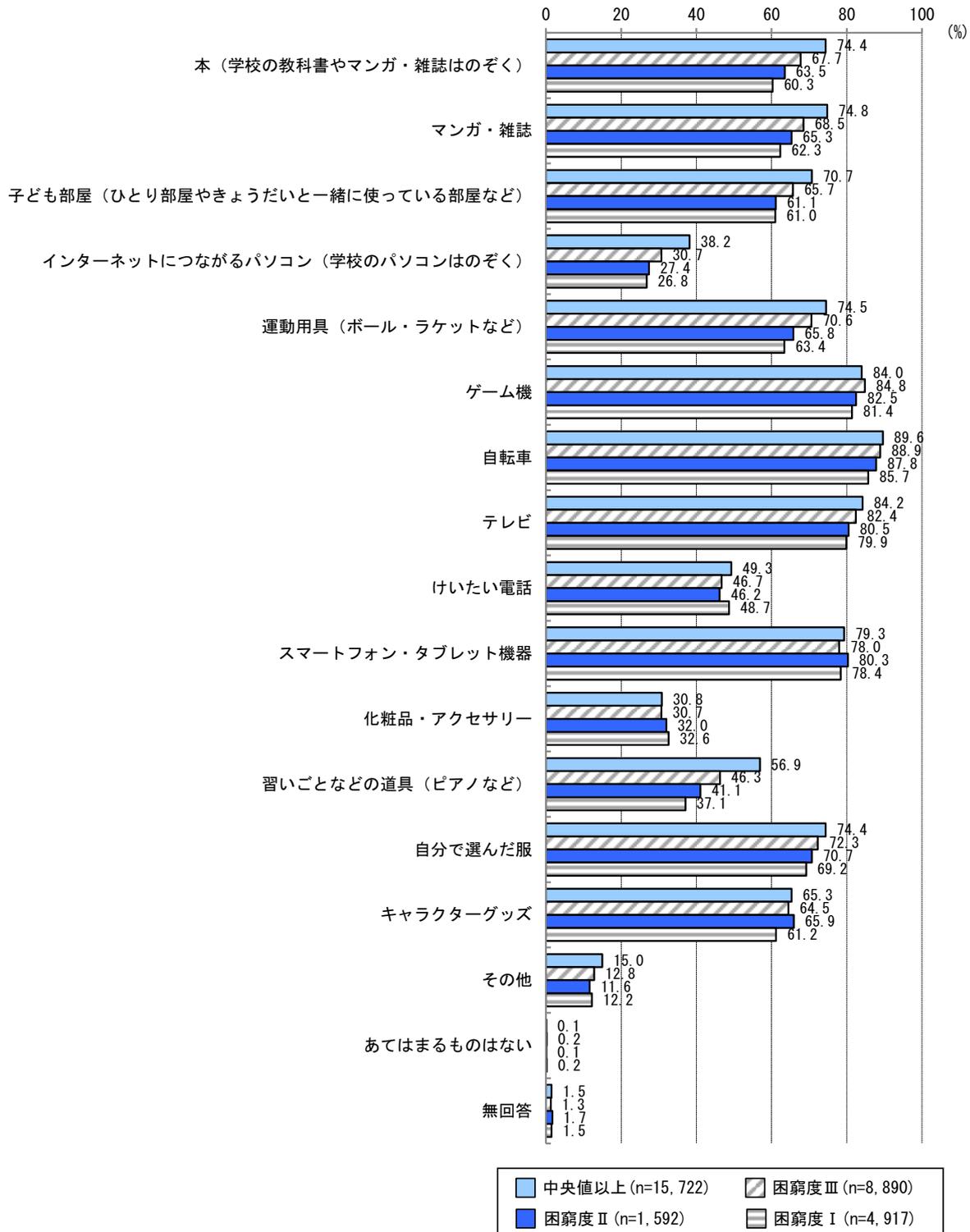
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験

困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「子ども会、地域の行事(祭りなど)の活動に参加することができなかった」が5.1% (中央値以上群に対して25.5倍)、「お子さんにお年玉をあげることができなかった」が12.2% (同じく20.2倍)、「お子さんを医療機関に受診させることができなかった」が1.6% (同じく16.0倍) となっている。

また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で82.6%に対して、困窮度Ⅰ群において41.8%だった。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<豊中市>

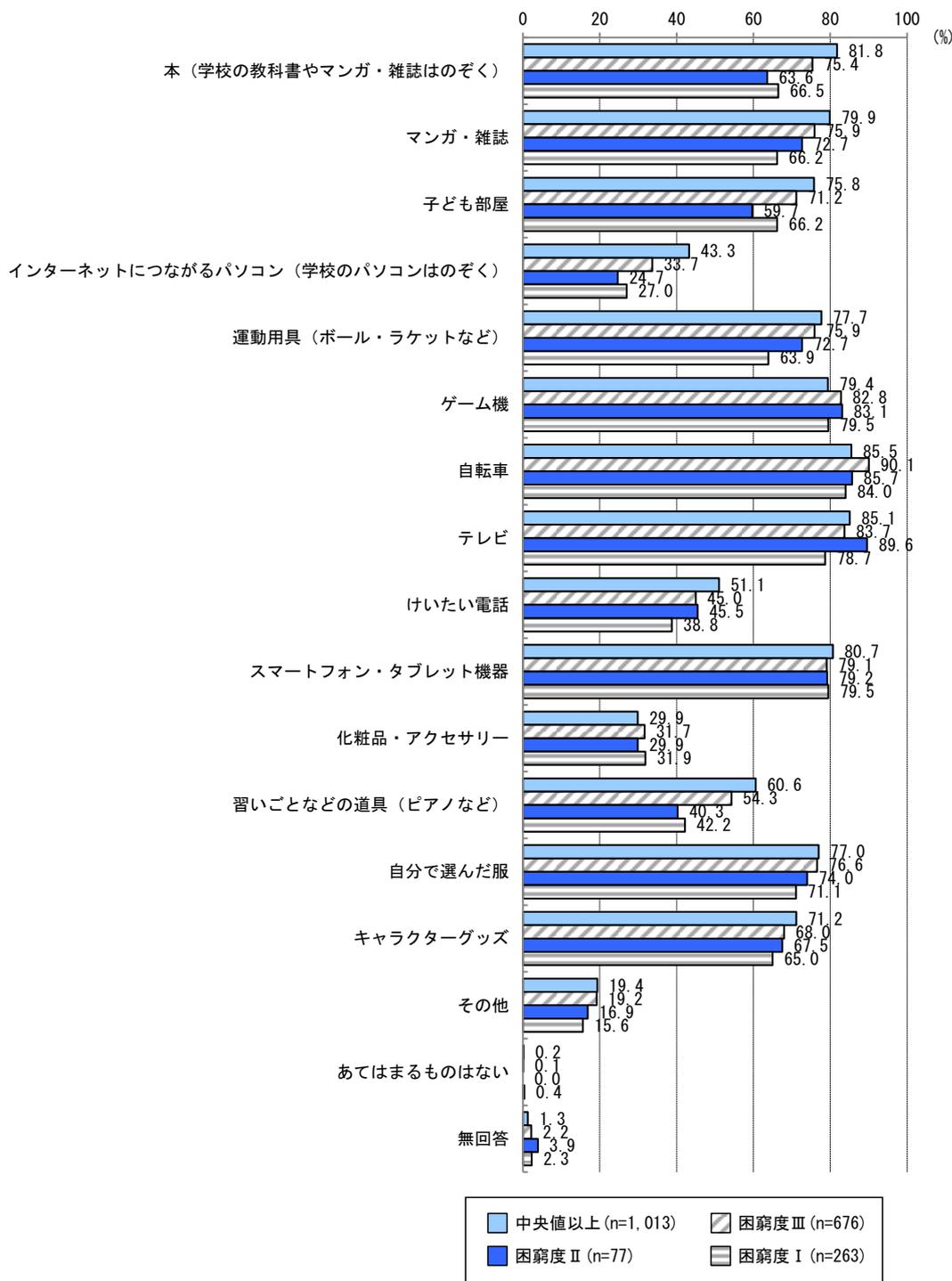
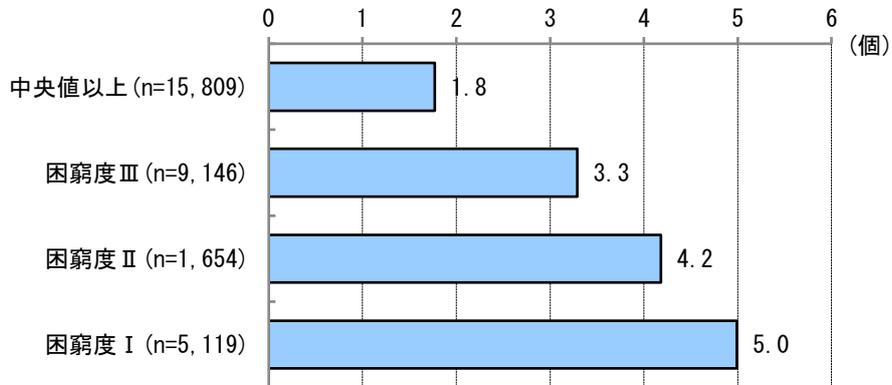


図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの

困窮度別に持っているもの、使うことができるものを見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群を見ると、「インターネットにつながるパソコン (学校のパソコンはのぞく)」が43.3% (困窮度 I 群に対して1.6倍)、「習い事などの道具 (ピアノなど)」が60.6% (同じく1.4倍)、「けいたい電話」が51.1% (同じく1.3倍) となり、中央値以上群において高い項目、すなわち困窮度 I 群においては低い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問7）

<大阪府内全体>



<豊中市>

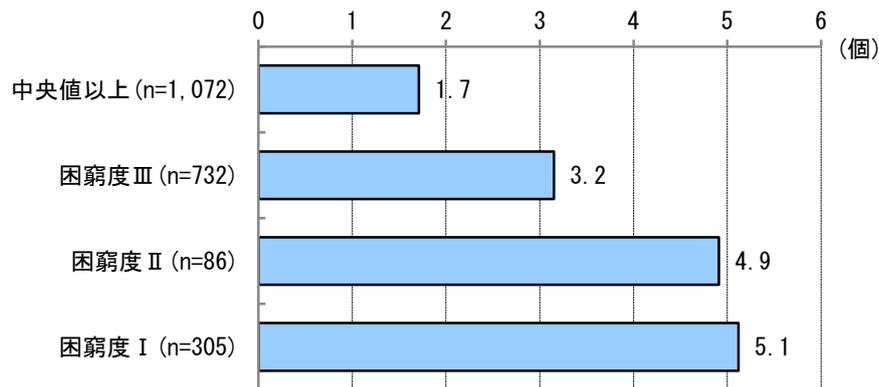


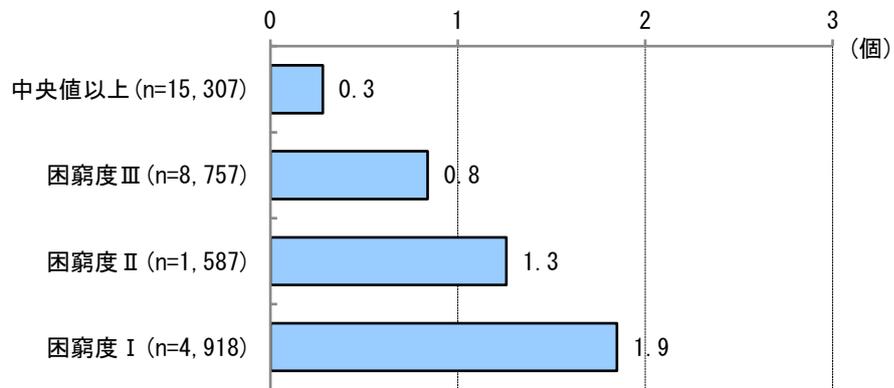
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

経済的な理由による経験として示した21個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由による経験の該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<豊中市>

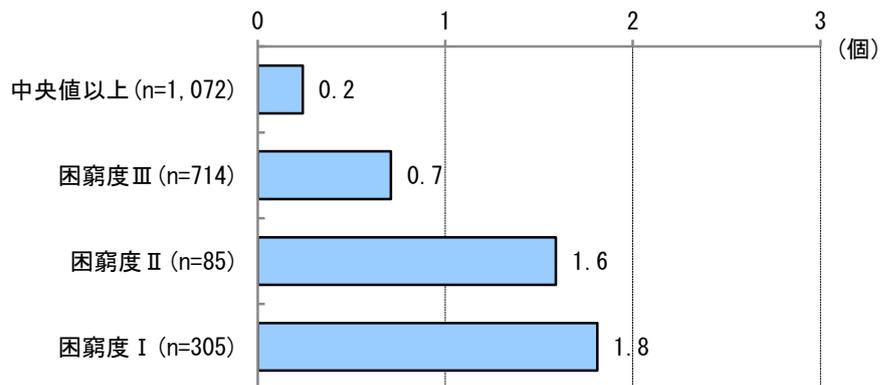


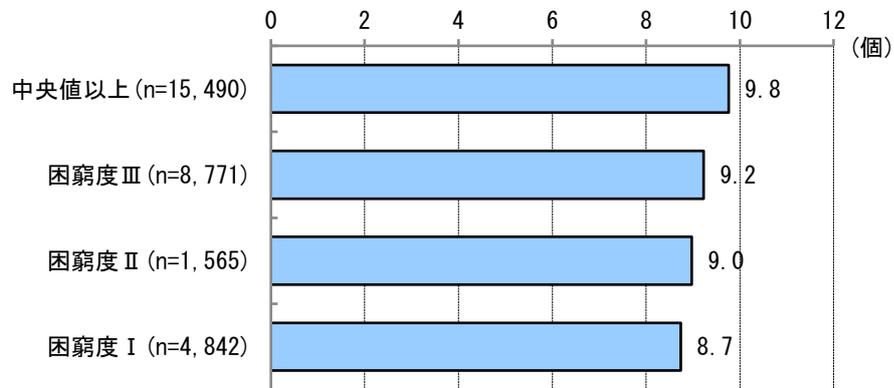
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は多くなっていることがみられた。

困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均（子ども票問 21）

<大阪府内全体>



<豊中市>

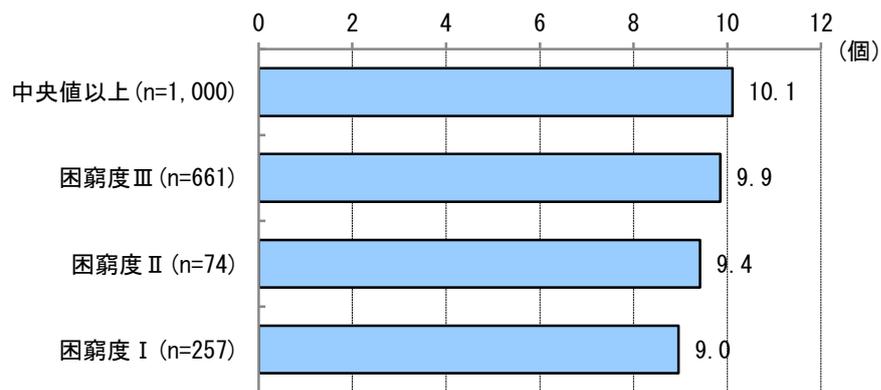


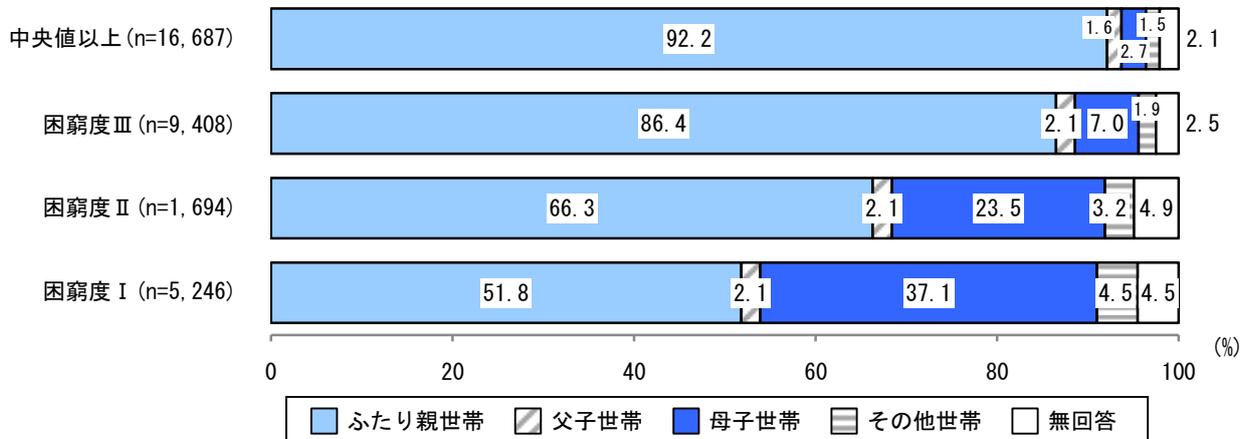
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均

子どもの持っているもの、使うことができるものとして示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

その結果、困窮度が高まるにつれ、個数が少なくなり、困窮度Ⅰ群が9.0個で最も少なくなっている。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<豊中市>

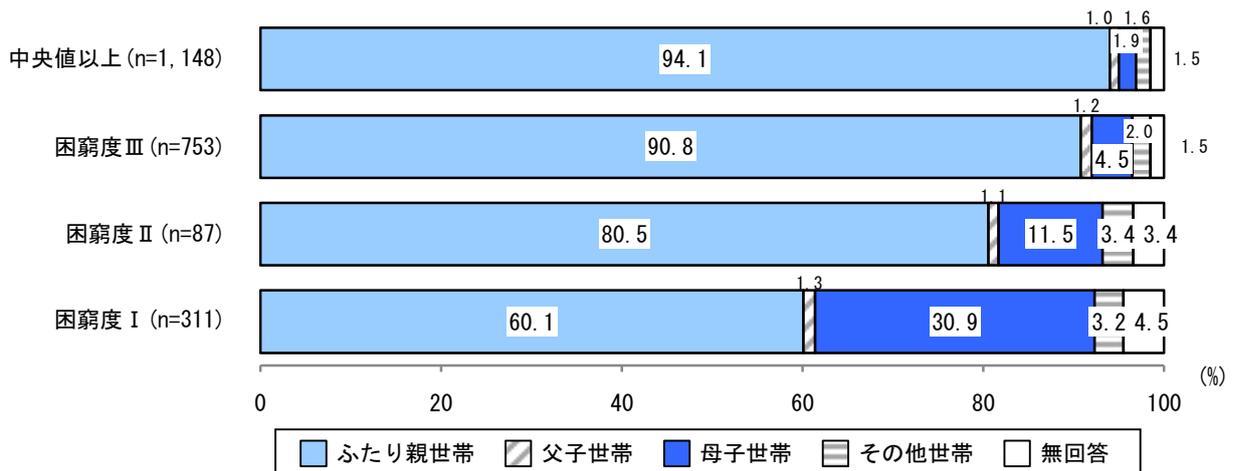


図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成

困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が94.1%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は60.1%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が1.9%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は30.9%だった。

<2016年度調査との比較／豊中市>

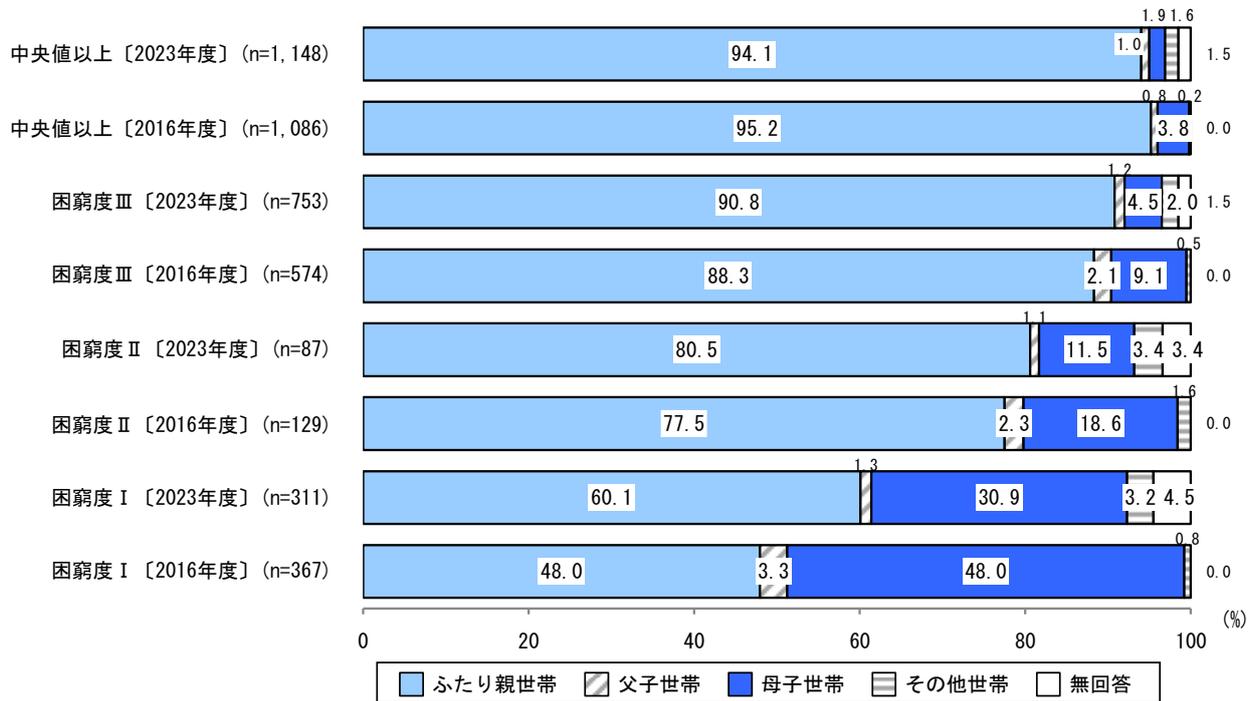
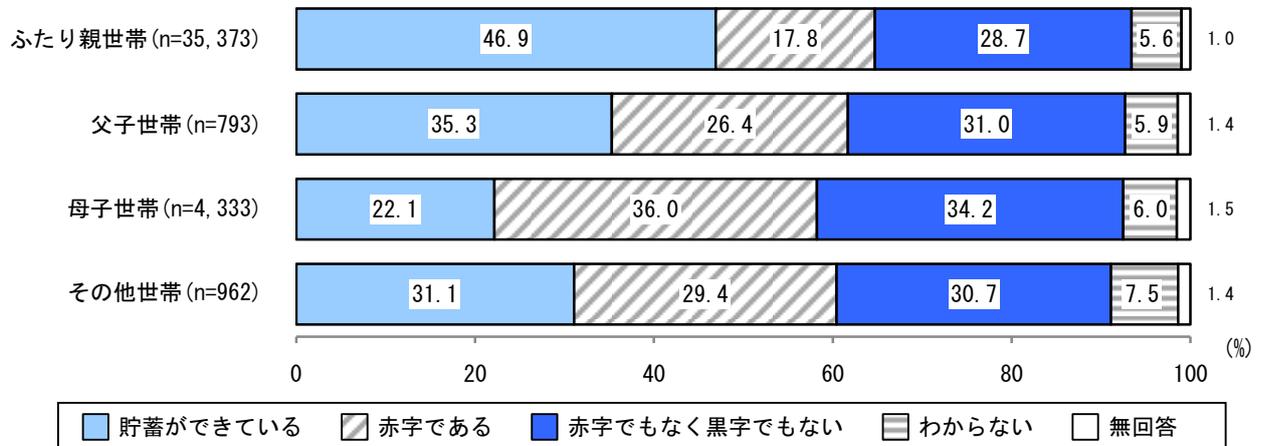


図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成 (2016 年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、「ふたり親世帯」と回答した割合は、中央値以上群を除き、2016年度調査に比べて高くなっている。一方で、「母子世帯」は2016年度調査に比べて、いずれの困窮度も割合が低くなっている。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

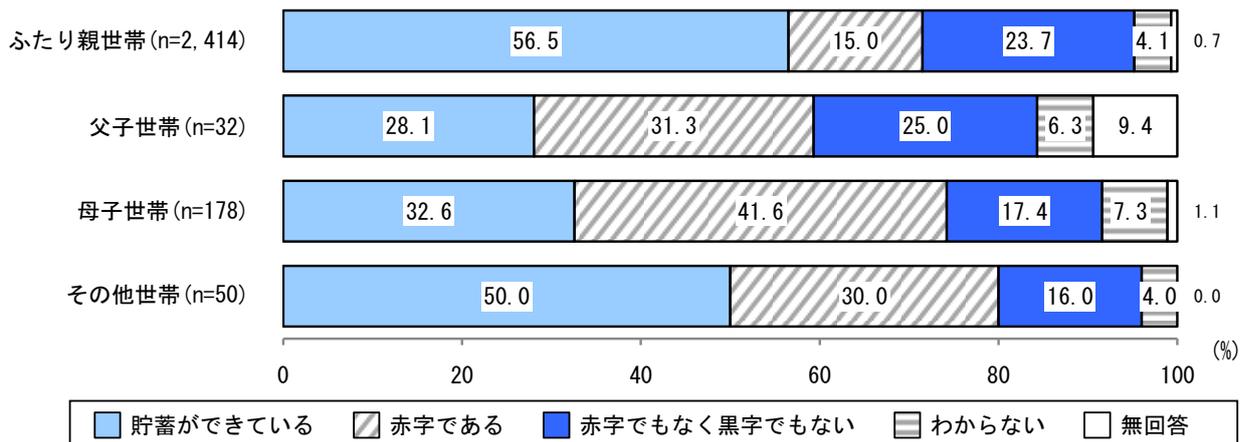
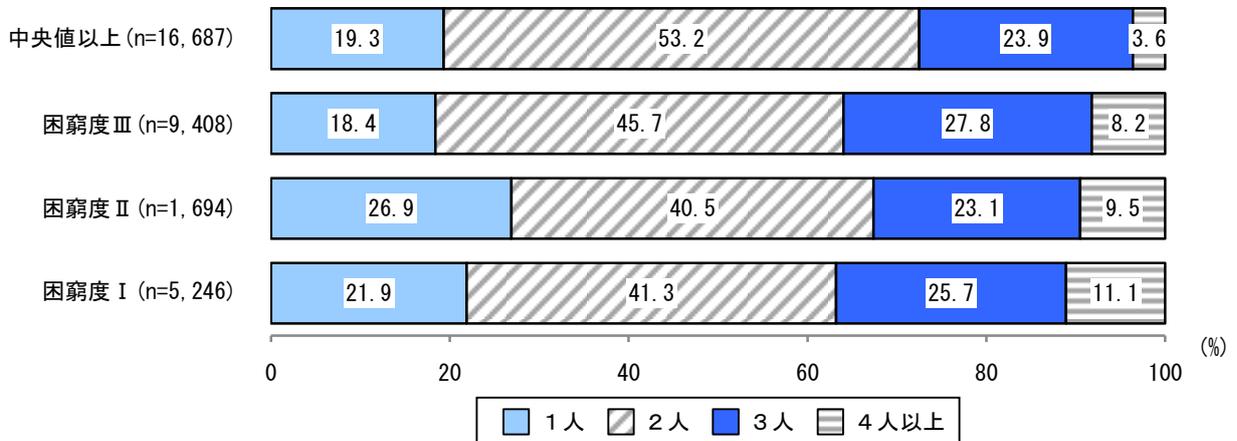


図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況

世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができています」と回答した割合は、ふたり親世帯が56.5%なのに対して、父子世帯28.1%、母子世帯32.6%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が15.0%なのに対して、父子世帯は31.3%、母子世帯は41.6%だった。

困窮度別に見た、子どもの人数（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<豊中市>

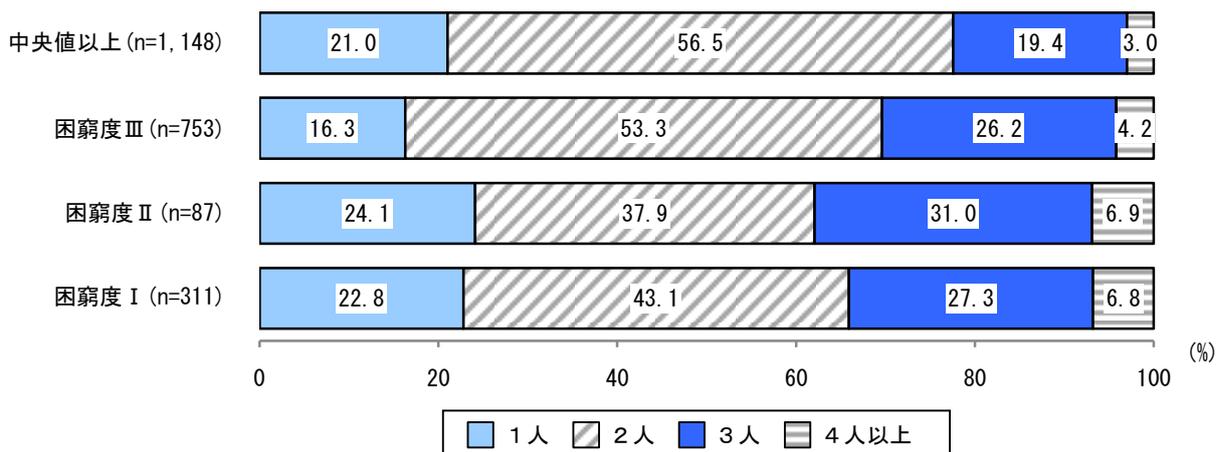
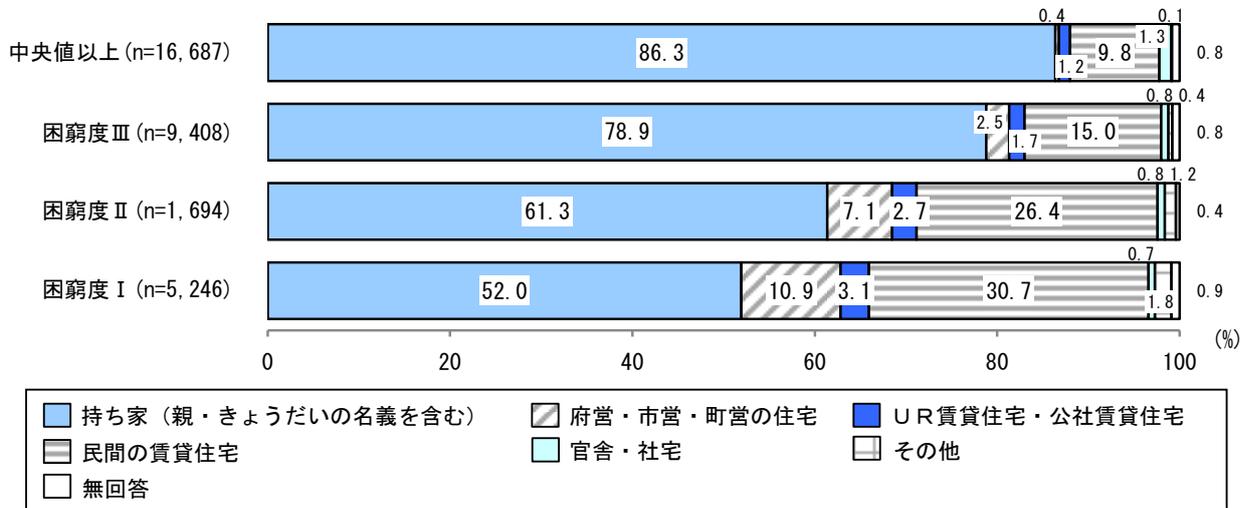


図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数

困窮度別に子どもの人数を見ると、中央値以上群において3人以上が22.4%（3人19.4%、4人以上3.0%）であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、3人以上が34.1%（3人27.3%、4人以上6.8%）と高くなっている。

困窮度別に見た、住居形態（保護者票問5）

<大阪府内全体>



<豊中市>

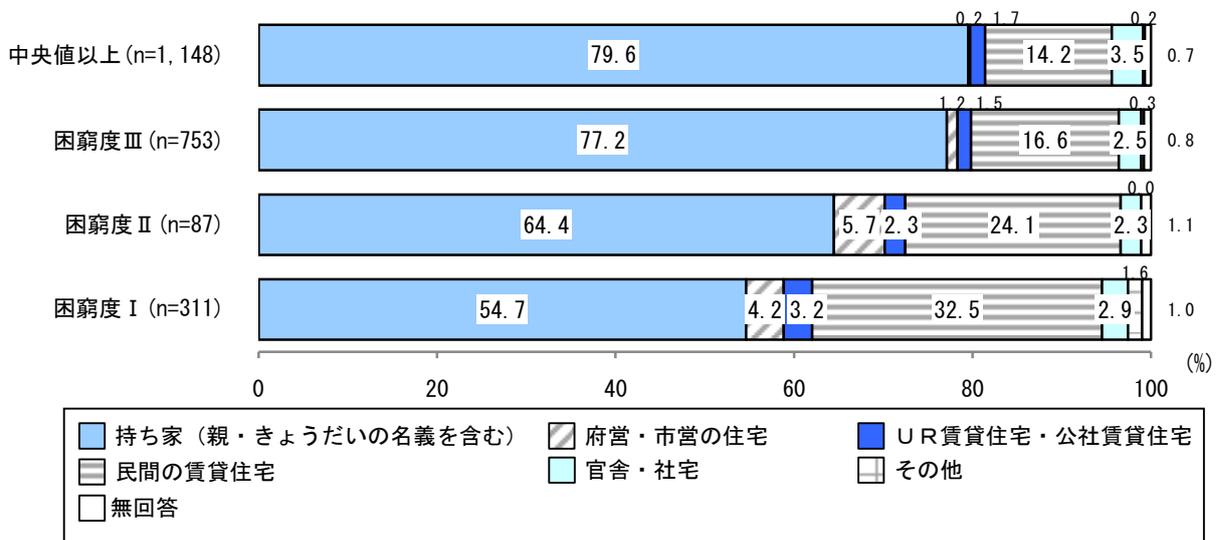
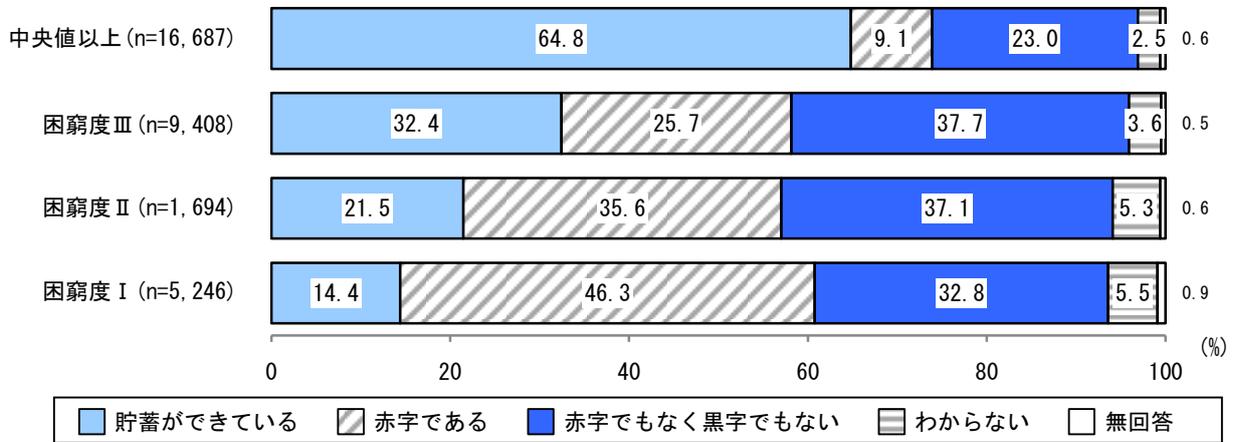


図 11. 困窮度別に見た、住居形態

困窮度別に住居形態を見ると、困窮度が高まるにつれ、持ち家の保有率は低くなっている。中央値以上群では、「持ち家」と回答した割合は79.6%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、54.7%にとどまっている。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

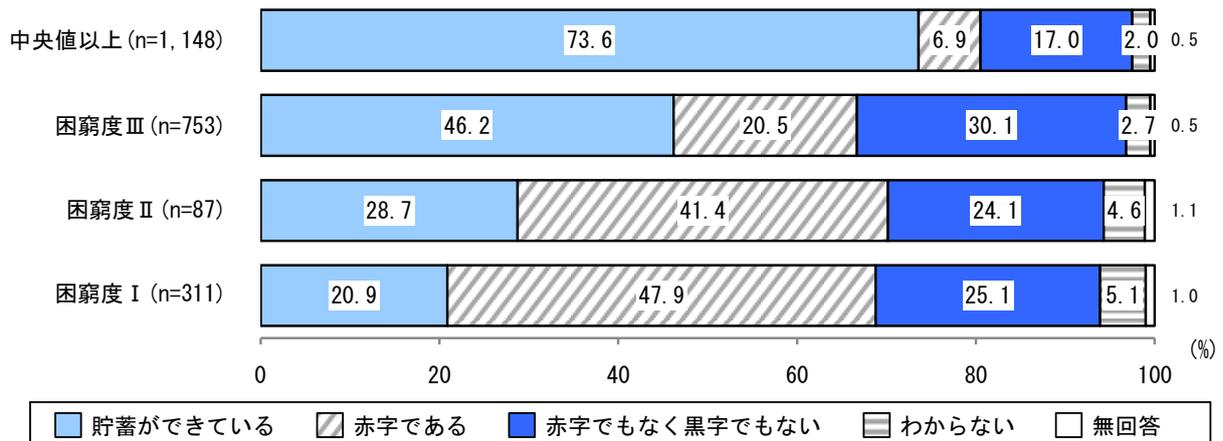
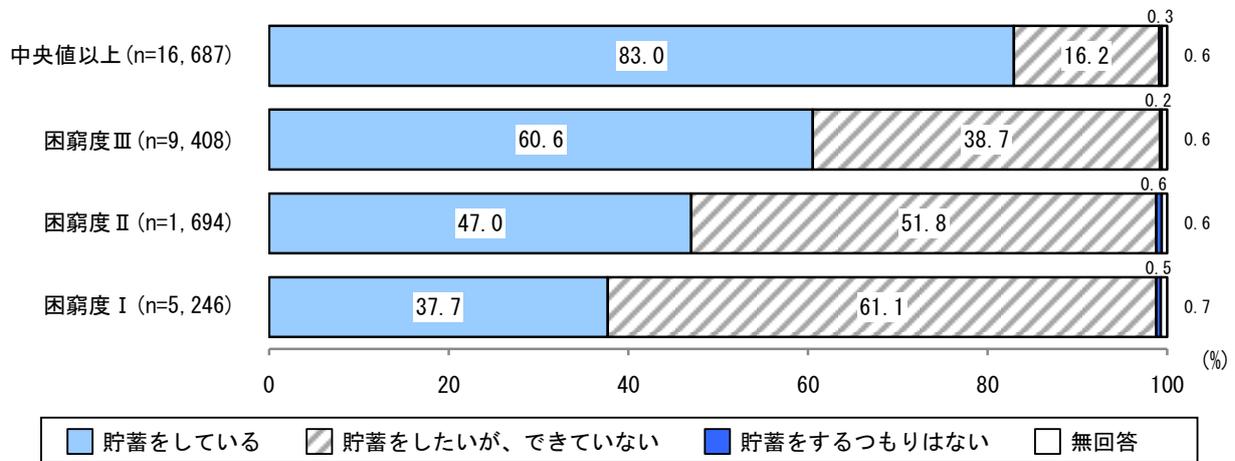


図 12. 困窮度別に見た、家計の状況

困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができていない」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、6.9%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、47.9%となり、困窮度Ⅰ・Ⅱ群で4割を超えている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

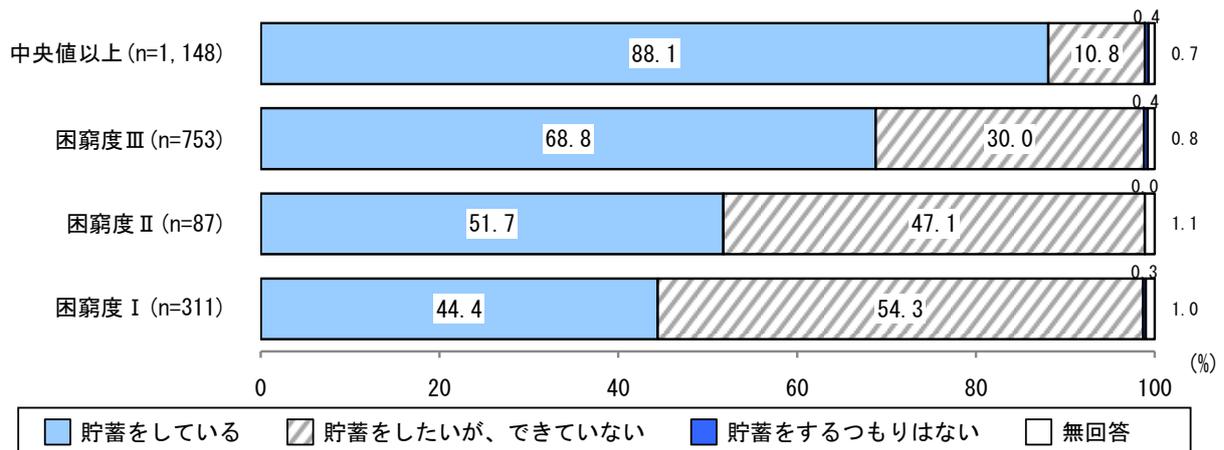
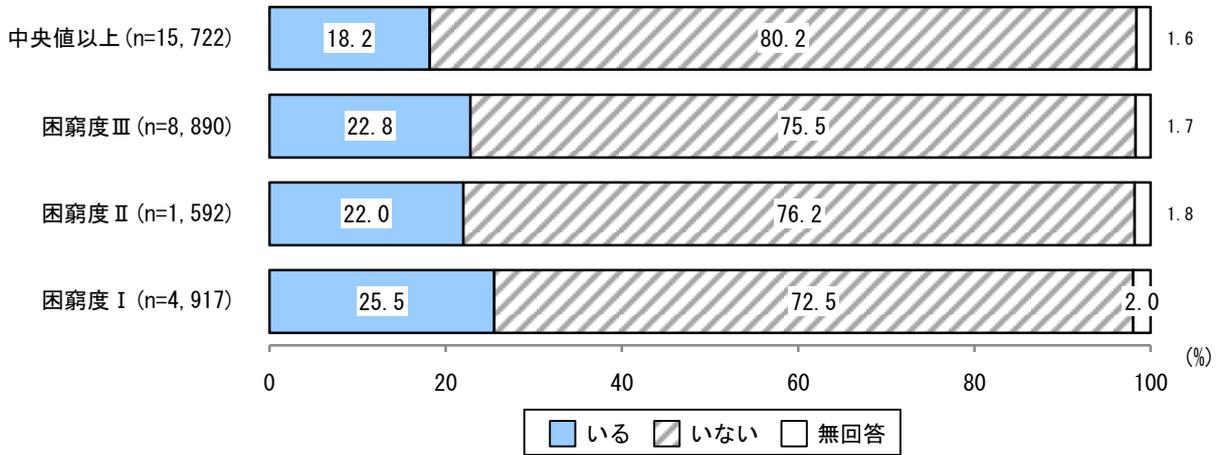


図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が88.1%を占めたが、困窮度Ⅰ群では44.4%にとどまり、54.3%が「貯蓄をしたいが、できていない」と回答している。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

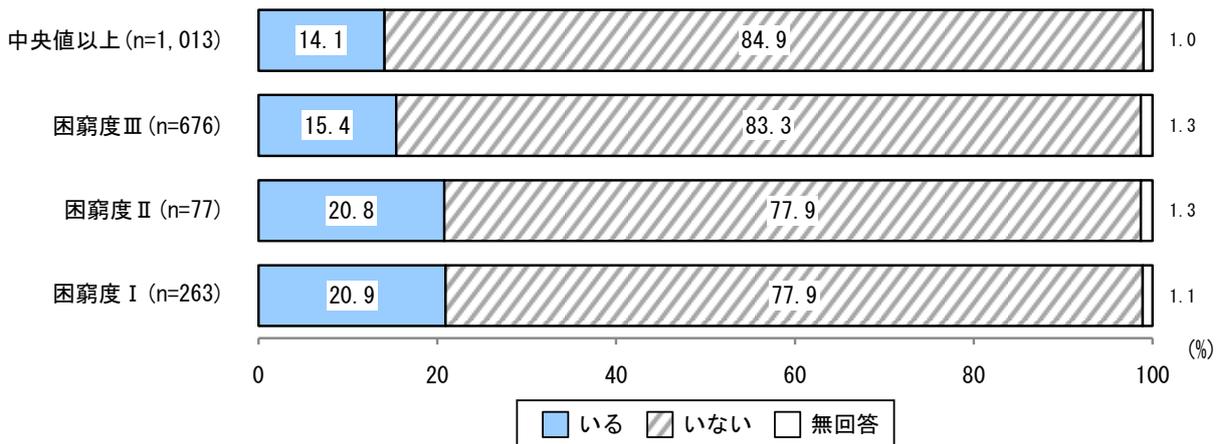


図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無

困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は困窮度Ⅰ群で20.9%と最も高くなっている。中央値以上群では、「いない」と回答する割合が84.9%を占め、最も高くなっている。

<経済状況に関する考察>

経済的理由で生じた生活上の困難についての質問項目は、現在の日本社会において、「通常であれば可能な生活」を基準に設定している。「どれもあてはまらない」という回答は、その基準に達していることを示すものであるが、中央値以上群の層で46.3%に対して、困窮度Ⅰ群では10.9%にすぎない。一方、困窮度が深刻化するにしたがい経済的理由から生活面での困難は増す傾向にあり、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「電気・ガス・水道などが止められた」(2.3%対0.2%)、「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」(6.8%対0.3%)、「電話(固定・携帯)など通信料の支払いが滞ったことがある」(5.5%対0.4%)と回答した割合が高くなっており、生活面で大きな格差が存在する。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上と比べ、「国民年金の支払いが滞ったことがある」(13.2%対0.7%)と回答した割合が高くなっており、子どもの親(保護者)の将来(老後)の生活困窮を示唆するデータであると言える。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響しており、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」(37.0%対5.0%)と回答した割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭では、生活インフラへの支払いの滞りや年金支払いの義務が果たせなくなることに加え、将来への不安感が多いことが示唆される。

世帯の経済状況は、子どもの教育にも影響を及ぼしていることが確認できる。主な項目をあげると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「お子さんの進路を変更した」(4.8%対1.6%)、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」(24.1%対3.2%)、「お子さんを学習塾に通わせることができなかった」(29.3%対3.7%)と回答した割合が高くなっており、子どもに与える教育の格差が示されている。これらの結果から、経済状況によって、子どもの進路や学習環境、家族以外の社会的交流を行う機会が制限されることが示唆される。

同様に、学校以外での子どもの多様な「体験」の有無は、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験の機会に格差があることが示されている。具体的には、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「家族旅行(日帰りのおでかけを含む)ができなかった」(35.7%対7.0%)といった経験に大きな差がある。その一方、「どれにもあてはまらない」が、中央値以上群では82.6%であり、困窮度Ⅰ群でも41.8%ある。所得階群によって体験の機会に差が見られるが、どの階群においても子どもに対して様々な体験や勉強の機会が提供できている世帯も多数いるという点がデータから読み取れる。

また、「子どもの将来のための貯蓄状況」という質問項目に対して、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「貯蓄をしている」と回答した割合が高くなっている(88.1%対44.4%)。また、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高くなっており(54.3%対10.8%)、貯蓄の状況に大きな差があることが確認できる。これらの結果から、経済的困難な家庭では、貯蓄不足により、将来子どもに起こり得るリスク(病気や進路選択など)に備えることや、子どもに対しての投資が難しくなると予想される。

近年、子どもの貧困やヤングケアラーへの社会的関心が深まりつつあり、厚生労働省と文部科学省が連携して行った全国調査では、ヤングケアラーと思われる子どもは小学6年生で6.5%(令和3年度実施)、中学2年生で5.7%(令和2年度実施)と報告されている(『ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告(令和3年5月17日)』)。全国調査の結果より、回答した小学6年生の15人に1人程度、中学2年生の17人に1人程度が家族の世話をしていることが明らかになった。

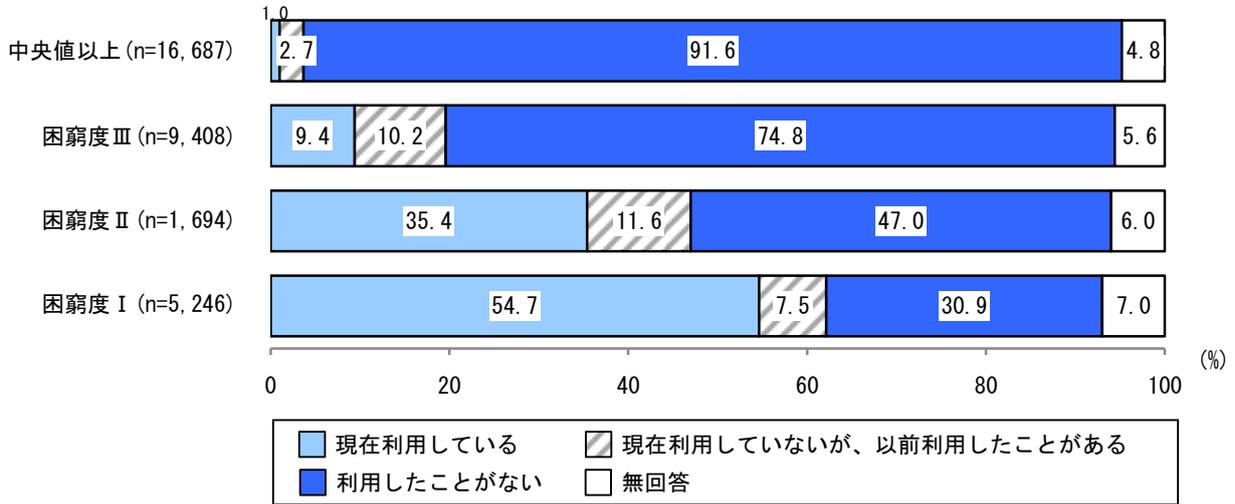
全国状況を踏まえて、本調査では、「自分が世話をしている人の有無」という質問に対して「いる」と答えている割合は、全体においては15.3%であるが、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べて

「いる」と答えた割合が高くなっている（20.9%対14.1%）。これは、困窮度Ⅰ群では、回答した5人に1人程度が、中央値以上群では、7人に1人程度が世話をしている人が「いる」と回答していることになる。これらの結果から、豊中市ではヤングケアラーと思われる子どもの割合が高く、特に経済的困難な家庭ではその割合が高いことが読み取れる。

(2) 家庭状況 (制度等)

困窮度別に見た、就学援助の利用状況 (保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<豊中市>

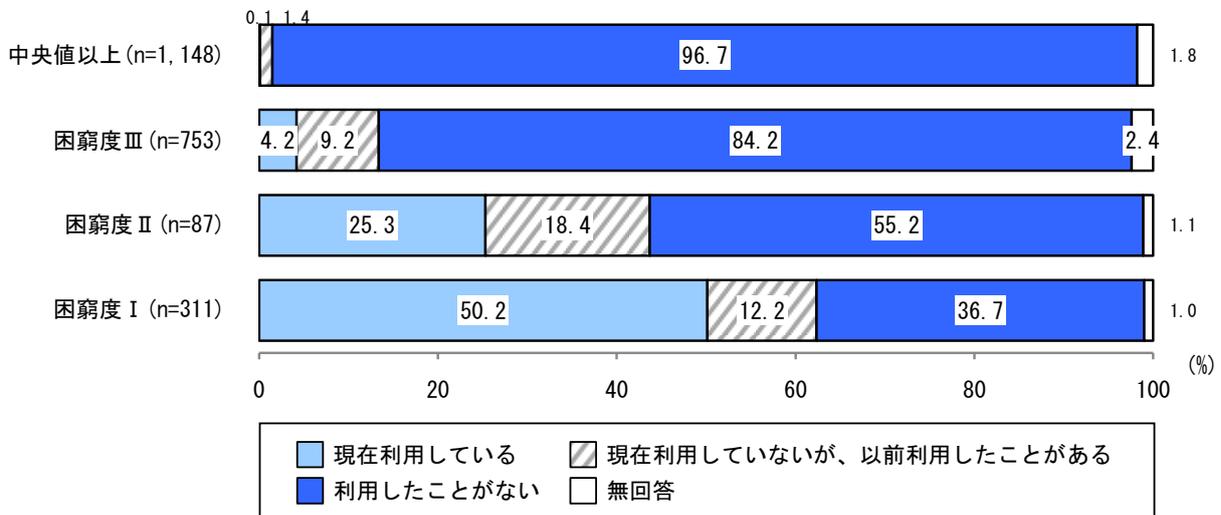
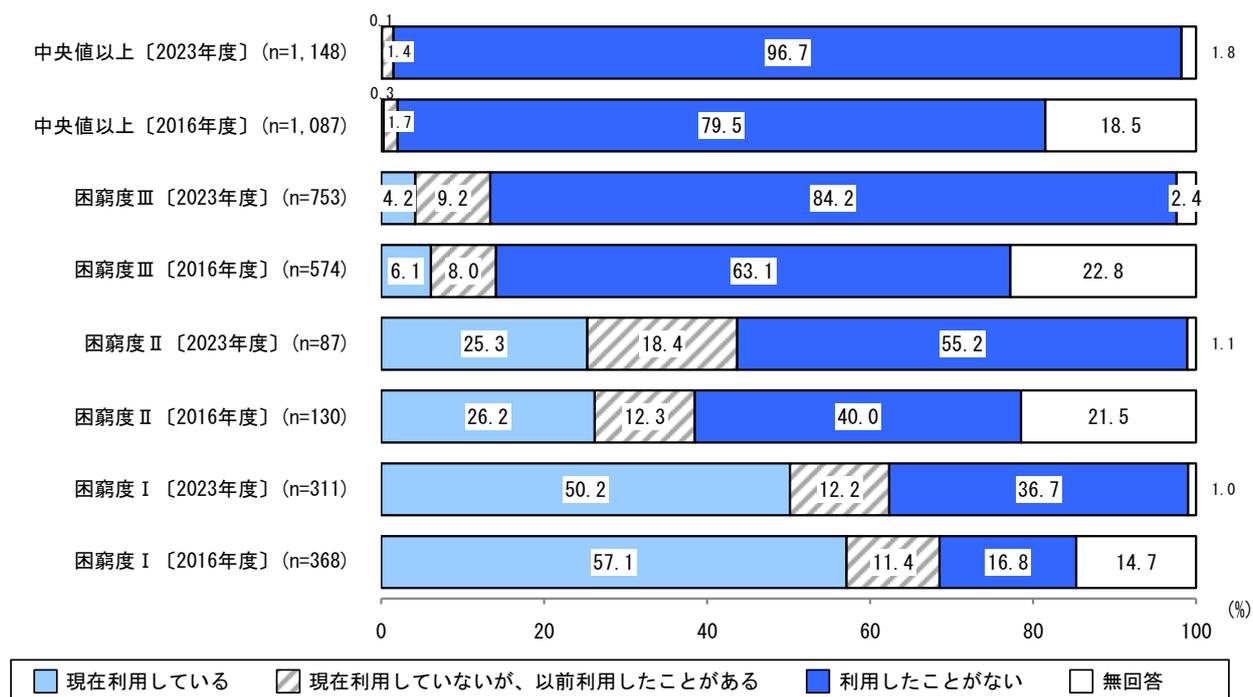


図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況

困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では50.2%と最も高くなっている。

<2016年度調査との比較／豊中市>



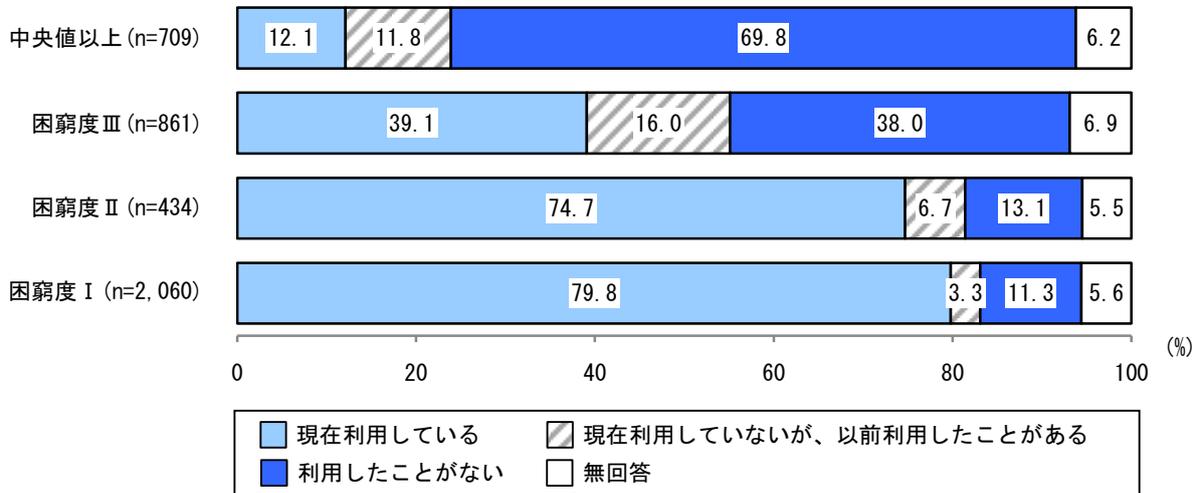
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて低くなっており、一方で、「利用したことがない」は2016年度調査に比べて割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

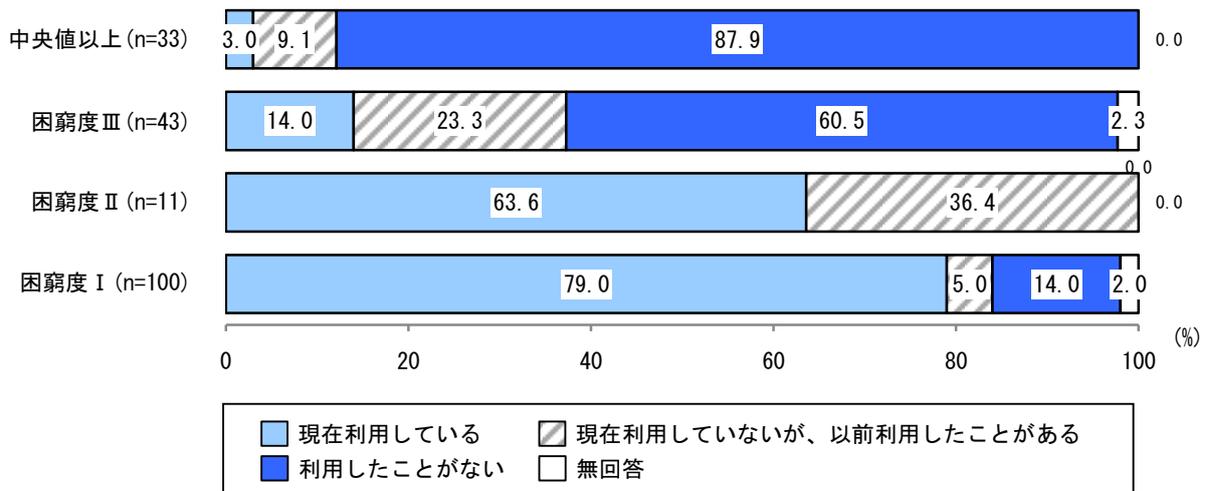
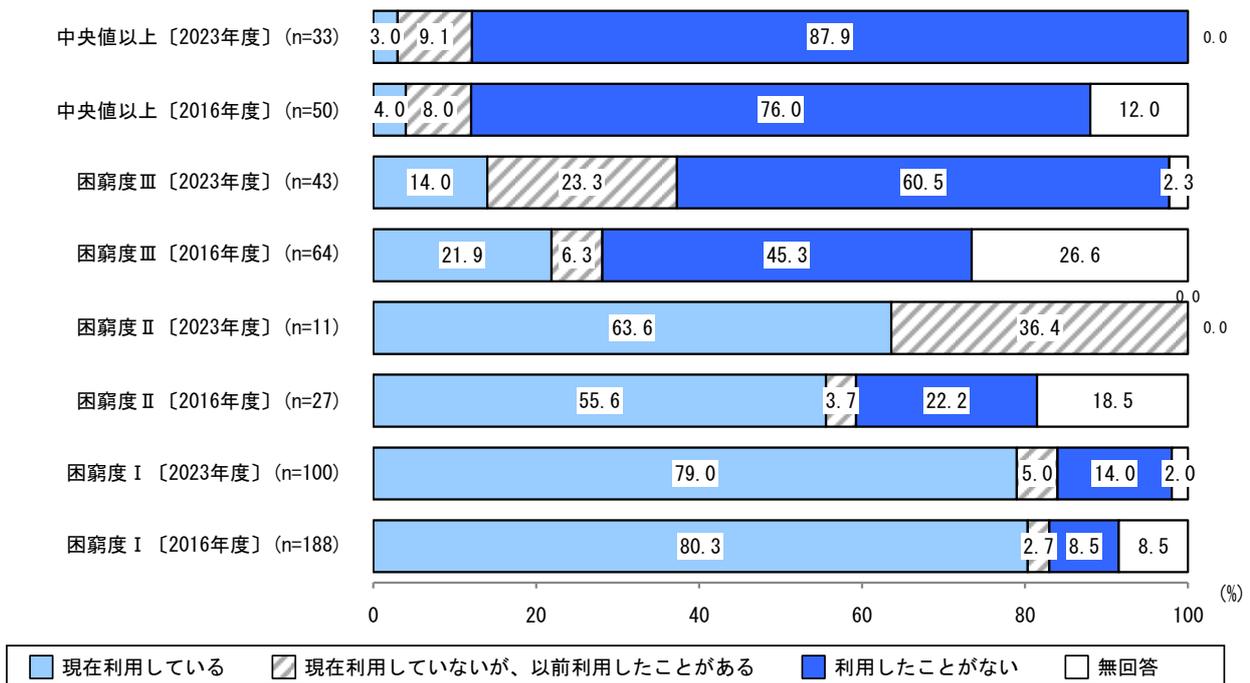


図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群は「利用したことがない」と回答した割合が14.0%となっている。

<2016年度調査との比較／豊中市>



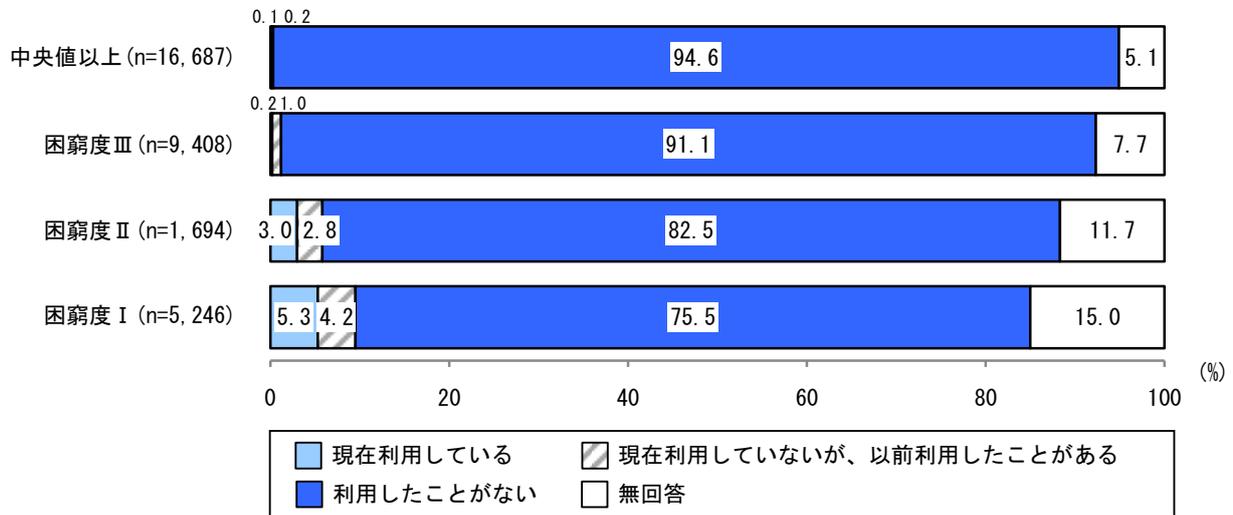
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群では2016年度調査より割合が高いが、それ以外の困窮度では2016年度調査よりも低くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<豊中市>

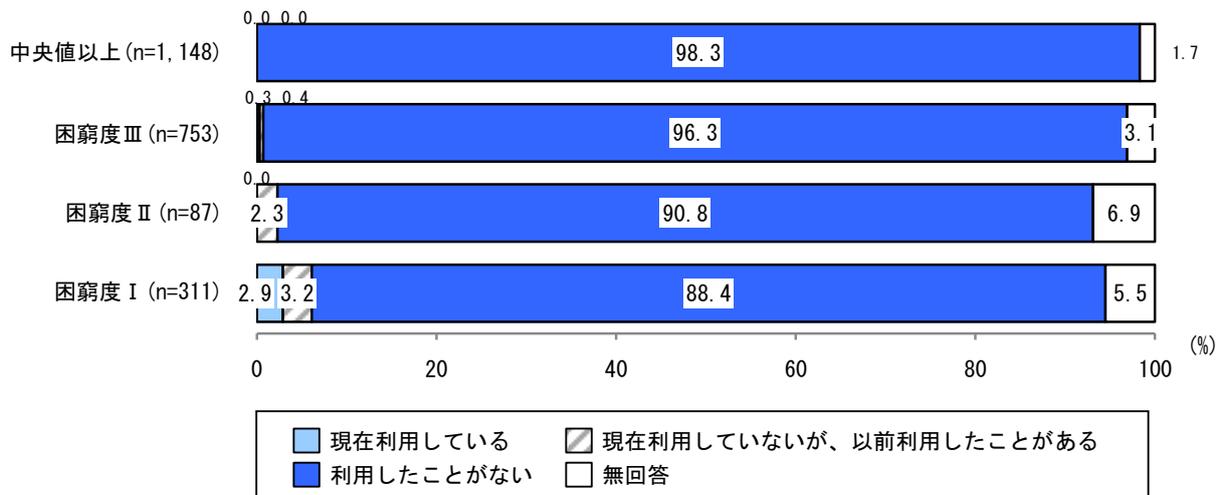
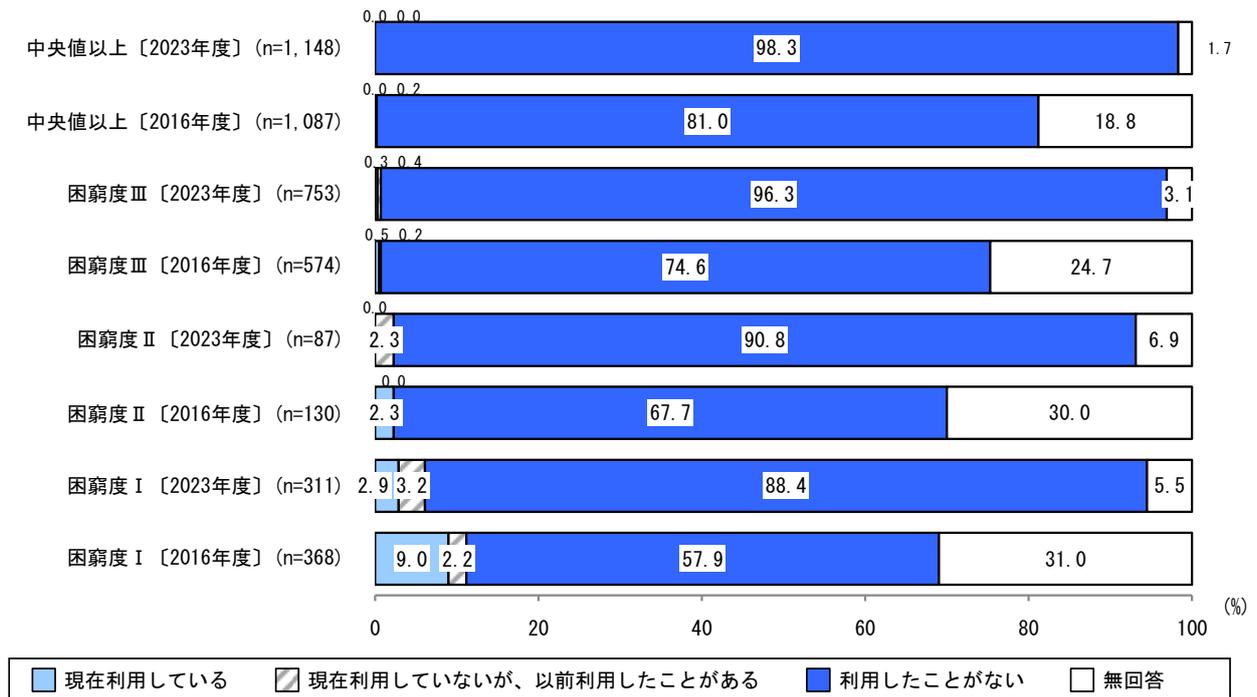


図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況

困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、困窮度Ⅰ群においては「現在利用している」と回答した割合は2.9%であった。

<2016年度調査との比較／豊中市>



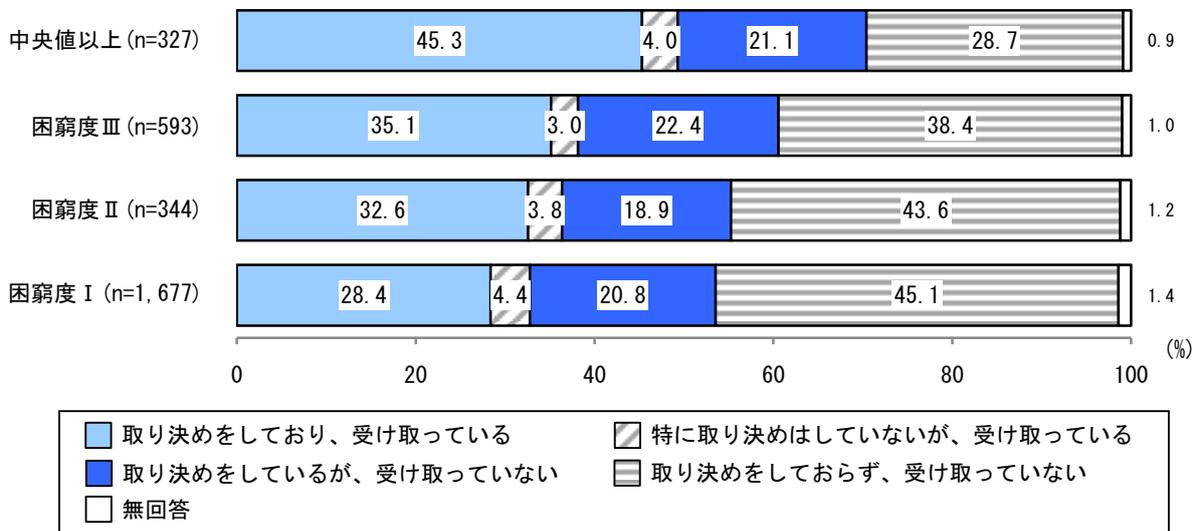
※ 2016年度調査では「受けている」「受けたことがある」「受けたことはない」

図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「現在利用している」と回答した割合は、困窮度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ群とも2016年度調査より割合が低くなっている。

困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（保護者票問4）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

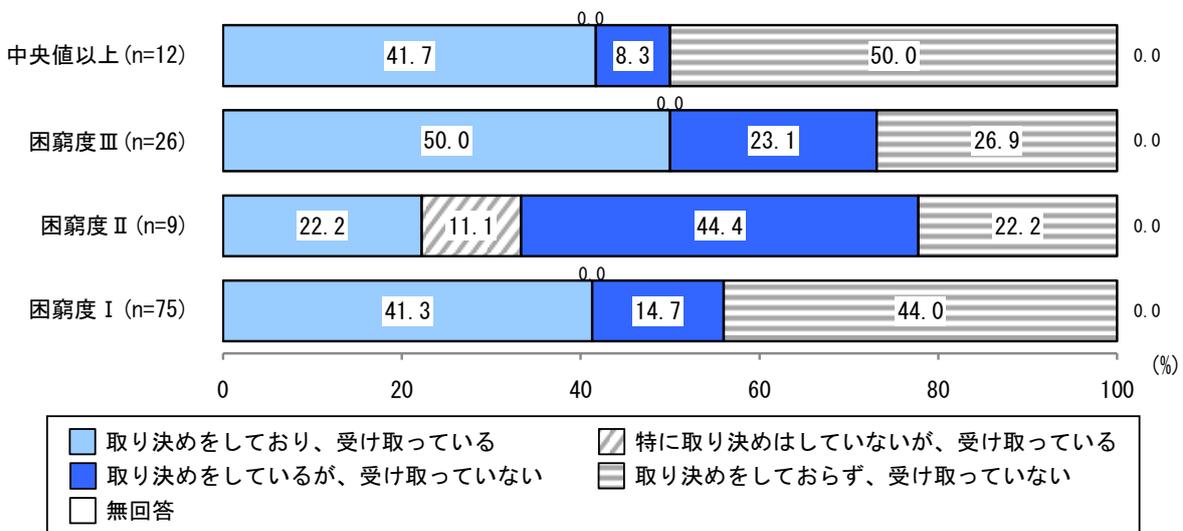
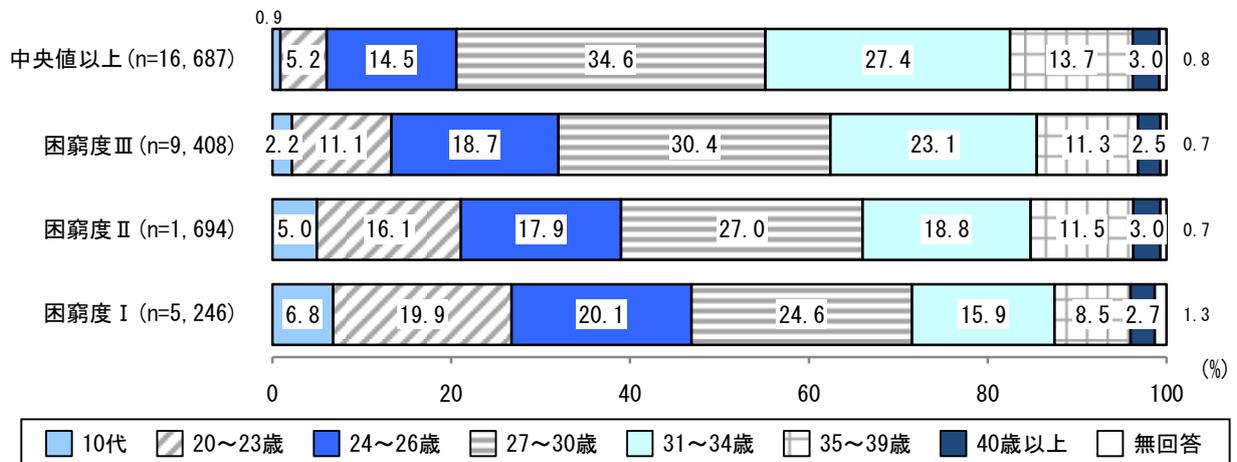


図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）

ひとり親世帯の困窮度別に離婚相手との養育費の取り決めや受け取りを見ると、困窮度Ⅰ群においては「取り決めをしており、受け取っている」と回答した割合は41.3%であり、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が44.0%と高く、「取り決めをしているが、受け取っていない」の14.7%をあわせた養育費を受け取っていない人が58.7%となっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）

<大阪府内全体>



<豊中市>

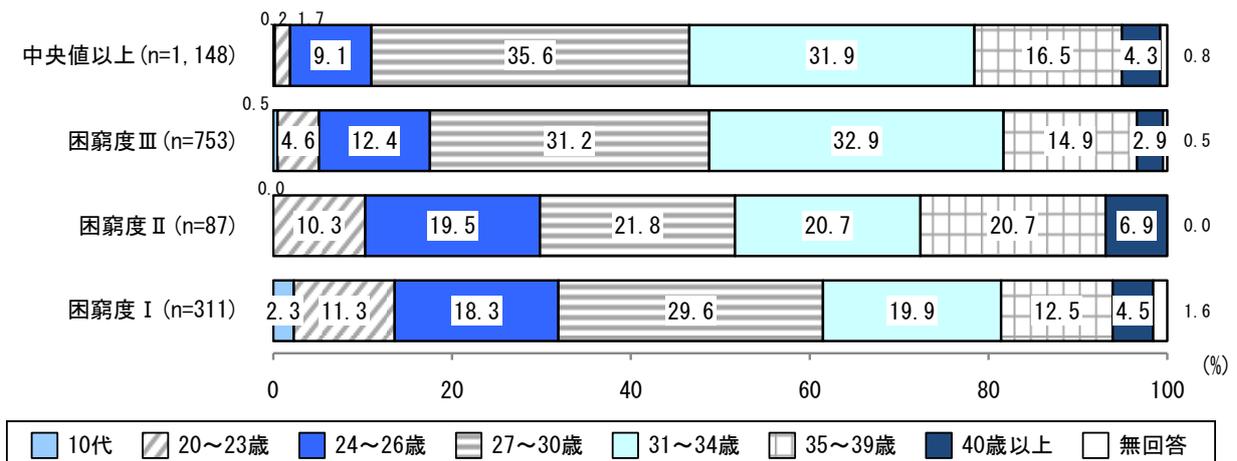
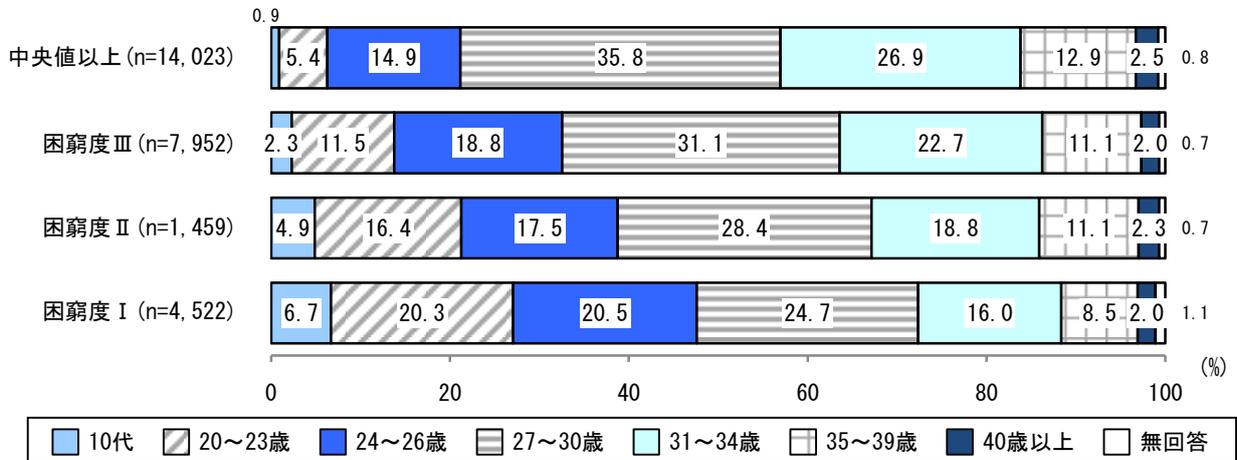


図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、「10代」で初めて親となったと回答した割合が概ね高くなり、困窮度Ⅰ群で2.3%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票問 17）・母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

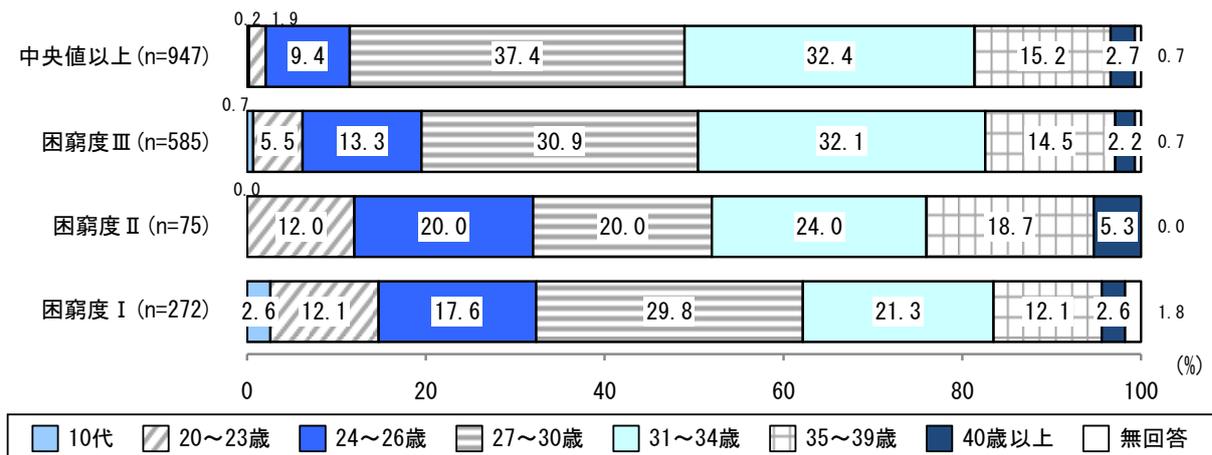
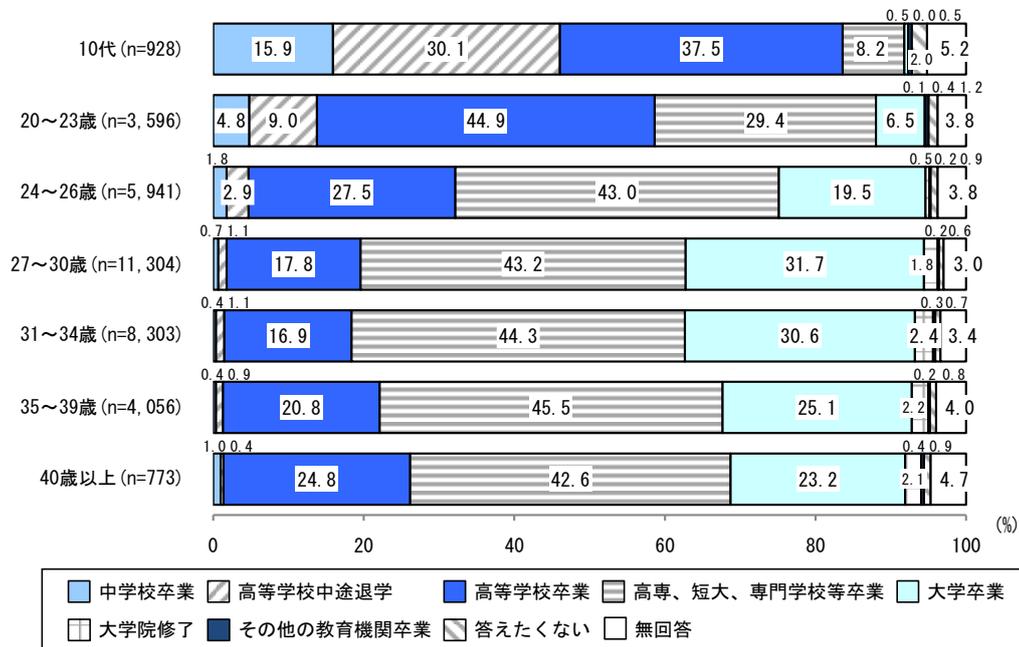


図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、「20~23歳」で初めて親となったと回答した割合が高くなっている。

初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

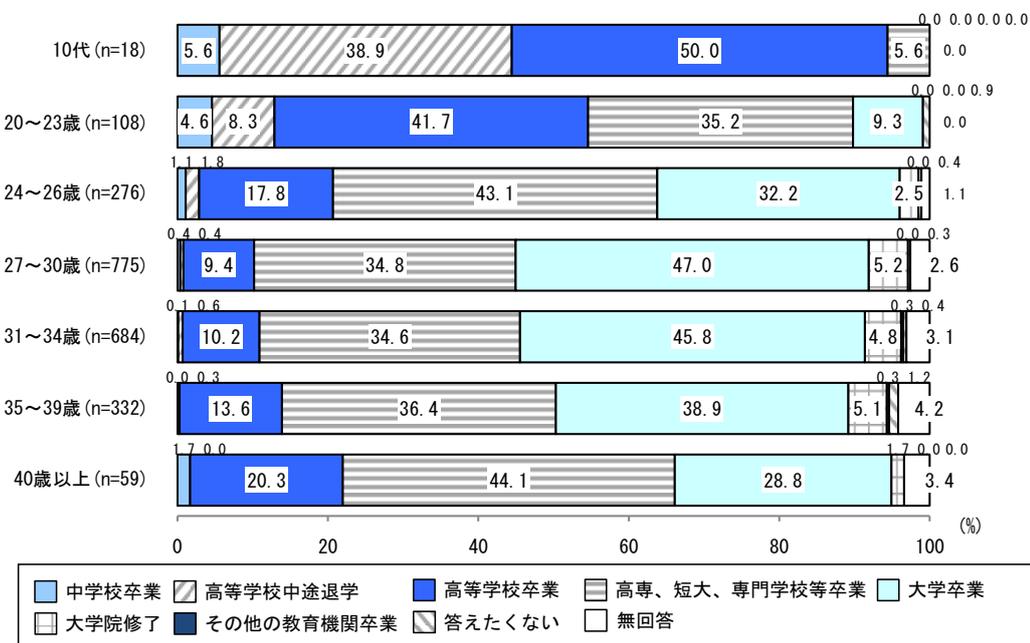
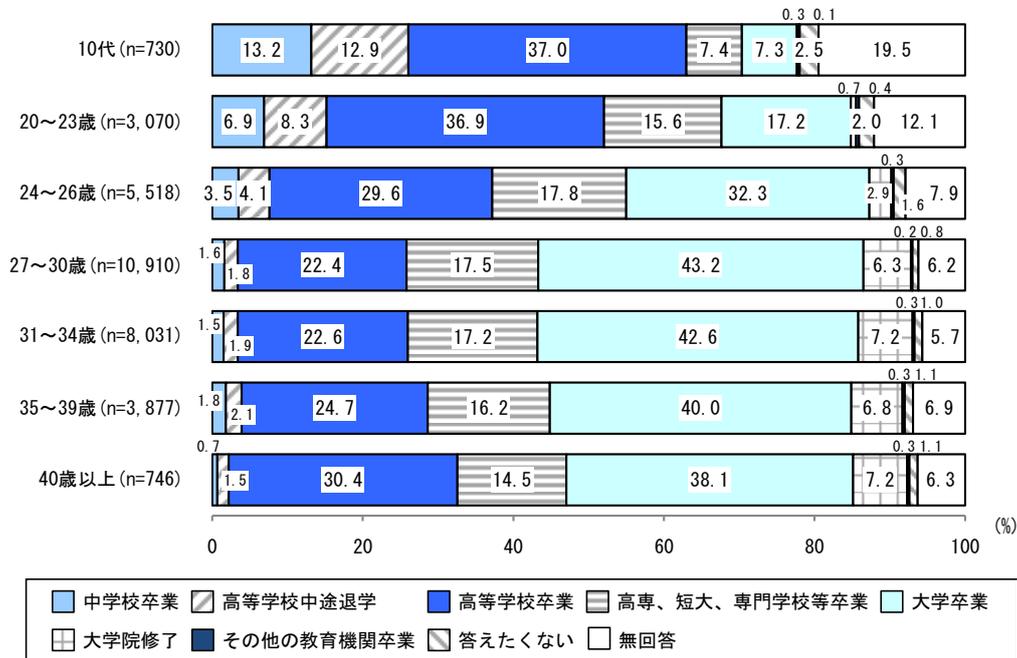


図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に母親自身の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（5.6%）または「高等学校中途退学」（38.9%）と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問 17×保護者票問 8）
※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

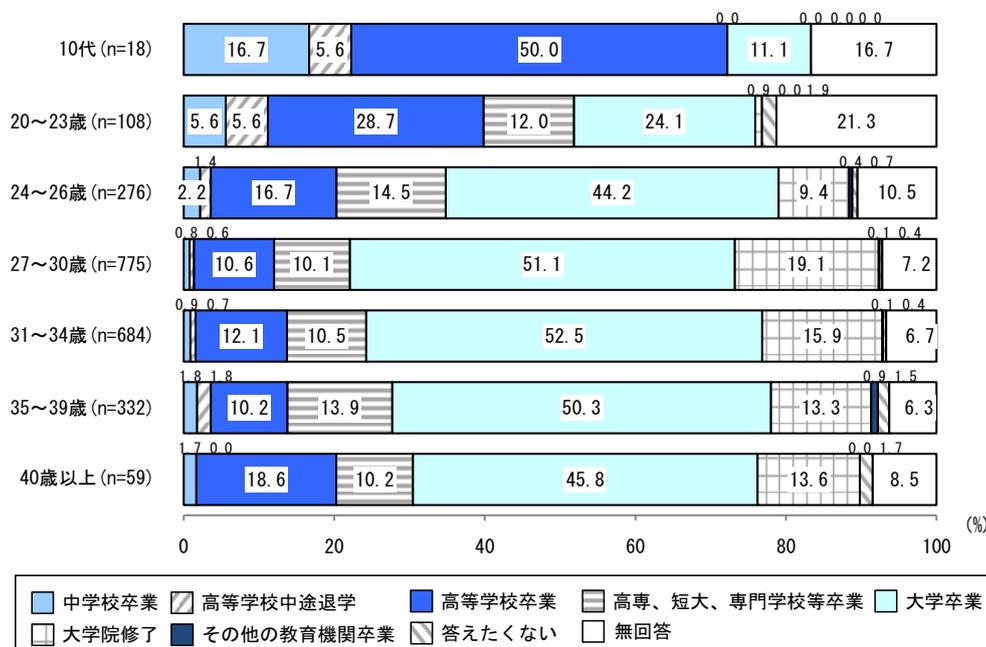
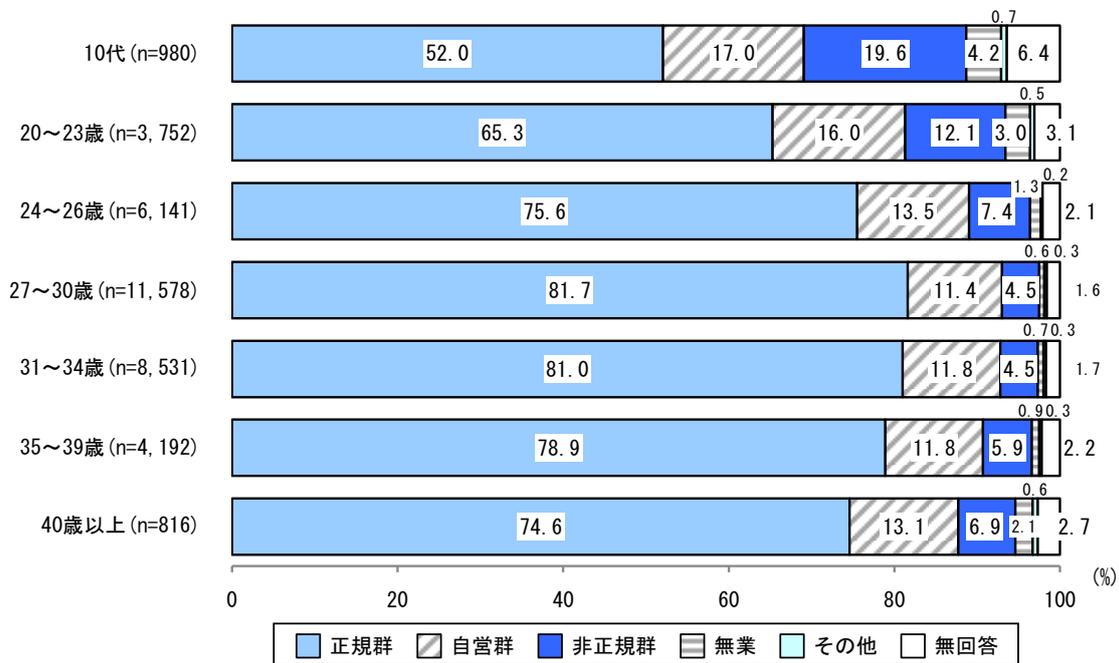


図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に父親の最終学歴を見ると、10代において「中学校卒業」（16.7%）と回答した割合が、他世代と比べると高かった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票問 17×保護者票問 9）
 ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

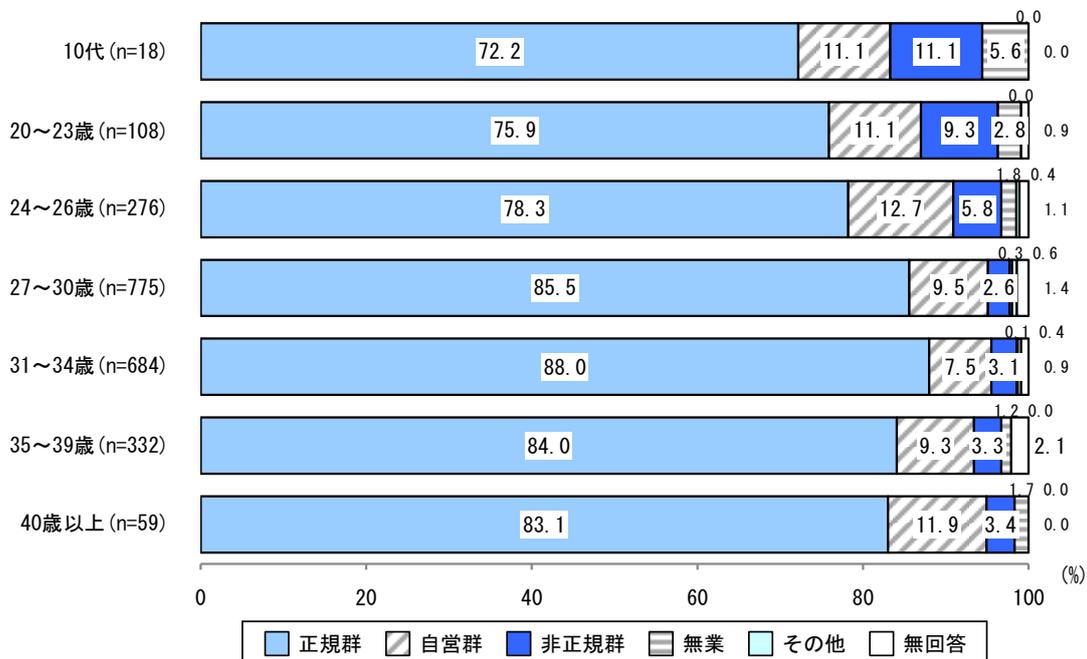
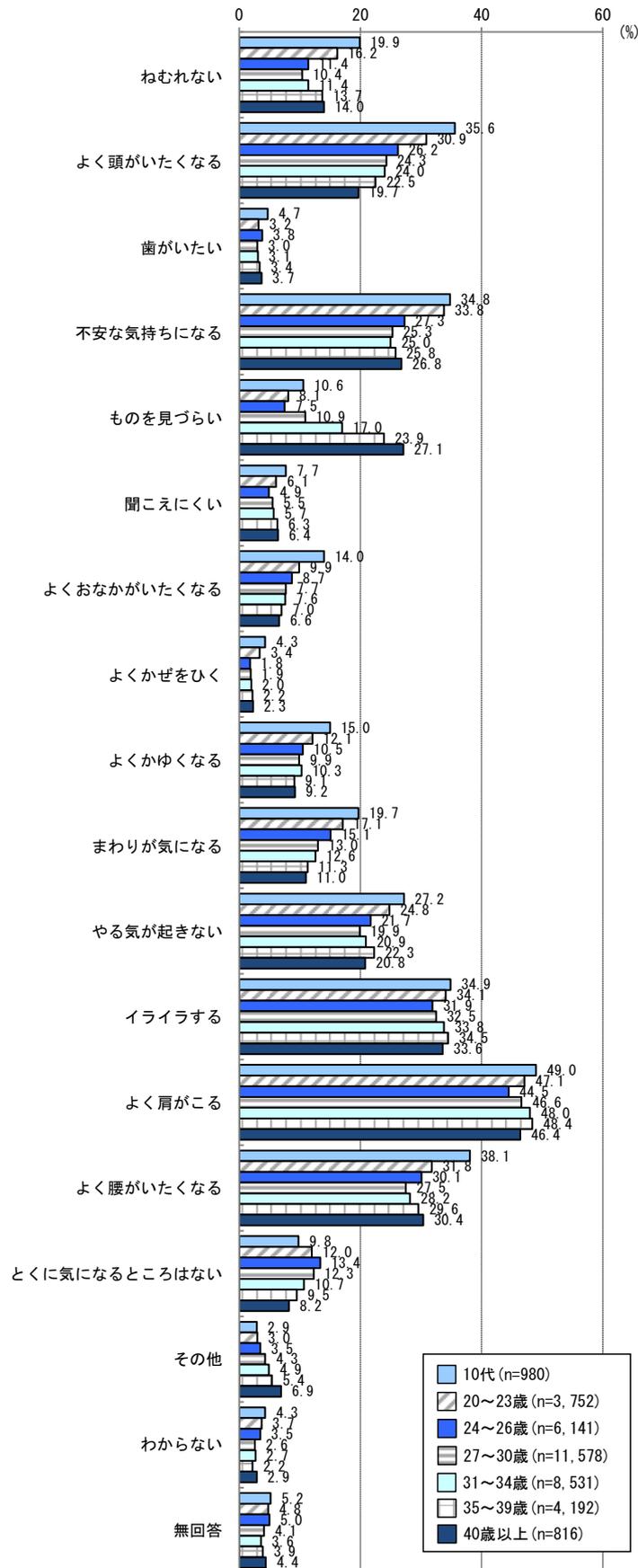


図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）

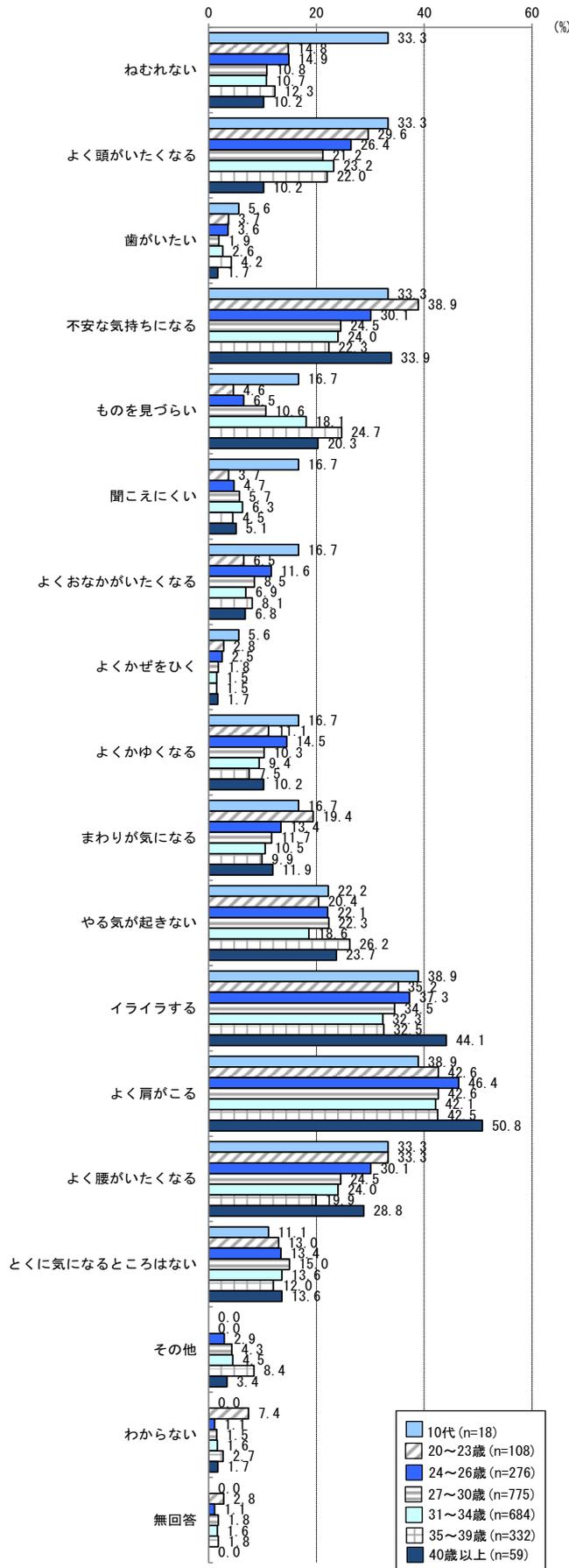
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に就労状況を見ると、10代は他の年代と比較して「正規群」の割合が低く、「非正規群」の割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票問 17×保護者票問 22) ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

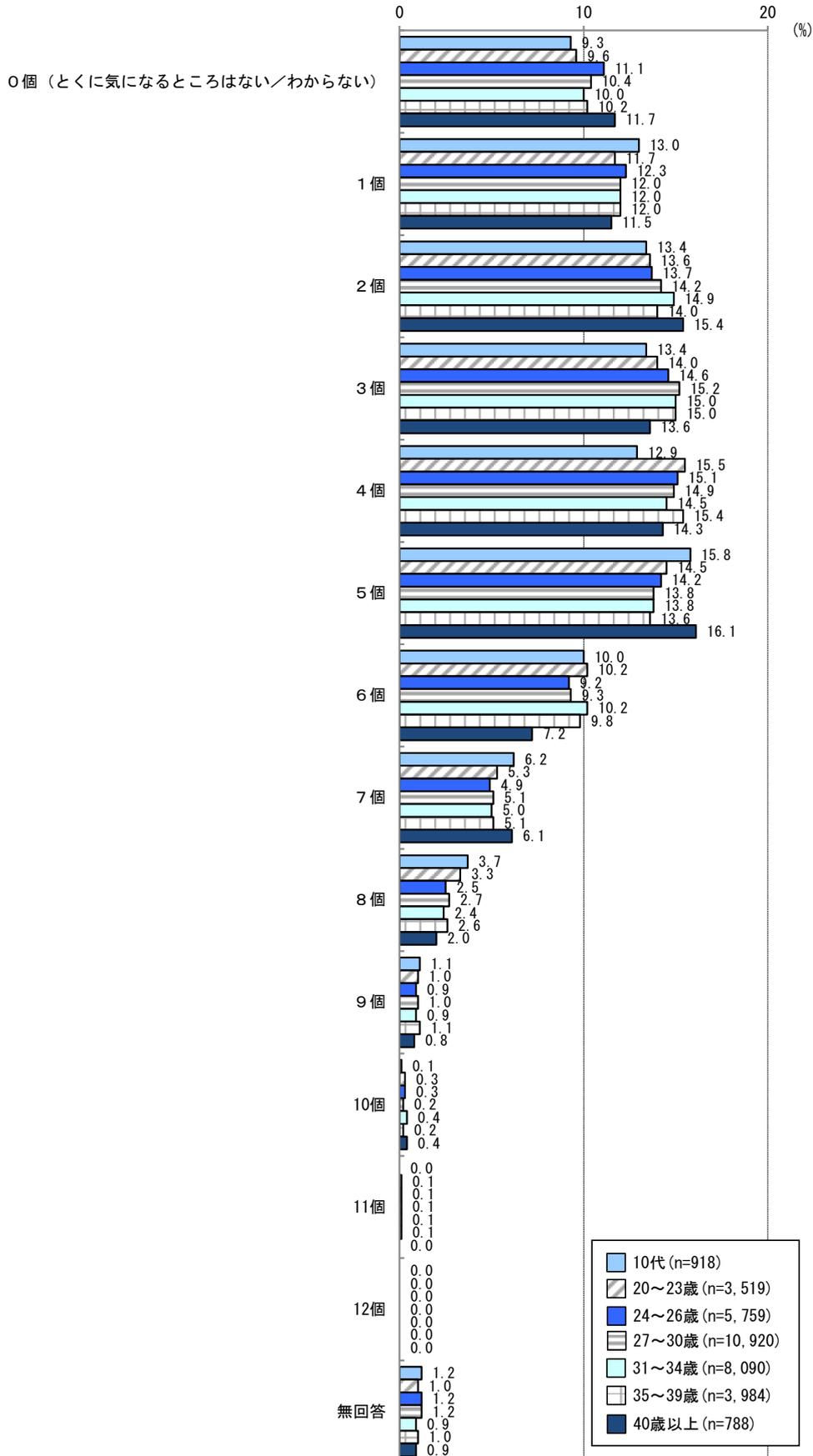


母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、20~23歳は他の年代と比較して「不安な気持ちになる」や「まわりが気になる」の割合が高かった。

図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問17
×子ども票問19・20） ※母親の回答者のみ

<大阪府内全体>



<豊中市>

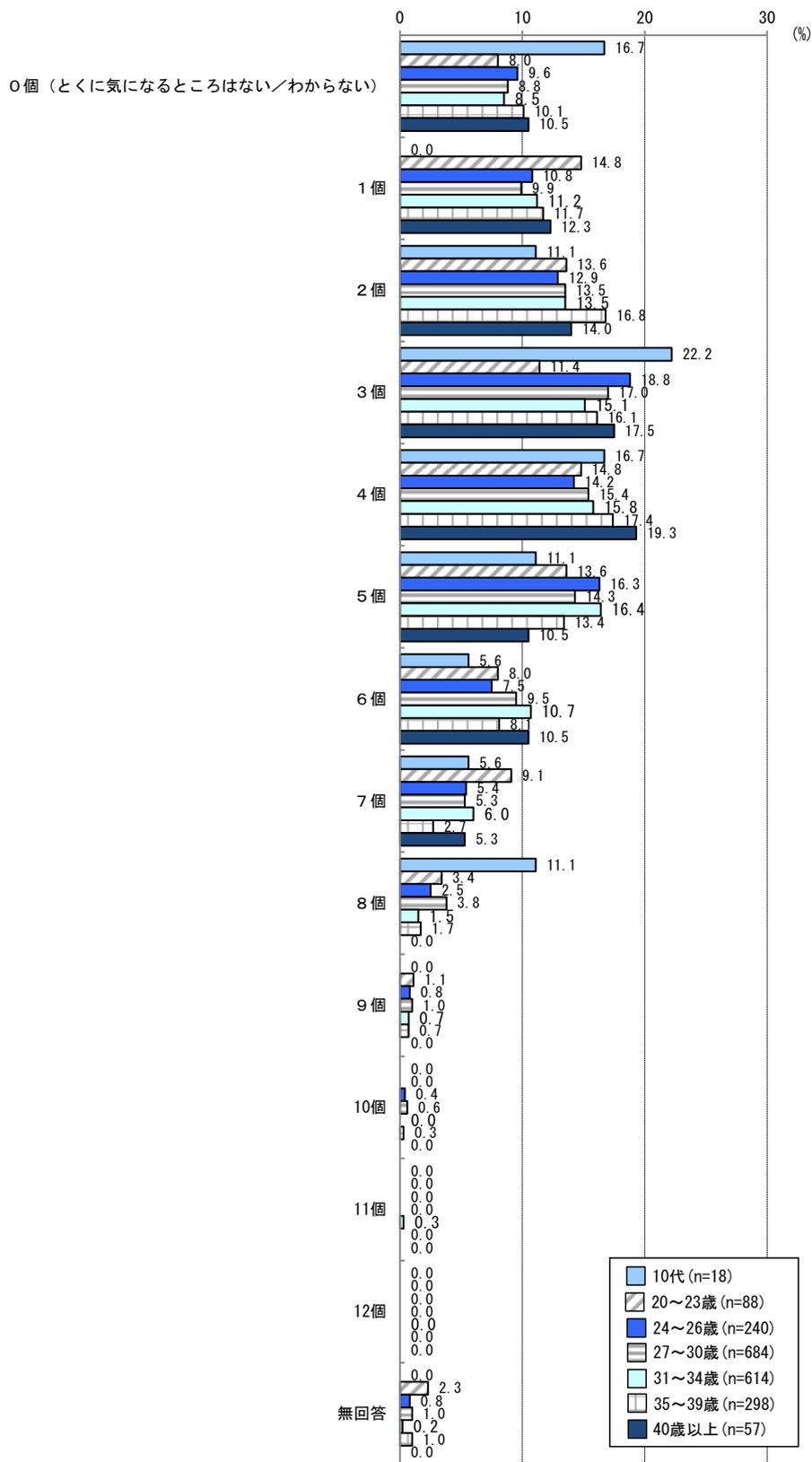
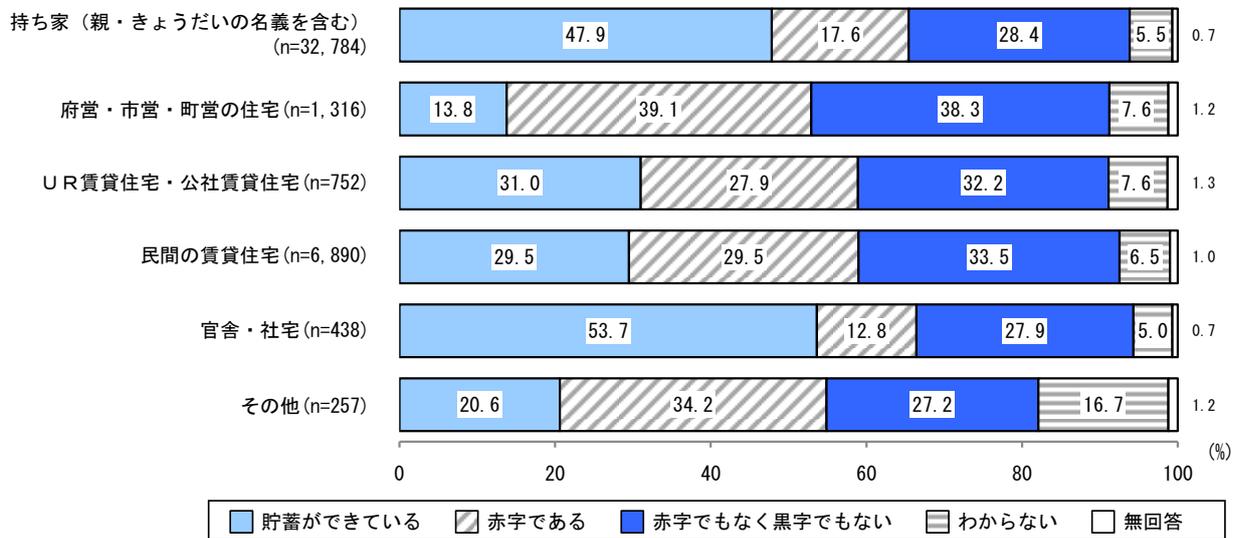


図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代は、他の年代と比較して「0個」(16.7%)、「3個」(22.2%)、「8個」(11.1%)の割合が最も高かった。

住居形態別に見た、家計の状況（保護者票問5×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

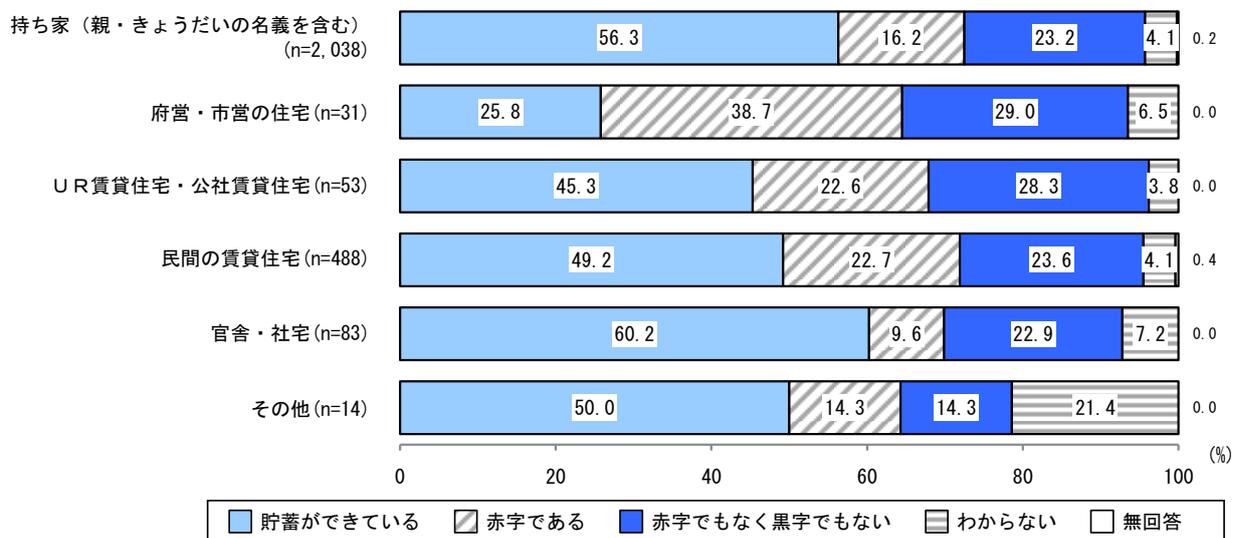
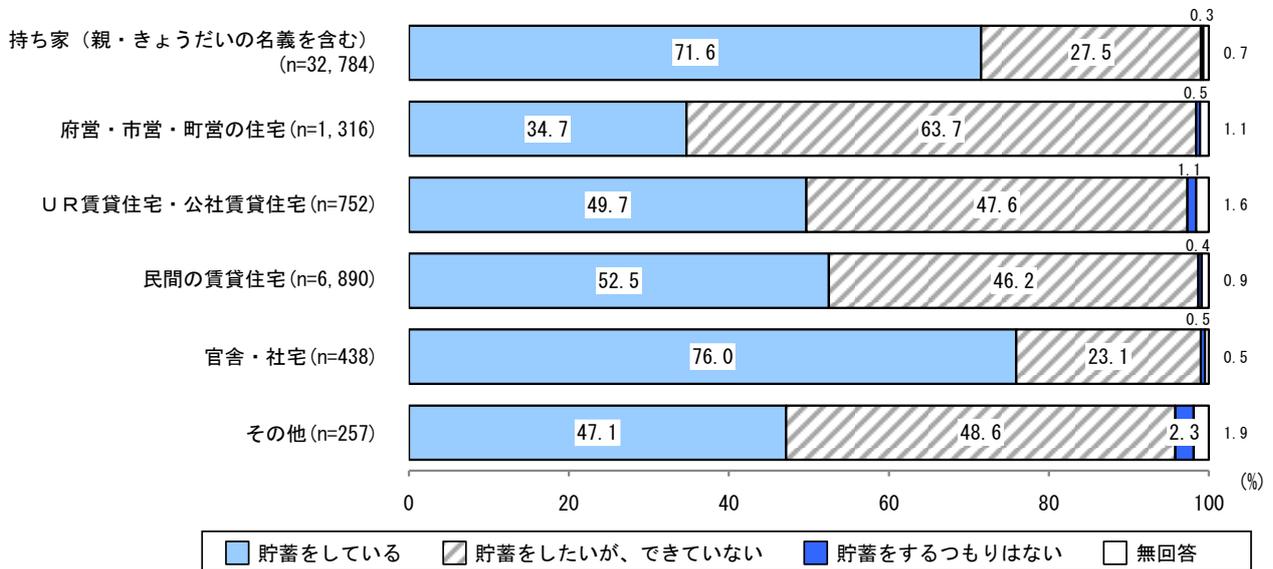


図 29. 住居形態別に見た、家計の状況

住居別に家計状況を見ると、府営・市営の住宅（38.7%）、民間の賃貸住宅（22.7%）、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」（22.6%）に住む人で、「赤字である」と回答した割合が高かった。

住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問5×保護者票問6(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

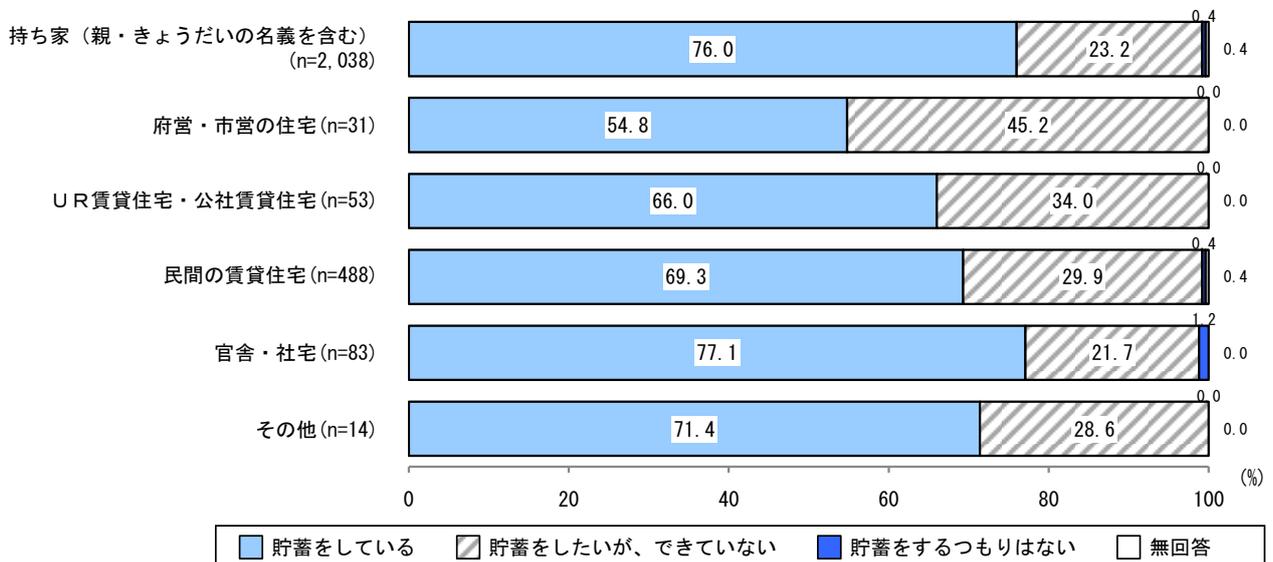
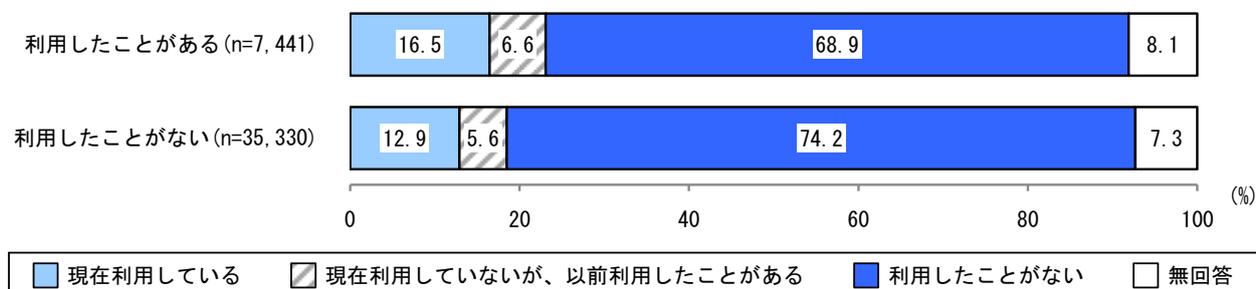


図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況

住居形態別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、府営・市営の住宅（45.2%）、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅（34.0%）、民間の賃貸住宅（29.9%）に住む人で、「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高かった。

子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<豊中市>

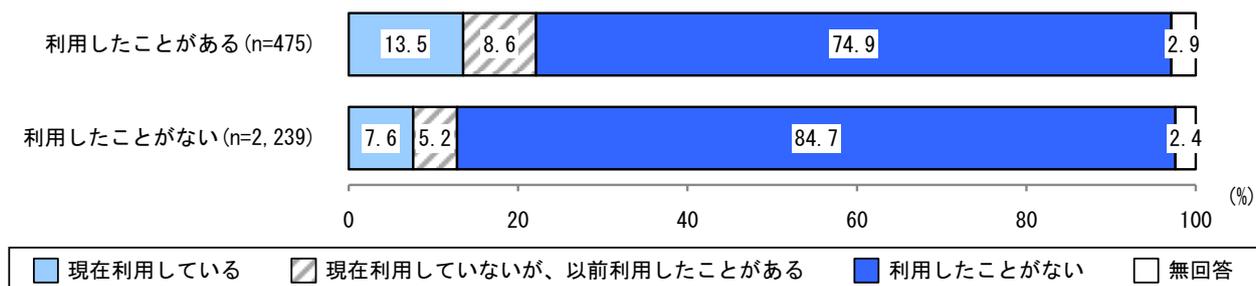
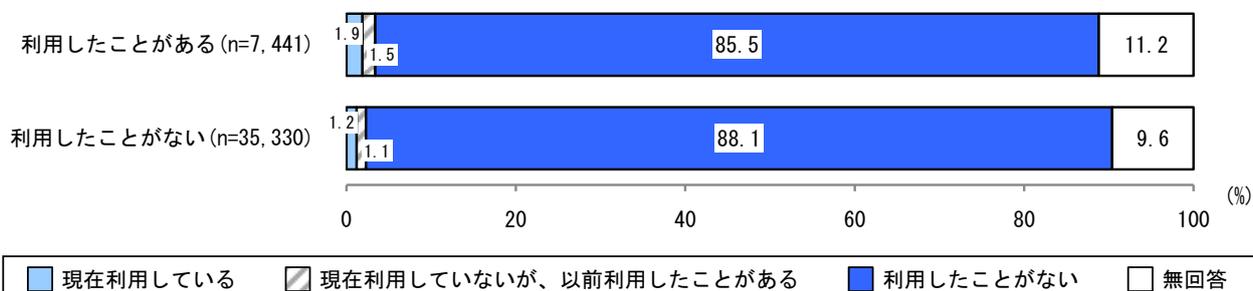


図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に就学援助の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがない」人より「利用したことがある」人のほうが就学援助を「現在利用している」と回答した割合がやや高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<豊中市>

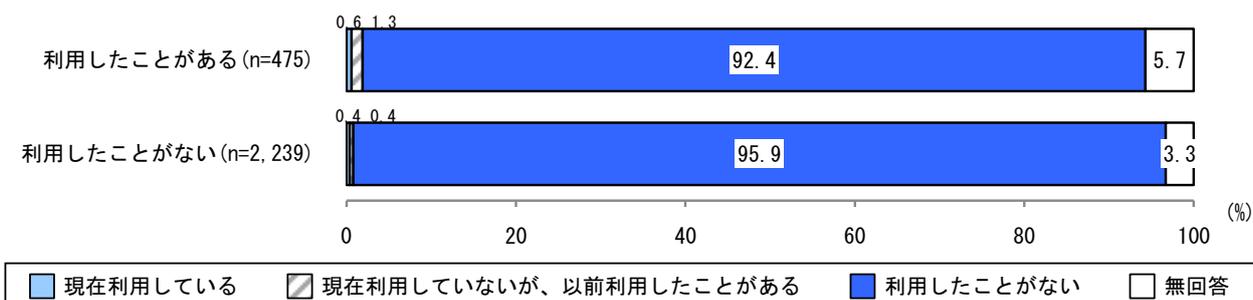
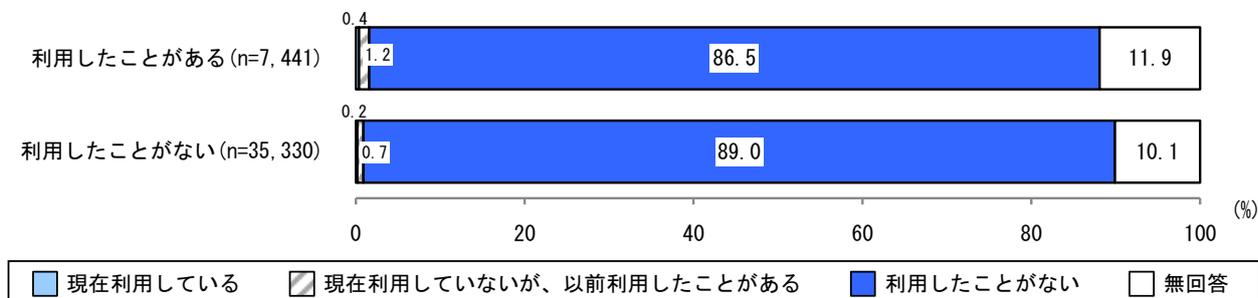


図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活保護の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活保護を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<豊中市>

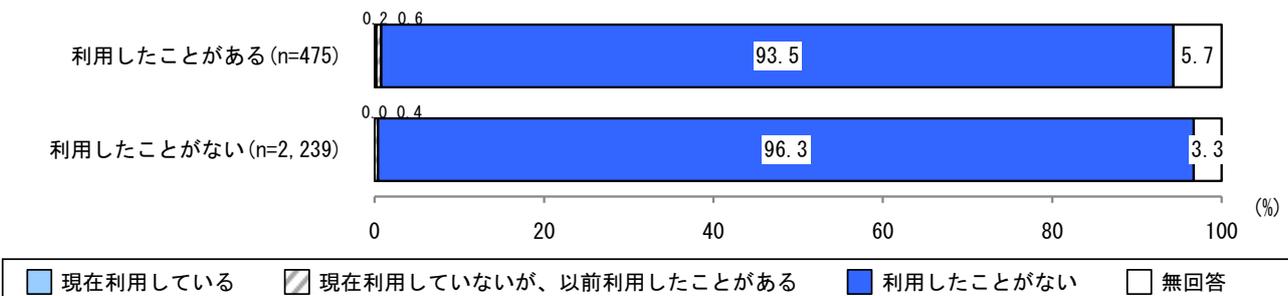
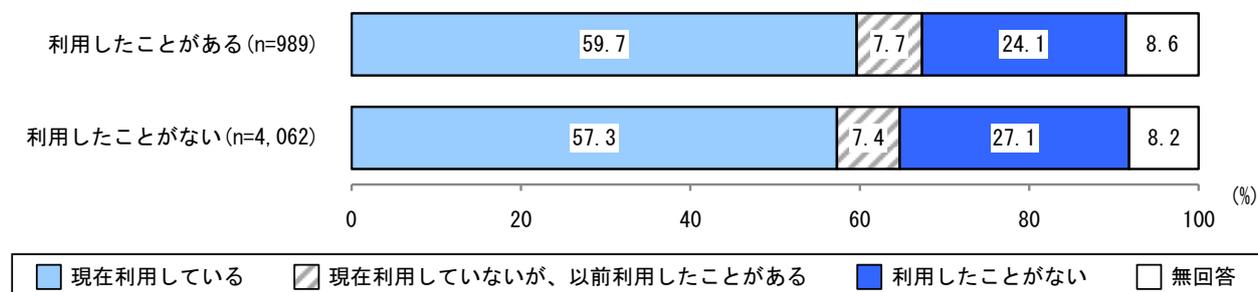


図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが生活困窮者の自立支援相談窓口を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-d)

<大阪府内全体>



<豊中市>

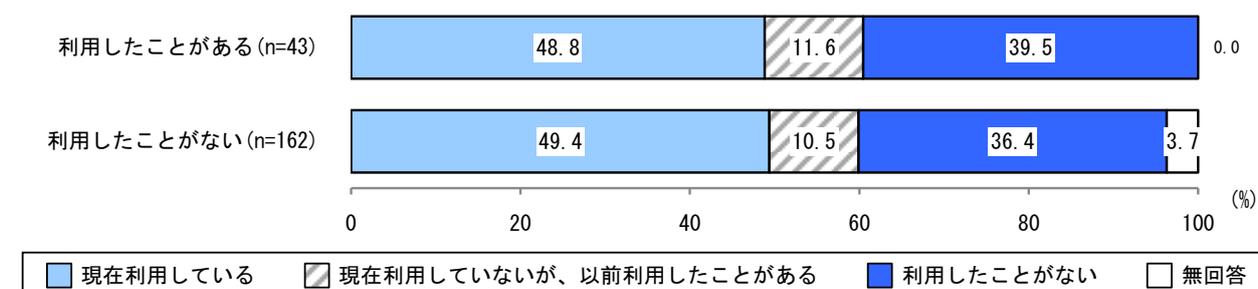
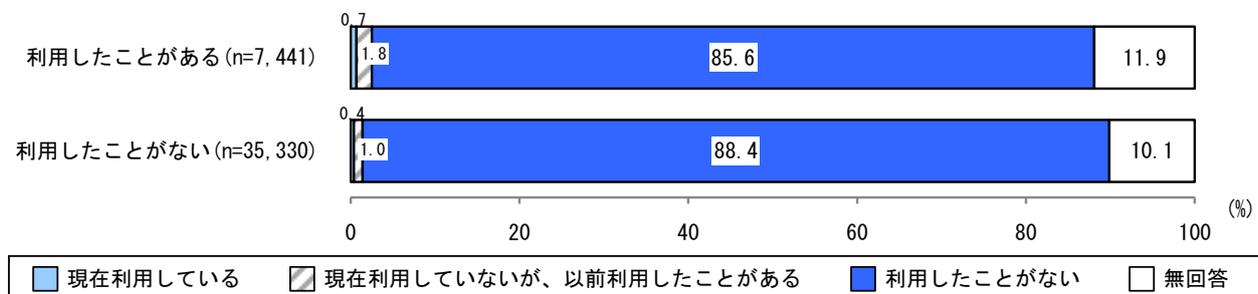


図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

子どもの居場所の利用経験別に児童扶養手当の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが児童扶養手当を「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<豊中市>

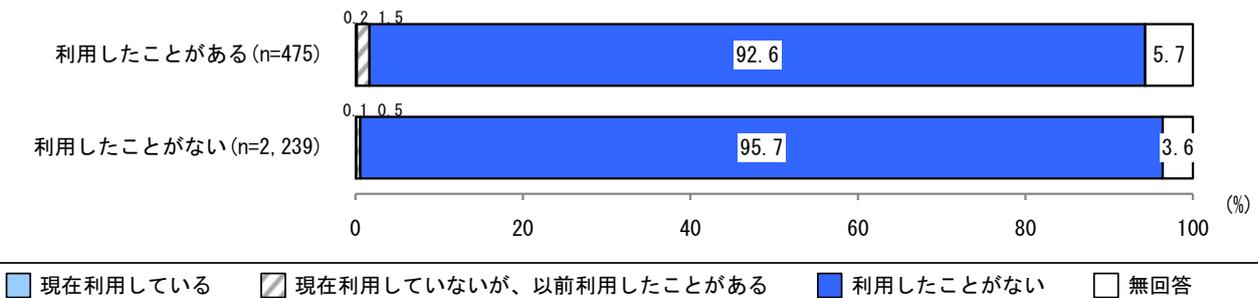
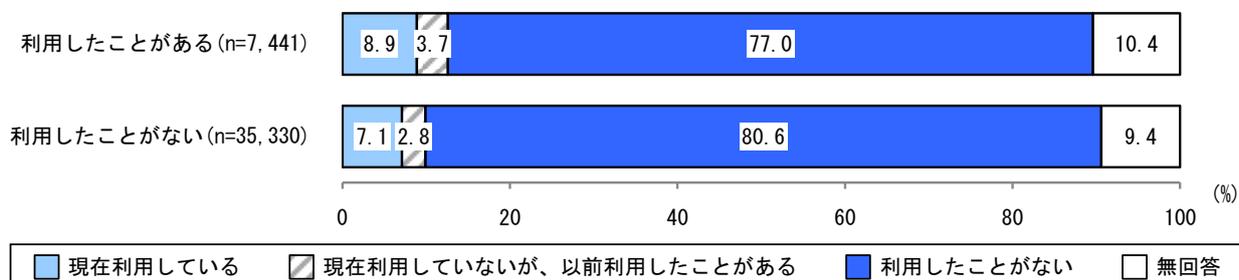


図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

子どもの居場所の利用経験別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが母子家庭等就業・自立支援センターを「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<豊中市>

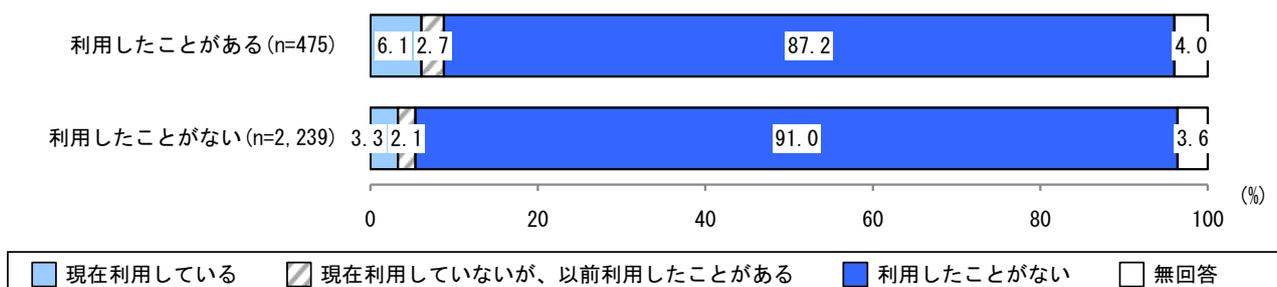
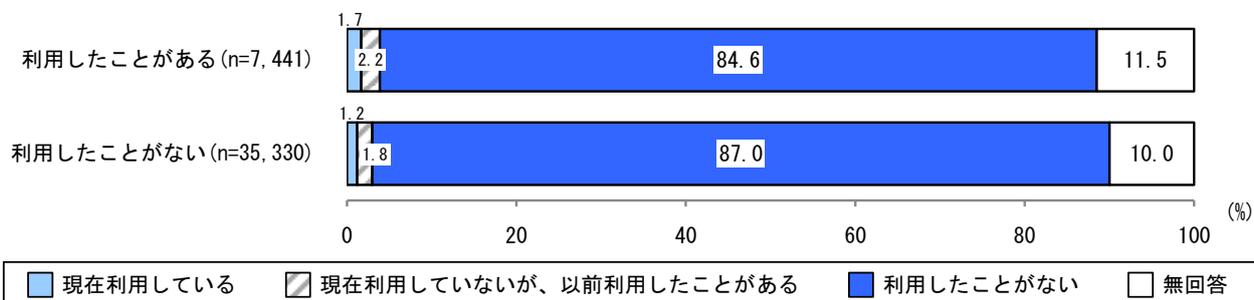


図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 16(1) × 保護者票問 23-g)

<大阪府内全体>



<豊中市>

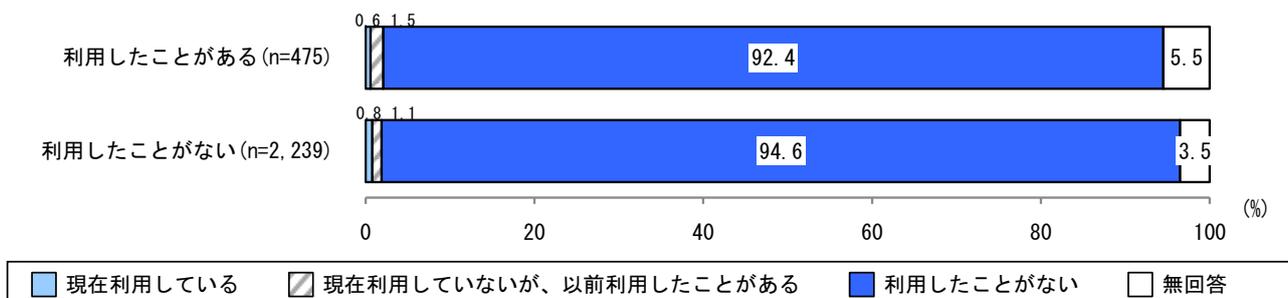
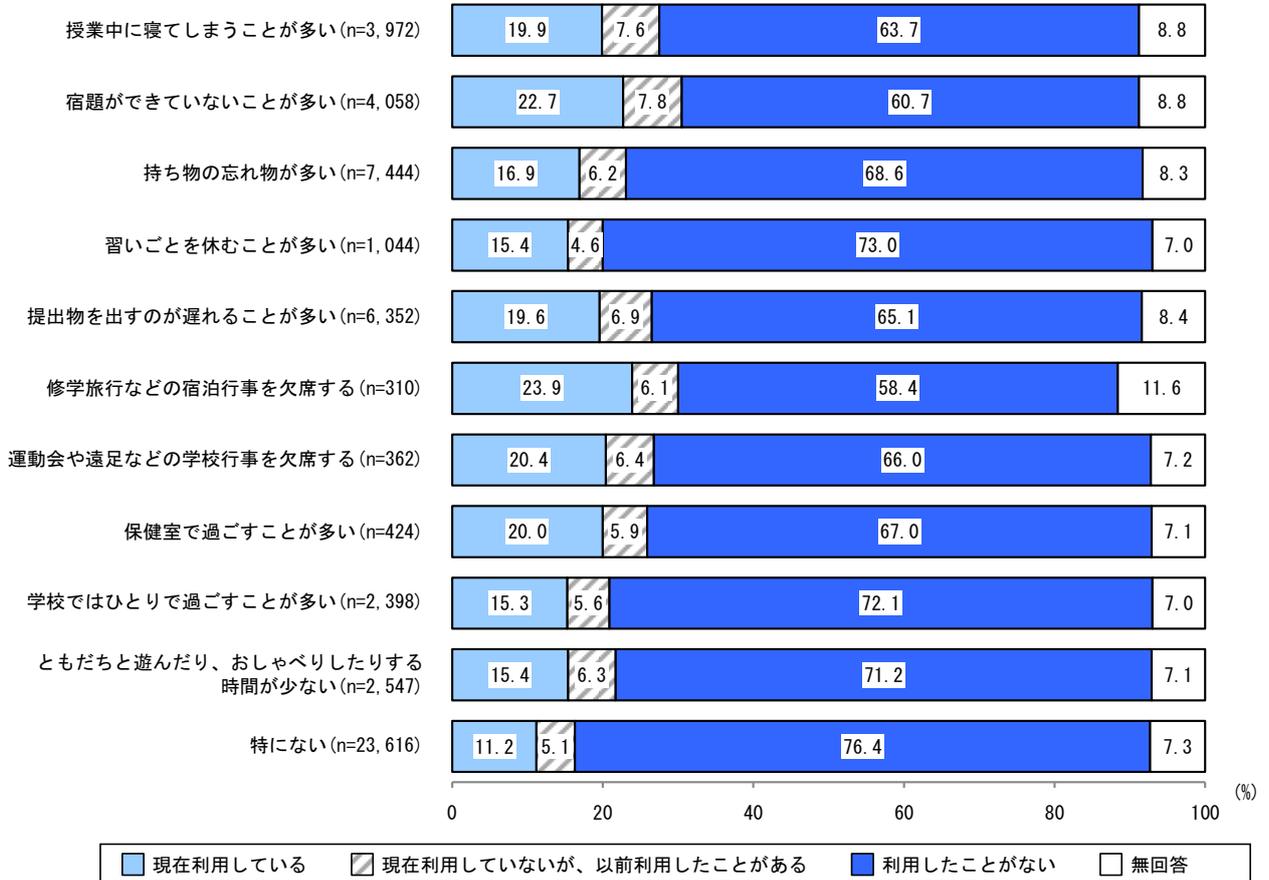


図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

子どもの居場所の利用経験別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、子どもの居場所を「利用したことがある」人より「利用したことがない」人のほうが新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）を「利用したことがない」と回答した割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



<豊中市>

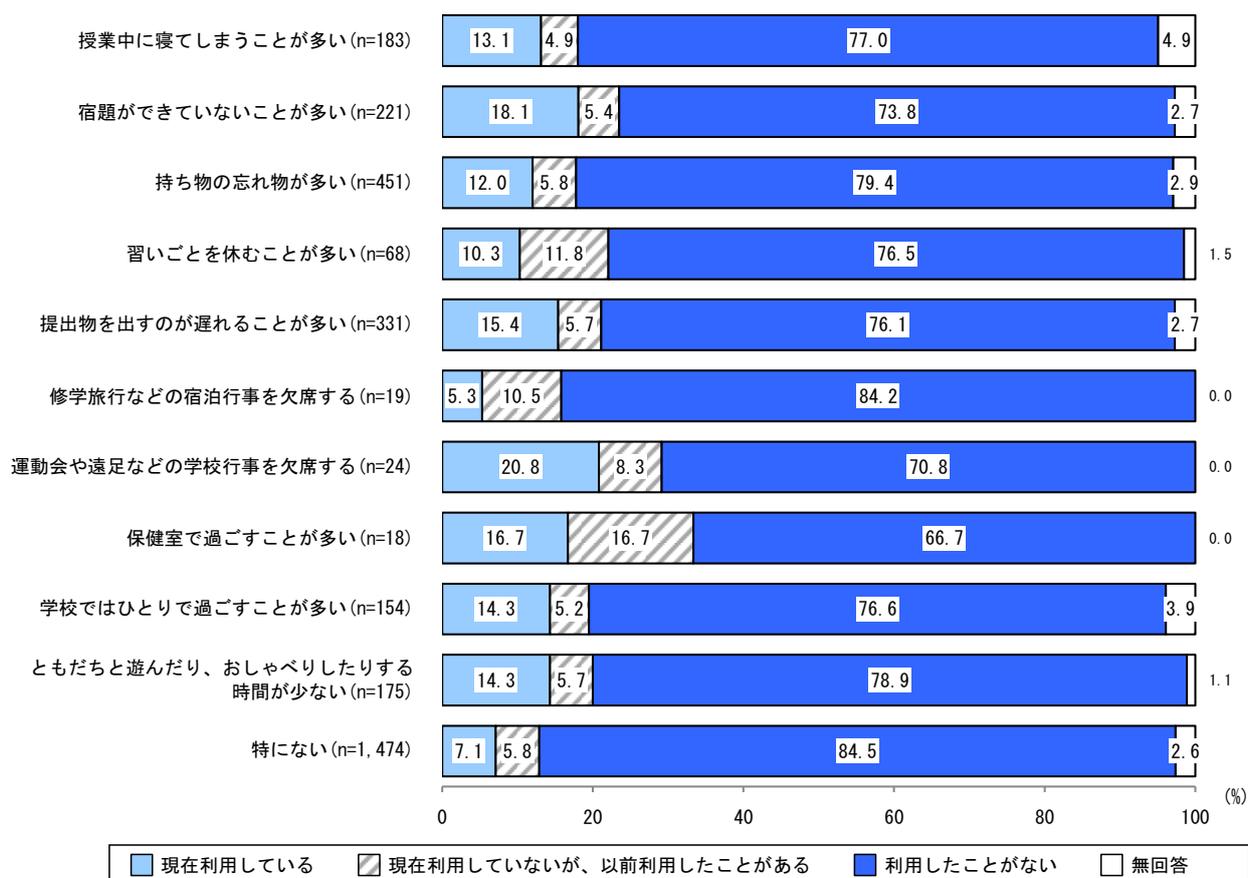
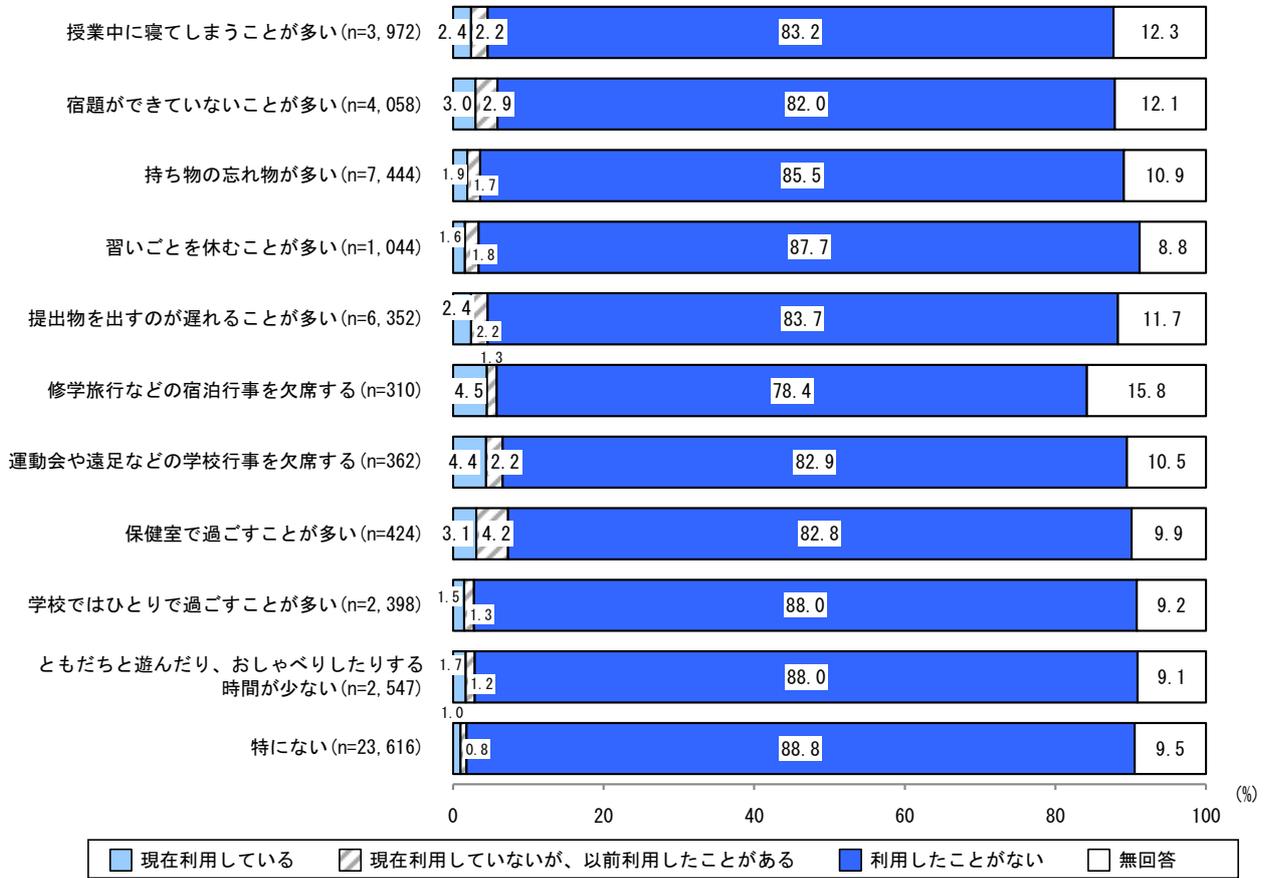


図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」と回答した割合が20.8%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



<豊中市>

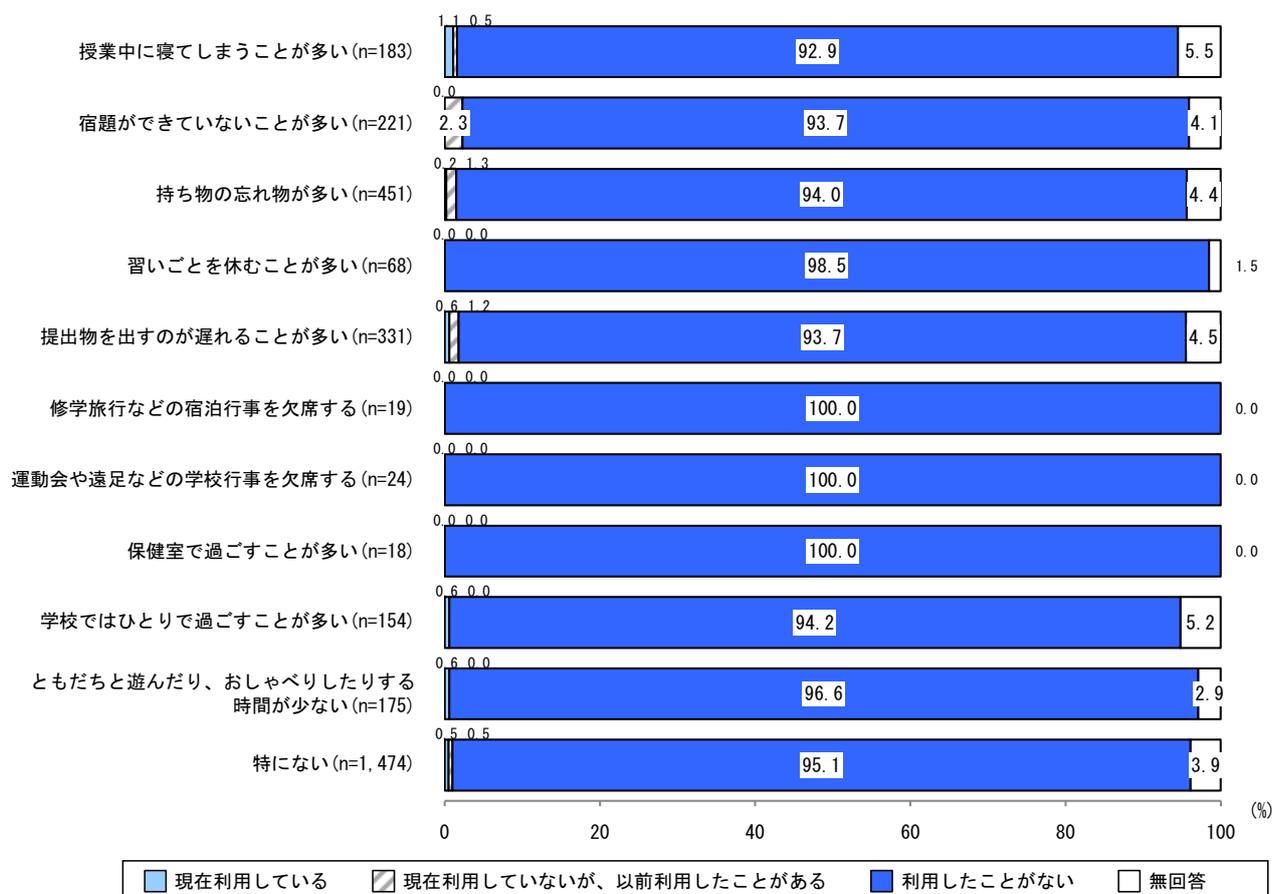
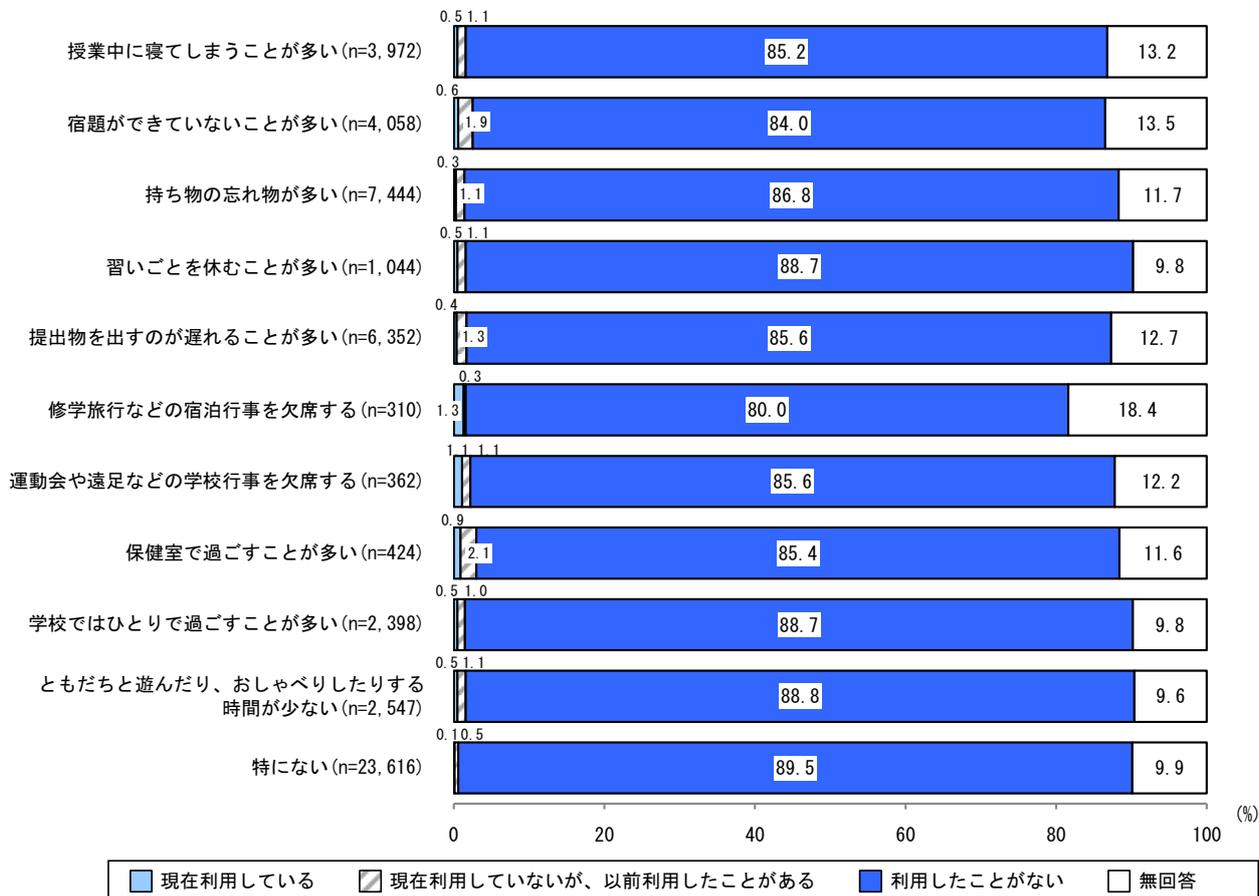


図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「授業中に寝てしまうことが多い」と回答した割合が1.1%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
 (子ども票問 16×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<豊中市>

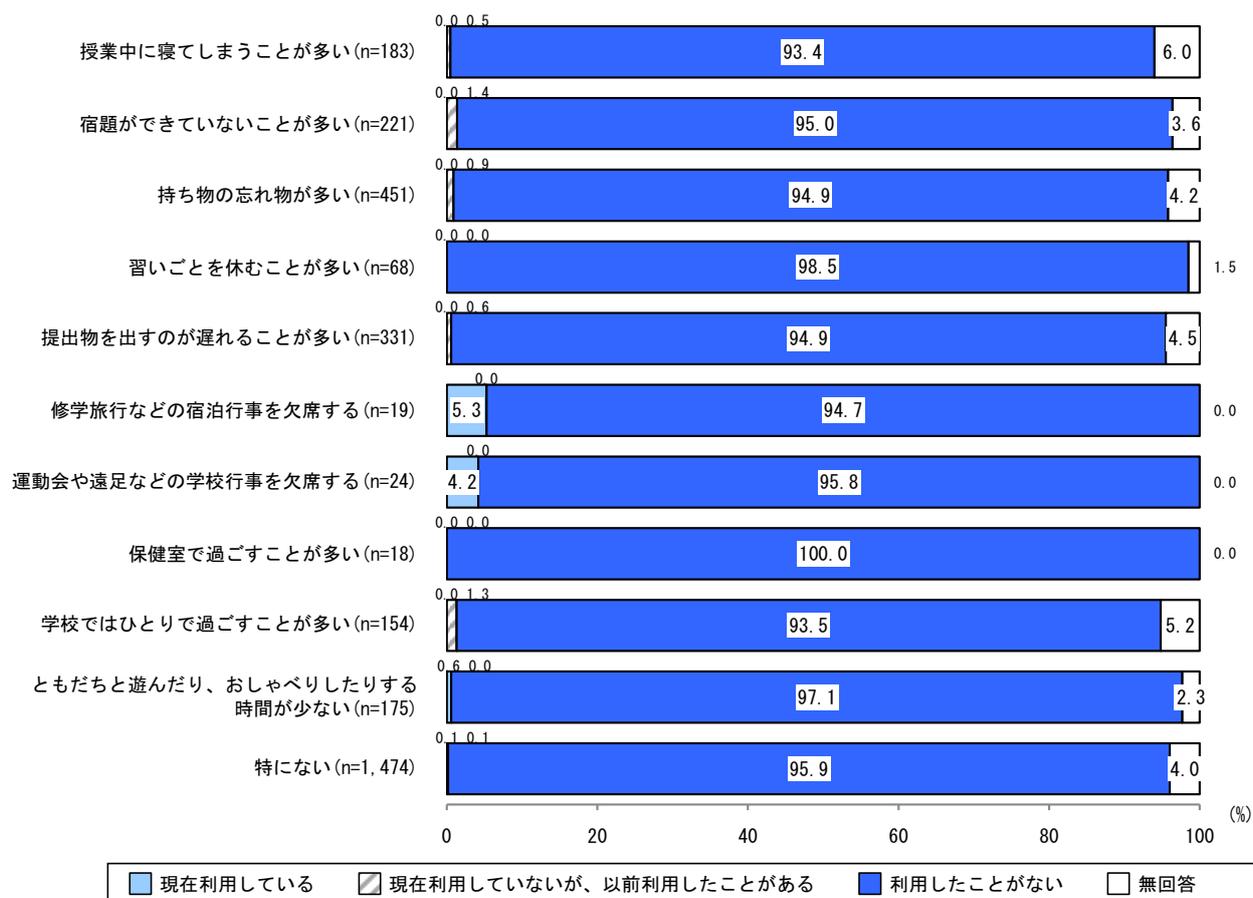
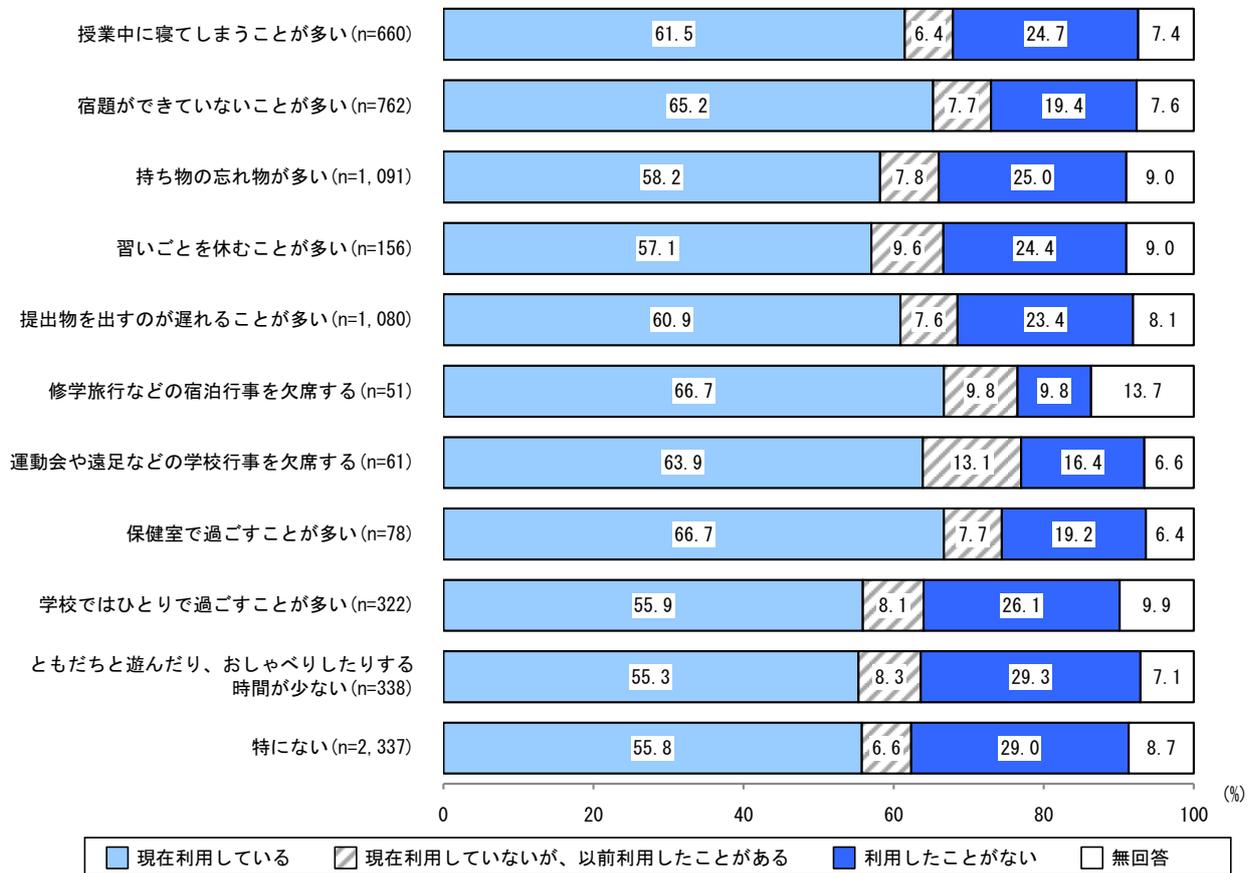


図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ると、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した割合が5.3%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
 （子ども票問 16×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<豊中市>

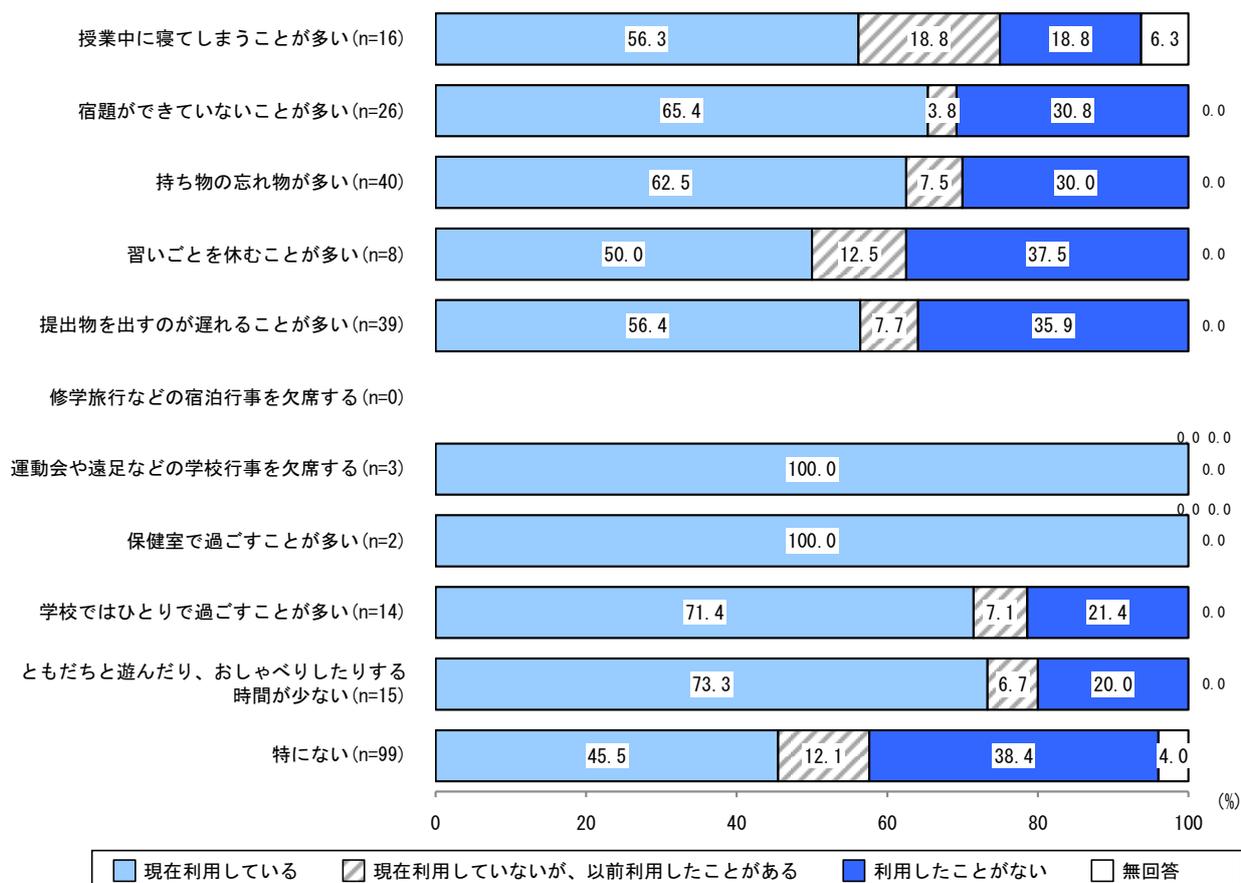
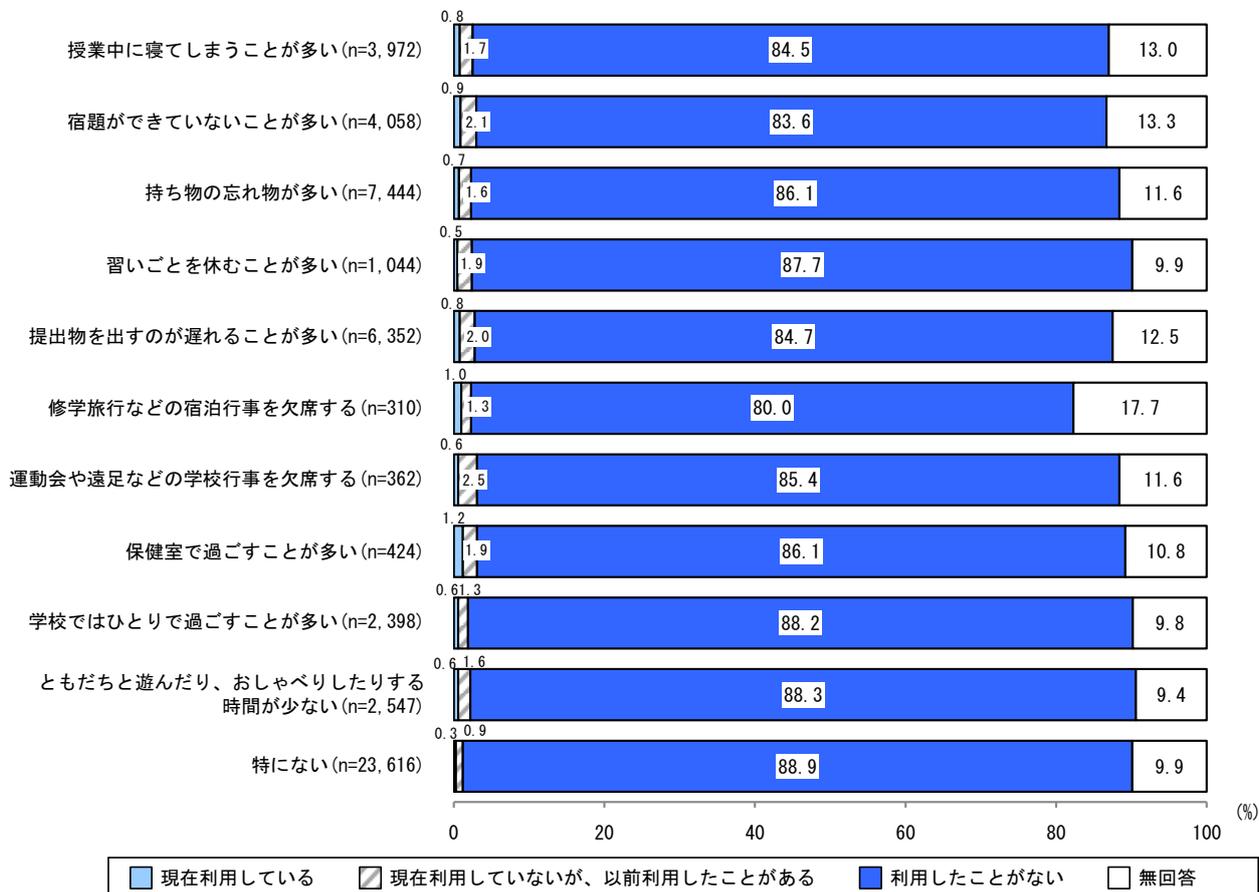


図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

学校や学校の行事等の状況別に児童扶養手当の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「運動会や遠足などの行事を欠席する」と「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が100.0%で最も高く、次いで「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」と回答した割合が73.3%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
 (子ども票問 16×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<豊中市>

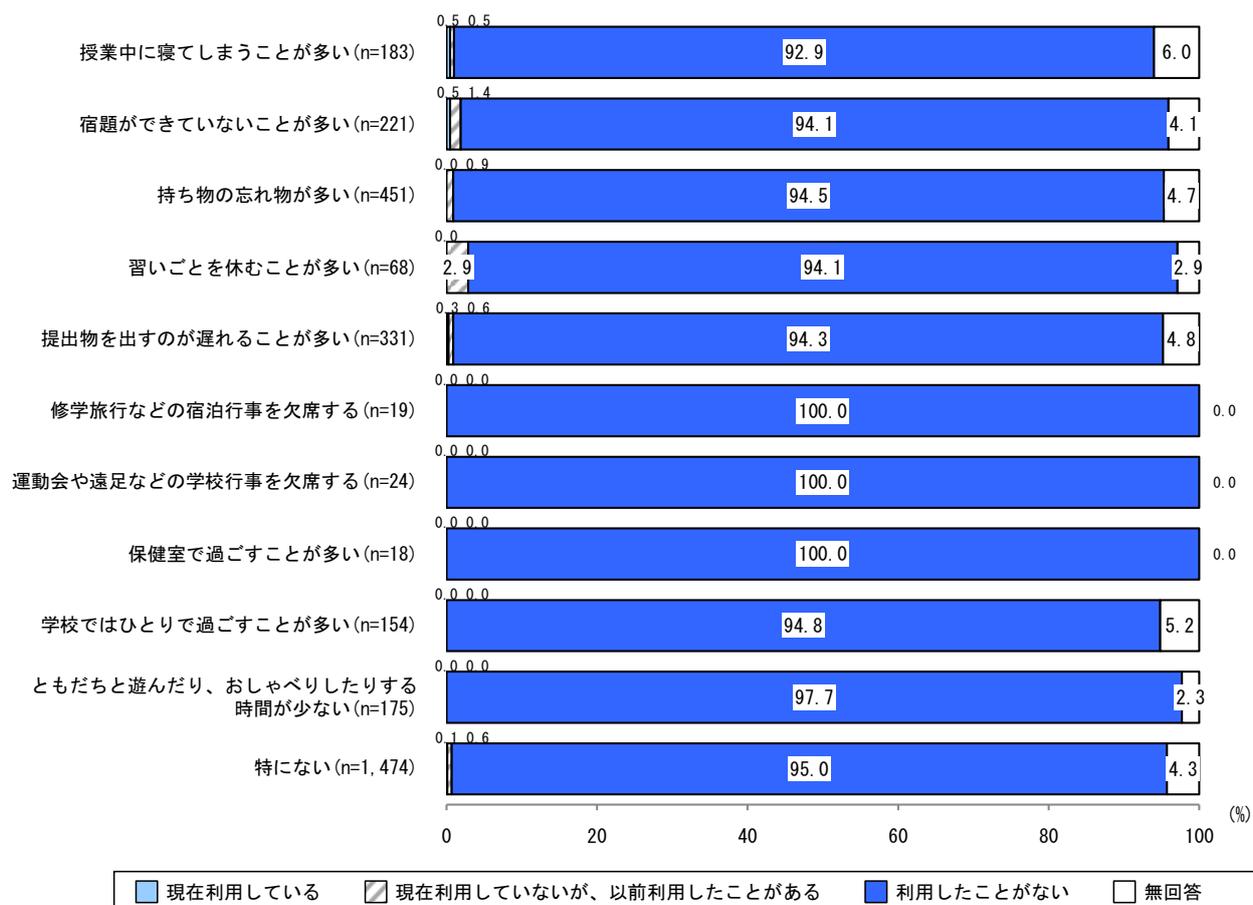
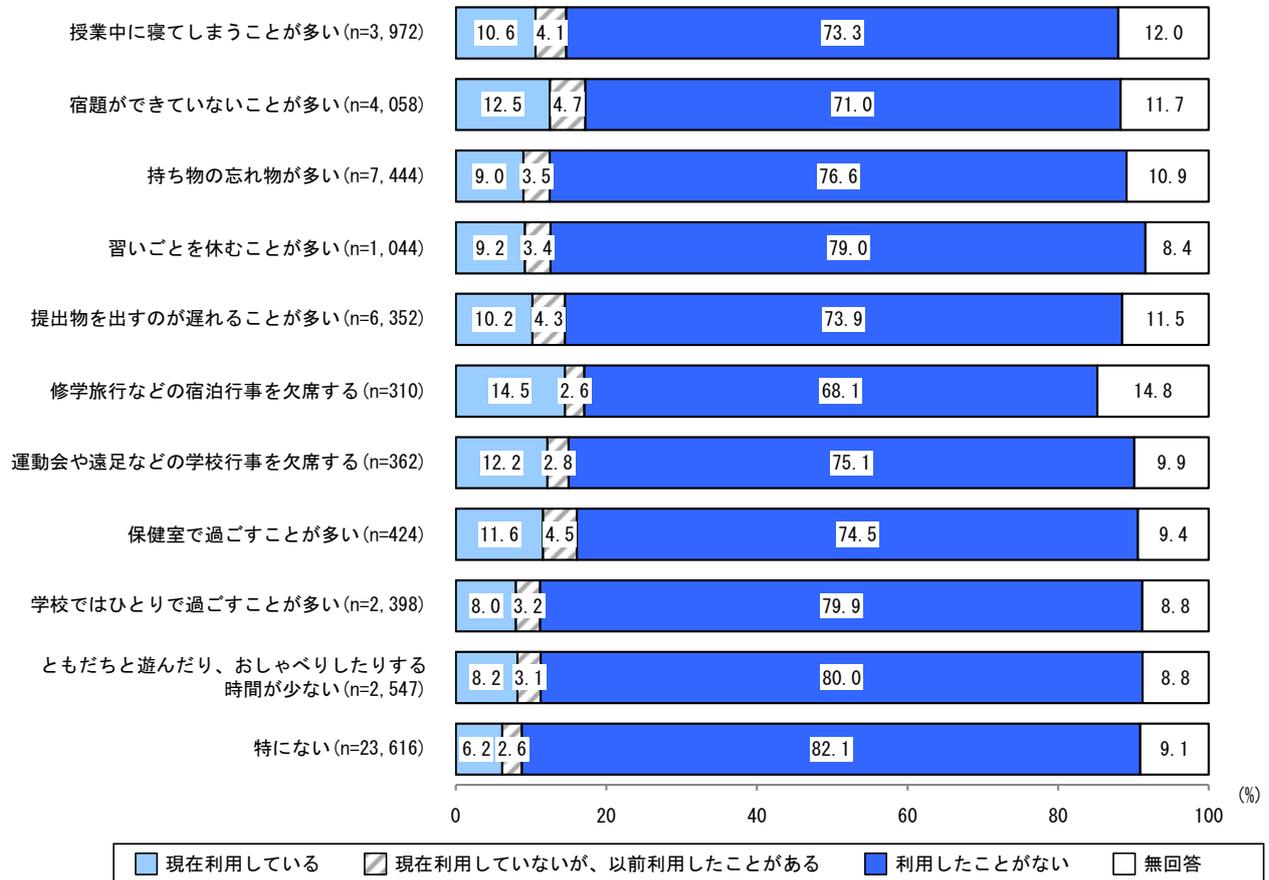


図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

学校や学校の行事等の状況別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「授業中に寝てしまうことが多い」と「宿題ができていないことが多い」と回答した割合がともに0.5%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<豊中市>

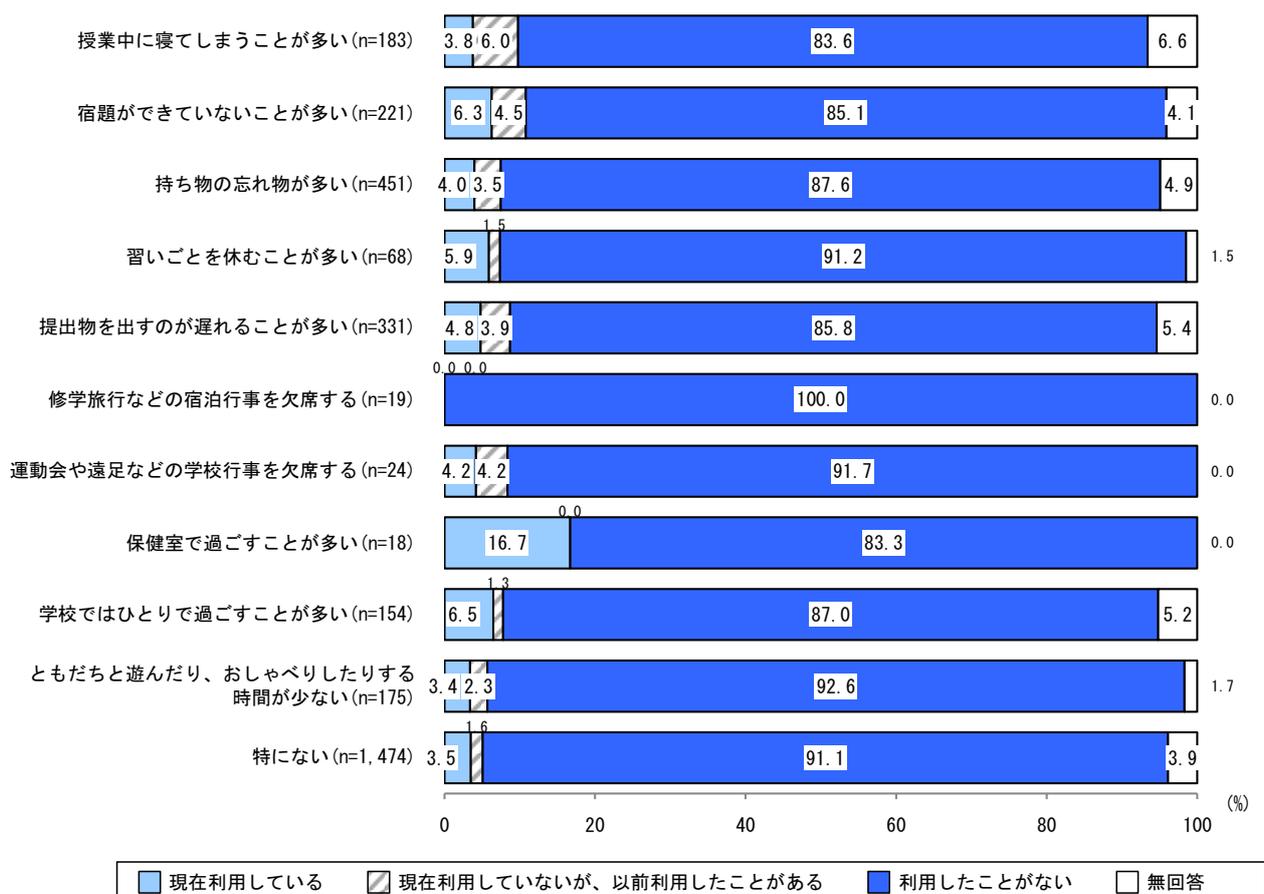
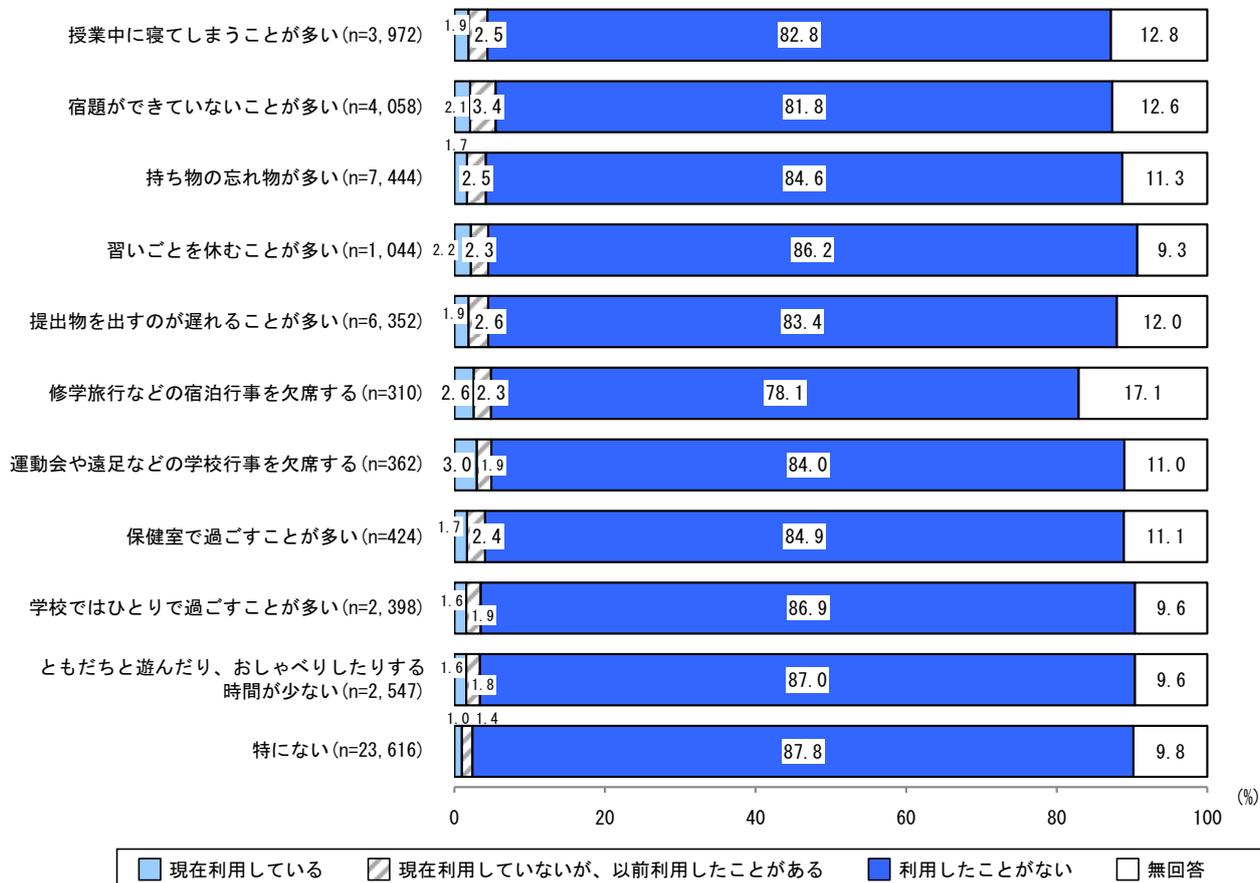


図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、母数が少ないため一概には言えないが、「現在利用している」と回答した人の割合は、「保健室で過ごすことが多い」と回答した割合が16.7%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（子ども票問 16×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<豊中市>

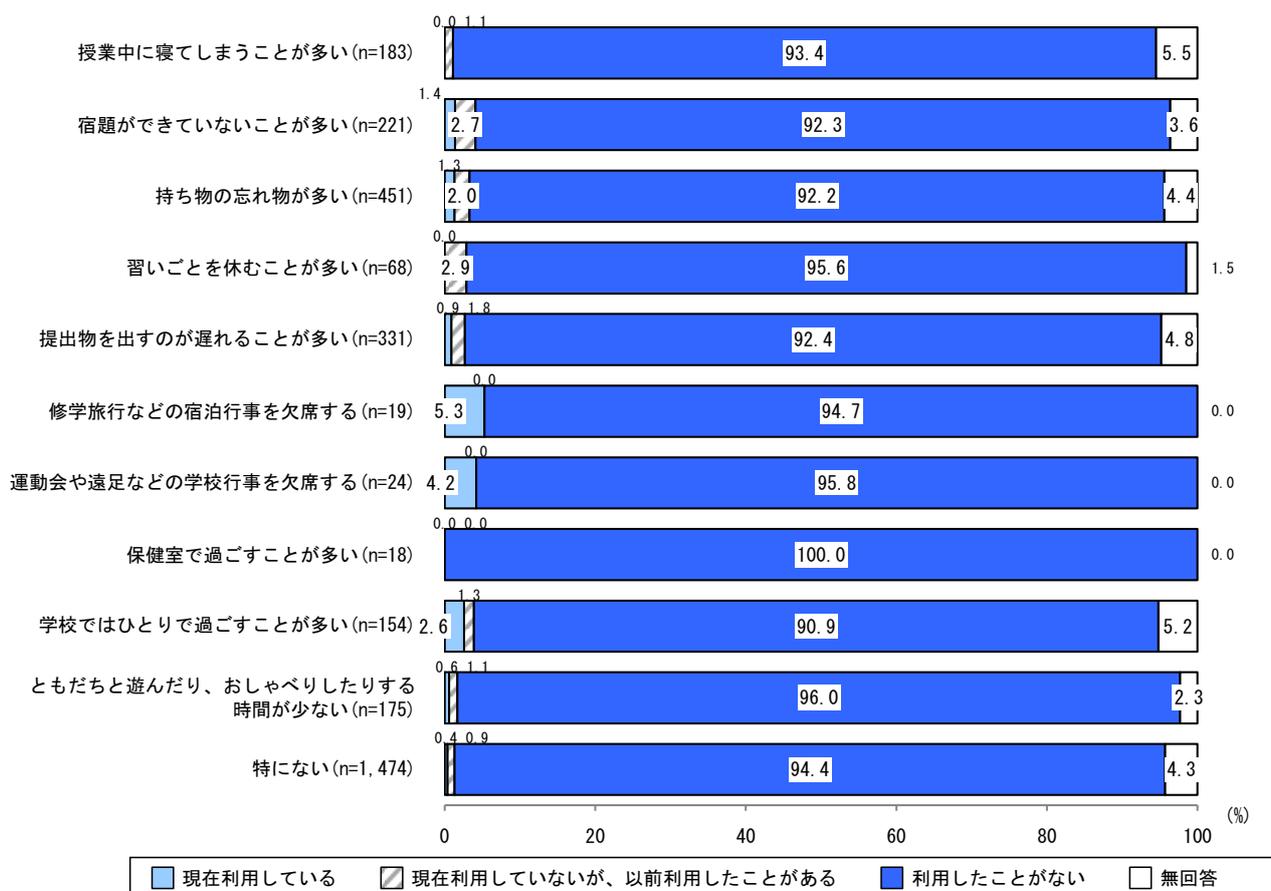
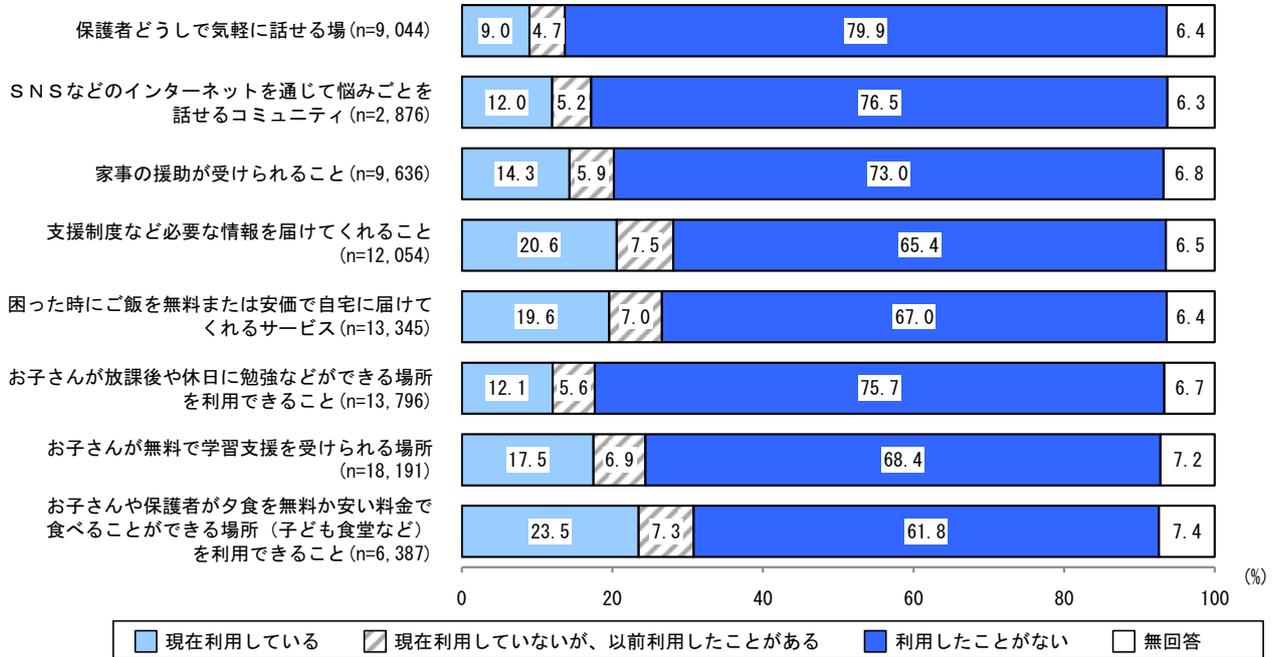


図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

学校や学校の行事等の状況別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」と回答した割合が5.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況
 (保護者票問 20×保護者票問 23-a)

<大阪府内全体>



<豊中市>

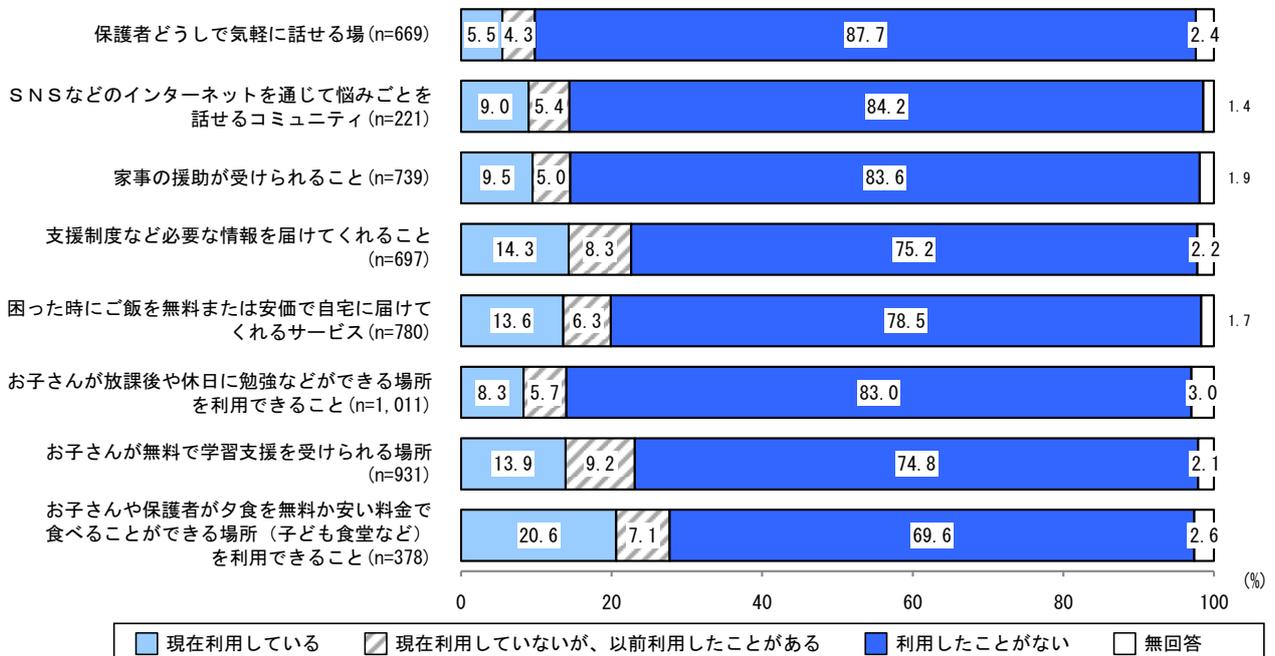
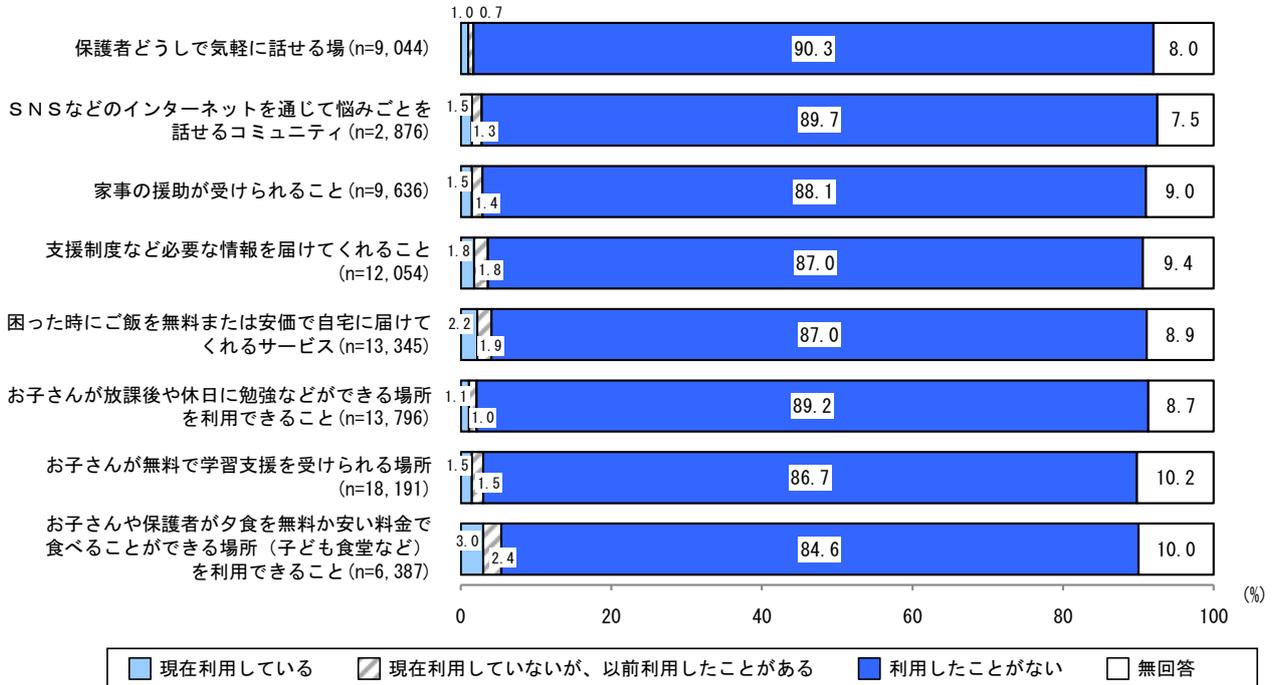


図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に就学援助の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が20.6%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況
 (保護者票問 20×保護者票問 23-b)

<大阪府内全体>



<豊中市>

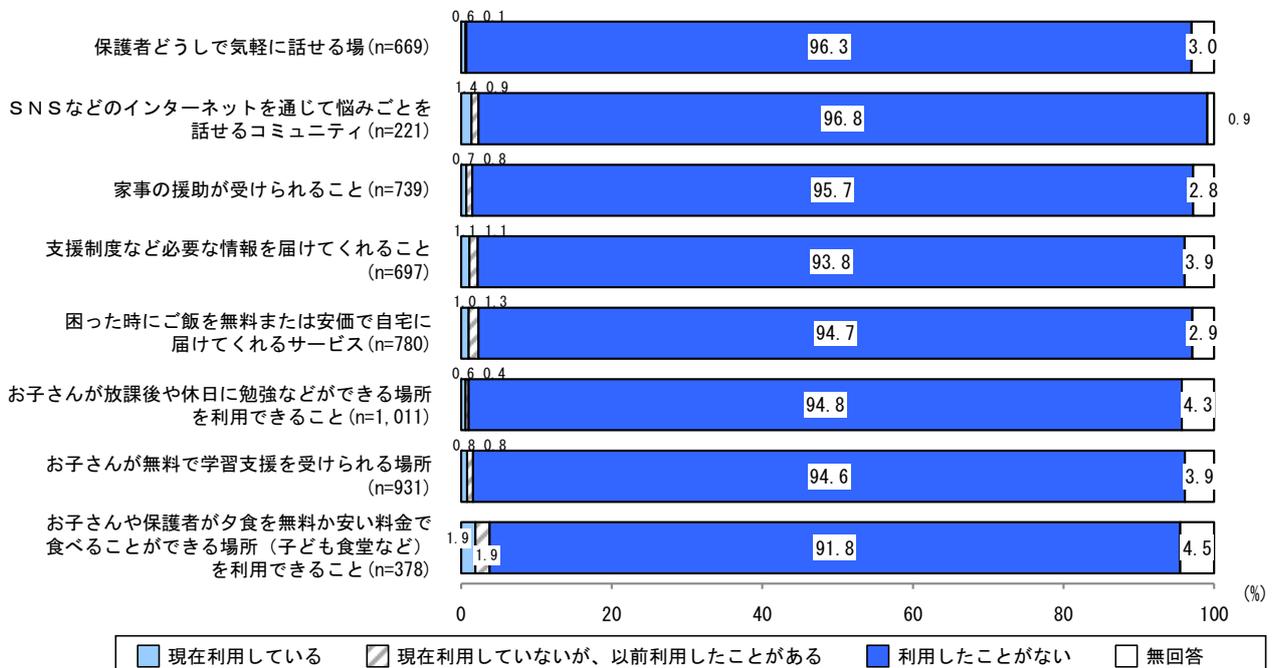
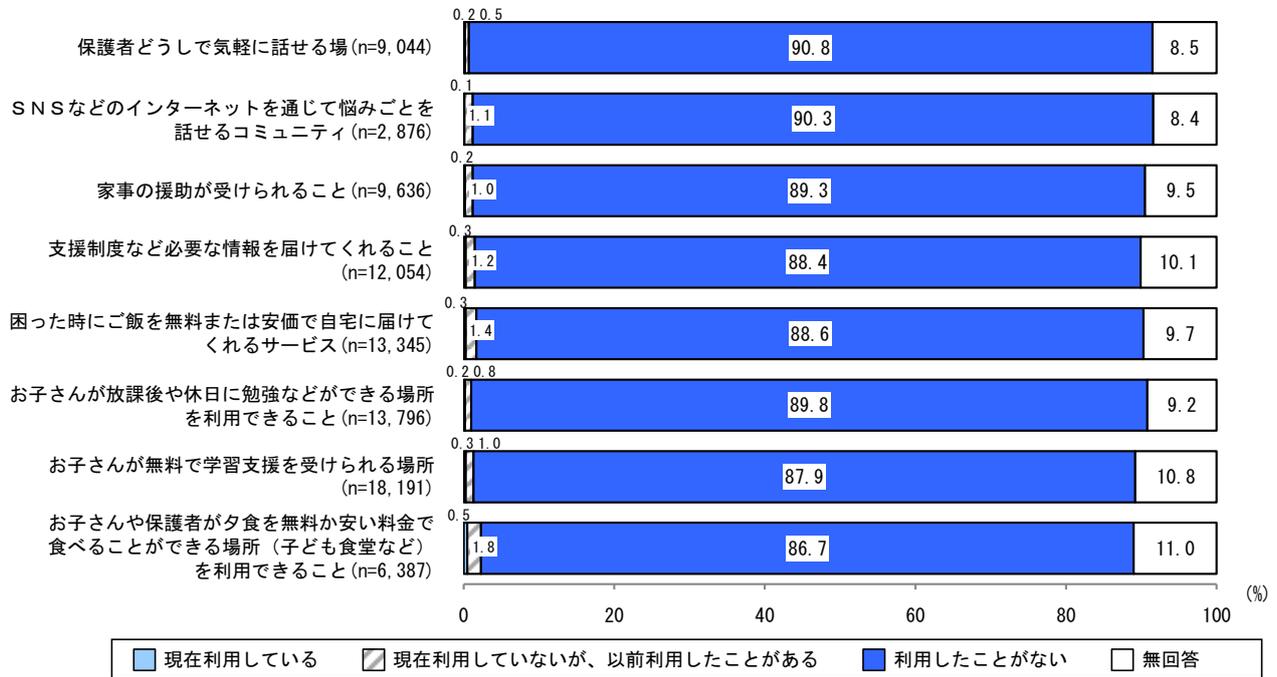


図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活保護の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」と回答した割合が1.9%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況
 (保護者票問 20×保護者票問 23-c)

<大阪府内全体>



<豊中市>

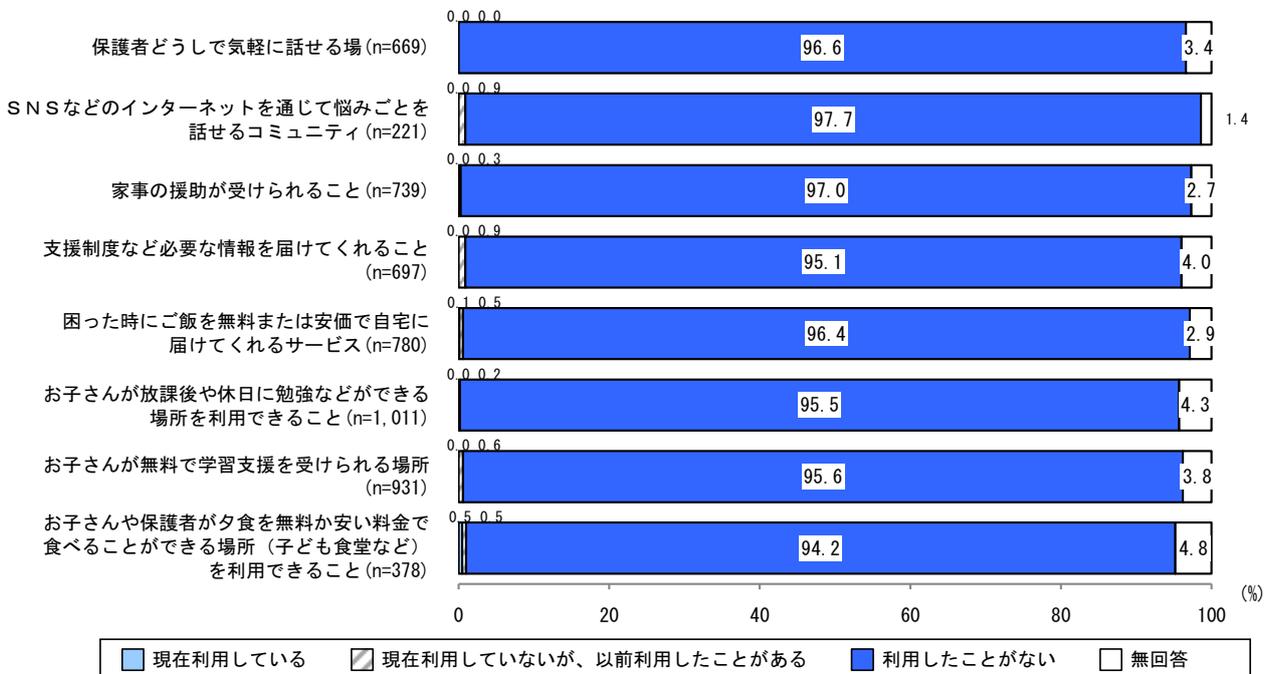
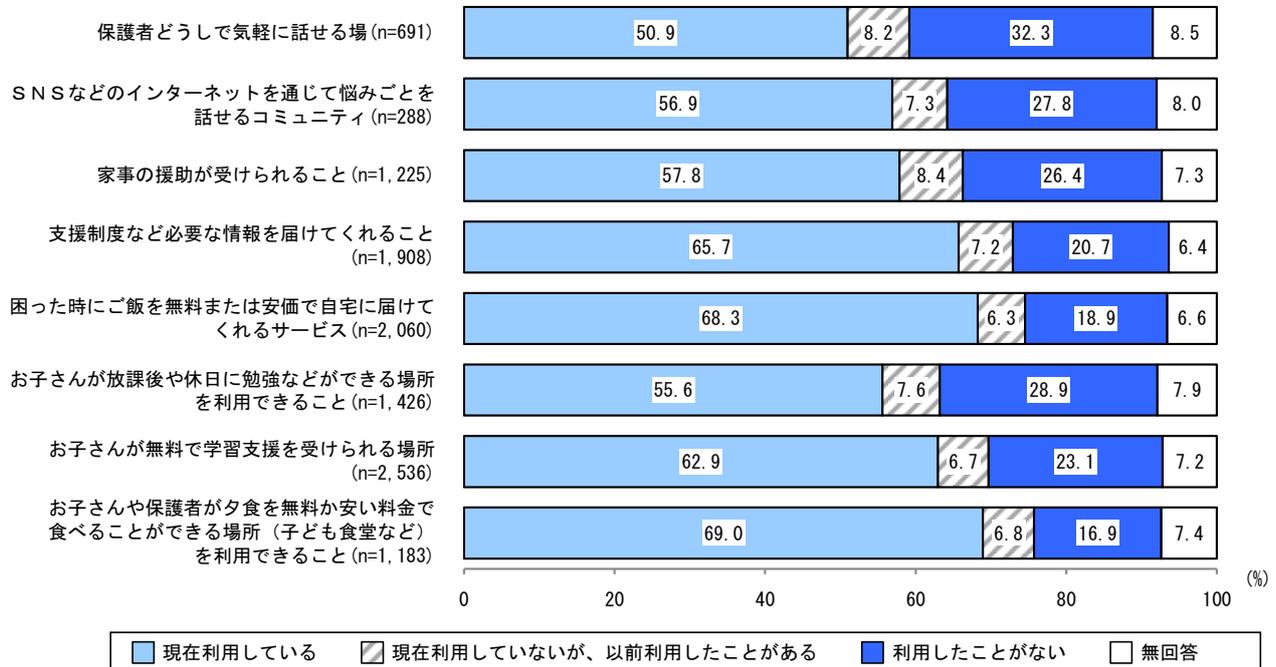


図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）
（保護者票問 20×保護者票問 23-d）

<大阪府内全体>



<豊中市>

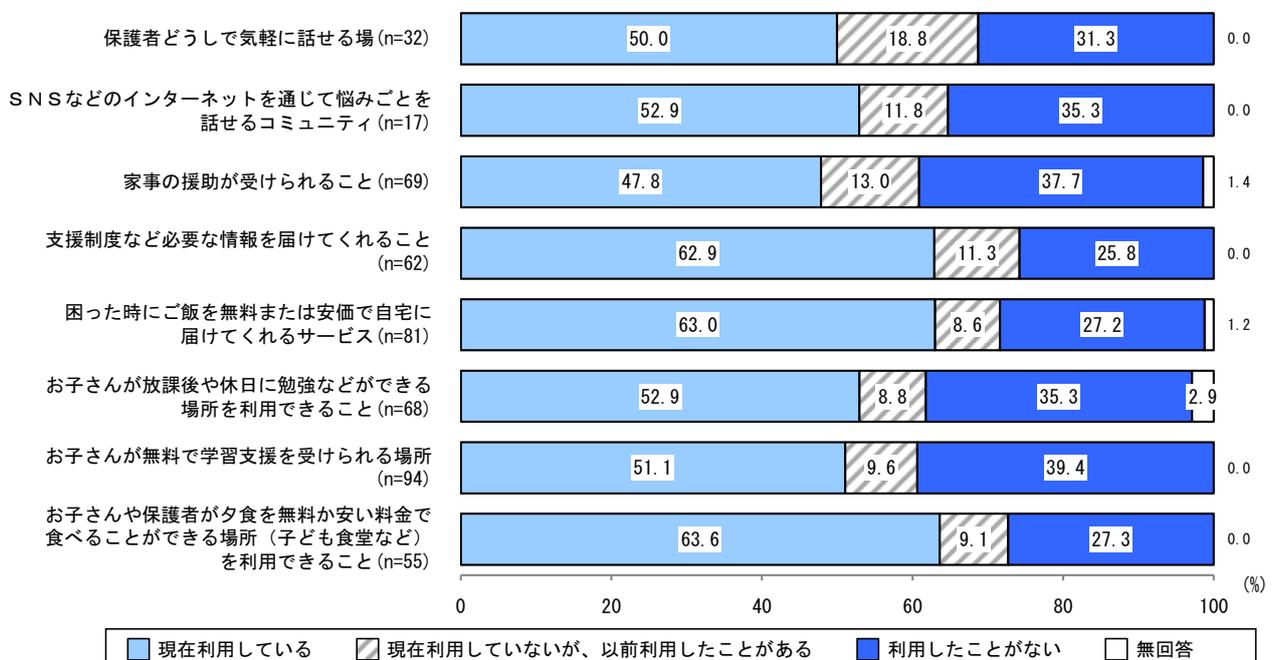
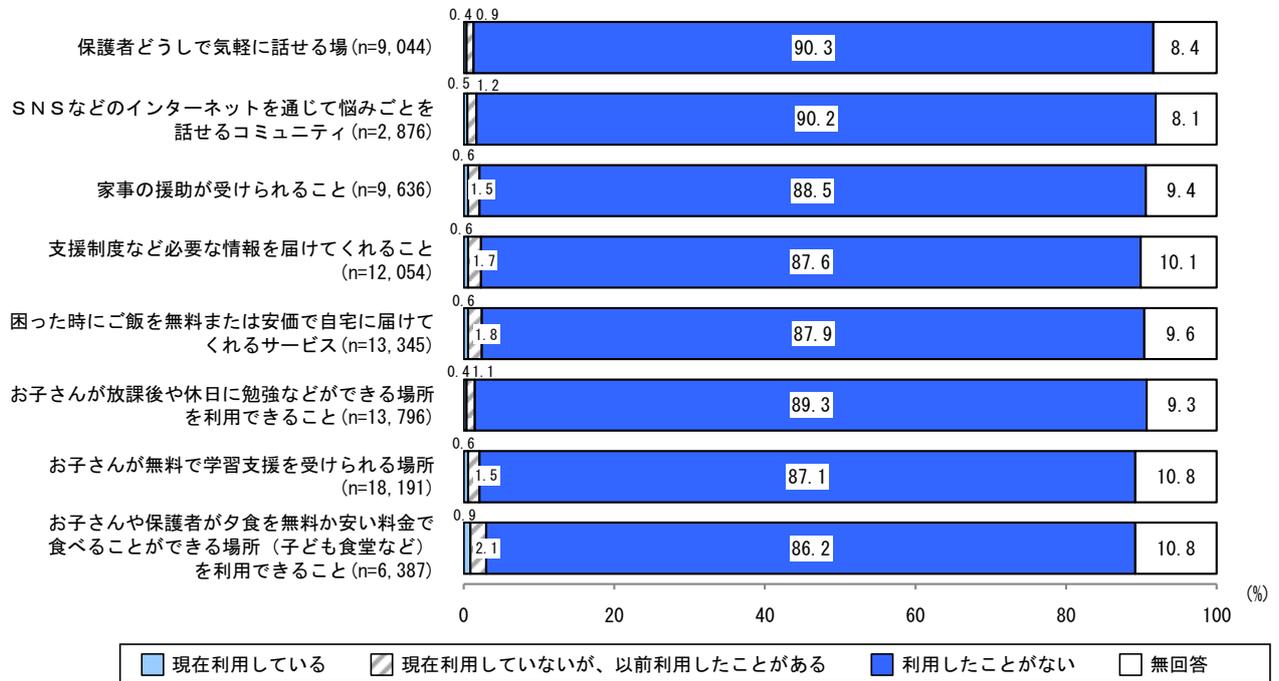


図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）

身近にあるといいと思うこと別に児童扶養手当の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が63.6%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況
(保護者票問 20×保護者票問 23-e)

<大阪府内全体>



<豊中市>

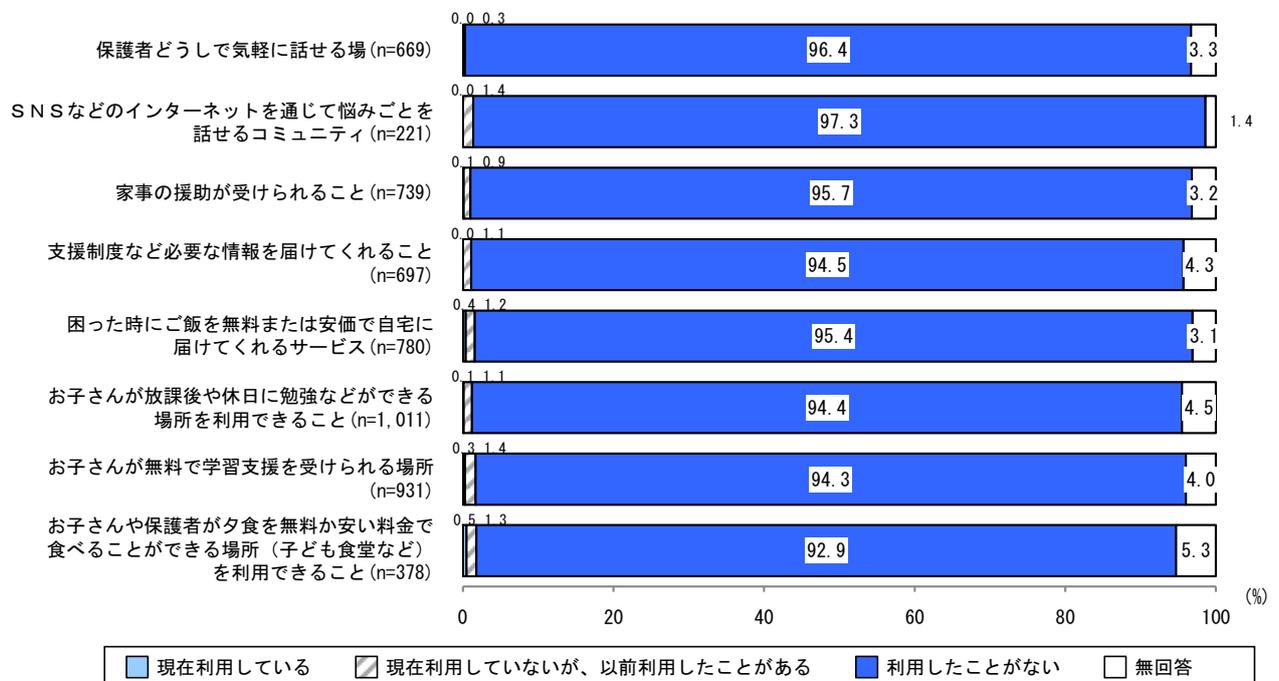
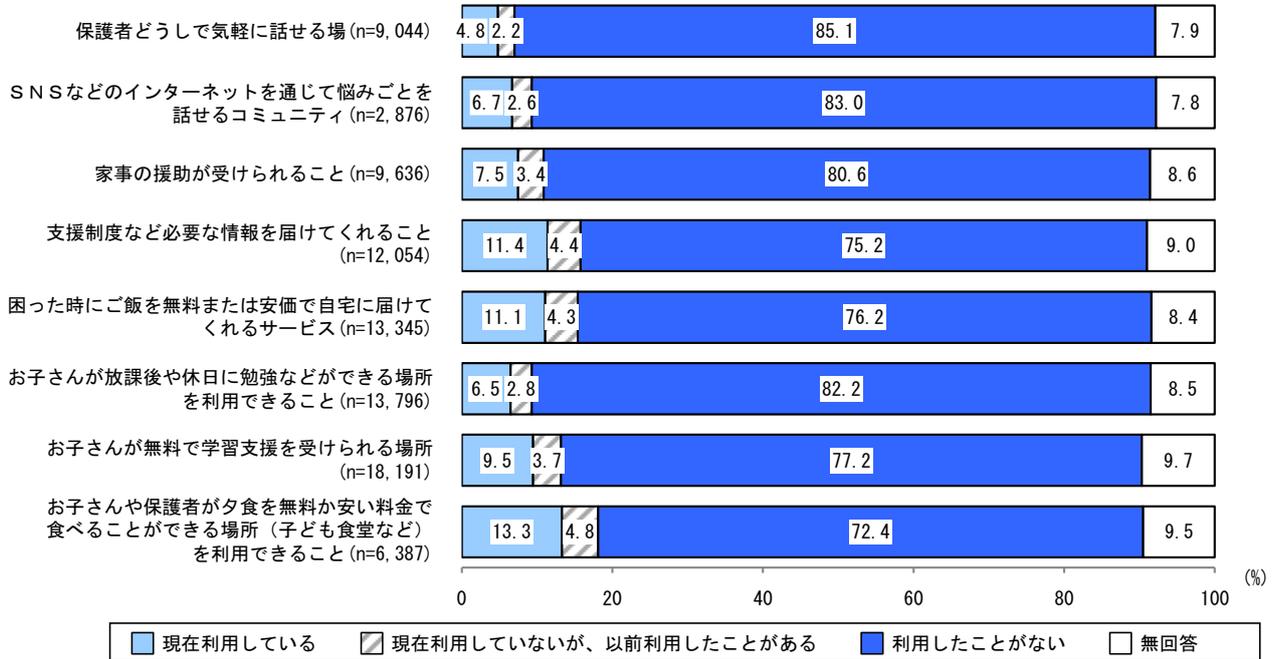


図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況

身近にあるといいと思うこと別に母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況を見ても、大きな差はみられない。

身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-f）

<大阪府内全体>



<豊中市>

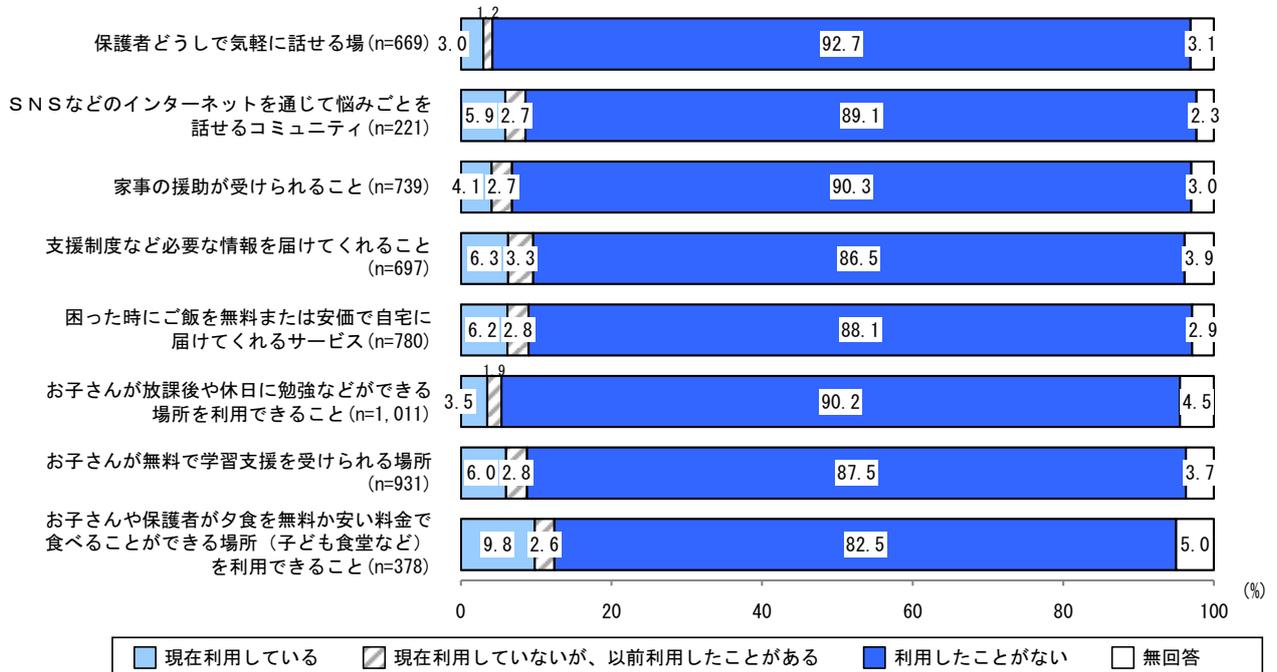
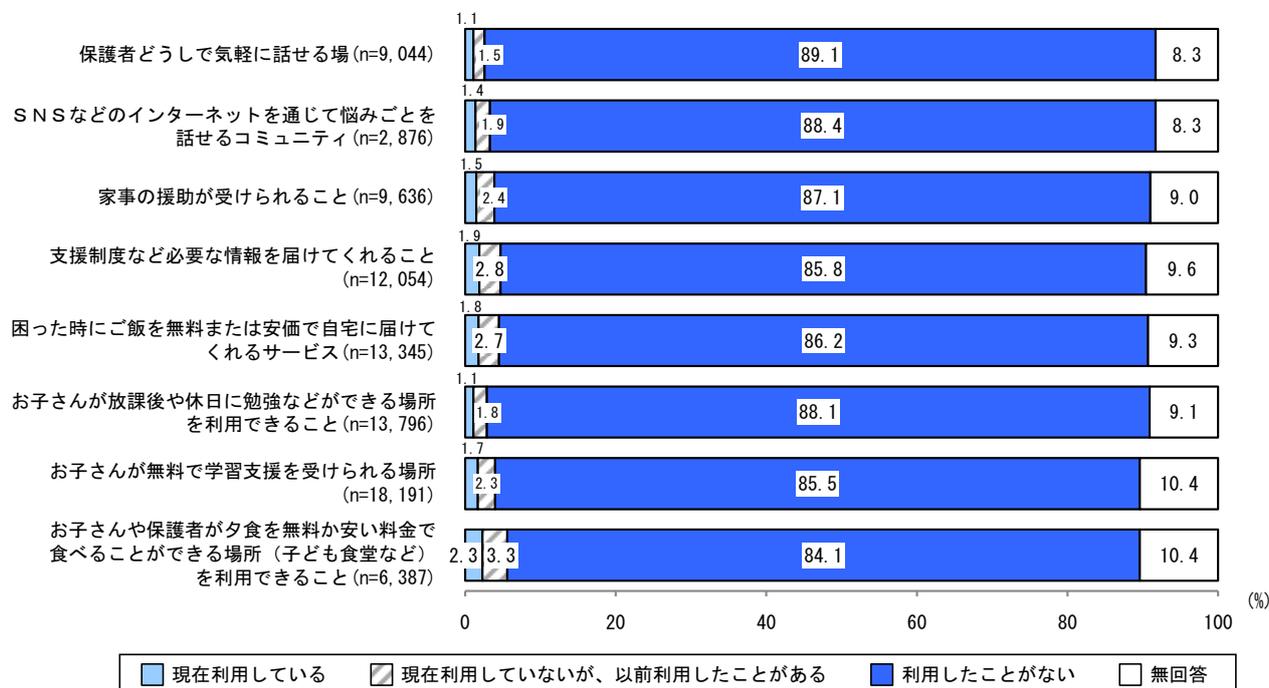


図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」と回答した割合が9.8%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況（保護者票問 20×保護者票問 23-g）

<大阪府内全体>



<豊中市>

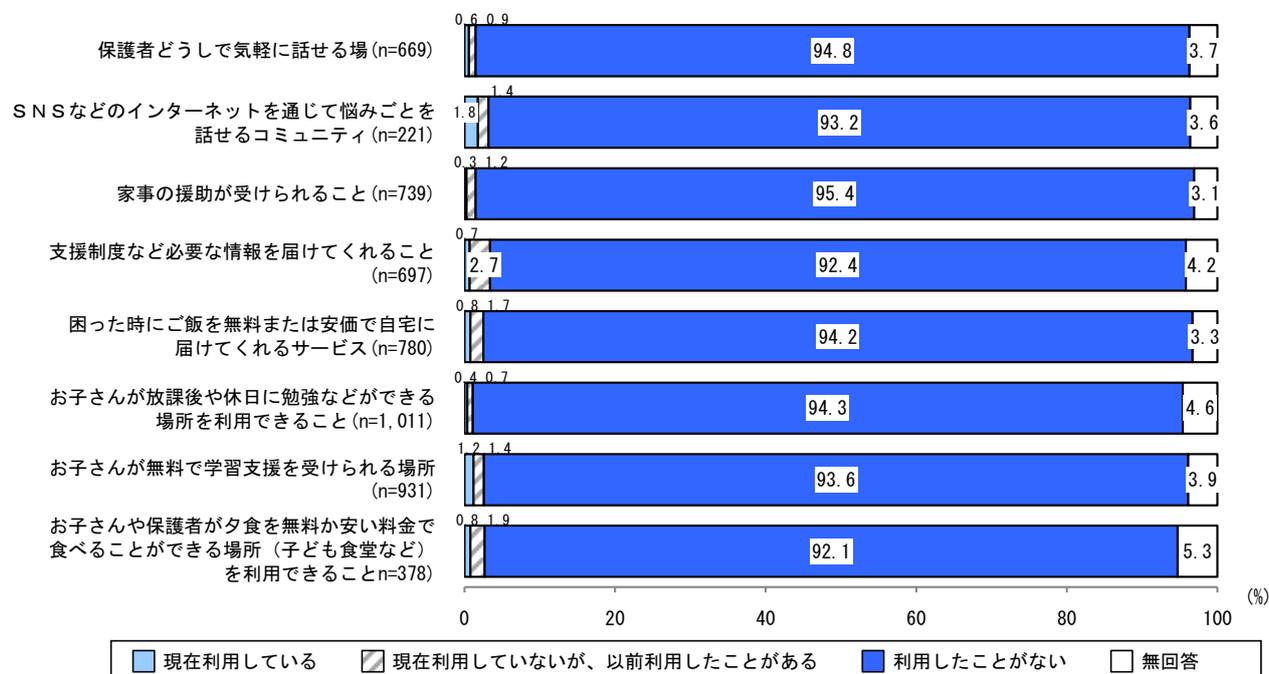


図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況

身近にあるといいと思うこと別に新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況を見ると、「現在利用している」と回答した人の割合は、「SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ」と回答した割合が1.8%で最も高くなっている。

<家庭状況（制度等）に関する考察>

就学援助の利用状況については、全体で、「現在利用している」が8.8%となっている。困窮度Ⅰ群では、50.2%、困窮度Ⅱ群では、25.3%を占めている。次にひとり親世帯を対象とする児童扶養手当の利用状況は、全体で48.6%、困窮度Ⅰ群で79.0%、困窮度Ⅱ群で63.6%となっている。生活保護制度の利用状況は、全体で0.5%と低水準にとどまっている。困窮度Ⅰ群では、2.9%、困窮度Ⅱ群では該当なしとなっている。今回調査の回答者から一定層の貧困層が漏れ落ちている可能性についても留意しておく必要がある。いずれにしても、社会保障制度の捕捉率を上げるために、給付を必要な世帯が利用しやすいような各制度の要件緩和、手続きの簡素化等の施策が求められている。

ひとり親世帯について、養育費の取り決めや受け取りをしている世帯は、全体で39.4%にとどまっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で44.0%、困窮度Ⅱ群で22.2%となっている。離別の場合、生活状況の激変のなか、ひとり親自身が養育費の取り決めを行うことは容易なことではないため、相談機関等の支援策の充実が求められる。

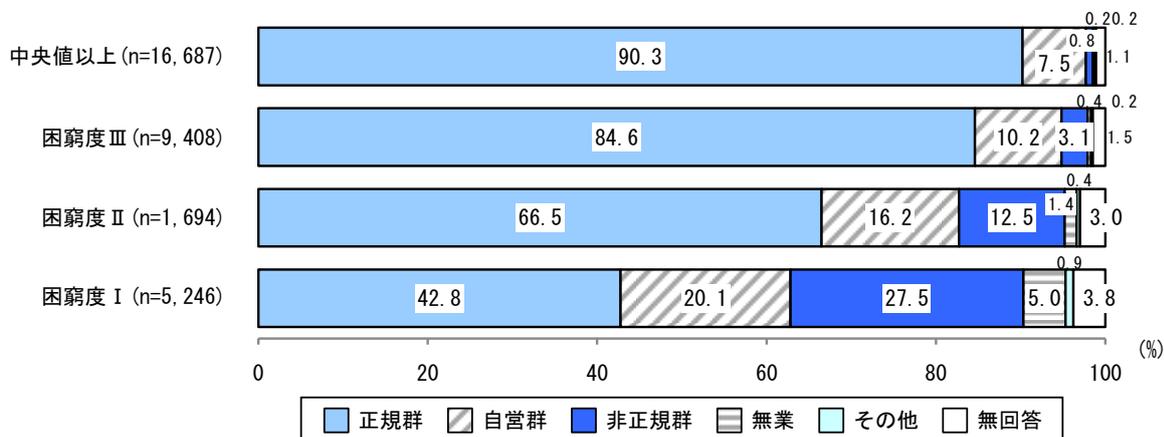
初めて親となった年齢と最終学歴について、特に母親に着目すると、「10代」で中学校卒業が5.6%、高等学校中途退学が38.9%と、他の年齢階層に比べて高くなっている。妊娠・出産しても学修を中断せず継続できるような学修面でのサポート体制、子育て支援が求められる。また学びを一時中断した者についても、あとからでも「学び直し」を可能にするような学修機会の提供等が求められる。

住宅形態別に家計の状況をみると、「府営・市営の住宅」において「赤字である」と回答した者の割合が38.7%を占める。同様に、府営・市営の住宅については、「子どもの将来のための貯蓄状況」についても「貯蓄をしたいが、できていない」が45.2%と経済的余裕のなさが示されている読み取れる。家賃分の負担軽減に加えて、生活費部分の経済的支援の必要性が示されている。

3-2. 雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

<大阪府内全体>



<豊中市>

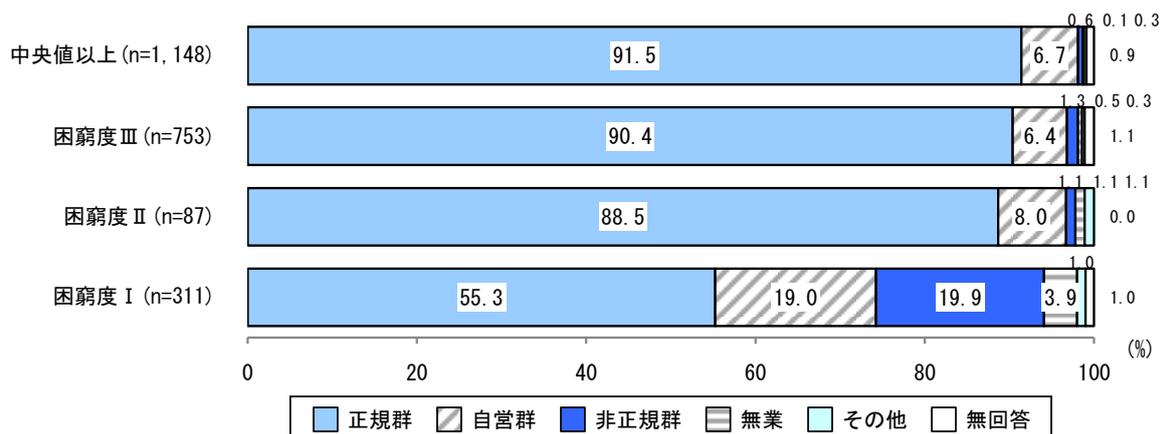


図 52. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」、「非正規群」、「無業」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群においては他と比べて「非正規群」、「無業」の割合がやや高く、それぞれ19.9%、3.9%となっている。

※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれば「非正規群」（問9選択肢2、3）、

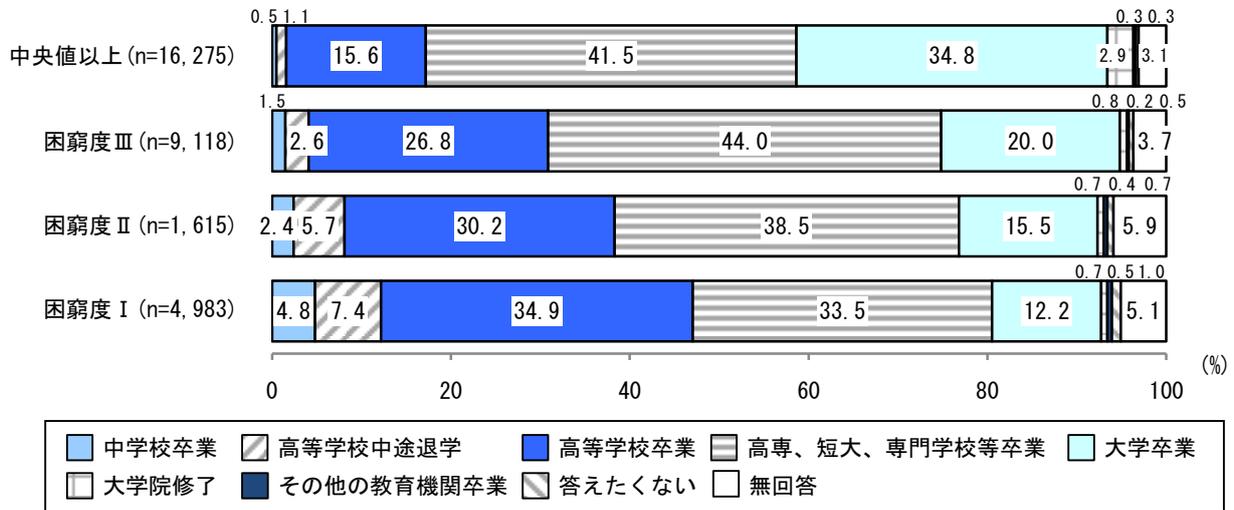
上記以外で、誰も働いていなければ「無業」（問9選択肢6、7）。

上記以外が「その他」となる。

ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す（就業構造基本調査による）。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

困窮度別に見た、お母さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<豊中市>

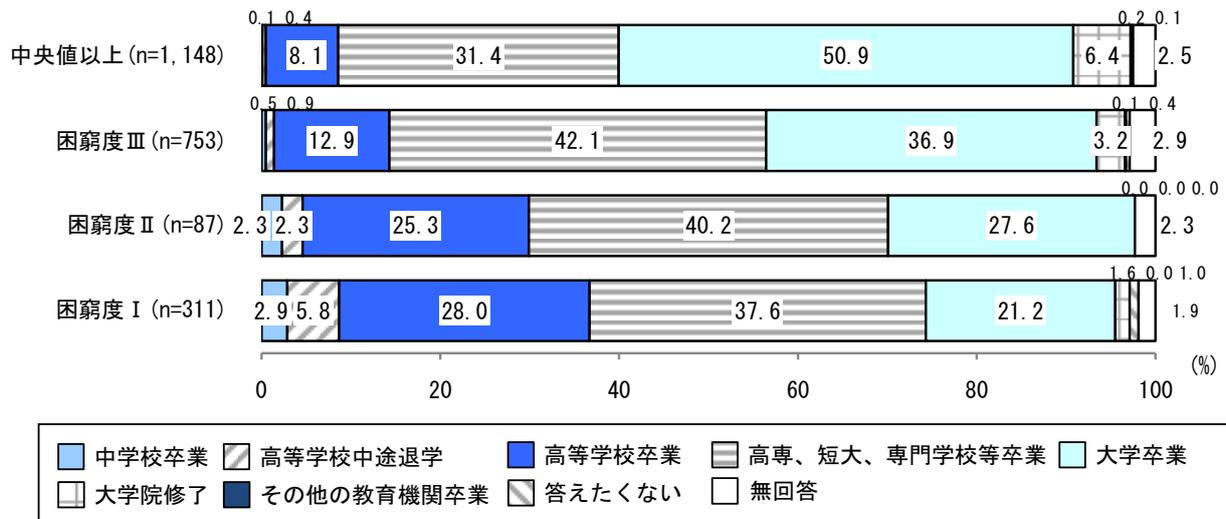
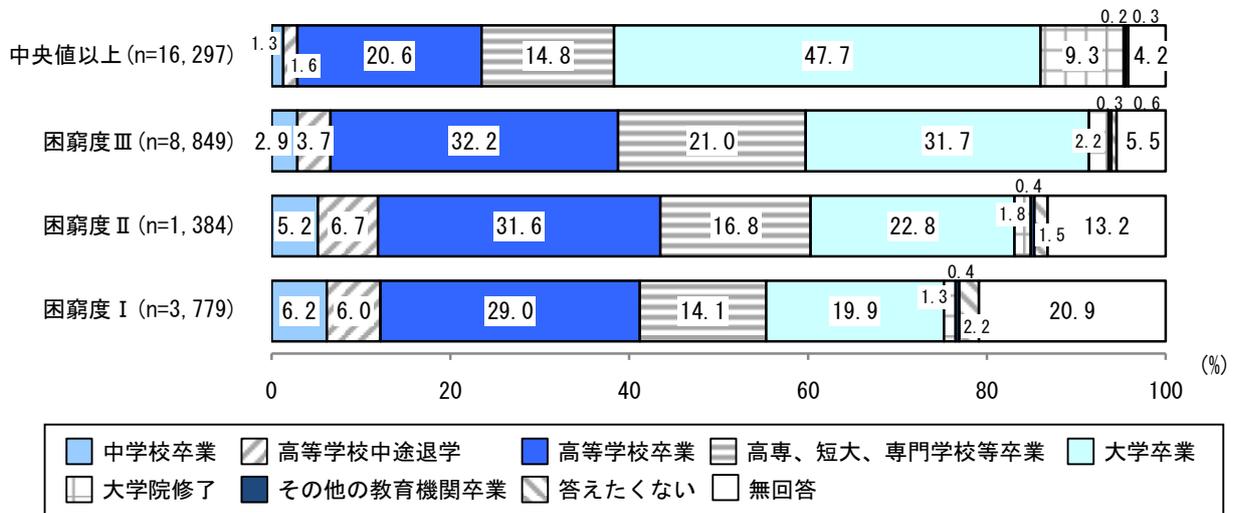


図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度が高まるにつれ、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」、「高等学校卒業」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ～Ⅲ群では中央値以上群に比べ、「大学卒業」の割合が低い。

困窮度別に見た、お父さんの最終学歴（保護者票問8）

<大阪府内全体>



<豊中市>

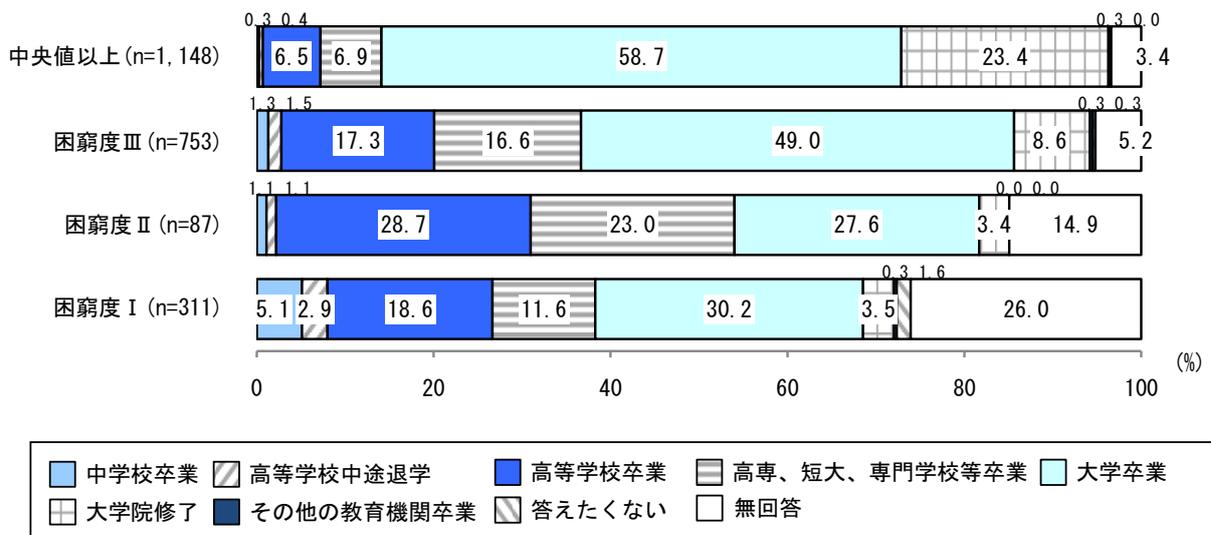
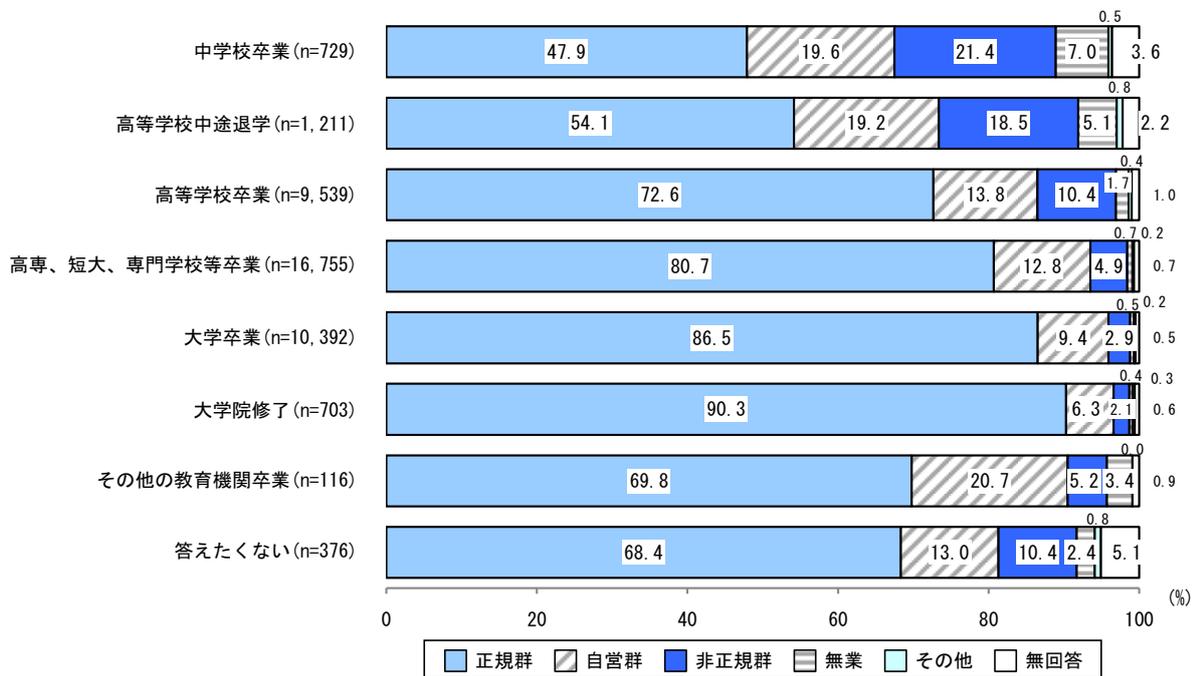


図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、中央値以上群において、「大学卒業」の割合は58.7%と最も高くなっている。また、困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ5.1%、2.9%である。困窮度Ⅰ群では無回答（26.0%）の割合も高い。

お母さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問 8 × 保護者票問 9）

<大阪府内全体>



<豊中市>

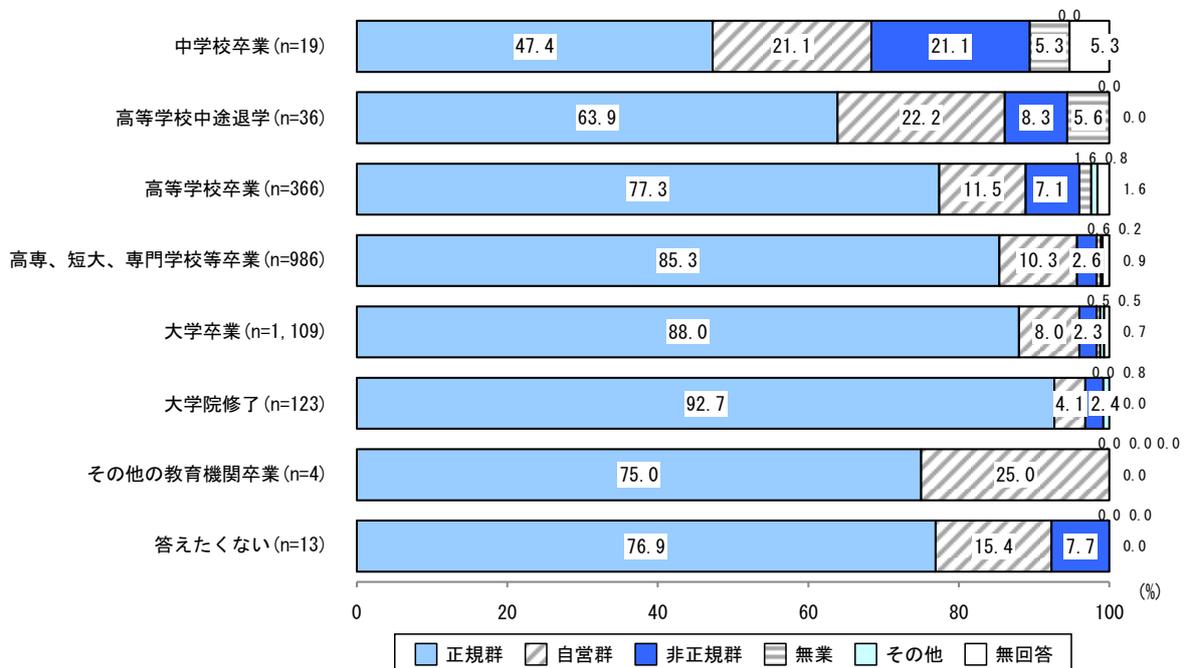
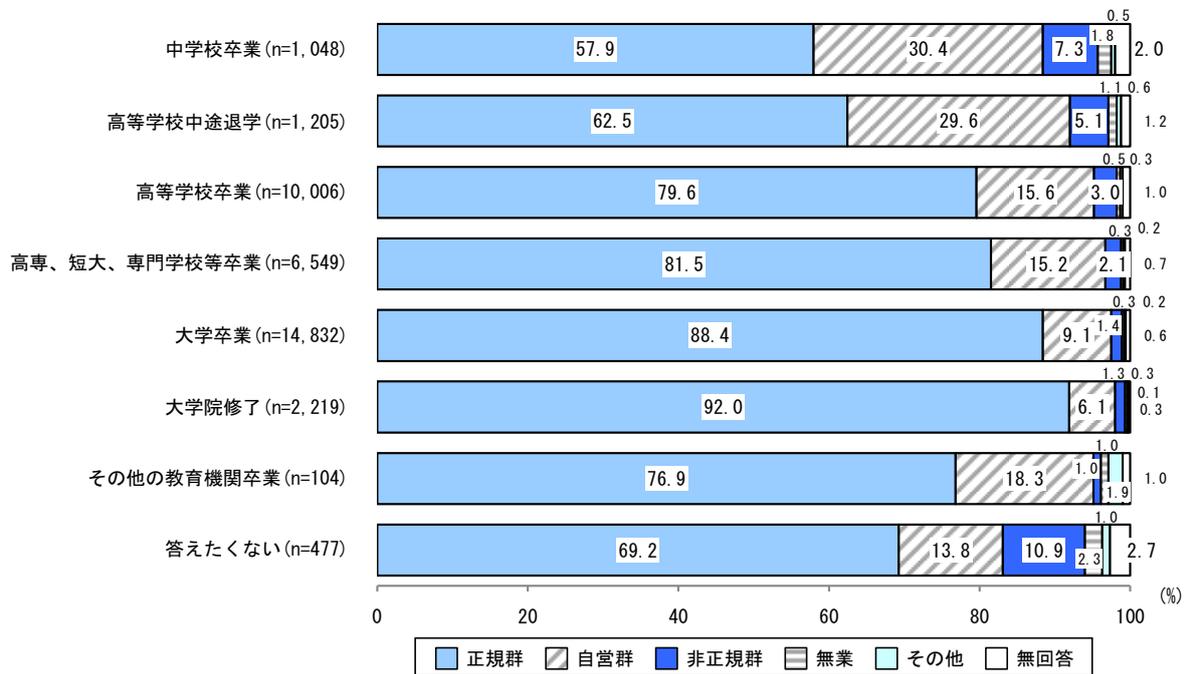


図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

お父さんの最終学歴別に見た、就労状況（保護者票問8×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<豊中市>

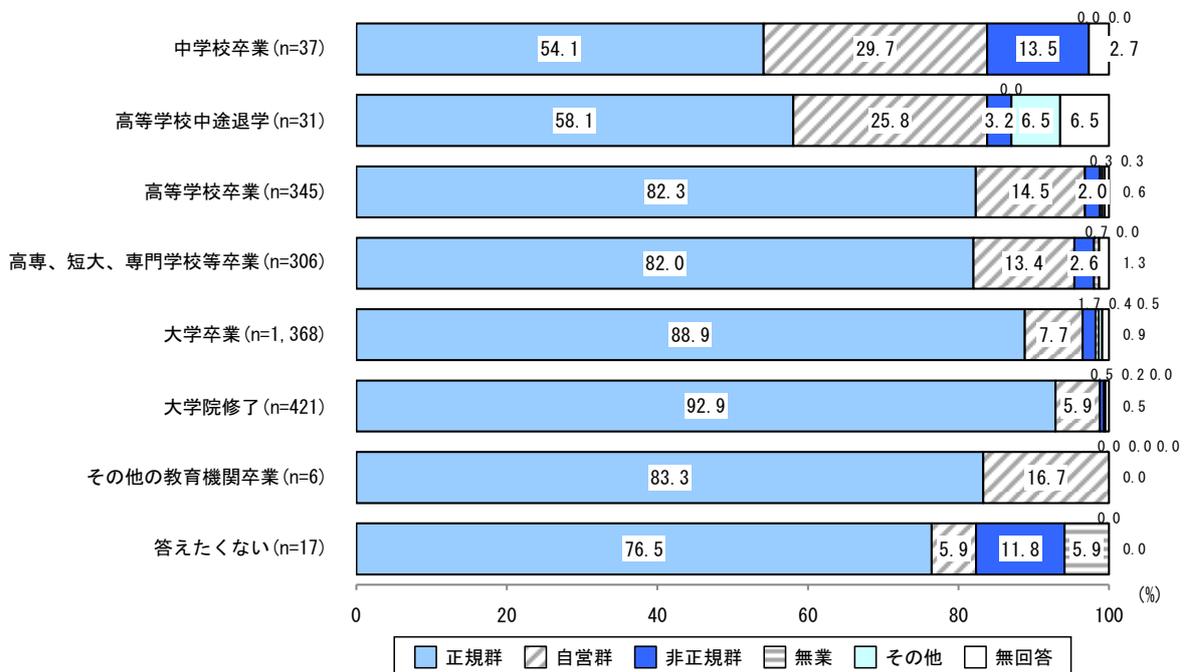
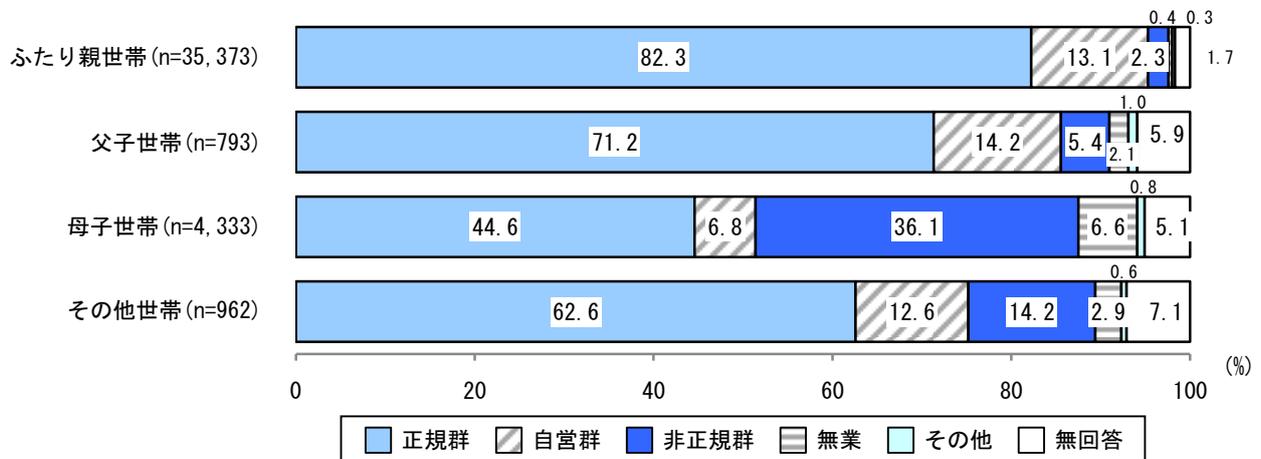


図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、「正規群」の割合が最も高いのは「大学院修了」で92.9%である。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



<豊中市>

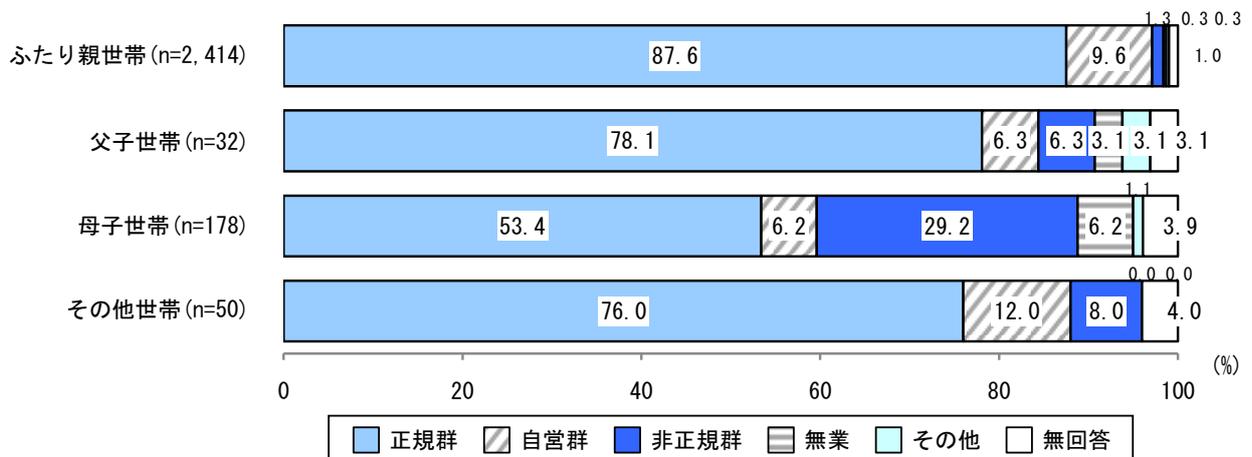
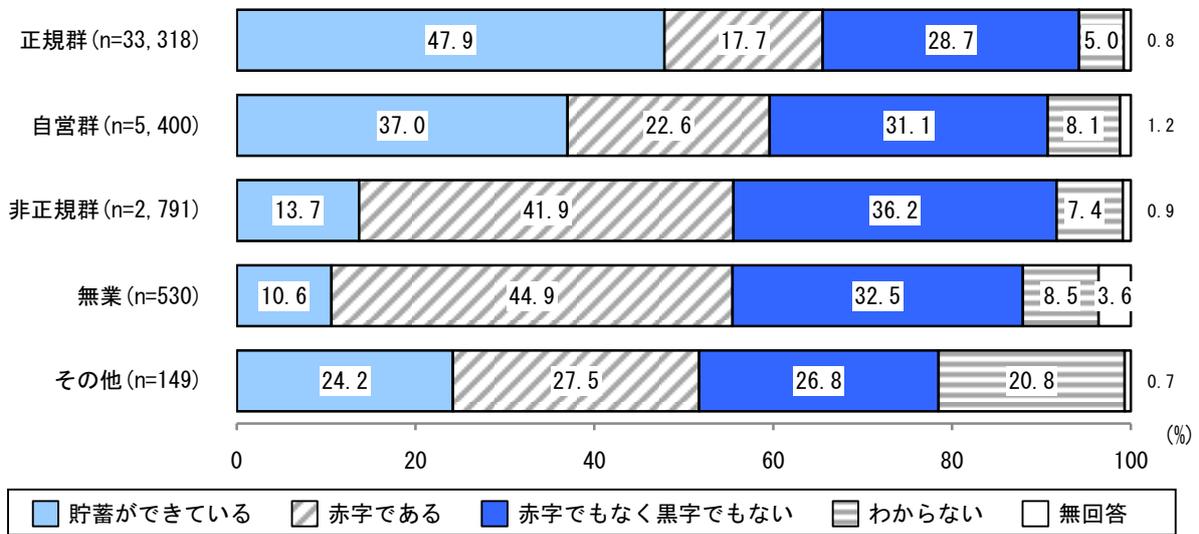


図 57. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が87.6%であるが、「父子世帯」では78.1%、「母子世帯」では53.4%と低くなる。「非正規群」は、「父子世帯」では6.3%、「母子世帯」では29.2%となっている。

就労状況別に見た、家計の状況（保護者票問9×保護者票問6(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

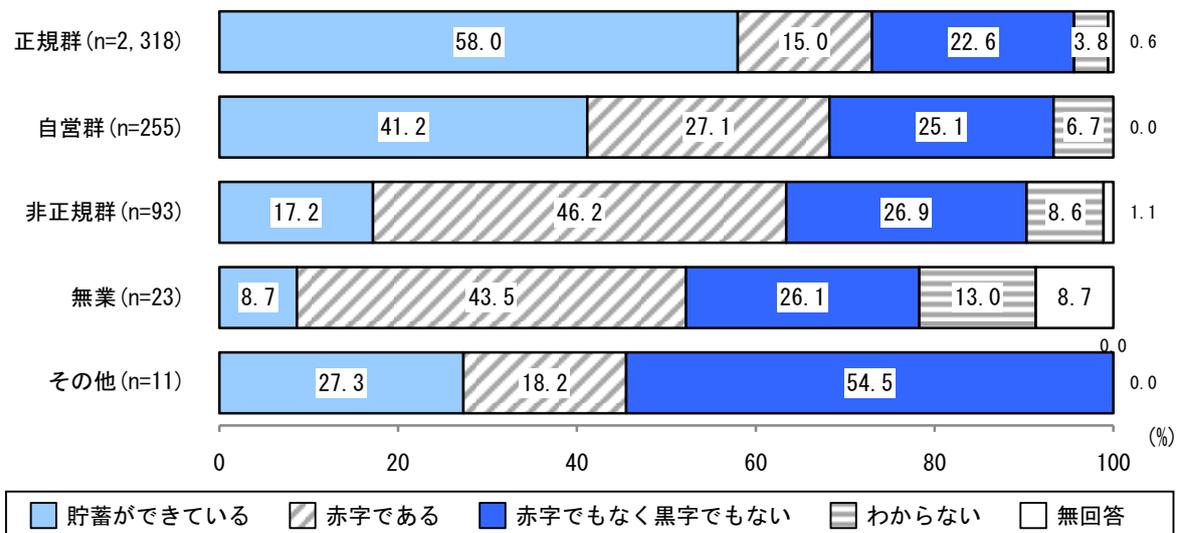


図 58. 就労状況別に見た、家計の状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では「貯蓄ができています」割合がそれぞれ、58.0%、41.2%である。「非正規群」・「無業」では「赤字である」と回答した人がそれぞれ46.2%、43.5%にのぼっている。

<雇用に関する考察>

はじめに、困窮度別の保護者の就労状況と最終学歴について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間で差が大きい項目に着目して述べる。まず、親の就労状況を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「正規」群（91.5%対55.3%）が35ポイント以上高く、大きな開きがある。一方で、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「非正規」群（19.9%対0.1%）が19ポイント以上高くなっている。母親の最終学歴を困窮度別に見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、高学歴な「大学卒業」群（50.9%対21.2%）は2倍以上高くなっている。困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「高等学校卒業」群（28.0%対8.1%）が約20ポイント高くなっている。同様に、父親の最終学歴においても、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、高学歴な大学以上（「大学卒業」と「大学院修了」）群（82.1%対33.7%）が48ポイント以上高く、大きな開きがある。これらの結果から、経済的に困難な世帯の保護者の雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが読み取れる。また、困窮度が高い群では学歴が低い傾向が見られる。

次に、保護者の最終学歴別に就業状況を確認する。母親の最終学歴別に見ると、「中学校卒業」群（47.4%）の「正規」群の比率が5割以下に対して、それ以外では6割以上である。また、「中学校卒業」群は「大学卒業」群と比べ、「非正規」群（21.1%対2.3%）は18ポイント以上高くなっている。一方、父親の最終学歴別でも、「中学校卒業」群（54.1%）および「高等学校中途退学」群（58.1%）の「正規」群の比率が5割程度にとどまっているのに対して、それ以外では8割以上が正規での就労比率を示している。これらの結果から、学歴が高い群ほど正規雇用の割合が高いことを示唆している。

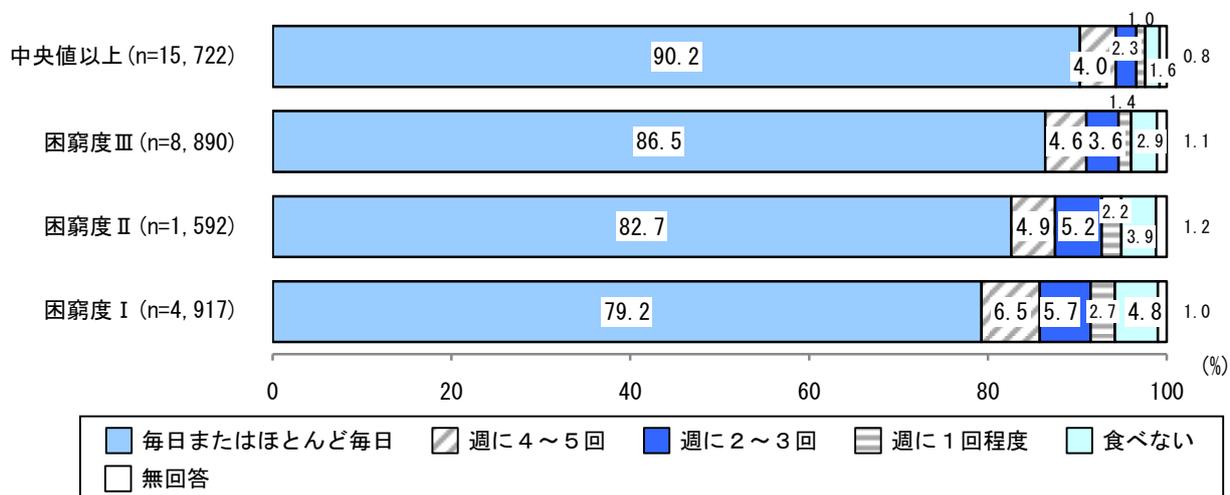
親の就労状況を世帯構成別に見ると、ふたり親世帯は母子世帯に比べ、「正規」群（87.6%対53.4%）は34ポイント高くなっており、母子世帯の正規雇用の割合の低さが顕著である。さらに、母子世帯は「非正規」群（29.2%）の割合がその他の世帯構成に比べ非常に高くなっており、不安定な就労状況にあることを示唆している。

最後に、保護者の就業状況別に家計状況に着目する。「正規」群は「非正規」群と比べ、「貯蓄が出来ている」（58.0%対17.2%）は約40ポイント高く、大きな開きがある。また、「非正規」群は「正規」群と比べ、家計状況が「赤字である」（46.2%対15.0%）が31ポイント以上高いという対照的な状況が示された。この結果から、保護者の就業状況により貯蓄ができるか否かなど生活の安定に影響を及ぼしていることが示唆されている。

3-3. 健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

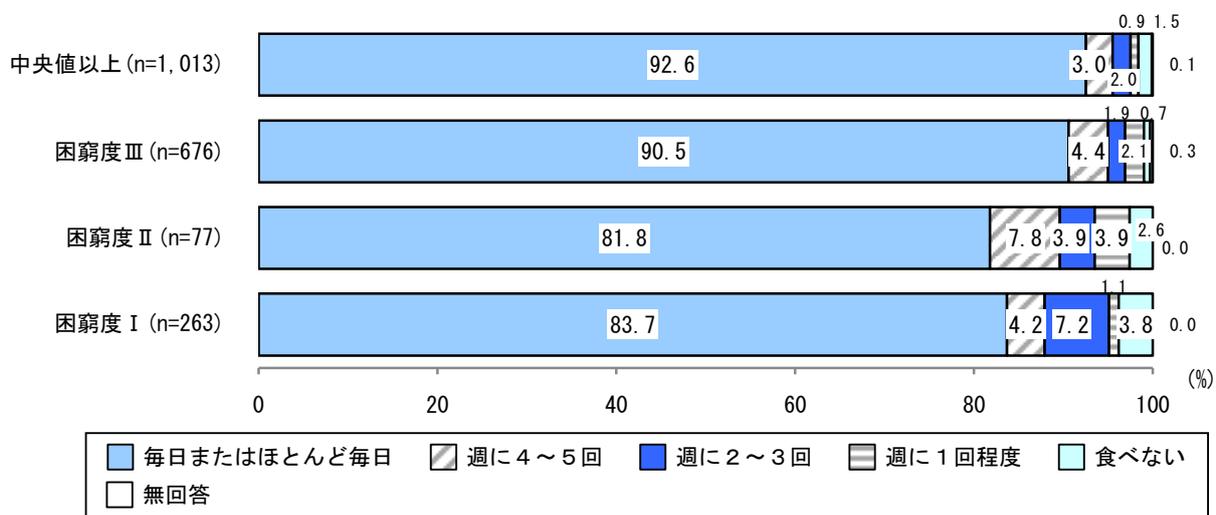
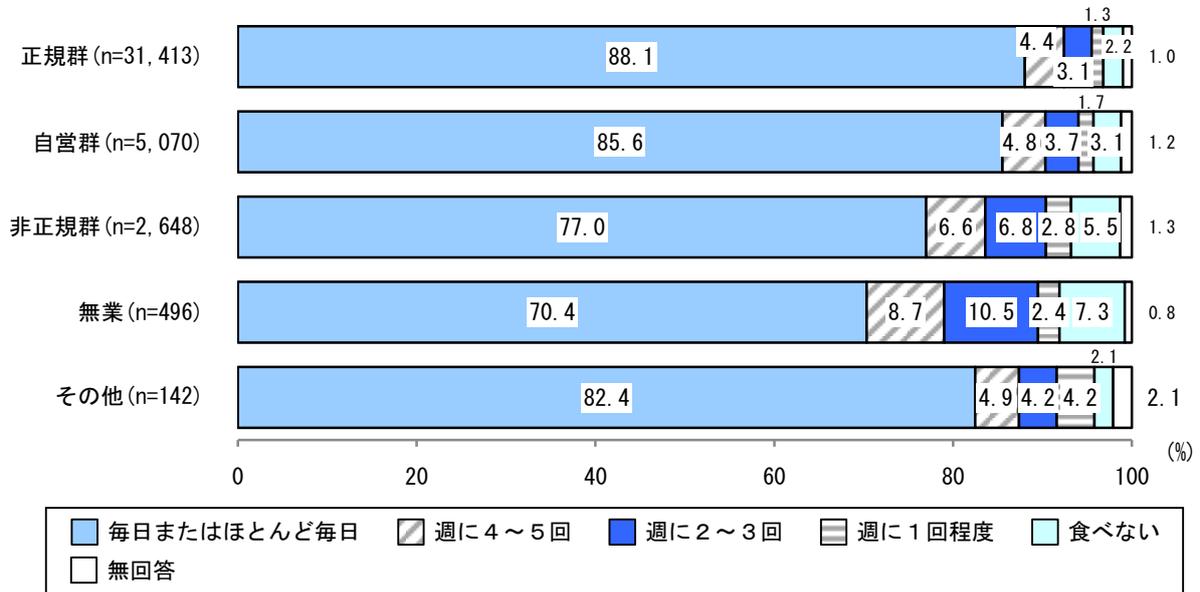


図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「中央値以上」(92.6%)が最も高い。困窮度Ⅰ群では、16.3%が「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていないと回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

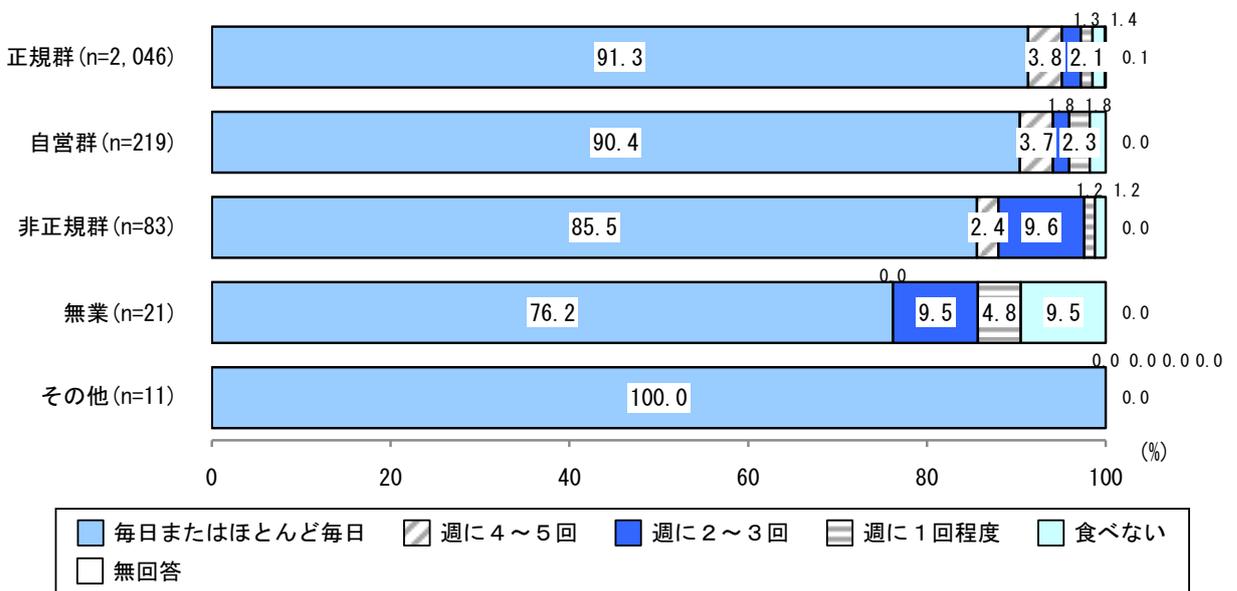
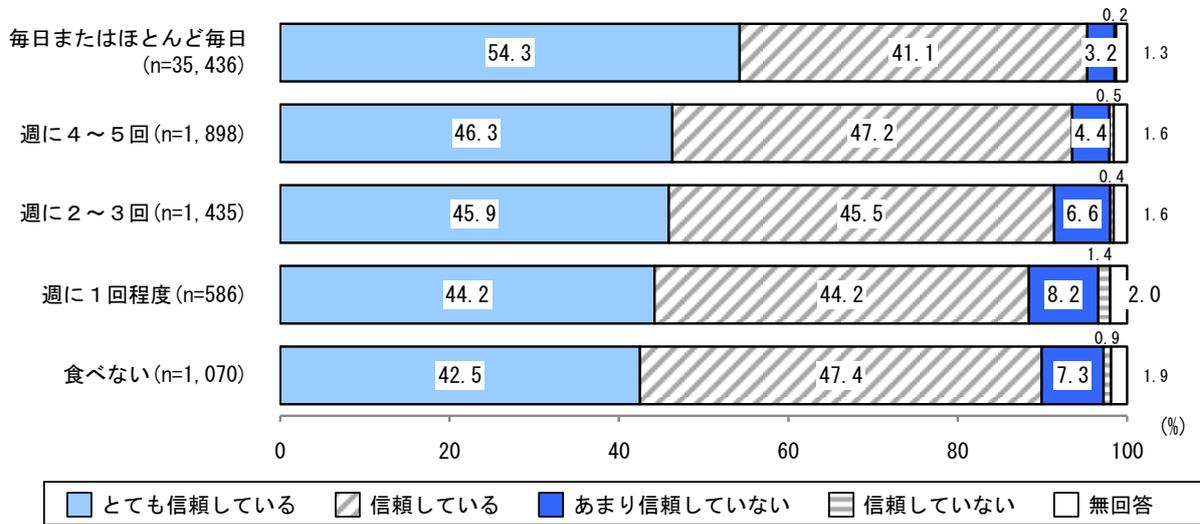


図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」(91.3%) が最も高く、次いで、「自営群」(90.4%)、「非正規群」(85.5%)、「無業」(76.2%) の順で朝食の頻度が低くなる。

朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問4(1)×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

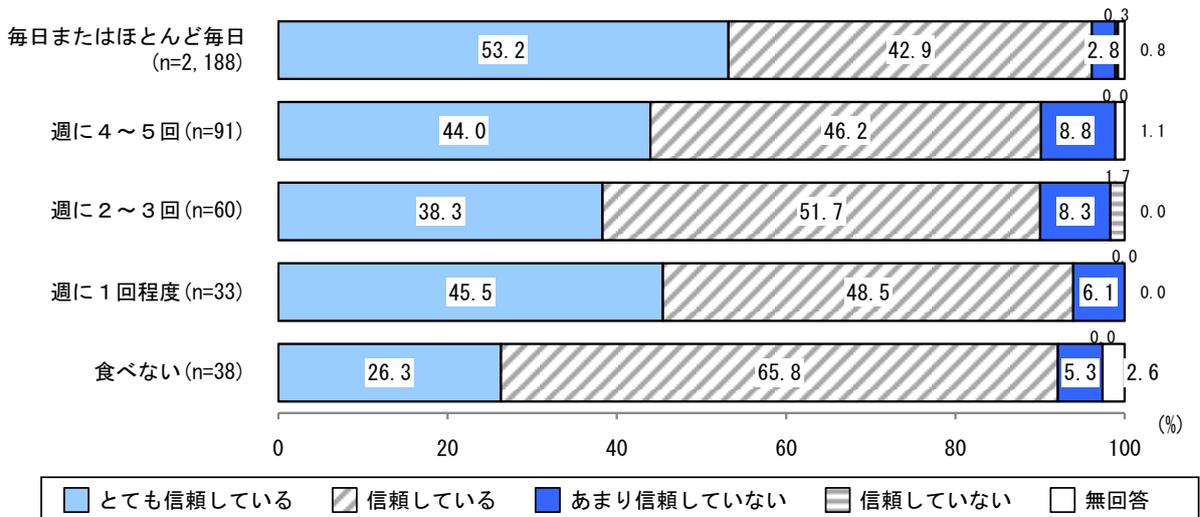
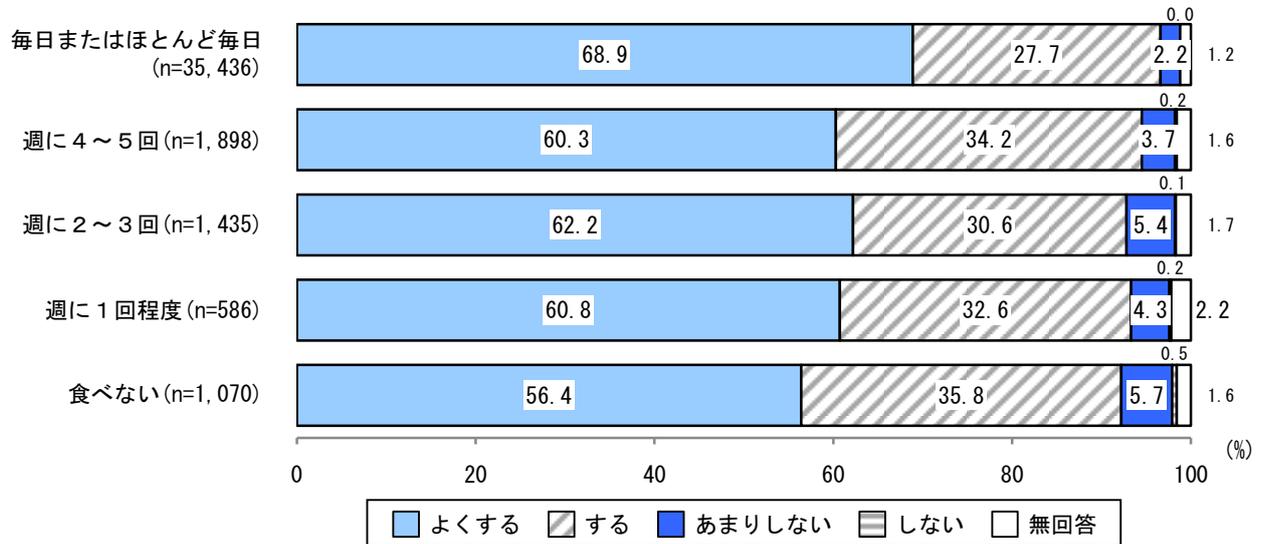


図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度

朝食の頻度別に子どもへの信頼度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が53.2%であるのに対し、「食べない」では、「とても信頼している」と回答した人は26.3%と低い。

朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問 4 (1) × 保護者票問 13 (2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

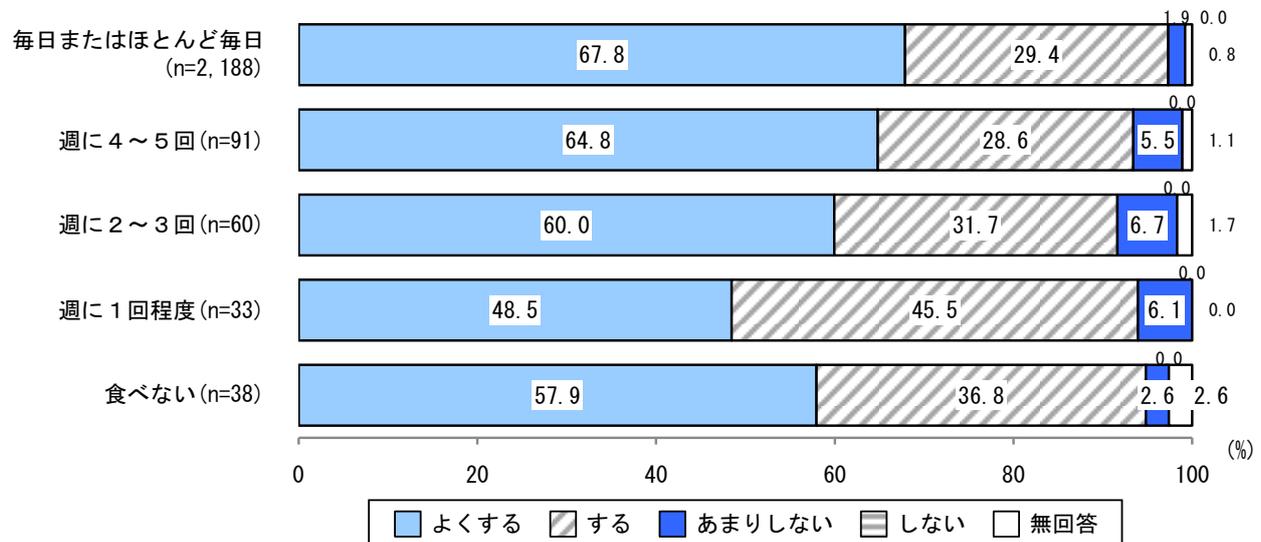
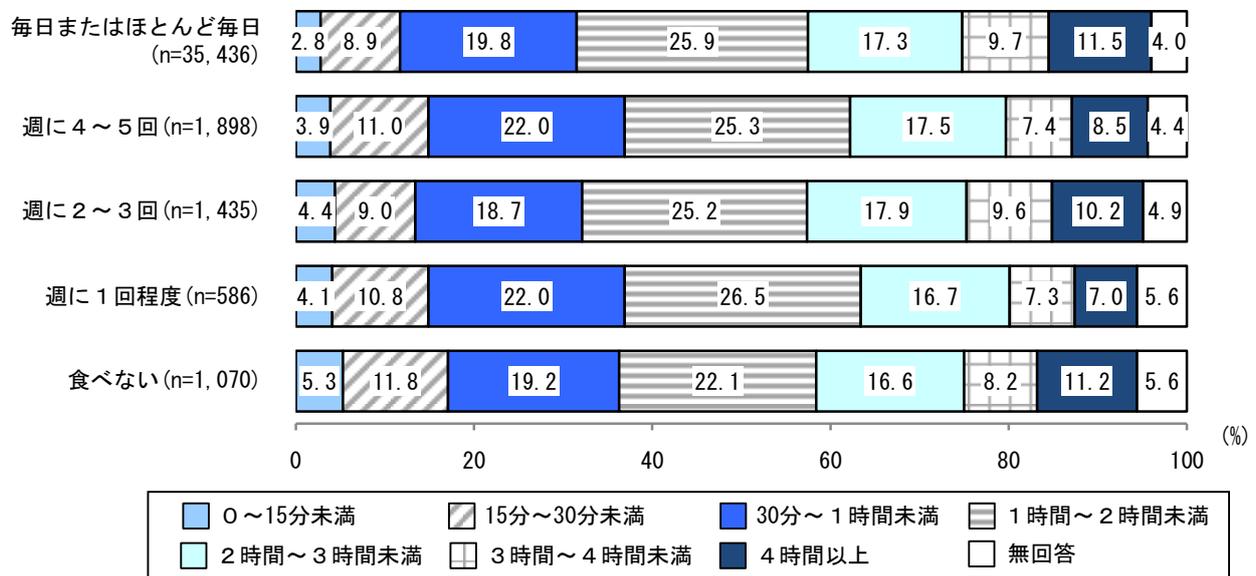


図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度

朝食の頻度別に子どもと会話頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、会話を「よくする」との回答が67.8%であるのに対し、「週に1回程度」では、「よくする」と回答した人は48.5%と低い。

朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

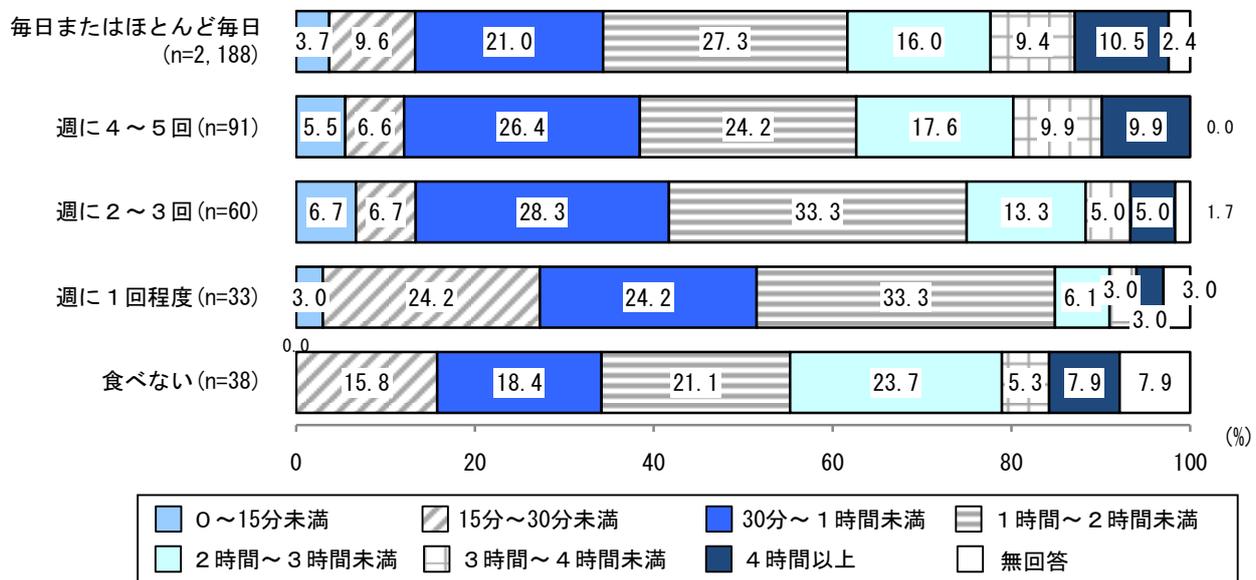
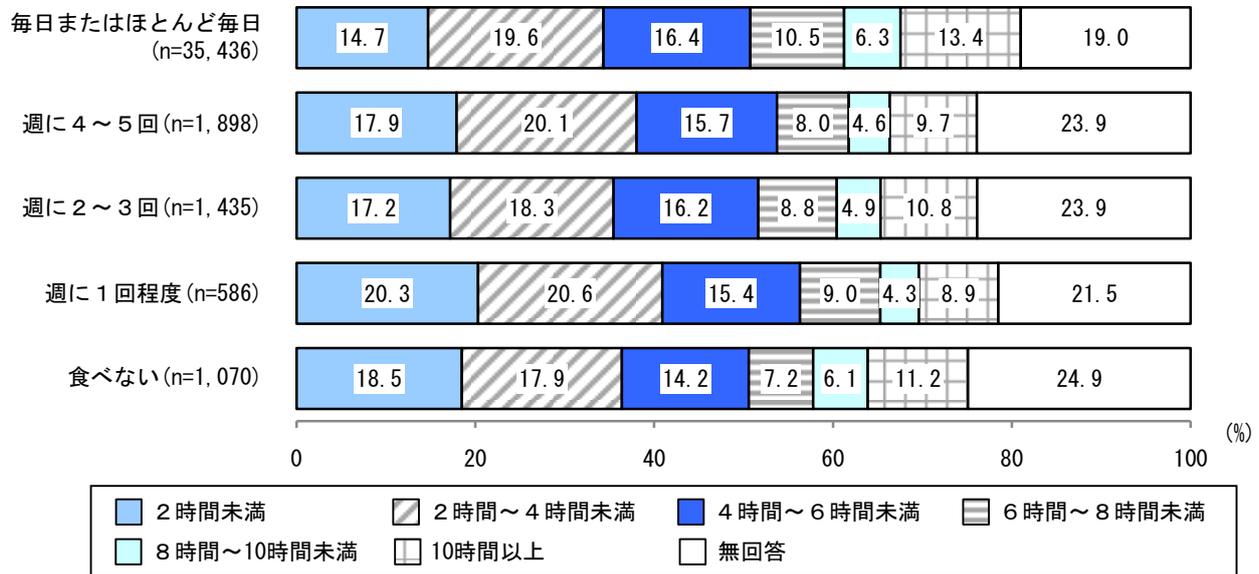


図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが「食べない」の人よりも平日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている。

朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問4(1)×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

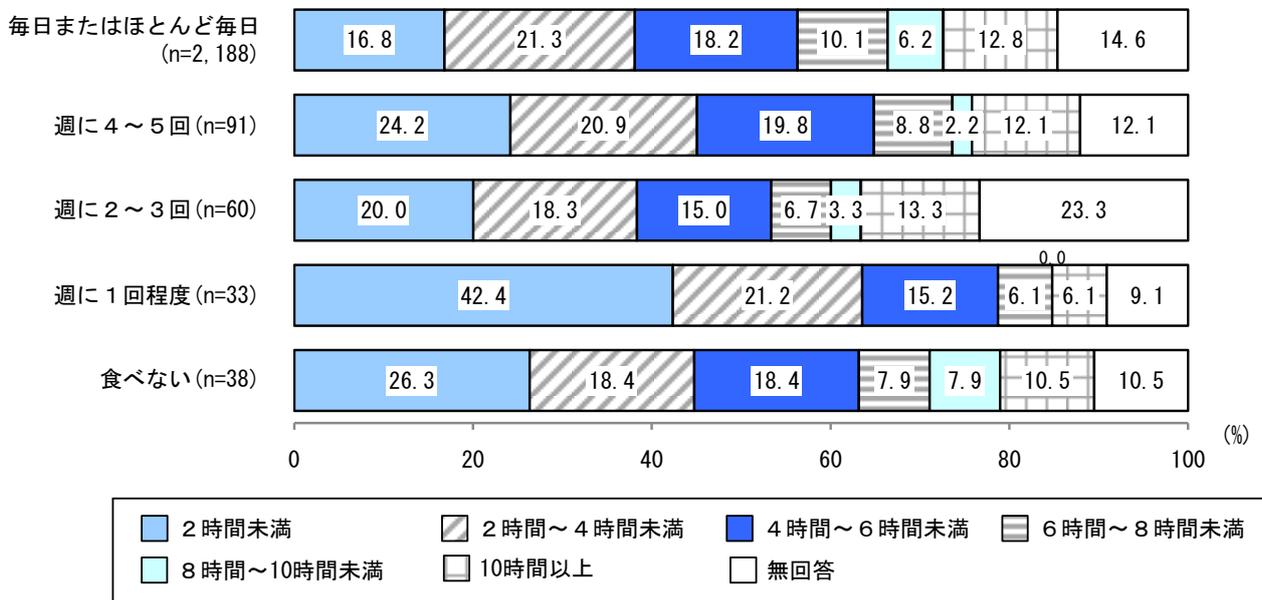
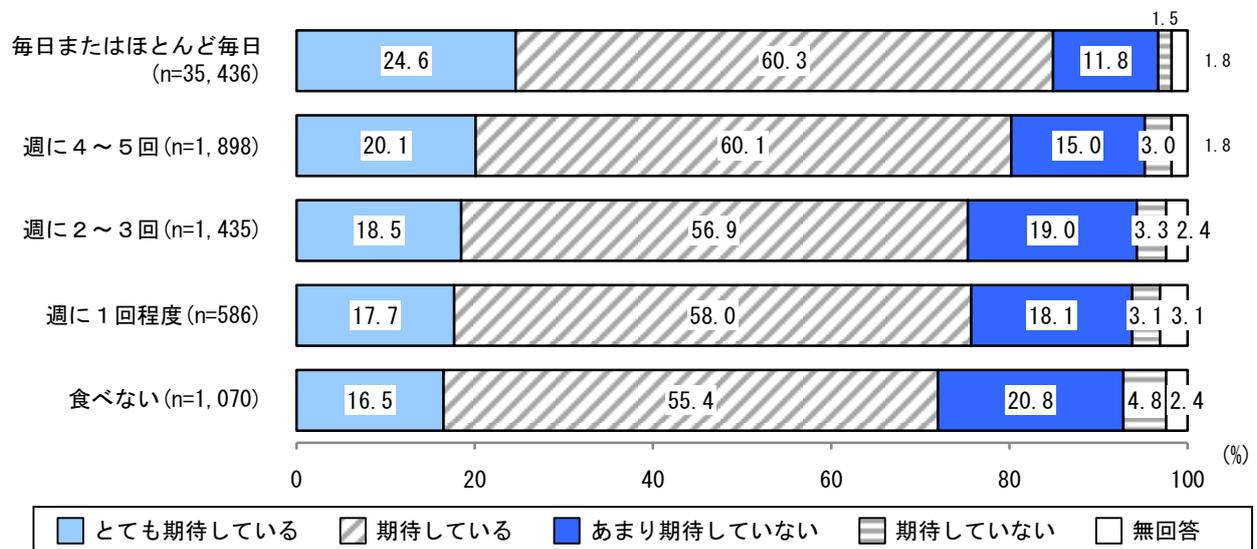


図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

朝食の頻度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが、「食べない」の人よりも休日に子どもと一緒にいる時間が長くなっている。

朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問4(1)×保護者票問13(4)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

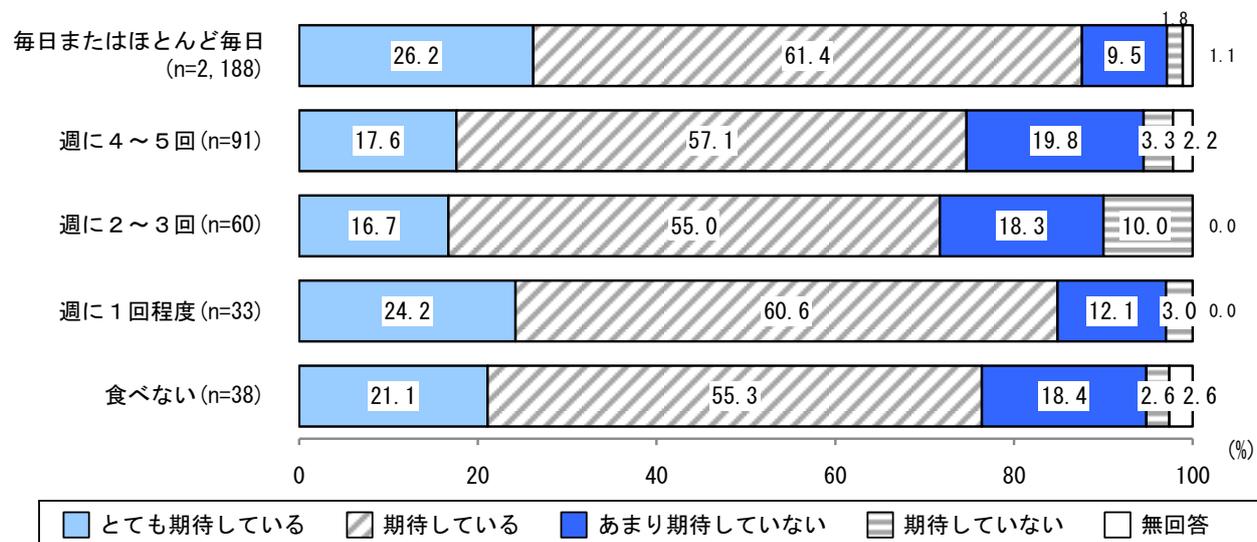


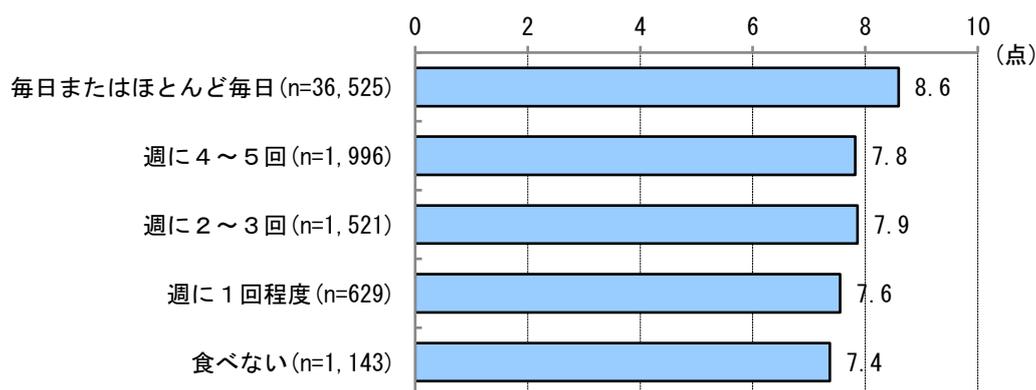
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度

朝食の頻度別に子どもの将来への期待度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、87.6%であるのに対して、「食べない」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて76.4%と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが子どもの将来に対する期待が高い結果となった。

朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問4(1)×子ども票問23)

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「自分の将来の夢や目標を持っている」の3項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪府内全体>



<豊中市>

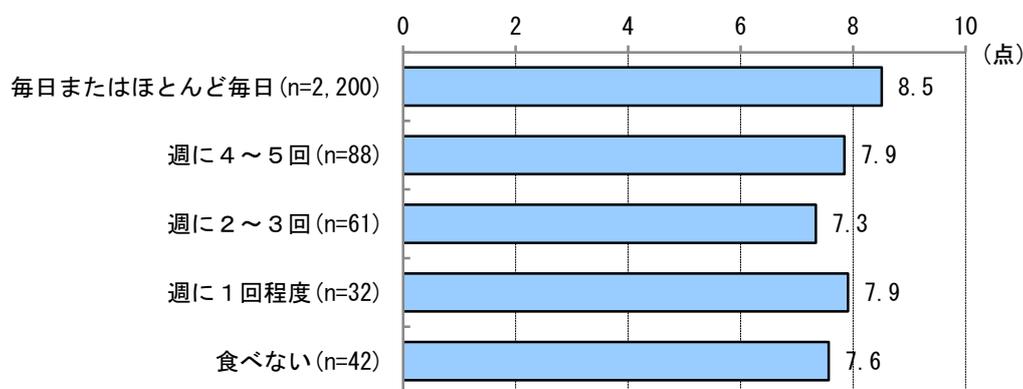
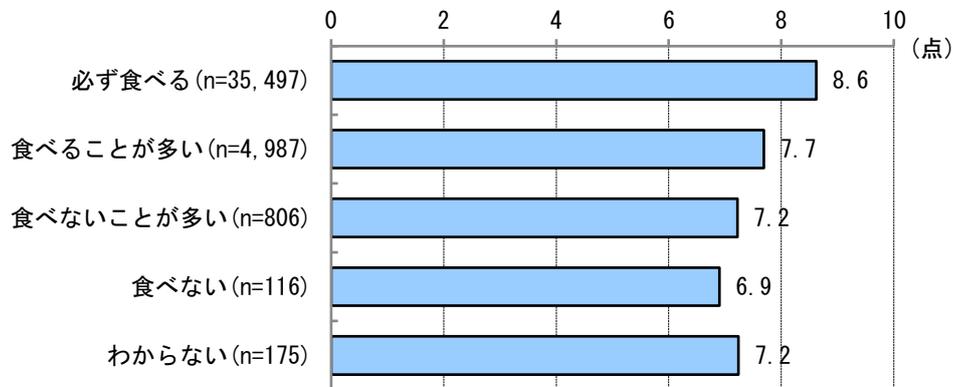


図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、8.5点であるのに対して、「食べない」では、7.6点と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
 （子ども票問6(1)×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<豊中市>

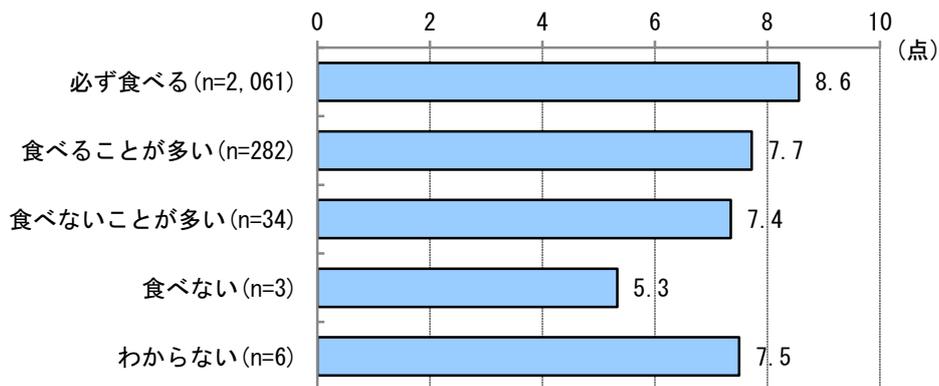
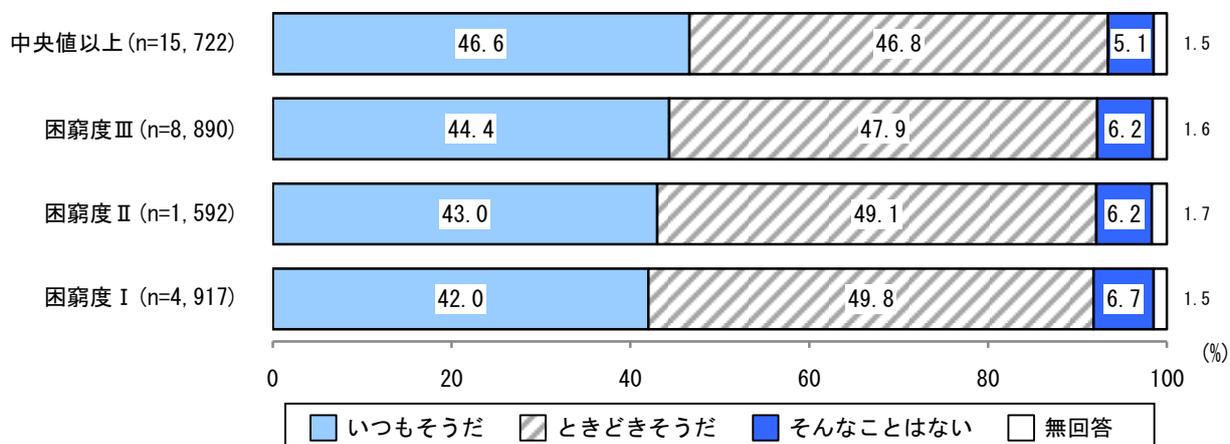


図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が8.6点であるのに対して、「食べない」と回答した人は5.3点と昼食を「必ず食べる」と回答した人のほうが、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある
(子ども票問 19①)

<大阪府内全体>



<豊中市>

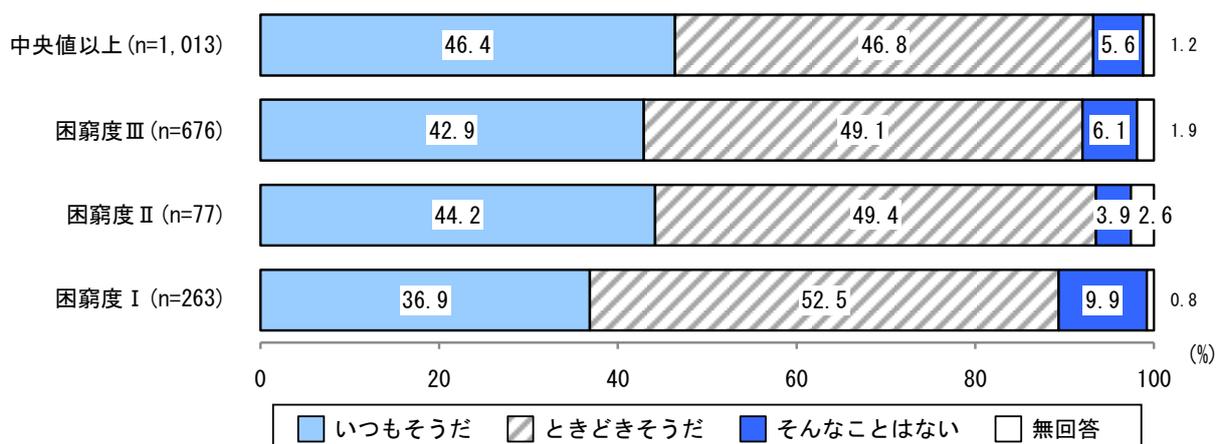
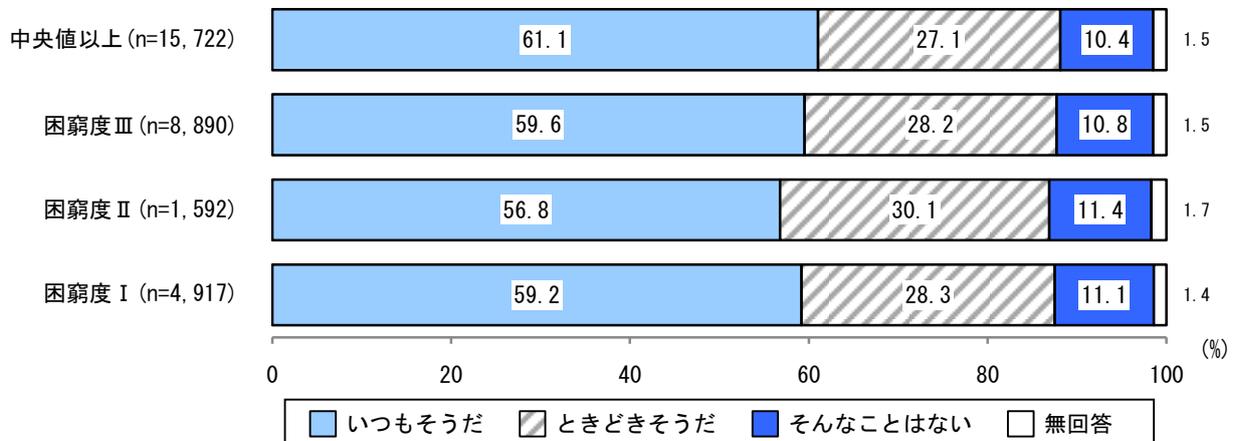


図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群 (36.9%) で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ(子ども票問 19②)

<大阪府内全体>



<豊中市>

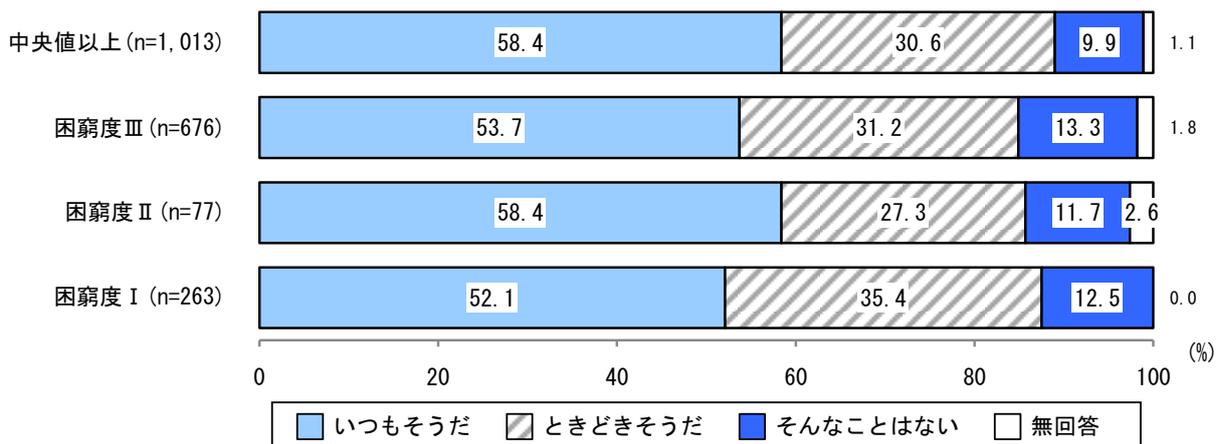
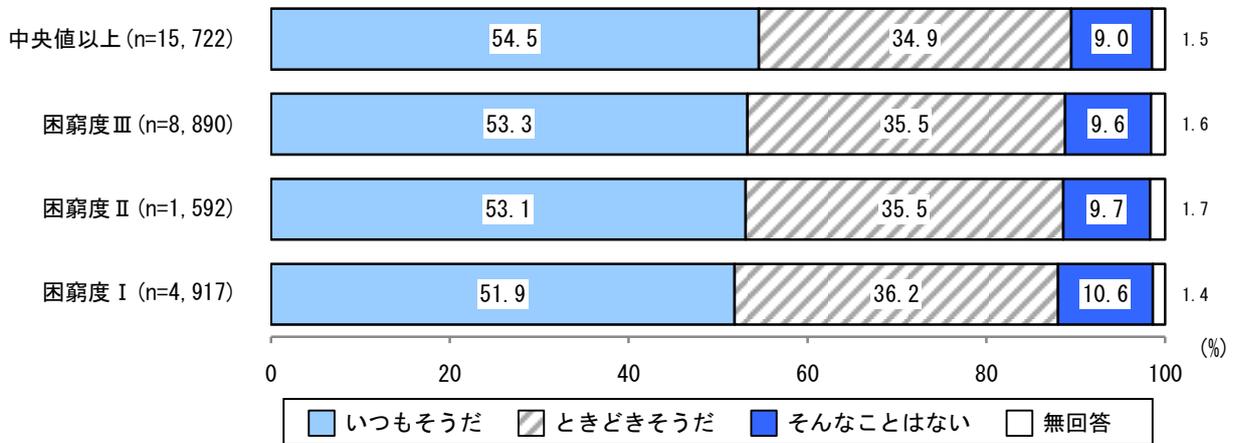


図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群(52.1%)で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい (子ども票問 19③)

<大阪府内全体>



<豊中市>

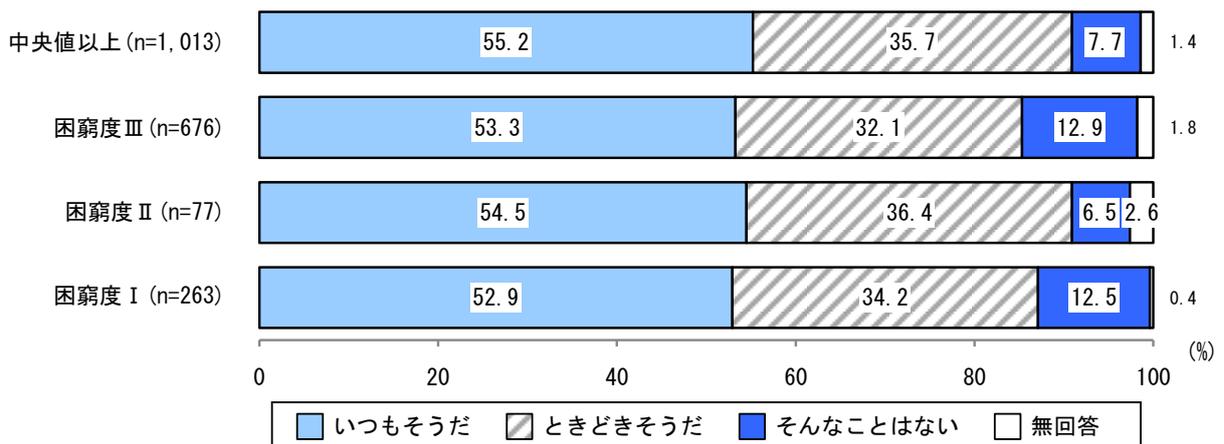
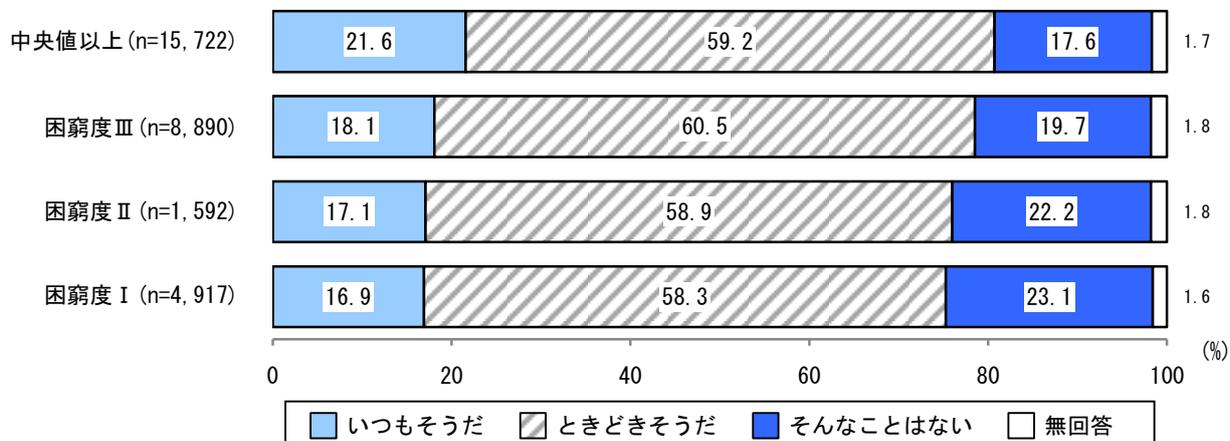


図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群 (52.9%) で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる
(子ども票問 19④)

<大阪府内全体>



<豊中市>

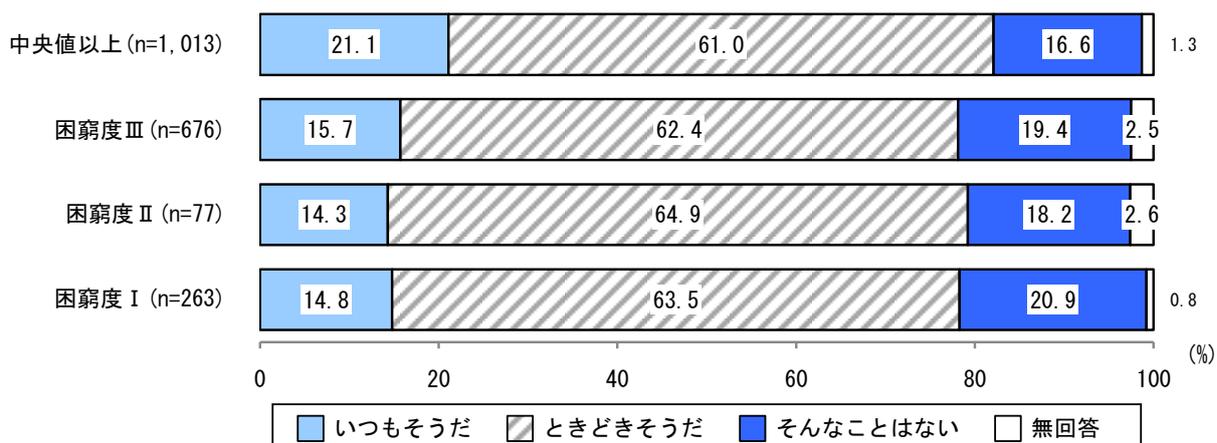
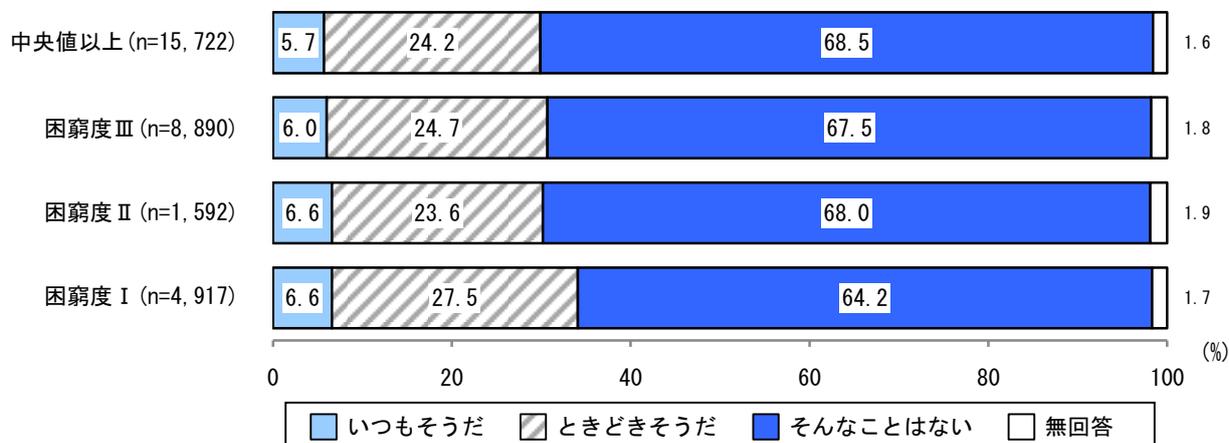


図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅱ群（14.3%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



<豊中市>

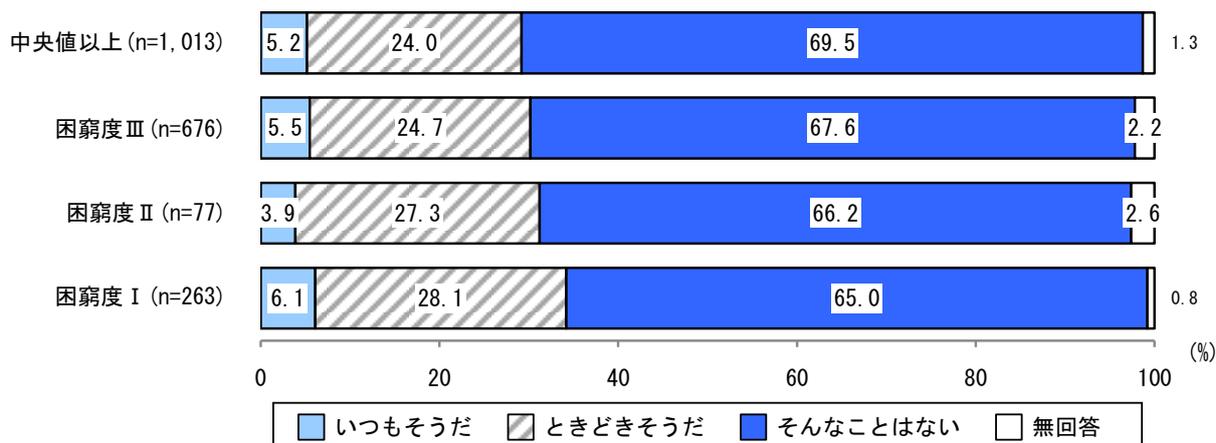
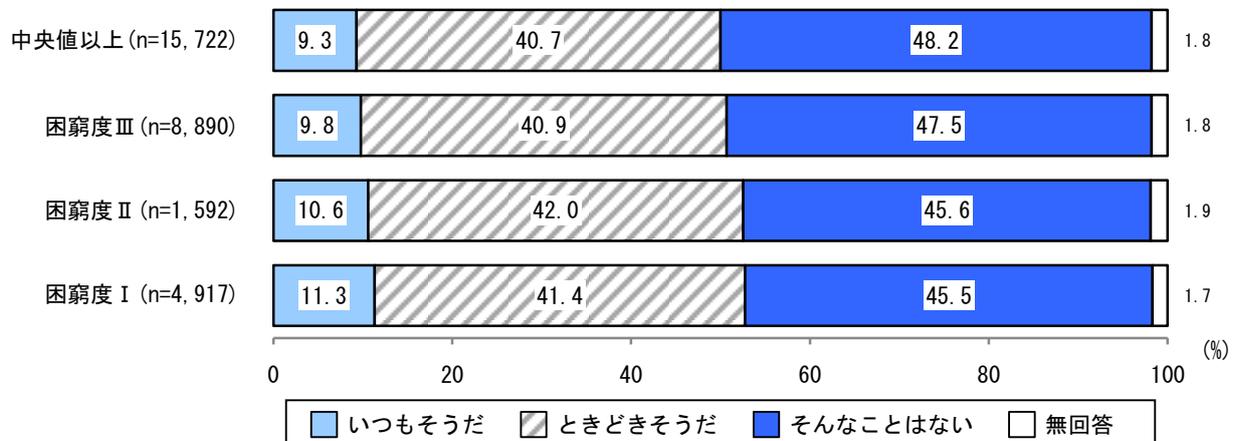


図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群(6.1%)で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる (子ども票問 19⑥)

<大阪府内全体>



<豊中市>

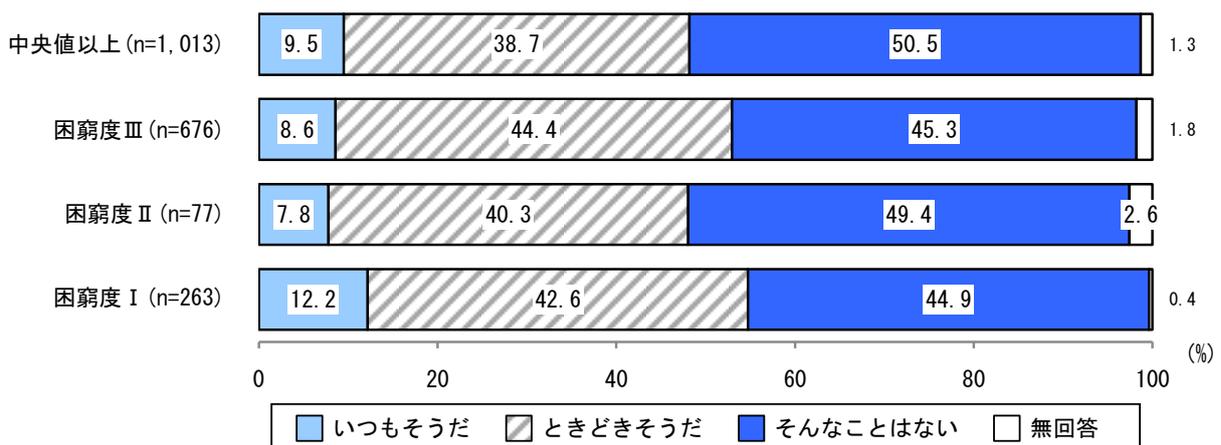
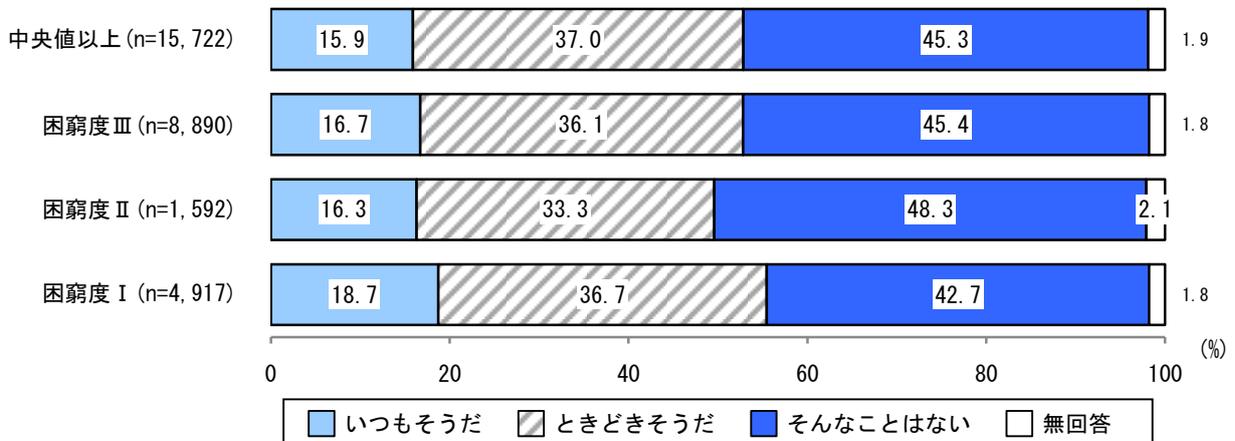


図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群（12.2%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる (子ども票問 19⑦)

<大阪府内全体>



<豊中市>

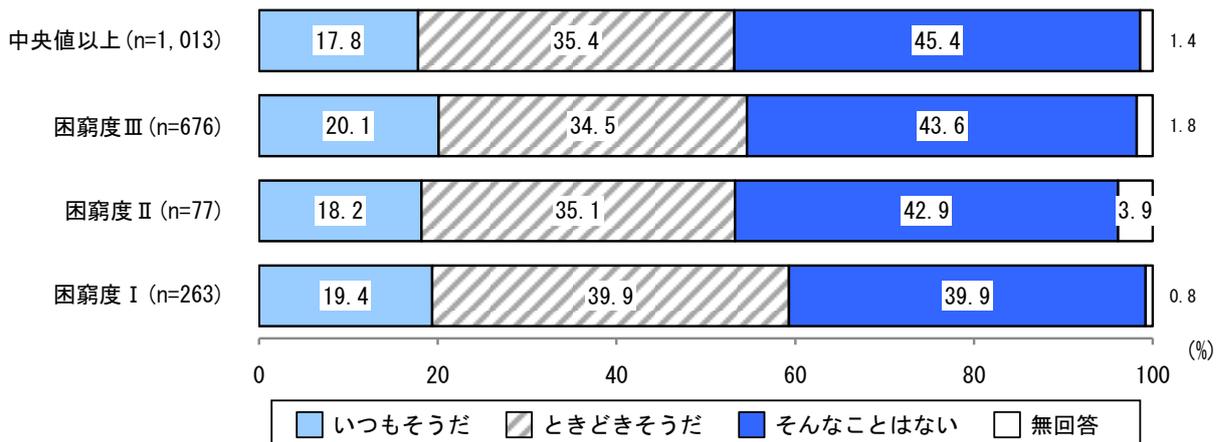
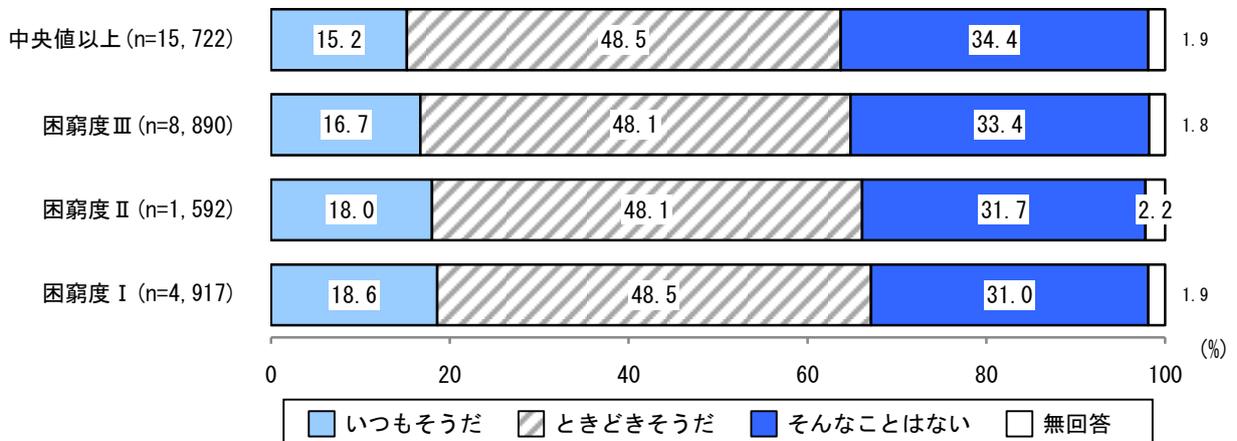


図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、中央値以上群（17.8%）で最も低くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない（子ども票問 19⑧）

<大阪府内全体>



<豊中市>

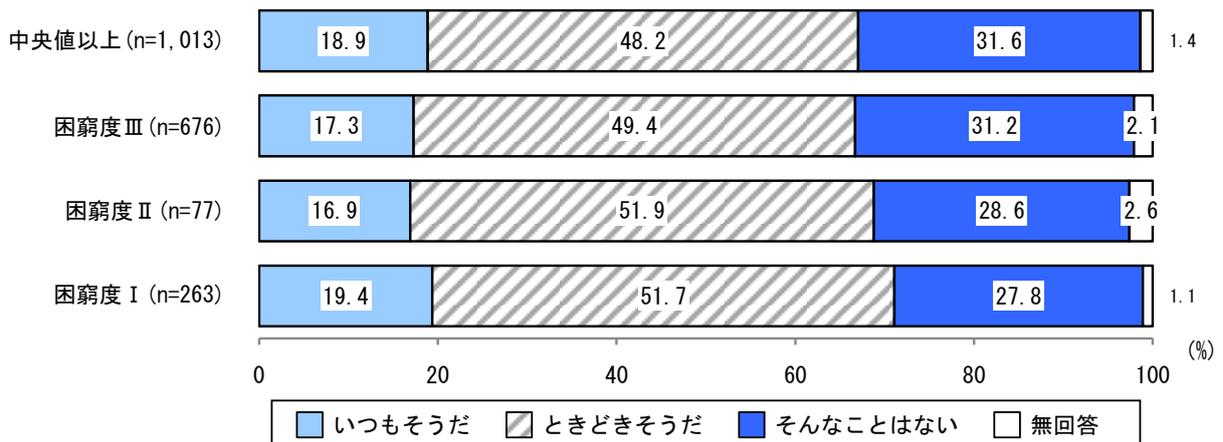
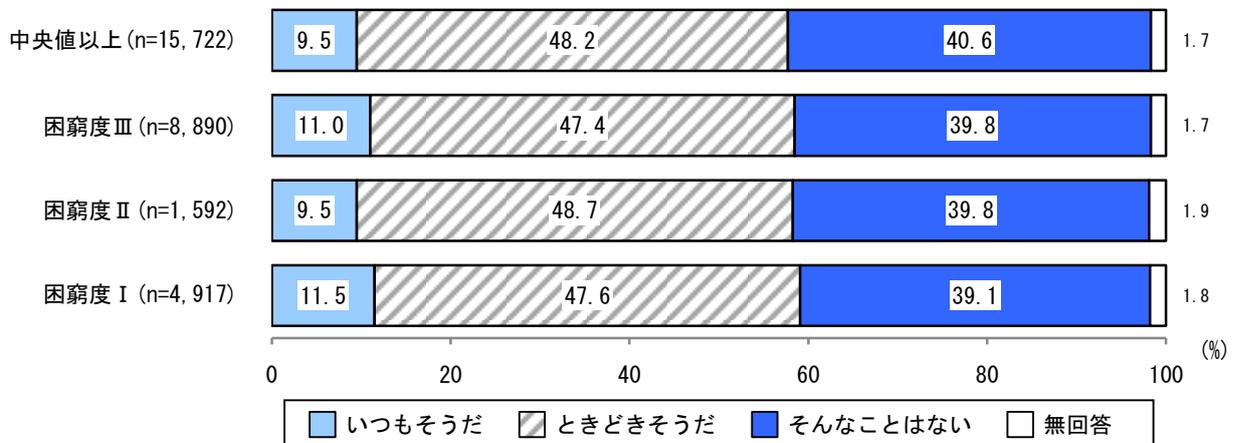


図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群（19.4%）で最も高くなっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする (子ども票問 19⑨)

<大阪府内全体>



<豊中市>

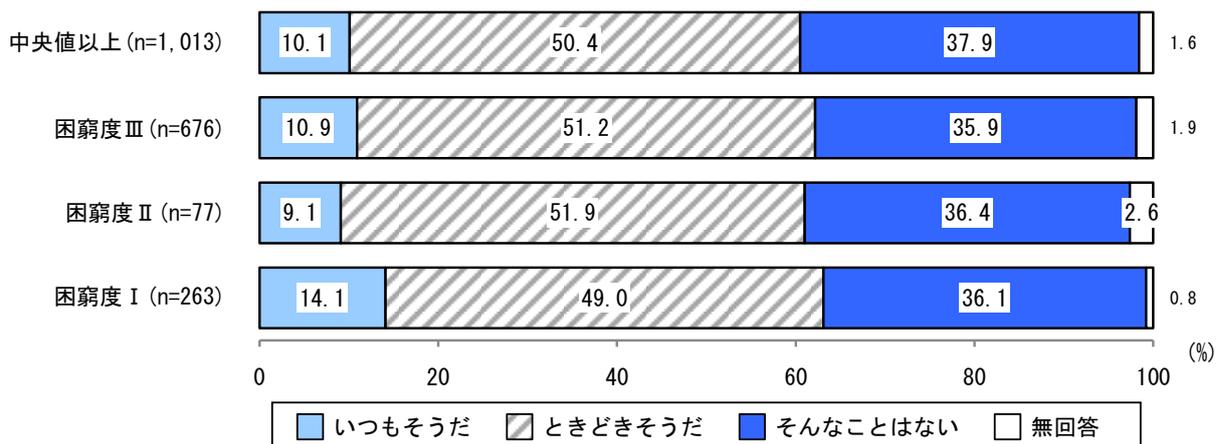
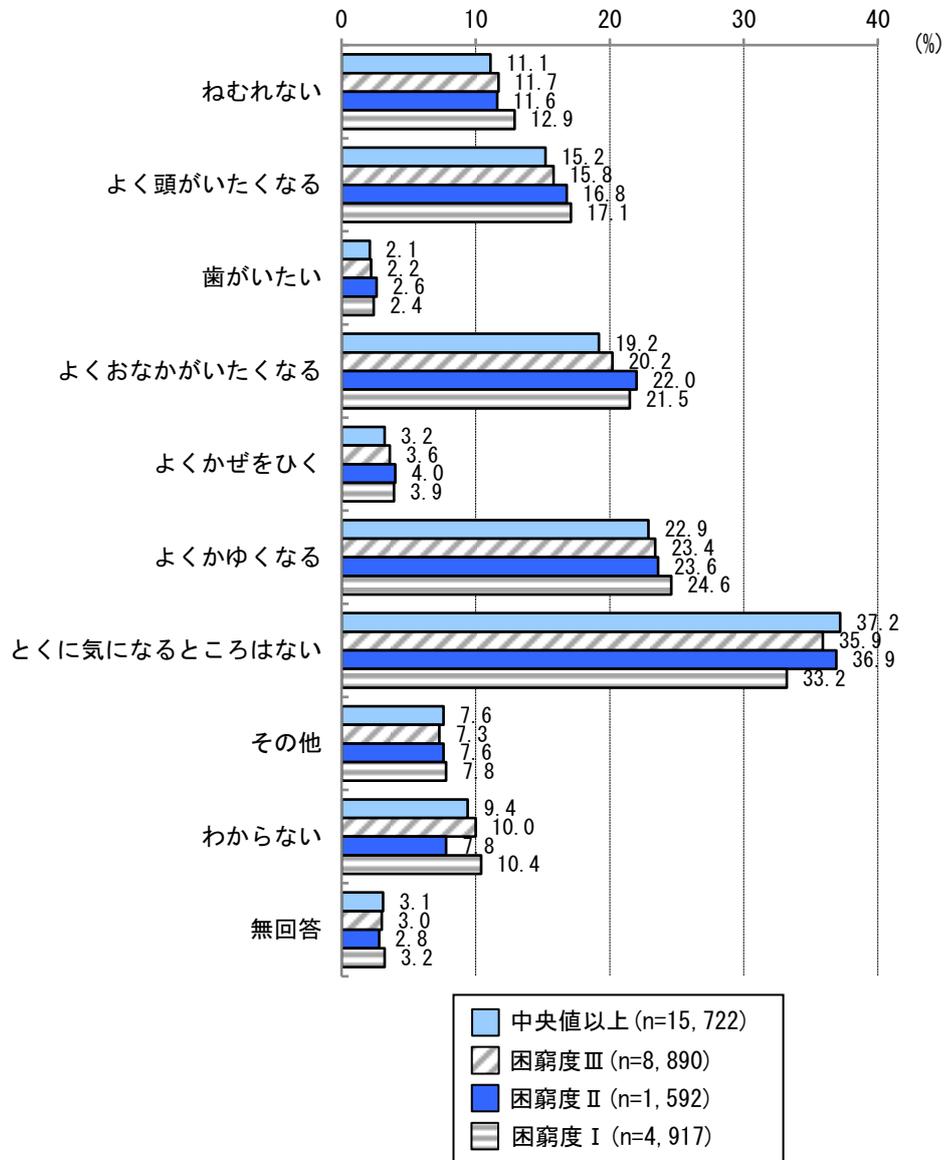


図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

困窮度別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群 (14.1%) で最も高くなっている。

困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること（子ども票問 20）

<大阪府内全体>



<豊中市>

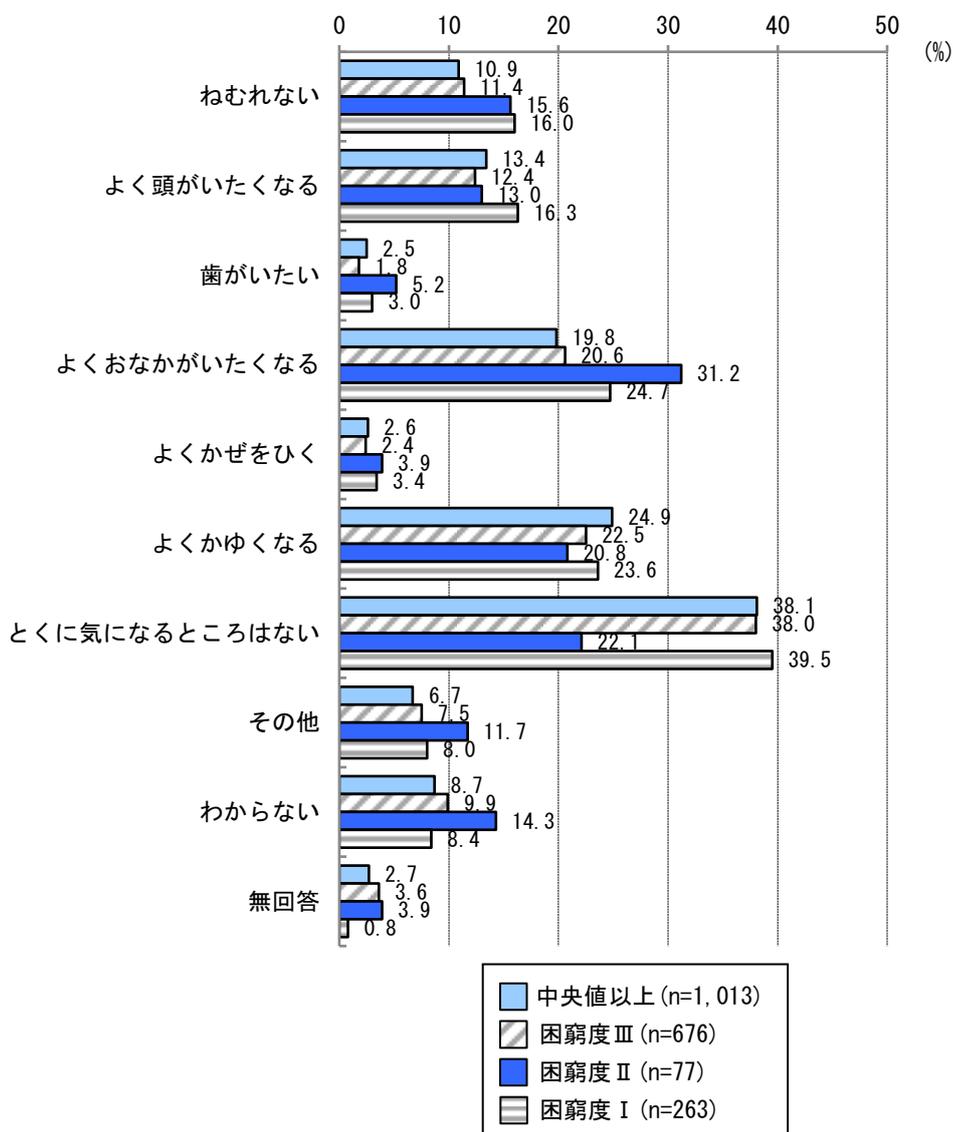
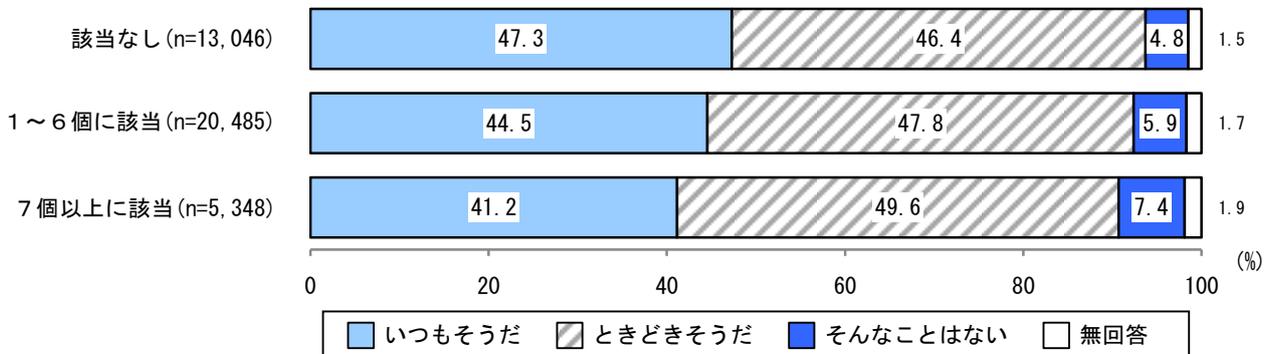


図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること

困窮度別に自分の体の状態で気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ねむれない」16.0%（中央値以上群に対して1.5倍）、「よくかぜをひく」3.4%（同じく1.3倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある（保護者票問7×子ども票問19①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

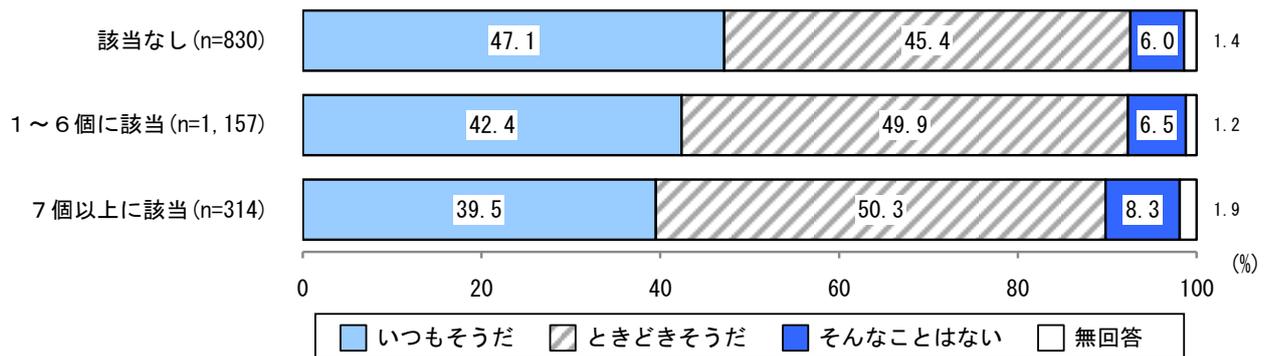
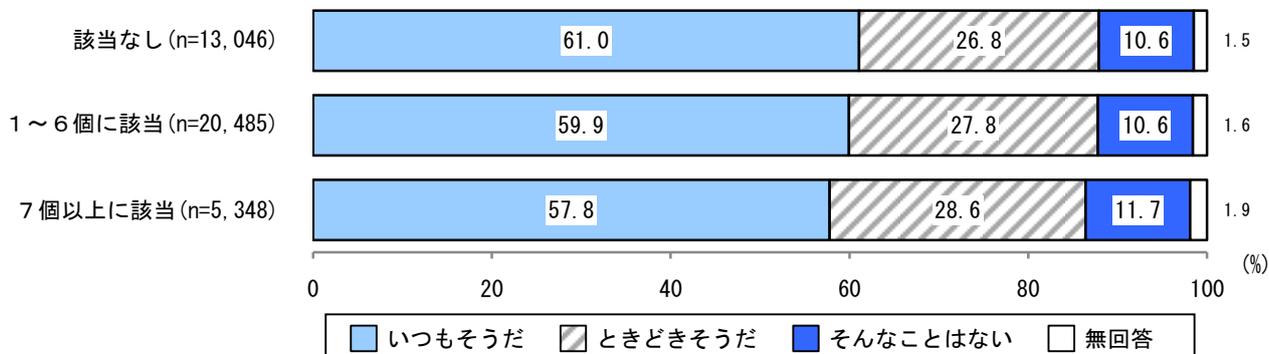


図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で楽しみにしていることがたくさんあるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」(39.5%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ（保護者票問7×子ども票問19②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

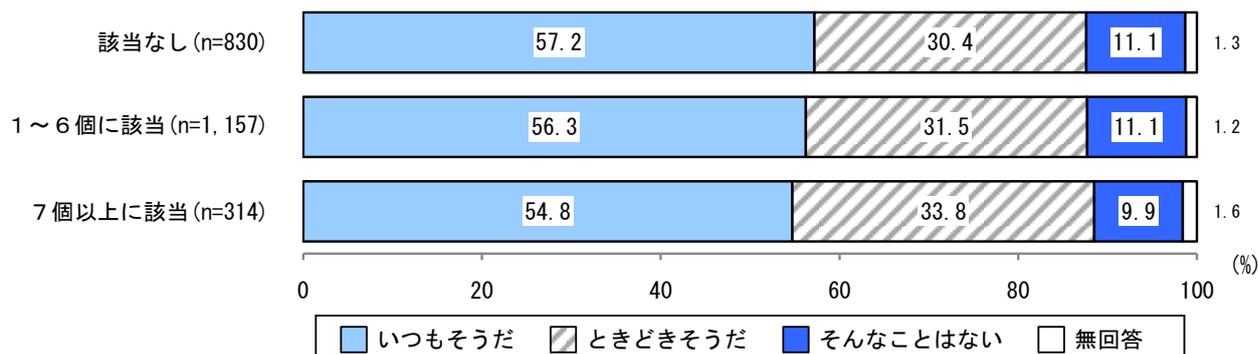
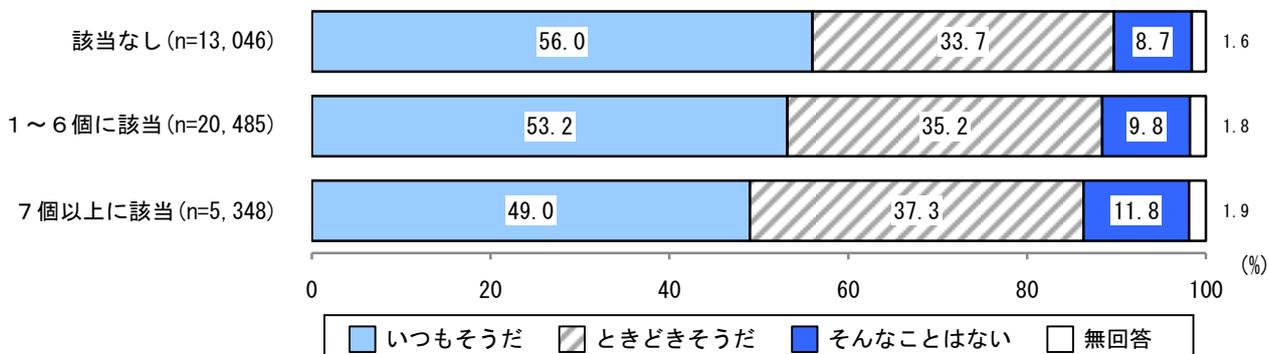


図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で遊びにでかけるのが好きだを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、該当数が多い人ほど割合が低く、「7個以上に該当」(54.8%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい
 (保護者票問7×子ども票問19③)

<大阪府内全体>



<豊中市>

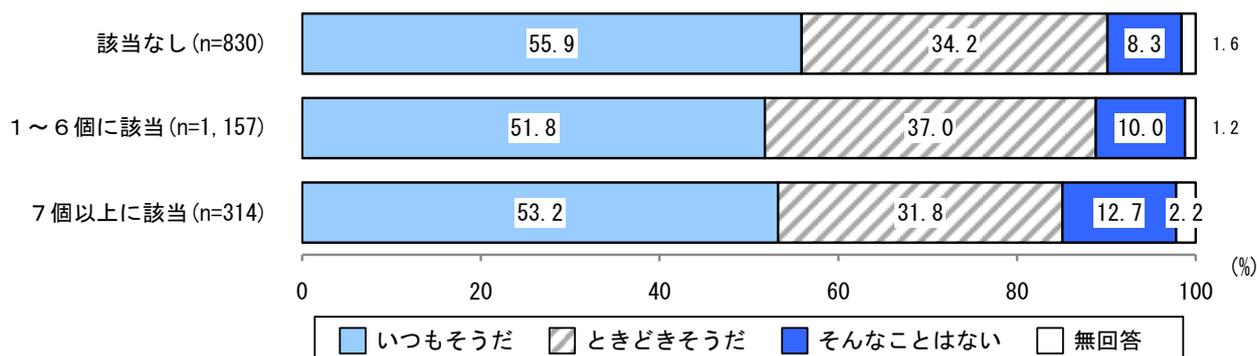
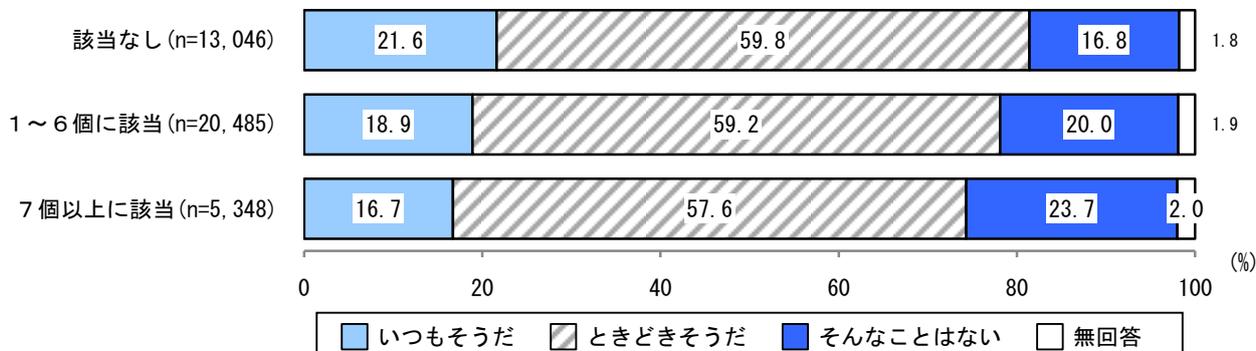


図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱい

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で元気いっぱいを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「1～6個に該当」(51.8%)で最も低くなっている

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる（保護者票問7×子ども票問19④）

<大阪府内全体>



<豊中市>

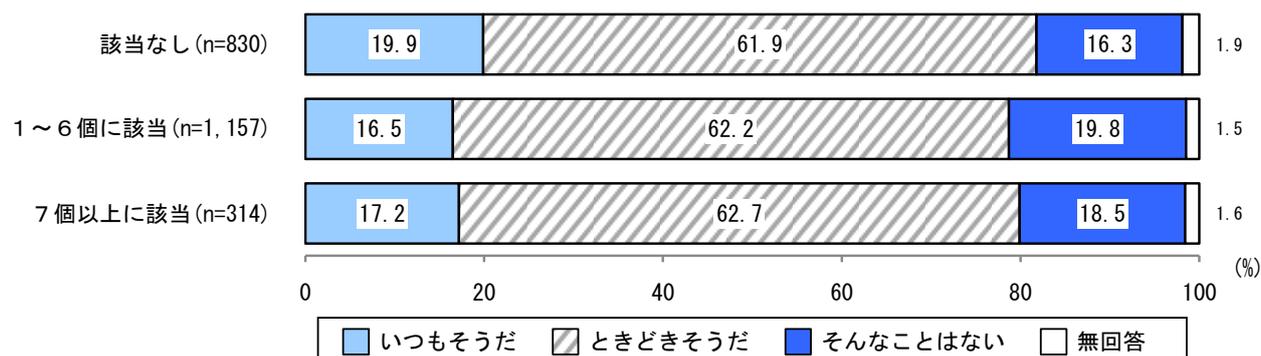
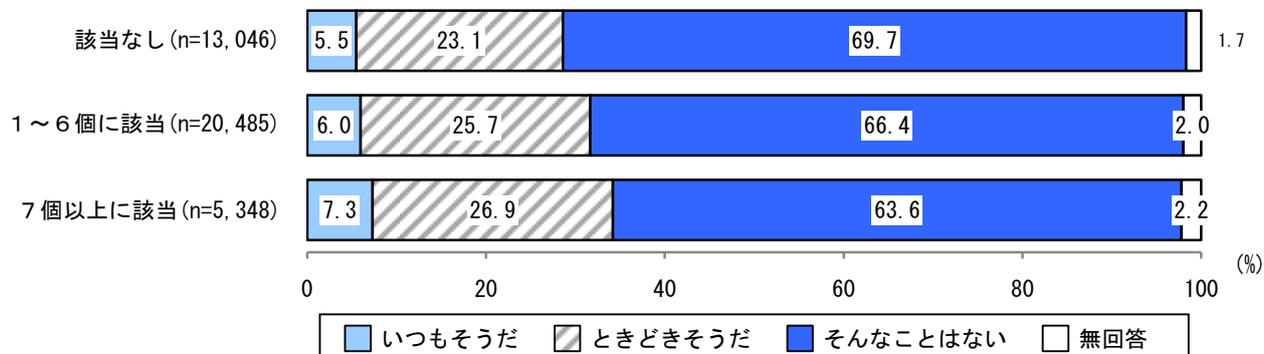


図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況
④やろうと思ったことがうまくできる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやろうと思ったことがうまくできるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「1～6個に該当」(16.5%)で最も低くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする（保護者票問7×子ども票問19⑤）

<大阪府内全体>



<豊中市>

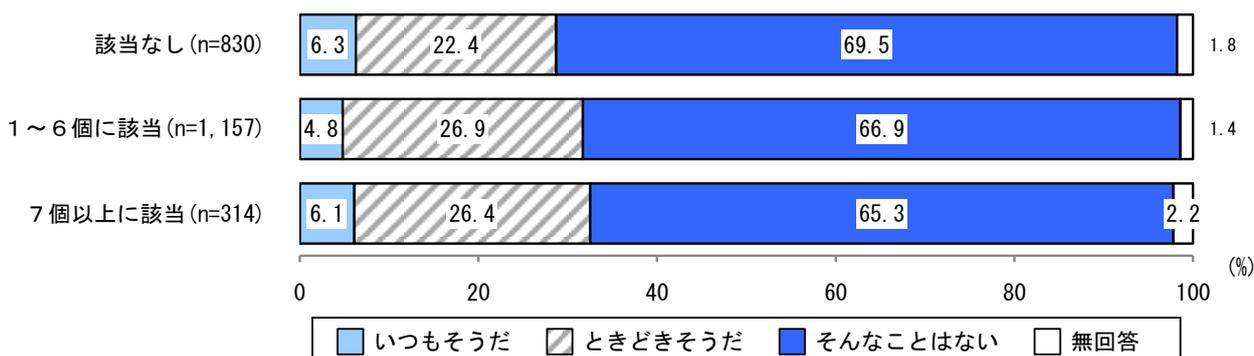


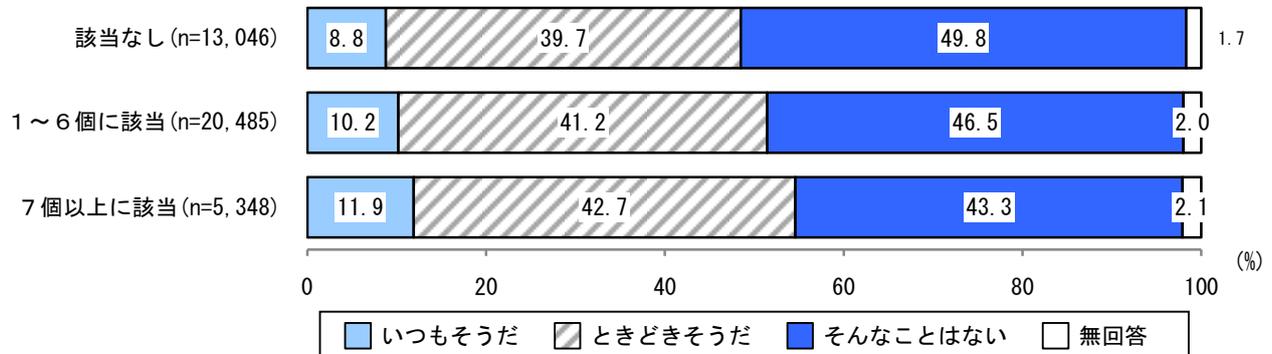
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「該当なし」(6.3%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況

⑥不安な気持ちになる（保護者票問7×子ども票問19⑥）

<大阪府内全体>



<豊中市>

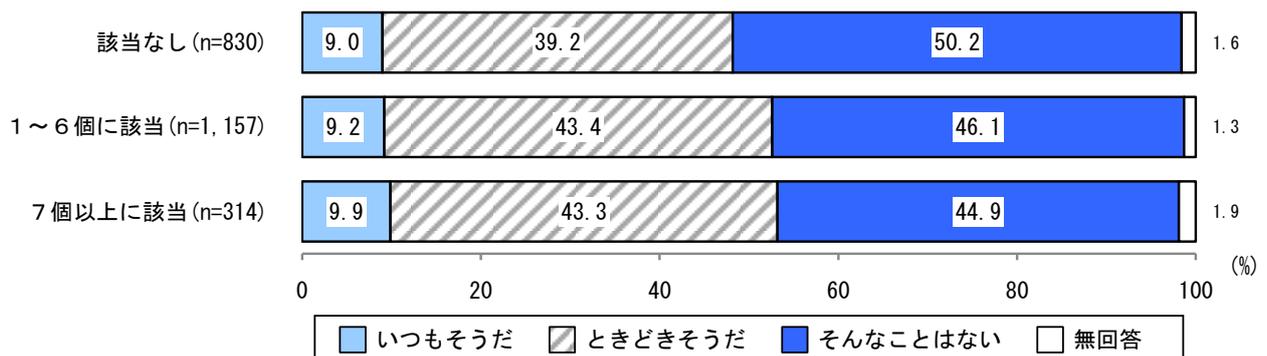
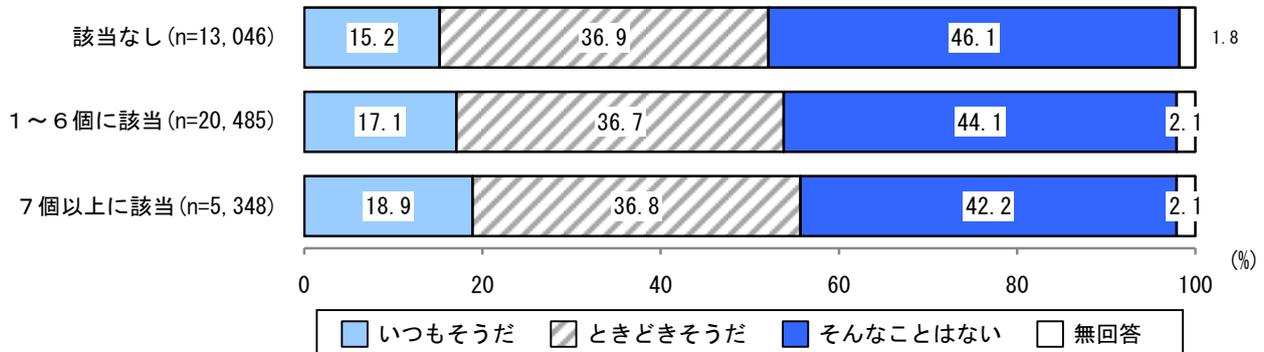


図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況で不安な気持ちになると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「7個以上に該当」(9.9%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる
 (保護者票問7×子ども票問19⑦)

<大阪府内全体>



<豊中市>

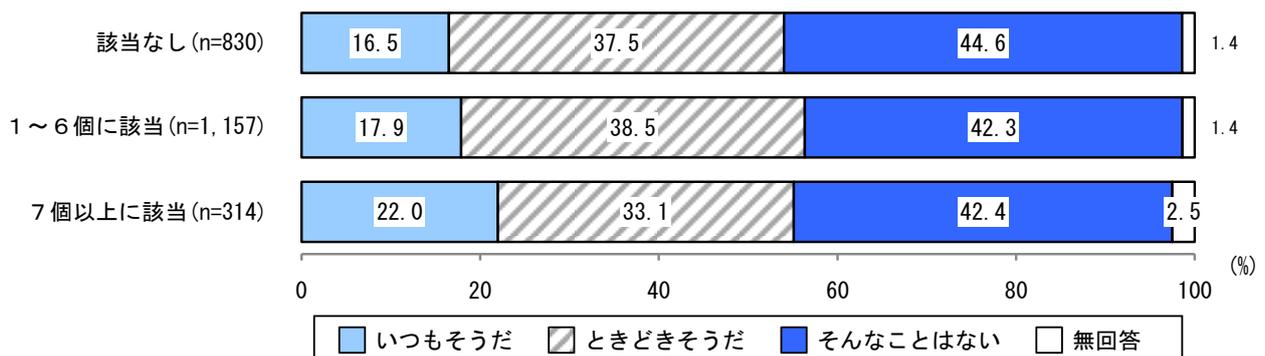
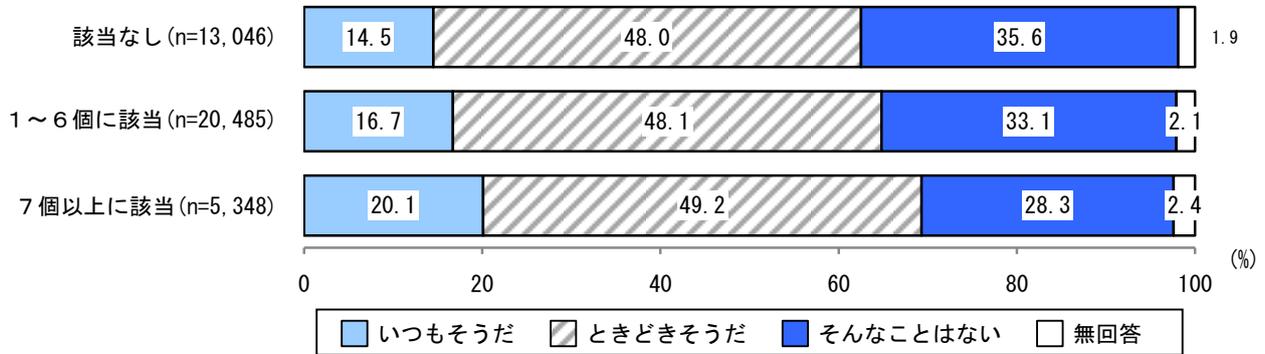


図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でまわりが気になるを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「7個以上に該当」(22.0%)で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない
 (保護者票問7×子ども票問19⑧)

<大阪府内全体>



<豊中市>

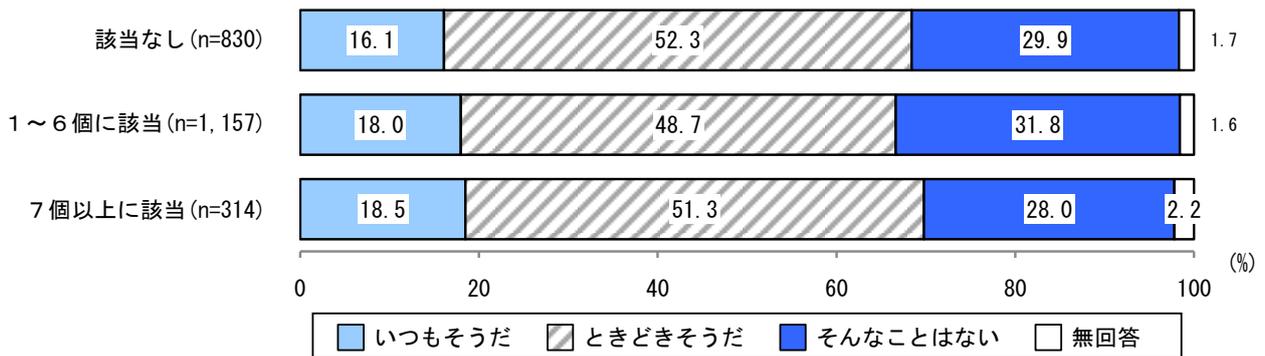
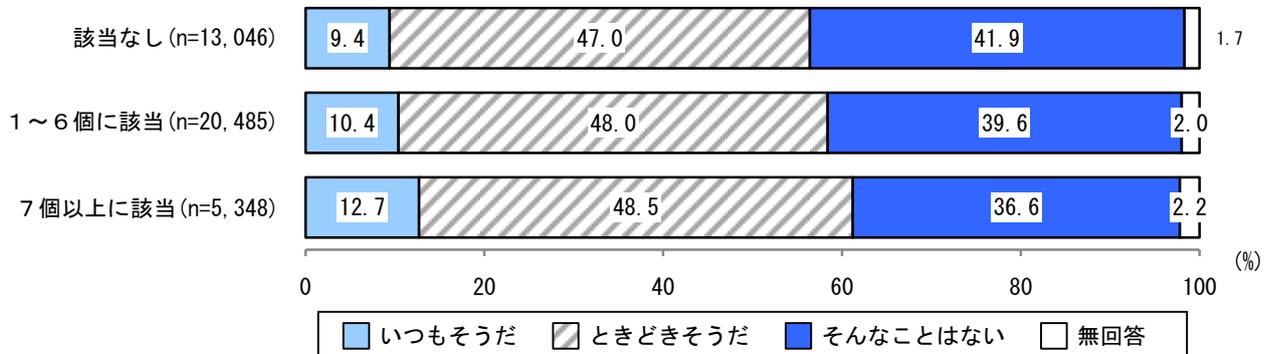


図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でやる気が起きないを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、該当数が多い人ほど割合が高く、「7個以上に該当」が18.5%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする
 (保護者票問7×子ども票問19⑨)

<大阪府内全体>



<豊中市>

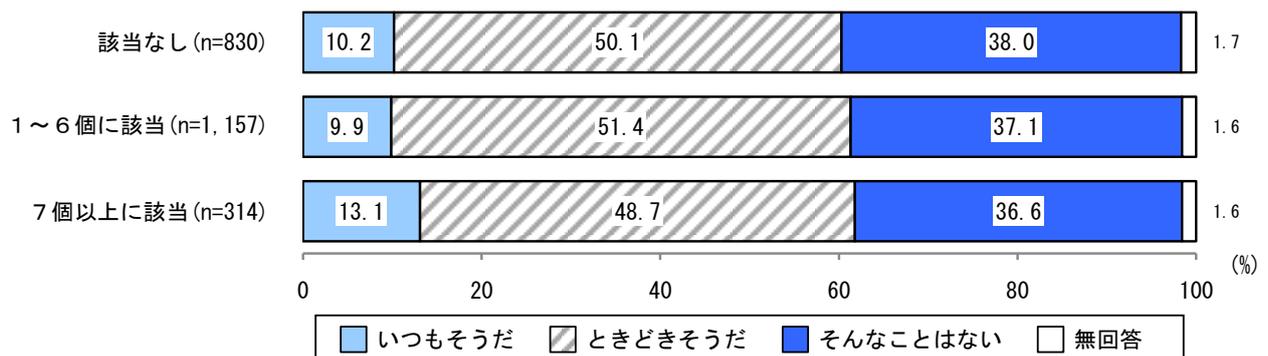
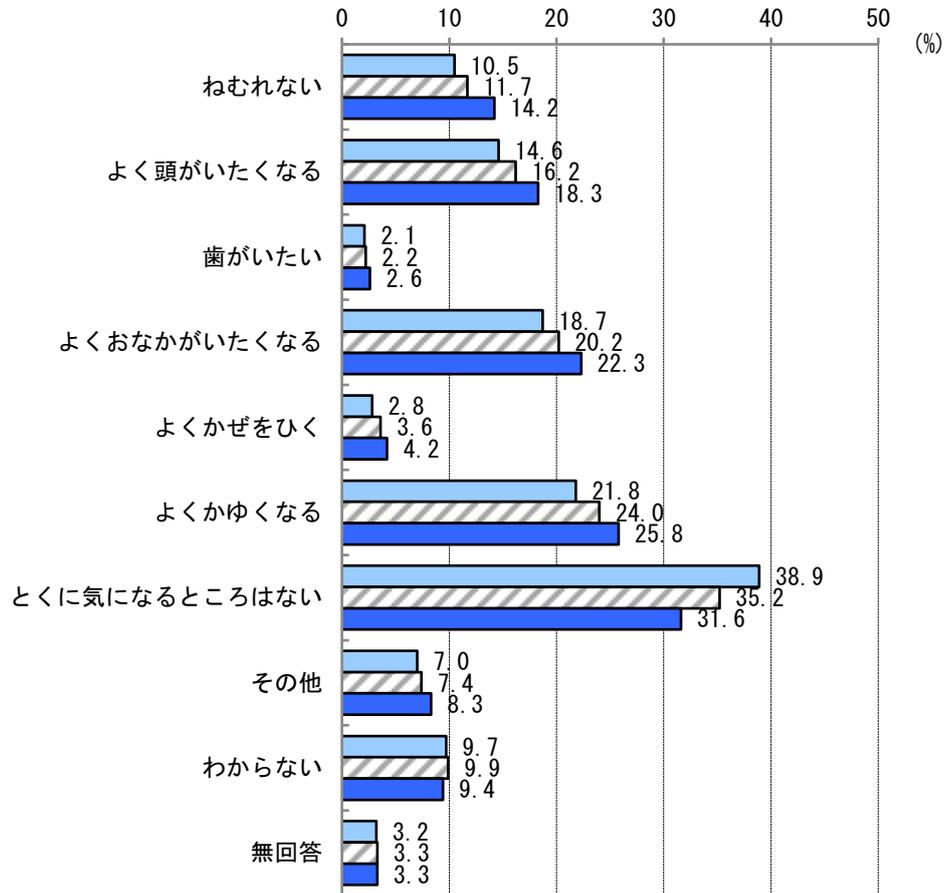


図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする

経済的な理由による経験の該当数別にこの一週間の気持ちの状況でいらいらするを見ると、「いつもそうだ」と回答した割合は、「7個以上に該当」が13.1%で最も高くなっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること
 (保護者票問7×子ども票問20)

<大阪府内全体>



■ 該当なし (n=13,046) ■ 1～6個に該当 (n=20,485) ■ 7個以上に該当 (n=5,348)

<豊中市>

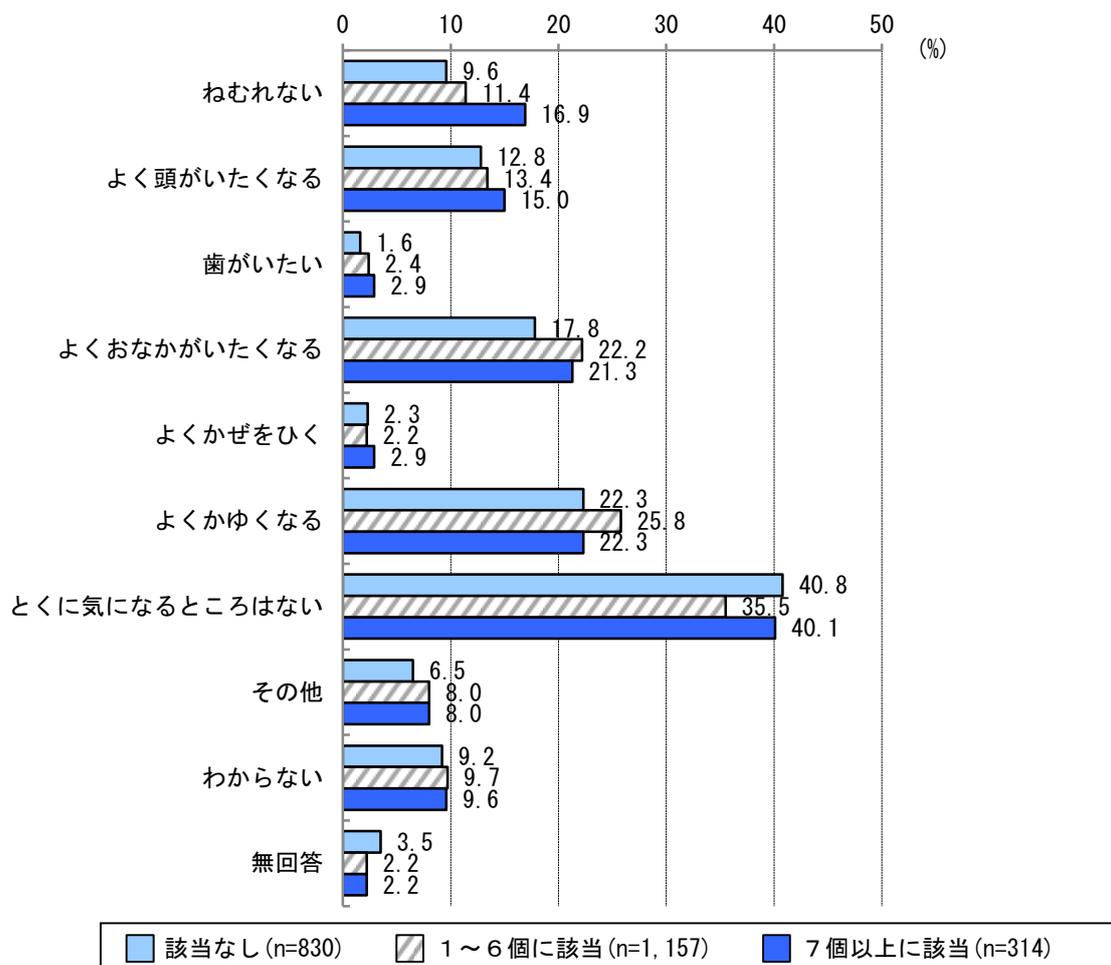
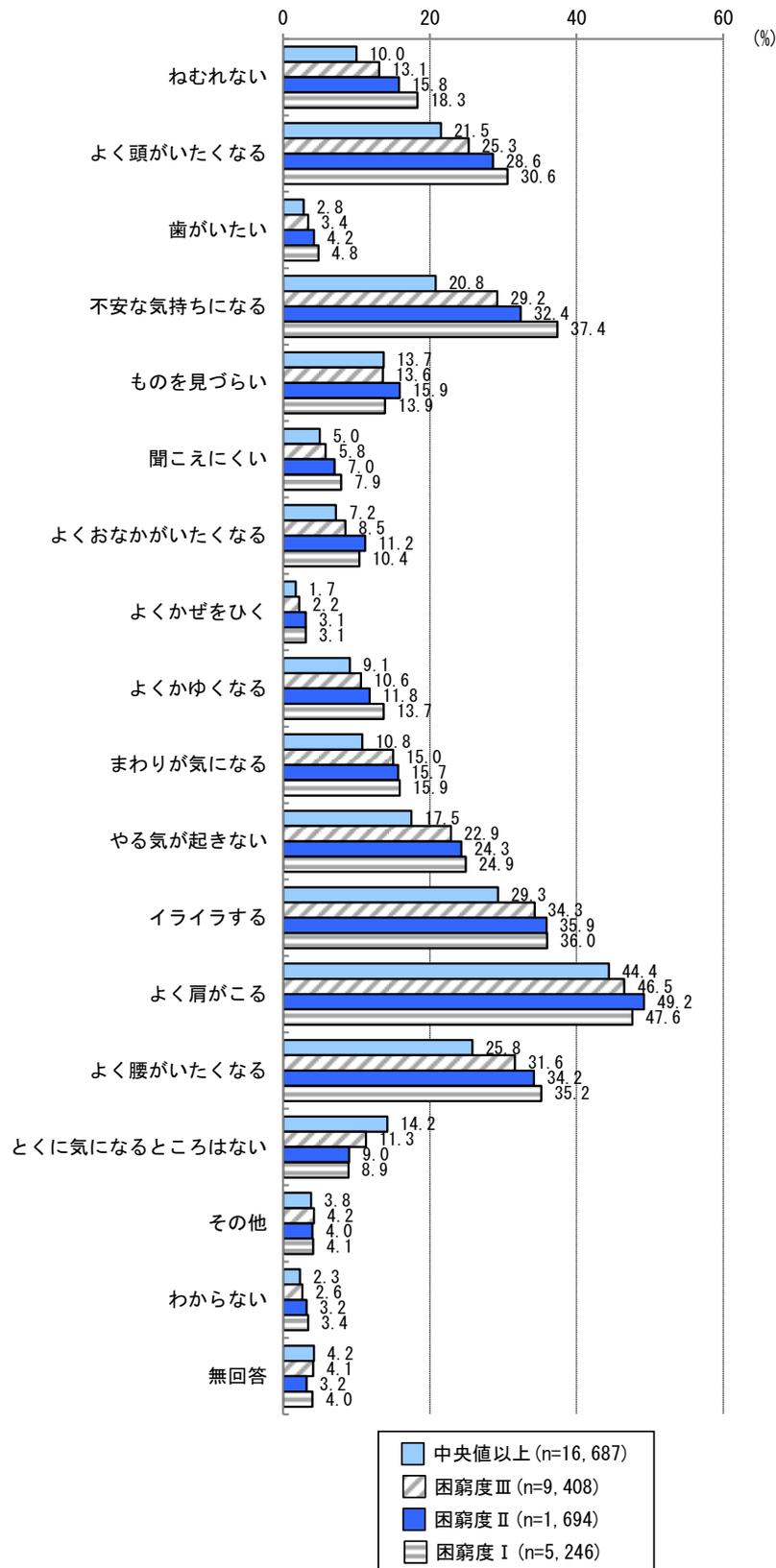


図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体の状態で気になることを見ると、7個以上に該当群と該当なし群間で差が大きい項目に着目しながら、7個以上に該当群の数値を挙げると、「ねむれない」16.9%（「該当なし」群に対して1.8倍）、「歯がいたい」2.9%（同じく1.8倍）、「よくかぜをひく」2.9%（同じく1.3倍）となっている。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<豊中市>

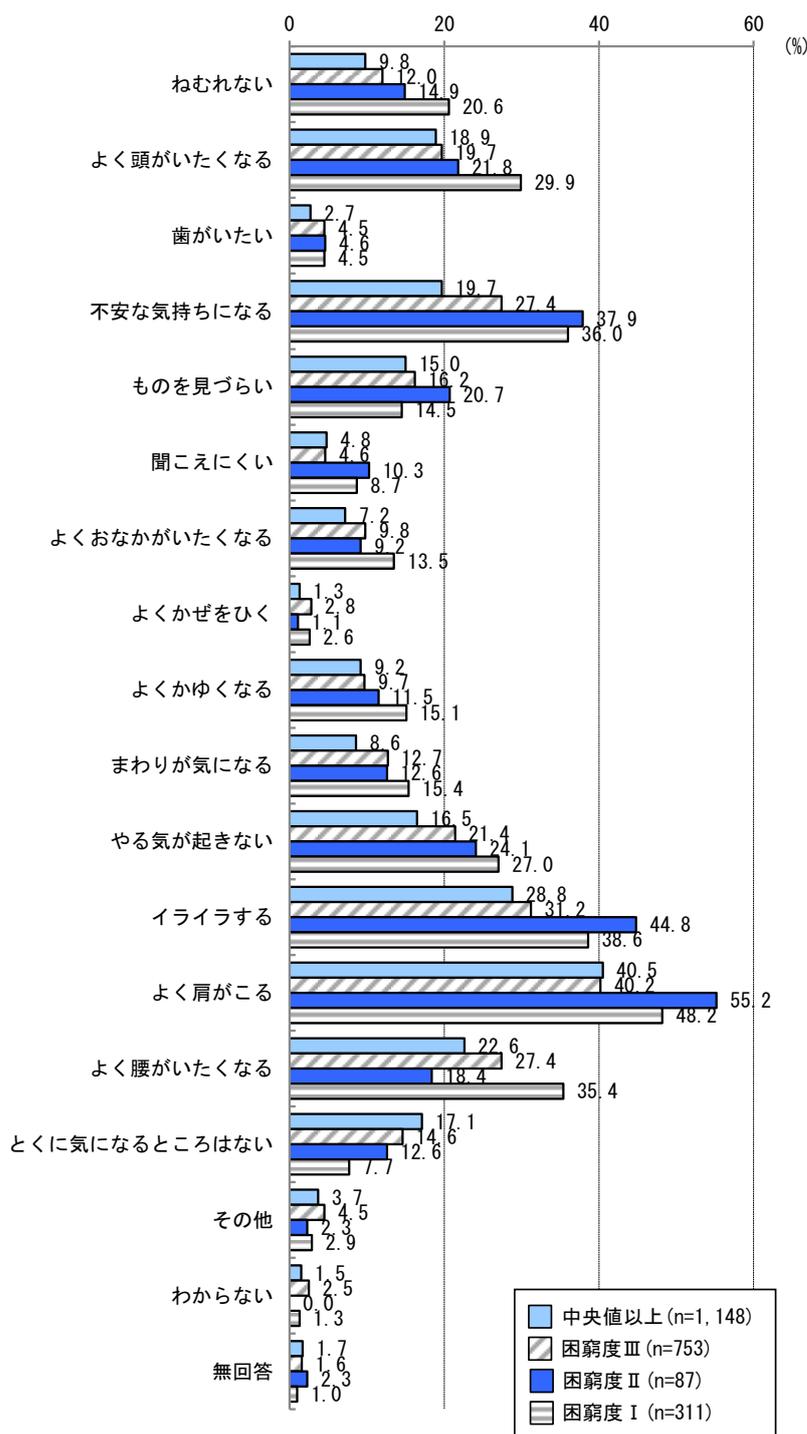
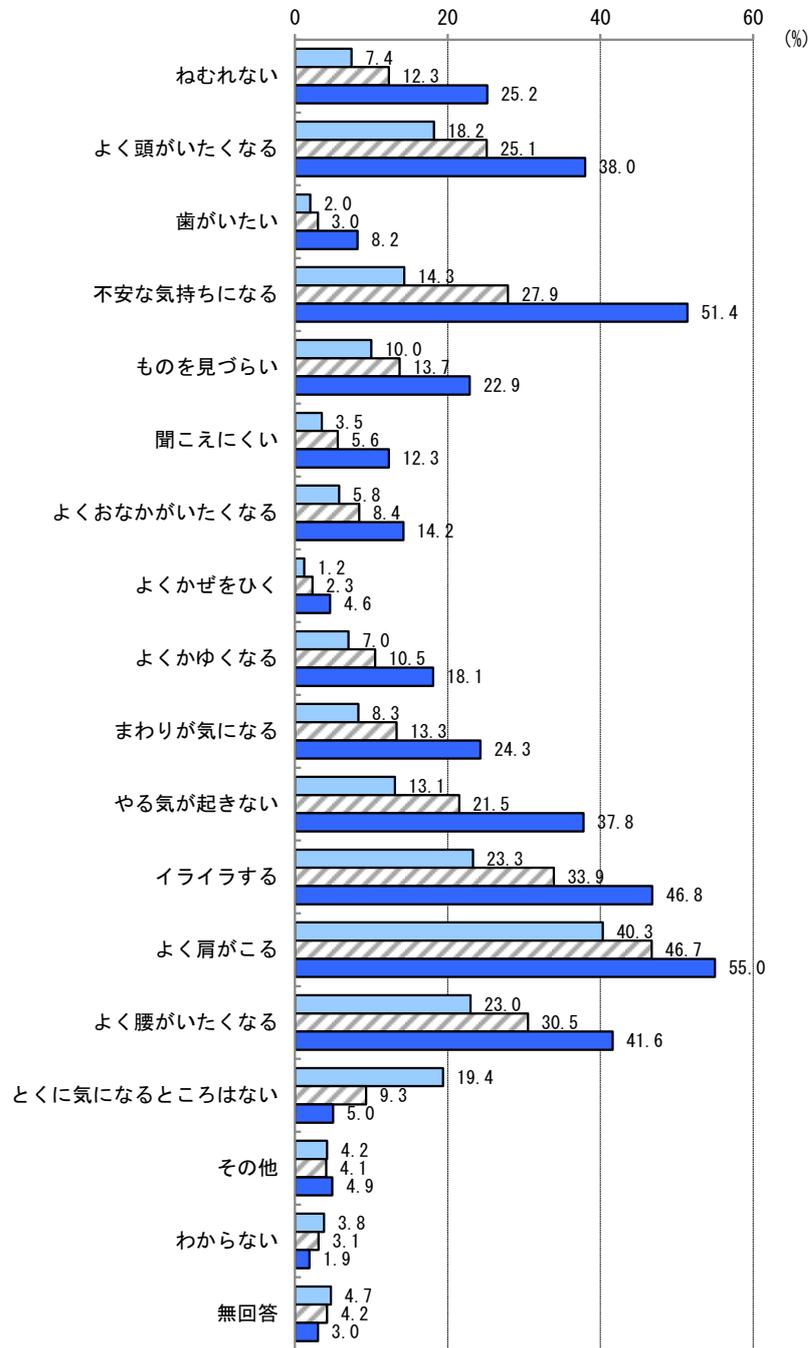


図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「ねむれない」20.6%（中央値以上群に対し2.1倍）、「よくかぜをひく」2.6%（同じく2.0倍）、「よくおなかがいたくなる」13.5%（同じく1.9倍）となっている。

経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
 (保護者票問7×保護者票問22)

<大阪府内全体>



■ 該当なし (n=13,812) ■ 1～6個に該当 (n=21,747) ■ 7個以上に該当 (n=5,688)

<豊中市>

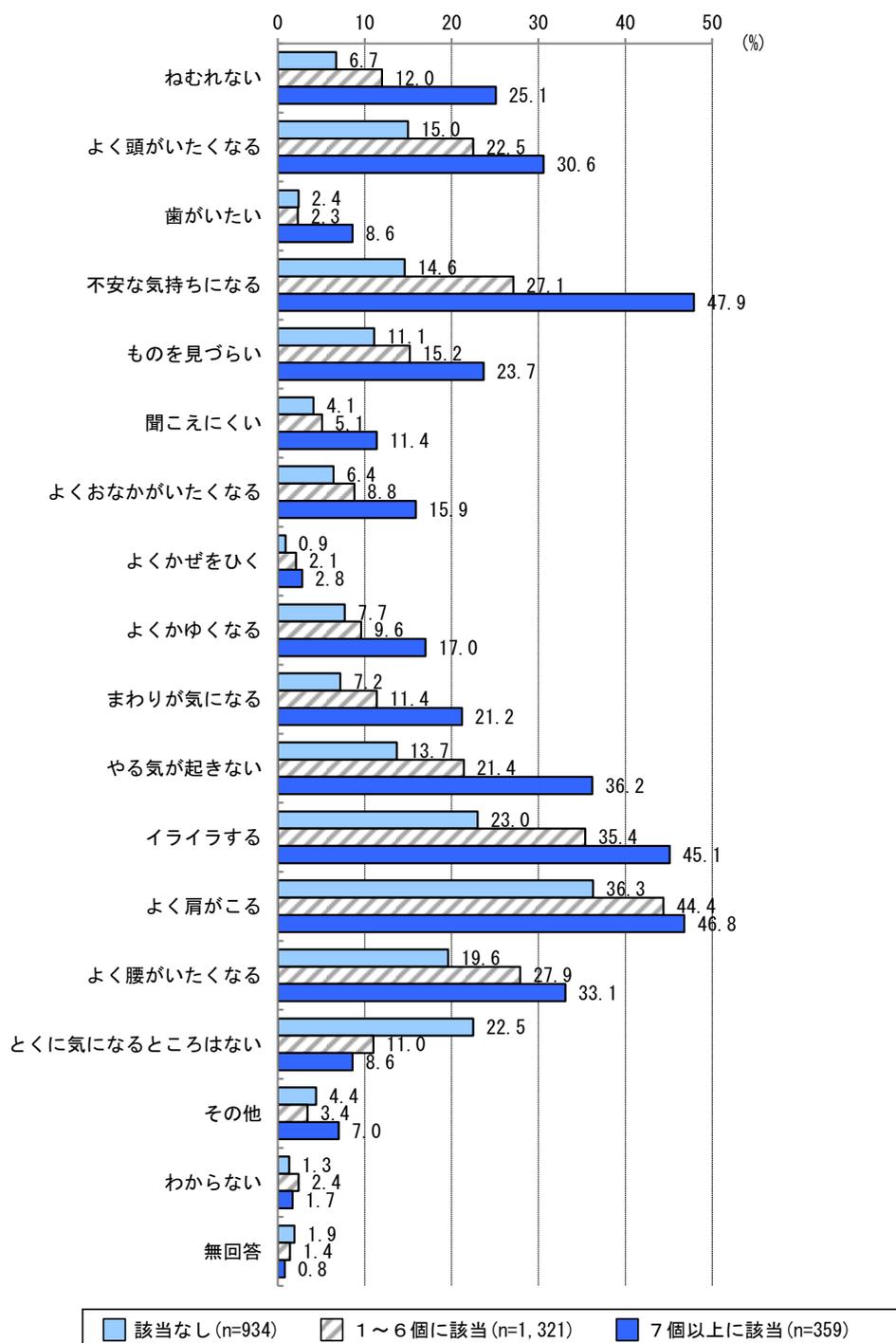
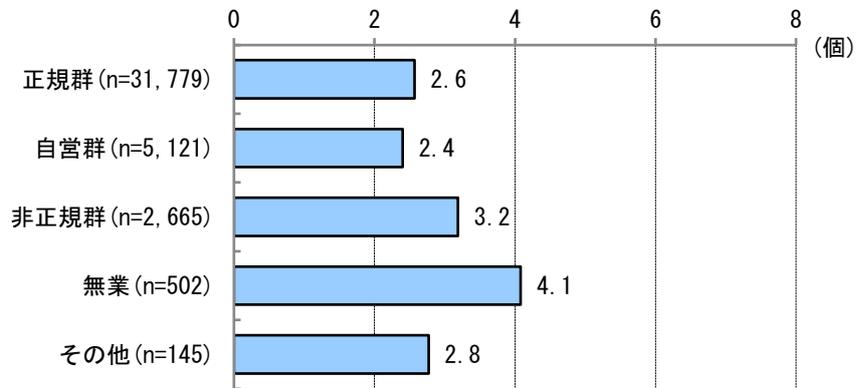


図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になること(保護者)を見ると、多くの項目において、経済的な理由による経験の該当数が多くなるにつれて、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に、7個以上に該当した人と該当なしと回答した人との差が大きく開いている。7個以上に該当群について、該当なしとの差が大きい順に挙げると、「ねむれない」25.1% (該当なしに対して3.7倍)、「歯がいたい」8.6% (同じく3.6倍)、「不安な気持ちになる」47.9% (3.3倍) となっている。

就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票問 22）

<大阪府内全体>



<豊中市>

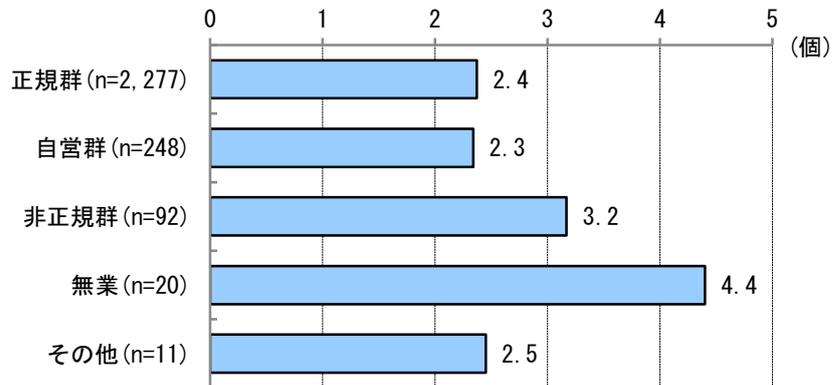


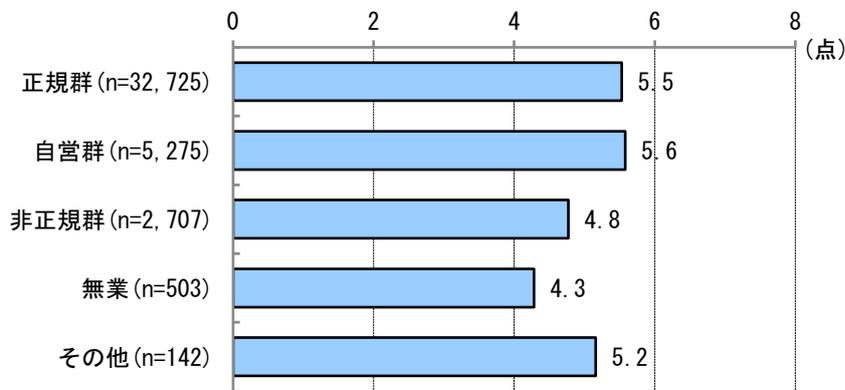
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」、「自営業」に対して、「非正規群」、「無業」、「その他」群において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が増える結果となった。

就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票問18）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪府内全体>



<豊中市>

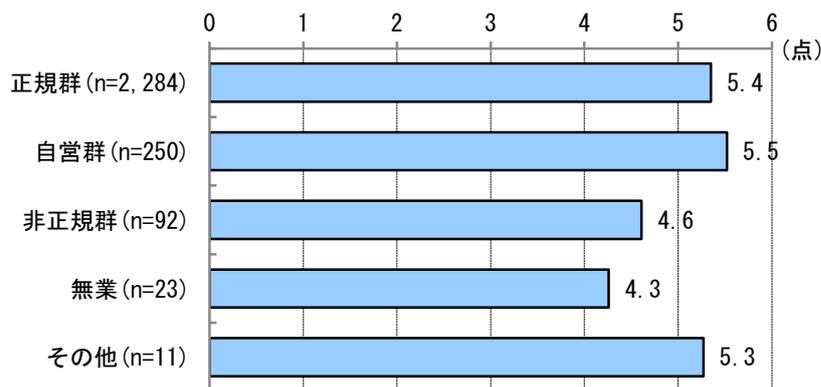
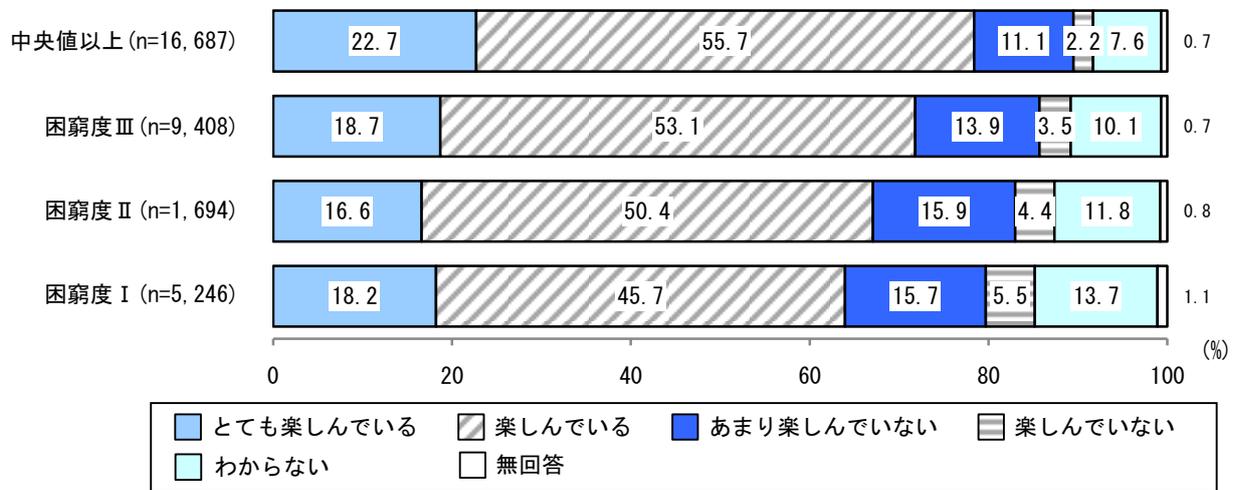


図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」(5.4点)、「自営群」(5.5点)が高く、「非正規群」で4.6点と低下し、「無業」で4.3点と最も低い結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票問 21(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

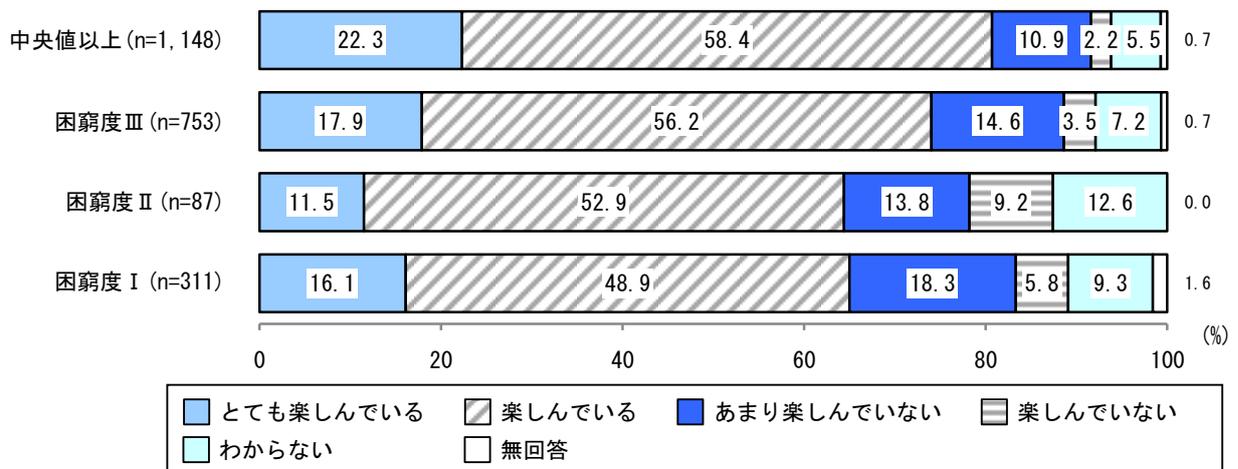
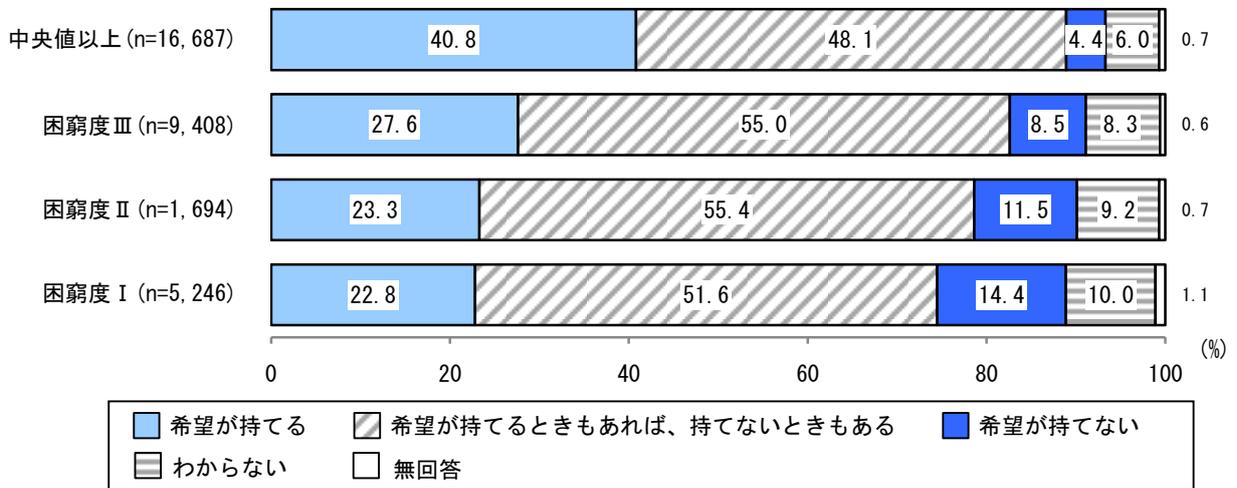


図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせてなんらか『楽しんでいる』割合では、中央値以上群で80.7%と最も高く、それ以外の群では、なんらか『楽しんでいる』割合が低くなった。続いて、困窮度Ⅲ群で74.1%、ここでは困窮度Ⅰと困窮度Ⅱ群では逆転し、困窮度Ⅰ群が65.0%、困窮度Ⅱ群において64.4%と最も低くなった。逆に、「楽しんでいる」と回答した割合は、中央値以上群が2.2%と最も低く、次いで、困窮度Ⅲ群で3.5%、困窮度Ⅰ群で5.8%、困窮度Ⅱ群で9.2%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）（保護者票問 21(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

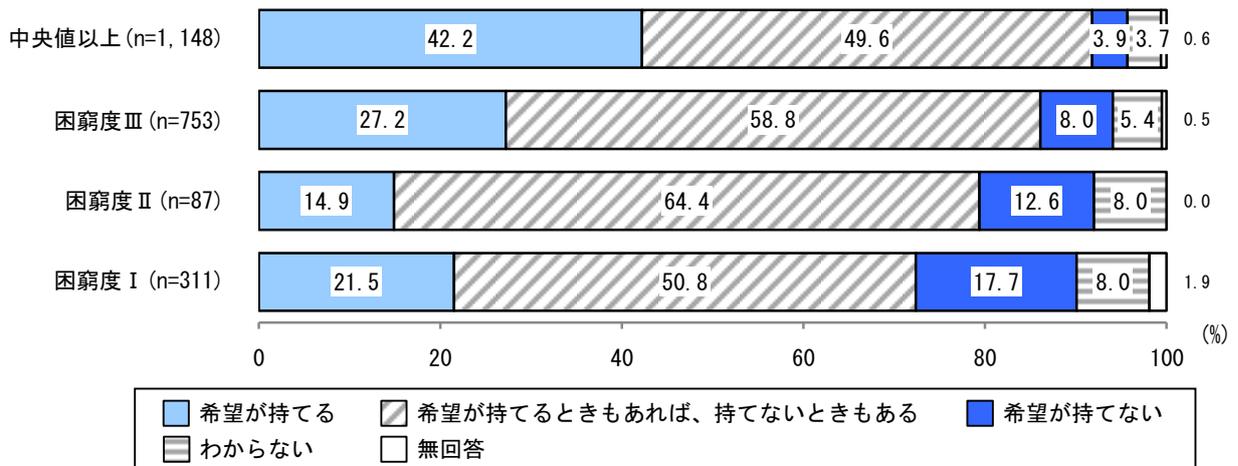
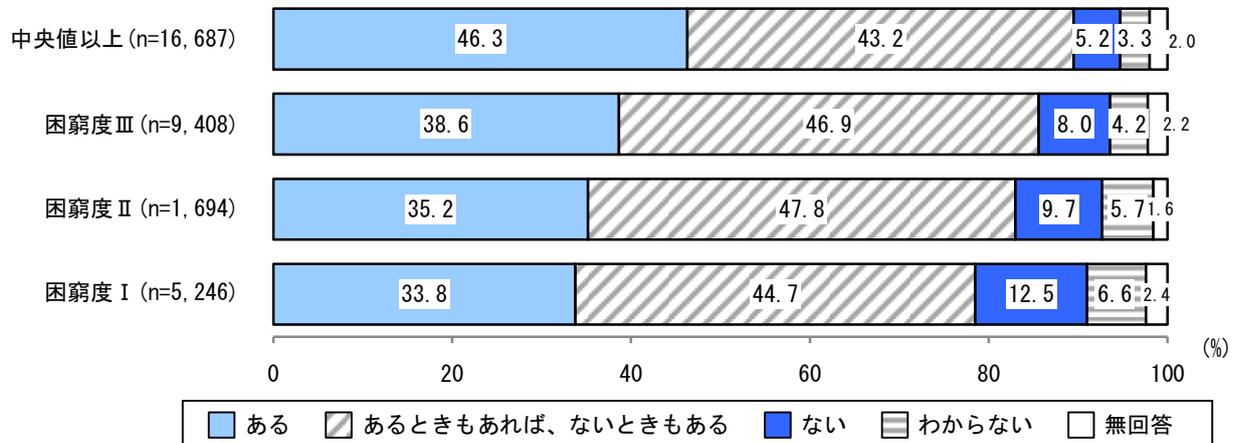


図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）

困窮度別に将来への希望を見ると、「希望が持てる」と回答する割合は、中央値以上群では、42.2%であるのに対し、困窮度Ⅲ群では27.2%、ここでは困窮度Ⅰと困窮度Ⅱ群では逆転し、困窮度Ⅰ群が21.5%、困窮度Ⅱ群において14.9%と最も低くなった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）（保護者票問 21(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

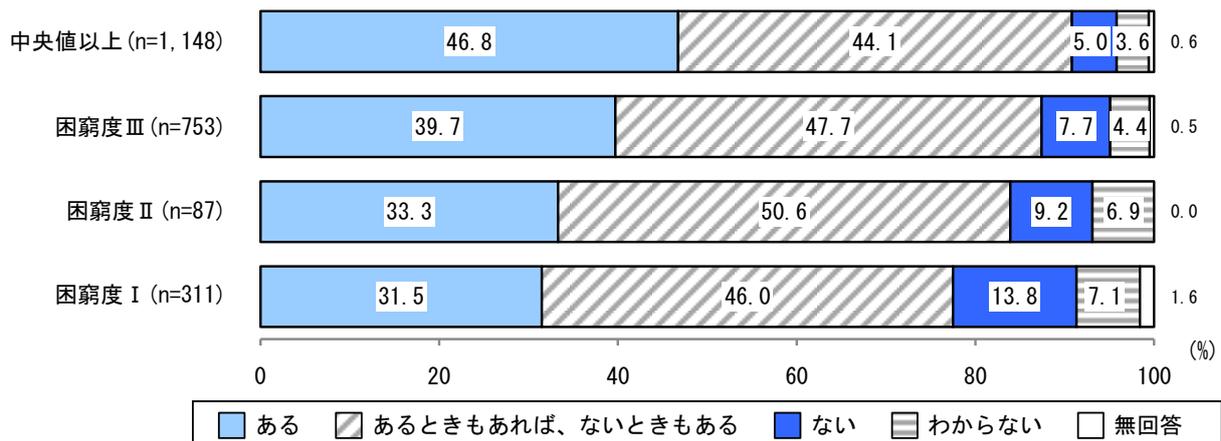
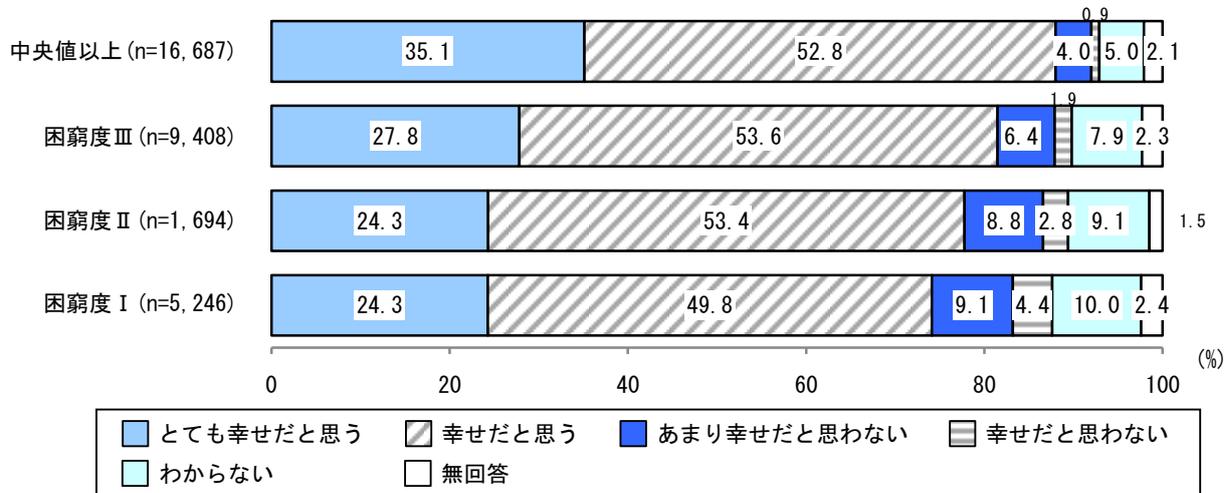


図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、困窮度Ⅰ群が13.8%と、「ない」と回答する割合が最も高くなっている。中央値以上群では、5.0%と最も低く、困窮度Ⅲ群7.7%、困窮度Ⅱ群9.2%となっている。

困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）（保護者票問 21(4)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

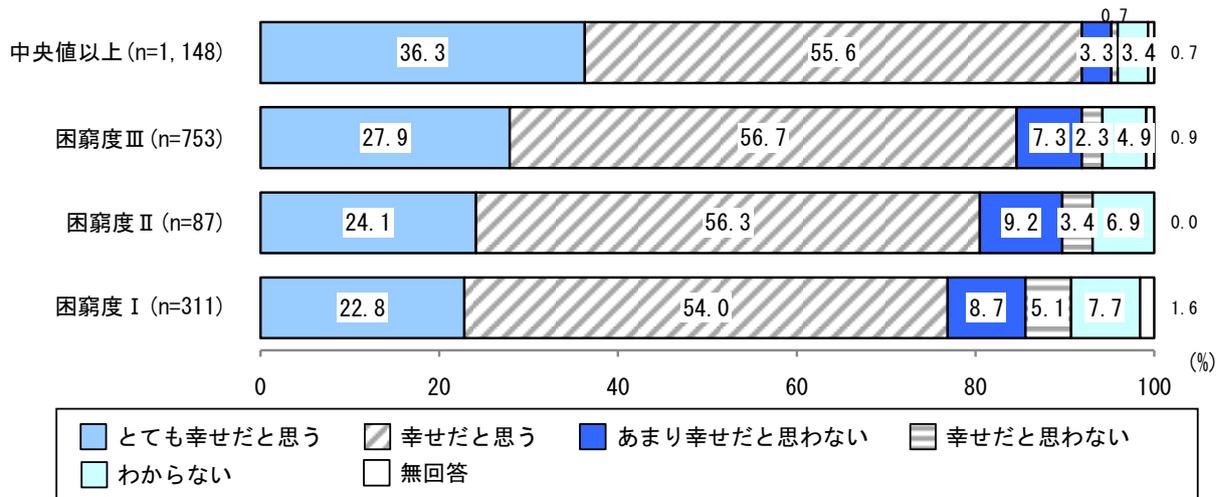


図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せだと思う」と「幸せだと思う」をあわせて、なんらか『幸せと思う』と回答した割合は、困窮度が高まるにつれて低くなり、困窮度Ⅰ群（76.8%）で最も低くなっている。逆に、なんらか『幸せではない』（「あまり幸せだと思わない」と「幸せだと思わない」をあわせた割合）と回答する割合は、中央値以上群で4.0%にとどまるのに対して、困窮度Ⅰ群で13.8%、困窮度Ⅱ群で12.6%、困窮度Ⅲ群で9.6%となっている。

<健康に関する考察>

まず、困窮度別に生活習慣と健康状態について、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目して述べる。朝食の頻度では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「毎日またはほとんど毎日」(92.6%対83.7%)が5ポイント以上高くなっている。子どもの自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「ねむれない」(16.0%対10.9%)、「よくおなかがいたくなる」(24.7%対19.8%)が約5ポイント以上高くなっている。保護者の自覚症状では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「よくおなかがいたくなる」(13.5%対7.2%)、「よくかゆくなる」(15.1%対9.2%)、「まわりが気になる」(15.4%対8.6%)、「イライラする」(38.6%対28.8%)、「よく肩がこる」(48.2%対40.5%)がいずれも5ポイント以上、「ねむれない」(20.6%対9.8%)、「よく頭がいたくなる」(29.9%対18.9%)、「不安な気持ちになる」(36.0%対19.7%)、「やる気が起きない」(27.0%対16.5%)、「よく腰がいたくなる」(35.4%対22.6%)では10ポイント以上高くなっている。一方で、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「特に気になるところはない」(17.1%対7.7%)が5ポイント以上高くなっている。また、保護者の心の状態を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、生活を「あまり楽しんでいない」(18.3%対10.9%)が5ポイント以上、将来に対して「希望が持てない」(17.7%対3.9%)、ストレスを発散できるものが「ない」(13.8%対5.0%)が10ポイント以上高くなっており、一方で中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、自分が「とても幸せだと思う」(36.3%対22.8%)が10ポイント以上高くなっている。

次に、経済的な理由による経験の該当数を見ると、個数が増えるにしたがって、「元気いっぱい」で「いつもそうだ」の割合が低くなる傾向にある。自覚症状では、個数が増えるにしたがって子どもは「ねむれない」「よくおなかが痛くなる」の割合が高くなる傾向にあり、保護者では「ねむれない」「よく頭がいたくなる」「不安な気持ちになる」「よくかゆくなる」「まわりが気になる」「やる気が起きない」「イライラする」「よく肩がこる」「よく腰がいたくなる」の割合が高くなる傾向にある。これらの結果から、経済的に困難な世帯では、保護者では不安やイライラなどのメンタルヘルスに影響が出ている可能性があり、同時に不眠が多く、心身の休養が不十分である可能性がうかがえる。また、経済的に困難な世帯では、保護者・子どもいずれも「よくおなかがいたくなる」と感じており、ストレス対処の失敗や、食習慣への悪影響、衛生状態も懸念される。一方で経済的に困難のない世帯の保護者は、ストレス発散ができていたり、幸福感を感じていたりするなど、望ましい状態で過ごすことができている傾向にある。

続いて、親の就業状況別の生活習慣や健康状態を見てみる。親の就業状況別の朝食の頻度では、「正規」「自営」と答えた2群において、「毎日またはほとんど毎日」朝食を摂っている割合が高く(91.3%、90.4%)、「非正規」「無業」では90%未満となっている(85.5%、76.2%)。この結果から、経済的に不安定な世帯では、欠食傾向があることがうかがえる。

食事習慣別の親子関係や健康状態に着目する。朝食の頻度別に見ると、朝食を「毎日またはほとんど毎日食べている」群では、「食べない」群と比べ、子どもを「とても信頼している」(53.2%対26.3%)、子どもと会話を「よくする」(67.8%対57.9%)、子どもの将来に「とても期待している」(26.2%対21.1%)がいずれも5ポイント以上高くなっている。また、「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べている群に比べ、休日に子どもと関わる時間が「2時間未満」(26.3%対16.8%)が約10ポイント高くなっている。子どもの自己効力感では、朝食を「毎日またはほとんど毎日食べている」群では、「食べない」群と比べ、1点以上高くなっており、学校が休みの日の昼食を「必ず食べる」群では他の群に比べ高い傾向がある。これらの結果から、ほぼ毎日規則正しく朝食・昼食を摂ることは、保護者と子どもの関係をよりよくするとともに、子どもの自己効力感を高める可能性が示唆された。

保護者の自覚症状では、朝食の共食頻度別に見ると、朝食をおうちの大人の人と一緒に食べることが「まったくない」群では、「ほとんど毎日食べている」群と比べ、「不安な気持ちになる」(27.4%対22.1%)、「よくかゆくなる」(14.4%対7.1%)、「まわりが気になる」(15.3%対9.3%)、「やる気が起きない」(23.3%対18.1%)、「イライラする」(34.4%対28.8%)、「よく腰がいたくなる」(28.4%対23.1%)がいずれも5ポイント以上高くなっている。夕食の共食頻度別にみると、夕食をおうちの大人の人と一緒に食べることが「まったくない」群では、「ほとんど毎日食べている」群と比べ、「よく腰がいたくなる」(30.0%対24.7%)が5ポイント以上高くなっている。一方で、「ほとんど毎日」食べている群は、「まったくない」群と比べ、「イライラする」(31.1%対20.0%)、「よく肩がこる」(42.1%対20.0%)が5ポイント以上高くなっている。これらの結果から、大人とこどもの共食は、全体的にはストレスや不安を低減させるが、一方で夕食を一緒に食べないといけないという心理的な負担につながっている可能性がある。

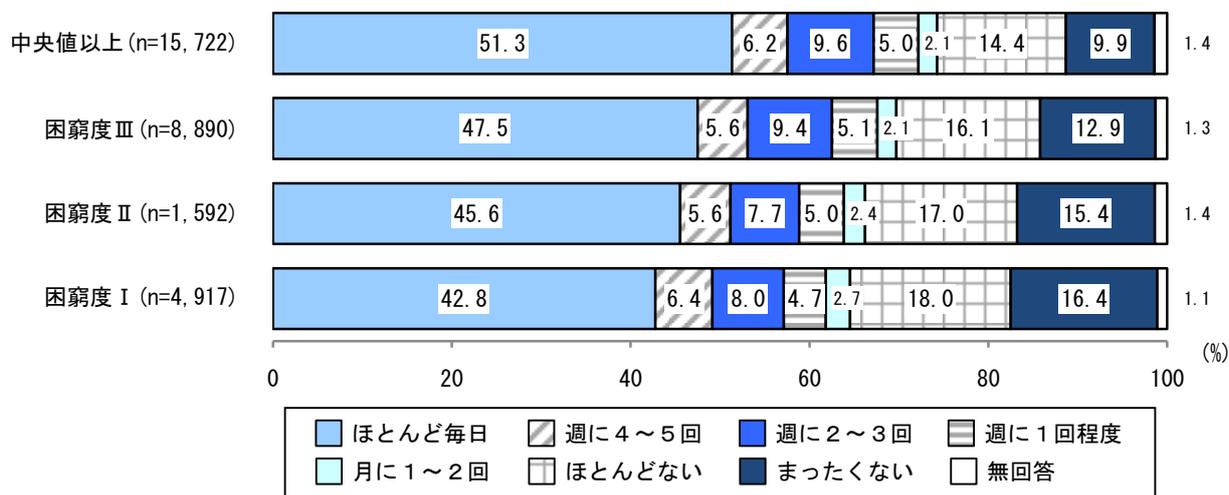
さらに、自覚症状のうち「とくに気になるところはない」、つまり健康状態に問題がないと自覚している保護者に関して、その要因を明らかにするため、親と子どもとの関わりについて、「ほとんど毎日」群の回答を、「まったくない」群と比べたところ、「おうちの大人の人と学校でのできごとについて話す」(17.2%対10.8%)、「おうちの大人の人と文化活動をする」(20.6%対10.9%)が5ポイント以上高くなっている。これらの結果から、世代間のコミュニケーションが良好であり、文化活動など社会参加が促進されると、保護者の健康が向上することを示唆している。

※参照データについては一部資料編に掲載

3-4. 家庭生活、学習

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか（子ども票問8①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

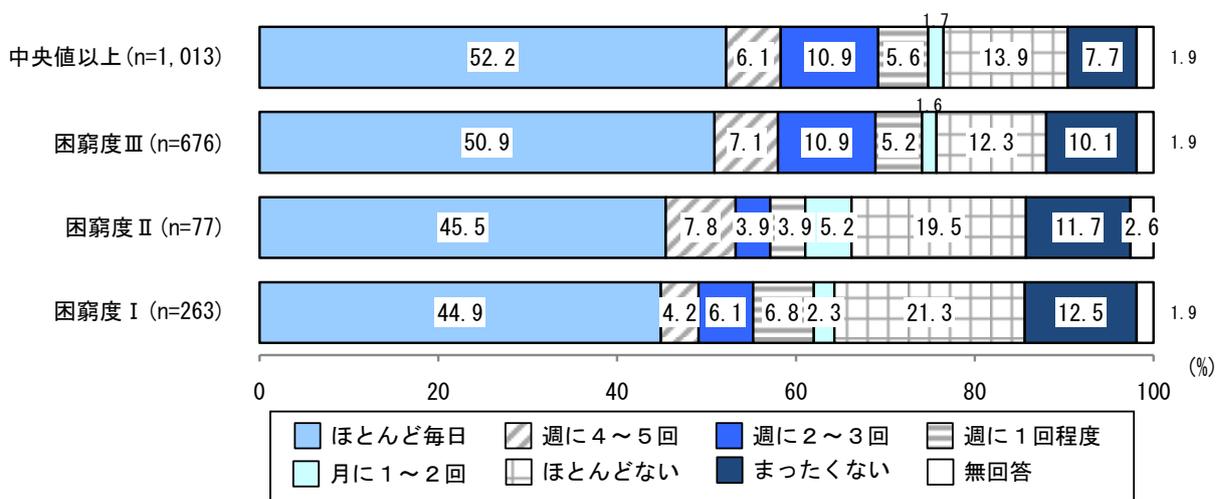
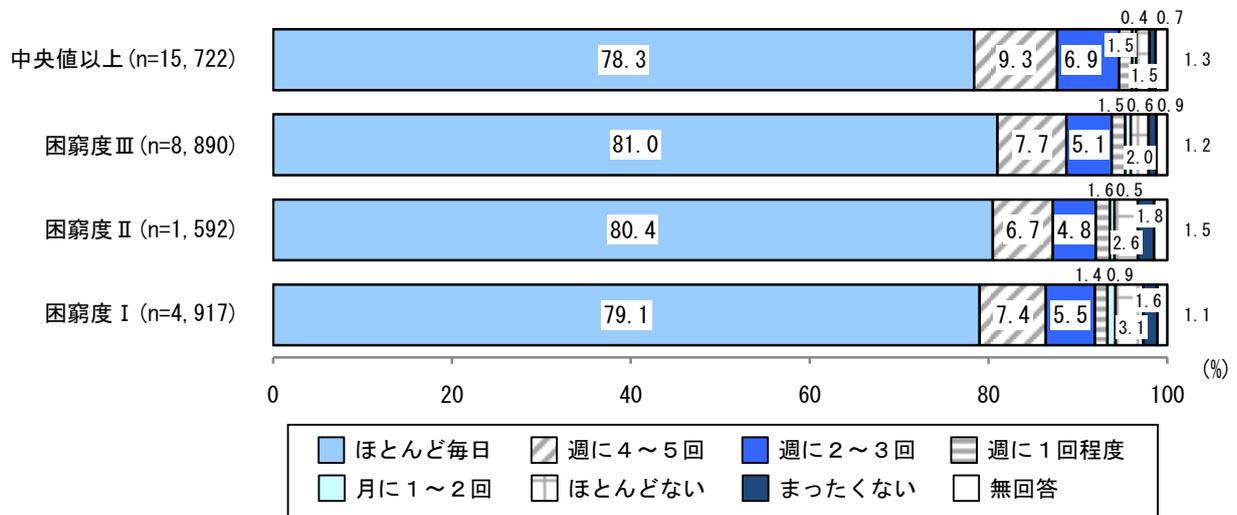


図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、困窮度が高まるにつれ「ほとんど毎日」の回答の割合が低くなっている。「ほとんど毎日」の割合は中央値以上群が52.2%と最も高くなっている。一方、「まったくない」の割合は困窮度Ⅰ群が12.5%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか（子ども票問8②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

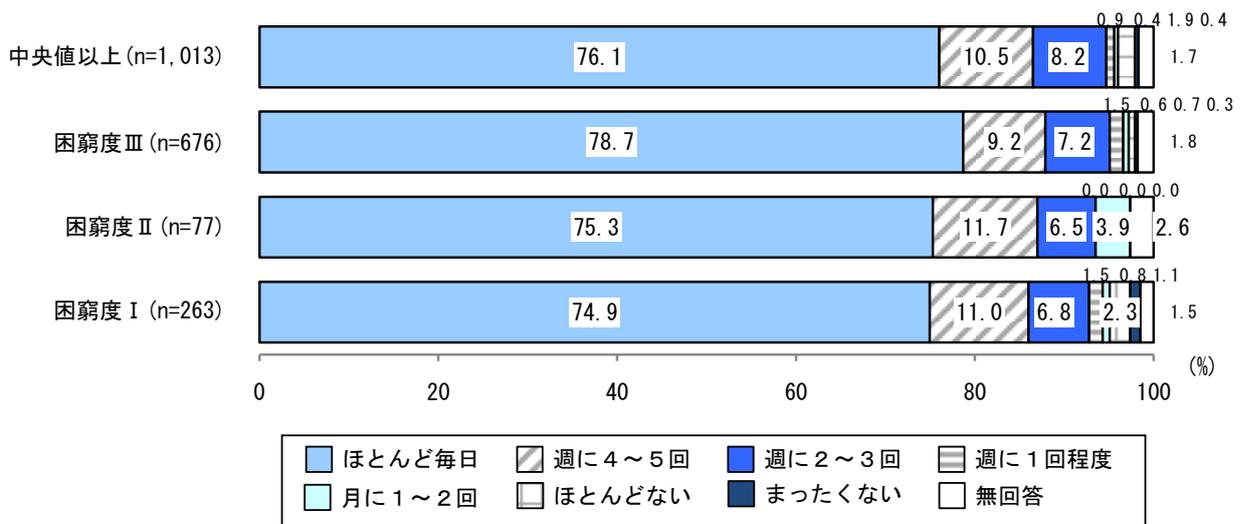
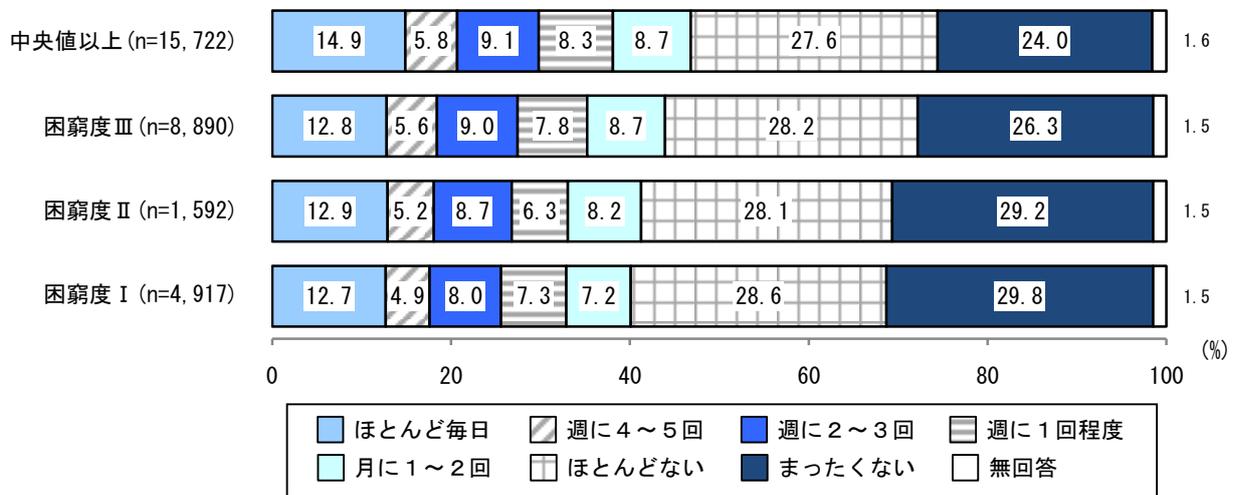


図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

困窮度別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、困窮度Ⅲ群において、「ほとんど毎日」の割合が78.7%と高くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>



<豊中市>

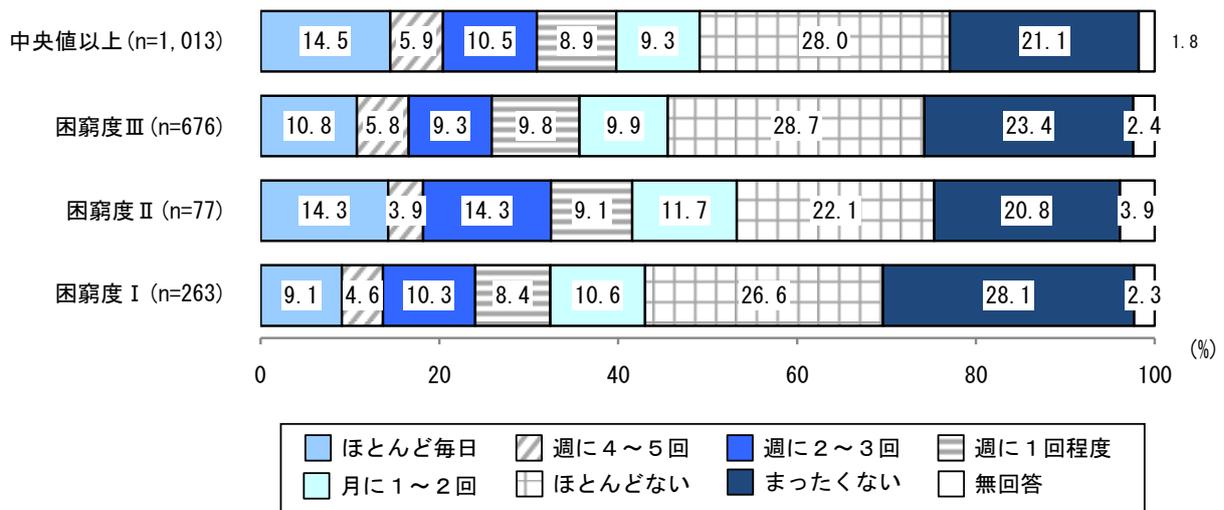
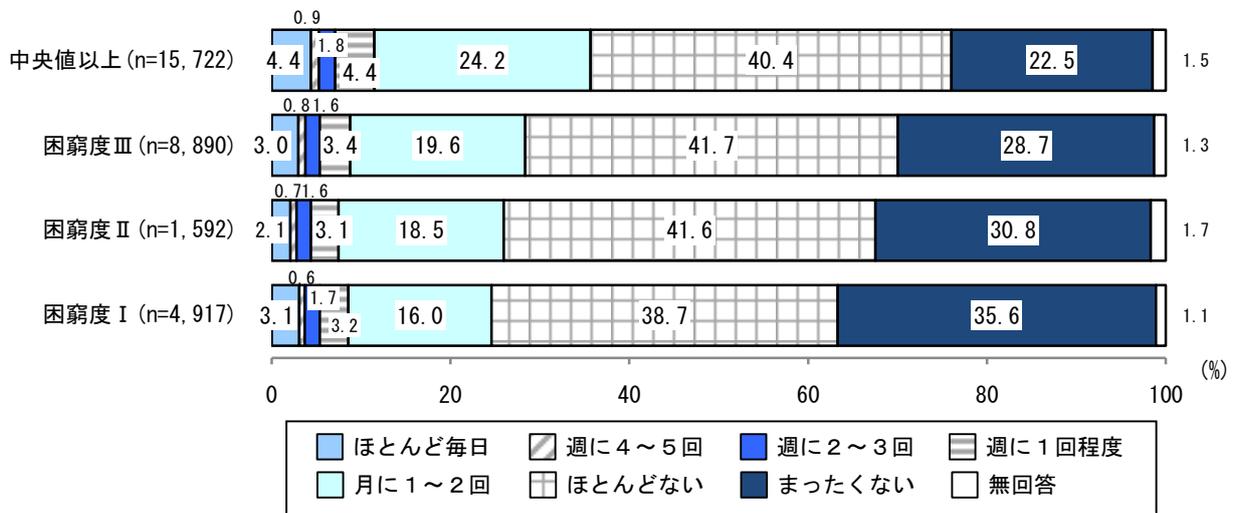


図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度Ⅱ群では、「まったくない」と回答した人は20.8%で最も低くなっている。また、困窮度Ⅰ群では「ほとんど毎日」と回答した人は9.1%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか（子ども票問8⑨）

<大阪府内全体>



<豊中市>

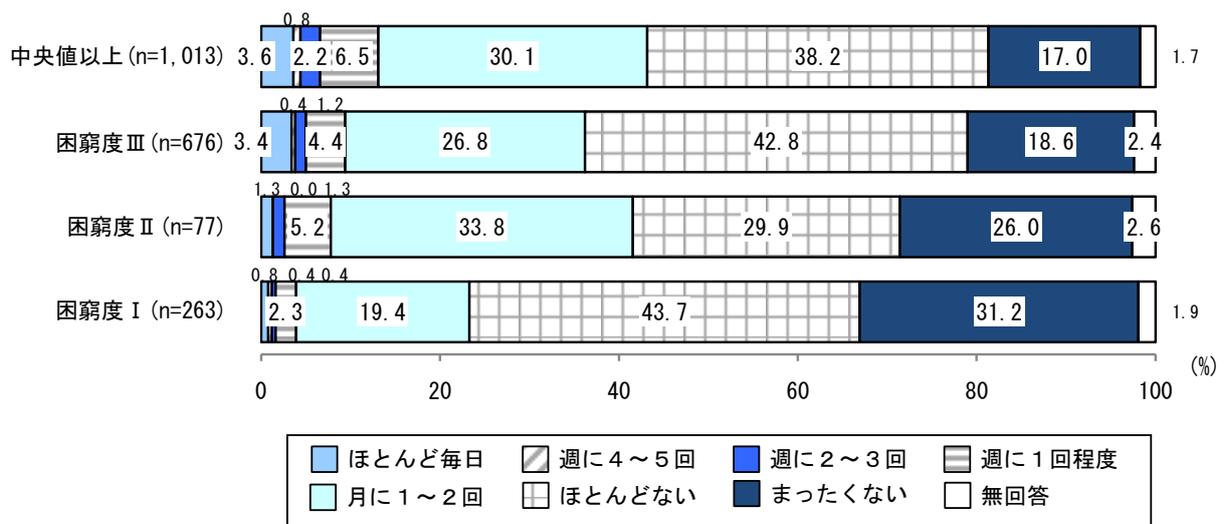
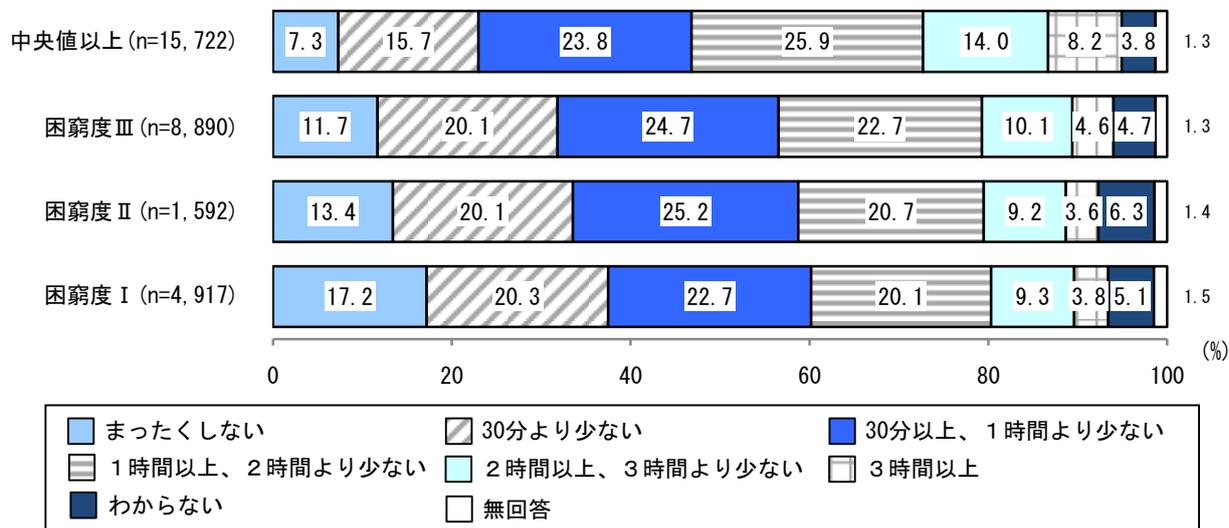


図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

困窮度別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高い。困窮度Ⅰ群では、「ほとんどない」と回答した人は43.7%、「まったくない」と回答した人は31.2%である。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

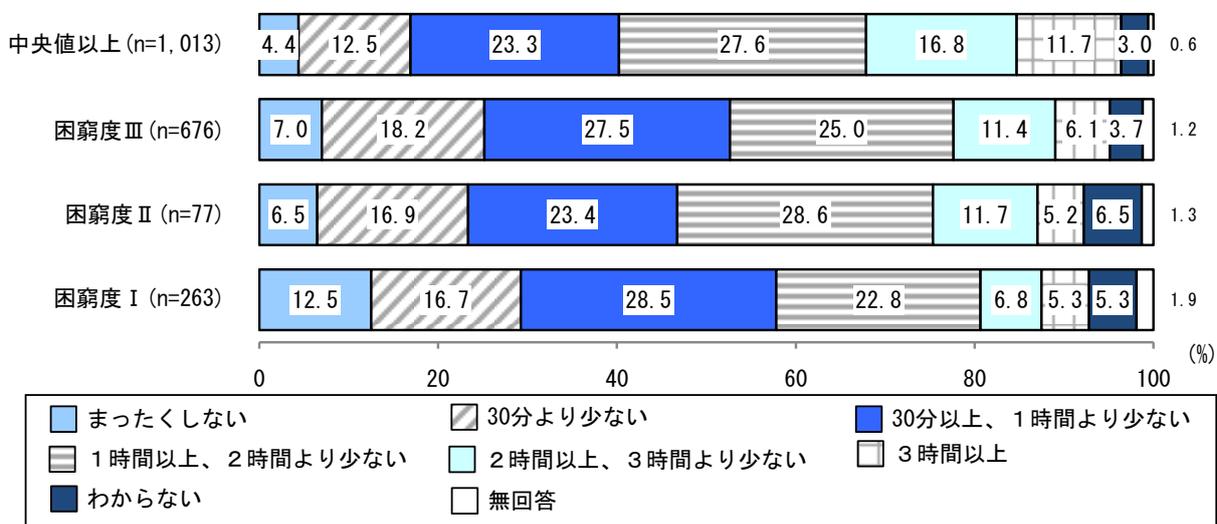
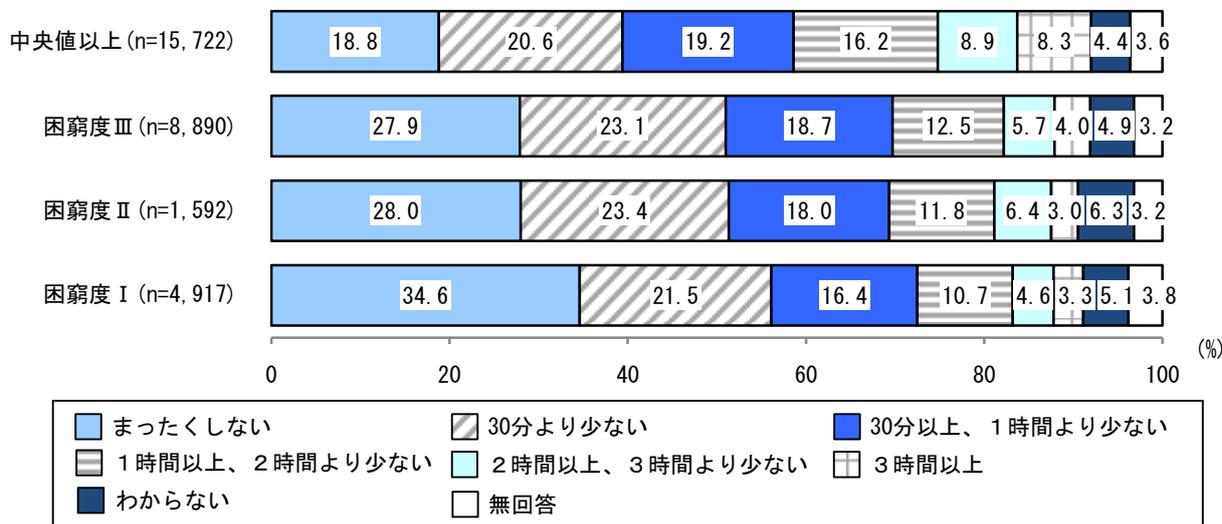


図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校のある日では、困窮度が高まるにつれ、「3時間以上」と回答した人の割合が低くなっている。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は12.5%、「30分より少ない」と回答した人は16.7%である。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）
（子ども票問 13②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

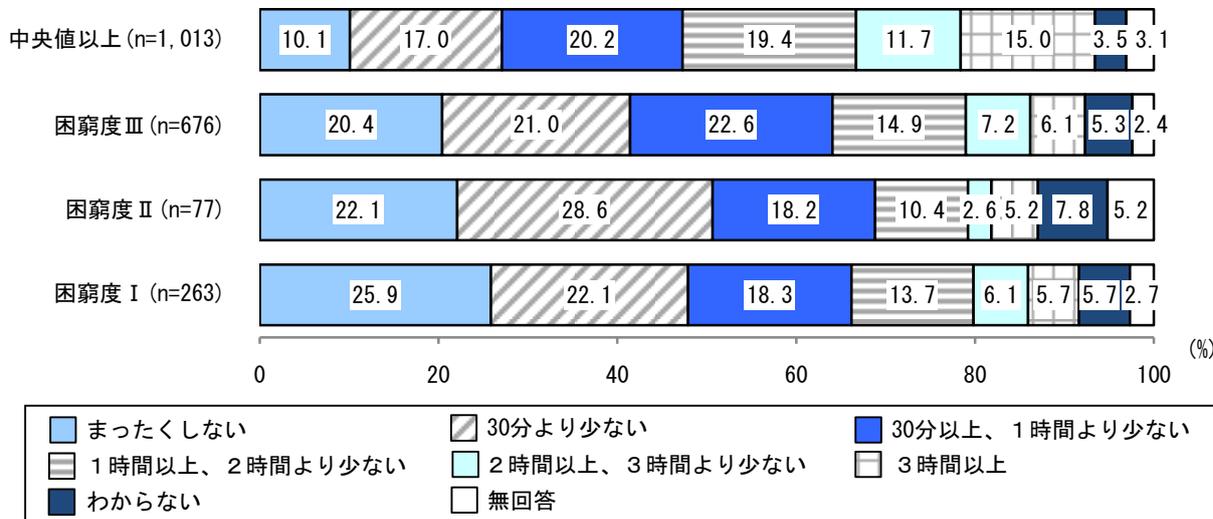
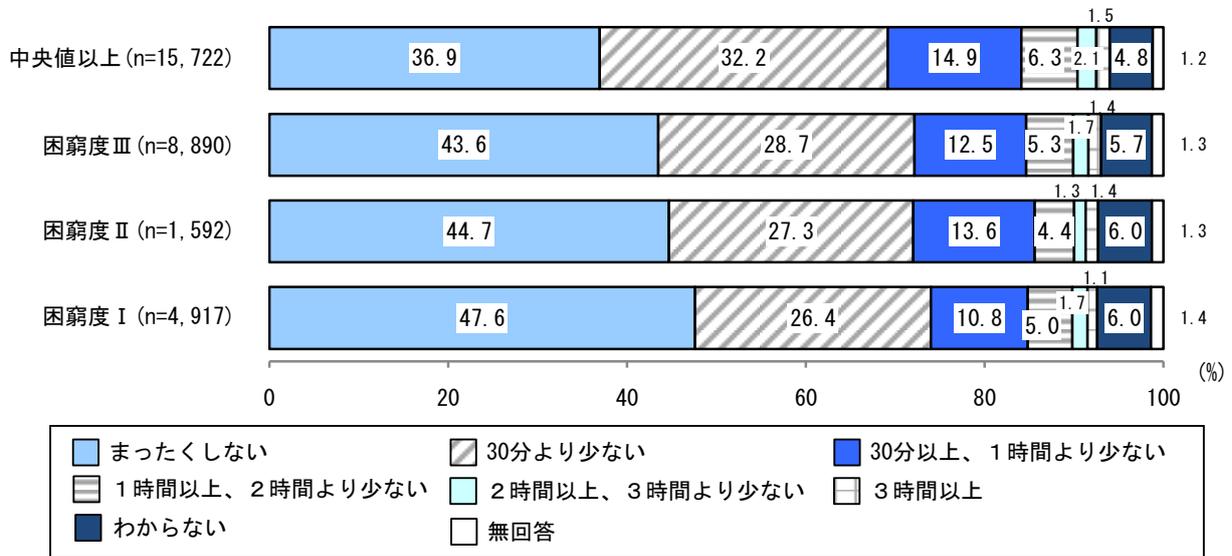


図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校がない日では、困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は25.9%と最も高くなっている。1時間以上と回答した人の割合は、いずれの時間帯も中央値以上で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問 15）

<大阪府内全体>



<豊中市>

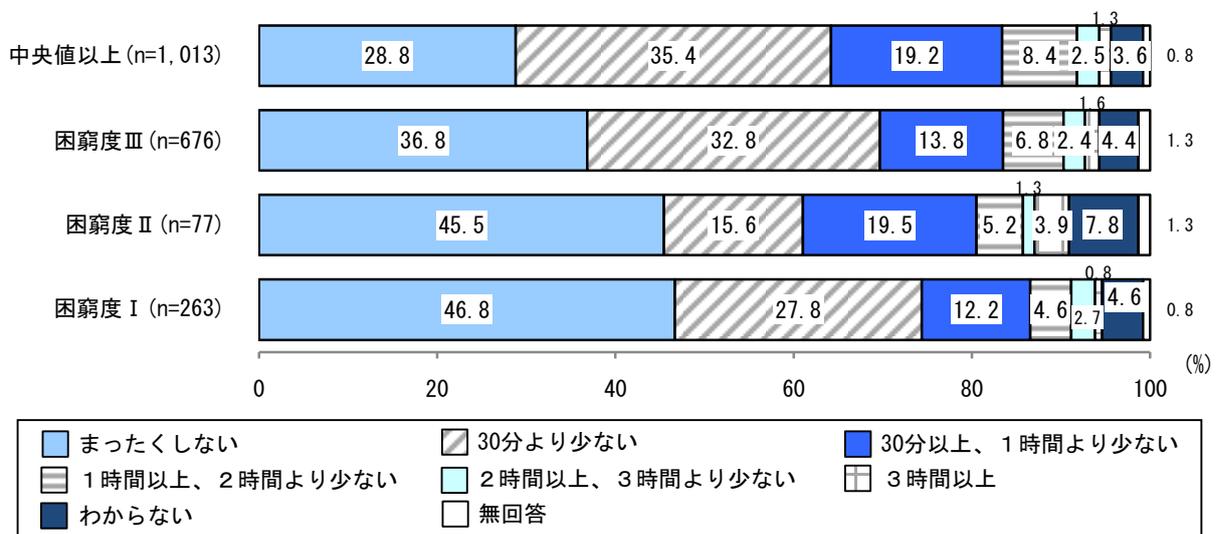
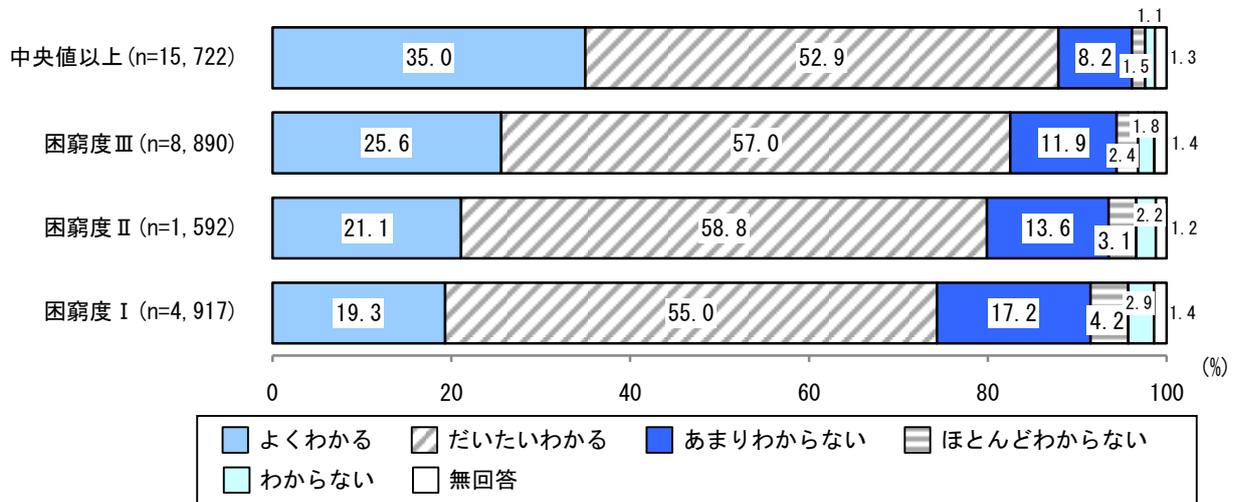


図 102. 困窮度別に見た、授業以外の読書時間

困窮度別に授業以外の読書時間を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくしない」と回答した人の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「まったくしない」と回答した人は46.8%、困窮度Ⅱ群では45.5%となっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

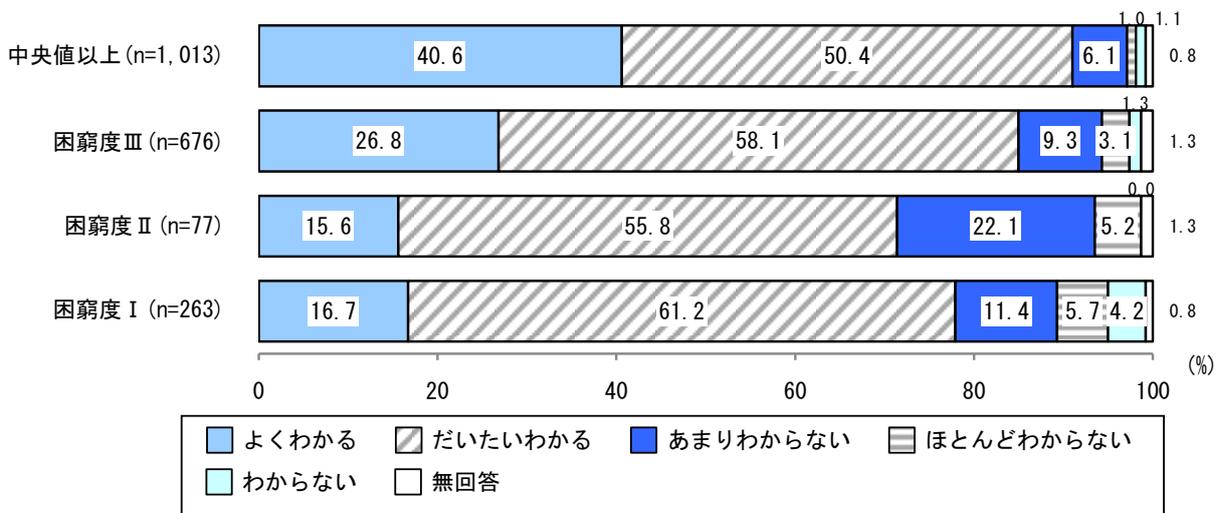


図 103. 困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、困窮度が高まるにつれ、「よくわかる」と回答した人の割合が低くなっている。困窮度Ⅰ群では、「ほとんどわからない」と回答した人は5.7%である。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ①学校がある日
(月～金曜日) (子ども票問 21×子ども票問 13①)

※勉強時間について、「1. まったくしない」「2. 30分より少ない」「3. 30分以上、1時間より少ない」「4. 1時間以上、2時間より少ない」「5. 2時間以上、3時間より少ない」「6. 3時間以上」の6つの時間枠からひとつを選択させた(「7. わからない」は除く)。項目番号を勉強時間の得点とみなし、得点が高いほど、勉強時間が長いことを表す。

<大阪府内全体>



<豊中市>



図 104. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がある日)

子ども部屋の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 ②学校がない日
(土・日曜日・祝日) (子ども票問 21×子ども票問 13②)

<大阪府内全体>



<豊中市>

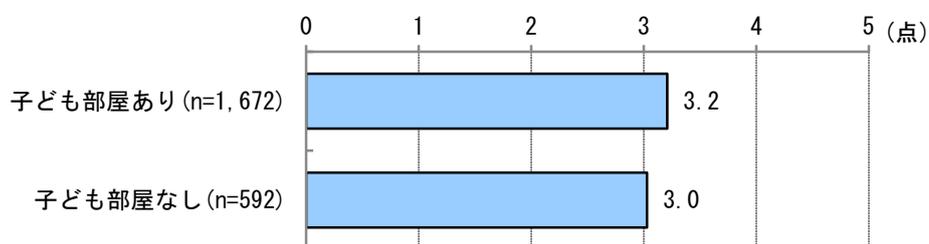
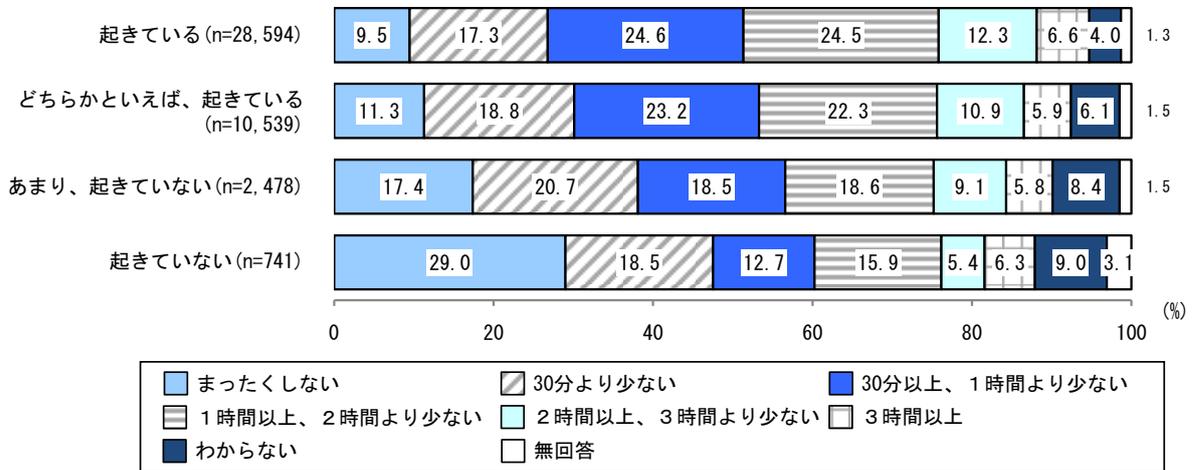


図 105. 子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値 (学校がない日)

子ども部屋の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、子ども部屋がある子どもの方が、勉強時間が長い。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問2×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

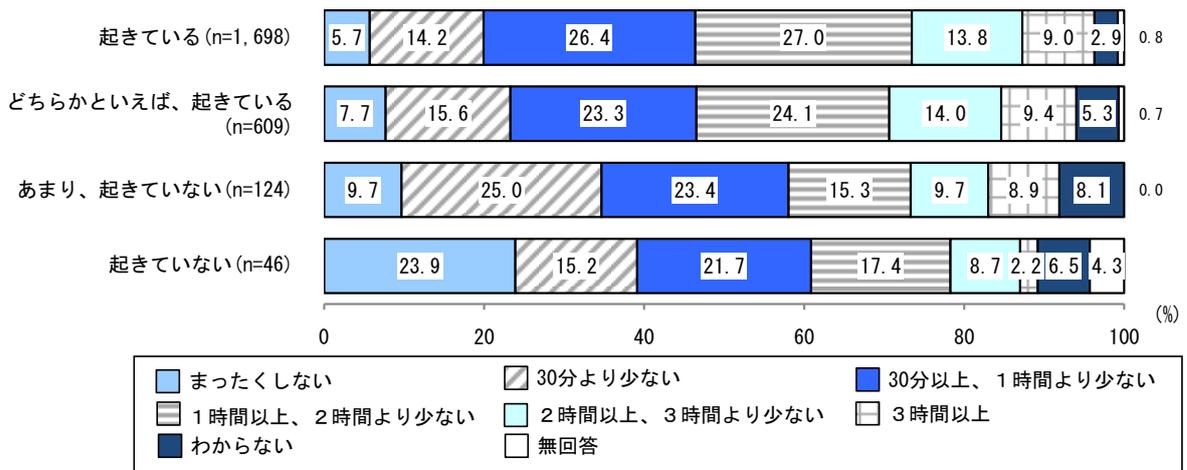
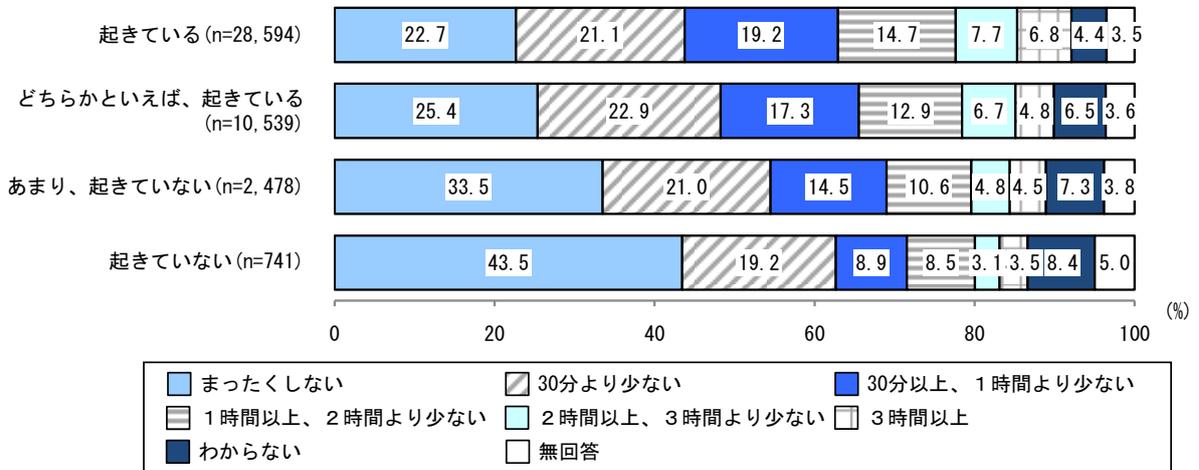


図 106. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

起床時間の規則性別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「30分以上、1時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「3時間以上」の割合は起きている人の割合が最も高くなっている。一方、「まったくしない」の割合は起きていない人が23.9%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日(土・日曜日・祝日) (子ども票問2×子ども票問13②)

<大阪府内全体>



<豊中市>

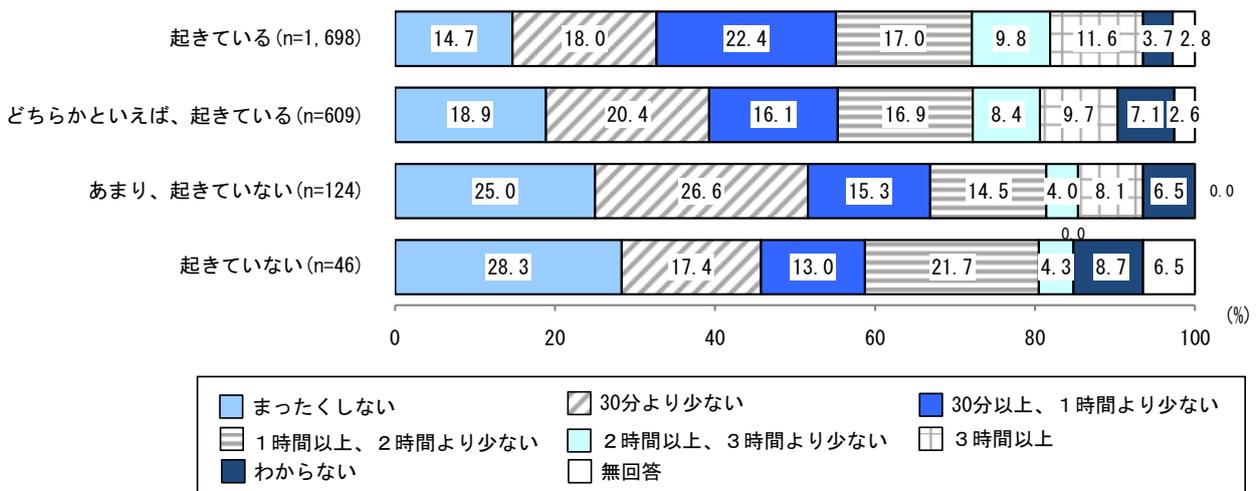
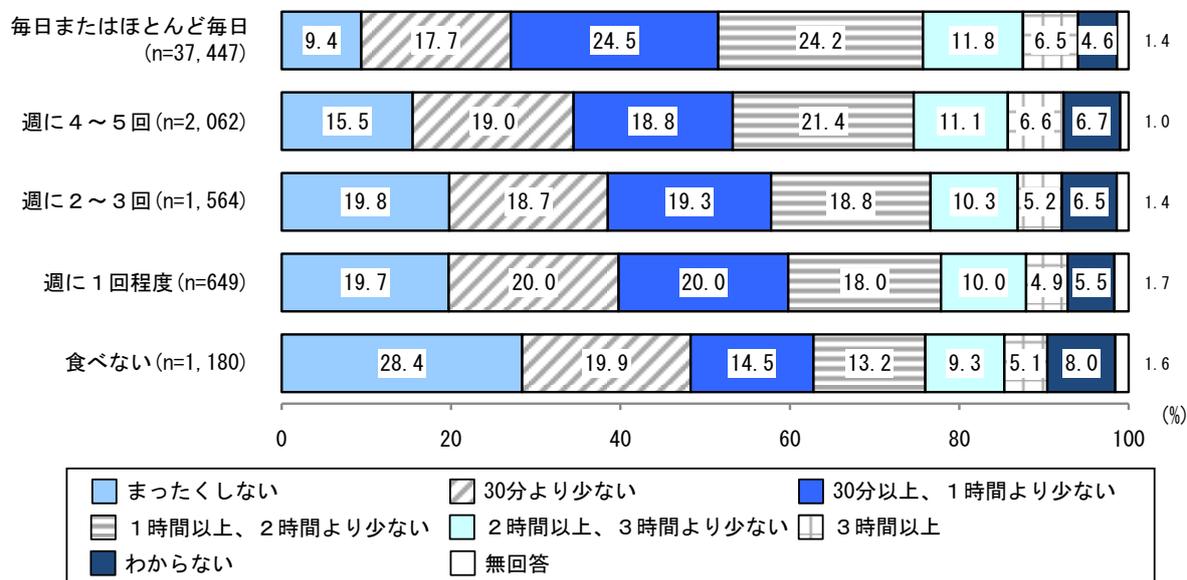


図 107. 起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間(学校がない日)

起床時間の規則性別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど「まったくしない」の回答の割合が高くなっている。「30分以上、1時間より少ない」、「2時間以上、3時間より少ない」、「3時間以上」の割合は起きている人の割合が最も高くなっている。一方、「まったくしない」の割合は起きていない人が28.3%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問4(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

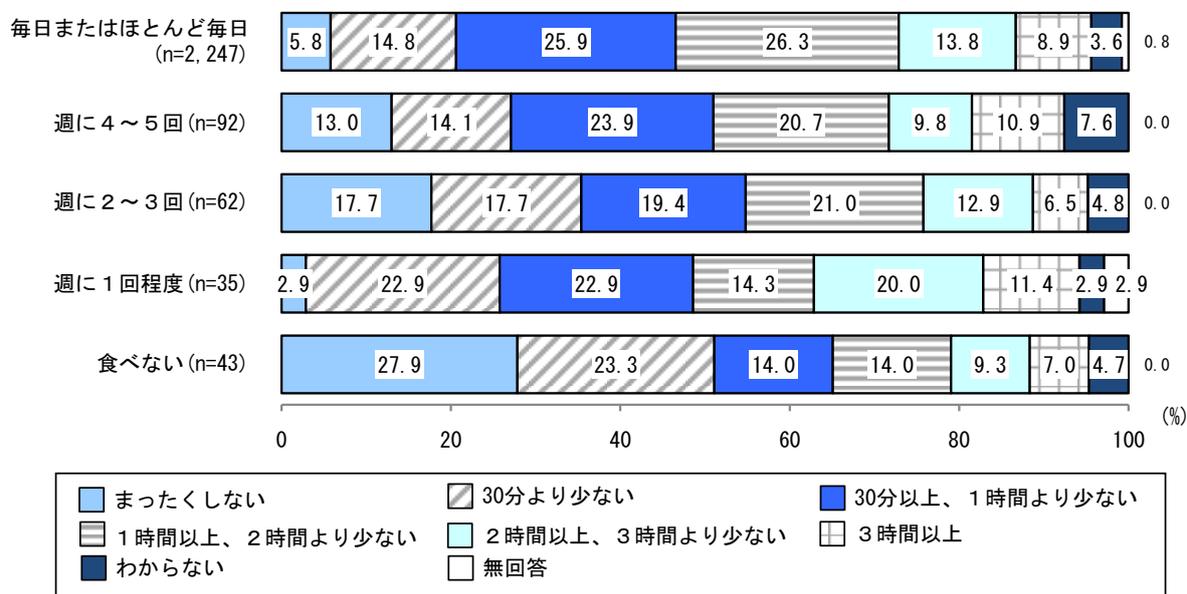
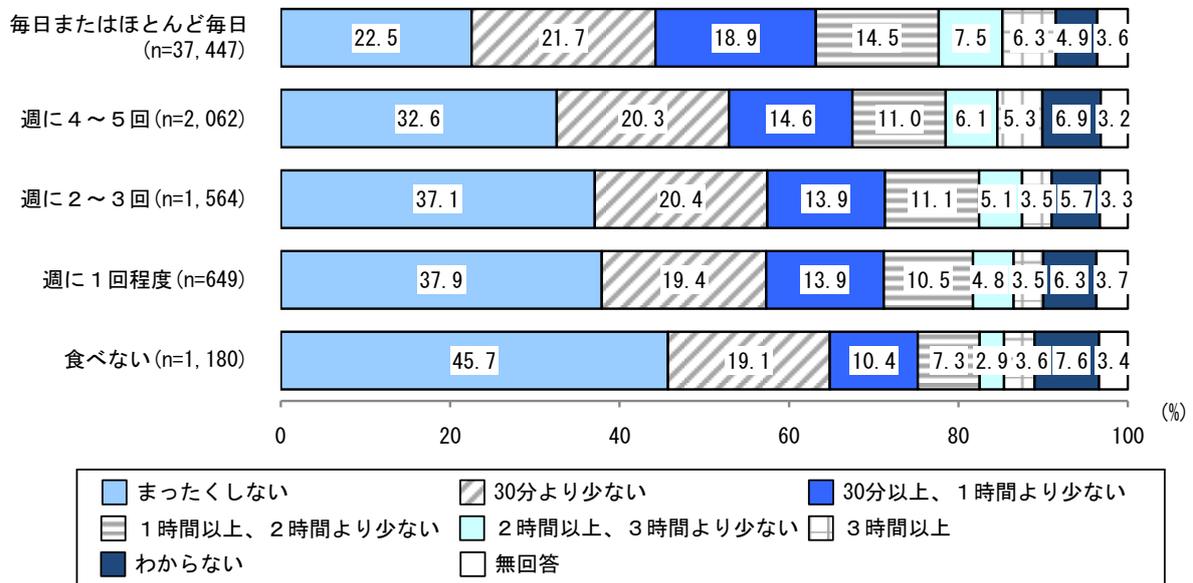


図 108. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

朝食の頻度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、食べない人が27.9%で最も高くなっている。

朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問4(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

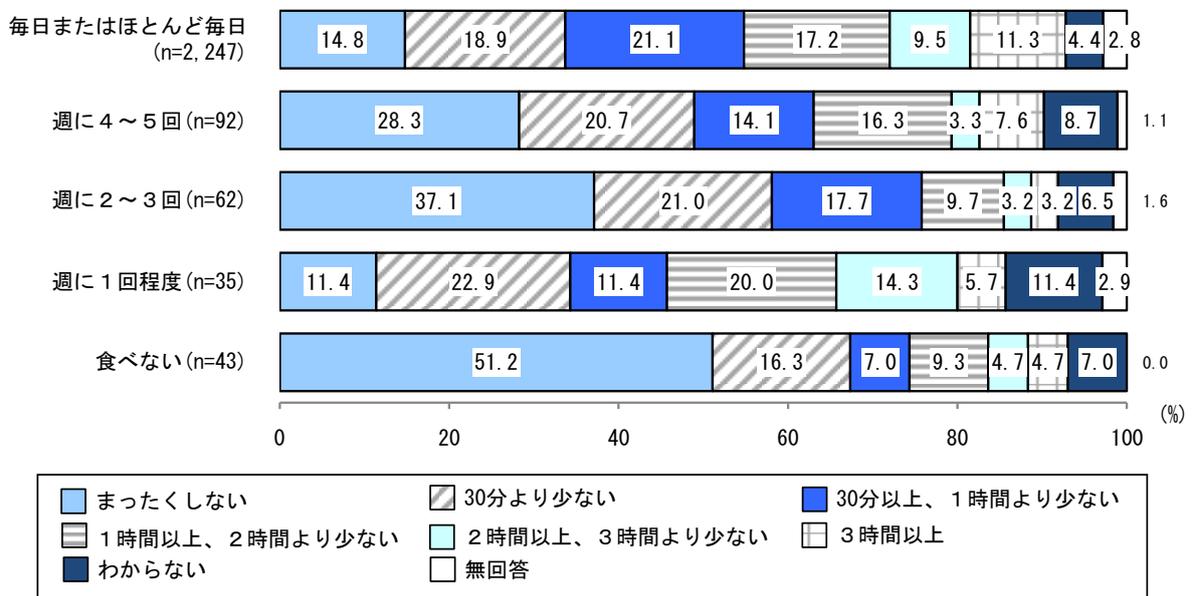
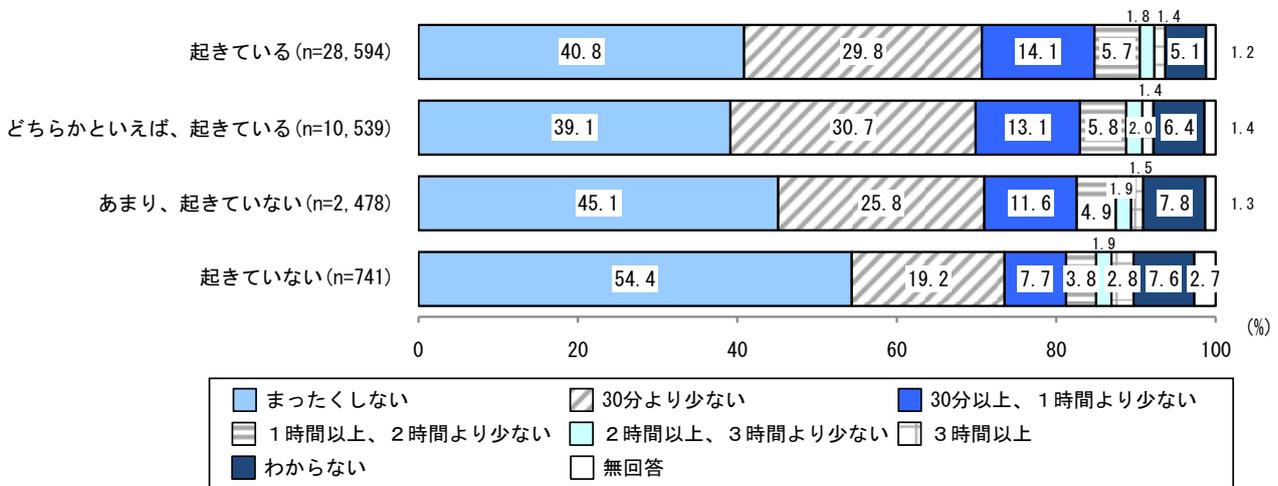


図 109. 朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

朝食の頻度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した割合は、食べない人が51.2%で最も高くなっている。

起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問2×子ども票問15）

<大阪府内全体>



<豊中市>

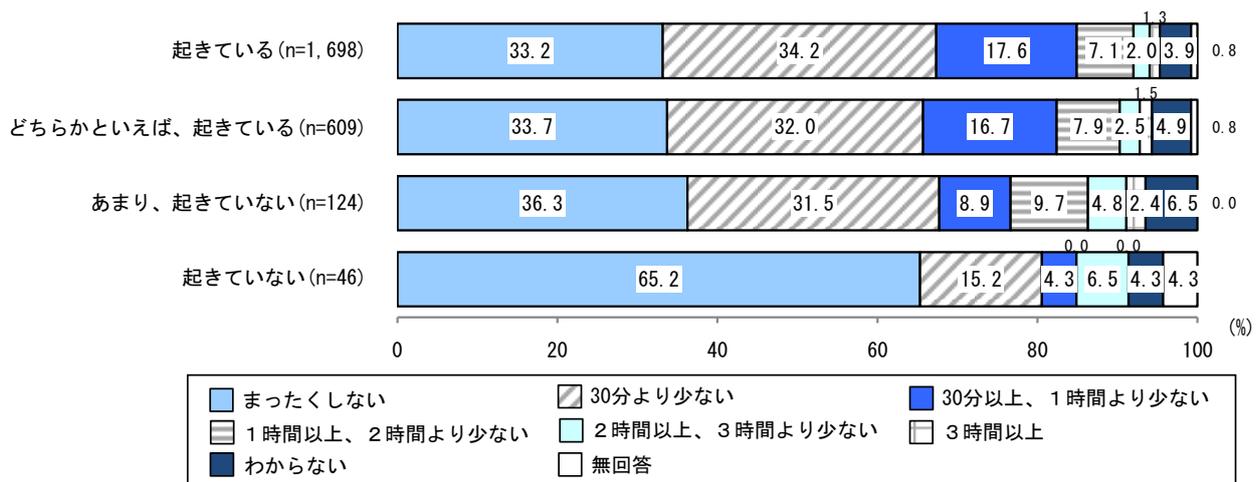
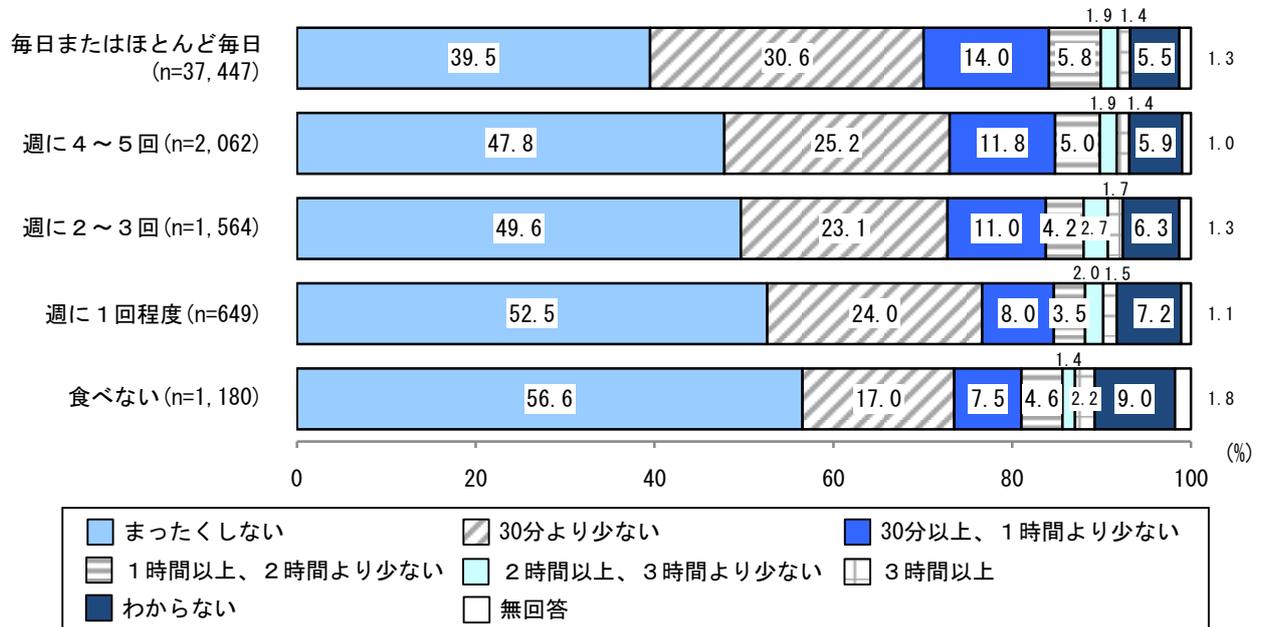


図 110. 起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間

起床時間の規則性別に授業以外の読書時間を見ると、ふだん同じ時刻に起きていない人ほど、「まったくしない」と回答した割合が高くなっている。起きていない人では、「まったくしない」と回答した人は65.2%となっている。

朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間（子ども票問4(1)×子ども票問15)

<大阪府内全体>



<豊中市>

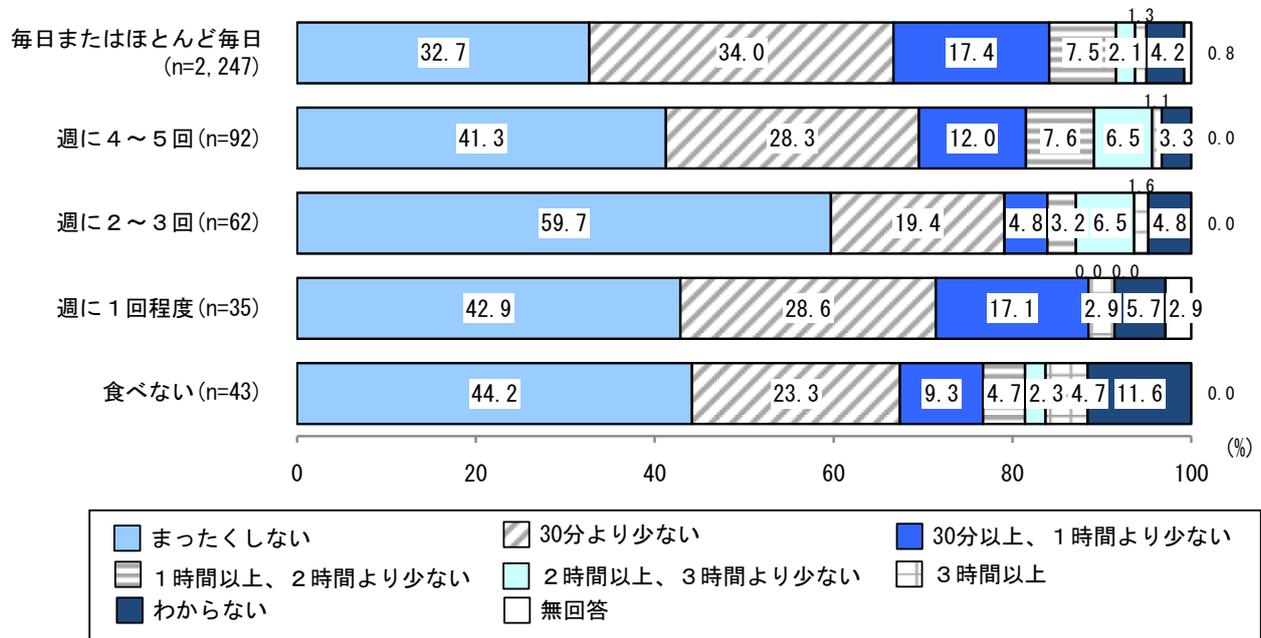
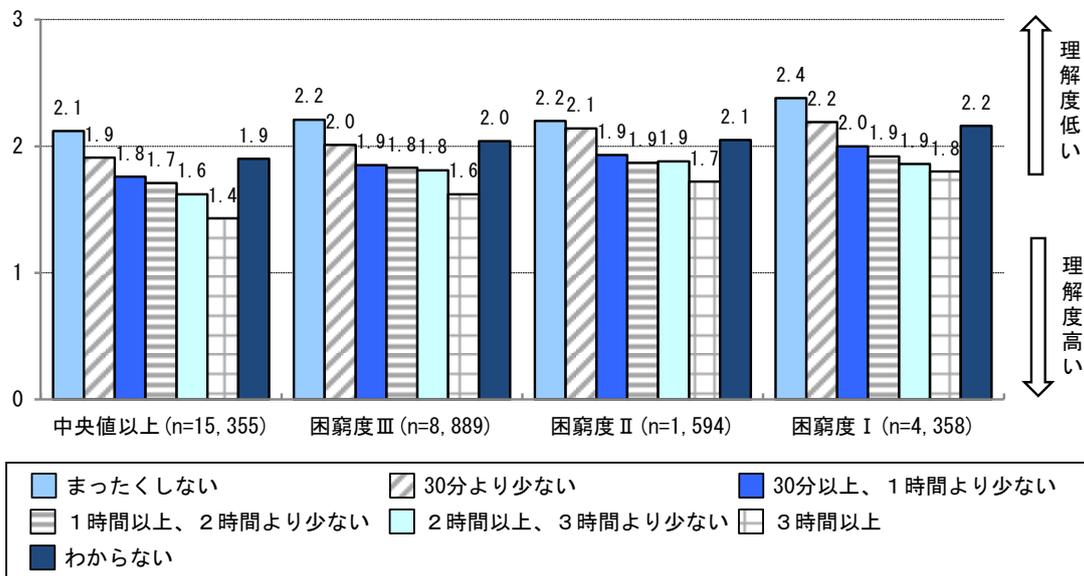


図 111. 朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間

朝食の頻度別に授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」と回答した人は週に2～3回の人では59.7%と最も高く、次いで食べない人が44.2%となっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

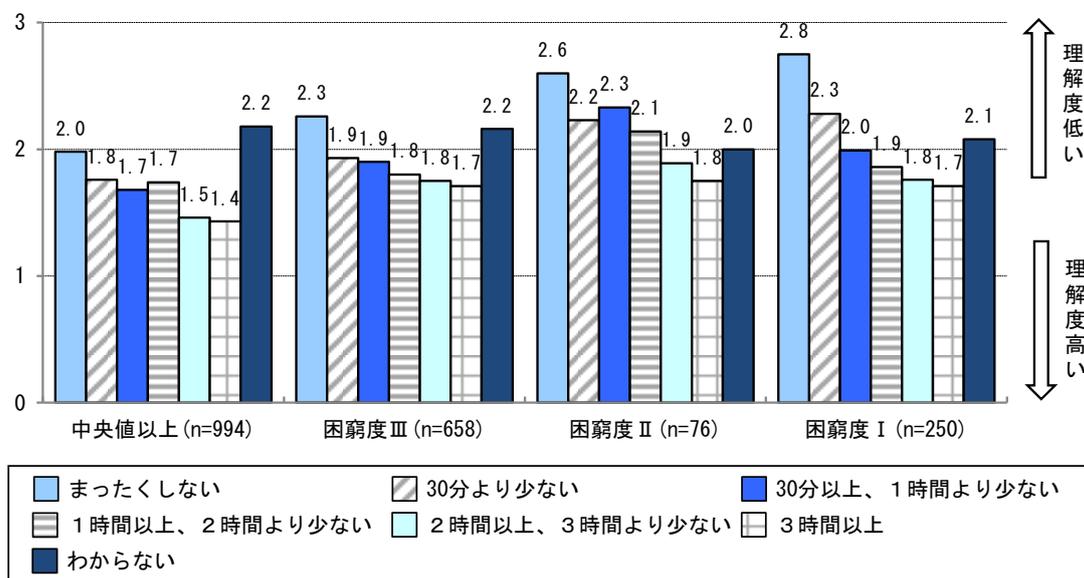
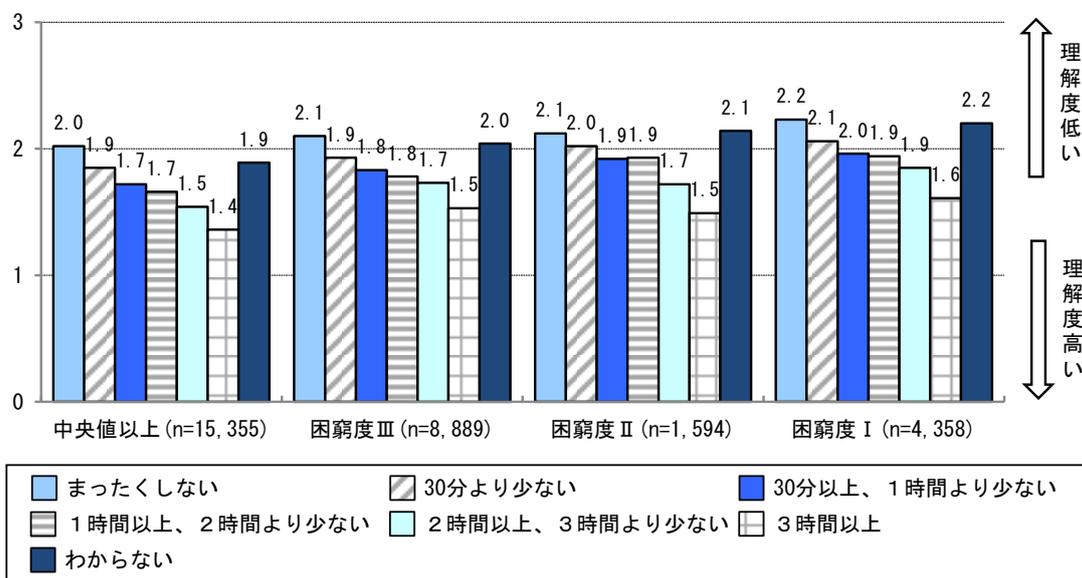


図 112. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅰ群の子どもは、勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連
（子ども票問14(1)×子ども票問13②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

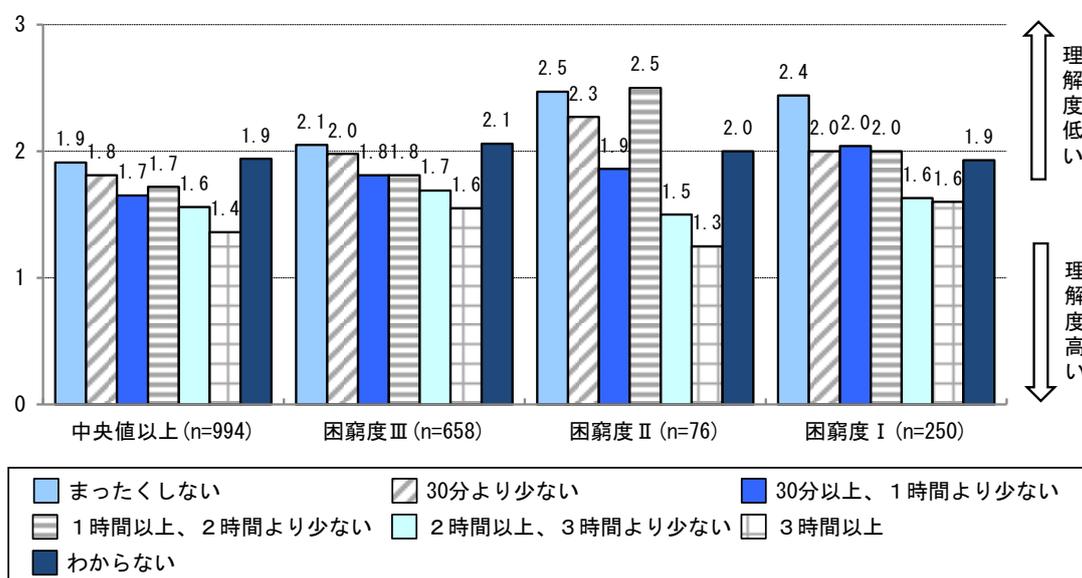
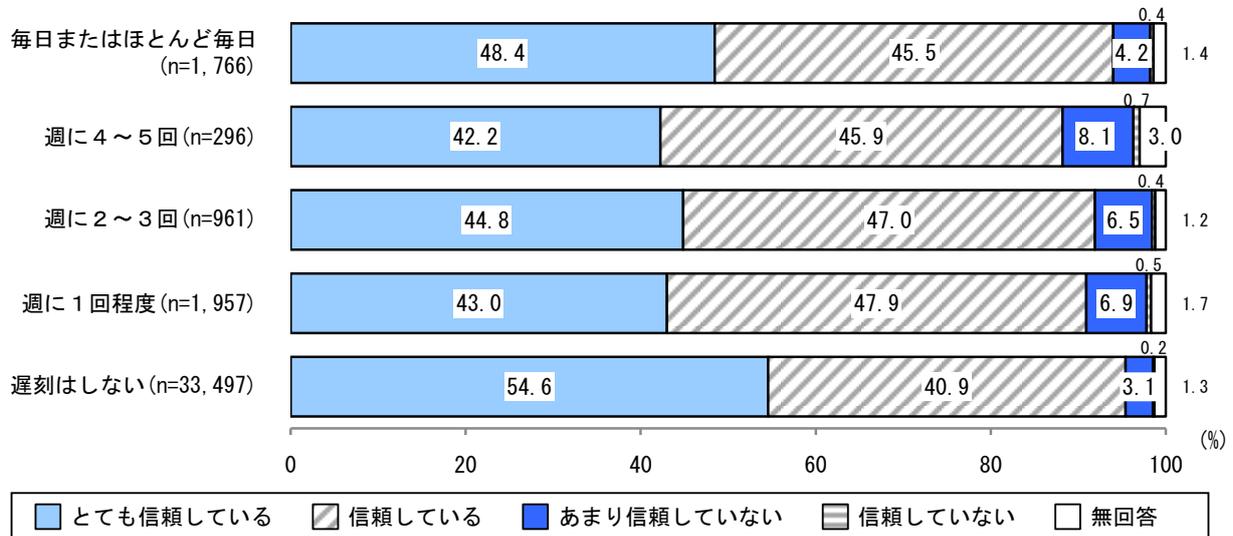


図 113. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）と学習理解度の関連

困窮度別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間と学習理解度の関連を見ると、中央値以上群、困窮度Ⅲ群、困窮度Ⅰ群の子どもは、勉強時間が長くなるほど、学習理解度が高まっている。

学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度（子ども票問7×保護者票問13(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

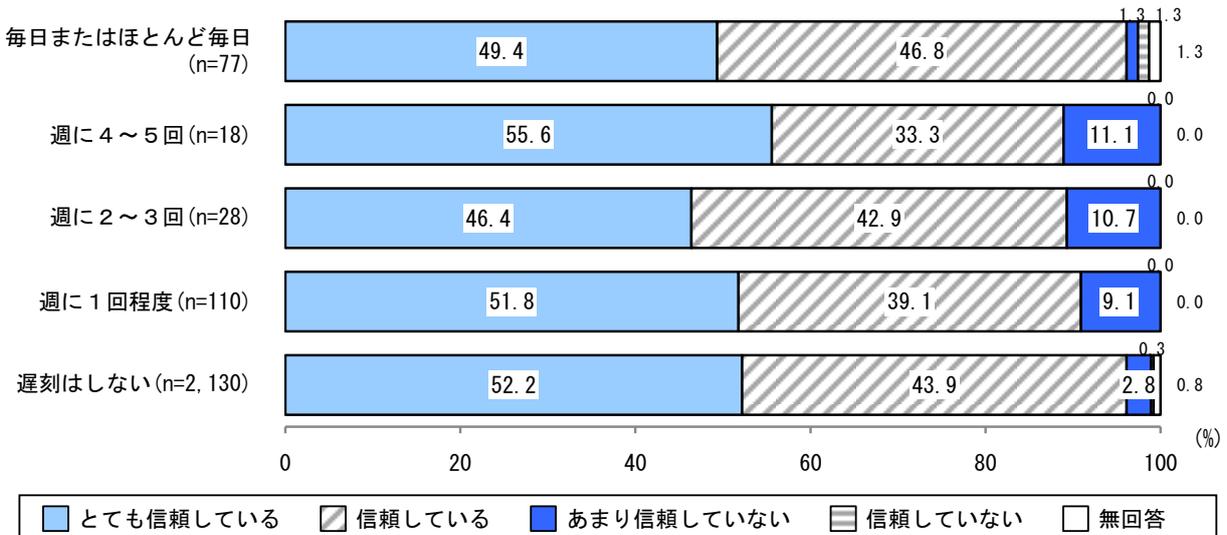
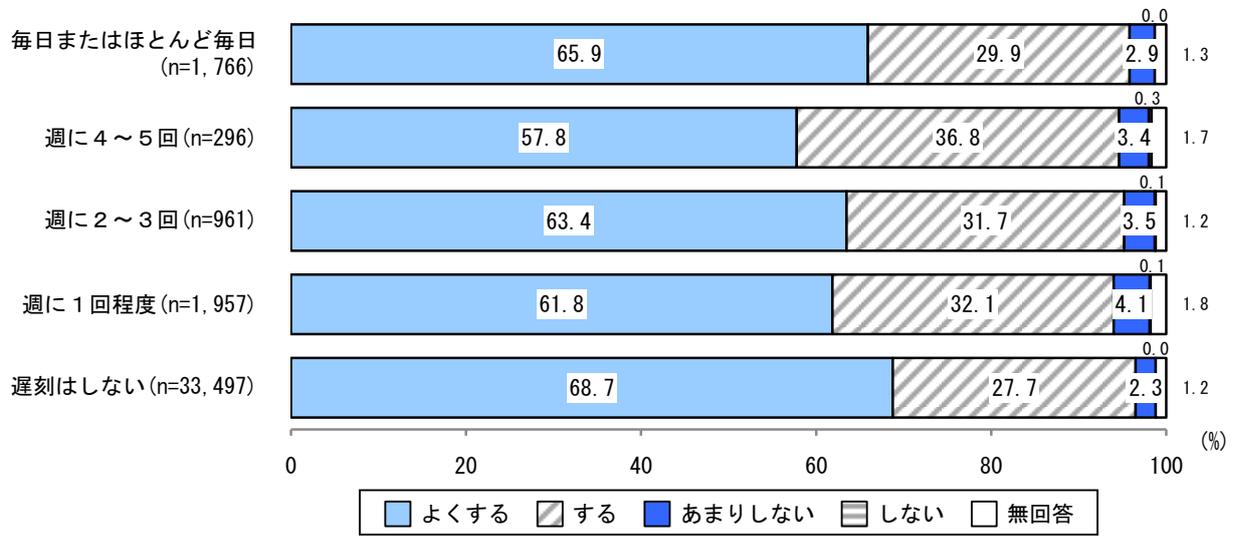


図 114. 学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度

学校への遅刻別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」割合が最も高いのは、「週に4~5回」の子どもで55.6%、次いで「遅刻はしない」子どもで52.2%である。また、「あまり信頼していない」割合が最も高いのは、「週に4~5回」の子どもで11.1%、次いで「週に2~3回」の子どもで10.7%である。

学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度（子ども票問7×保護者票問13(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

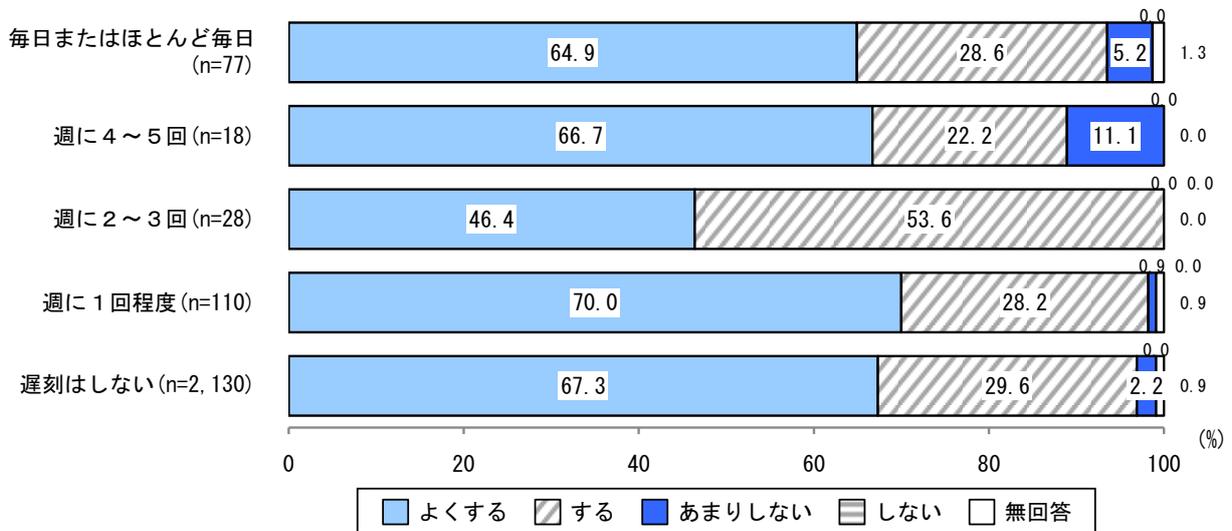
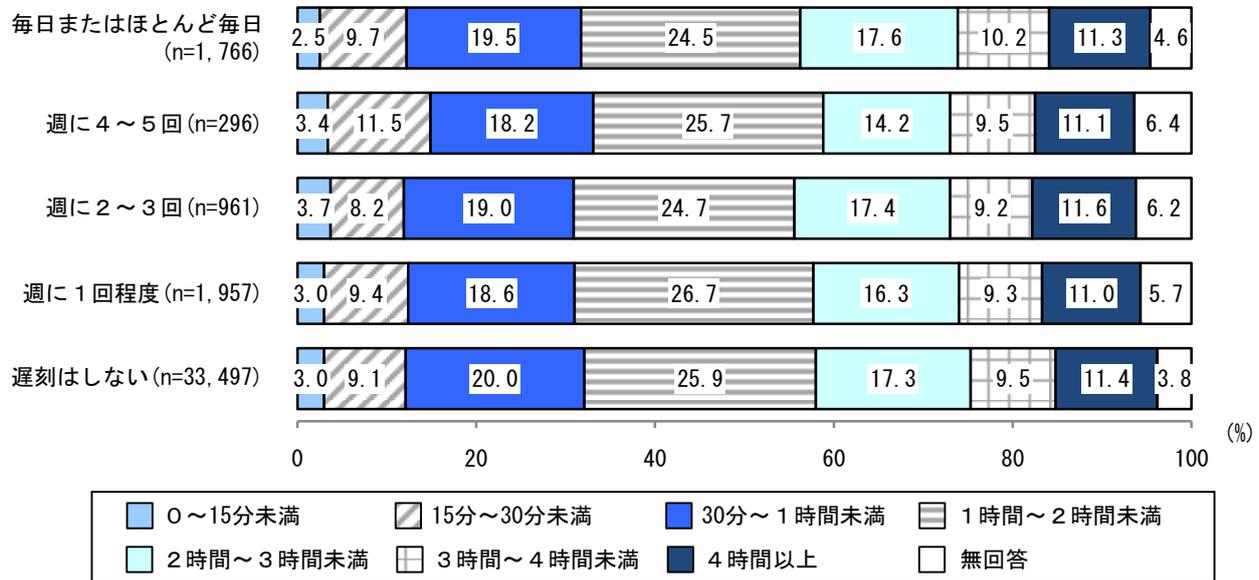


図 115. 学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度

学校への遅刻別に子どもとの会話頻度を見ると、「週に1回程度」の子どもにおいては、会話を「よくする」割合が最も高く、70.0%である。次いで「遅刻はしない」の子どもが67.3%である。

学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

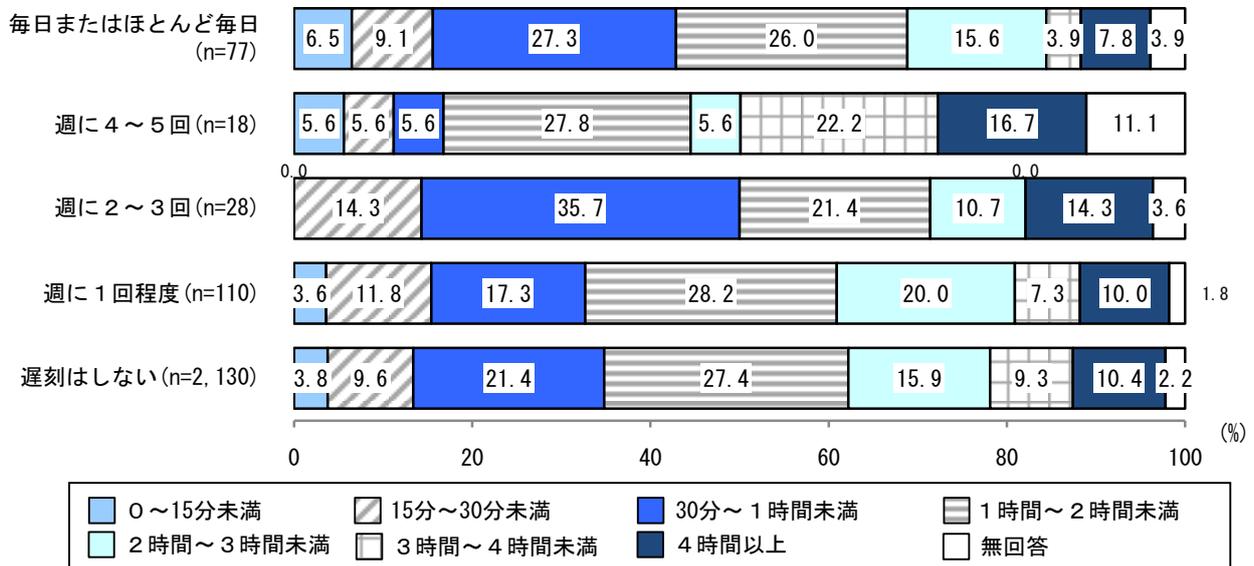
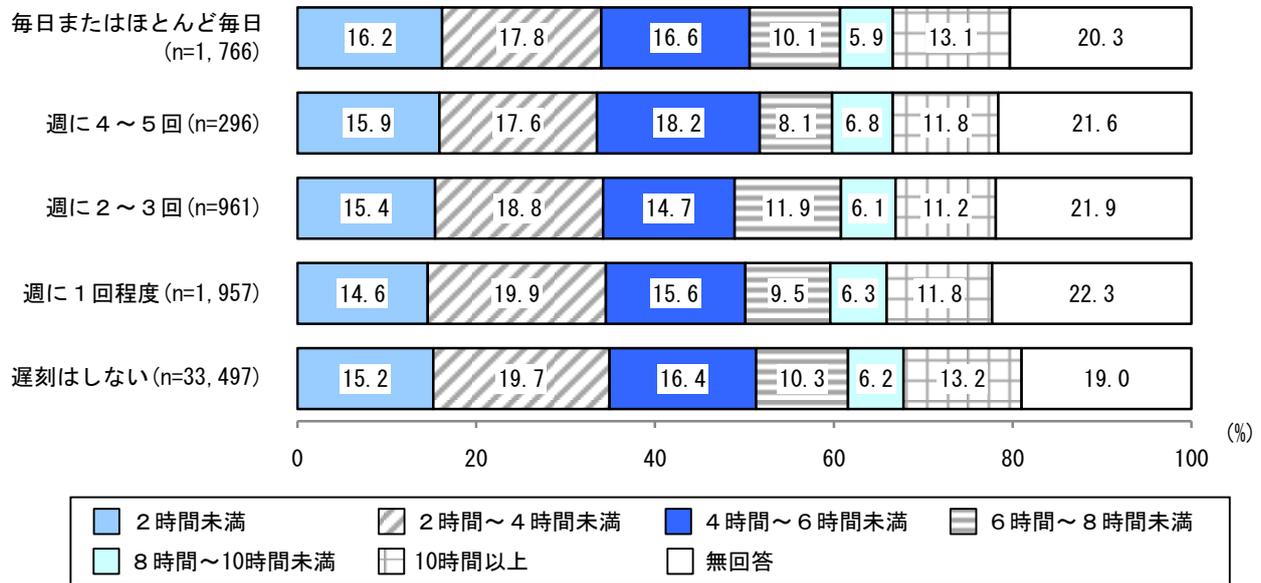


図 116. 学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「毎日またはほとんど毎日」の子どもにおいては、「0～15分未満」（6.5%）の割合が最も高くなっている。「週に4～5回」の子どもにおいては、「1時間～2時間未満」（27.8%）、「3時間～4時間未満」（22.2%）の割合、「4時間以上」（16.7%）の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間（子ども票問7×保護者票問13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

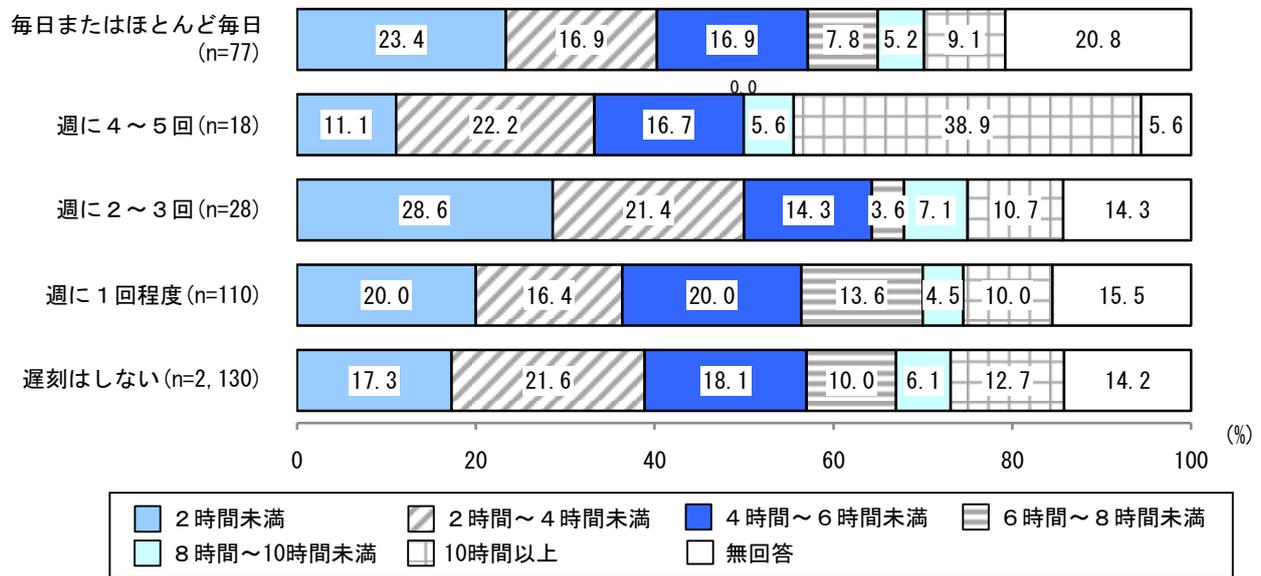
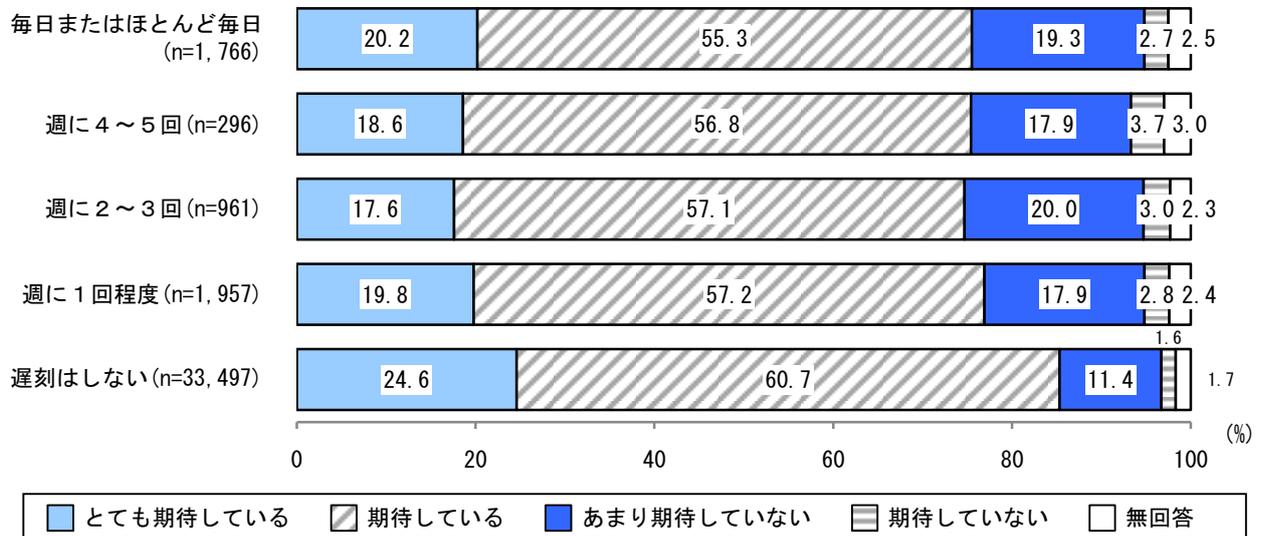


図 117. 学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間

学校への遅刻別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「週に4~5回」の子どもにおいては、「2時間~4時間未満」(22.2%)、「10時間以上」(38.9%)の割合が最も高くなっている。「週に2~3回」の子どもにおいては、「2時間未満」(28.6%)の割合が最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度（子ども票問7×保護者票問13(4)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

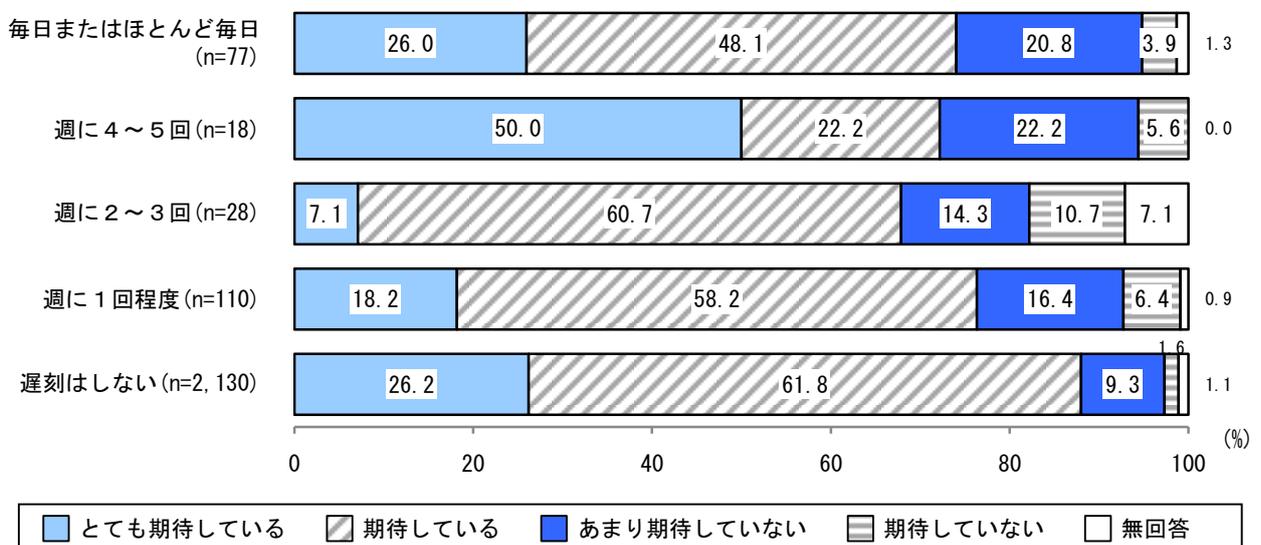
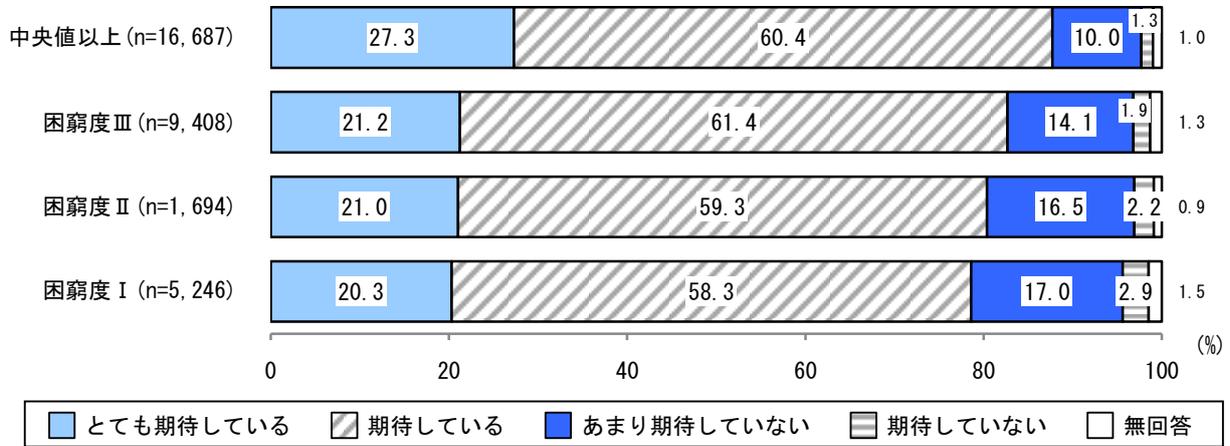


図 118. 学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度

学校への遅刻別に子どもの将来への期待度を見ると、「週に4～5回」の子どもにおいては、「とても期待している」の割合が50.0%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの将来への期待度（保護者票問 13(4)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

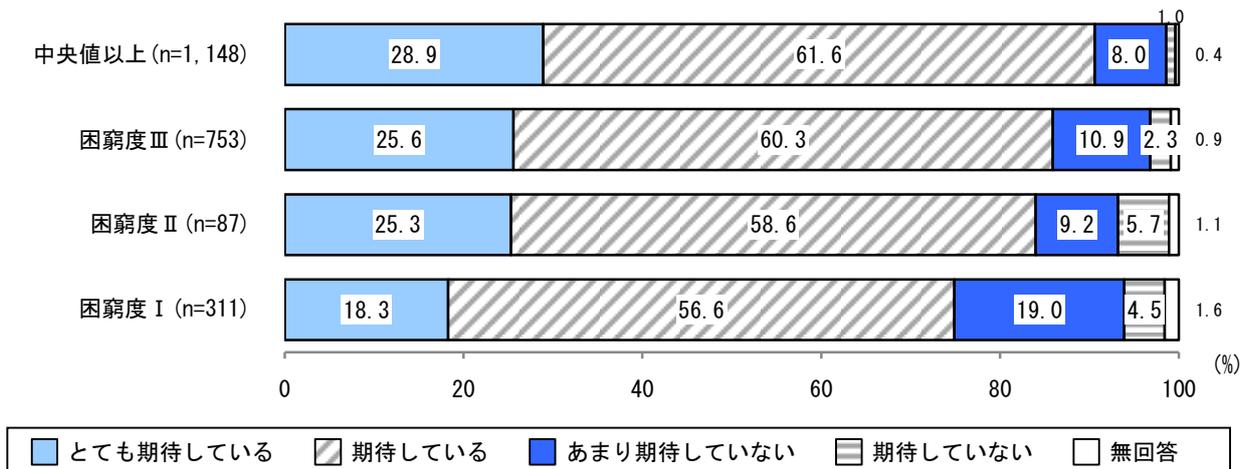
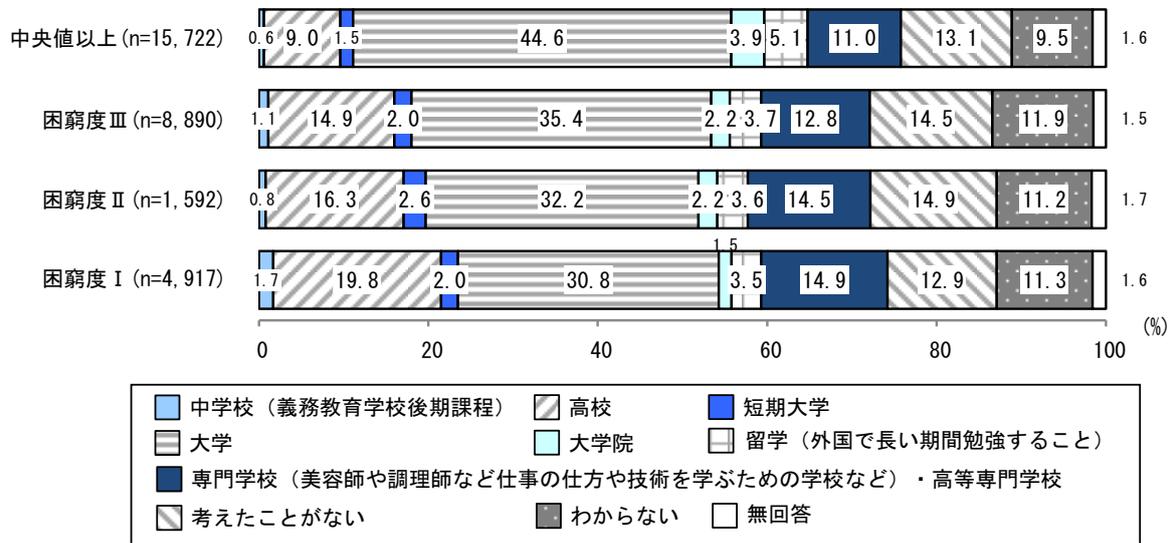


図 119. 困窮度別に見た、子どもの将来への期待度

困窮度別に子どもの将来への期待度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「とても期待している」と「期待している」の割合が低くなっている。「とても期待している」の割合は困窮度Ⅰ群が18.3%で最も低くなっている。

困窮度別に見た、希望する進学先（子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<豊中市>

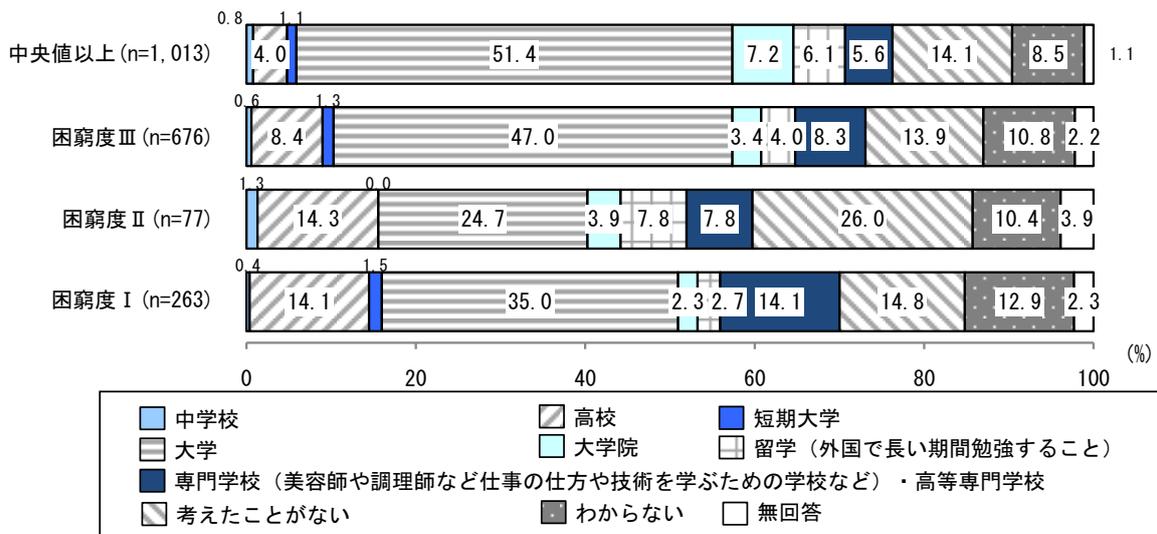
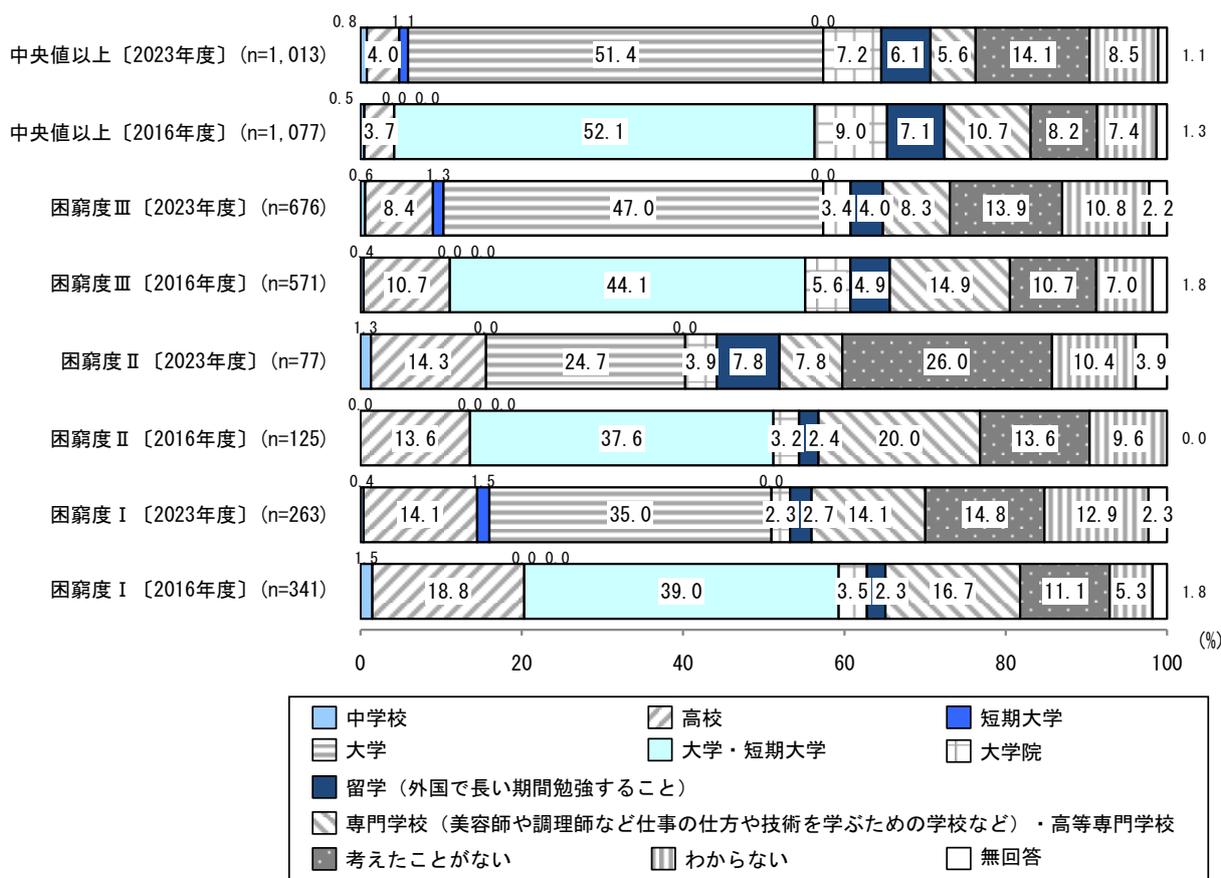


図 120. 困窮度別に見た、希望する進学先

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度Ⅱ群では、「中学校」「高校」と回答した子どもは合計15.6%と最も高くなっている。中央値以上群において「大学」と回答した割合は最も高く、51.4%である。

<2016 年度調査との比較／豊中市>



※1 「短期大学」「大学」は、2016 年度調査では「大学・短期大学」

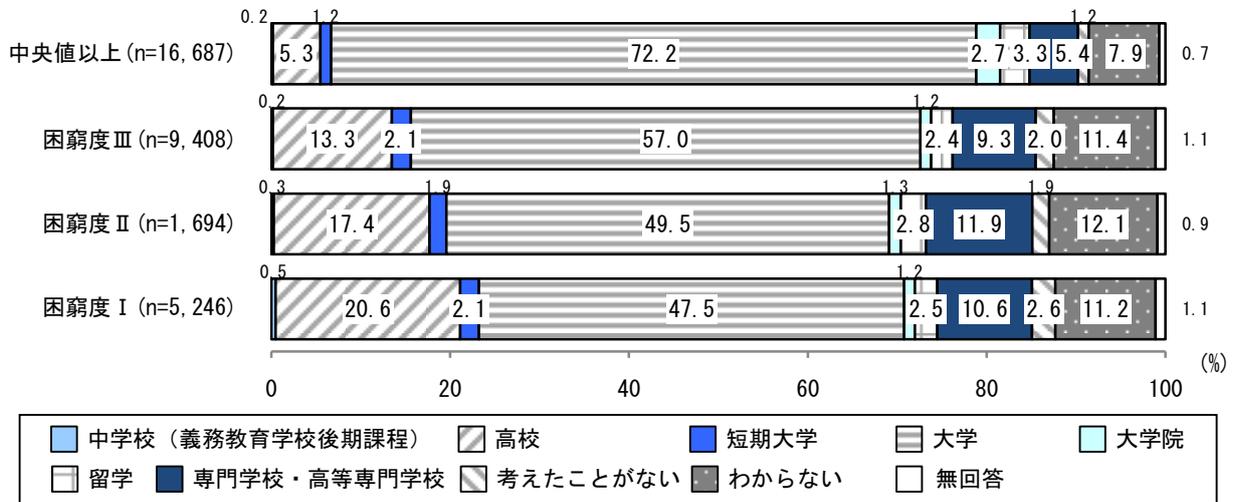
※2 「専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など)・高等専門学校」は、2016 年度調査では「専門学校」

図 121. 困窮度別に見た、希望する進学先 (2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、「専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など)・高等専門学校」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて低くなっている。一方で、「考えたことがない」と回答した割合は、2016年度調査に比べて高くなっている。

困窮度別に見た、子どもに希望する進学（保護者票問 14）

<大阪府内全体>



<豊中市>

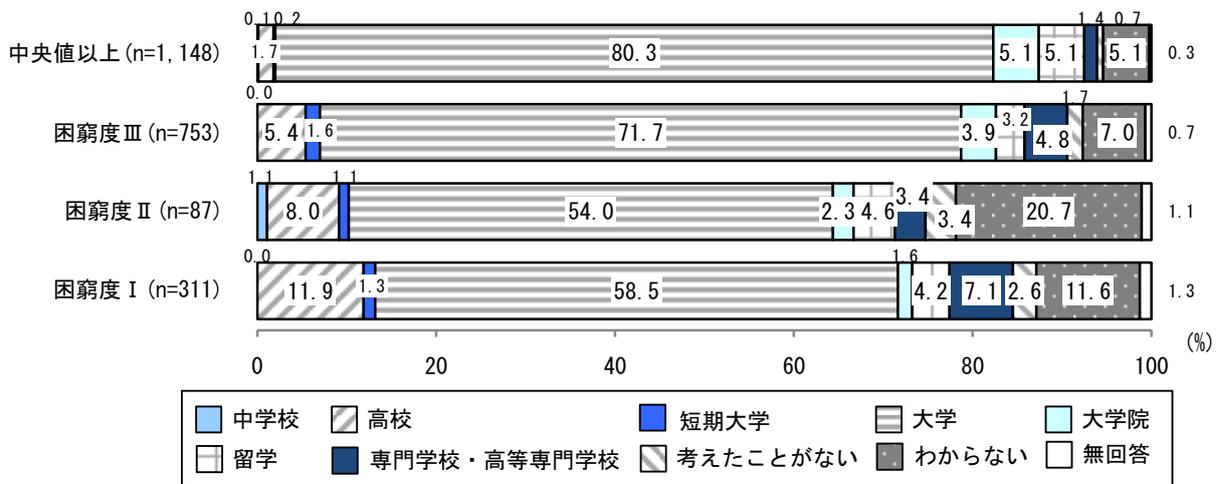
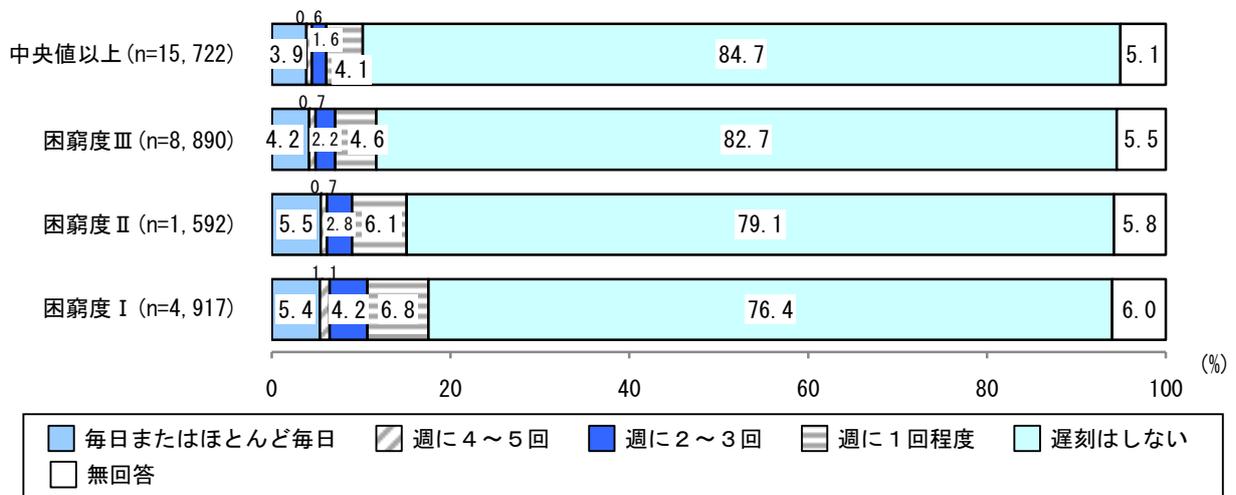


図 122. 困窮度別に見た、子どもに希望する進学

困窮度別に子どもの希望する進学先を見ると、困窮度が高まるにつれ、高校卒業までの割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群では、「高校」と回答した人は11.9%である。中央値以上群において「大学」と回答した割合は最も高く、80.3%である。

困窮度別に見た、学校への遅刻（子ども票問7）

<大阪府内全体>



<豊中市>

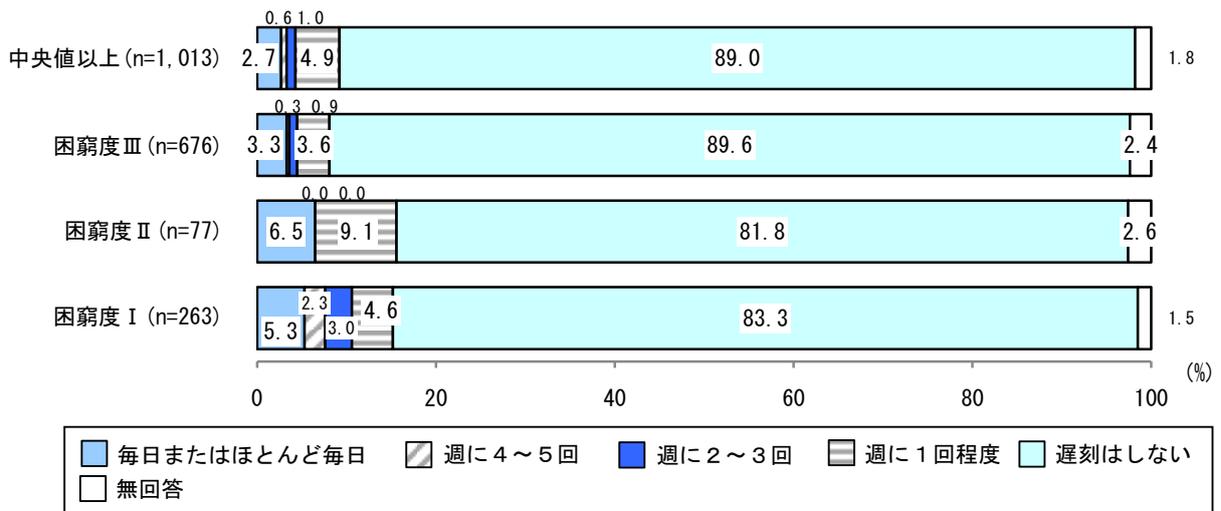
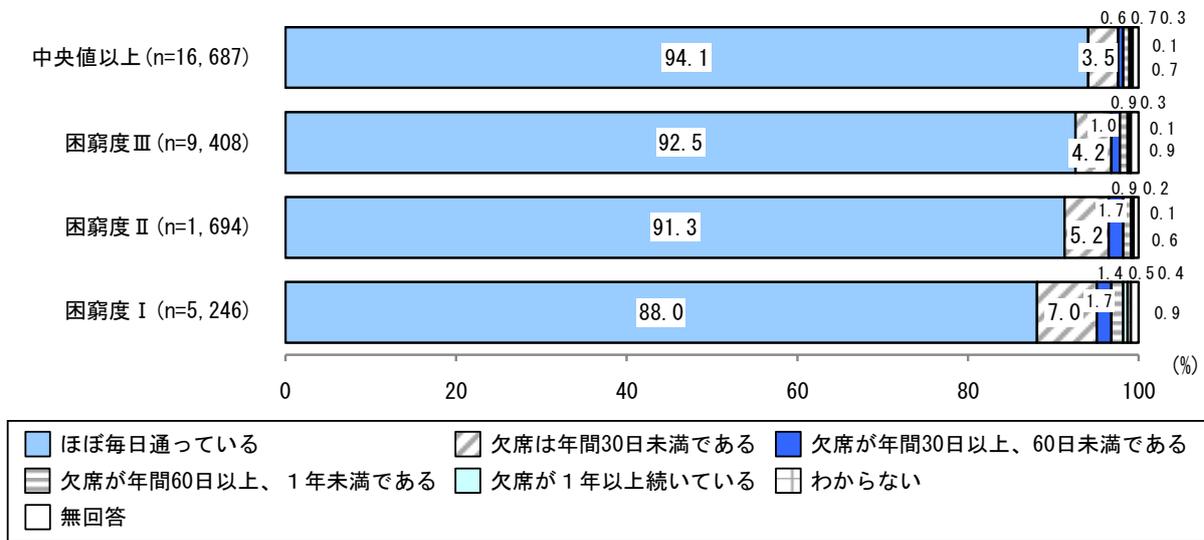


図 123. 困窮度別に見た、学校への遅刻

困窮度別に学校への遅刻を見ると、「毎日またはほとんど毎日」は困窮度Ⅱ群が6.5%と最も高くなっている。「週に4~5回」、「週に2~3回」は、困窮度Ⅰ群が最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの通学状況（保護者票問 15）

<大阪府内全体>



<豊中市>

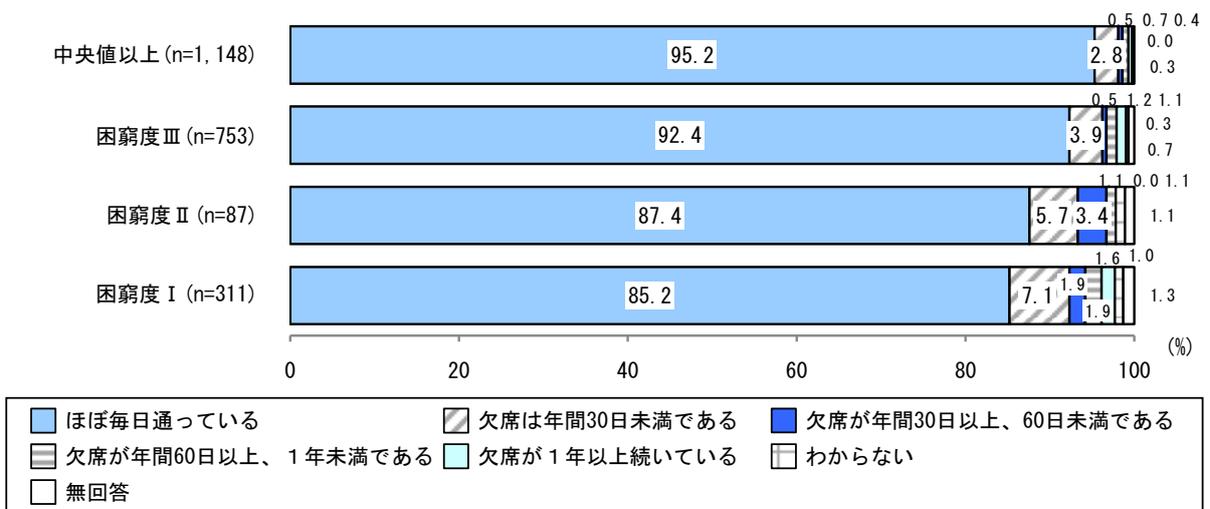
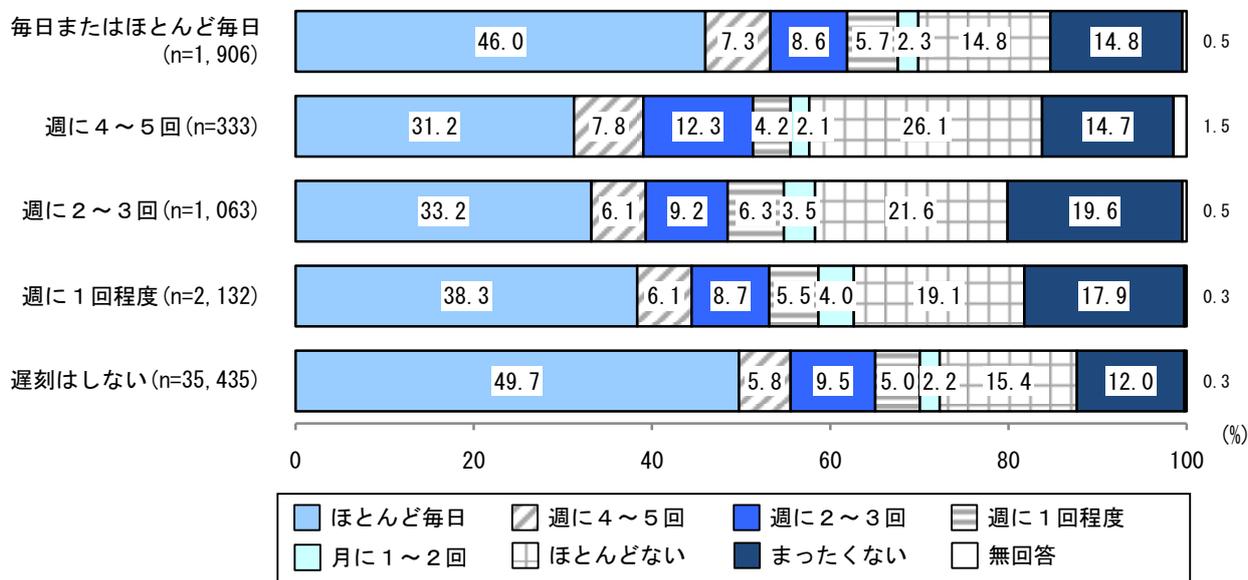


図 124. 困窮度別に見た、子どもの通学状況

困窮度別に子どもの通学状況を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の割合が低くなり、困窮度Ⅰ群が85.2%と最も低くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか
 (子ども票問7×保護者票問8①)

<大阪府内全体>



<豊中市>

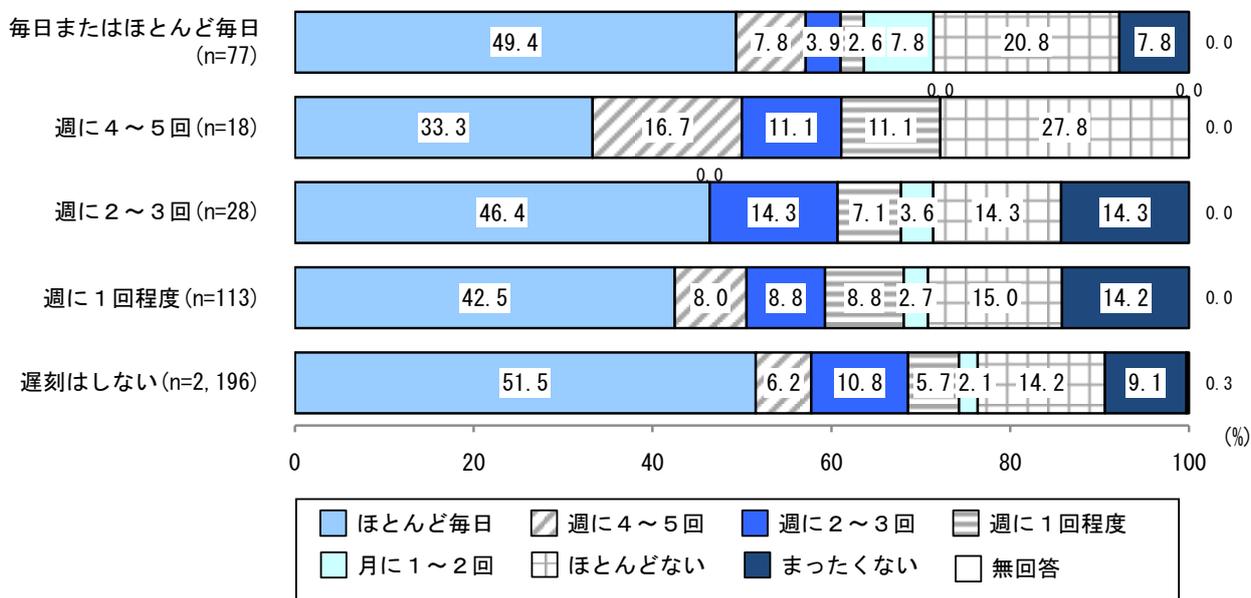
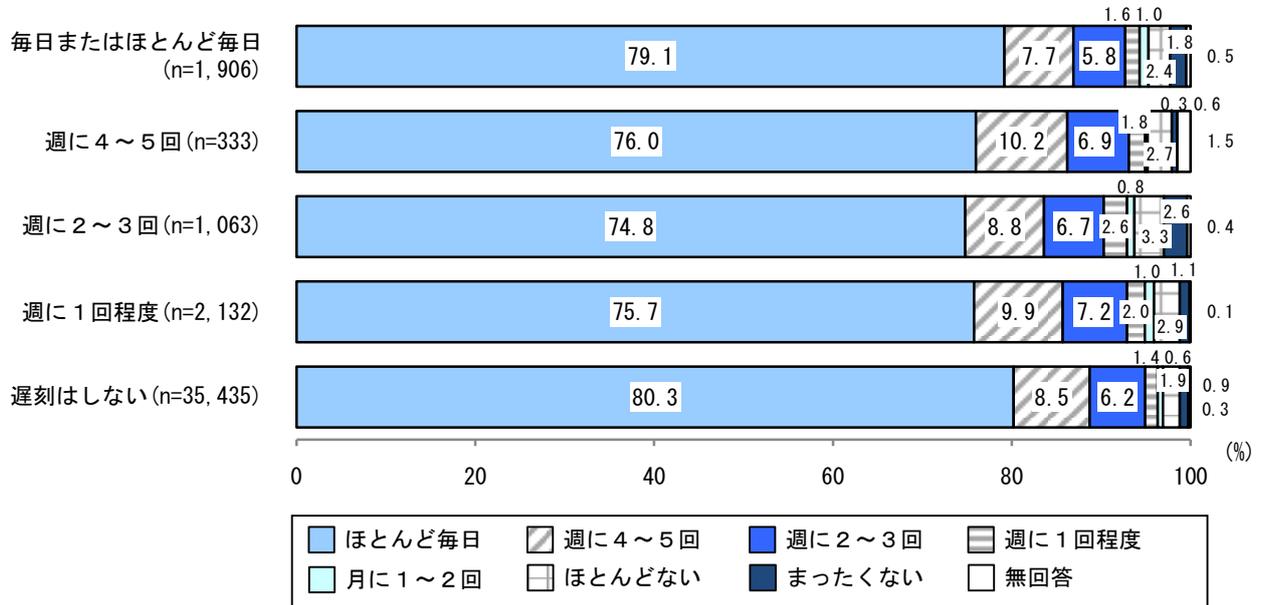


図 125. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に朝食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は遅刻はしない子どもが51.5%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に2~3回遅刻をしている子どもの割合が14.3%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか
 (子ども票問7×保護者票問8②)

<大阪府内全体>



<豊中市>

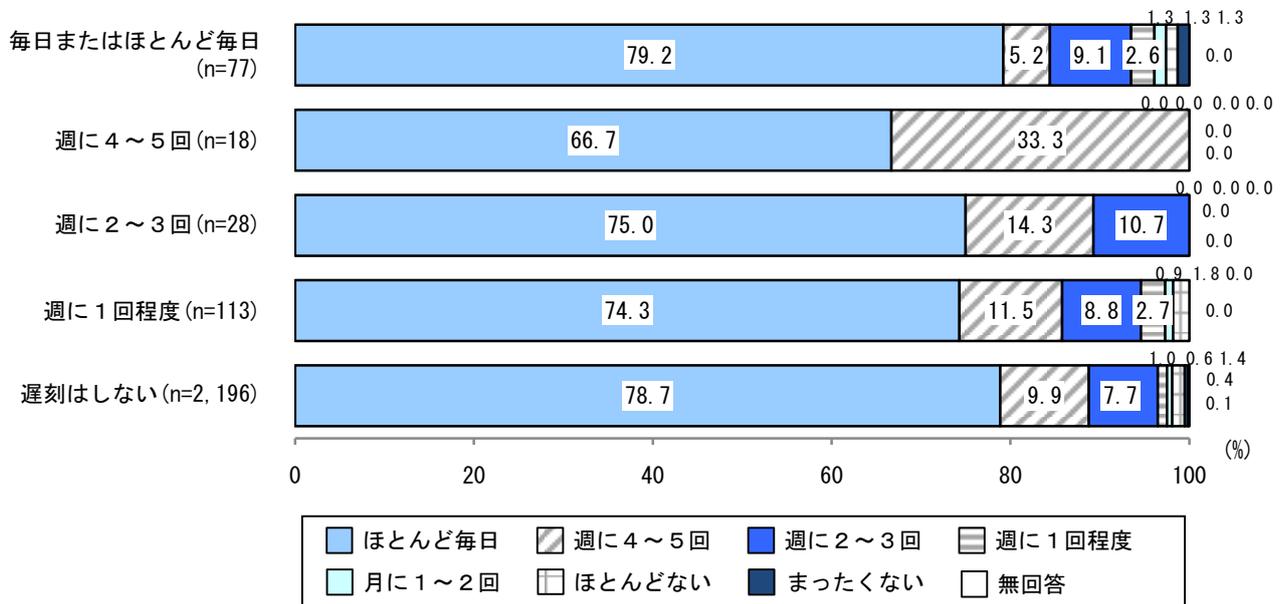
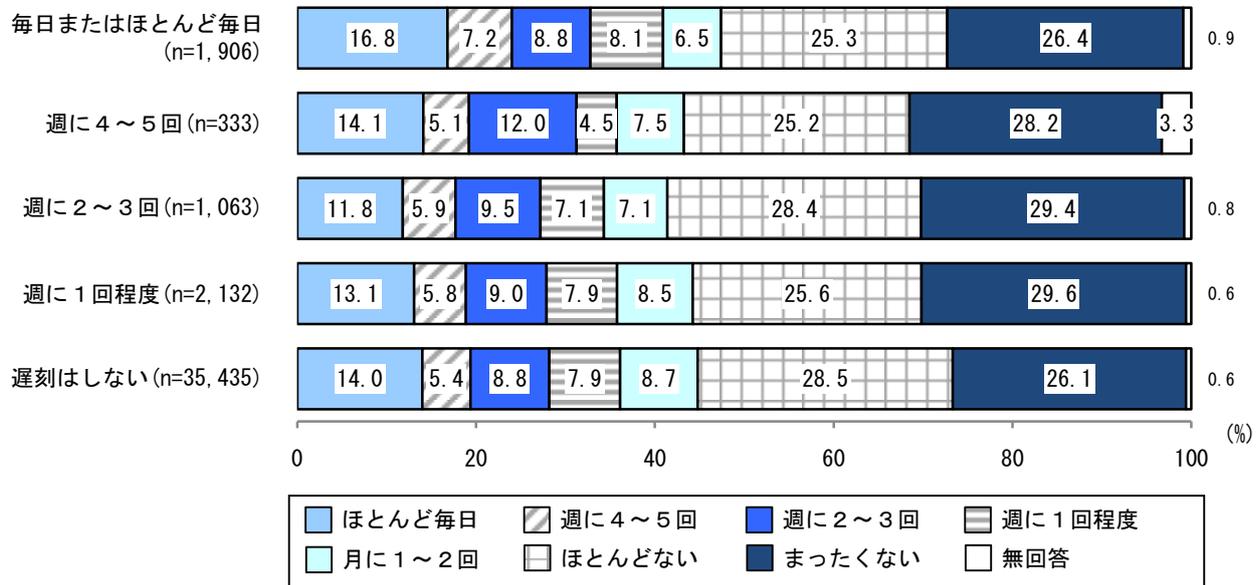


図 126. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に夕食を食べているかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが79.2%で割合が最も高く、一方で、「ほとんどない」でも、毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が1.3%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
 (子ども票問7×保護者票問8⑤)

<大阪府内全体>



<豊中市>

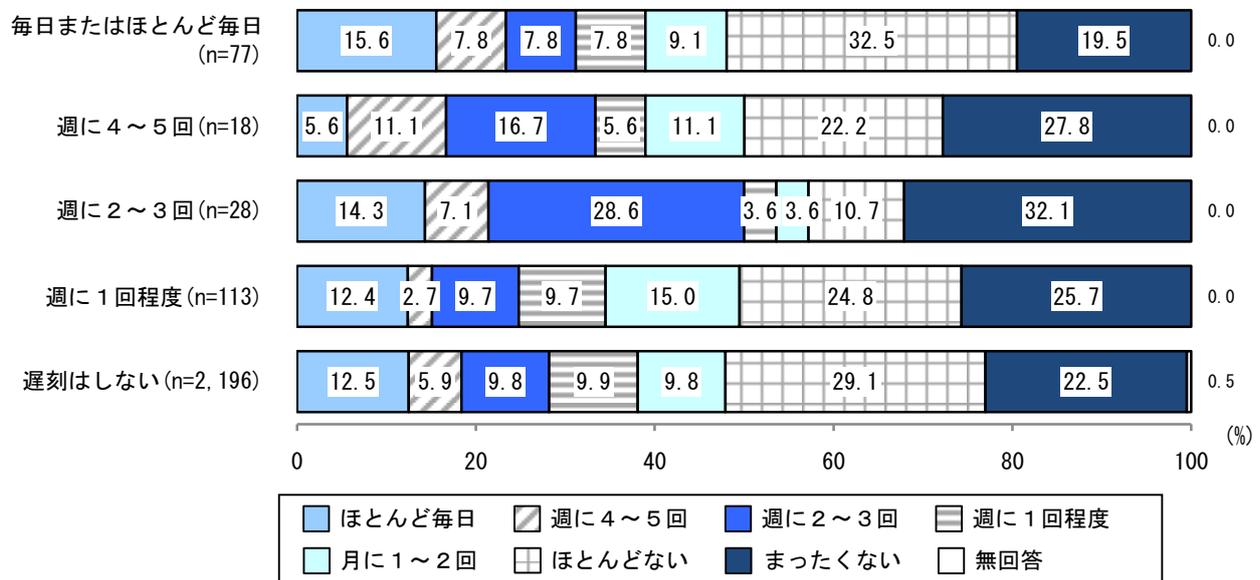
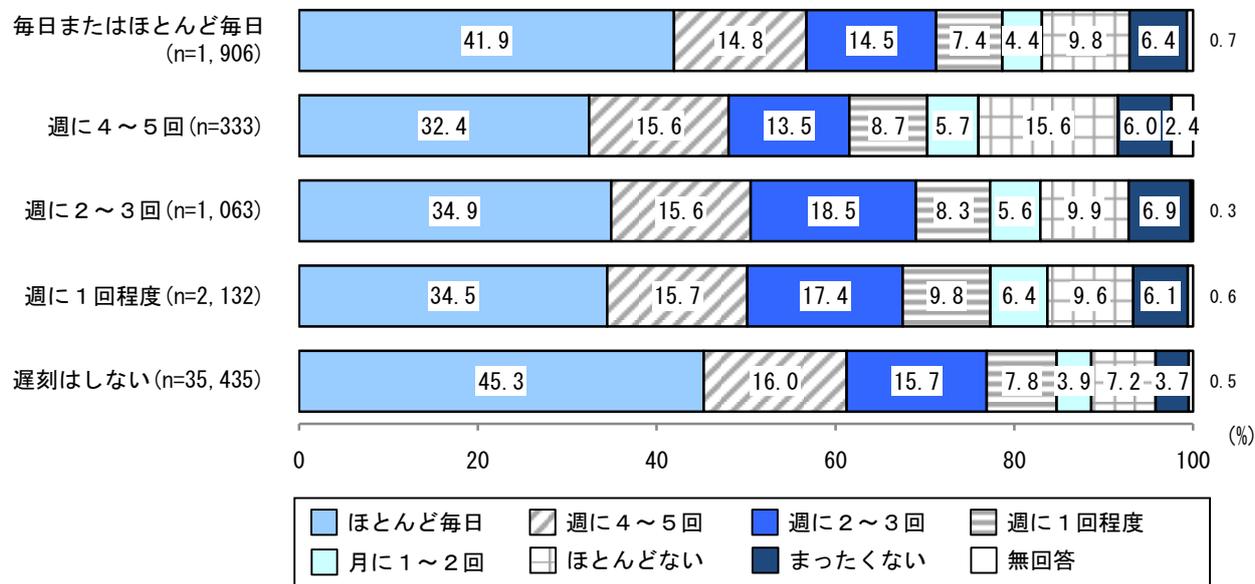


図 127. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

学校への遅刻別におうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもが15.6%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に2~3回遅刻をしている子どもの割合が32.1%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
 (子ども票問7×保護者票問8⑥)

<大阪府内全体>



<豊中市>

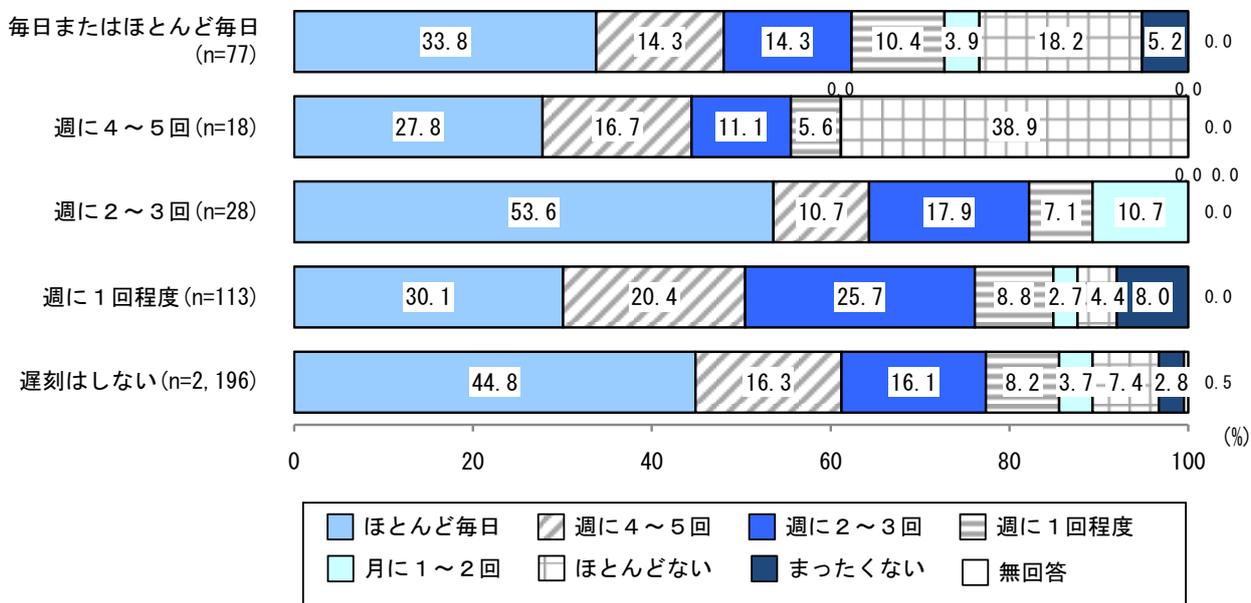
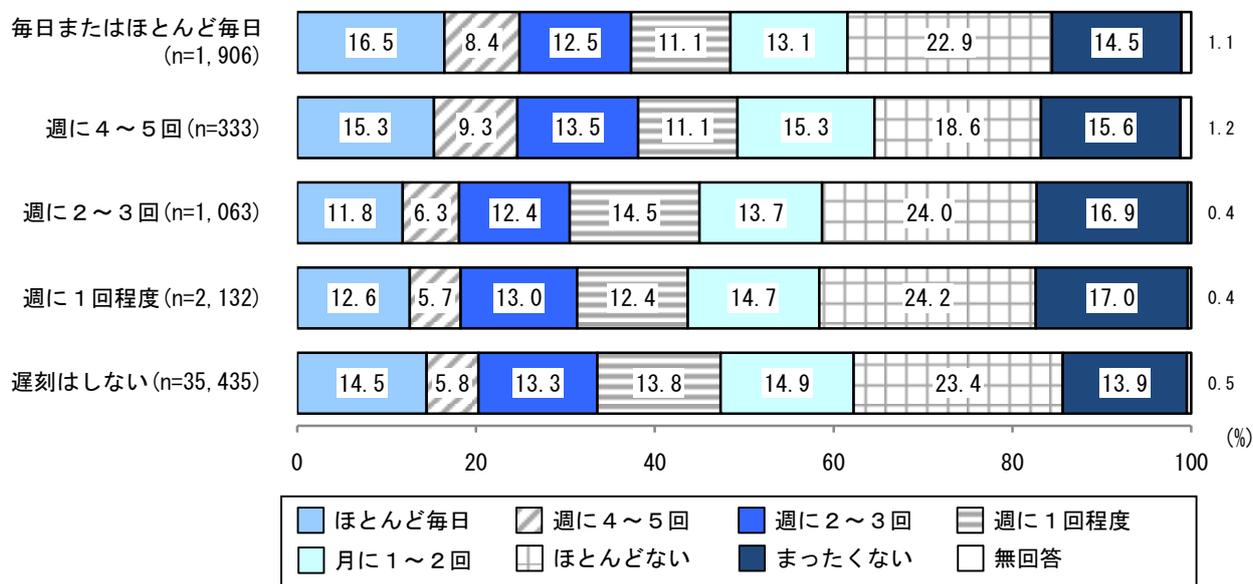


図 128. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2~3回遅刻をしている子どもが53.6%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が8.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
(子ども票問7×保護者票問8⑦)

<大阪府内全体>



<豊中市>

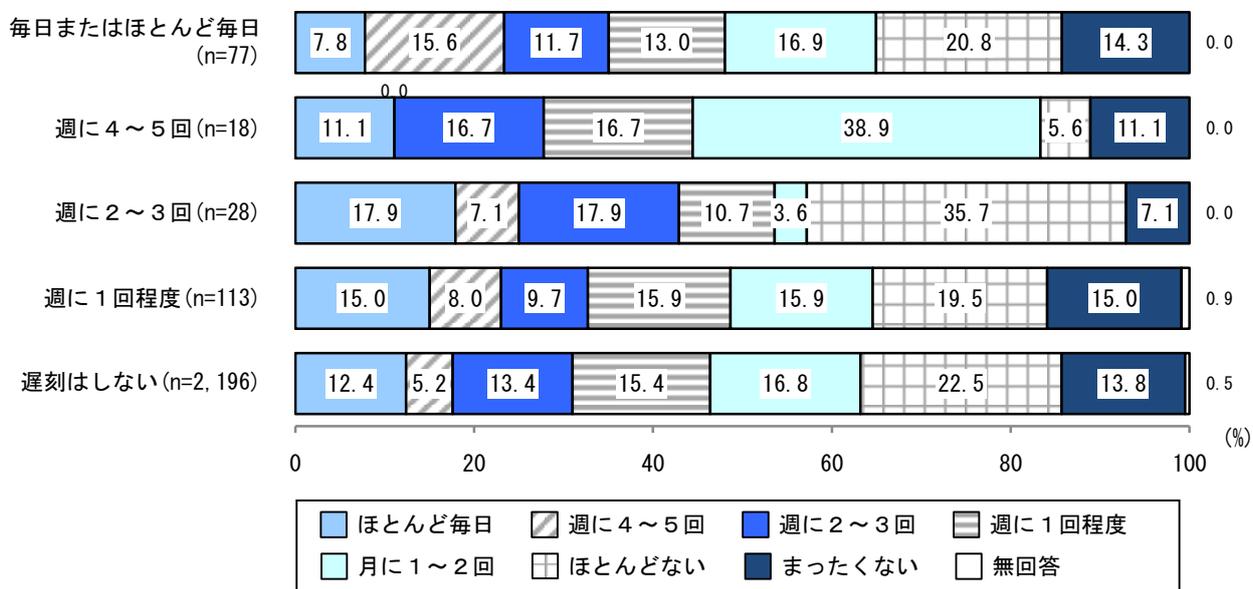
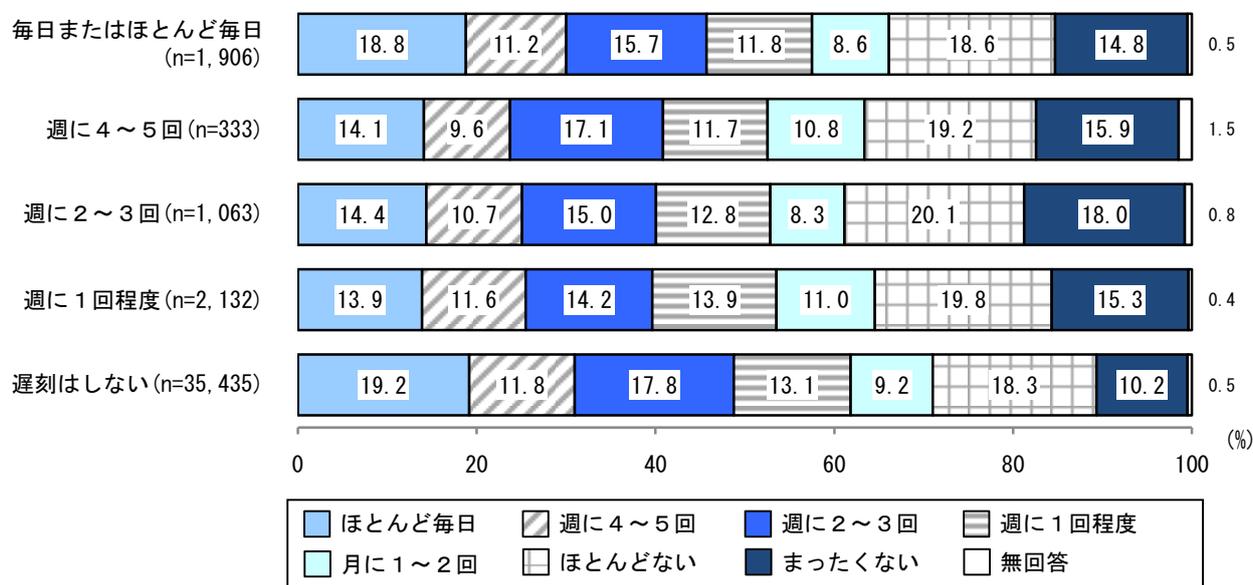


図 129. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2~3回遅刻をしている子どもが17.9%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が15.0%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか
(子ども票問7×保護者票問8⑧)

<大阪府内全体>



<豊中市>

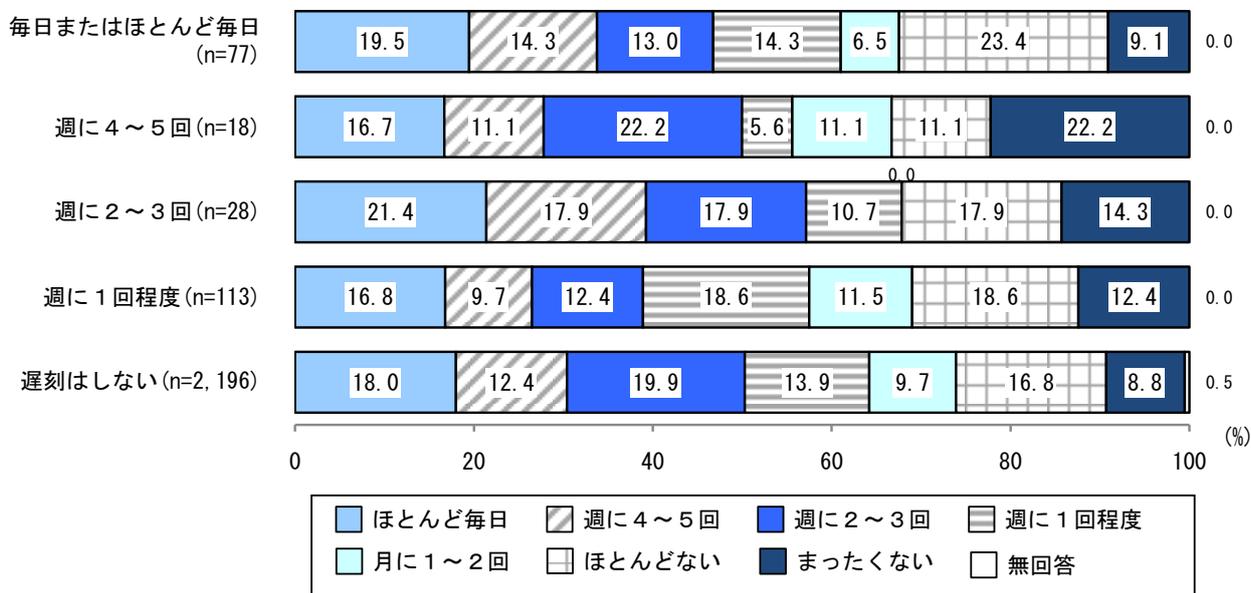
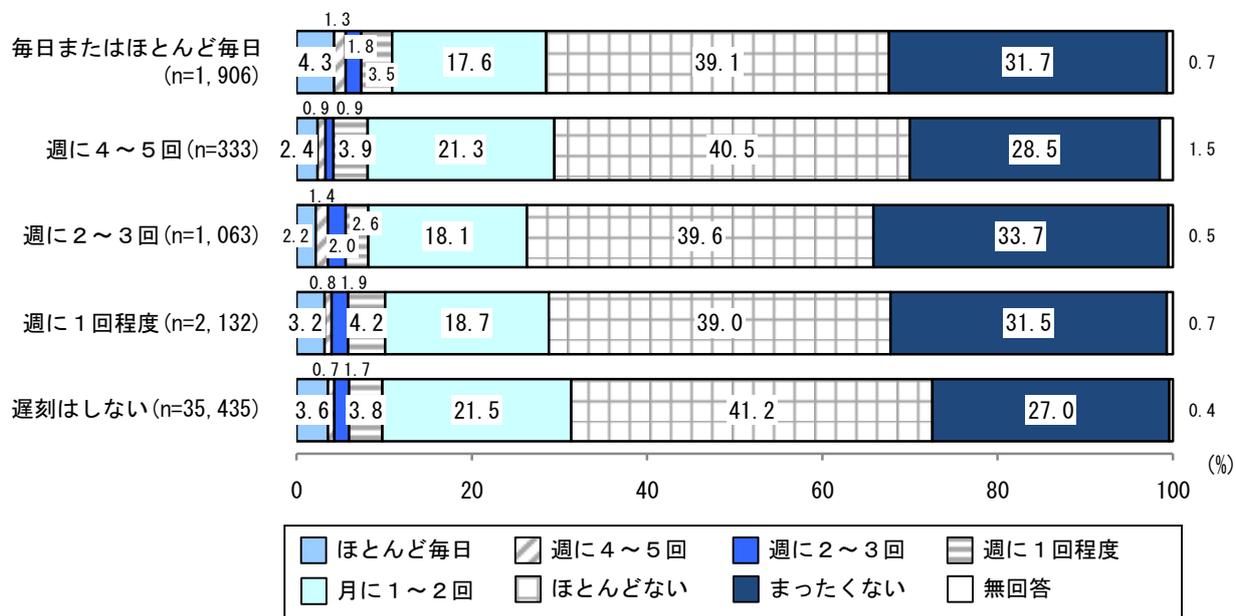


図 130. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

学校への遅刻別におうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2~3回遅刻をしている子どもが21.4%で割合が最も高く、一方で、「まったくない」は週に4~5回遅刻をしている子どもの割合が22.2%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか
 (子ども票問7×保護者票問8⑨)

<大阪府内全体>



<豊中市>

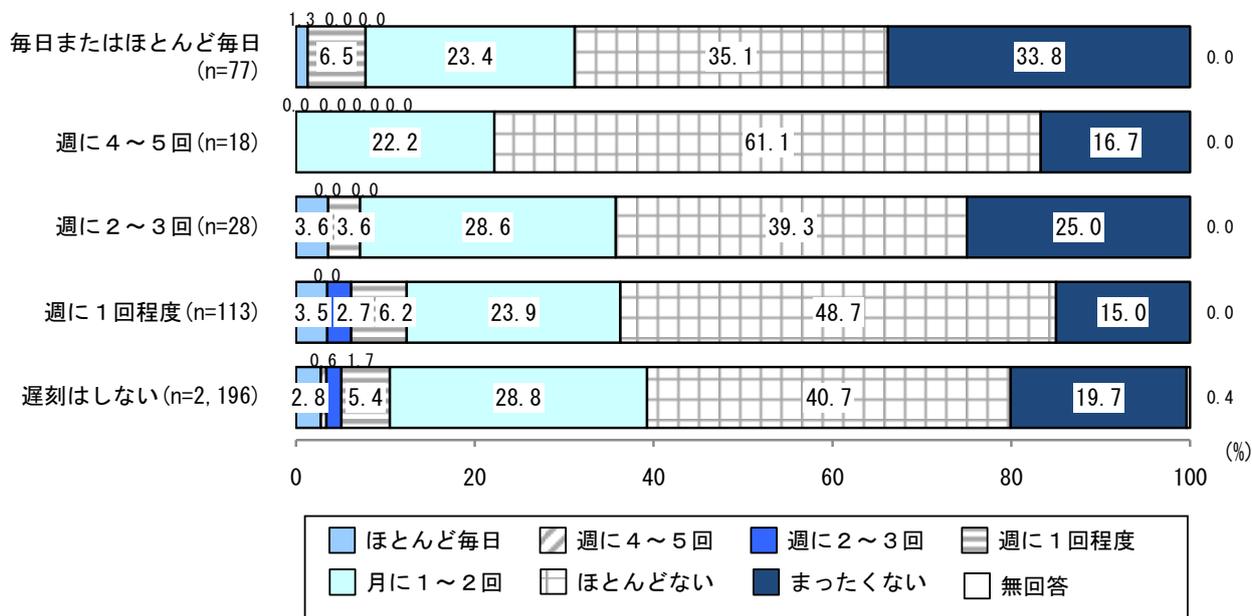
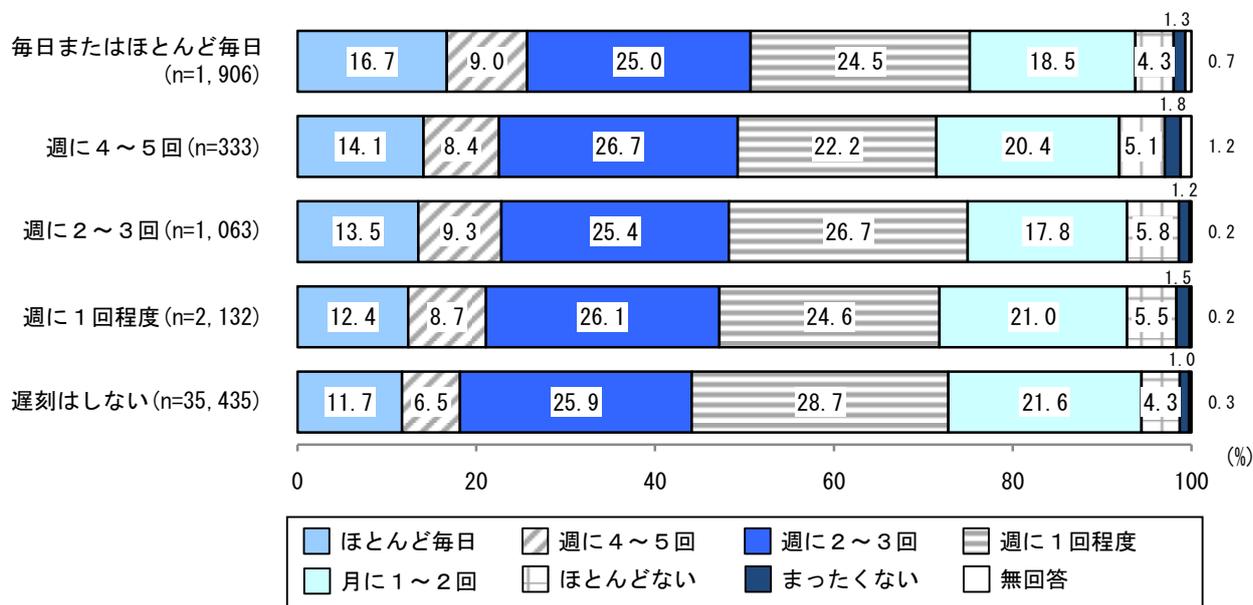


図 131. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか

学校への遅刻別におうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「ほとんどない」は週に4～5回遅刻をしている子どもの割合が61.1%、週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が48.7%、遅刻はしない子どもの割合が40.7%で高くなっている。

学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか
 (子ども票問7×保護者票問8⑩)

<大阪府内全体>



<豊中市>

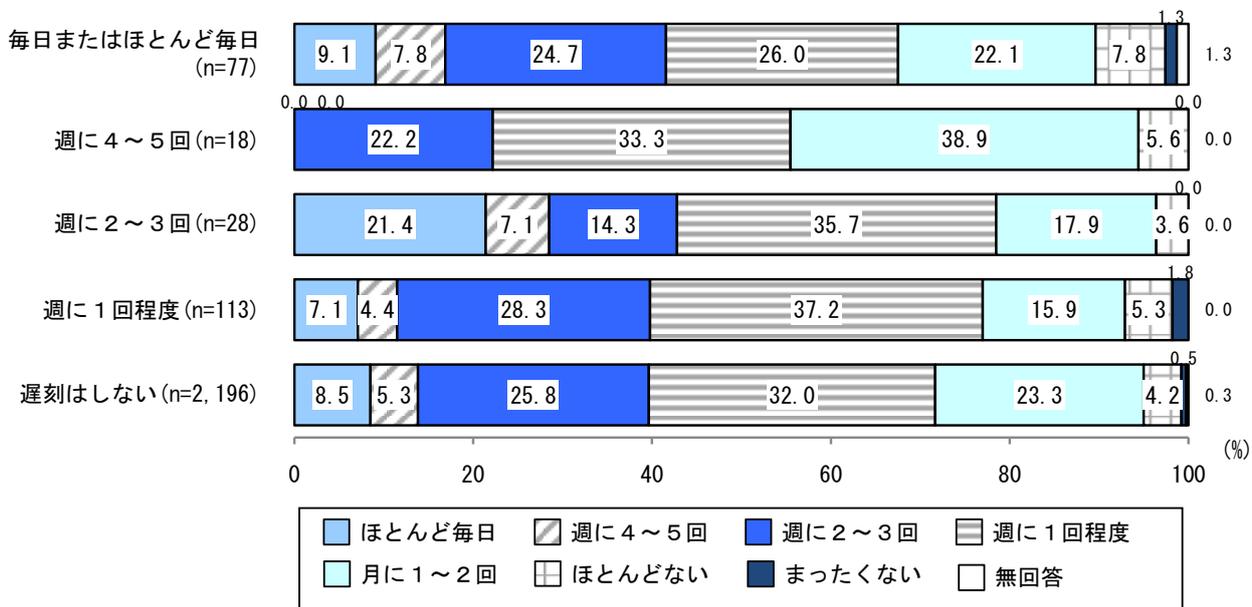
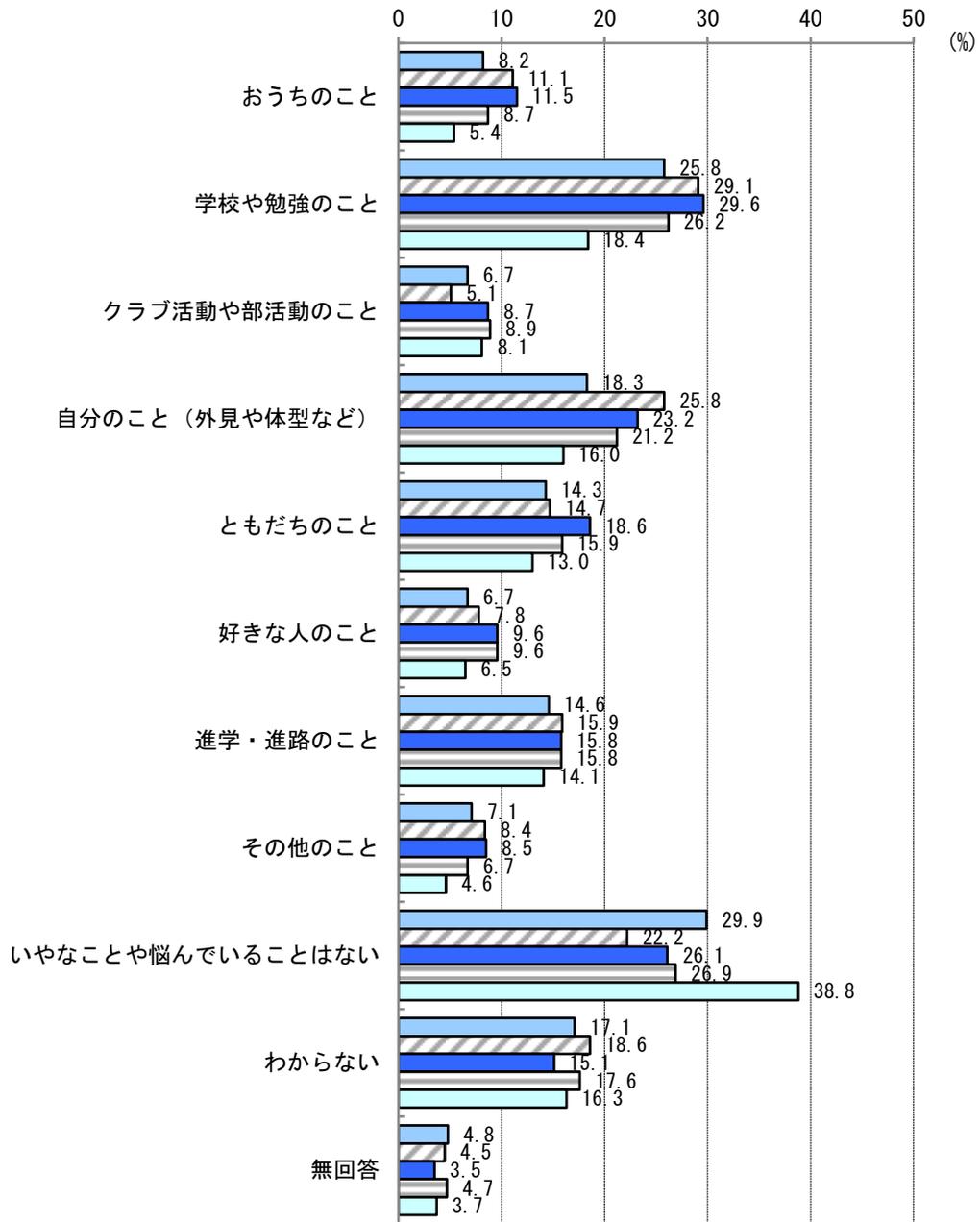


図 132. 学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか

学校への遅刻別におうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「ほとんど毎日」の割合は週に2~3回遅刻をしている子どもが21.4%で割合が最も高く、一方で、「ほとんどない」は毎日またはほとんど毎日遅刻をしている子どもの割合が7.8%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問7×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ 毎日またはほとんど毎日 (n=1,906)
 ■ 週に4～5回 (n=333)
 ■ 週に2～3回 (n=1,063)
■ 週に1回程度 (n=2,132)
 ■ 遅刻はしない (n=35,435)

<豊中市>

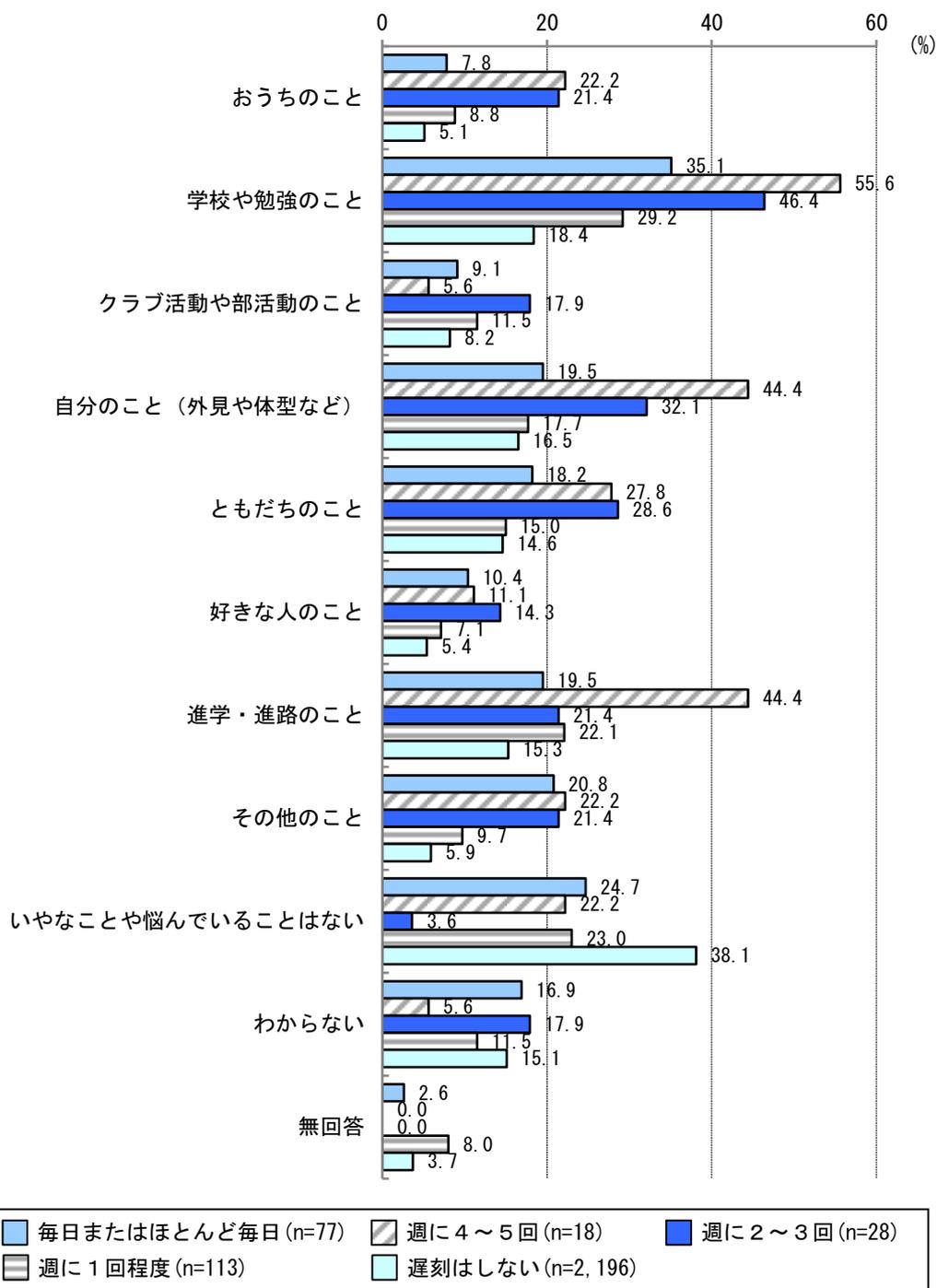
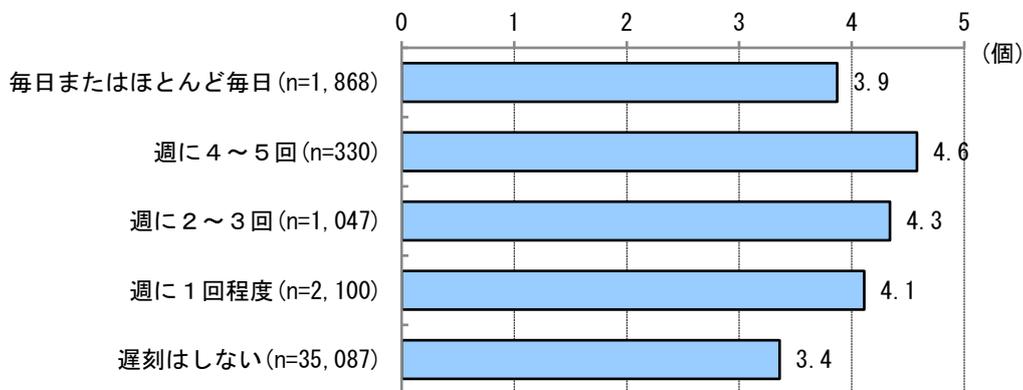


図 133. 学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること

学校への遅刻別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「おうちのこと」の割合は週に4～5回遅刻をしている子どもが22.2%で割合が最も高く、一方で、「いやなことや悩んでいることはない」は遅刻はしない子どもの割合が38.1%で最も高くなっている。

学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
 (子ども票問7×子ども票問19・20)

<大阪府内全体>



<豊中市>

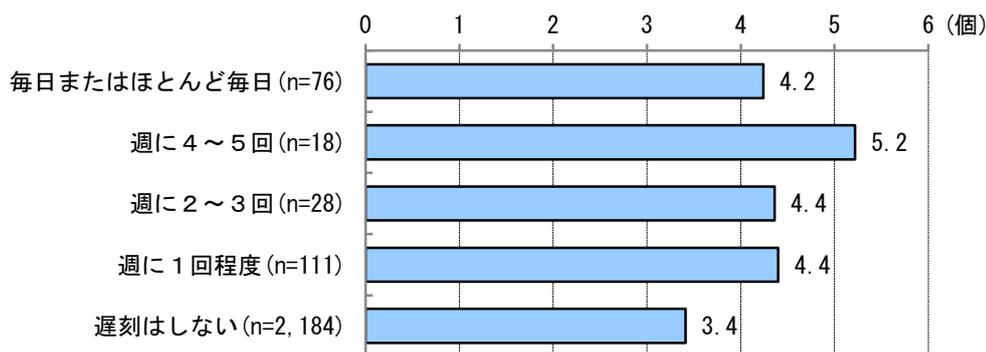
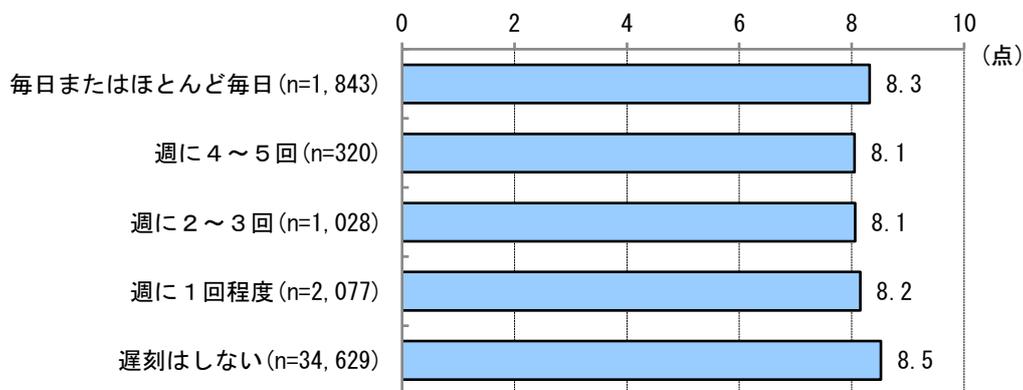


図 134. 学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

学校への遅刻別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、「週に4～5回」遅刻をしている子どもが5.2個で最も多く、次いで「週に2～3回」、「週に1回程度」遅刻をしている子どもがともに4.4個となっている。

学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
 （子ども票問7×子ども票問23）

<大阪府内全体>



<豊中市>

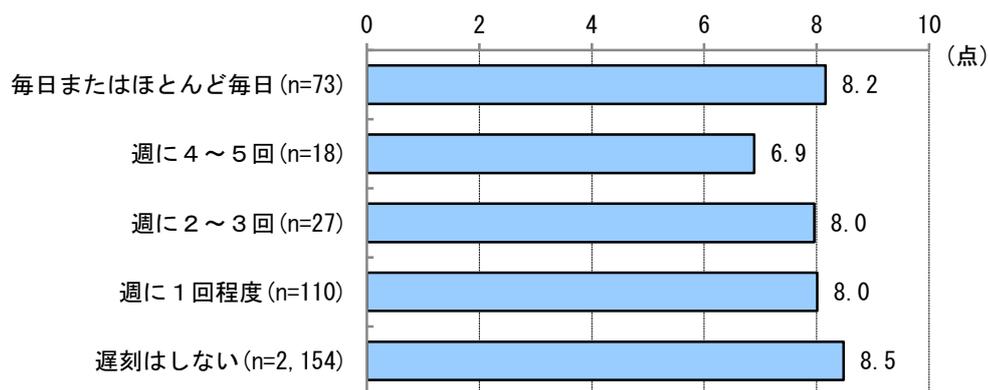
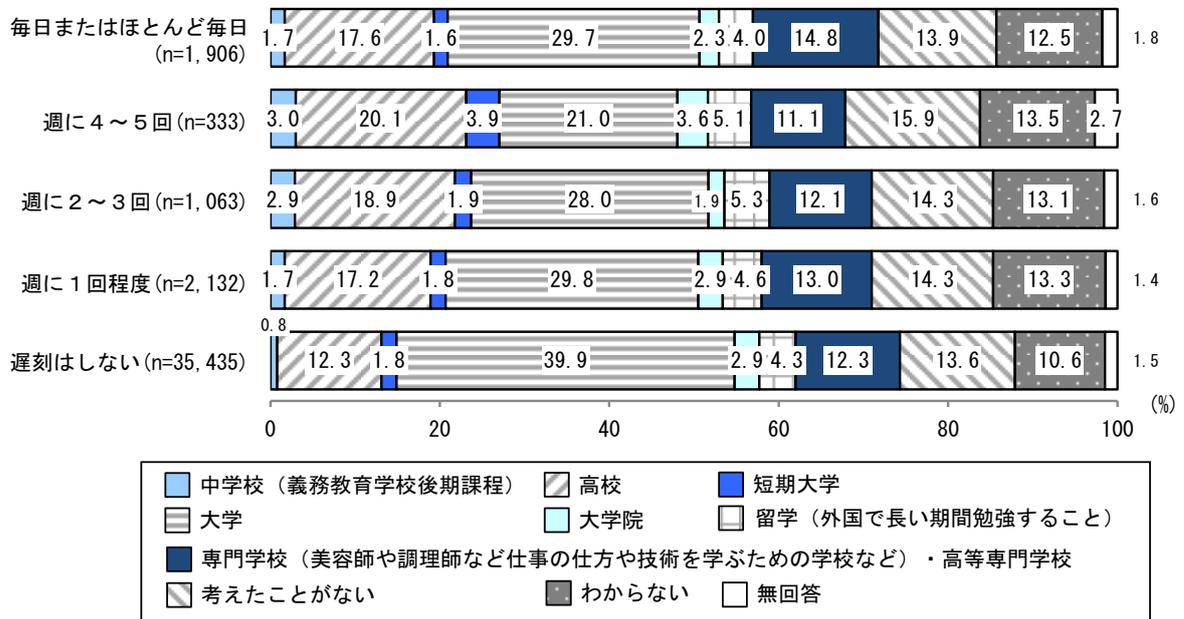


図 135. 学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

学校への遅刻別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」遅刻している子どもは「遅刻はしない」子どもよりも自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低い。

学校への遅刻別に見た、希望する進学先（子ども票問7×子ども票問24）

<大阪府内全体>



<豊中市>

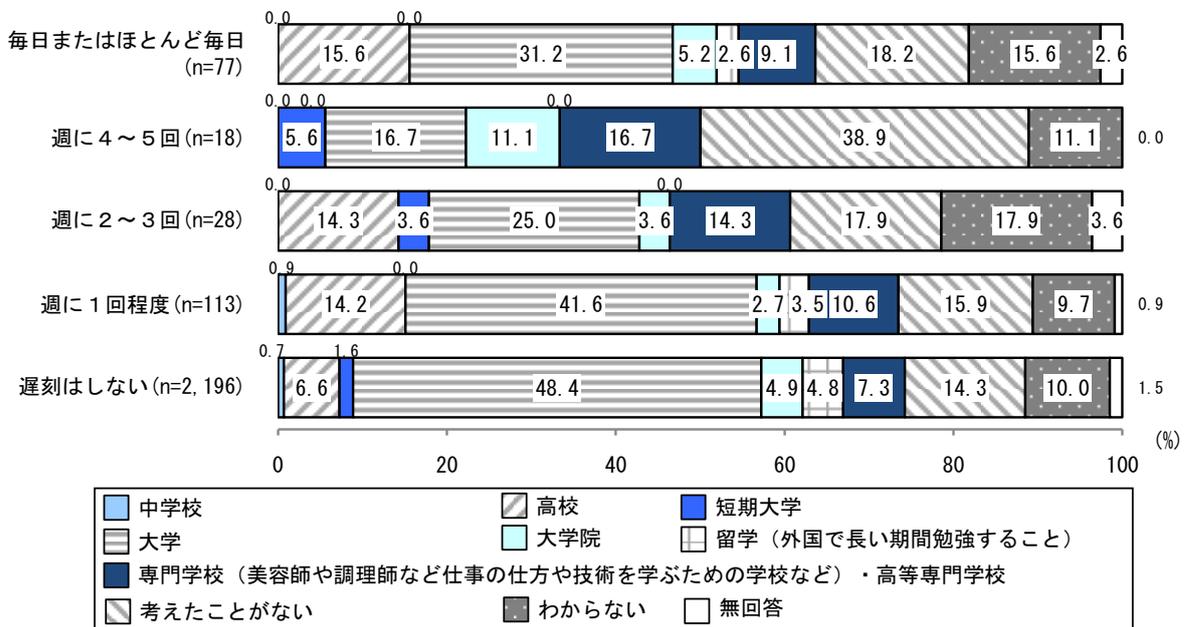
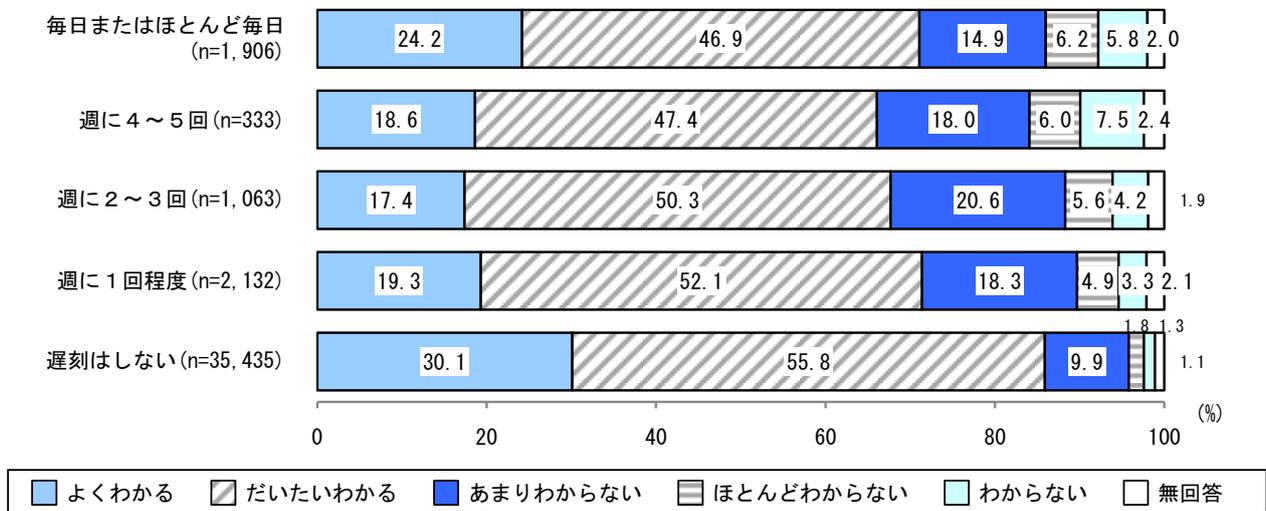


図 136. 学校への遅刻別に見た、希望する進学先

学校への遅刻別に希望する進学先を見ると、「大学」は遅刻はしない子どもの割合が48.4%で最も高く、次いで週に1回程度遅刻をしている子どもの割合が41.6%となっている。

学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問7×子ども票問14(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

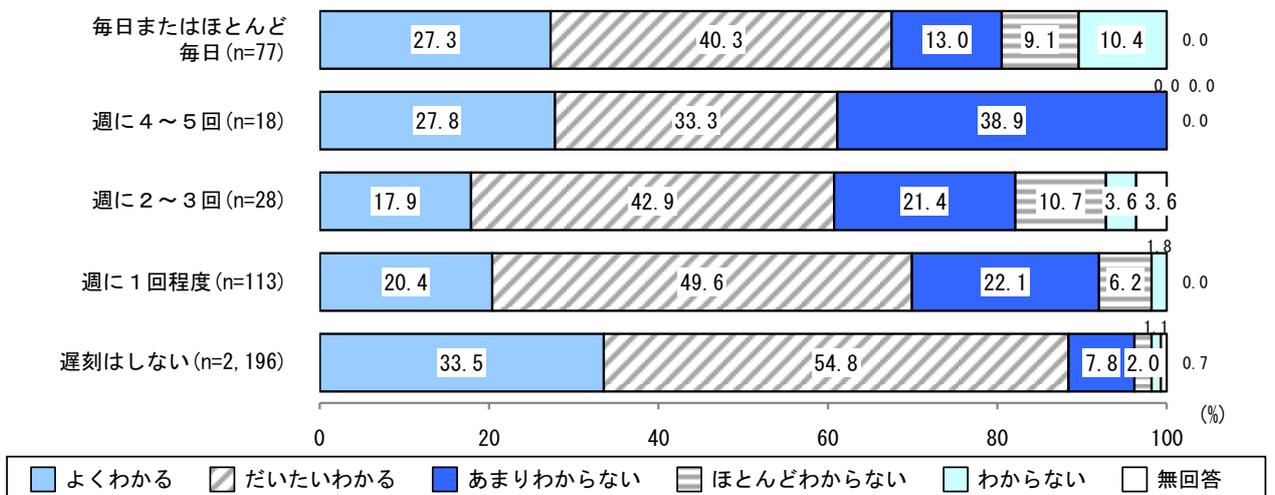
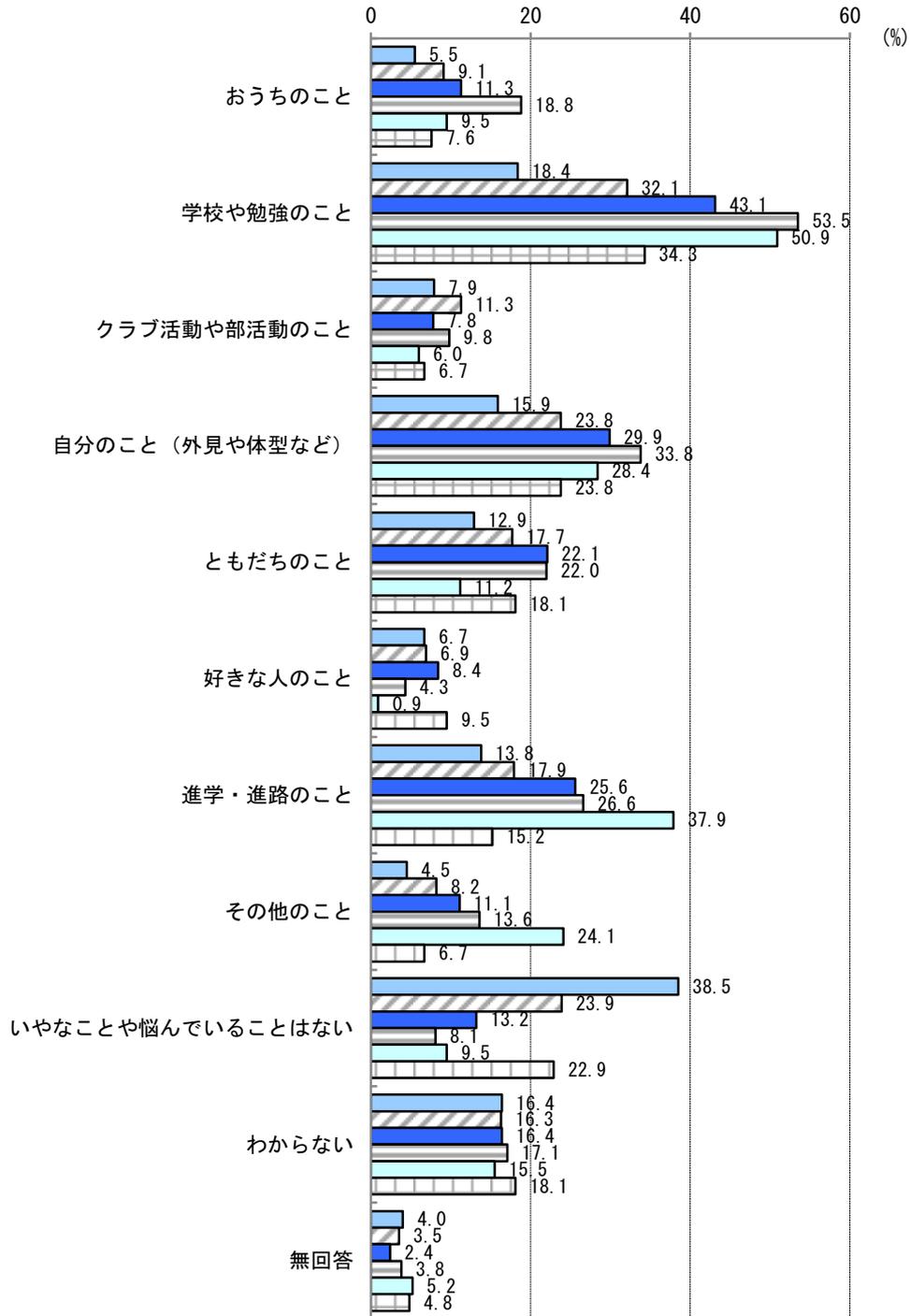


図 137. 学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの

学校への遅刻別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」は遅刻はしない子どもの割合が33.5%で最も高く、「だいたいわかる」も遅刻はしない子どもの割合が54.8%で最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること（保護者票問15×子ども票問17）

<大阪府内全体>



■ ほぼ毎日通っている (n=37,661) ■ 欠席は年間30日未満である (n=1,775)
■ 欠席が年間30日以上、60日未満である (n=371) ■ 欠席が年間60日以上、1年未満である (n=346)
■ 欠席が1年以上続いている (n=116) ■ わからない (n=105)

<豊中市>

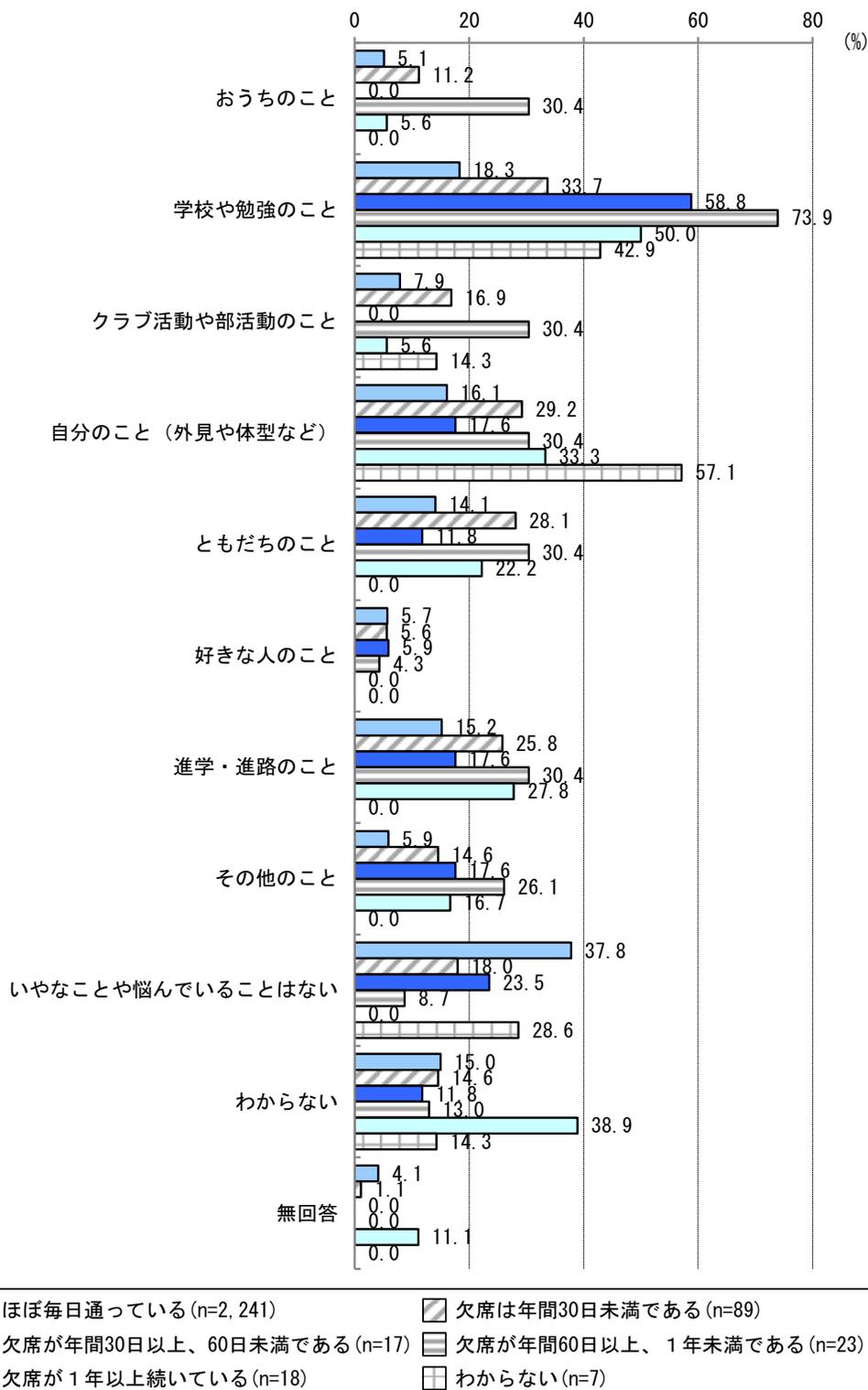
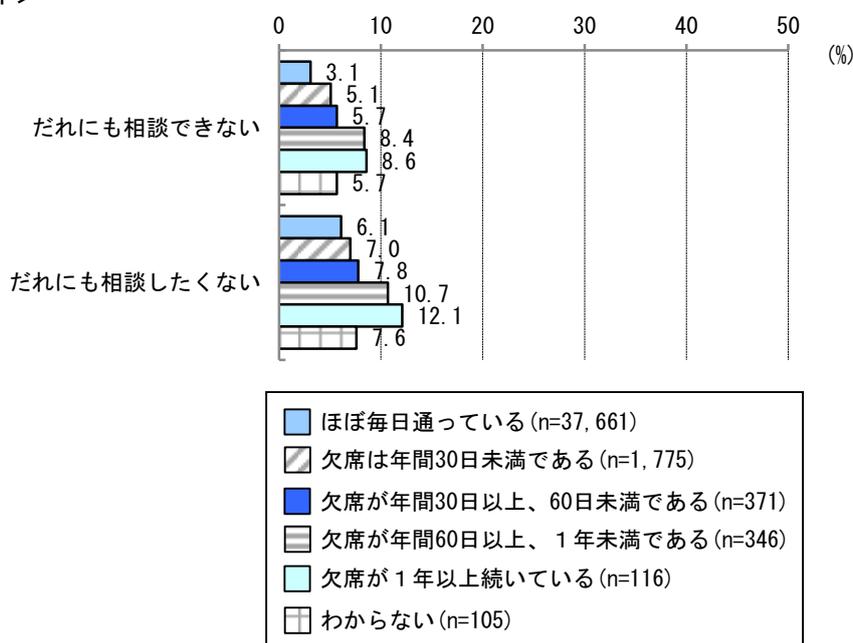


図 138. 子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること

子どもの通学状況別に嫌なことや悩んでいることを見ると、「自分のこと(外見や体型など)」と回答した人の割合は、欠席が1年以上続いている(33.3%)人の割合が最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合
 (保護者票問 15×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

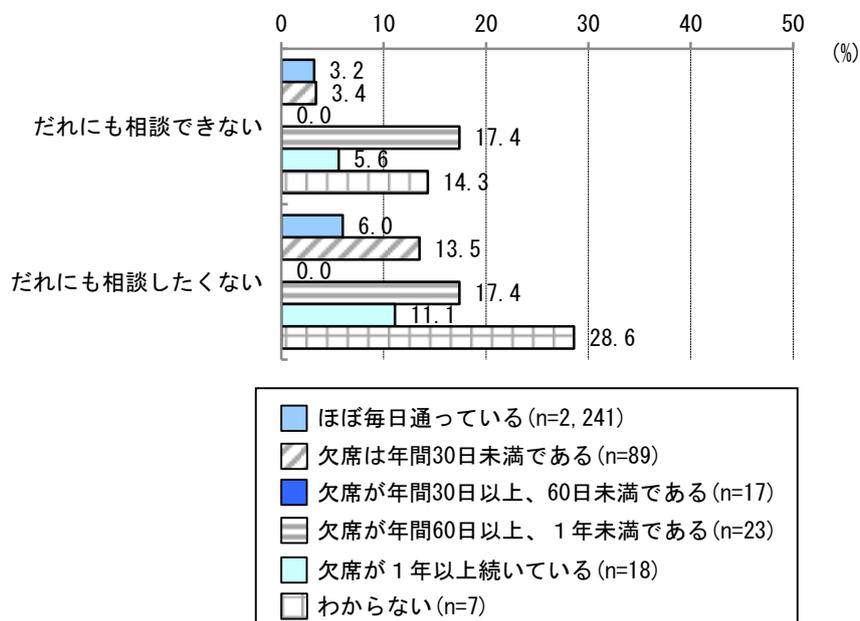
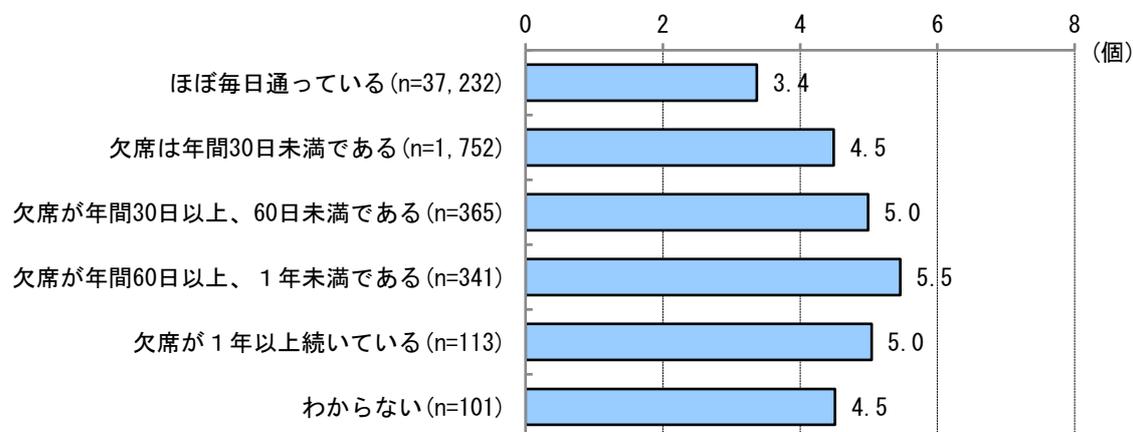


図 139. 子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合

子どもの通学状況別に悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合を見ると、「だれにも相談できない」、「だれにも相談したくない」と回答した人の割合は欠席が年間60日以上、1年未満である人の割合が最も高くなっている。

子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数
 (保護者票問 15×子ども票問 19・20)

<大阪府内全体>



<豊中市>

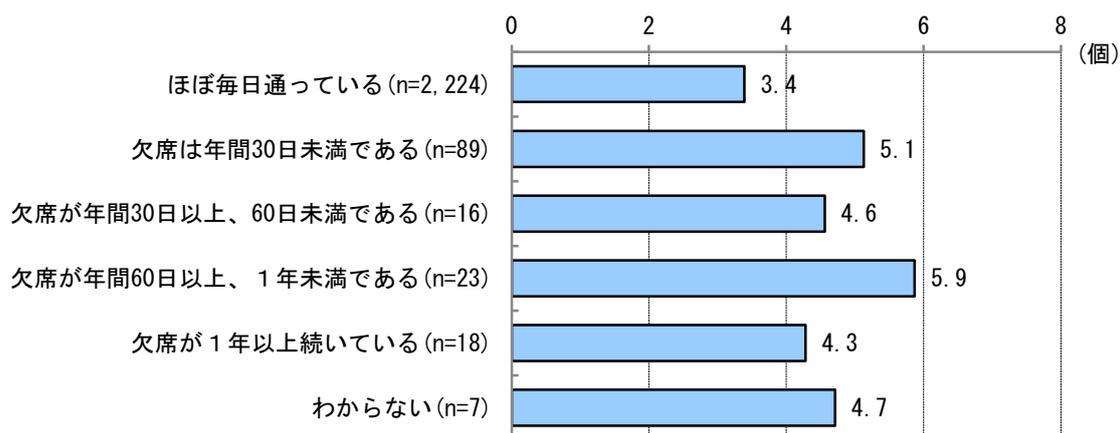
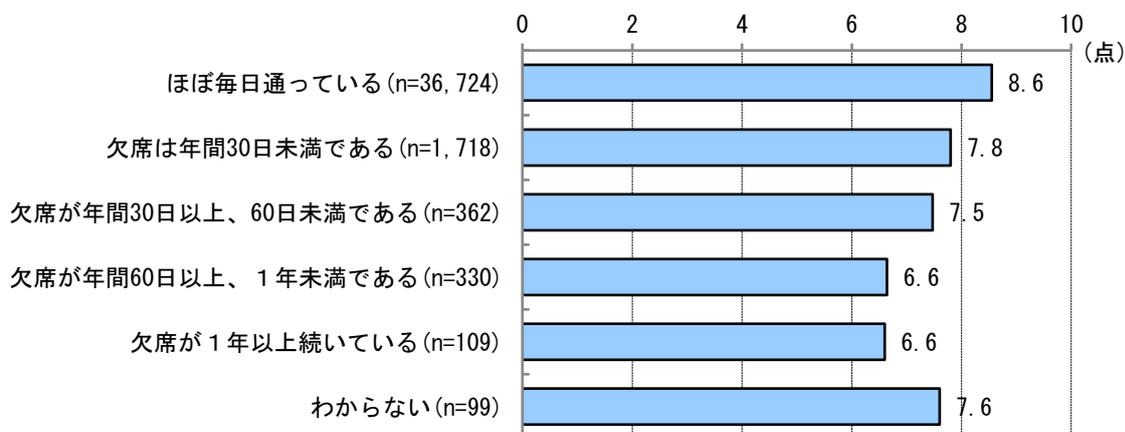


図 140. 子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

子どもの通学状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当個数を見ると、欠席が年間60日以上、1年未満であると回答した人が5.9個で最も多く、次いで欠席が年間30日未満であると回答した人が5.1個となっている。

子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（保護者票問 15×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<豊中市>

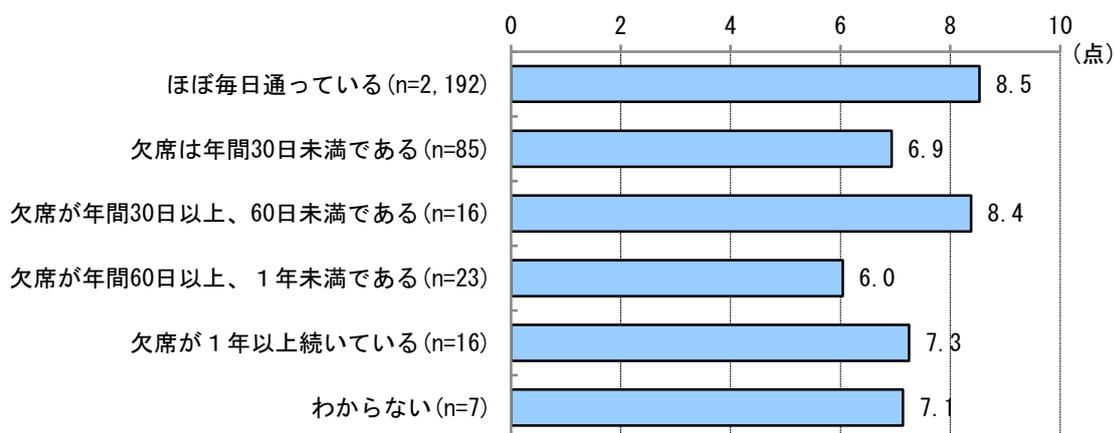
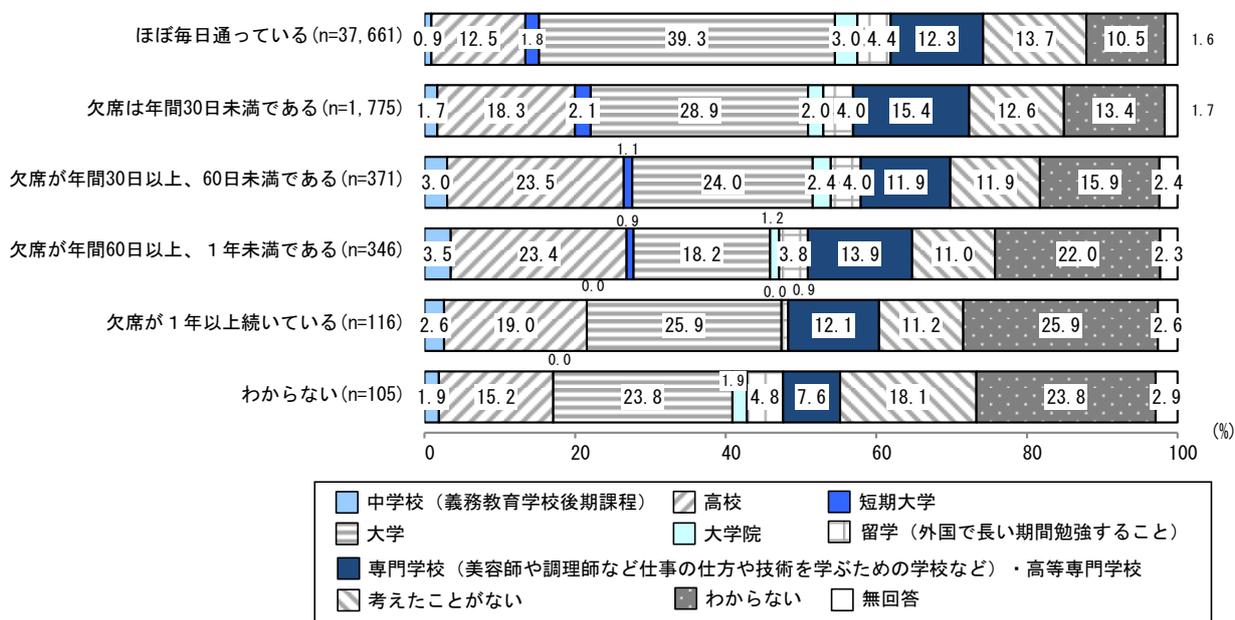


図 141. 子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもの通学状況別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「ほぼ毎日通っている」と回答した人の得点は8.5点で最も高く、「欠席が年間60日以上、1年未満である」と回答した人の得点は6.0点で最も低い結果となった。

子どもの通学状況別に見た、希望する進学先（保護者票問 15×子ども票問 24）

<大阪府内全体>



<豊中市>

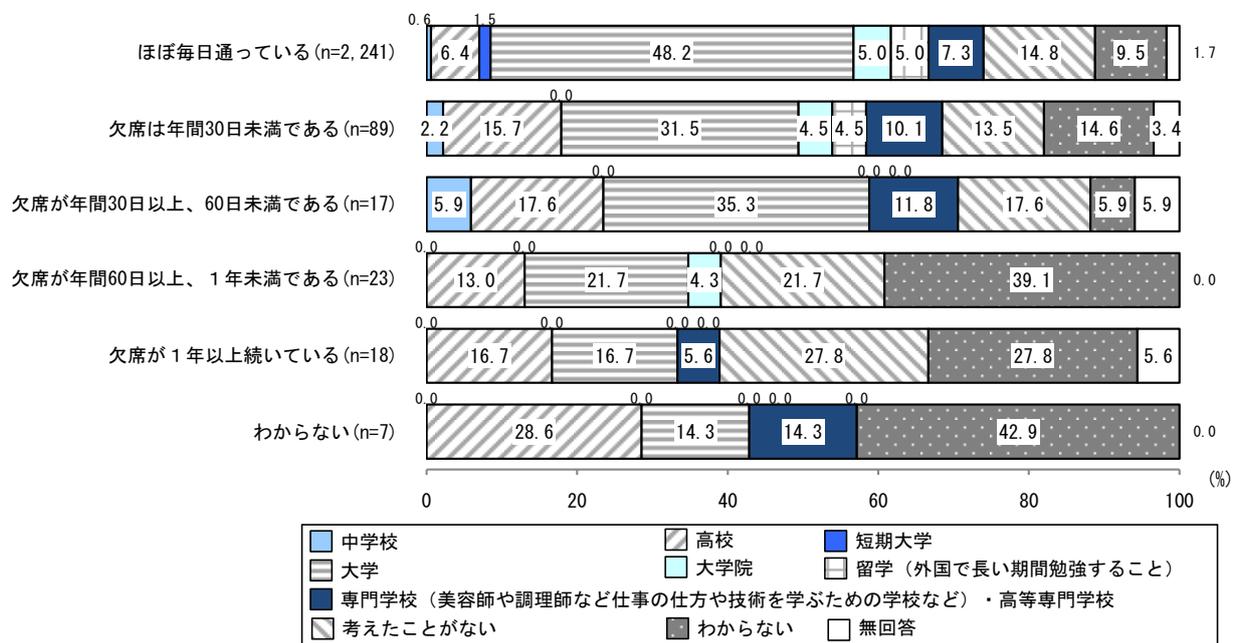
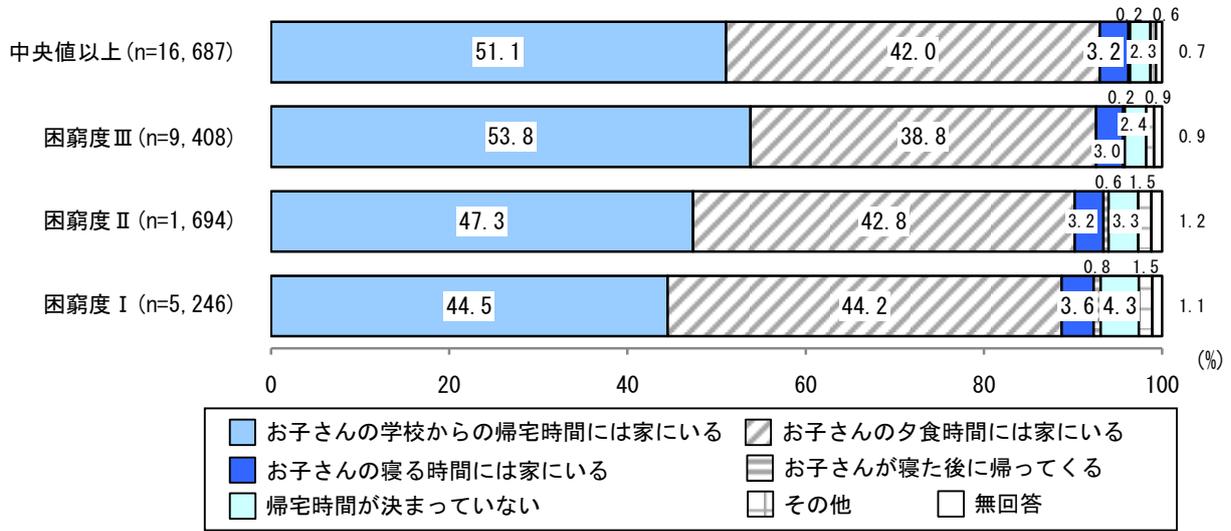


図 142. 子どもの通学状況別に見た、希望する進学先

子どもの通学状況別に希望する進学先を見ると、「大学」はほぼ毎日通っていると回答した人の割合が48.2%で最も高く、「中学校」、「高校」は欠席が年間30日以上、60日未満であると回答した人の割合がそれぞれ5.9%、17.6%で最も高くなっている。

困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯（保護者票問 10）

<大阪府内全体>



<豊中市>

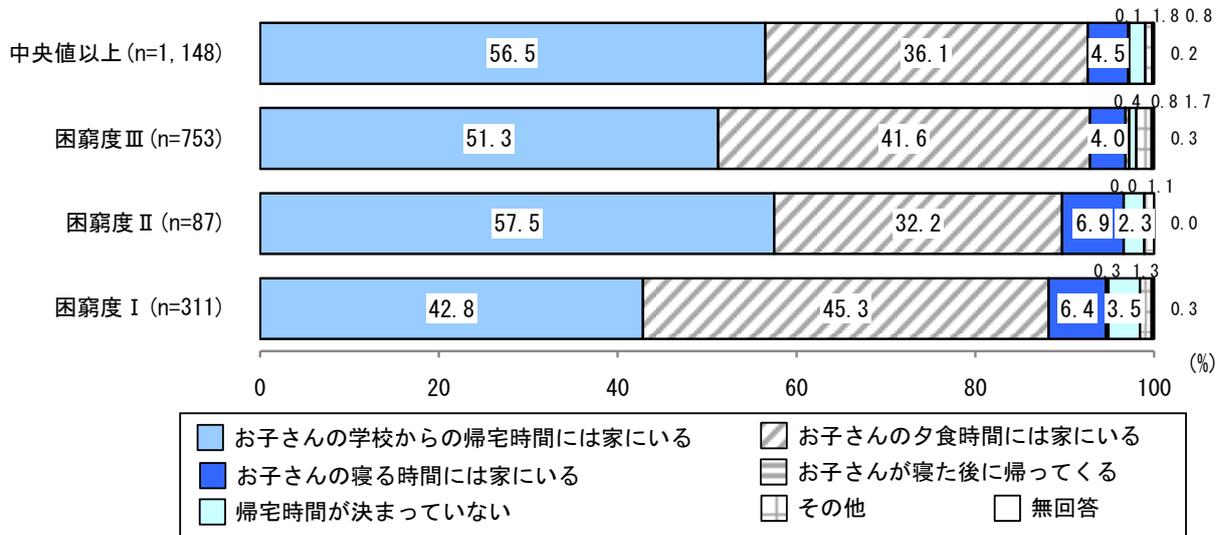
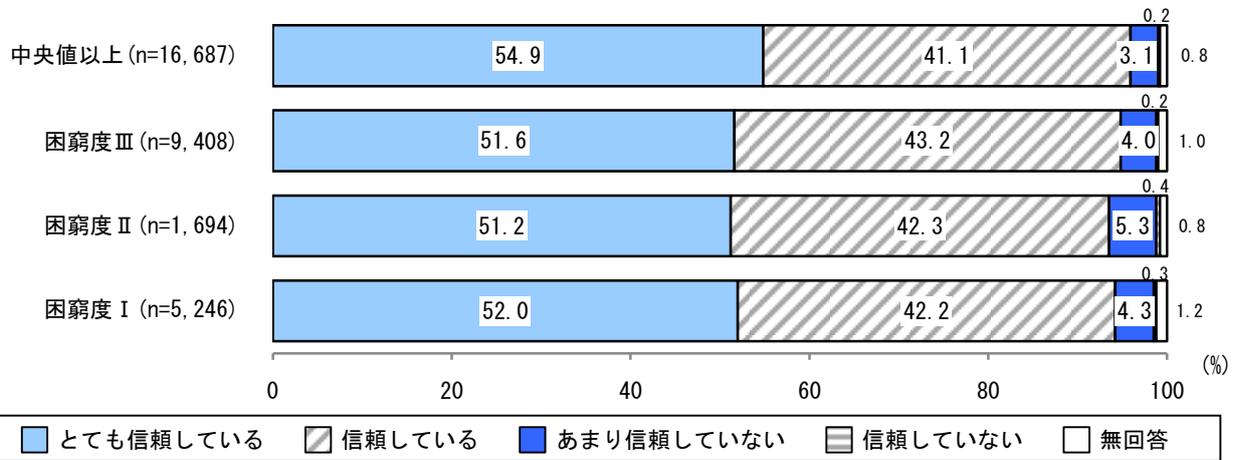


図 143. 困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯

困窮度別に保護者が家にいる時間帯を見ると、中央値以上群・困窮度Ⅲ・Ⅱ群のほうが、困窮度Ⅰ群よりも、「お子さんの学校からの帰宅時には家にいる」と回答した割合が高い。また、困窮度Ⅰ群では「お子さんの夕食時には家にいる」と回答した割合が高く、45.3%である。

困窮度別に見た、子どもへの信頼度（保護者票問 13(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

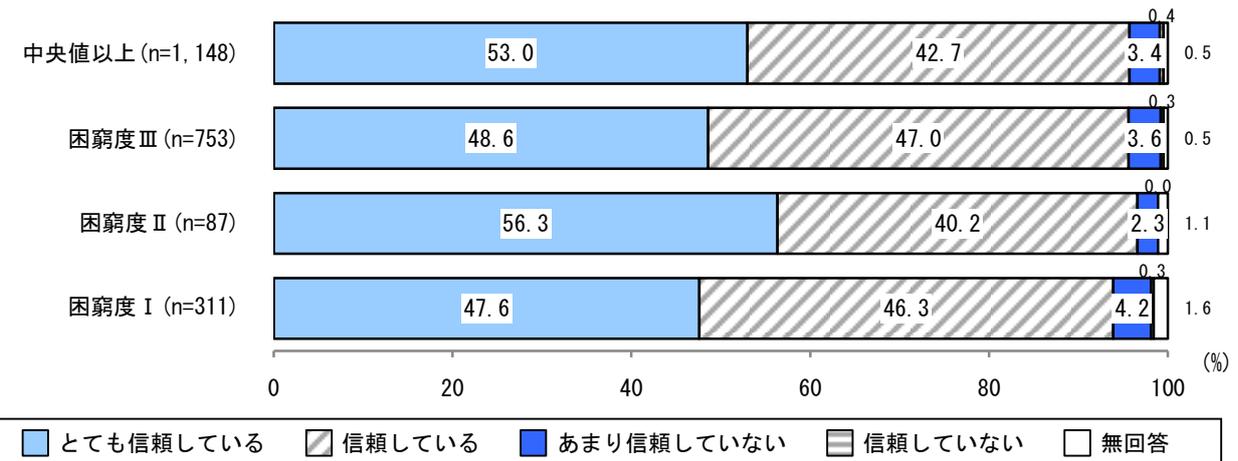
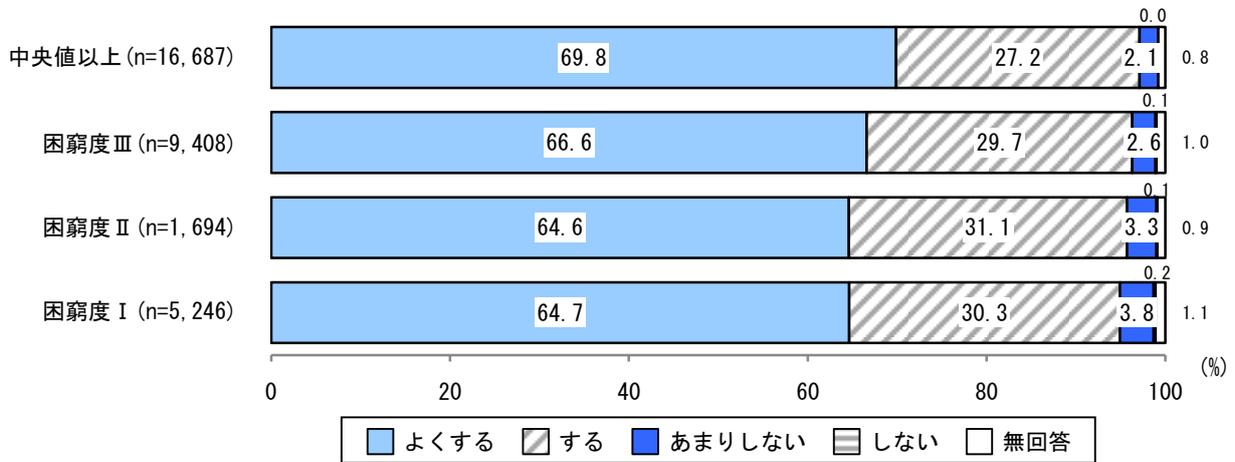


図 144. 困窮度別に見た、子どもへの信頼度

困窮度別に子どもへの信頼度を見ると、「とても信頼している」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群が47.6%で最も低い。

困窮度別に見た、子どもとの会話頻度（保護者票問 13(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

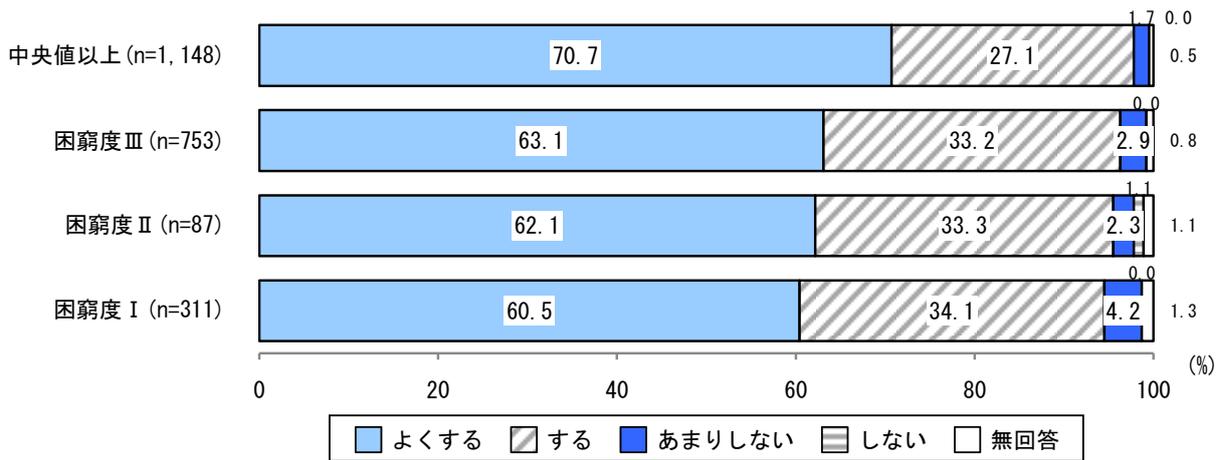
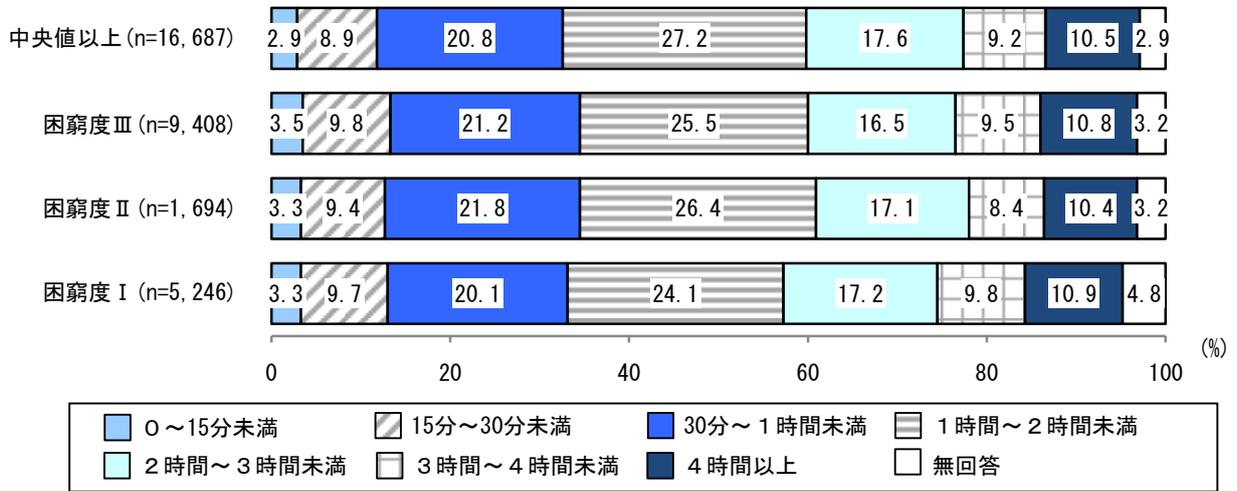


図 145. 困窮度別に見た、子どもとの会話頻度

困窮度別に子どもとの会話頻度を見ると、困窮度が高まるにつれ、「よくする」と回答した割合が低く、困窮度Ⅰ群が60.5%で最も低い。

困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

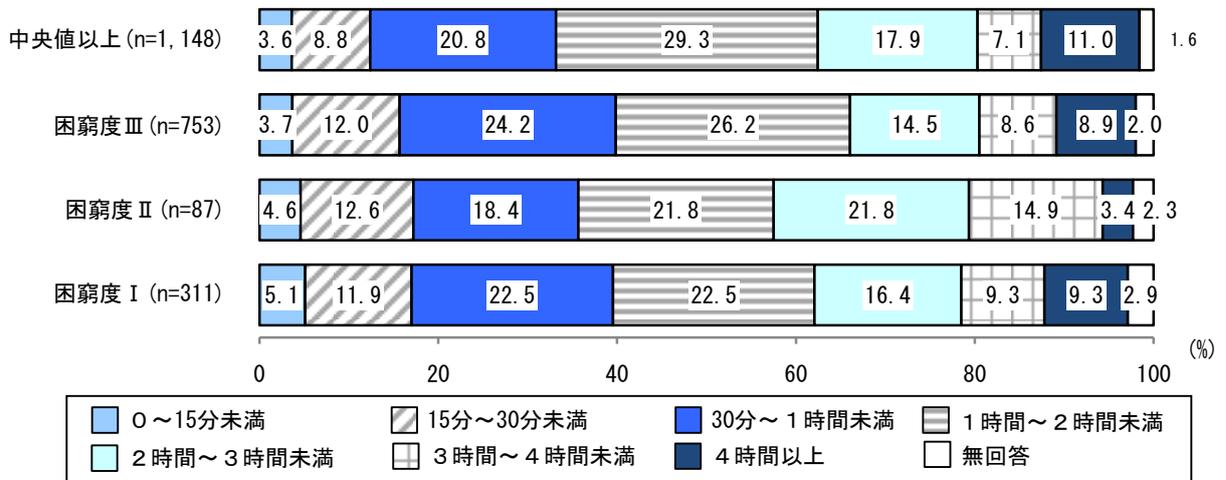
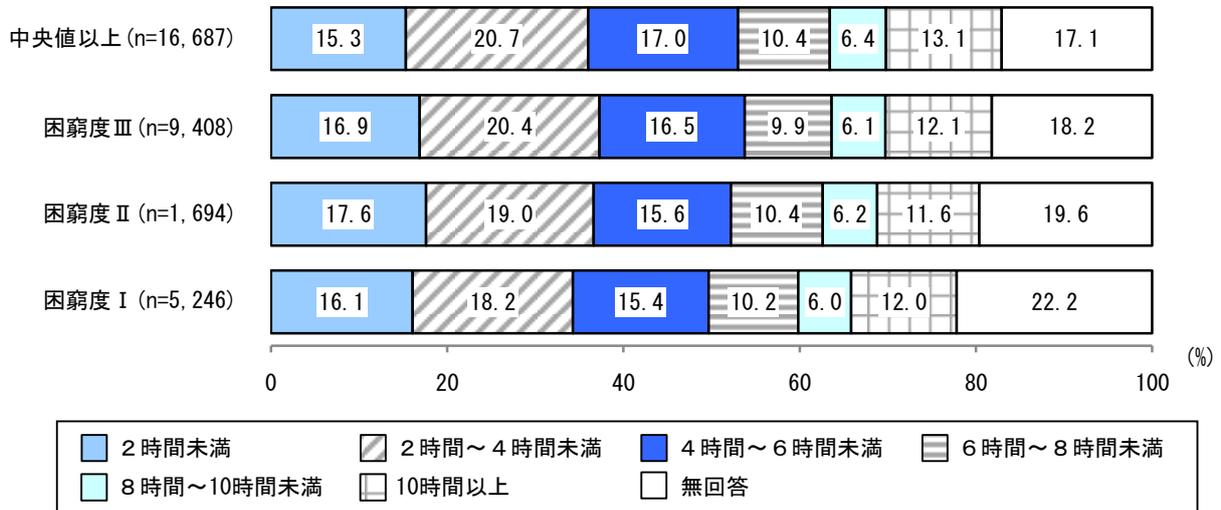


図 146. 困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間

困窮度別に平日での子どもとの関わり時間を見ると、「4時間以上」と回答した割合が中央値以上群で最も高く、11.0%である。

困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間（保護者票問 13(3)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

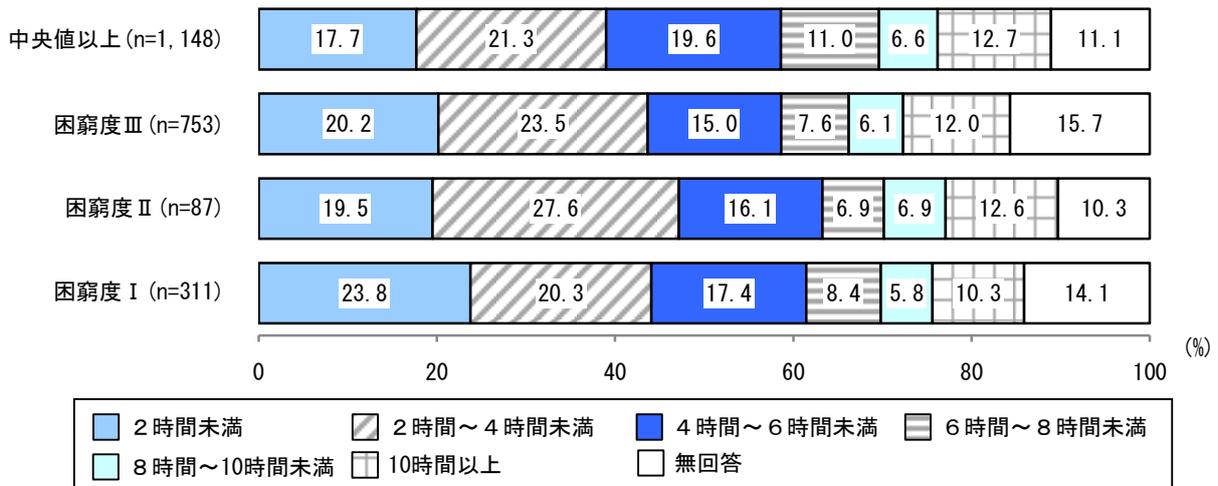
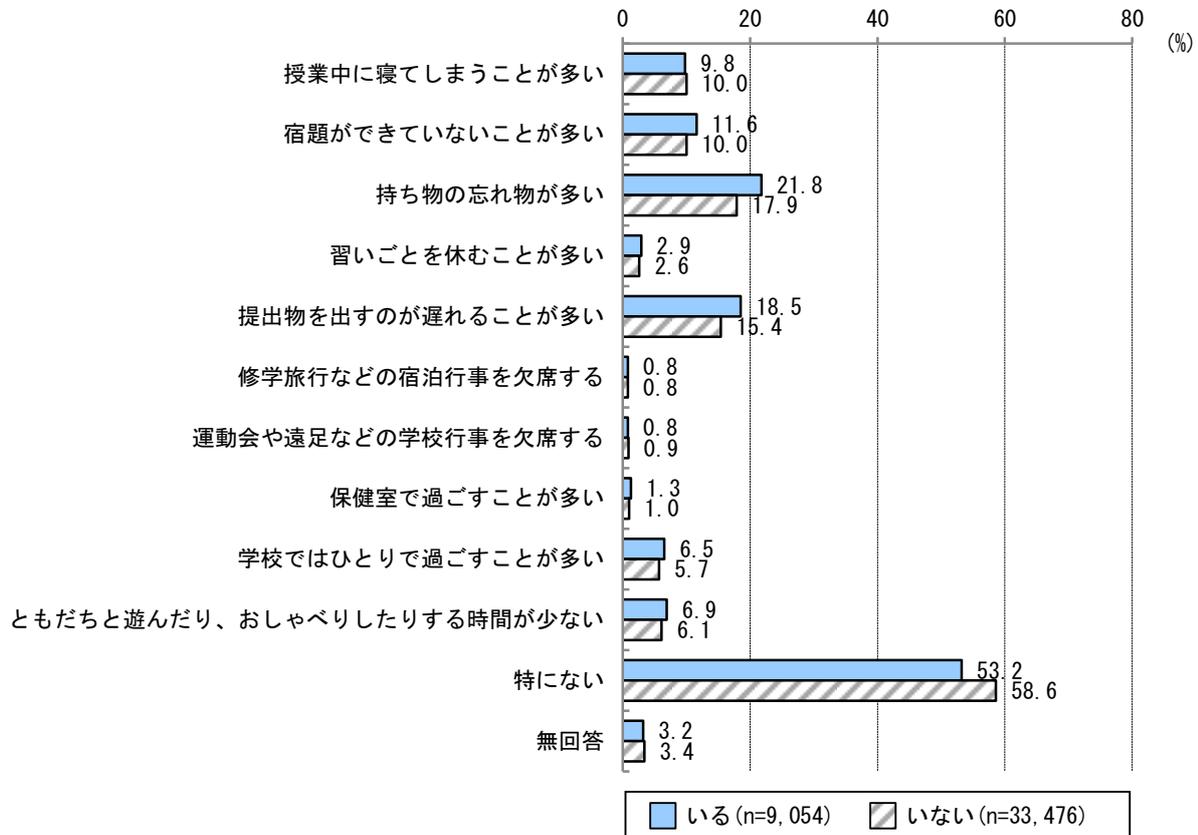


図 147. 困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間

困窮度別に休日での子どもとの関わり時間を見ると、「2時間未満」と回答した割合が困窮度Ⅰ群で最も高く、23.8%である。また、「2～4時間未満」と回答した割合は困窮度Ⅱ群で最も高く、27.6%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 16)

<大阪府内全体>



<豊中市>

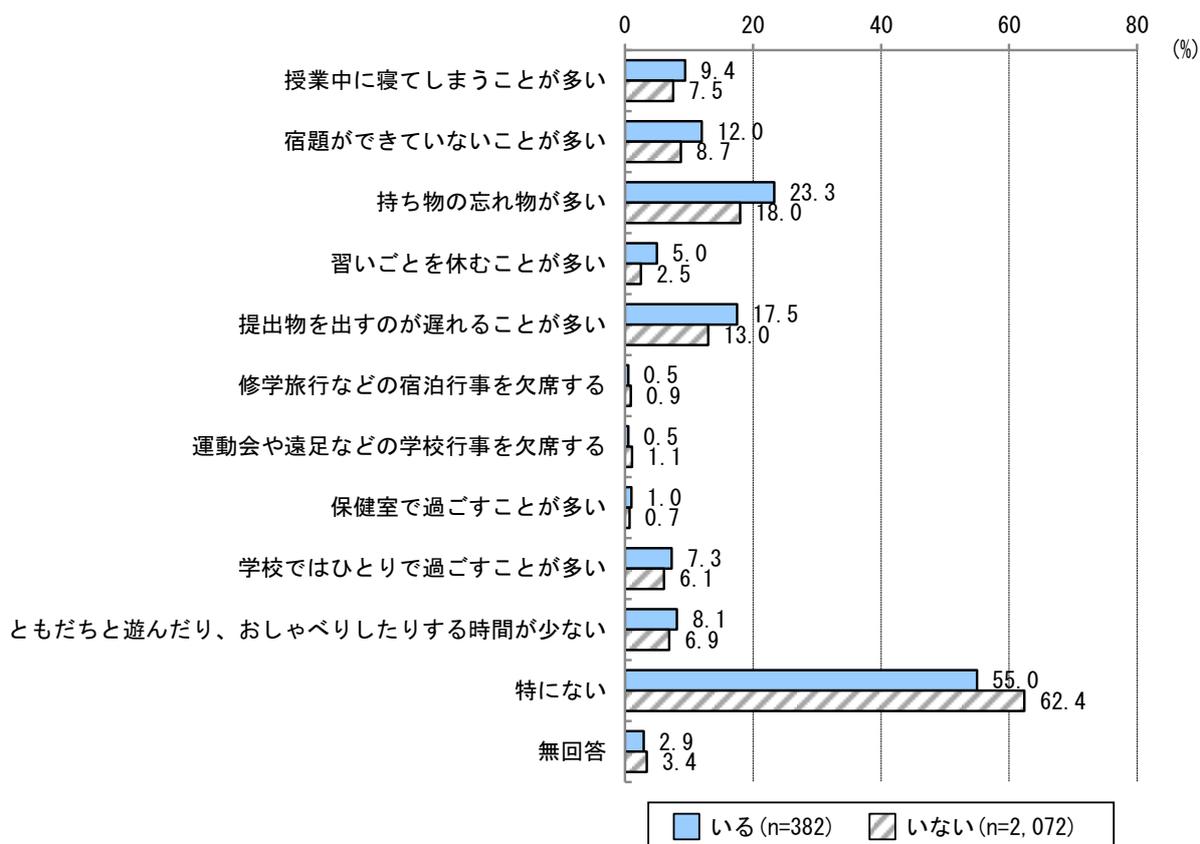
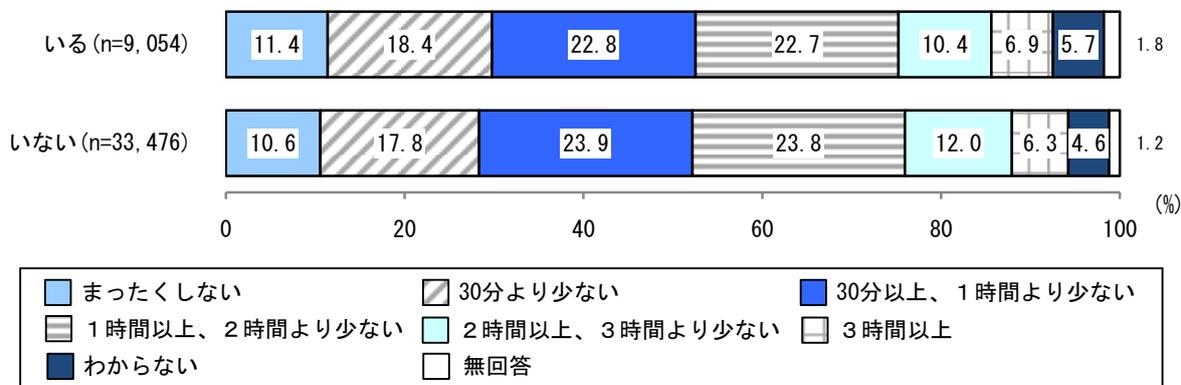


図 148. 自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況

自分が世話をしている人の有無別に学校や学校の行事等の状況を見ると、「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」、「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」を除いた回答の割合では、世話をしている人が「いない」割合より「いる」割合のほうが高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）（子ども票問 26(1) × 子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

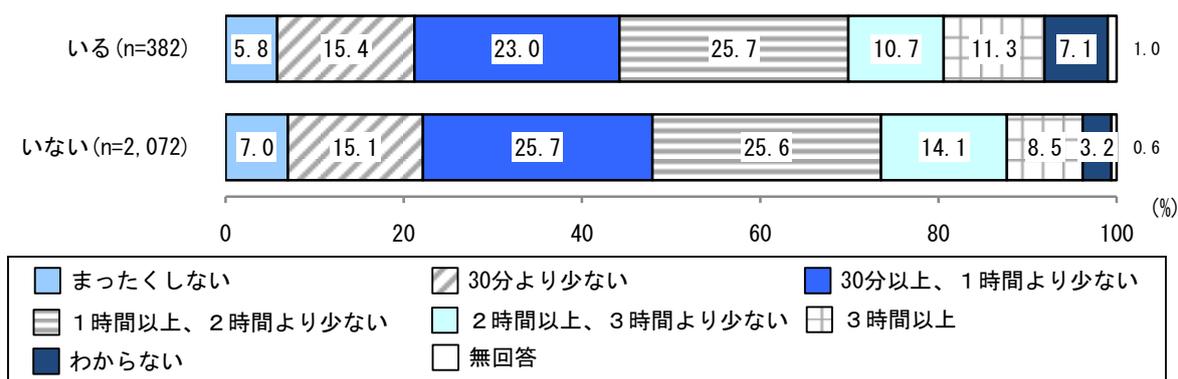
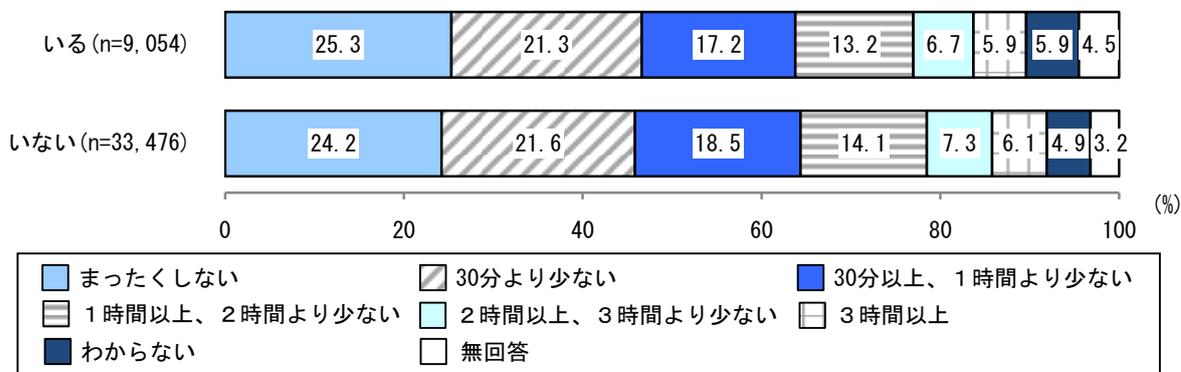


図 149. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がある日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、1時間以上勉強すると回答した人の割合は、「いる」人が47.7%、「いない」人が48.2%と「いない」人のほうが、割合が高い。

自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間 ②学校がない日（土・日曜日・祝日）（子ども票問26(1)×子ども票問13(2)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

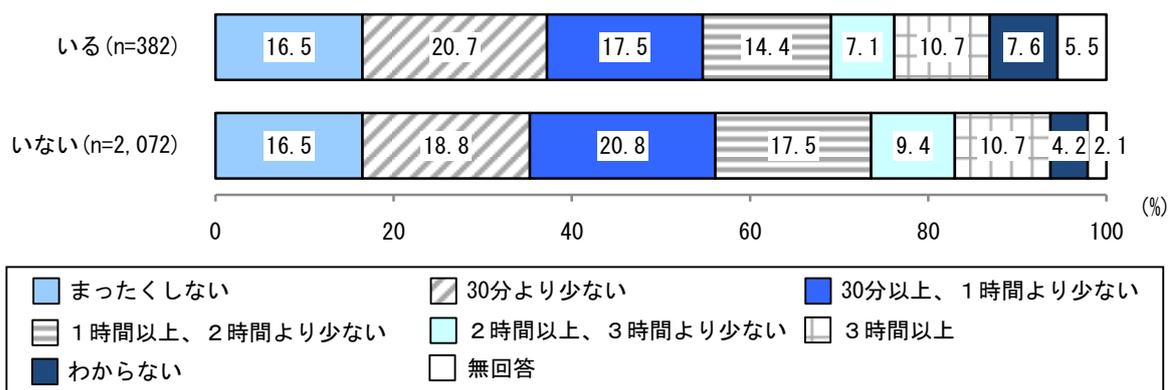


図 150. 自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）

自分が世話をしている人の有無別に学校がない日の授業時間以外の1日あたりの勉強時間を見ると、「まったくしない」と回答した人の割合は、世話をしている人が「いない」と「いる」人で差はみられない。

<家庭生活・学習に関する考察>

まず、経済状況と家庭生活における子どもと保護者のかかわりの関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目しながら確認する。おうちの大人の人と朝食をとる頻度を見ると、「ほとんど毎日」(52.2%対44.9%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ7.5ポイント高く、「まったくない」と「ほとんどない」の合計(33.8%対21.6%)が困窮度Ⅰ群では中央値以上群と比べ12.2ポイント高くなっている。おうちの大人の人に宿題(勉強)をみてもらう頻度を見ると、「ほとんど毎日」(14.5%対9.1%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ5.4ポイント高くなっている。おうちの大人の人と文化活動をする頻度を見ると、「まったくない」(31.2%対17.0%)が困窮度Ⅰ群では中央値以上群と比べ14.2ポイント高くなっている。子どもの将来への期待度を見ると、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「とても期待している」と「期待している」の合計(90.5%対74.9%)が15.6ポイント高くなっている。保護者が家にいる時間帯を見ると、「お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる」(56.5%対42.8%)が中央値以上群では困窮度Ⅰ群と比べ13.7ポイント高くなっているものの、「お子さんの夕食時間には家にいる」(45.3%対36.1%)の割合が困窮度Ⅰ群では高く、下校時間には間に合わない場合も夕食時間には帰宅できるよう努めていると考えられる。これらの結果から、朝の習慣や家庭学習環境などにおいて、経済的に困難な家庭では保護者とのかかわりが希薄になりやすい可能性があり、経済状況が保護者と子どもの間のコミュニケーションや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。

経済状況と子どもの学習にかかわる習慣や進学希望の関連について、困窮度が中央値以上群と困窮度Ⅰ群の間の差に着目して述べる。中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、通学状況を見ると、「ほぼ毎日通っている」(95.2%対85.2%)が10.0ポイント、学習理解度を見ると、「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計(91.0%対77.9%)が13.1ポイント高くなっている。一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、学校がある日の勉強時間を見ると、「まったくしない」(12.5%対4.4%)が8.1ポイント、学校がない日の勉強時間を見ると、「まったくしない」(25.9%対10.1%)が15.8ポイント、授業以外の読書時間を見ると、「まったくしない」(46.8%対28.8%)が18.0ポイント高くなっている。希望進学先を見ると、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、子どもの希望する進学先で「高校」(14.1%対4.0%)が10.1ポイント、保護者の希望する進学先でも「高校」(11.9%対1.7%)が10.2ポイント高くなっている。一方、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、子どもの希望する進学先で「大学」(51.4%対35.0%)が16.4ポイント、保護者の希望する進学先で「大学」(80.3%対58.5%)が21.8ポイント高くなっている。これらの結果から、経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や読書習慣が定着しにくく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。

続いて、朝の習慣や学校への遅刻状況と子どもの学習にかかわる習慣の関連について確認する。起床時間の規則性別に学習時間を見ると、ほぼ同じ時刻に「起きていない」群は「起きている」群と比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(23.9%対5.7%)が18.2ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(28.3%対14.7%)が13.6ポイント、授業以外の読書時間では「まったくしない」(65.2%対33.2%)が32.0ポイント高くなっている。朝食の頻度別に見ると、朝食を「食べない」群では「毎日またはほとんど毎日」食べる群に比べ、学校がある日の勉強時間では「まったくしない」(27.9%対5.8%)が22.1ポイント、学校がない日の勉強時間では「まったくしない」(51.2%対14.8%)が46.4ポイント、授業以外の読書時間では「まったくしない」(44.2%対32.7%)が11.5ポイント高くなっている。学校への遅刻別に学習習慣を見ると

では、「遅刻はしない」群は「毎日またはほとんど毎日」遅刻する群と比べ、希望する進学先では、「大学」(48.4%対31.2%)が17.2ポイント、学習理解度では「よくわかる」と「だいたいわかる」の合計(88.3%対67.6%)が20.7ポイント高くなっている。これらの結果から、朝の習慣が身についていないことは、学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、朝の習慣が身についていないと遅刻につながりやすく、授業を受けられない状況となるため学習理解に影響が出ている可能性がある。

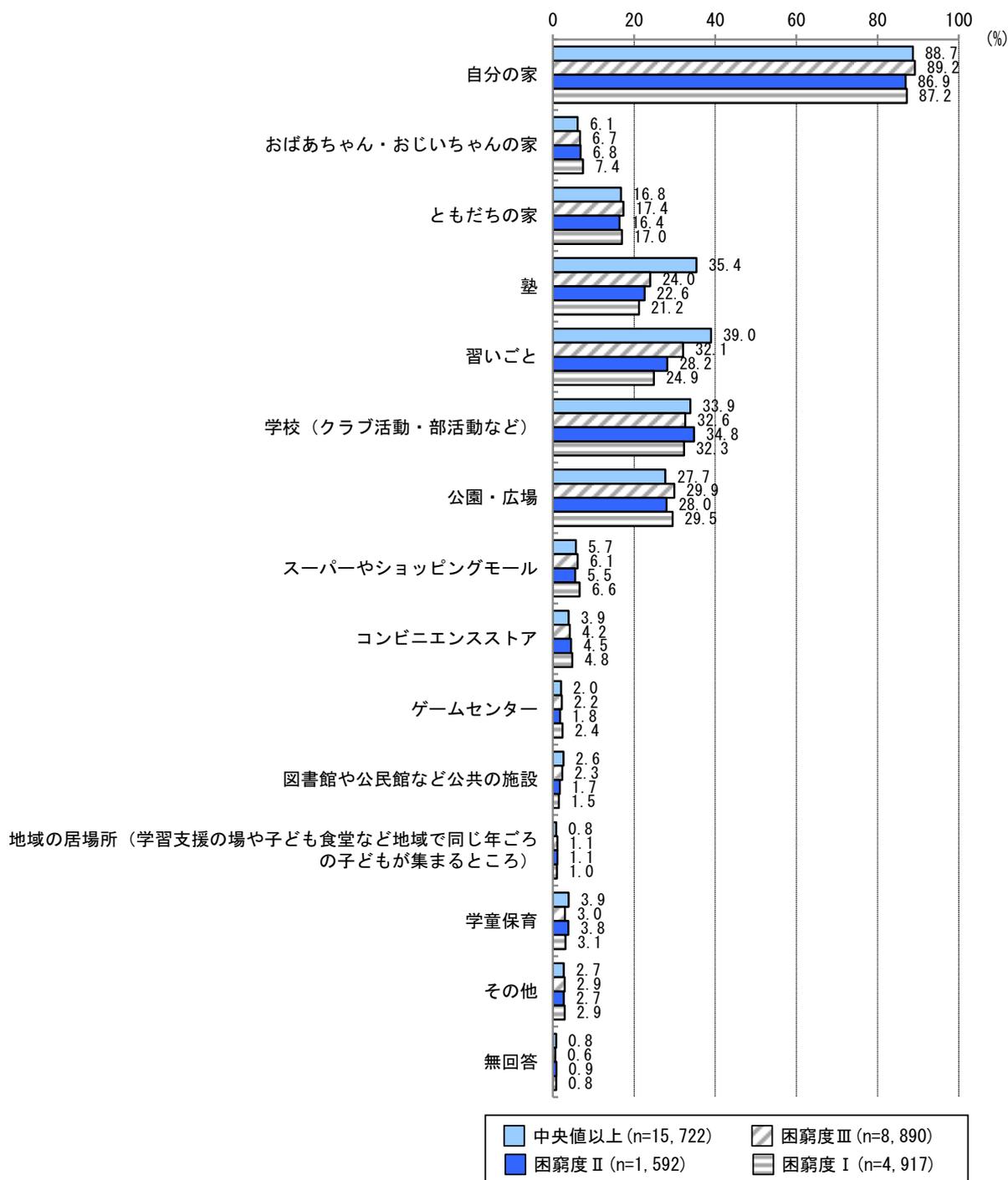
最後に、自分が世話をしている人の有無と学習状況の関連について確認する。世話をしている人が「いない」子どもは世話をしている人が「いる」子どもと比べ、学校への遅刻頻度では「遅刻はしない」(89.3%対83.8%)が5.5ポイント高くなっている。また、学校生活について気がかりなことでは「特にない」と回答する割合(62.4%対55.0%)が7.4ポイント高くなっている。一方、世話をしている人が「いる」子どもは世話をしている人が「いない」子どもと比べ、「学校や勉強のこと」で悩んでいる割合(27.2%対18.8%)が8.4ポイント高くなっており、これらの結果から、ヤングケアラーの可能性の高い子どもほど学校生活において問題や悩みを抱え、遅刻頻度が高まるなど学校生活に支障をきたしていると考えられる。

※参照データについては一部資料編に掲載

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後を過ごす場所（子ども票問11）

<大阪府内全体>



<豊中市>

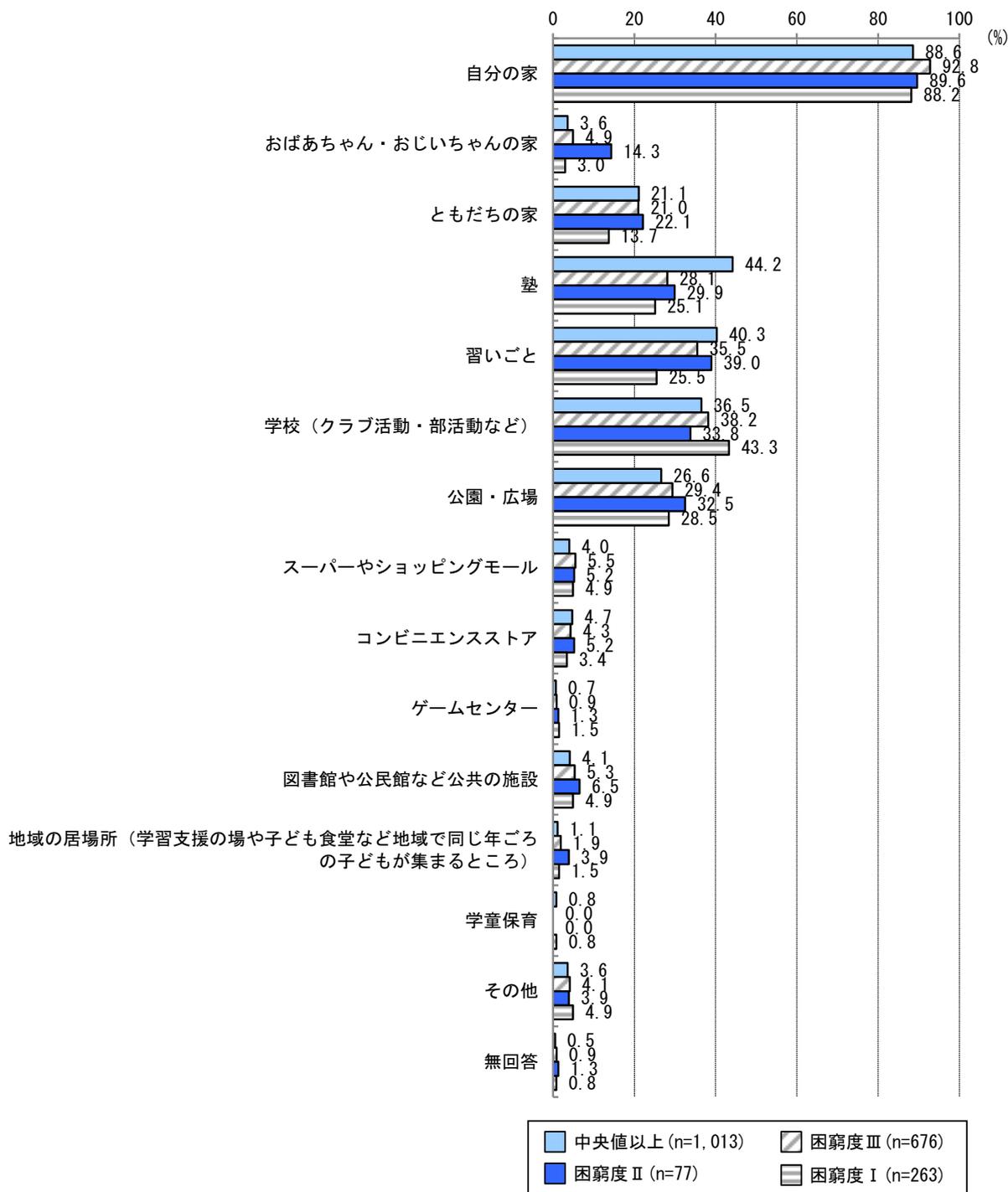
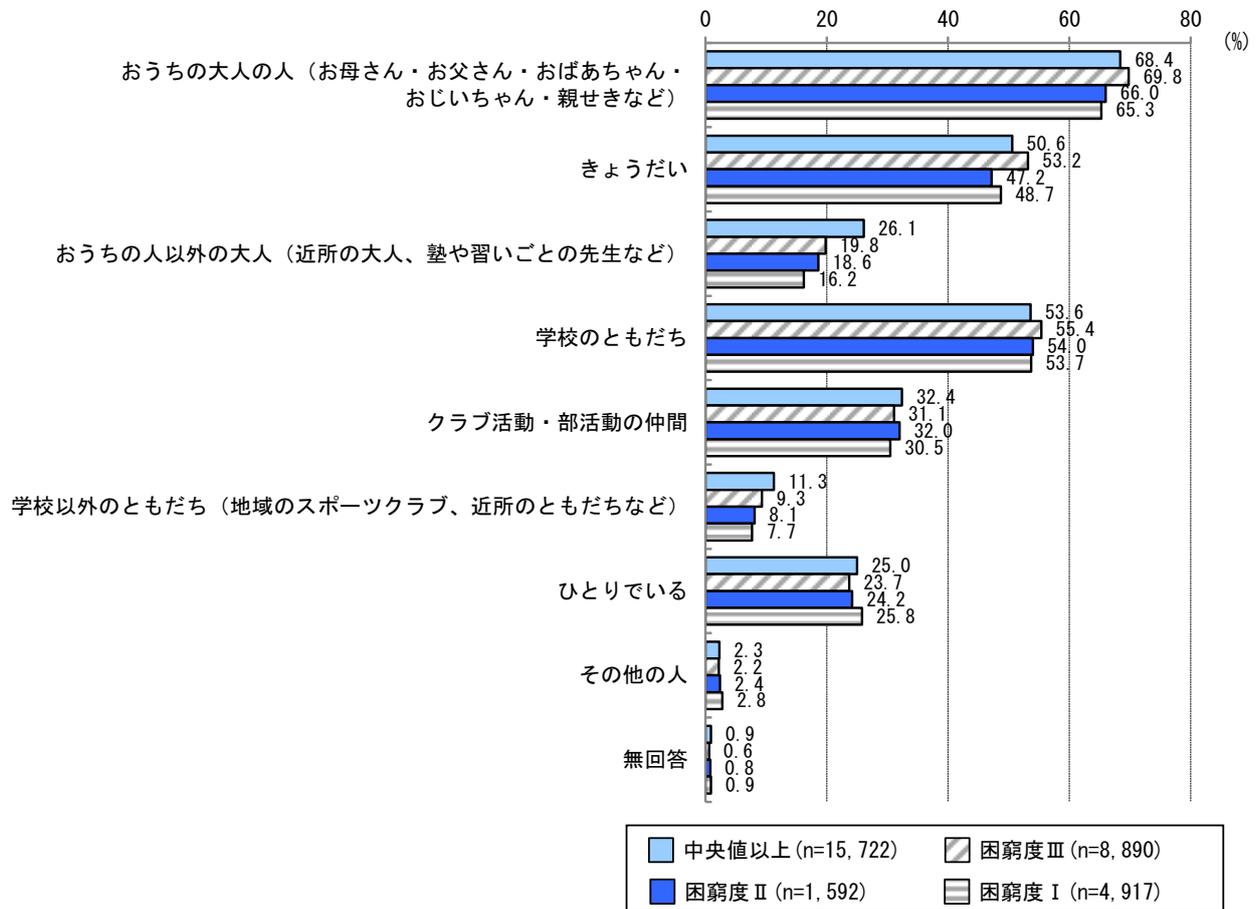


図 151. 困窮度別に見た、放課後を過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度 I 群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度 I 群の数値を挙げると、「ゲームセンター」1.5% (中央値以上群に対して2.1倍)、「地域の居場所 (学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところ)」1.5% (同じく1.4倍)、「学校 (クラブ活動・部活動など)」43.3% (同じく1.2倍) となっている。一方、中央値以上群では、「塾」44.2% (困窮度 I 群に対して1.8倍)、「習いごと」40.3% (同じく1.6倍)、「ともだちの家」21.1% (同じく1.5倍) などが高かった。

困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人（子ども票問10）

<大阪府内全体>



<豊中市>

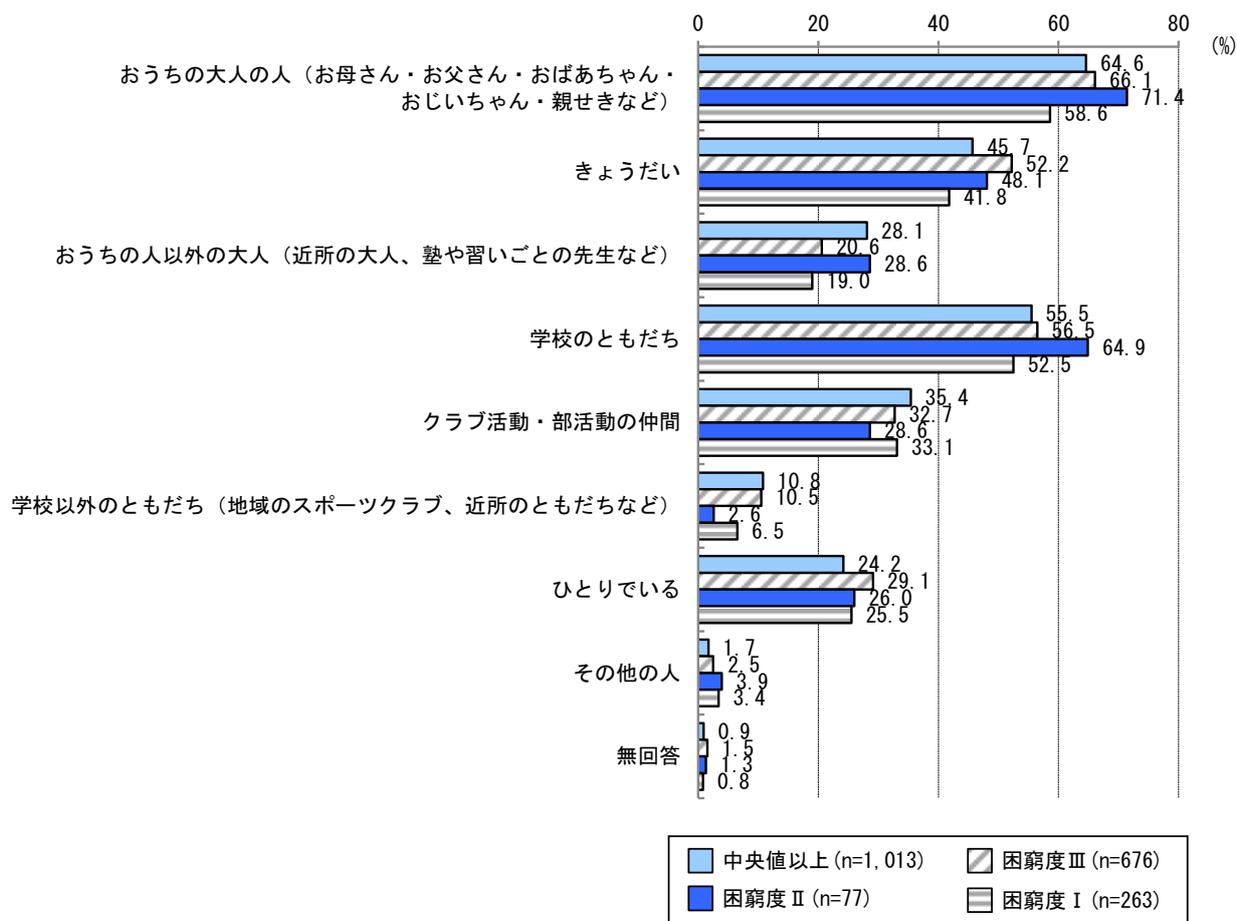
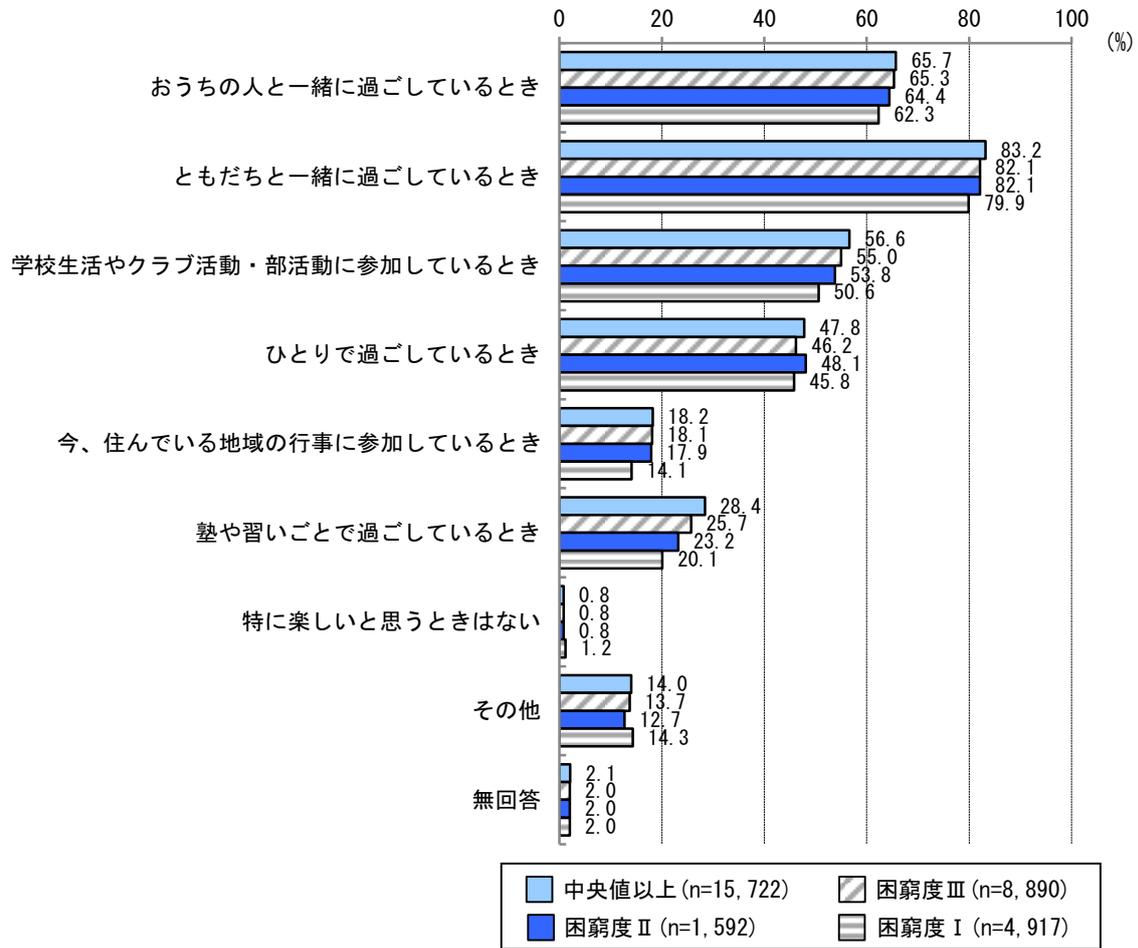


図 152. 困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、中央値以上群では「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」10.8%（困窮度Ⅰ群に対して1.7倍）、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」28.1%（同じく1.5倍）が高かった。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票問9）

<大阪府内全体>



<豊中市>

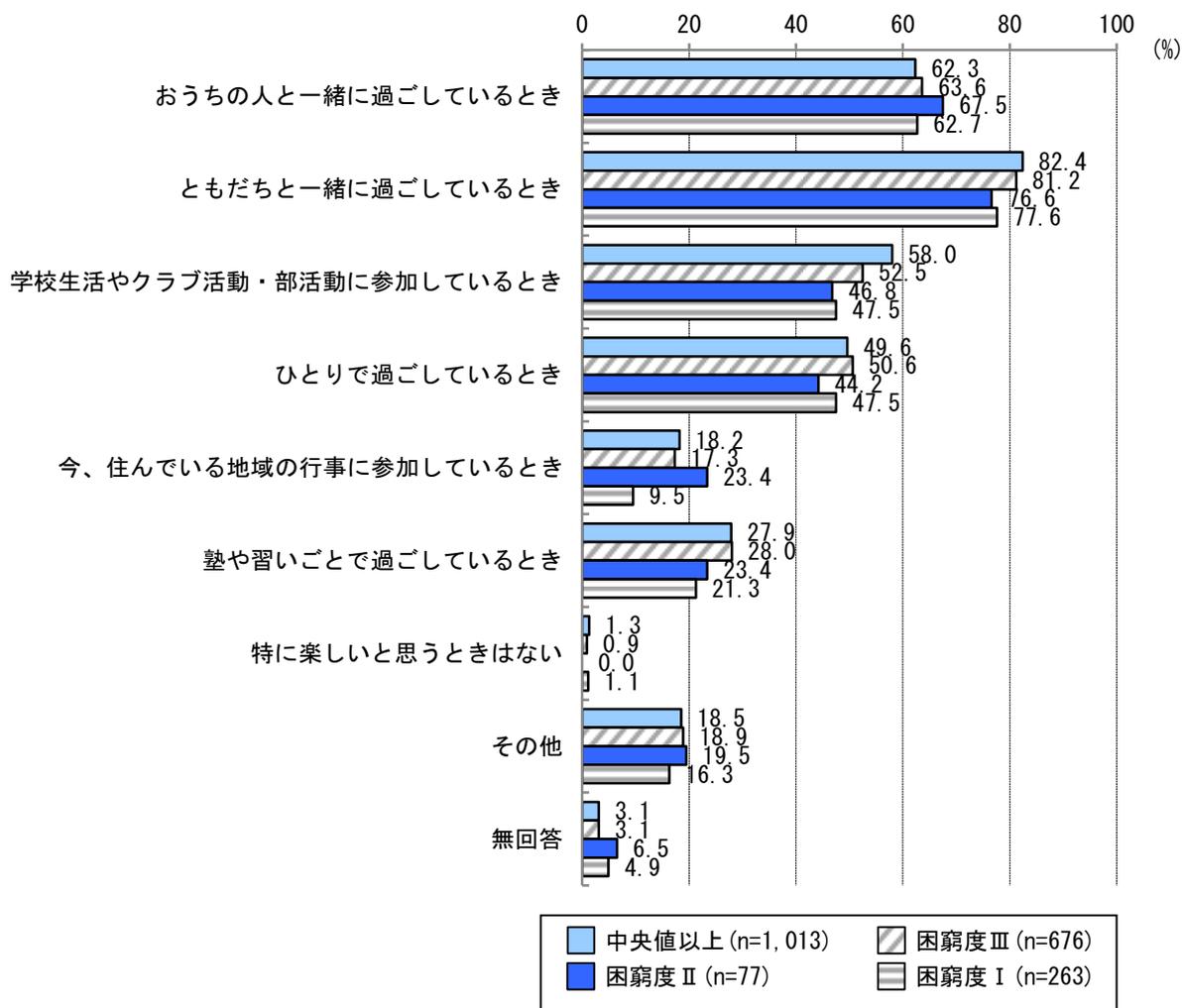
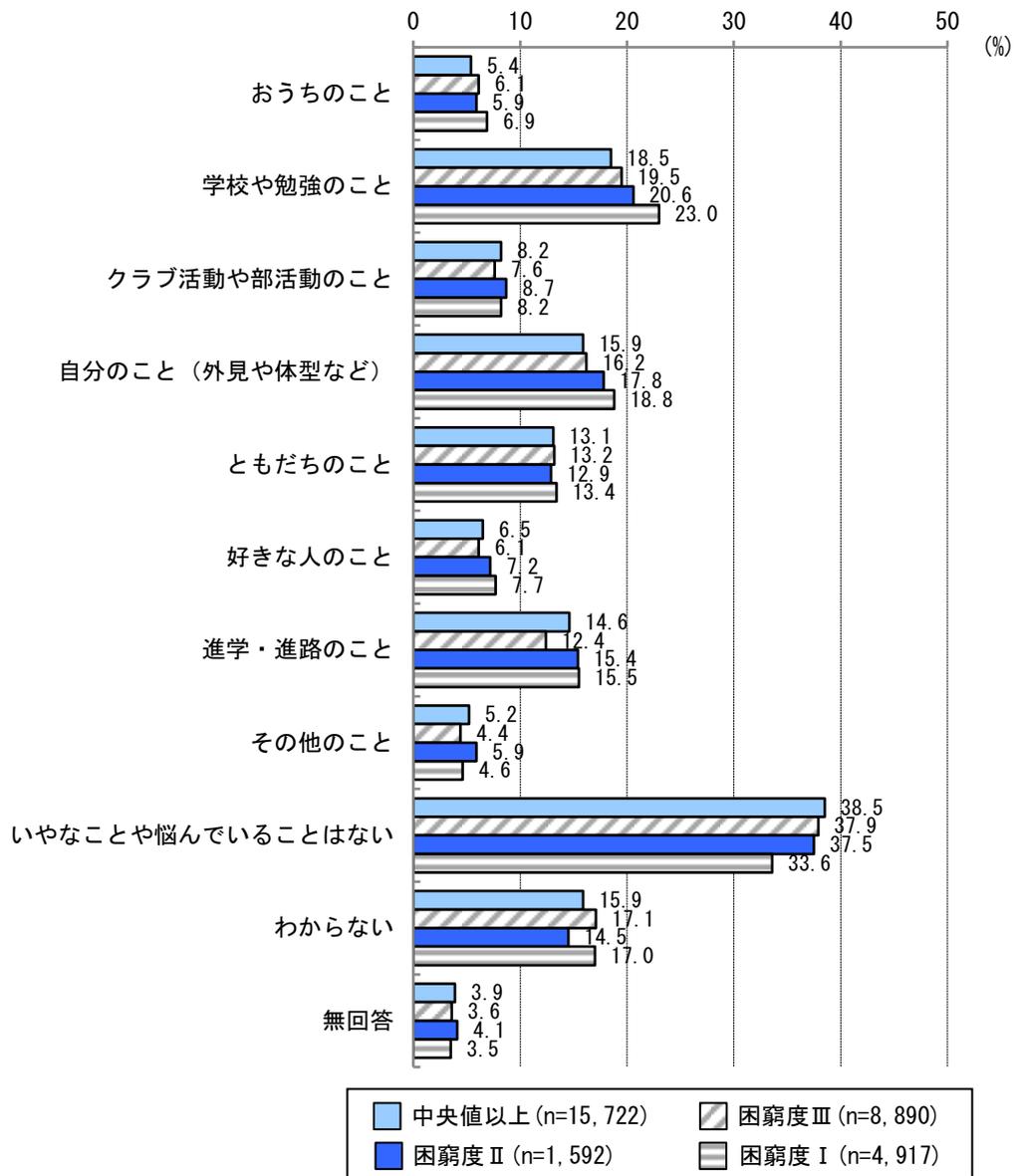


図 153. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、中央値以上群の数値を挙げると、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」18.2%（困窮度Ⅰ群に対して1.9倍）、「塾や習いごとで過ごしているとき」27.9%（同じく1.3倍）、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」58.0%（同じく1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること（子ども票問17）

<大阪府内全体>



<豊中市>

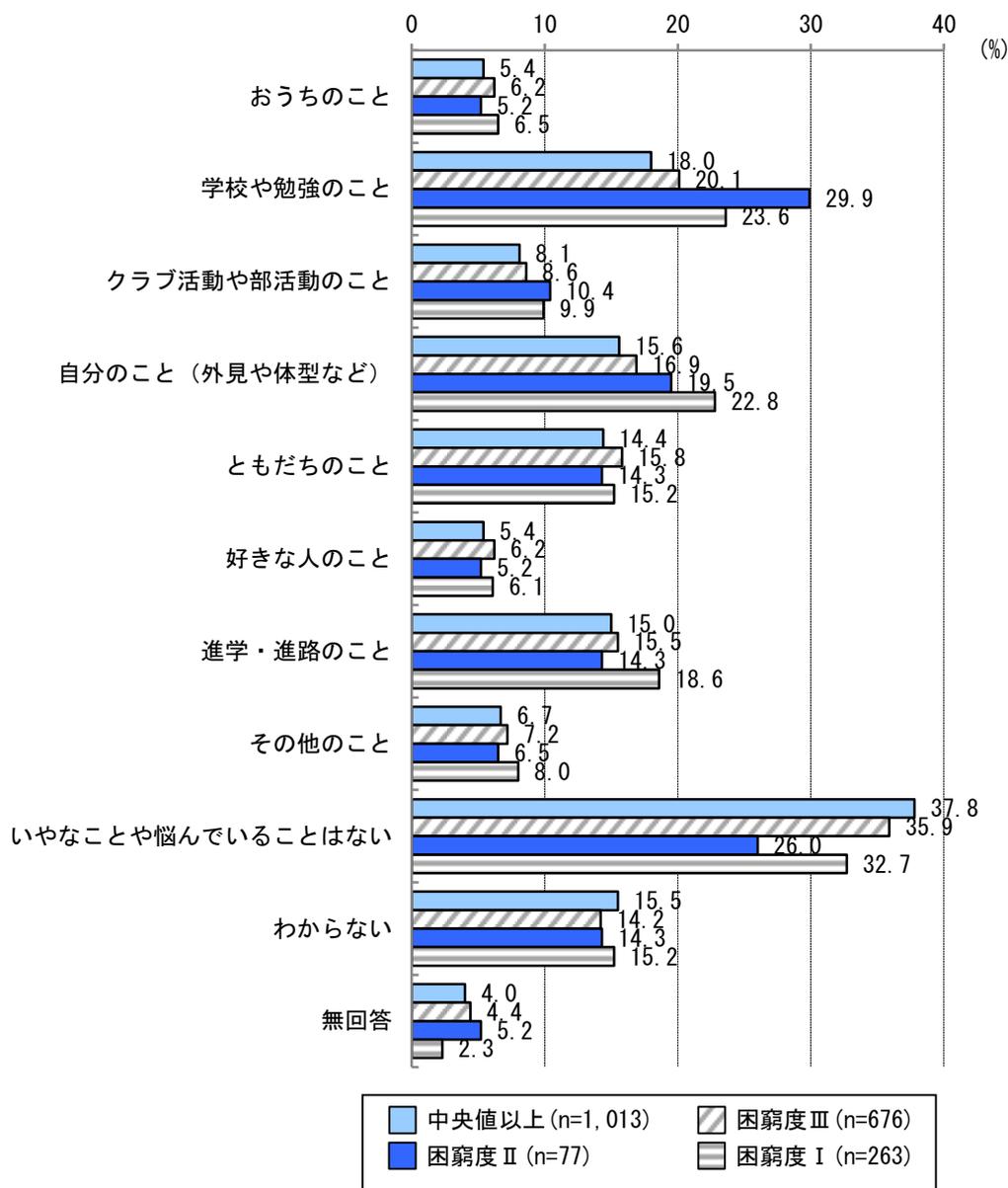
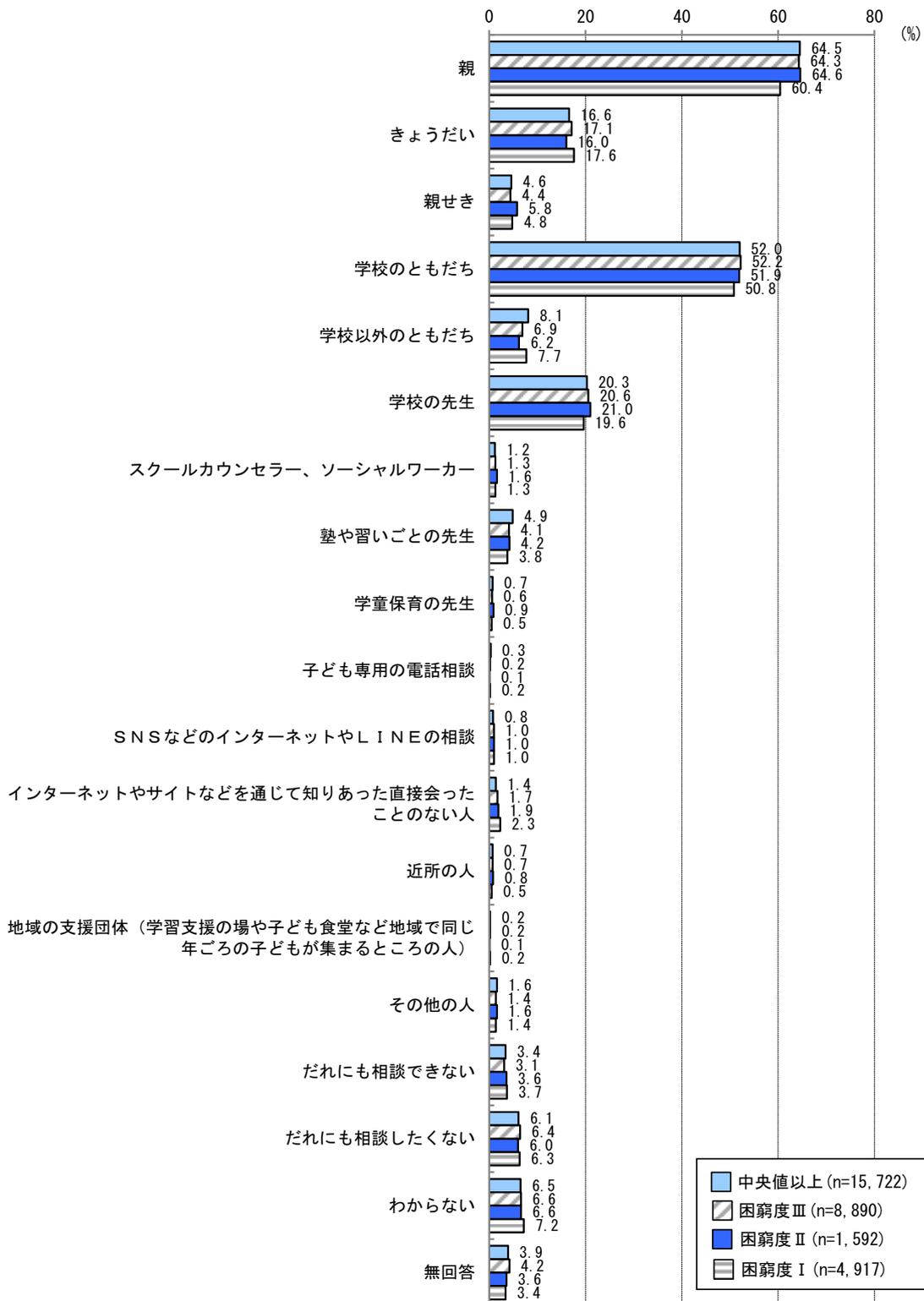


図 154. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「自分のこと (外見や体型など)」22.8% (中央値以上群に対して1.5倍)、「学校や勉強のこと」23.6% (同じく1.3倍)、「クラブ活動や部活動のこと」9.9% (同じく1.2倍)、「進学・進路のこと」18.6% (同じく1.2倍)が高く、中央値以上群では「いやなことや悩んでいることはない」37.8% (困窮度Ⅰ群に対して1.2倍)が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問18）

<大阪府内全体>



<豊中市>

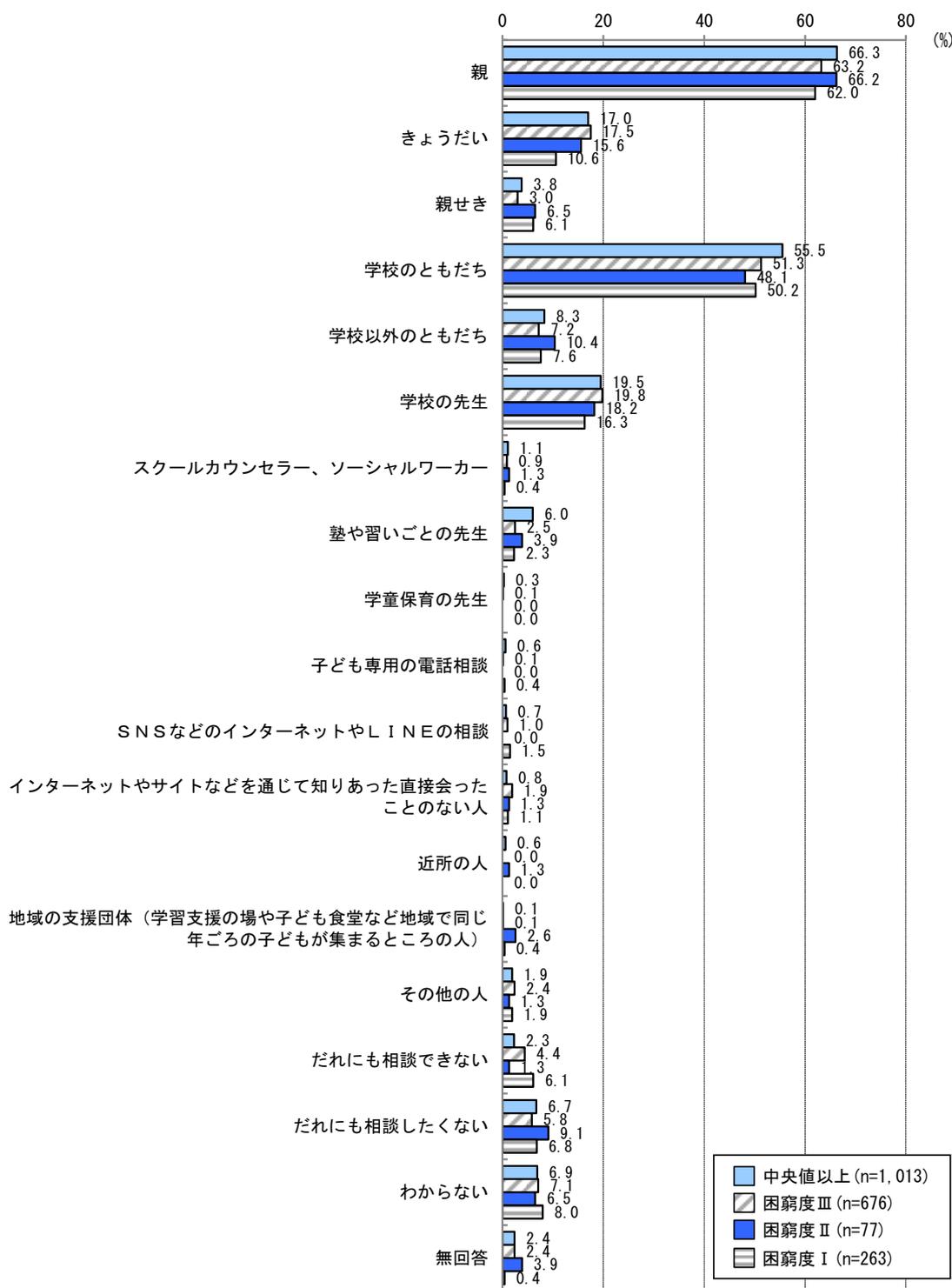
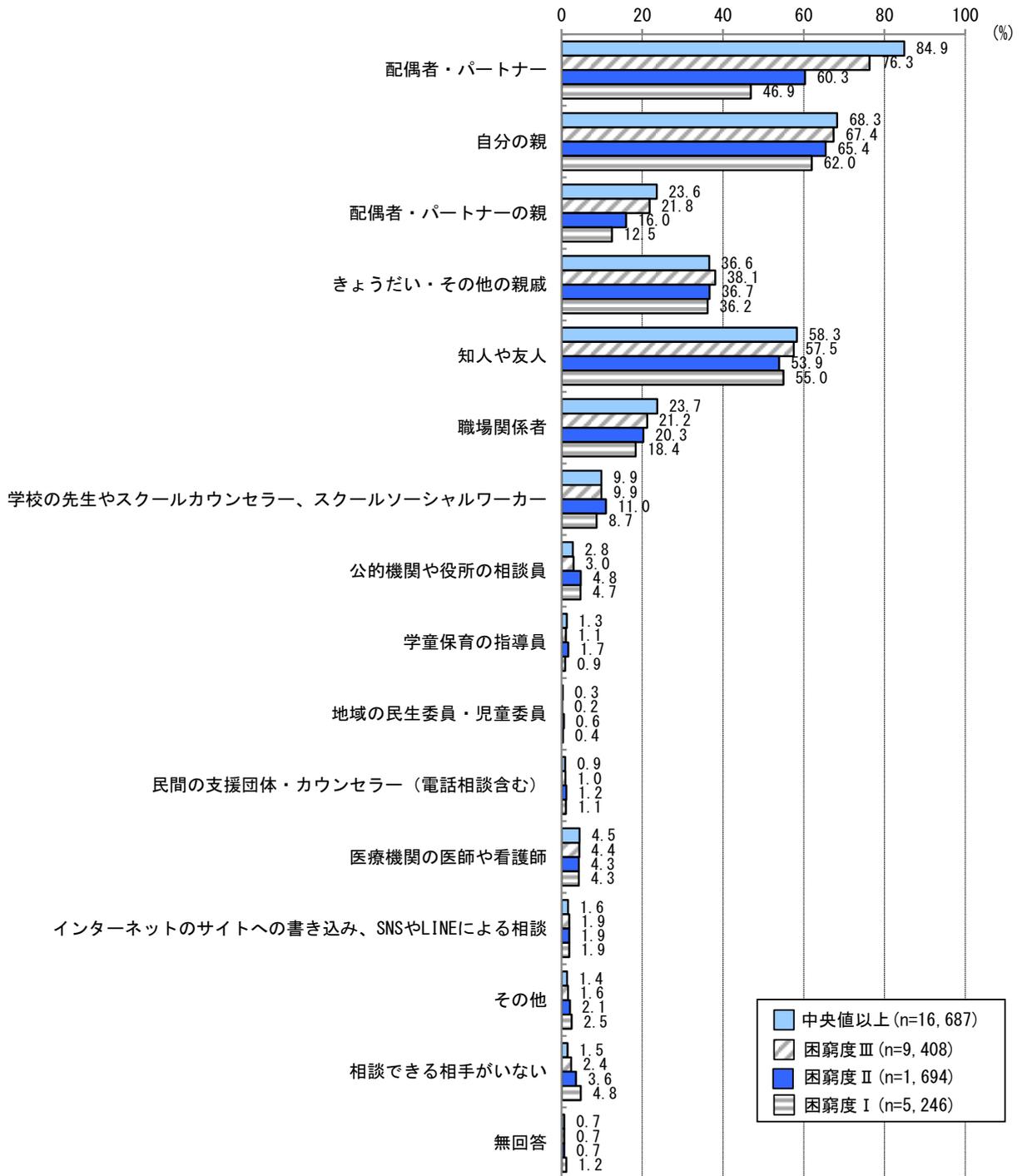


図 155. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「地域の支援団体（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まるところの人）」0.4%（中央値以上群に対して4.0倍）、「だれにも相談できない」6.1%（同じく2.7倍）、「SNSなどのインターネットやLINEの相談」1.5%（同じく2.1倍）となっている。

困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 19）

<大阪府内全体>



<豊中市>

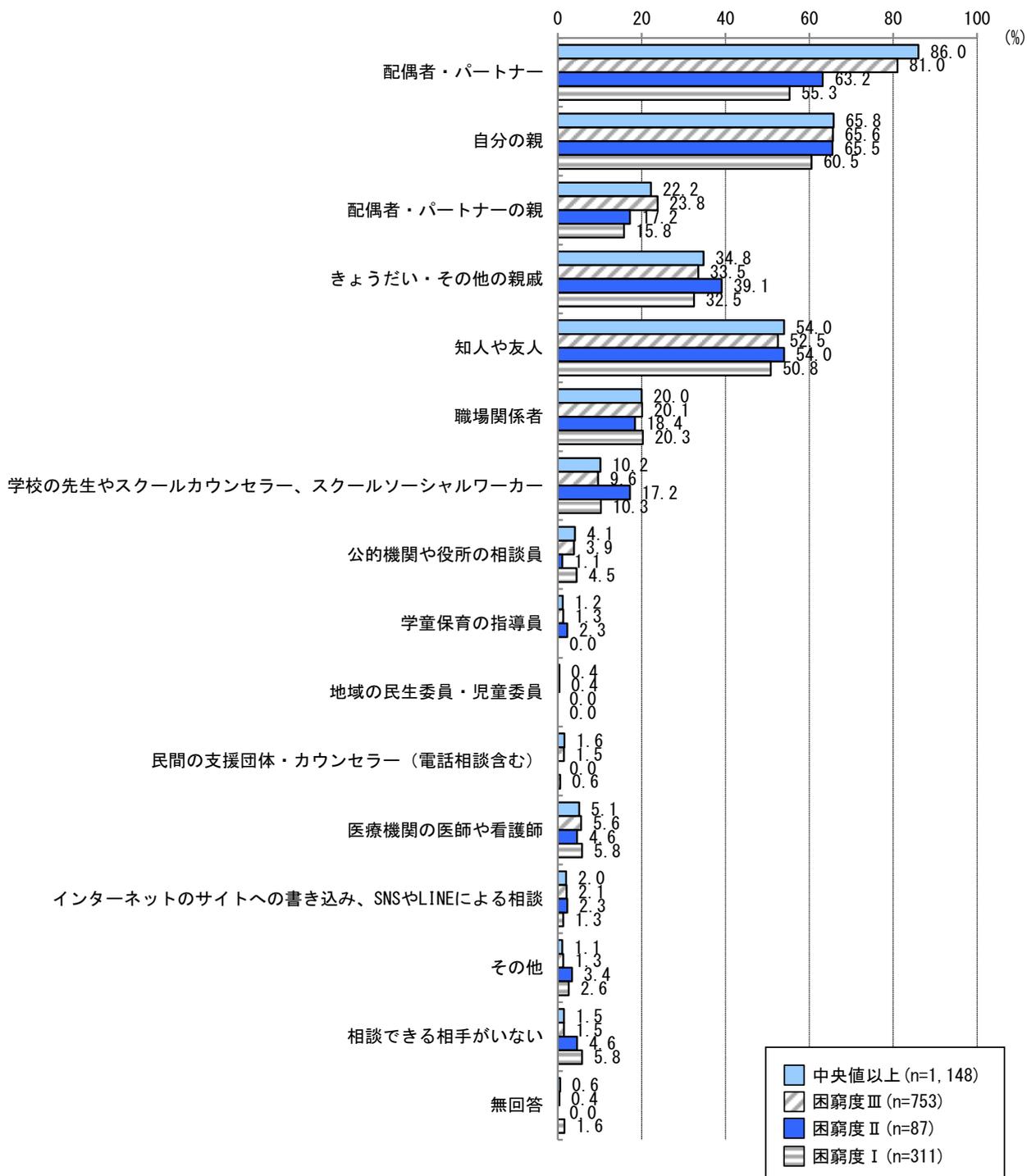
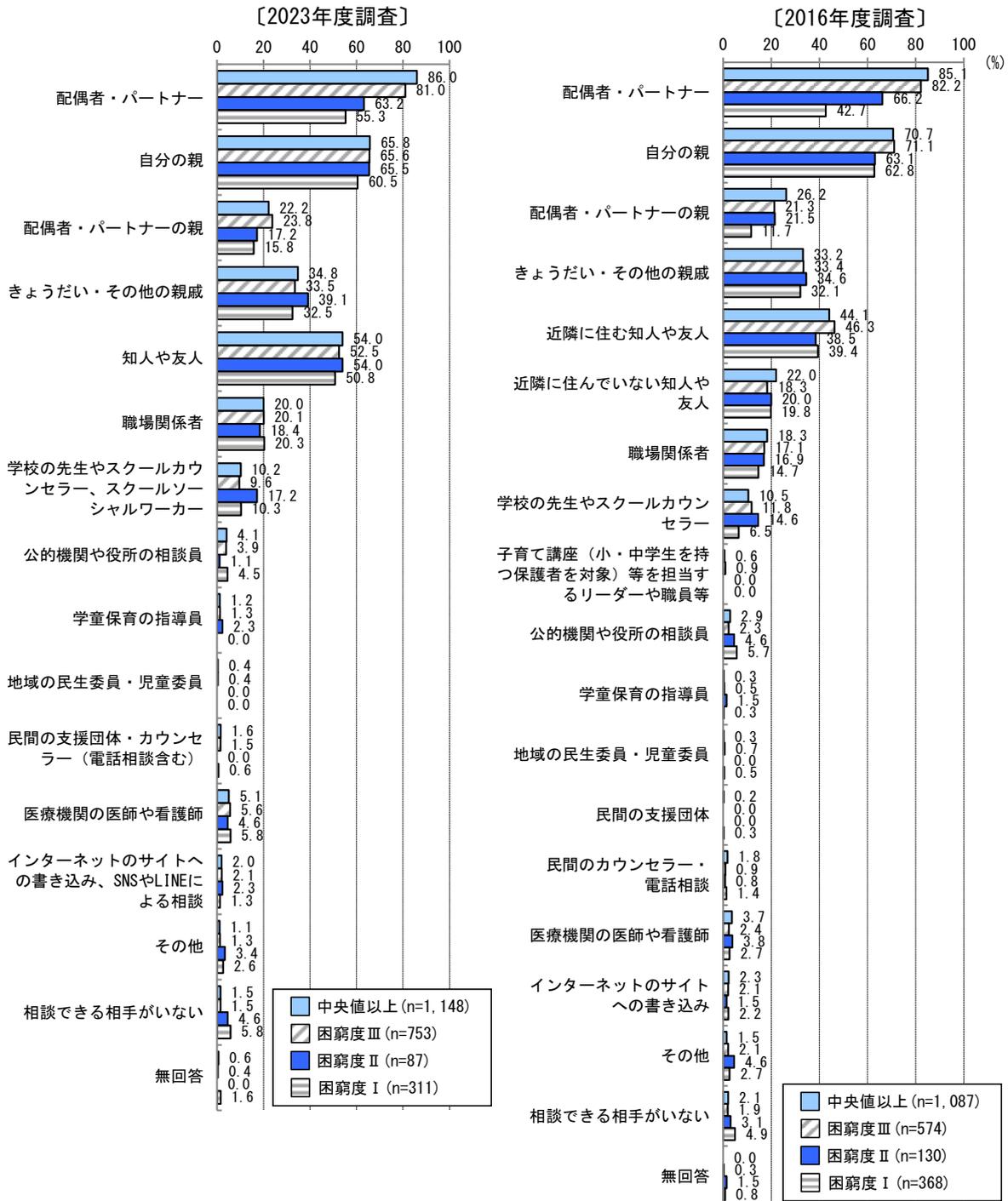


図 156. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

困窮度別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」5.8%（中央値以上群に対して3.9倍）、「公的機関や役所の相談員」4.5%（同じく1.1倍）、「医療機関の医師や看護師」5.8%（同じく1.1倍）となっている。

中央値以上群の数値を挙げると、「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」1.6%（困窮度Ⅰ群に対して2.7倍）、「配偶者・パートナー」86.0%（同じく1.6倍）、「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」2.0%（同じく1.5倍）となっている。

<2016 年度調査との比較／豊中市>



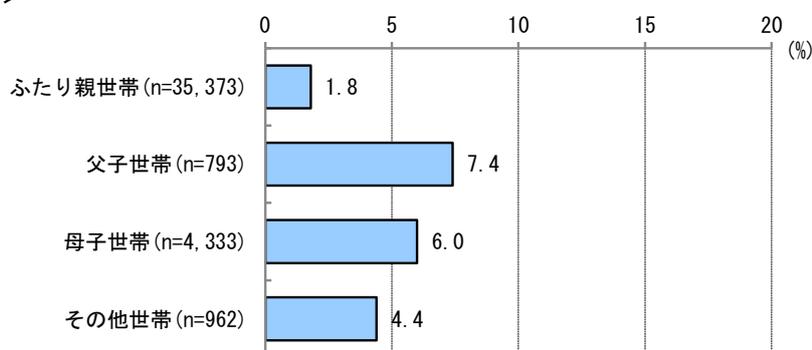
※1 「知人や友人」は、2016年度調査では「近隣に住む知人や友人」と「近隣に住んでいない知人や友人」
 ※2 「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」は、2016年度調査では「学校の先生やスクールカウンセラー」
 ※3 2016年度調査の「子育て講座（小・中学生を持つ保護者を対象）等を担当するリーダーや職員等」は今回は削除
 ※3 「民間の支援団体・カウンセラー（電話相談含む）」は、2016年度調査では「民間の支援団体」と「民間のカウンセラー・電話相談」
 ※4 「インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談」は、2016年度調査では「インターネットのサイトへの書き込み」

図 157. 困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（2016年度調査との比較）

2016年度調査と比較すると、「きょうだい・その他の親せき」、「職場関係者」と回答した割合は、いずれの困窮度も2016年度調査に比べて高くなっている。

世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合
(保護者票問2×保護者票問19)

<大阪府内全体>



<豊中市>

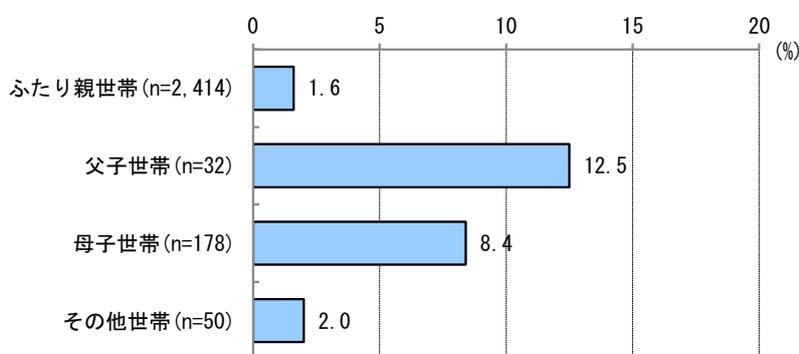


図 158. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合

世帯構成別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合を見ると、「相談できる相手がない」と回答した人は、父子世帯で12.5%、母子世帯で8.4%いる。

<2016年度調査との比較／豊中市>

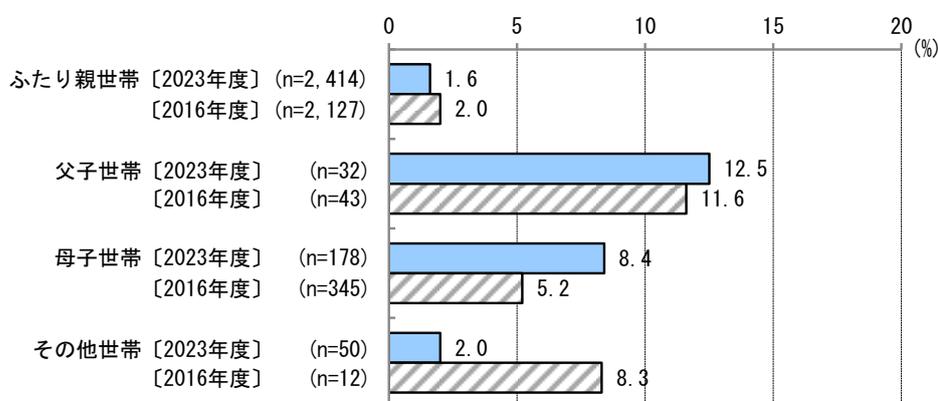
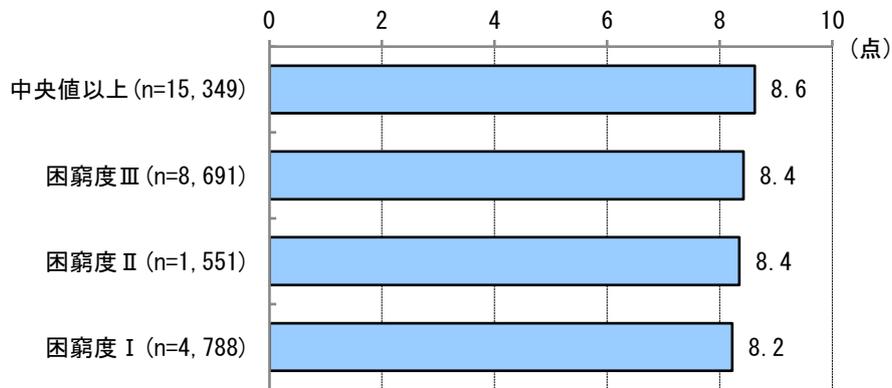


図 159. 世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合 (2016年度調査との比較)

2016年度調査と比較すると、父子世帯と母子世帯の割合は、2016年度調査に比べて高くなっており、一方で、ふたり親世帯、その他世帯は2016年度調査に比べて割合が低くなっている。

困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）（子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<豊中市>

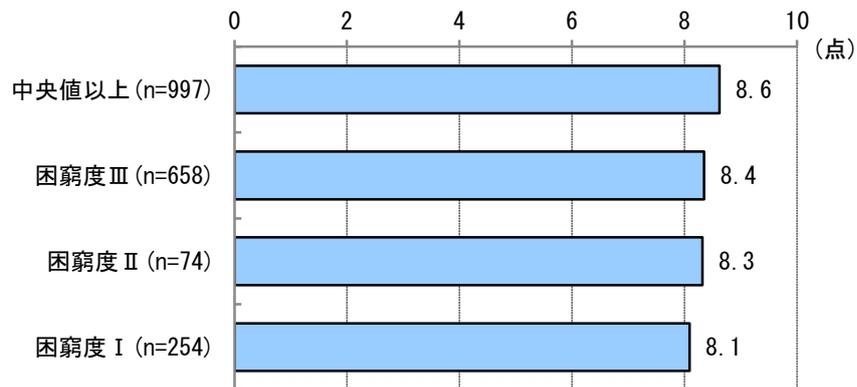
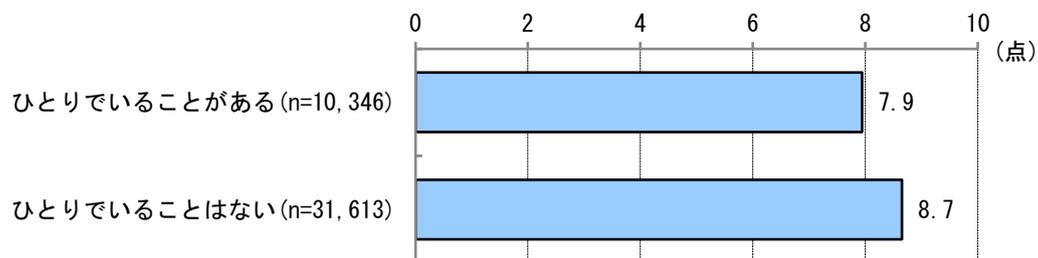


図 160. 困窮度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、困窮度が高くなるにつれ、セルフ・エフィカシーが低くなっている。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（子ども票問 10×子ども票問 23）

<大阪府内全体>



<豊中市>

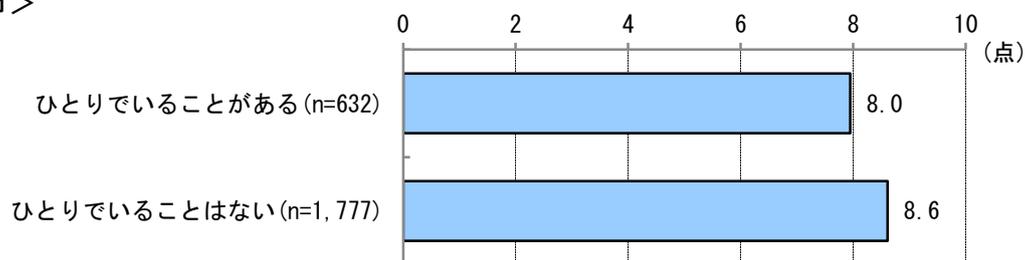


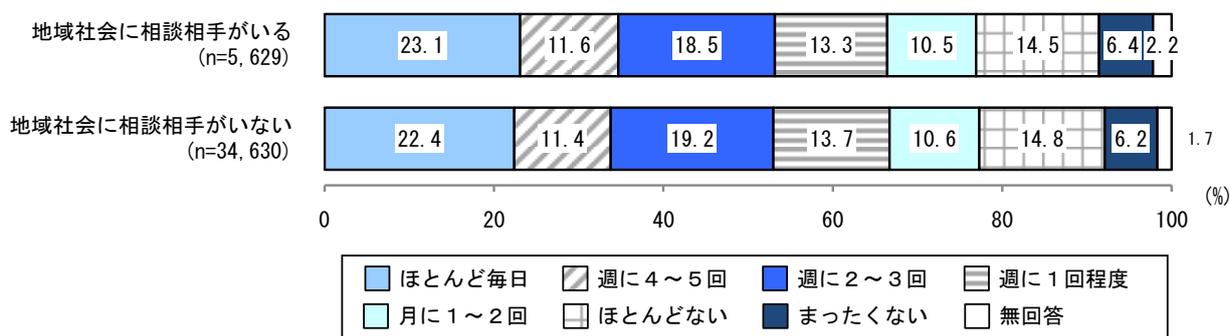
図 161. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)を見ると、放課後ひとりで過ごす子どものほうがそれでない子どもよりも自己効力感(セルフ・エフィカシー)が低かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか
 (保護者票問 19×子ども票問 8④)

※「あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか」という問に対し、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」「公的機関や役所の相談員」「学童保育の指導員」「地域の民生委員・児童委員」「民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)」「医療機関の医師や看護師」のうち少なくとも1つを選択した人を、「地域社会に相談相手がいる」とした。

<大阪府内全体>



<豊中市>

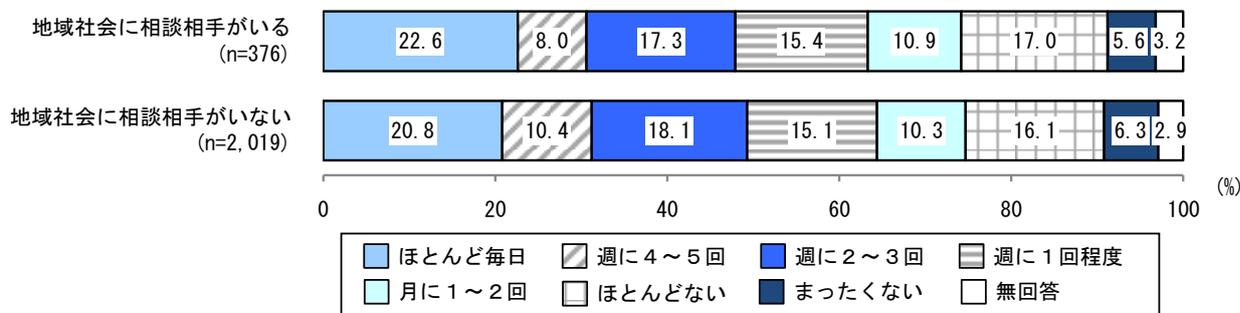
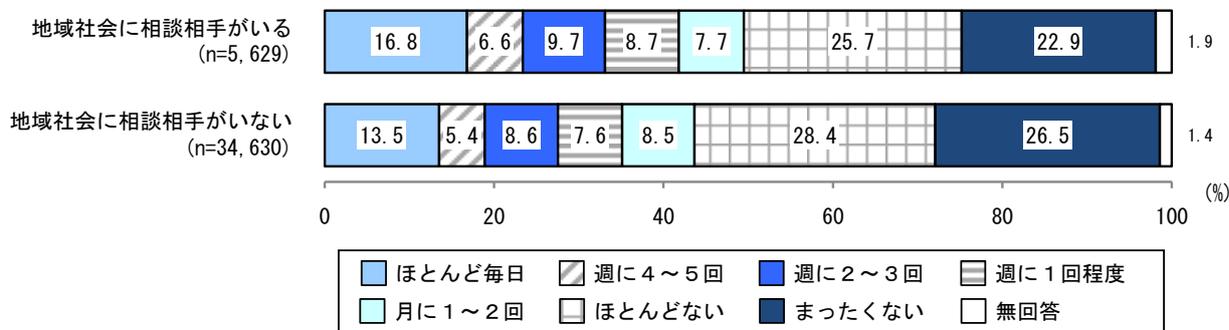


図 162. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、家の手伝いをしているかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人のほうが、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもがおうちの手伝いをしているかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか
 （保護者票問 19×子ども票問 8⑤）

<大阪府内全体>



<豊中市>

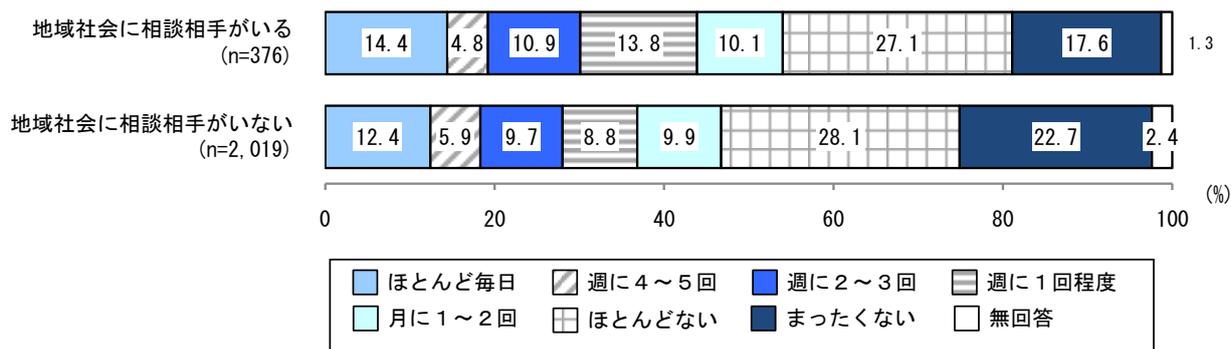
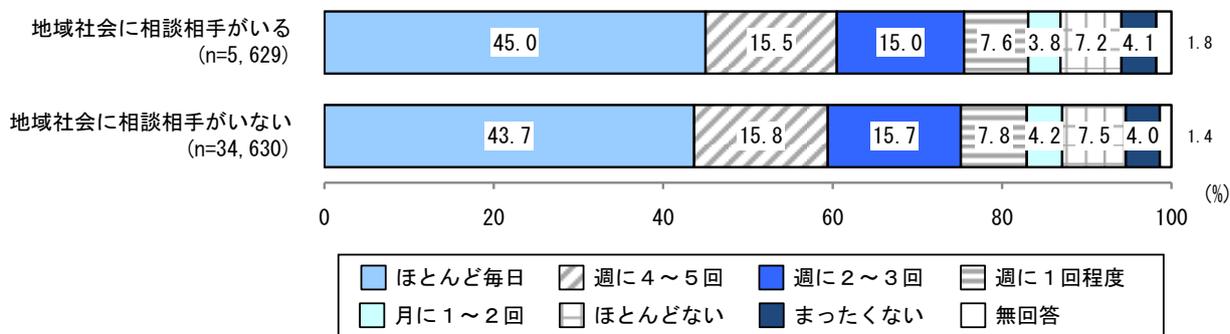


図 163. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人のほうが、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっているかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか
 (保護者票問 19×子ども票問 8⑥)

<大阪府内全体>



<豊中市>

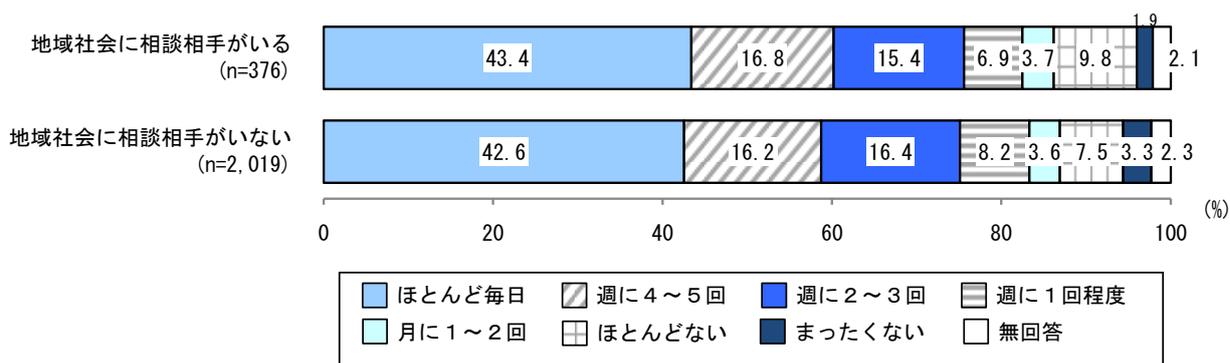
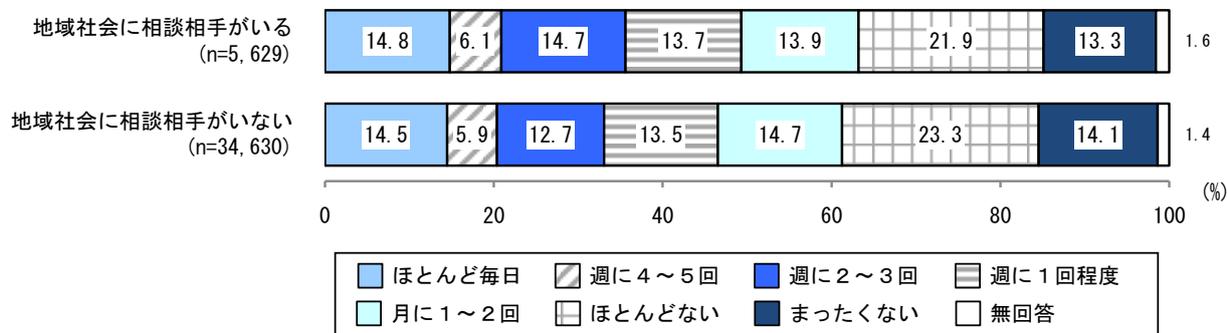


図 164. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」人のほうが、「地域社会に相談相手がない」人よりも、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか
 (保護者票問 19×子ども票問 8 ⑦)

<大阪府内全体>



<豊中市>

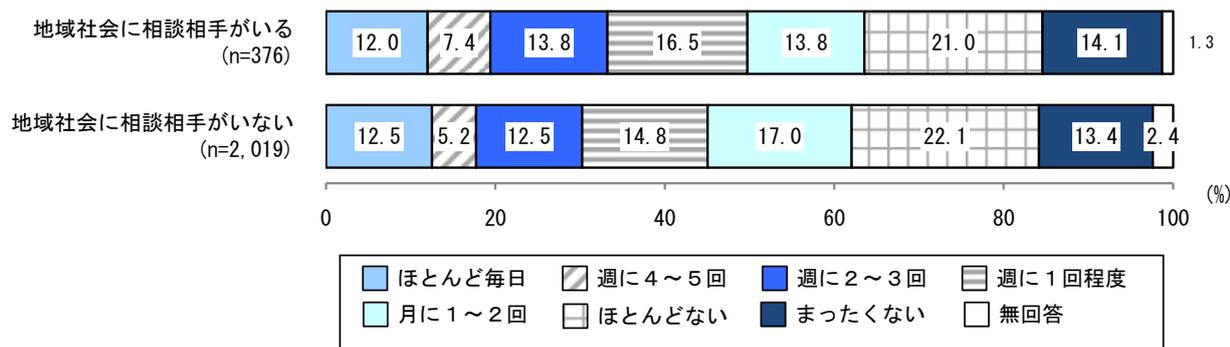
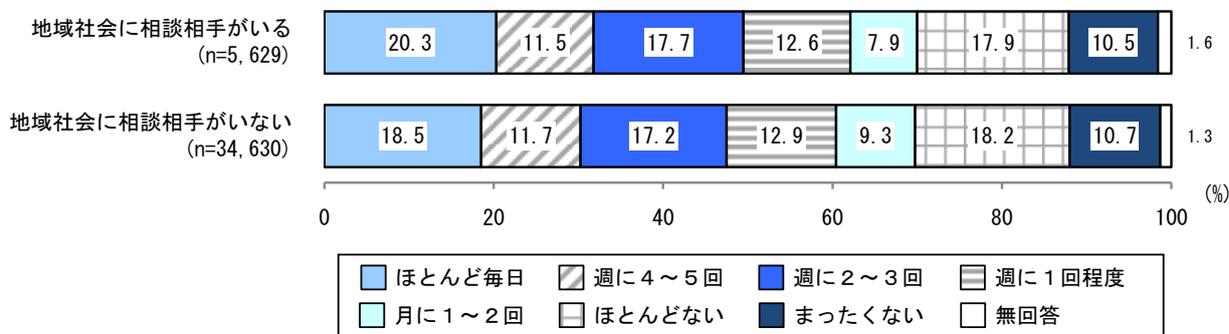


図 165. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人のほうが、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするかに「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか（保護者票問 19×子ども票問 8 ⑧）

<大阪府内全体>



<豊中市>

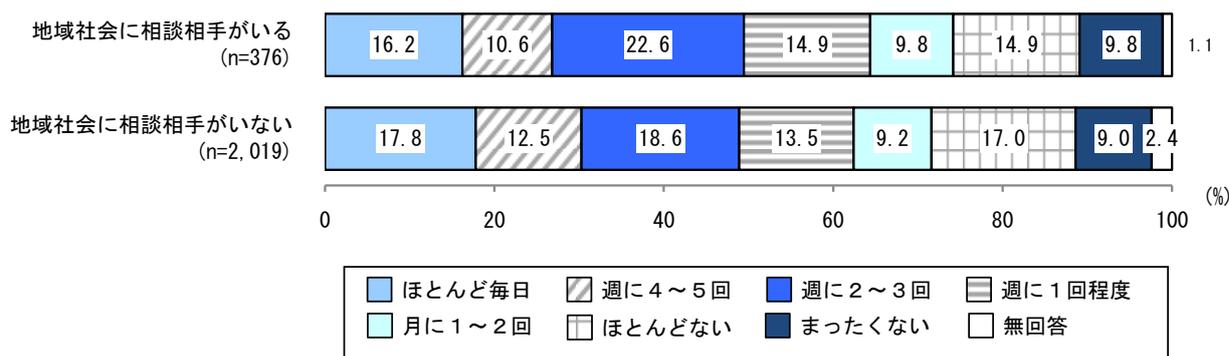
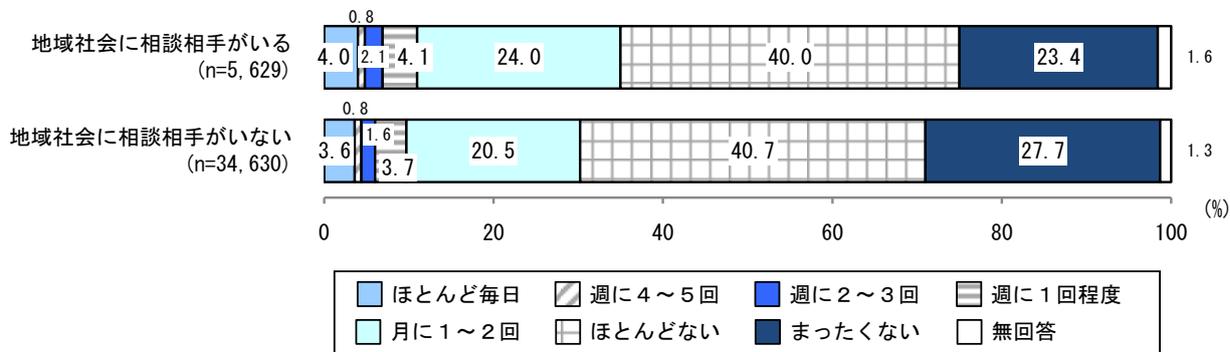


図 166. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人のほうが、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すかに「ほとんど毎日」、「週に4～5回」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか
 (保護者票問 19×子ども票問 8 ㉑)

<大阪府内全体>



<豊中市>

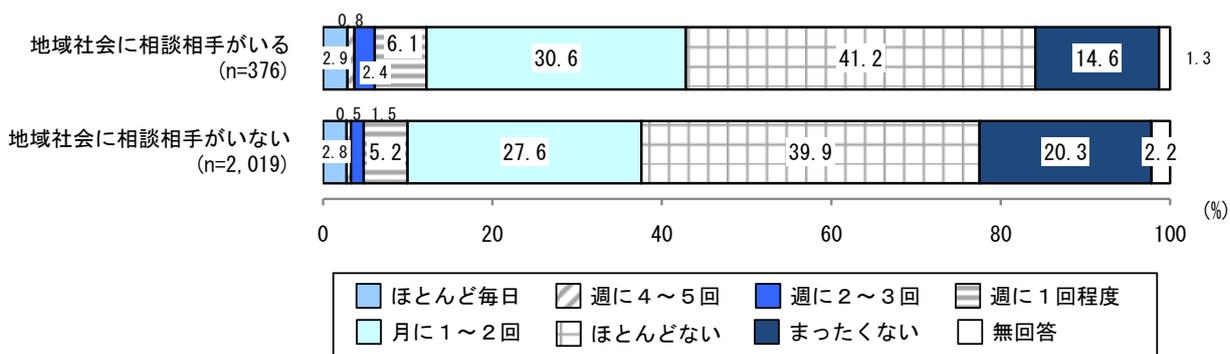
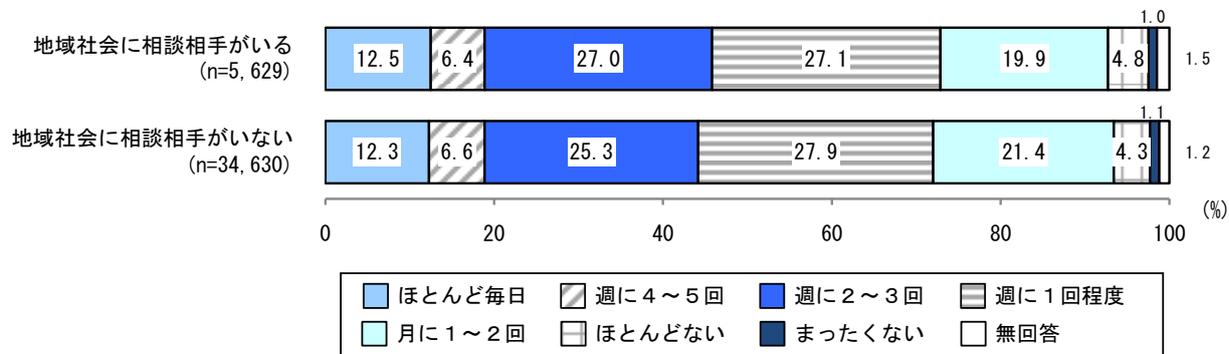


図 167. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と文化活動をするかを見ると、「地域社会に相談相手がない」人のほうが、「地域社会に相談相手がいる」人よりもおうちの人と文化活動をするかに「まったくない」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか
 (保護者票問 19×子ども票問 8 ⑩)

<大阪府内全体>



<豊中市>

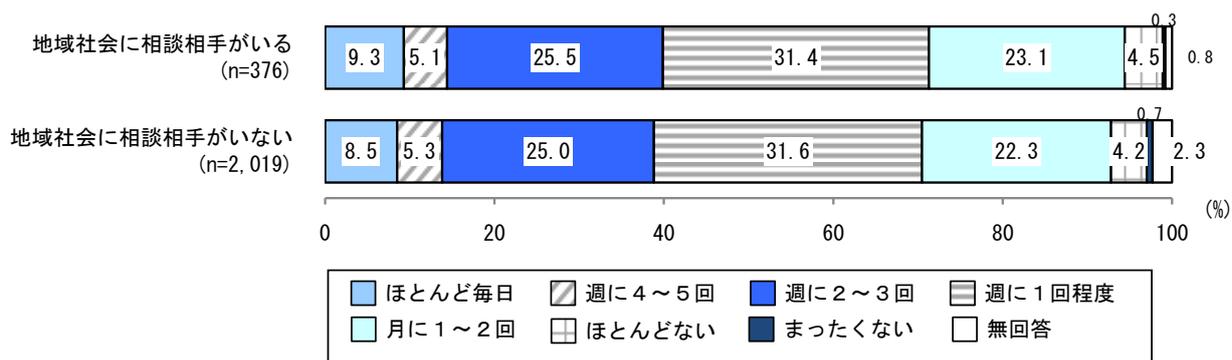
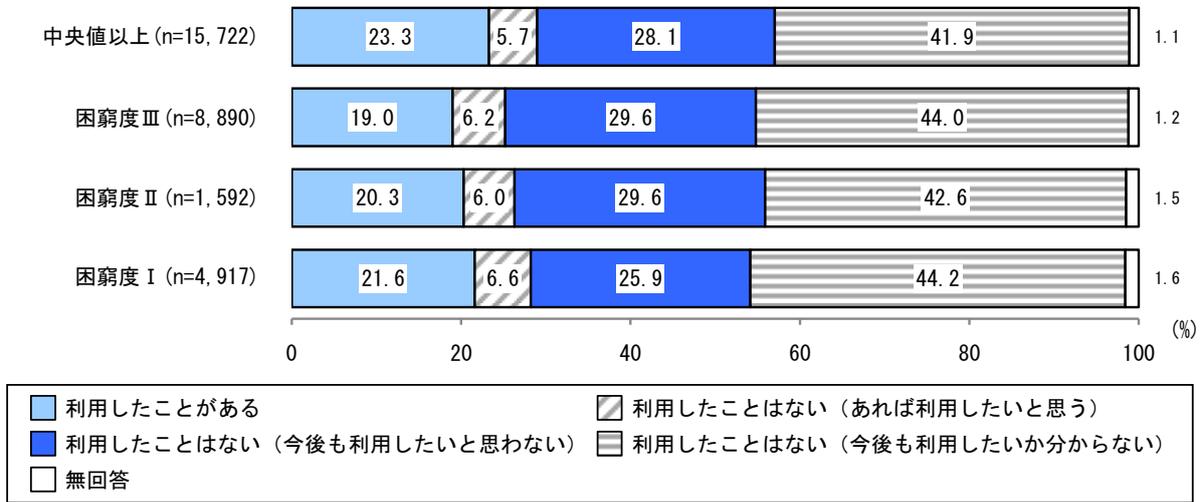


図 168. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するか

地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人の人と一緒に外出するかを見ると、「地域社会に相談相手がいる」か「地域社会に相談相手がない」かによって、子どもが「おうちの大人の人と一緒に外出する」に差はなかった。

困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所（子ども票問 25(1)①）

<大阪府内全体>



<豊中市>

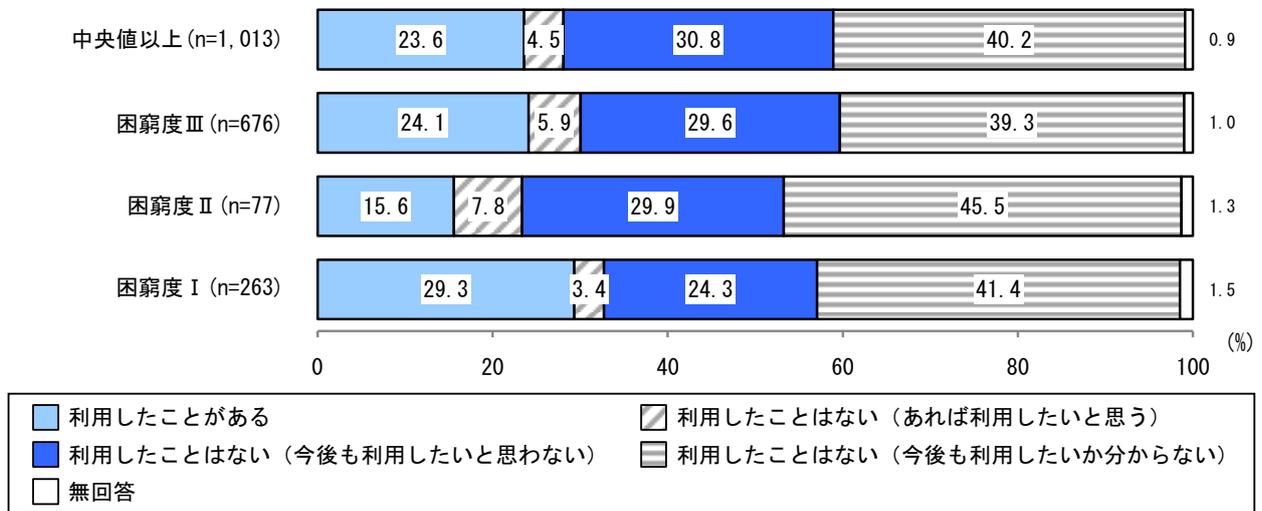
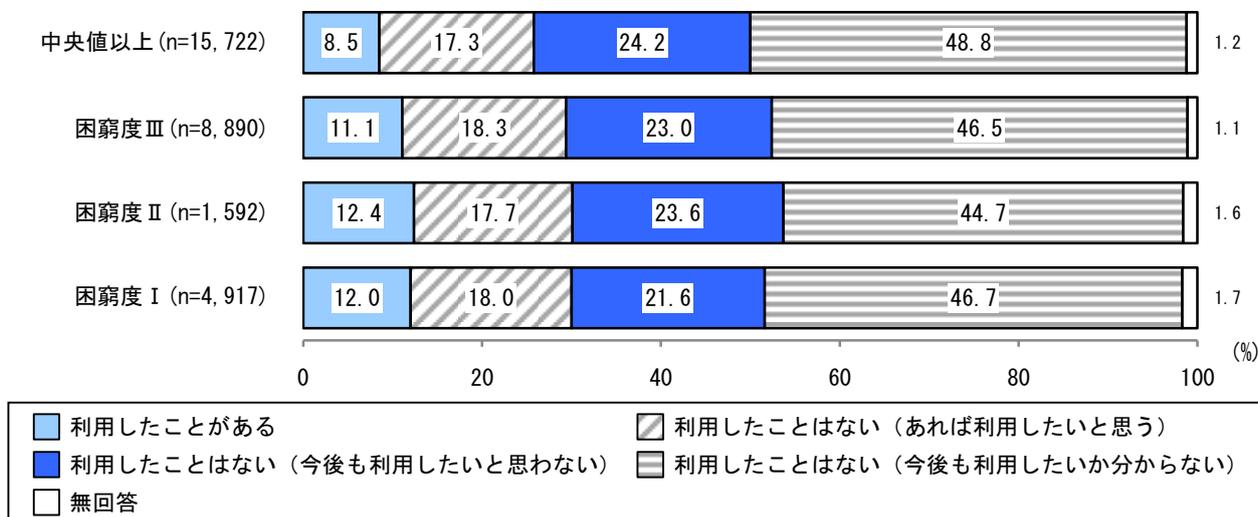


図 169. 困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

困窮度別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で29.3%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所
 (子ども票問 25(1)②)

<大阪府内全体>



<豊中市>

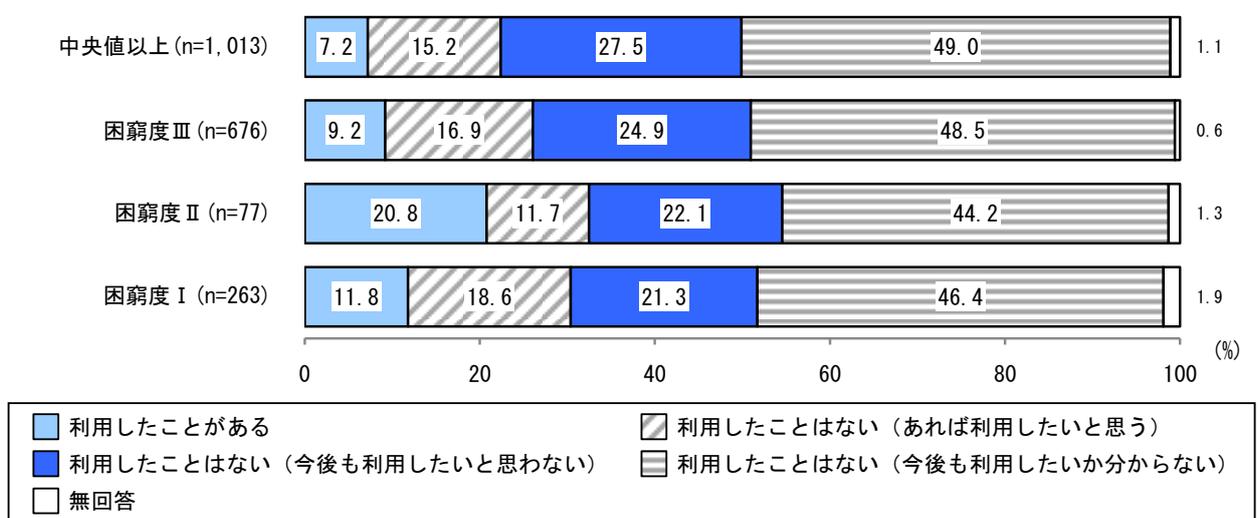
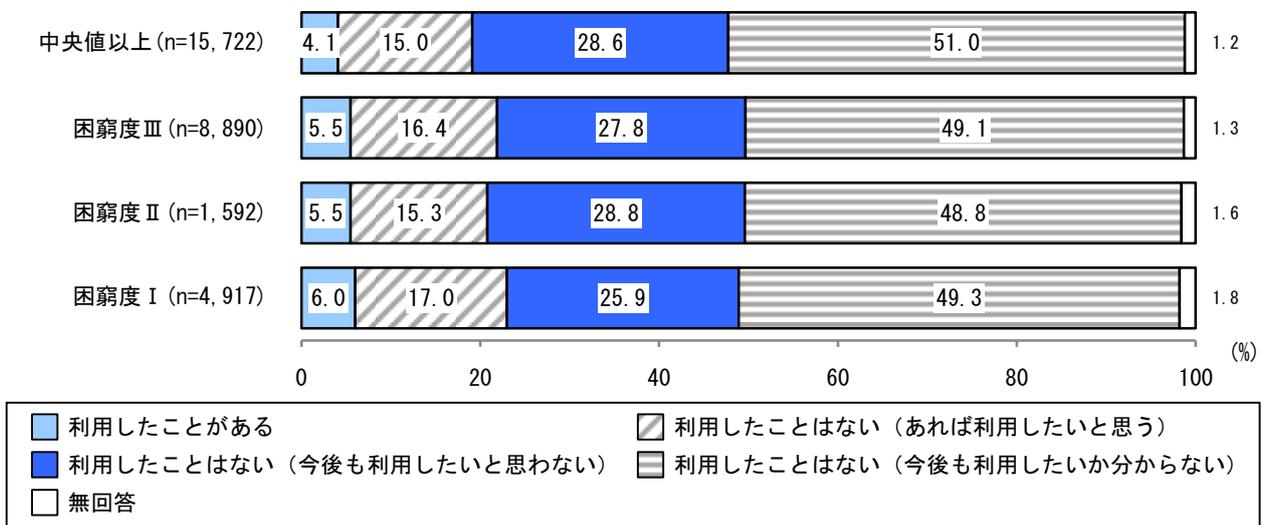


図 170. 困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

困窮度別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことはない (今後も利用したいか分からない)」と回答する割合が中央値以上群で49.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（子ども票問 25(1)③）

<大阪府内全体>



<豊中市>

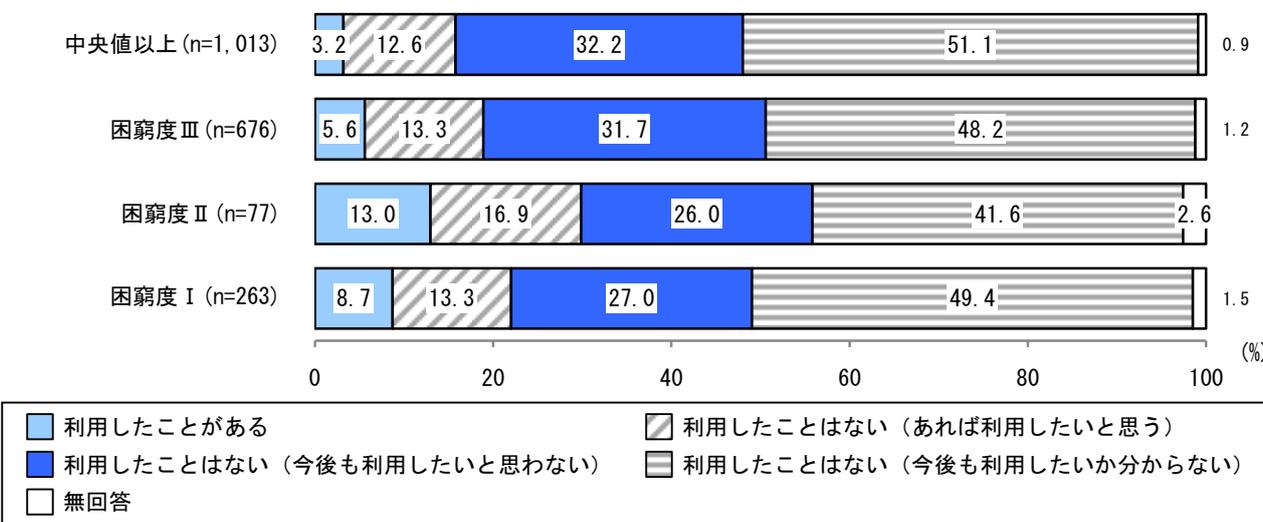
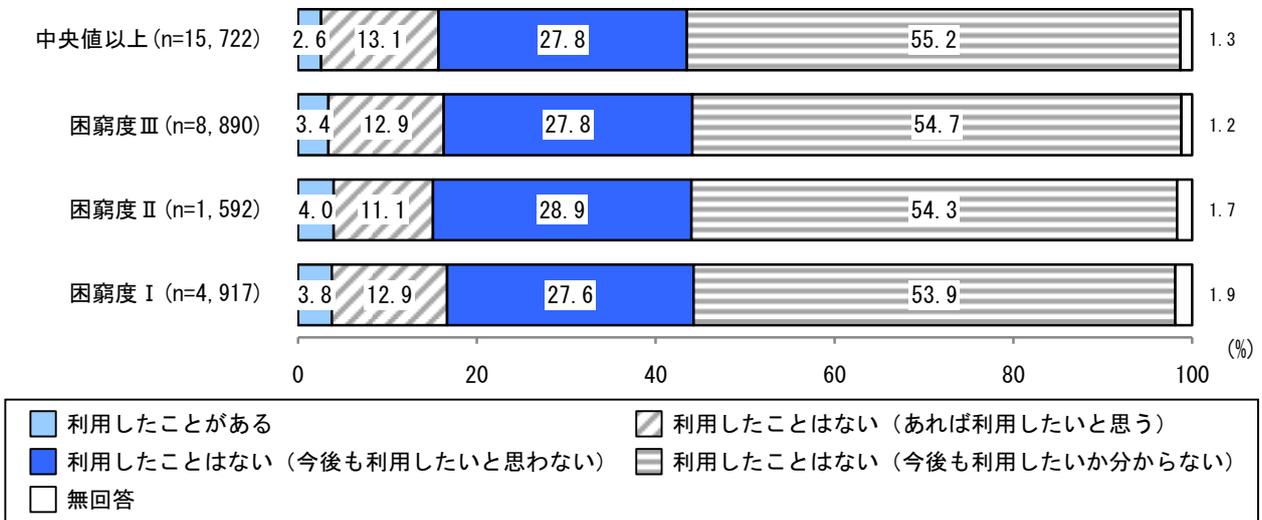


図 171. 困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

困窮度別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことがある」と回答する割合が困窮度Ⅱ群で13.0%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、何でも相談できる場所（子ども票問 25(1)④）

<大阪府内全体>



<豊中市>

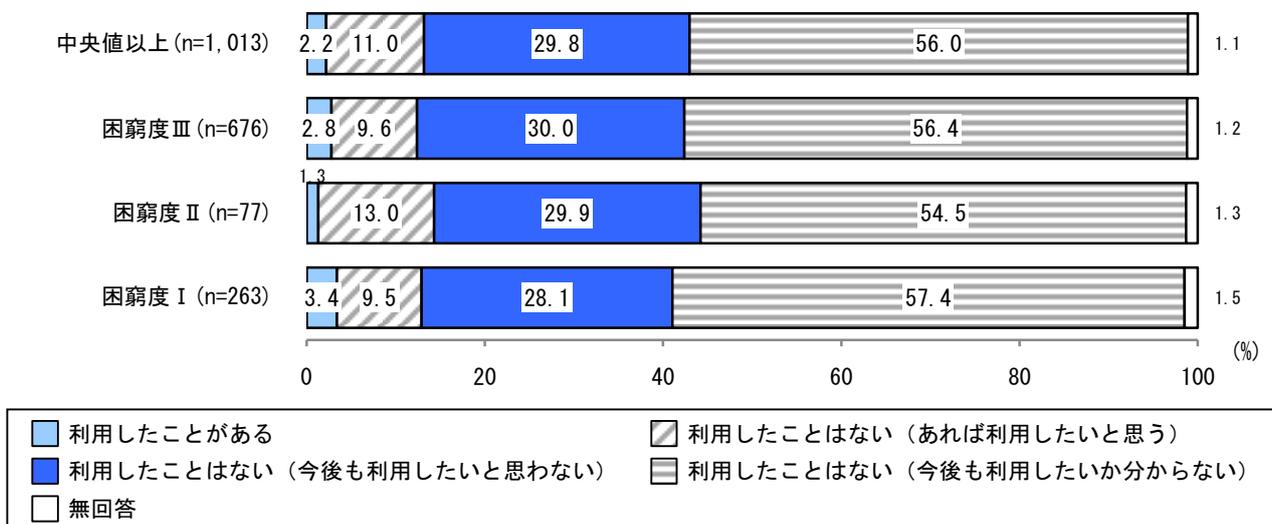
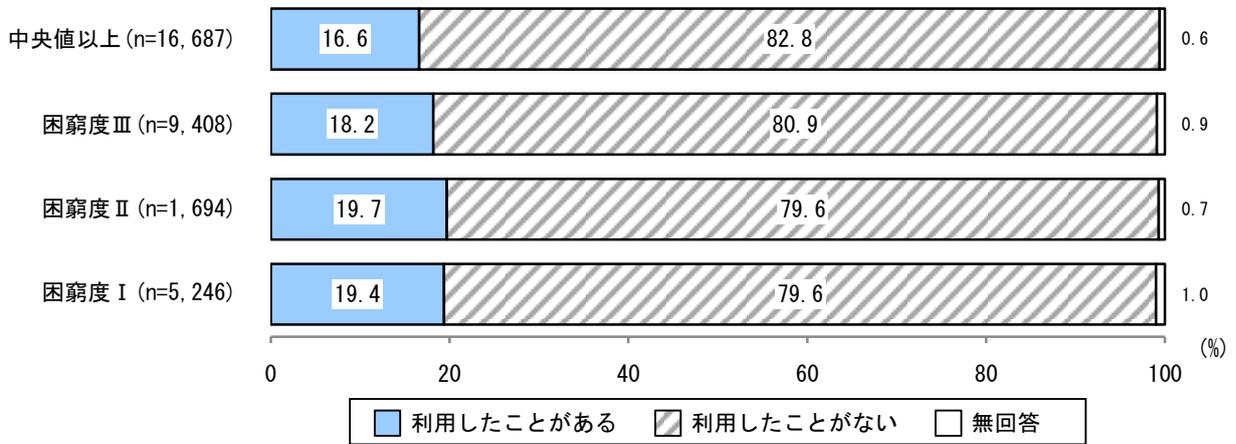


図 172. 困窮度別に見た、何でも相談できる場所

困窮度別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮度Ⅰ群で3.4%と最も高くなっている。

困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験（保護者票問 16(1)）

<大阪府内全体>



<豊中市>

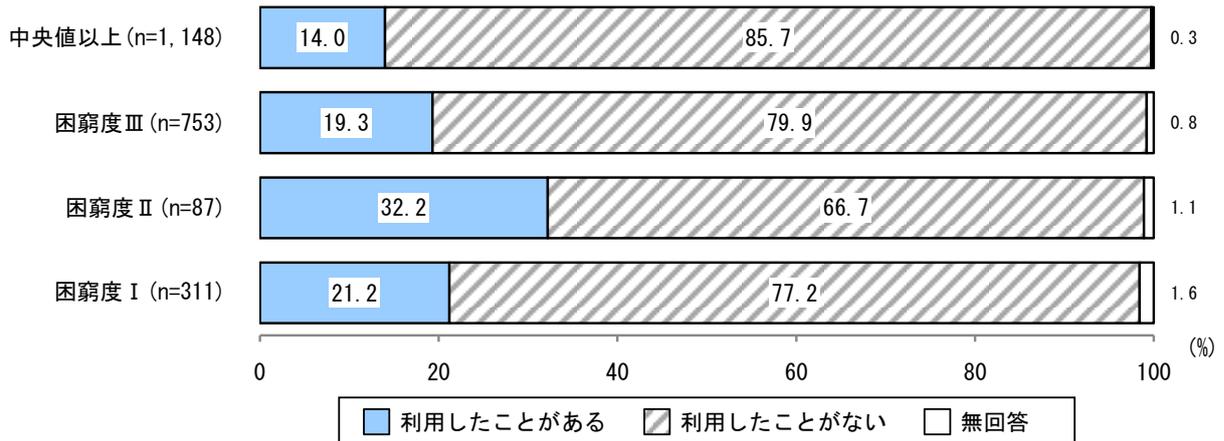
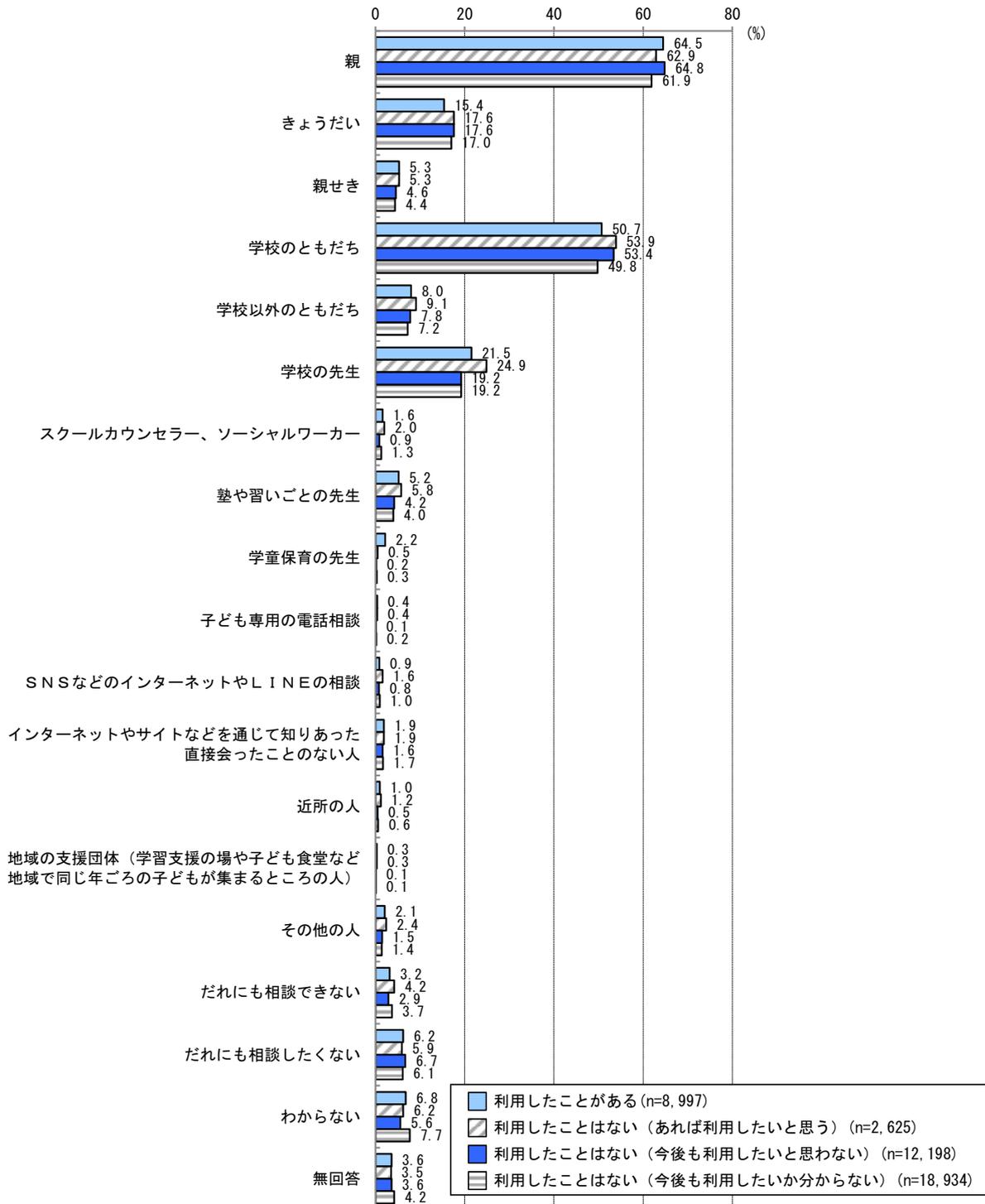


図 173. 困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験

困窮度別に子どもの居場所の利用経験を見ると、「利用したことがある」と回答する割合は中央値以上群が14.0%で最も低く、困窮度Ⅱ群が32.2%で最も高くなっている。

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)①×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

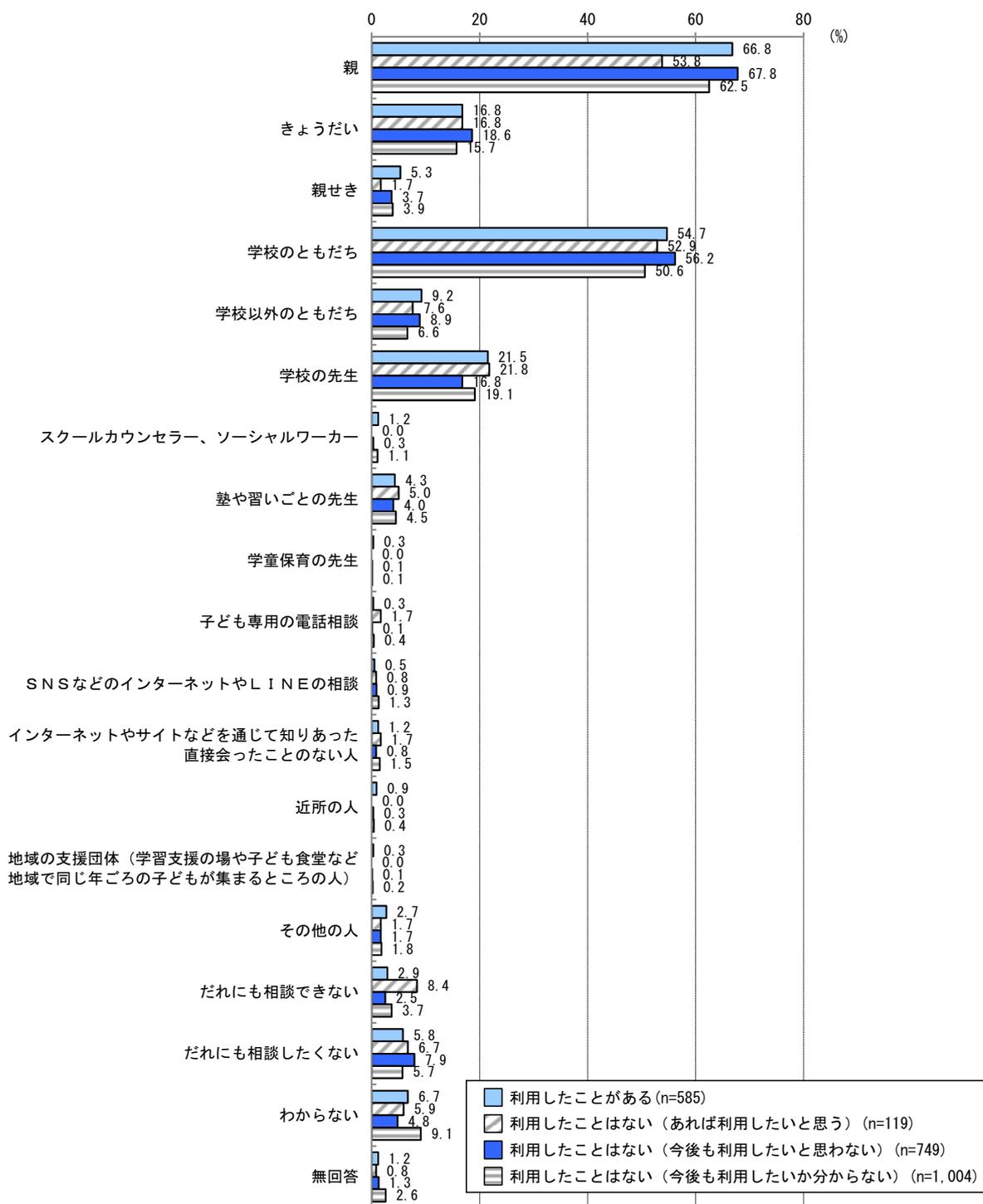
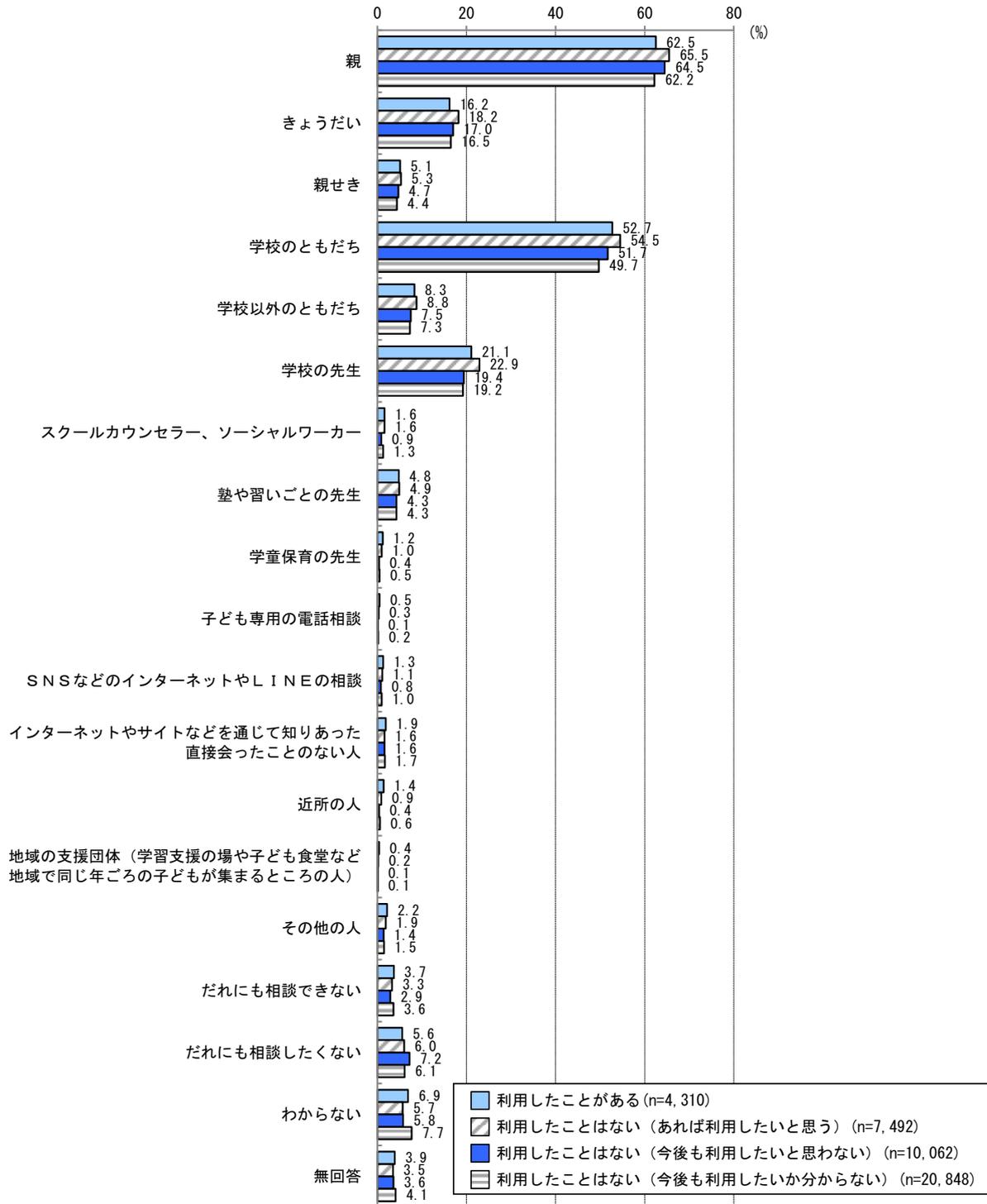


図 174. 平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親せき」「学校以外のともだち」「スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー」「学童保育の先生」「近所の人」「その他の人」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票問 25 (1)②×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

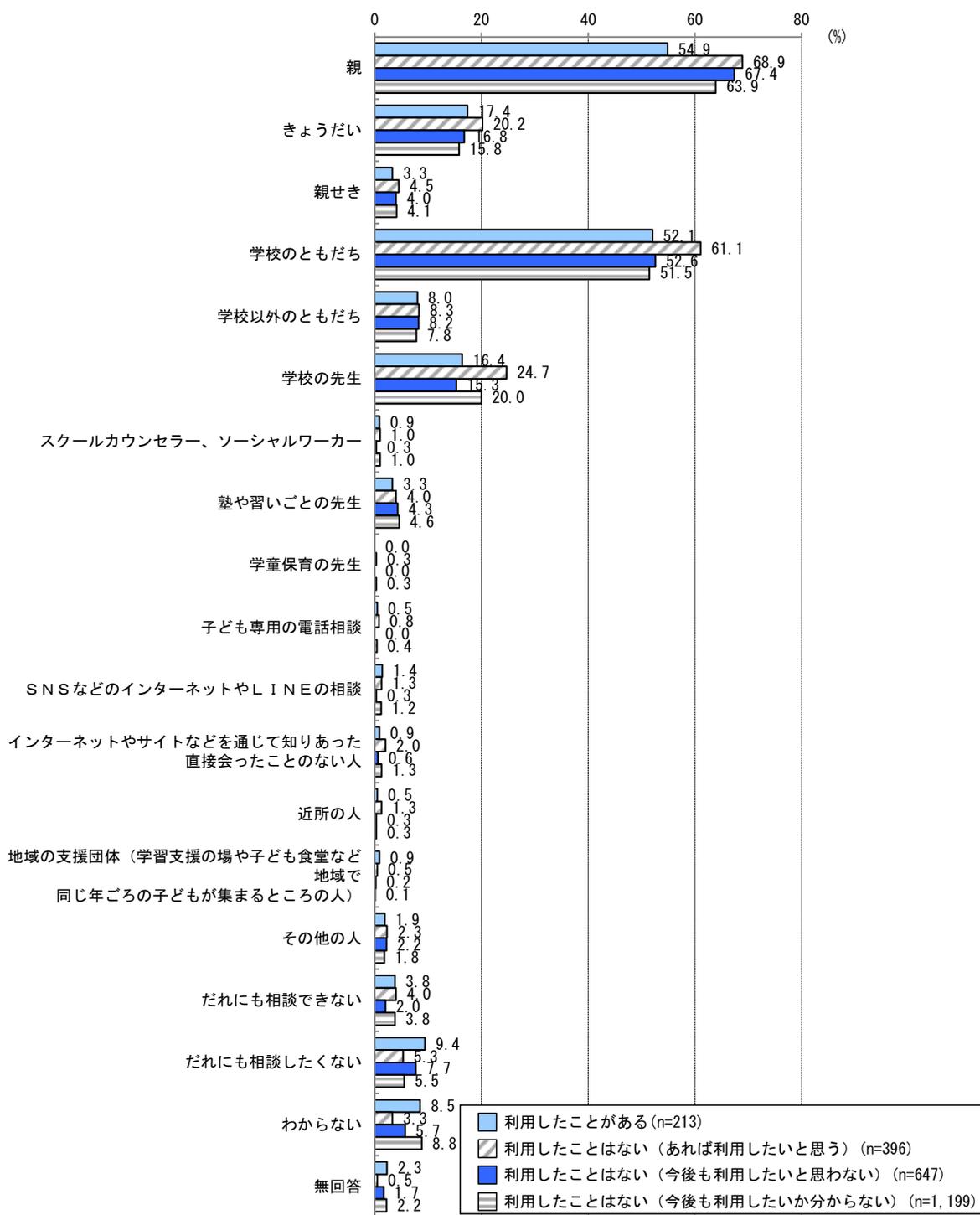
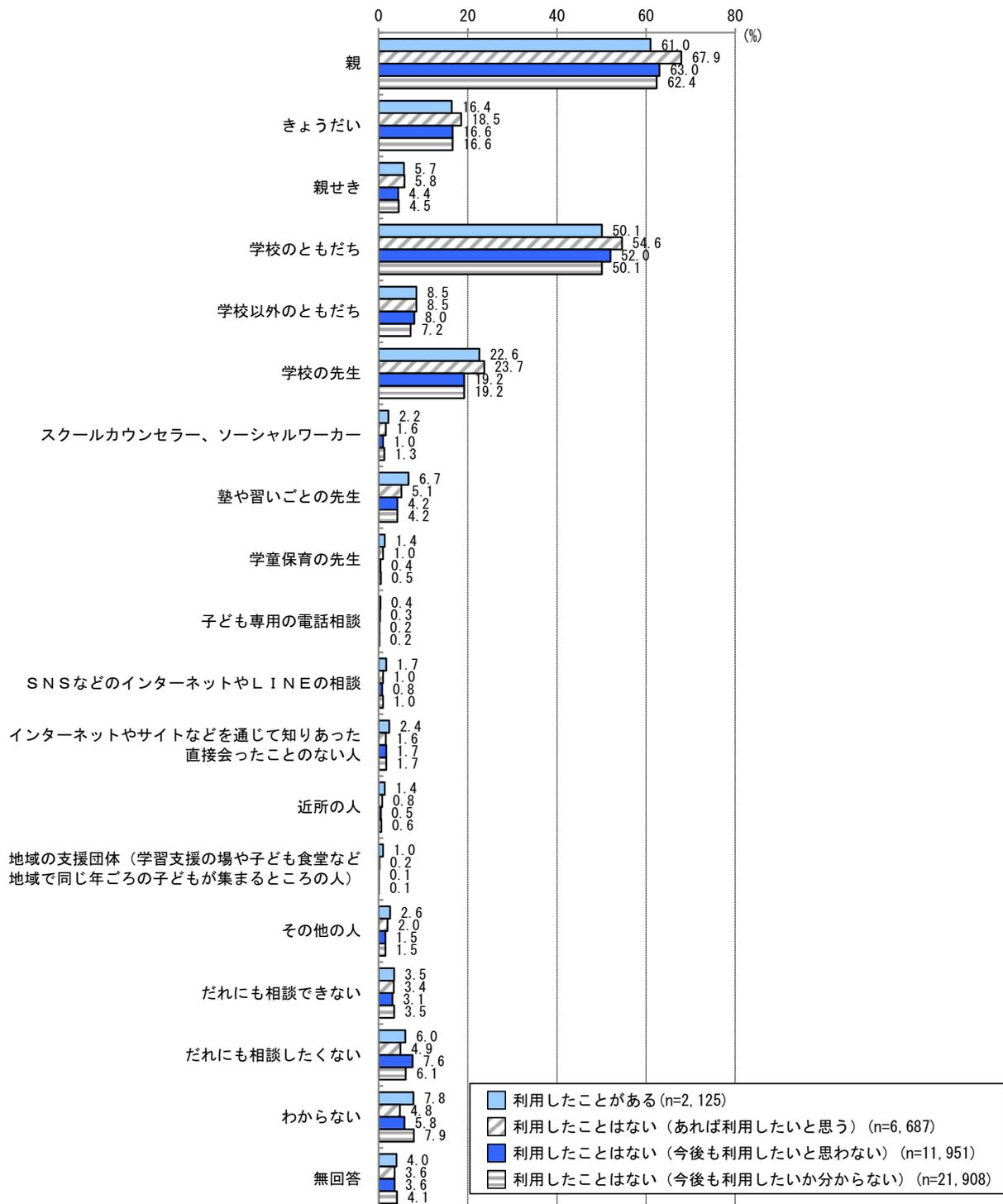


図 175. 昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」や「親せき」、「塾や習いごとの先生」と回答した割合は、「利用したことはある」と回答した人より「利用したことがない」と回答した人のほうが割合が高くなっている。

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
(子ども票問 25(1)③×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

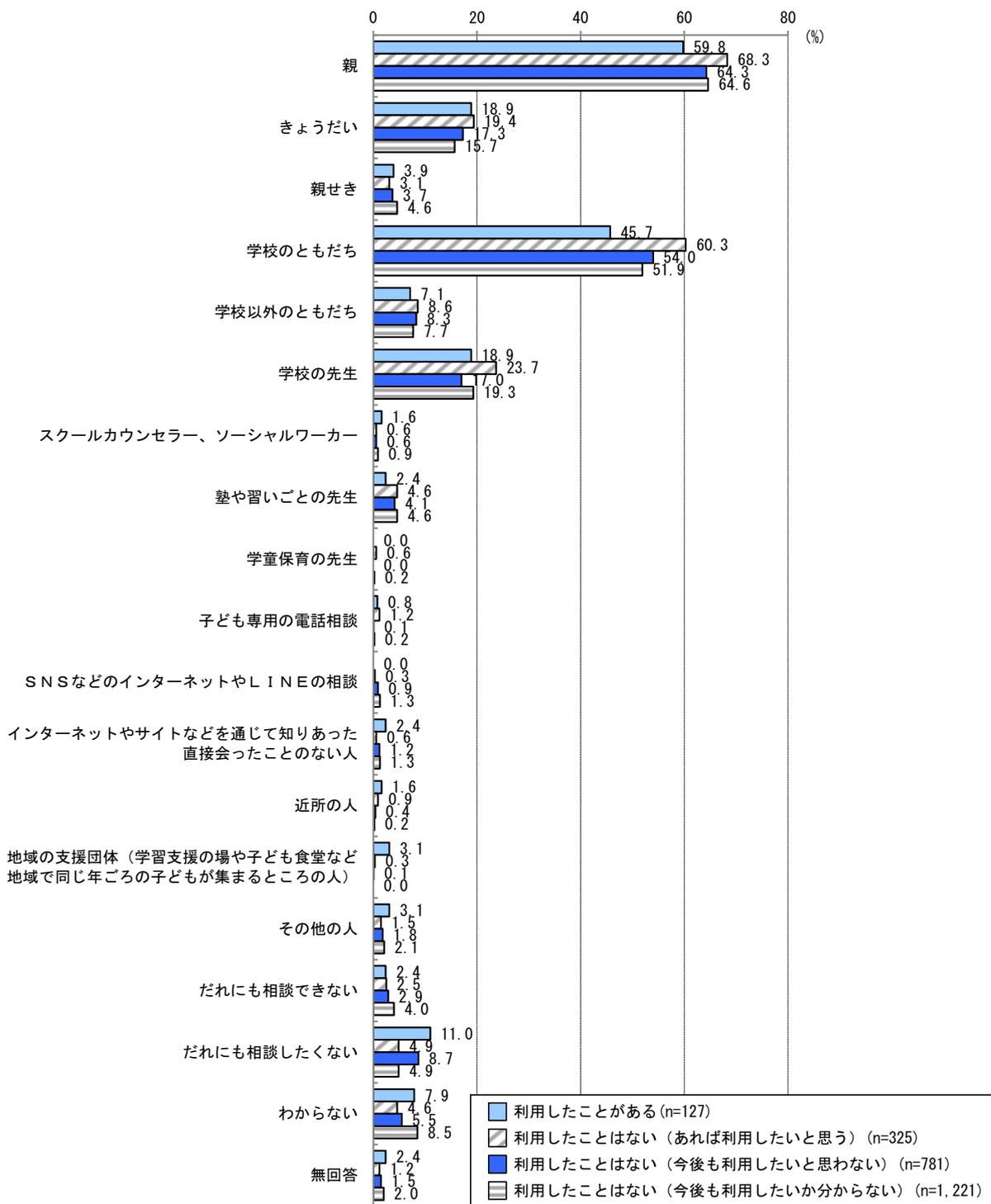
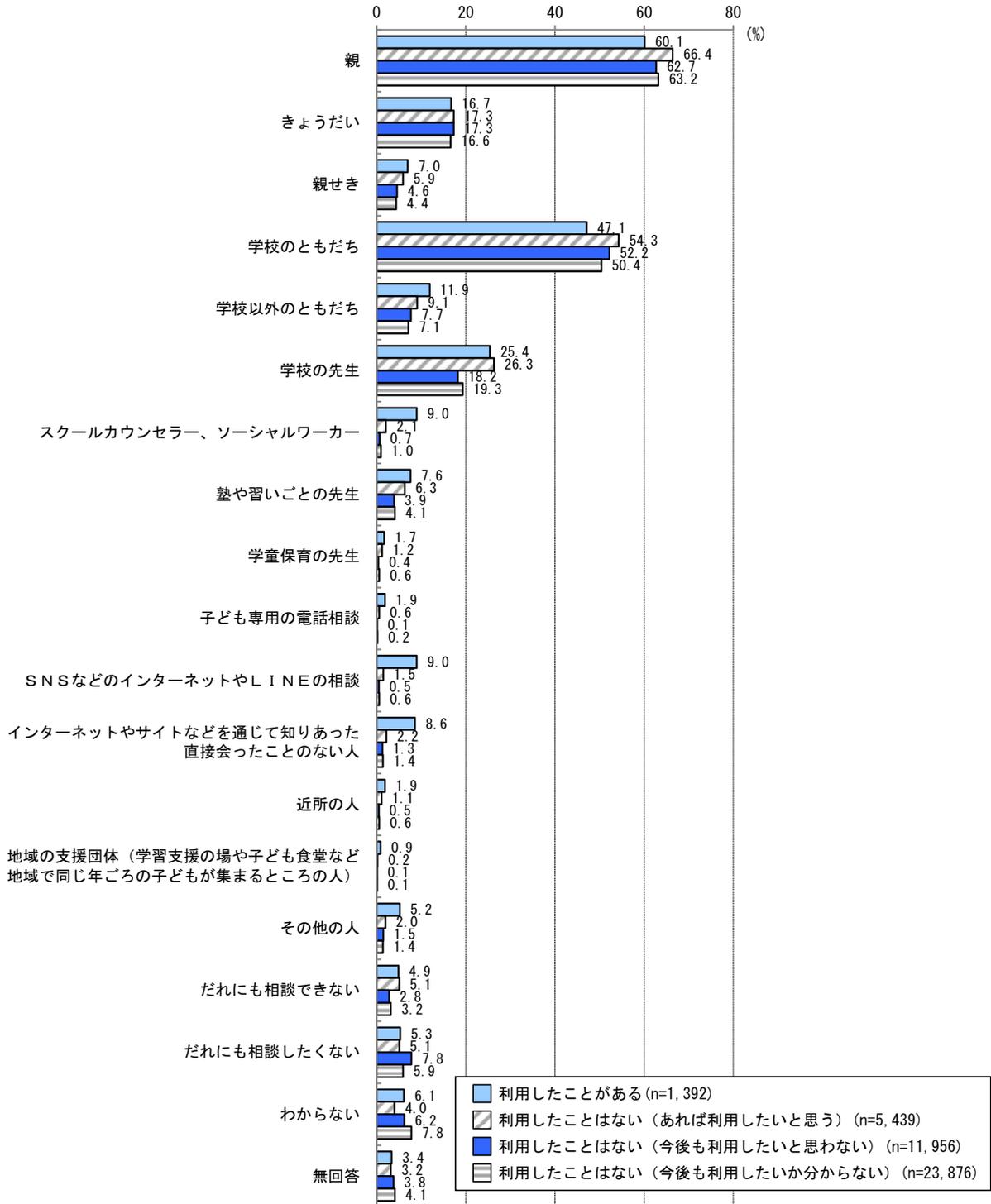


図 176. 勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「親」や「学校のともだち」、「学校以外のともだち」、「塾や習いごとの先生」、「だれにも相談できない」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
 (子ども票問 25(1)④×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

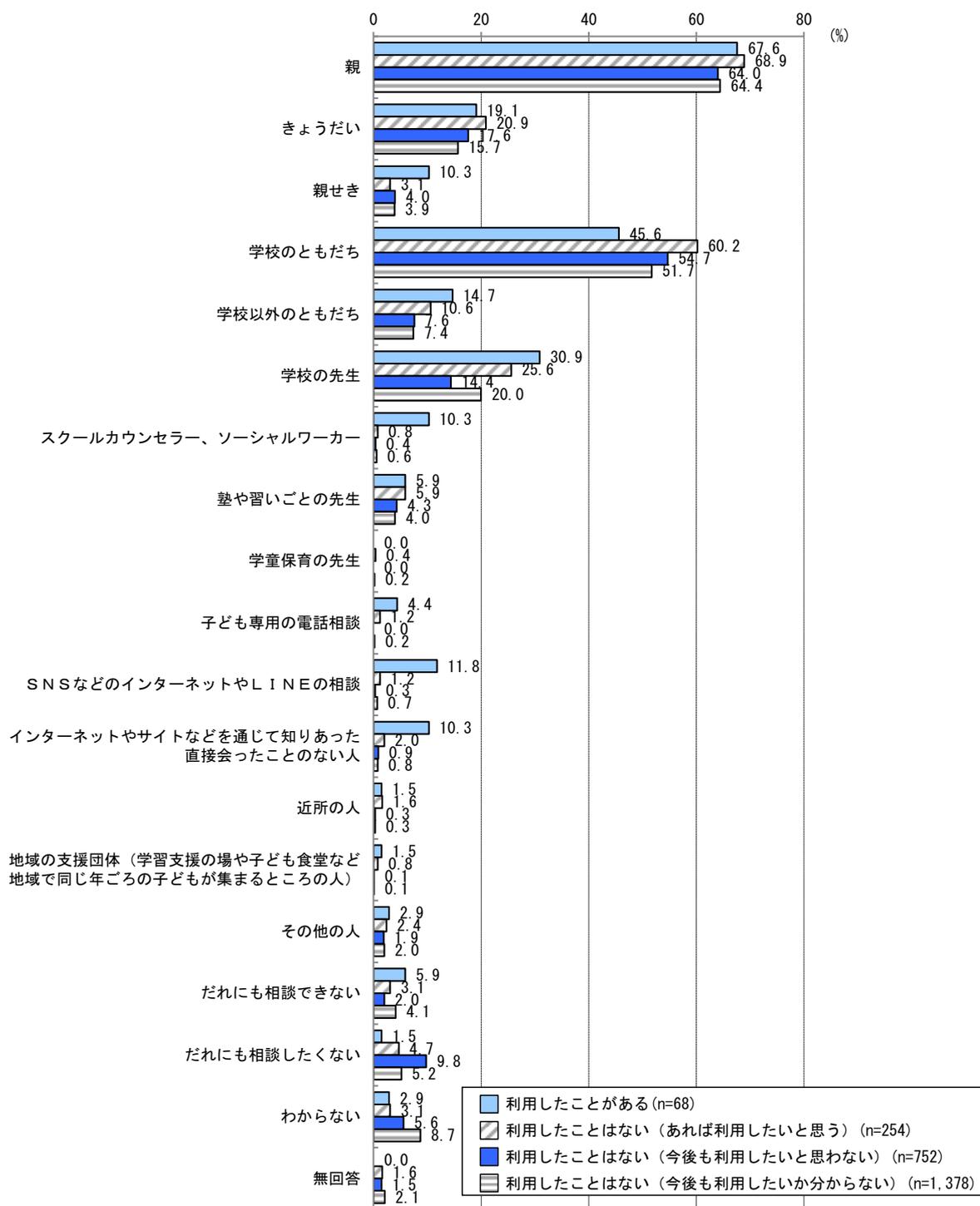
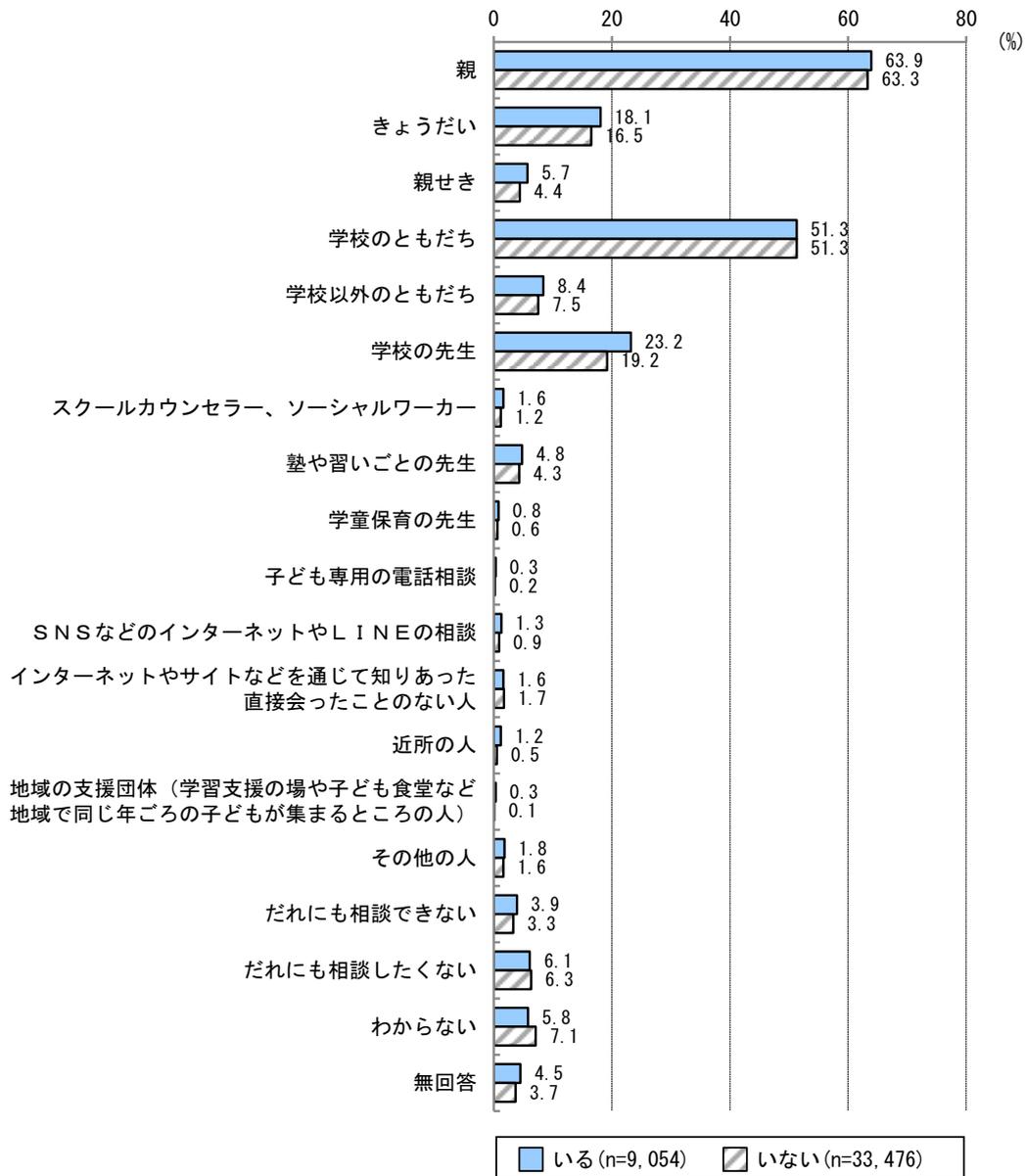


図 177. 何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

何でも相談できる場所別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、相談相手が「学校のともだち」や「だれにも相談したくない」と回答した割合は、「利用したことはない」と回答した人より「利用したことがある」と回答した人のほうが割合が低くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

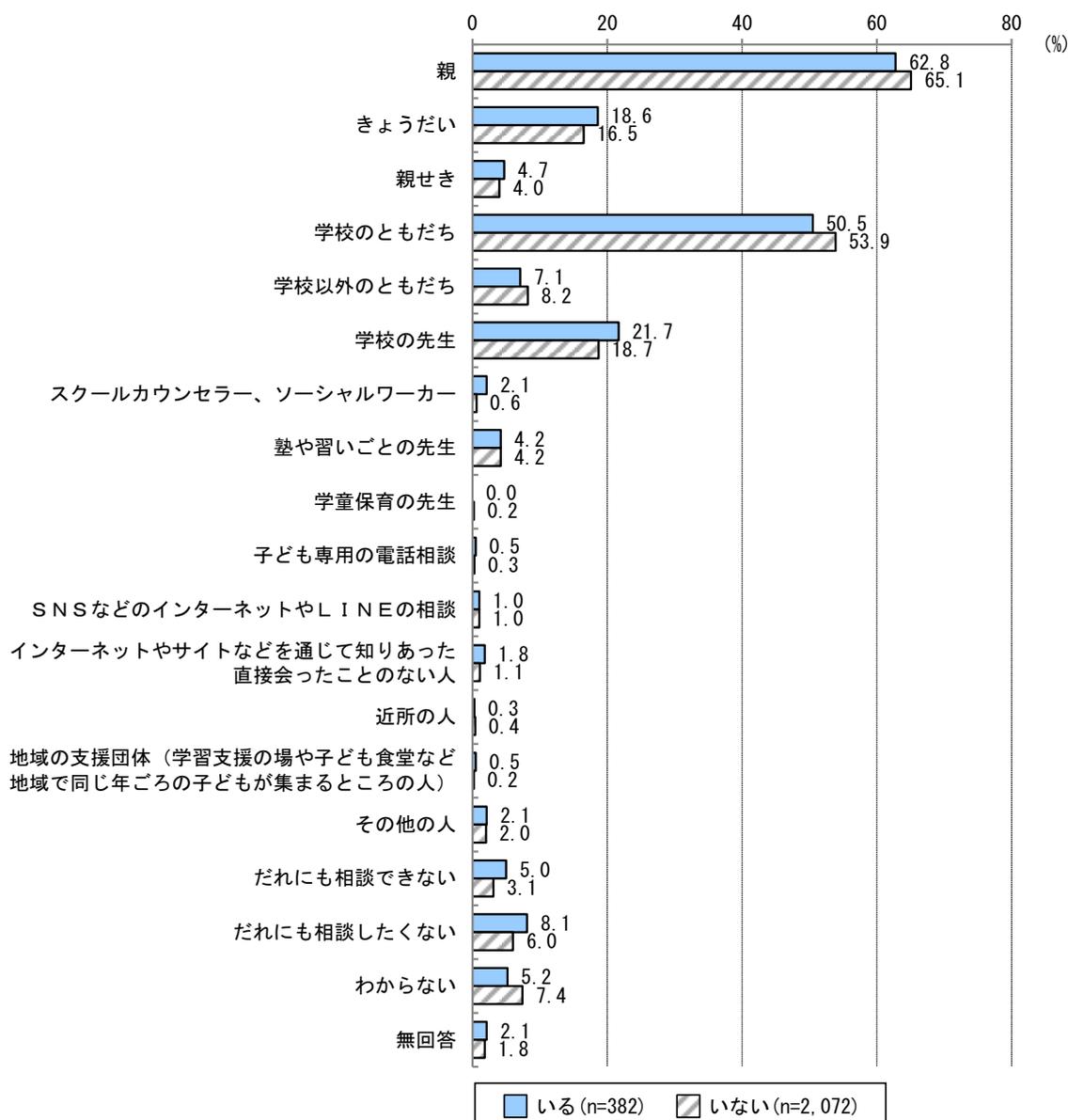
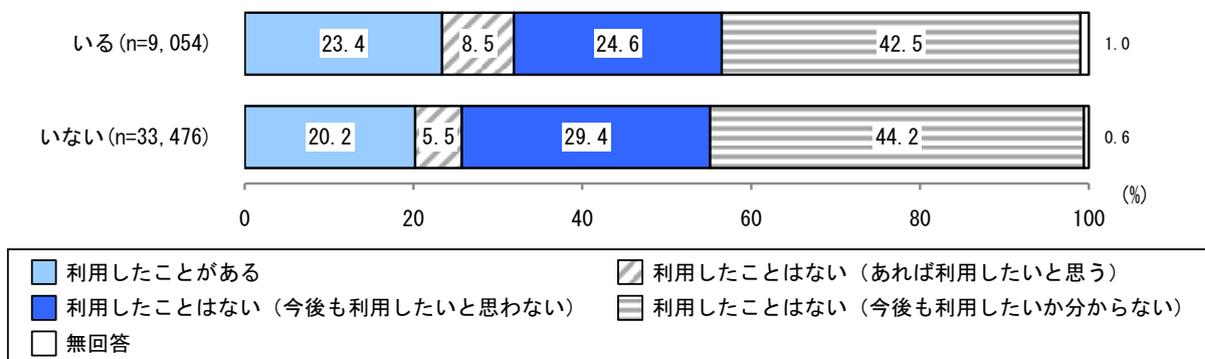


図 178. 自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

自分が世話をしている人の有無別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手をみると、相談相手が「きょうだい」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高く、世話をしている人では18.6%となっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<豊中市>

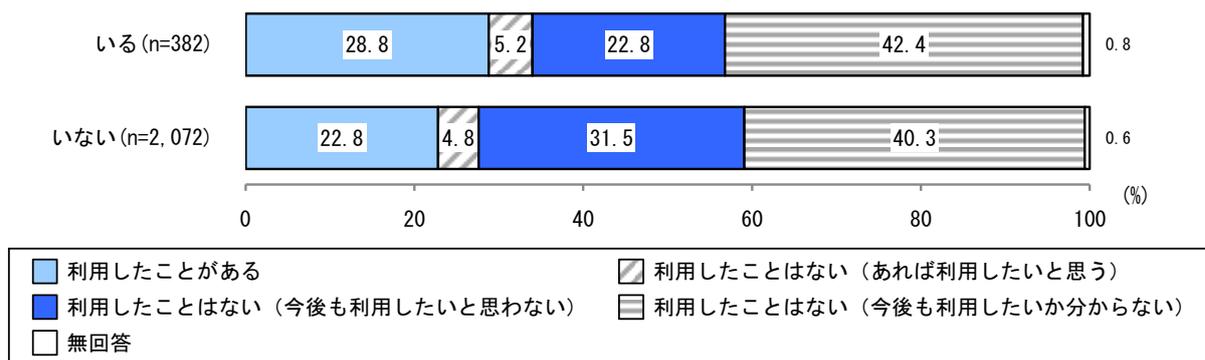
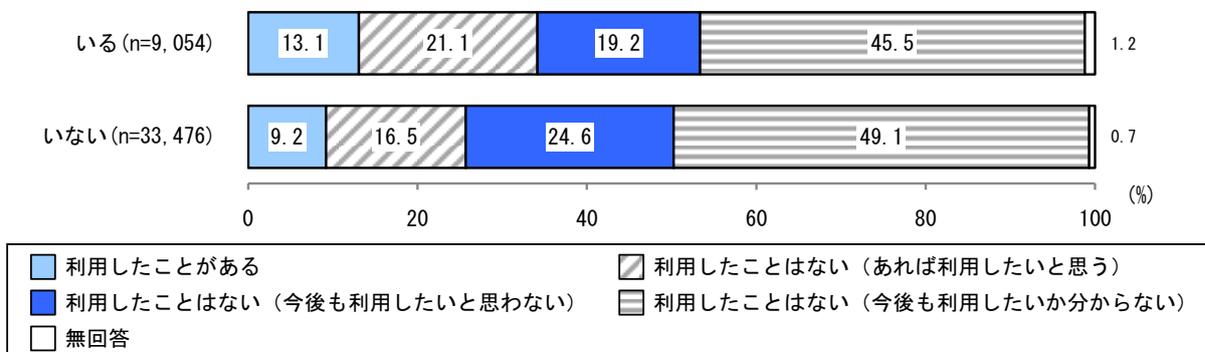


図 179. 自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

自分が世話をしている人の有無別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、平日の夜や休日を過ごすことができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

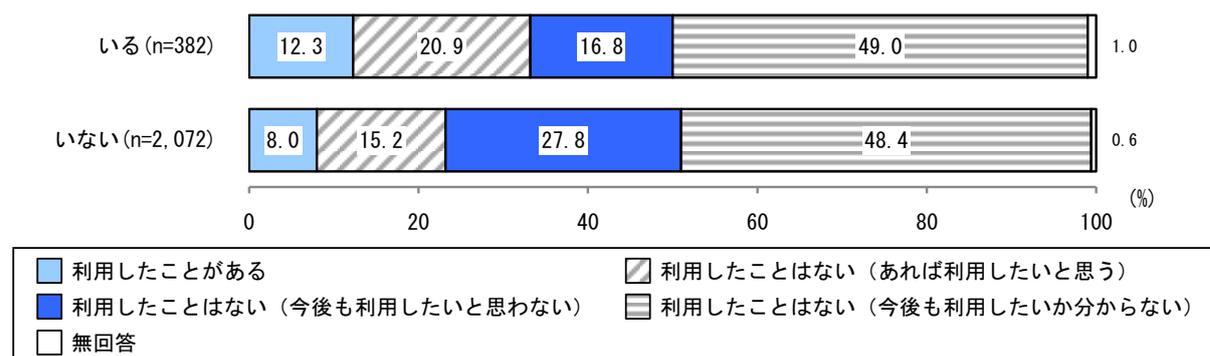
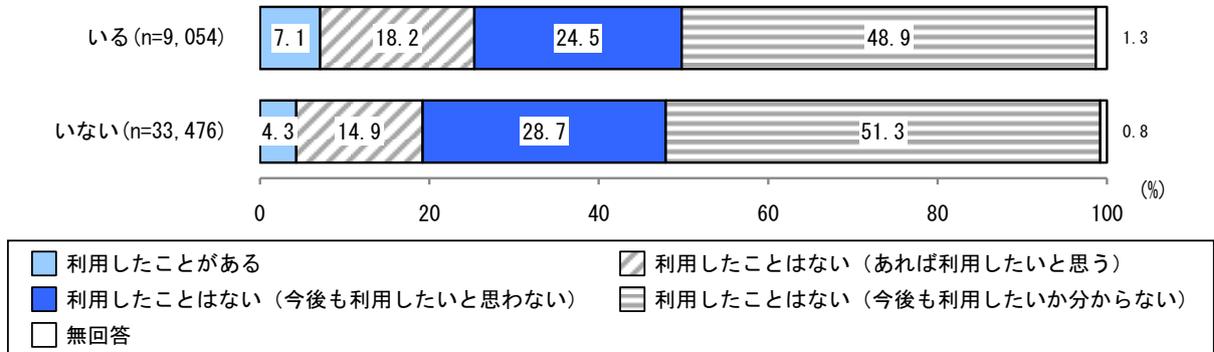


図 180. 自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

自分が世話をしている人の有無別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<豊中市>

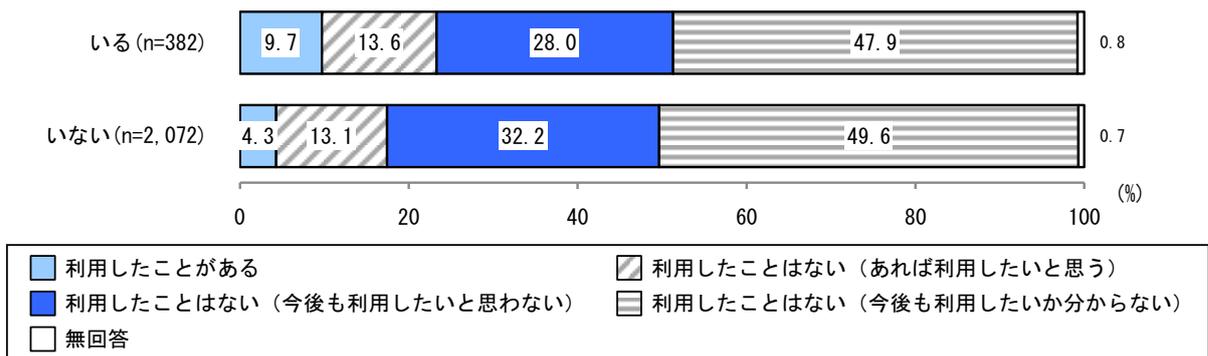
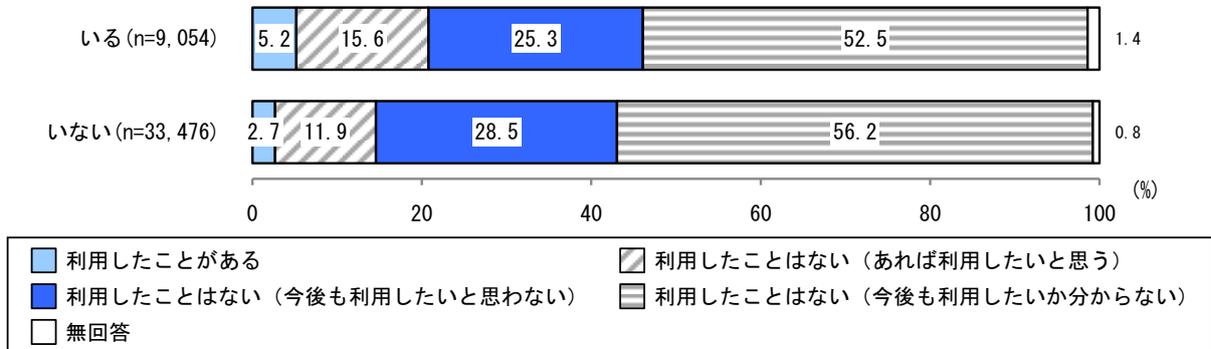


図 181. 自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

自分が世話をしている人の有無別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所
 (子ども票問 26(1) × 子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<豊中市>

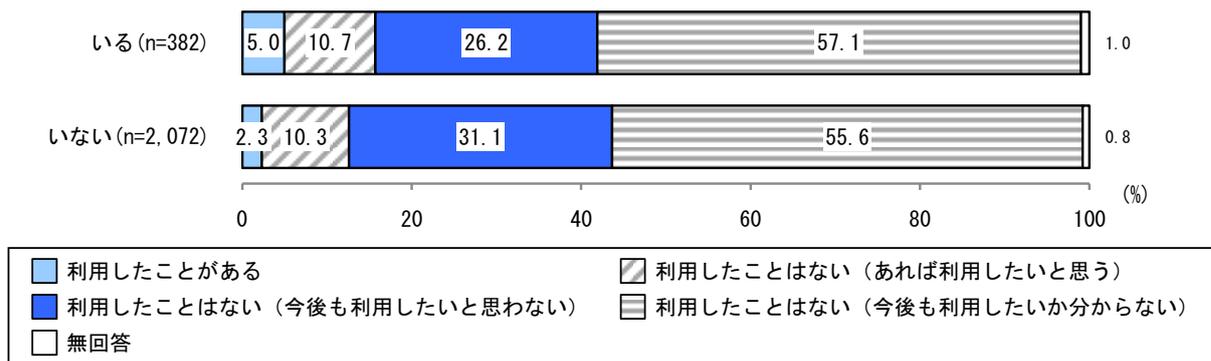
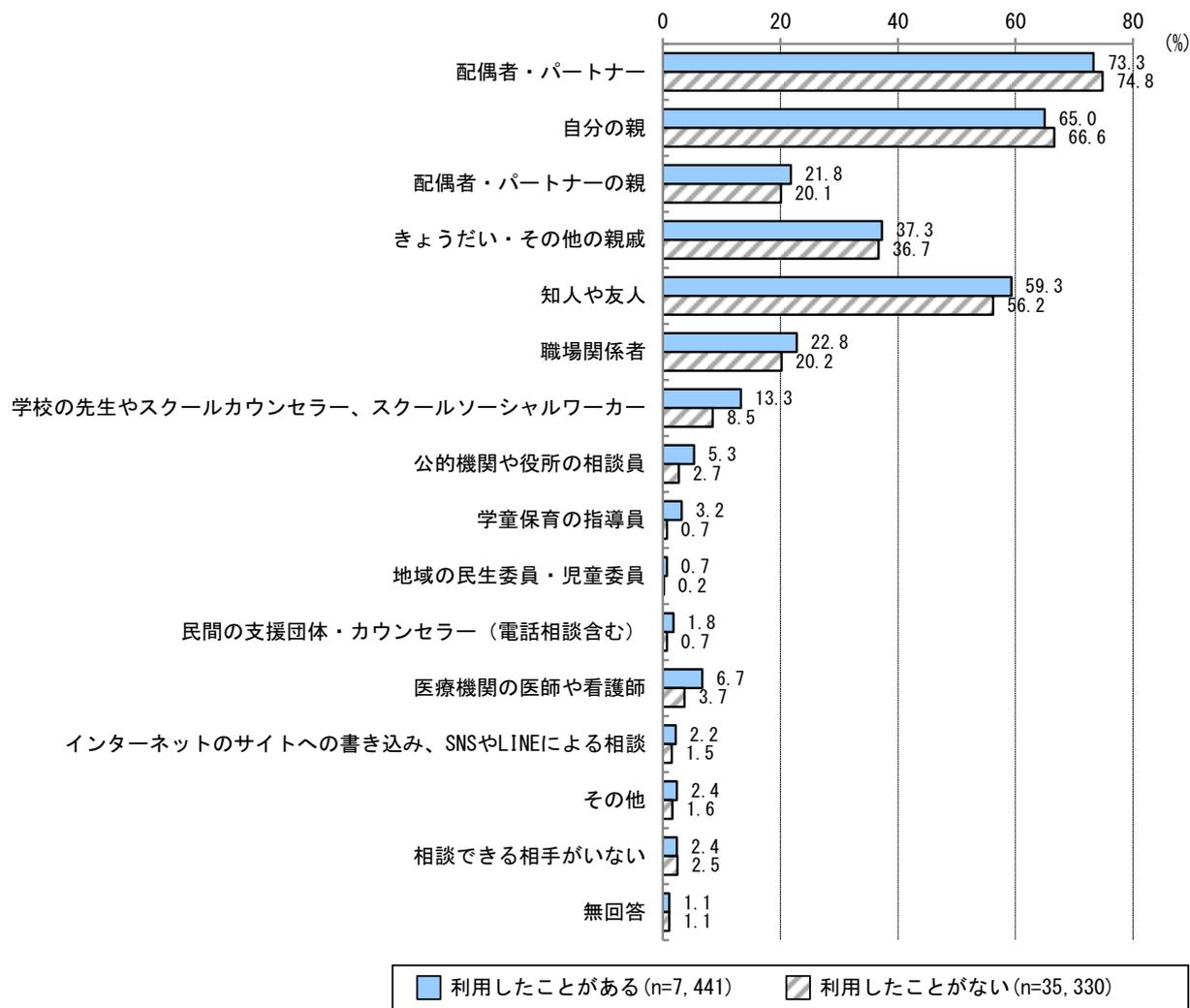


図 182. 自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所

自分が世話をしている人の有無別に何でも相談できる場所を見ると、何でも相談できる場所を「利用したことがある」、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、世話をしている人がいない人よりいる人のほうが割合が高くなっている。

子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先
 (保護者票問 16(1) × 保護者票問 19)

<大阪府内全体>



<豊中市>

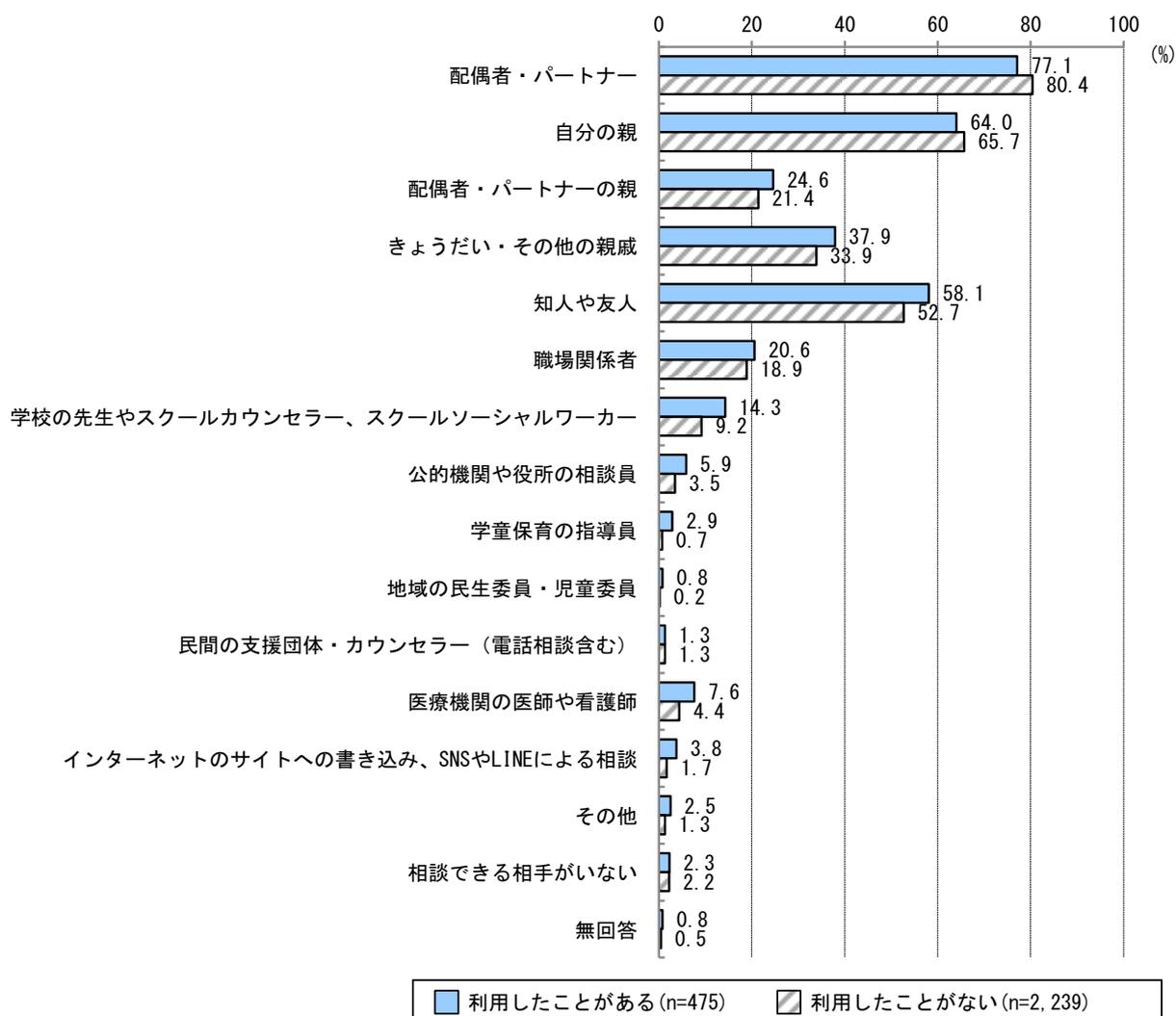
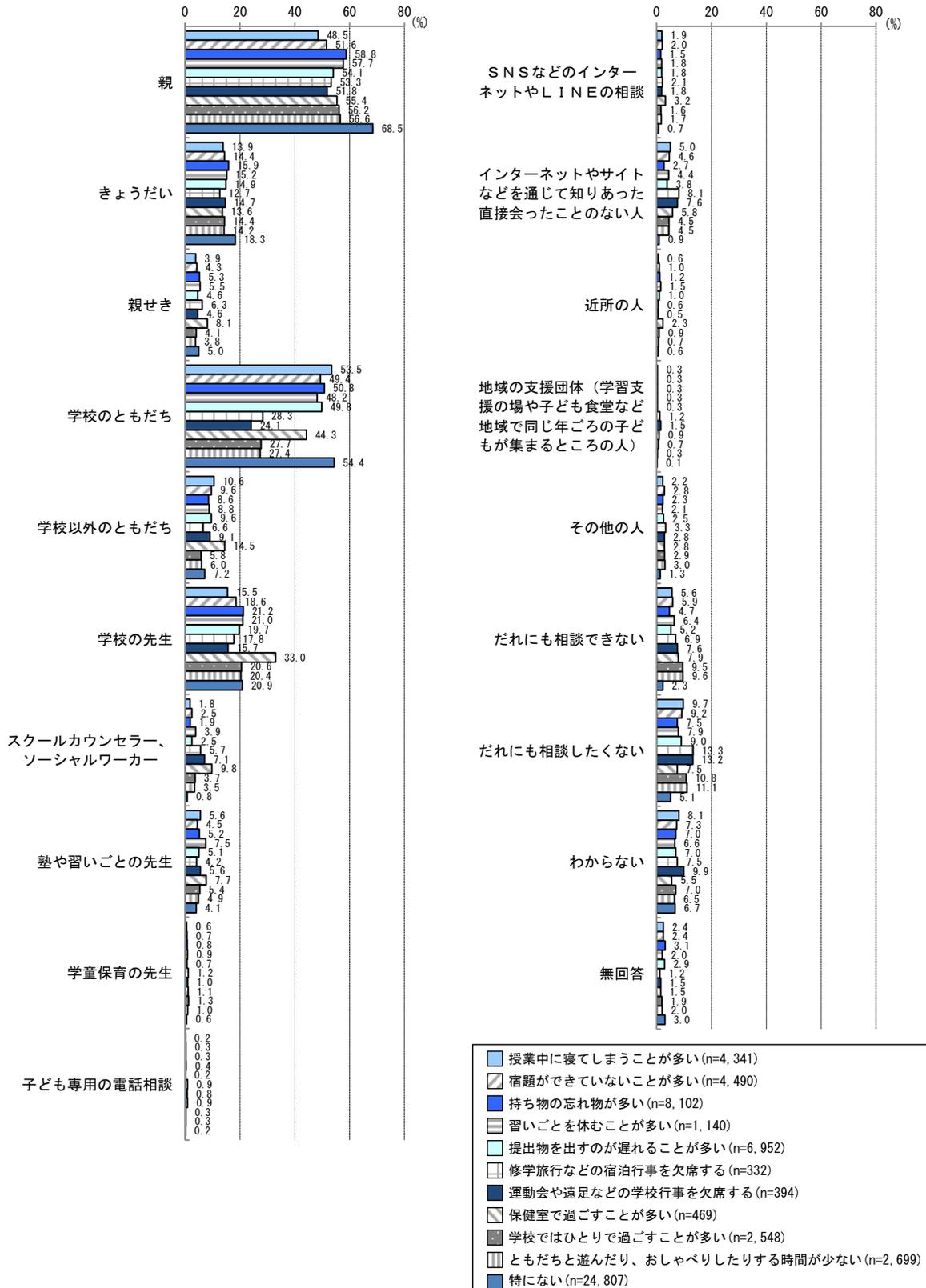


図 183. 子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

子どもの居場所の利用経験別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「自分の親」と回答した人の割合は、子どもの居場所を利用したことがある人より利用したことがない人のほうが割合が高くなっている。一方、「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー」や「公的機関や役所の相談員」、「医療機関の医師や看護師」と回答した人の割合は子どもの居場所を利用したことがない人より利用したことがある人のほうが割合が高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手
 (子ども票問 16×子ども票問 18)

<大阪府内全体>



<豊中市>

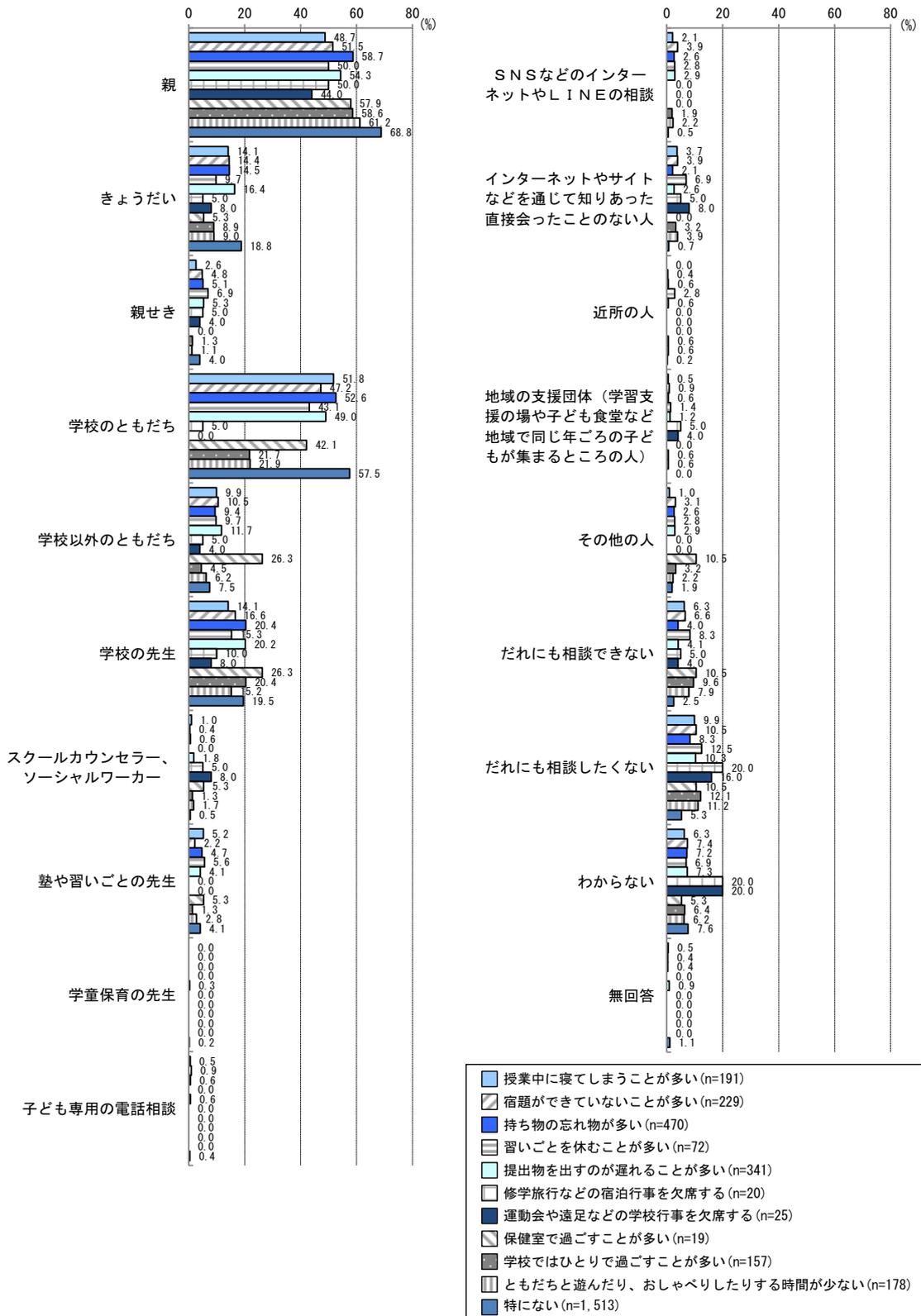
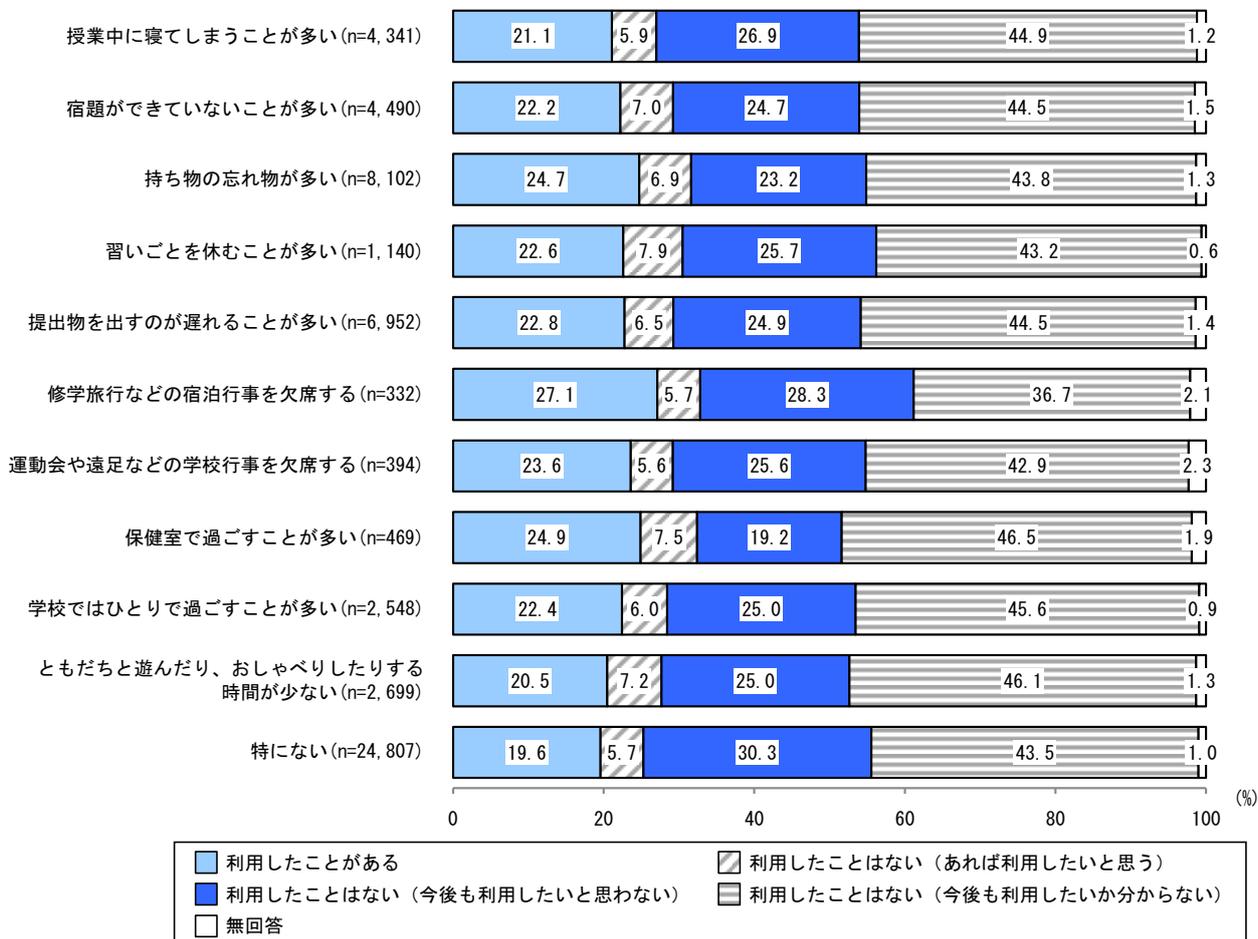


図 184. 学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

学校や学校の行事等の状況別に嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、「親」と回答した人の割合は「ともだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」と回答した人の割合が61.2%で最も高くなっている。一方、「特にない」は68.8%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
 (子ども票問 16×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<豊中市>

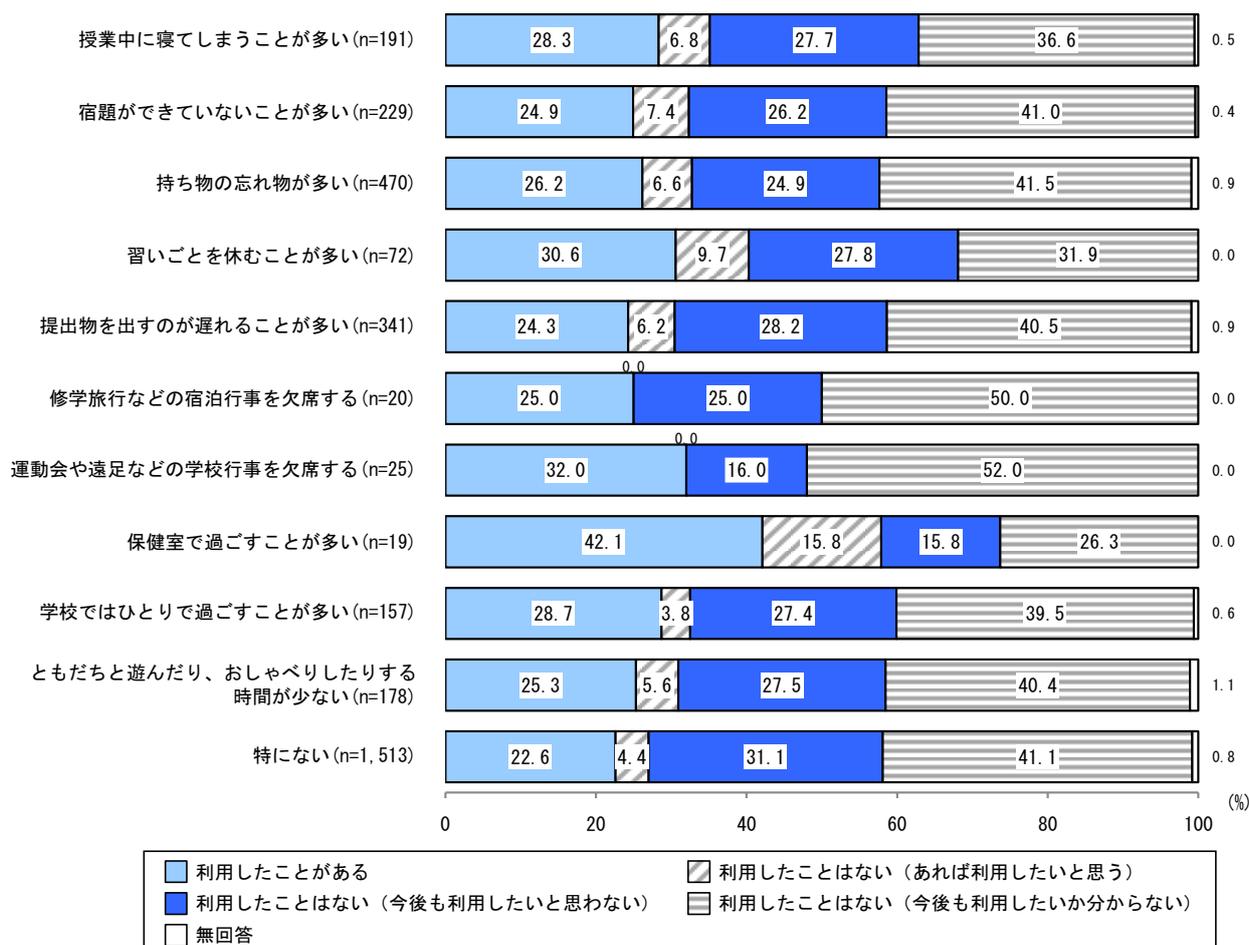
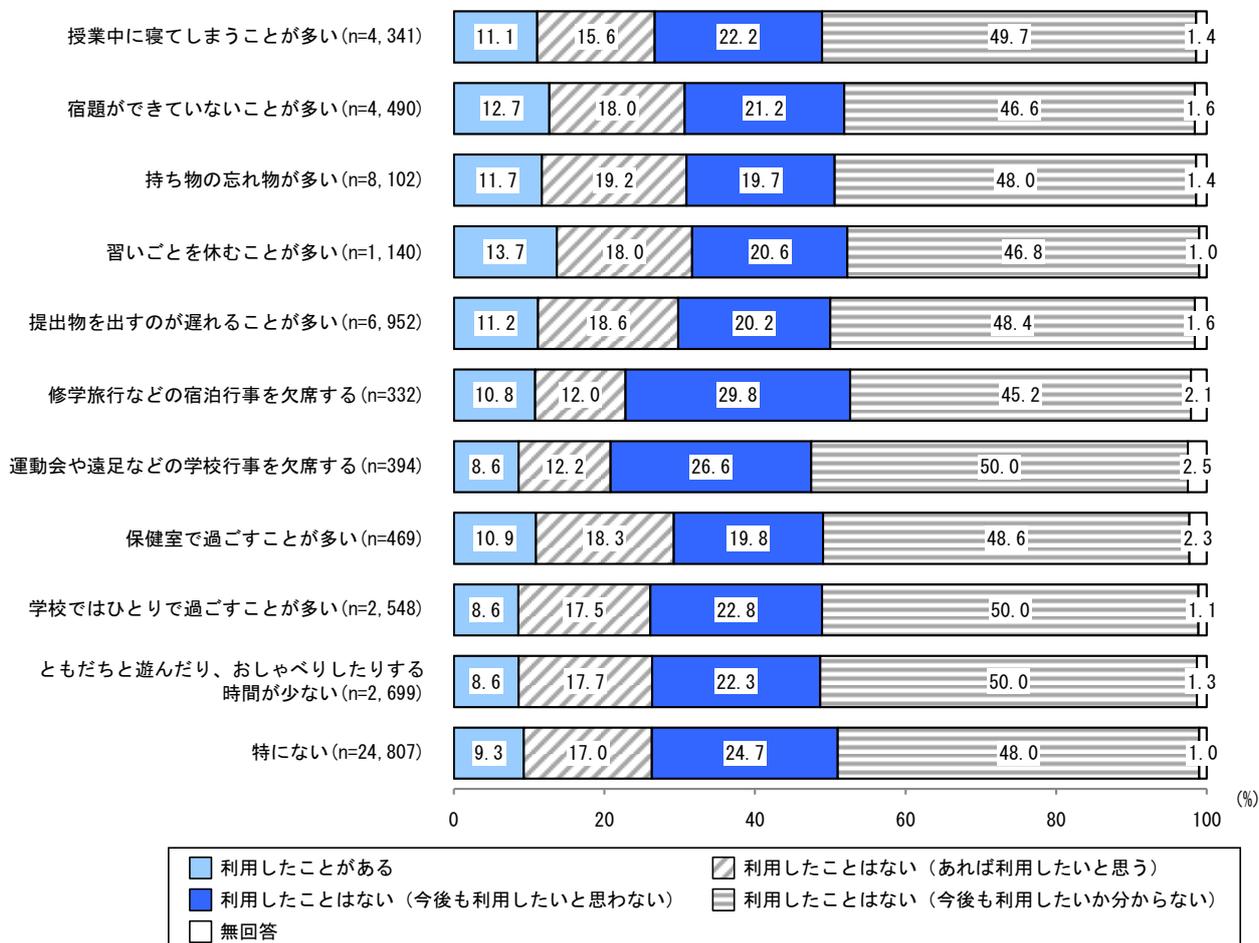


図 185. 学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

学校や学校の行事等の状況別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことがある」と回答した人の割合は「特にない」が22.6%で最も低く、次いで「提出物を出すのが遅れることが多い」が24.3%となっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども票問 16×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

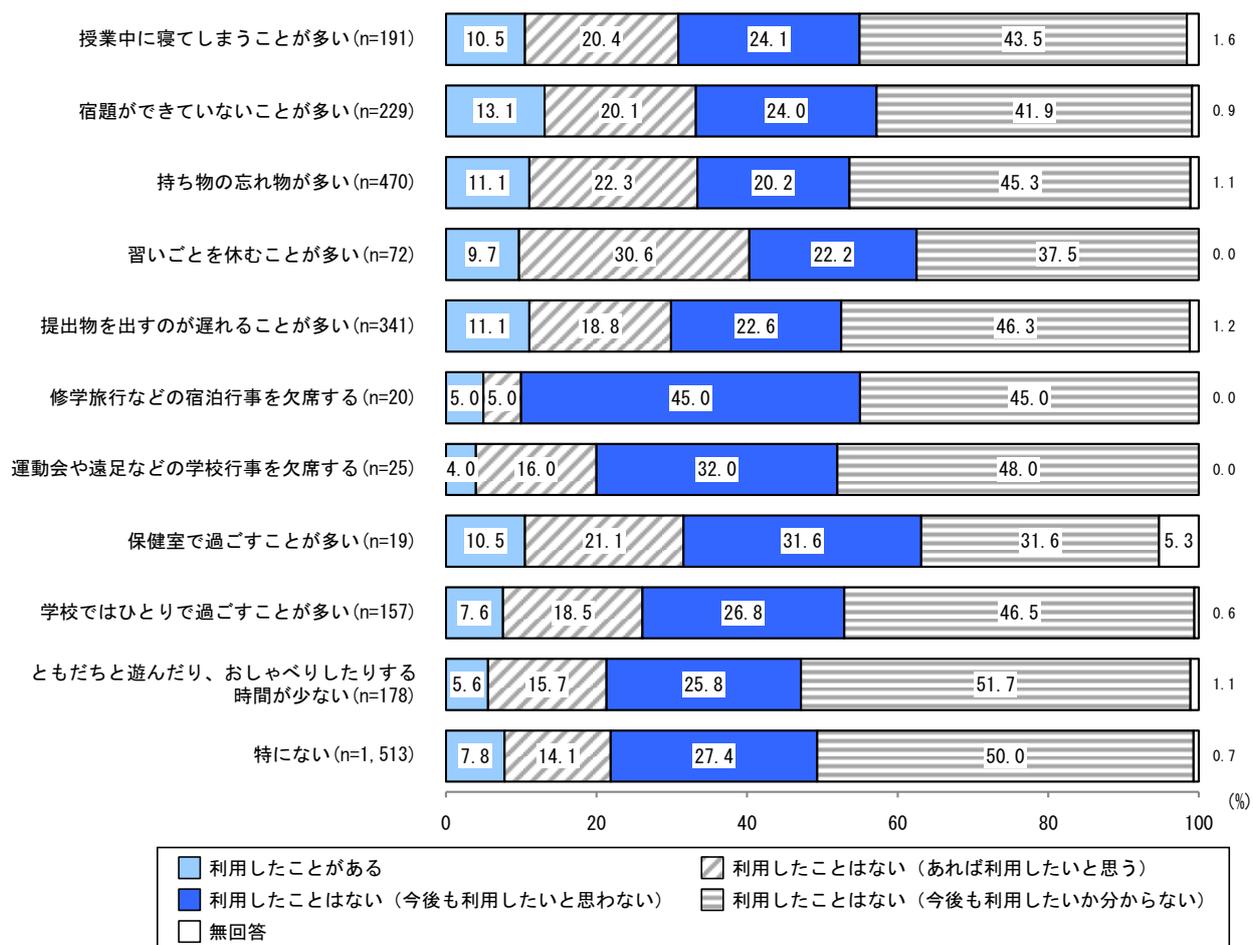
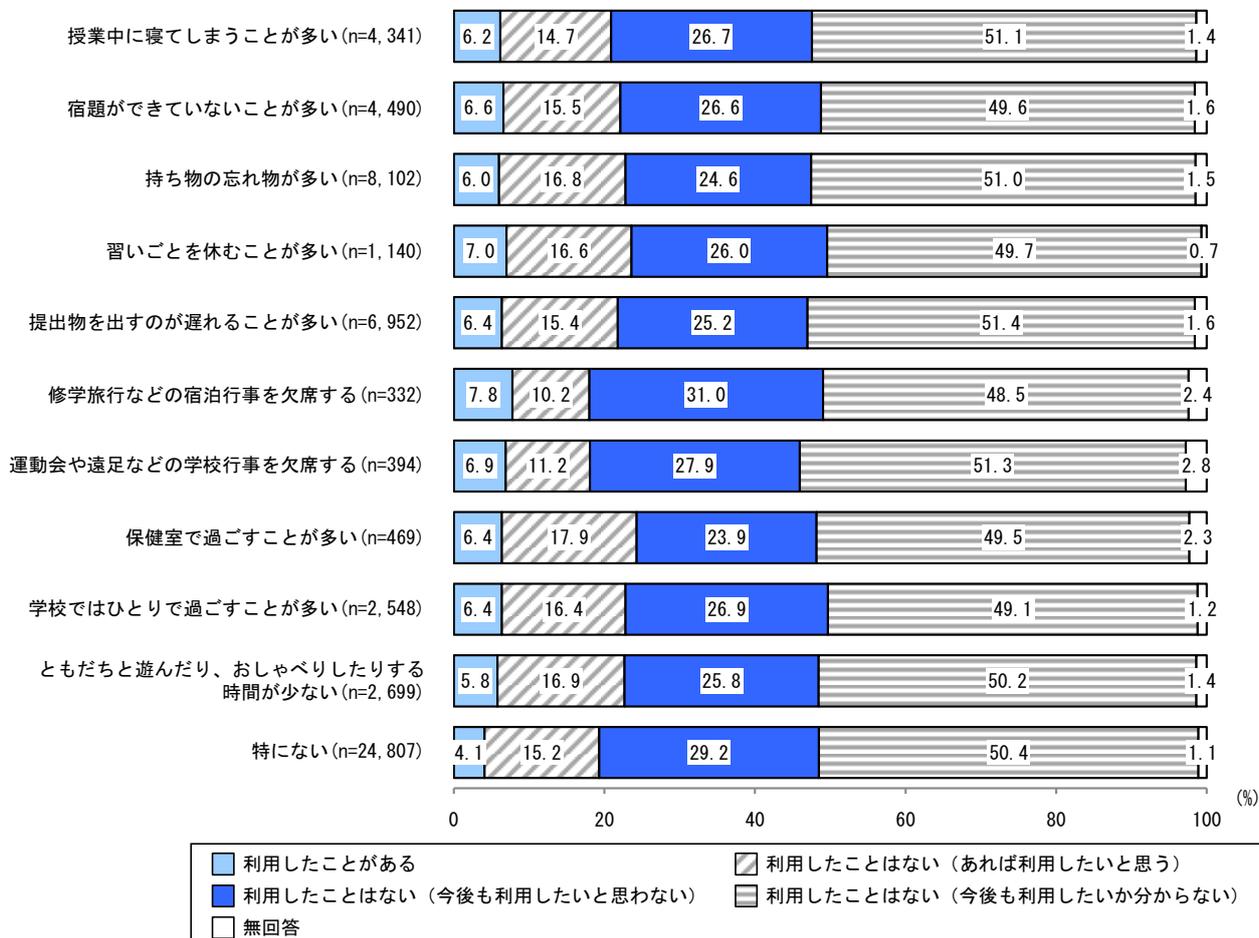


図 186. 学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

学校や学校の行事等の状況別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことがある」と回答した人の割合は「宿題ができていないことが多い」が13.1%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
 (子ども票問 16×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<豊中市>

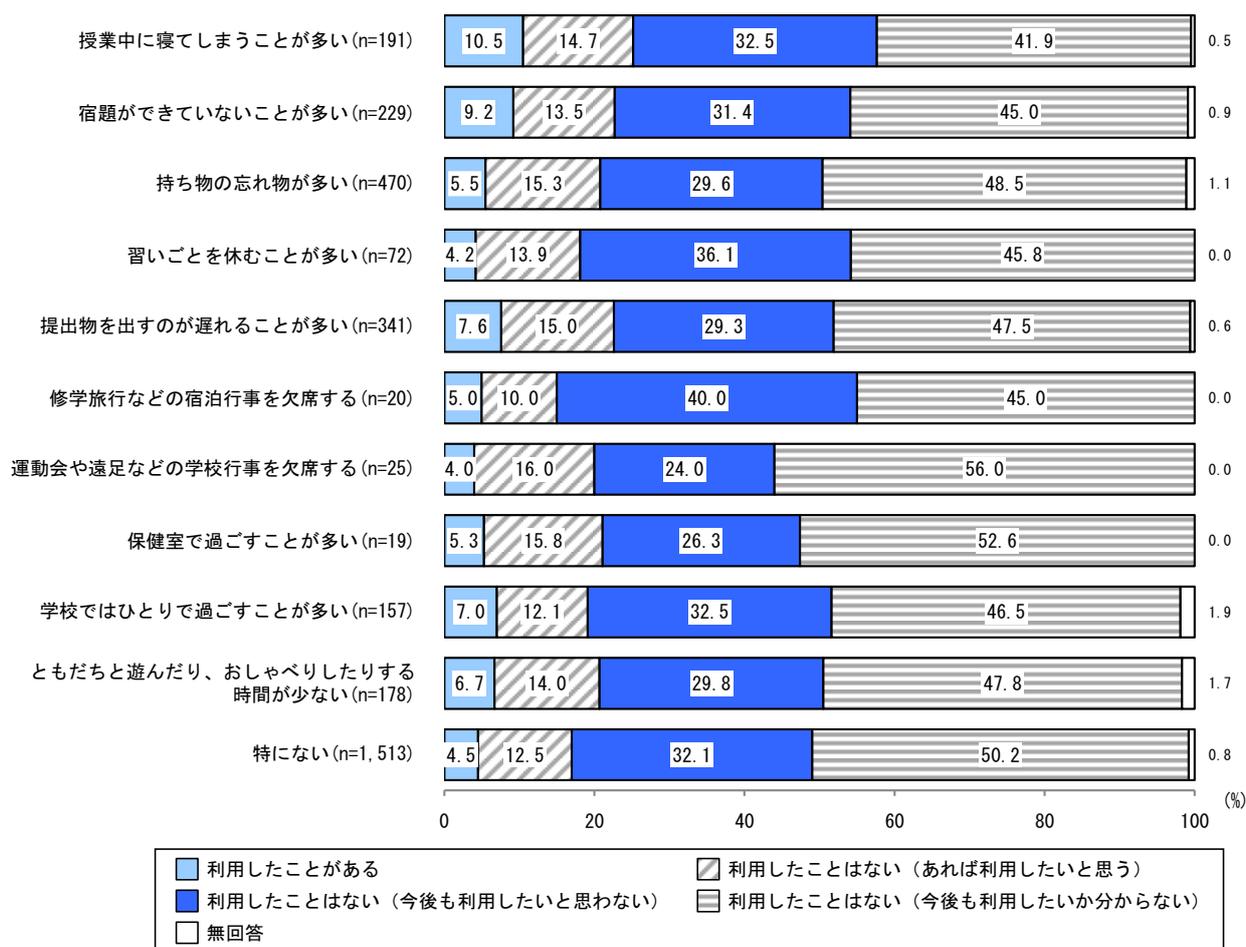
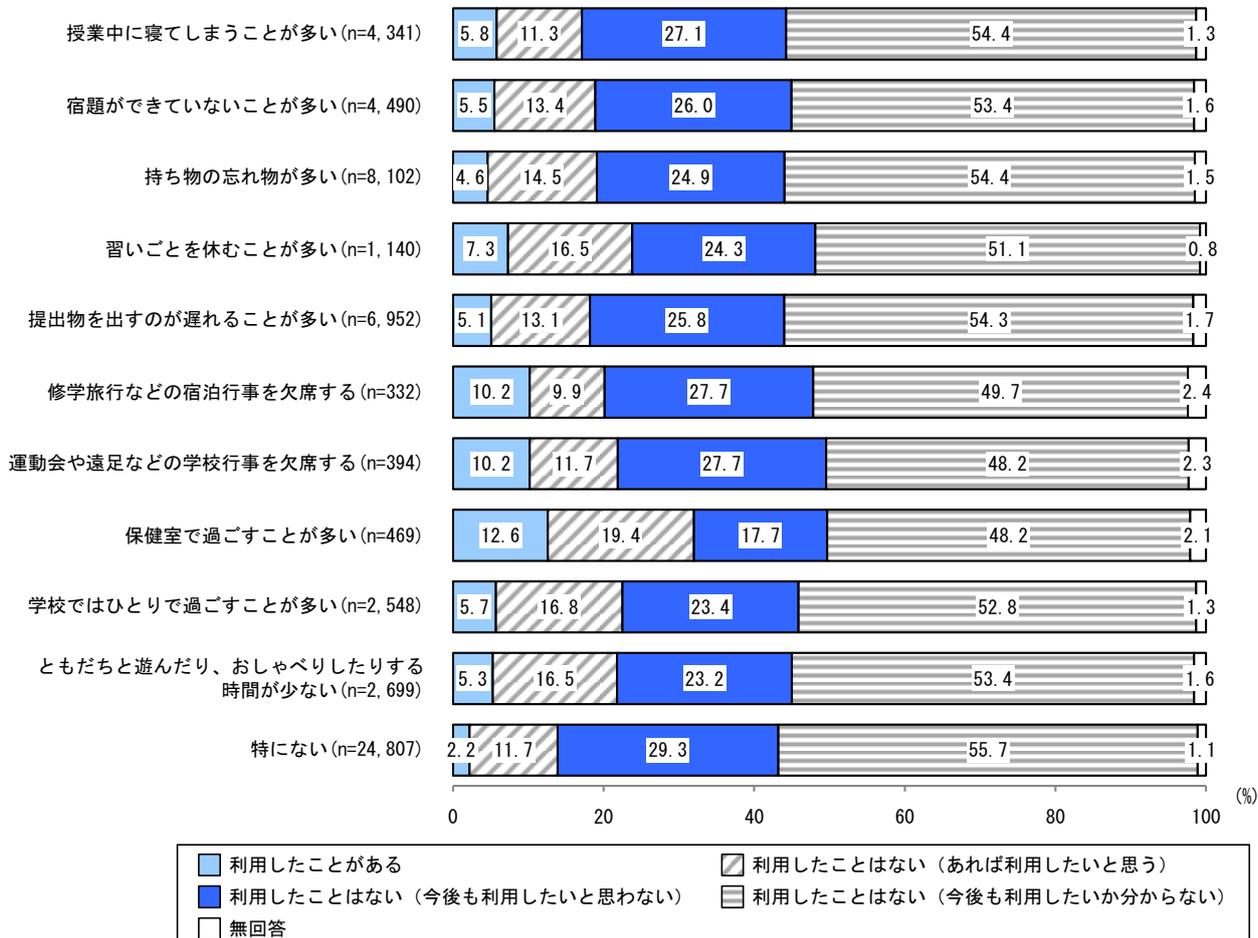


図 187. 学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

学校や学校の行事等の状況別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は「運動会や遠足などの学校行事を欠席する」が16.0%で最も高くなっている。

学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所
 (子ども票問 16×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<豊中市>

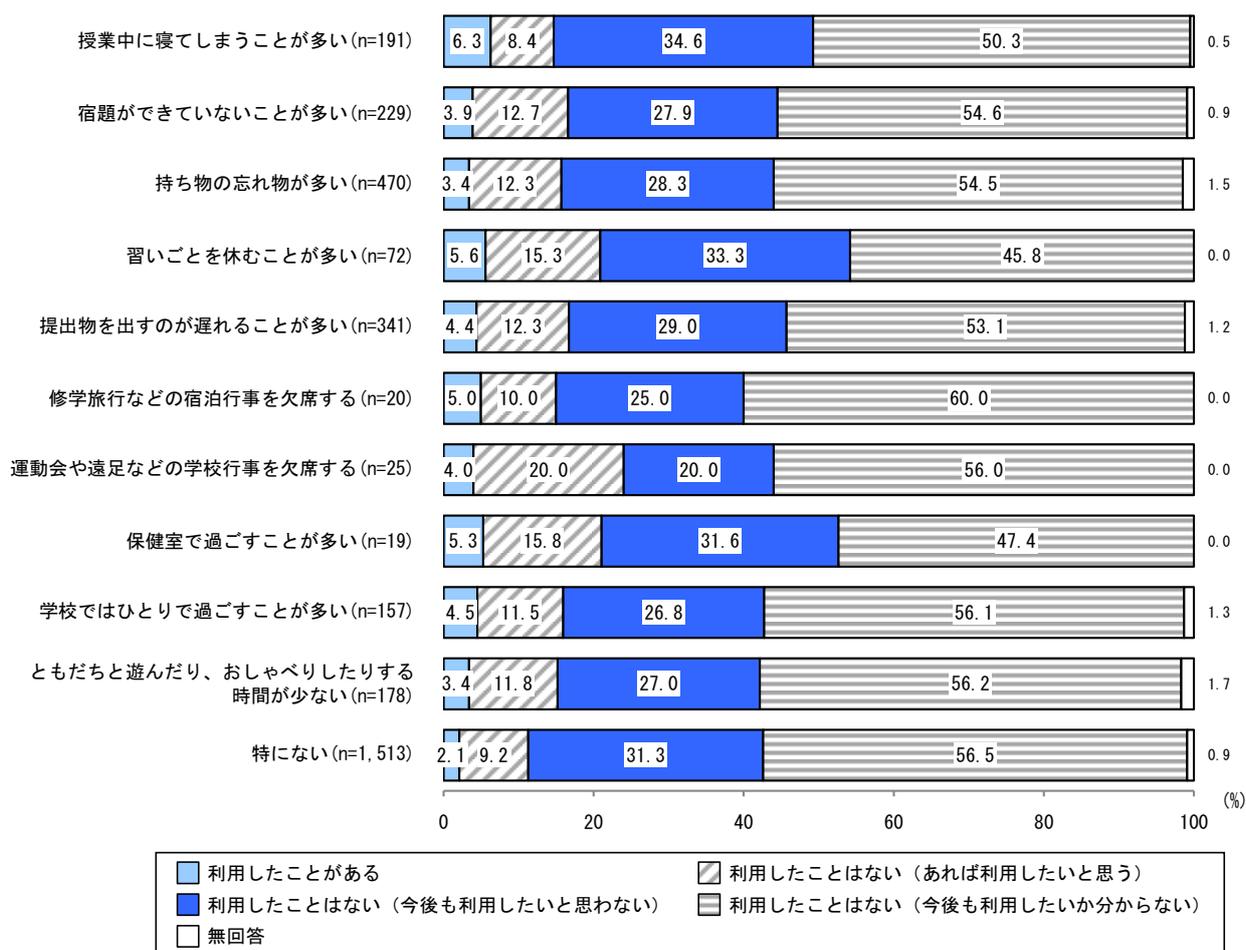
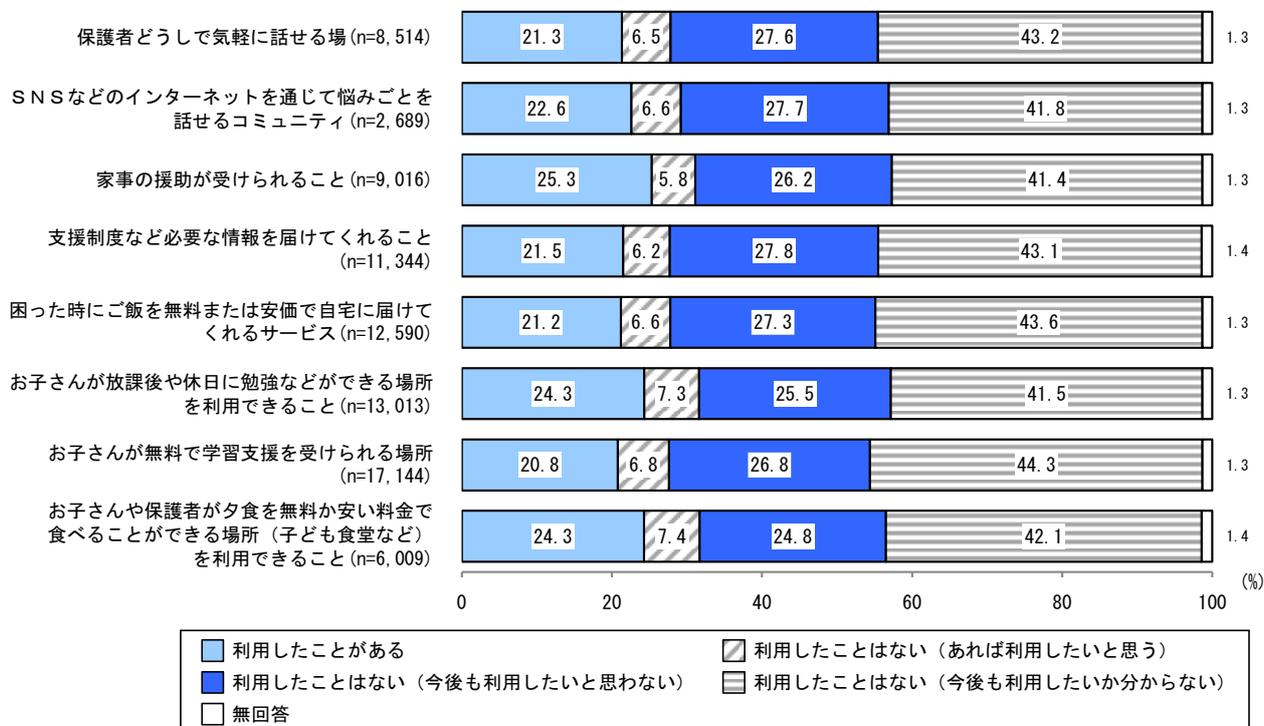


図 188. 学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所

学校や学校の行事等の状況別に何でも相談できる場所を見ると、項目によっては母数が少ないため、一概には言えないが、「利用したことがある」と回答した人の割合は「授業中に寝てしまうことが多い」が6.3%で最も高く、次いで「習いごとを休むことが多い」が5.6%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所
 (保護者票問 20×子ども票問 25(1)①)

<大阪府内全体>



<豊中市>

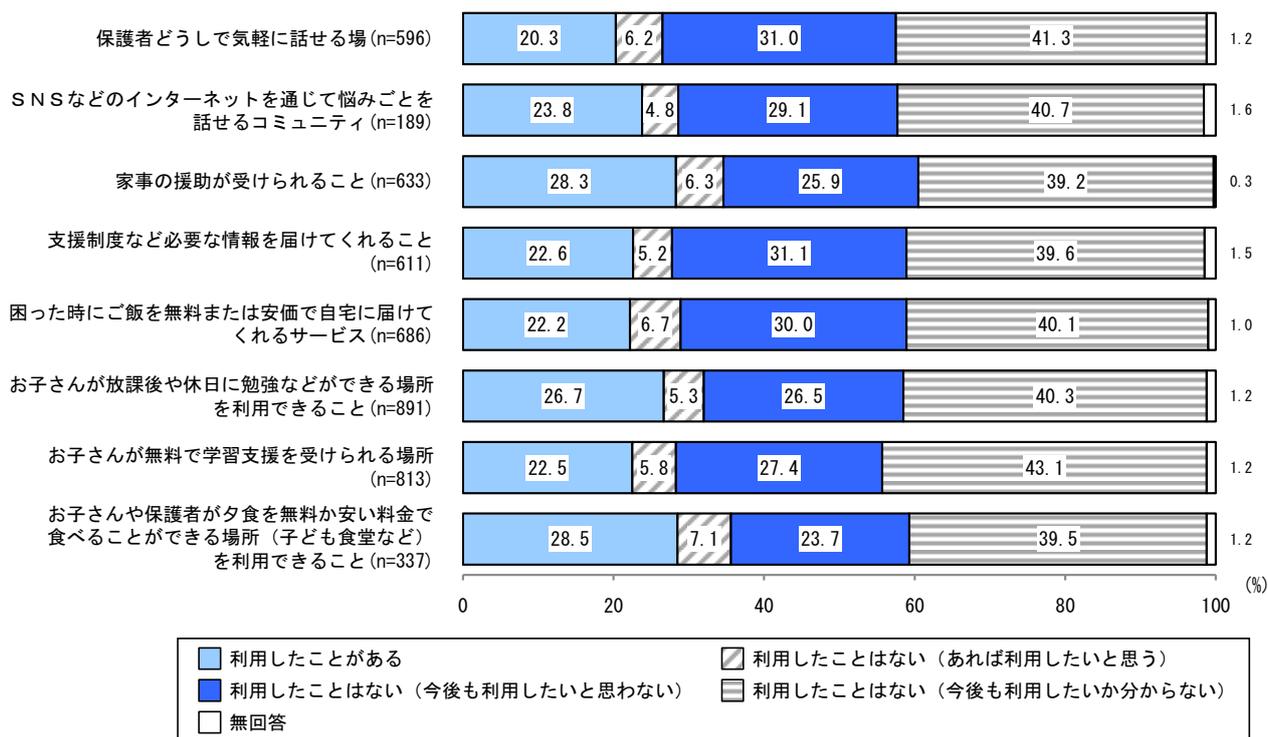
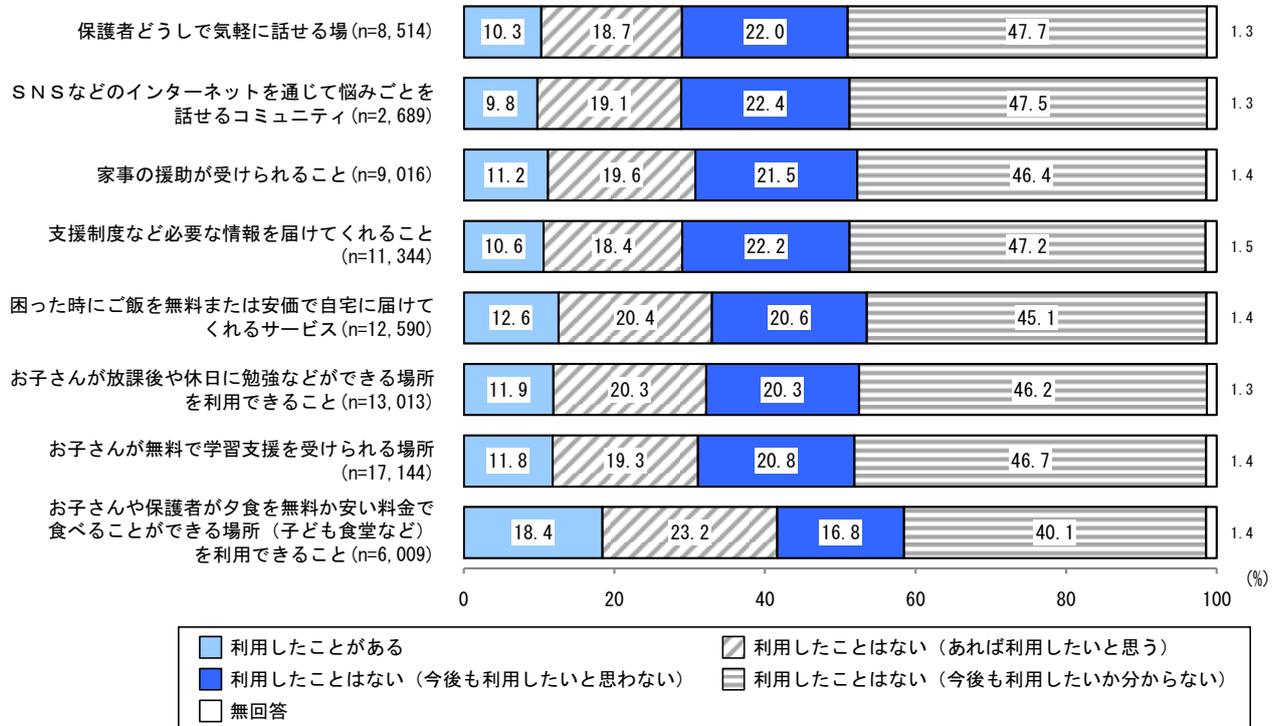


図 189. 身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所

身近にあるといいと思うこと別に平日の夜や休日を過ごすことができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が28.5%で最も高く、次いで「家事の援助が受けられること」が28.3%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所（保護者票問 20×子ども票問 25(1)②）

<大阪府内全体>



<豊中市>

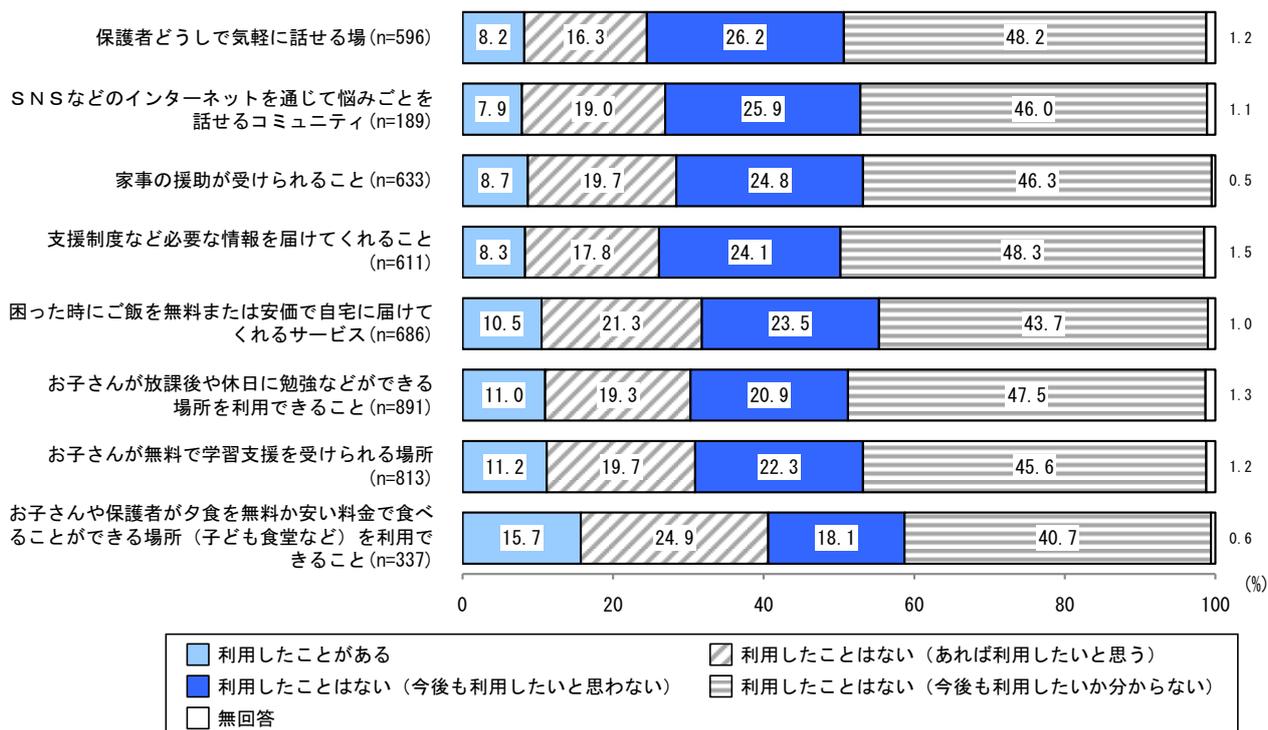
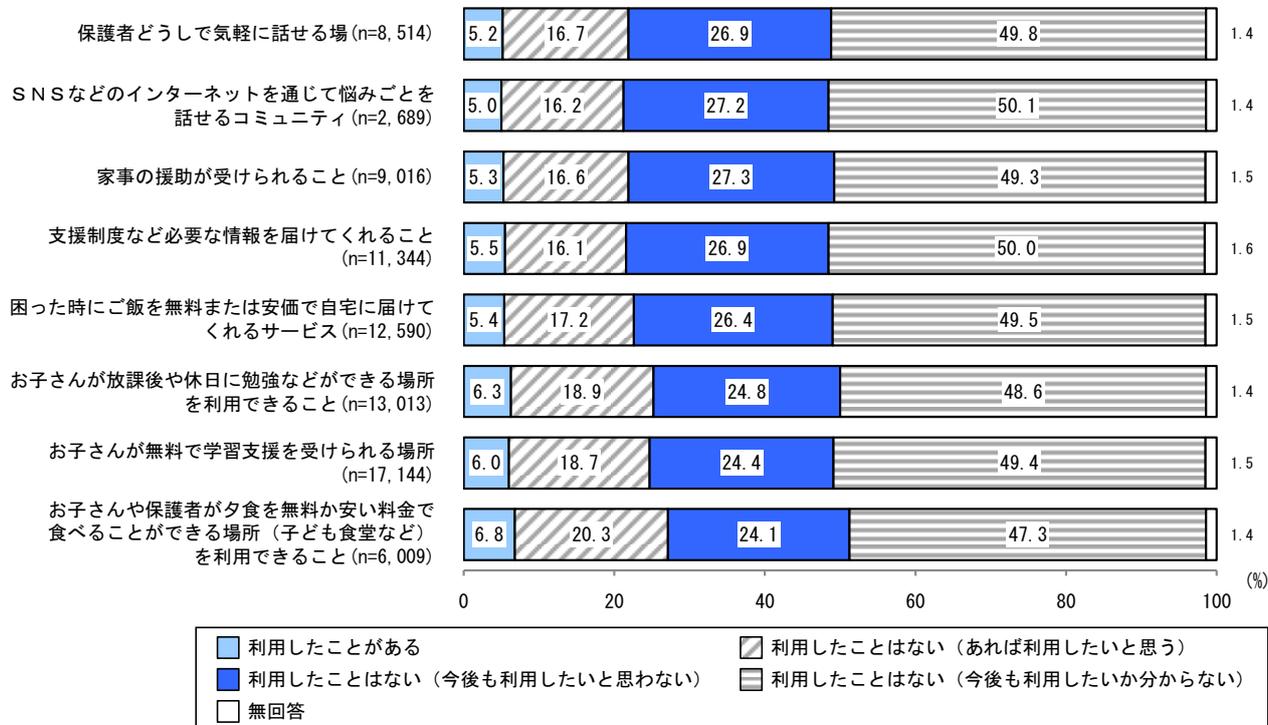


図 190. 身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所

身近にあるといいと思うこと別に昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が15.7%で最も高く、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」も「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が24.9%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所
 (保護者票問 20×子ども票問 25(1)③)

<大阪府内全体>



<豊中市>

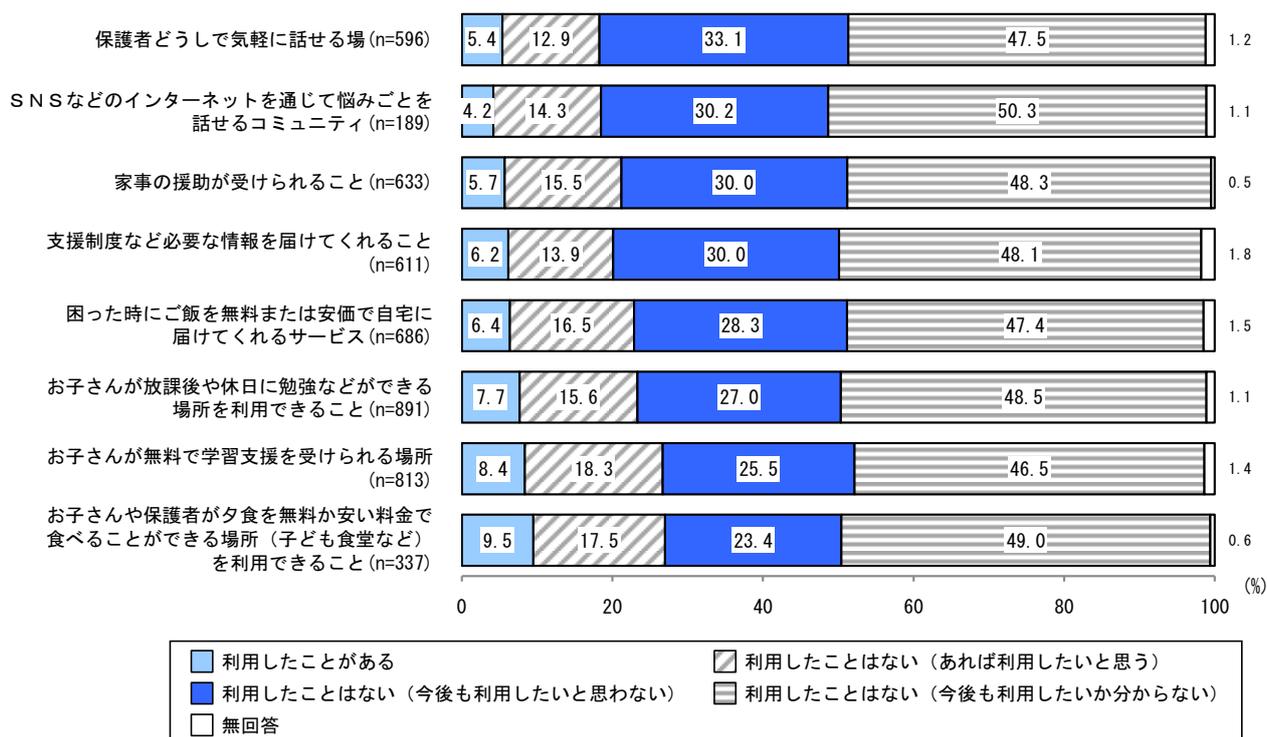
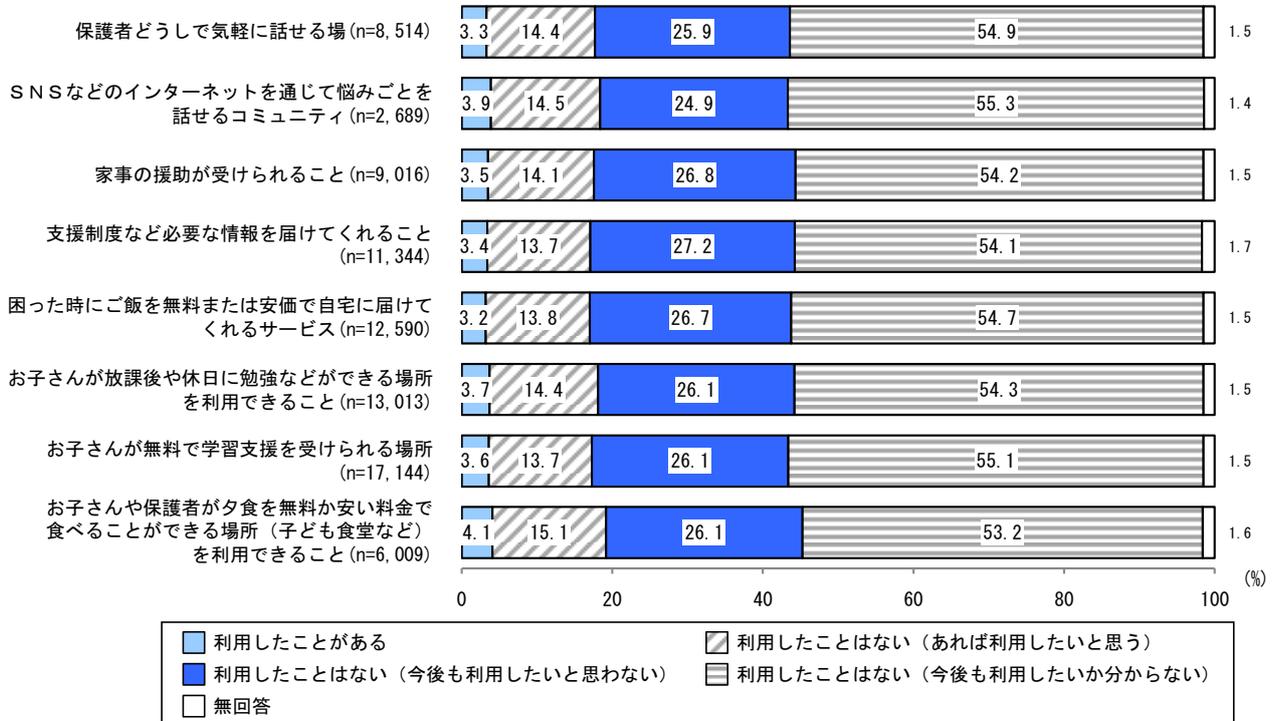


図 191. 身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所

身近にあるといいと思うこと別に勉強を無料か安い料金でみてくれる場所を見ると、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「お子さんが無料で学習支援を受けられる場所」が18.3%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所
 (保護者票問 20×子ども票問 25(1)④)

<大阪府内全体>



<豊中市>

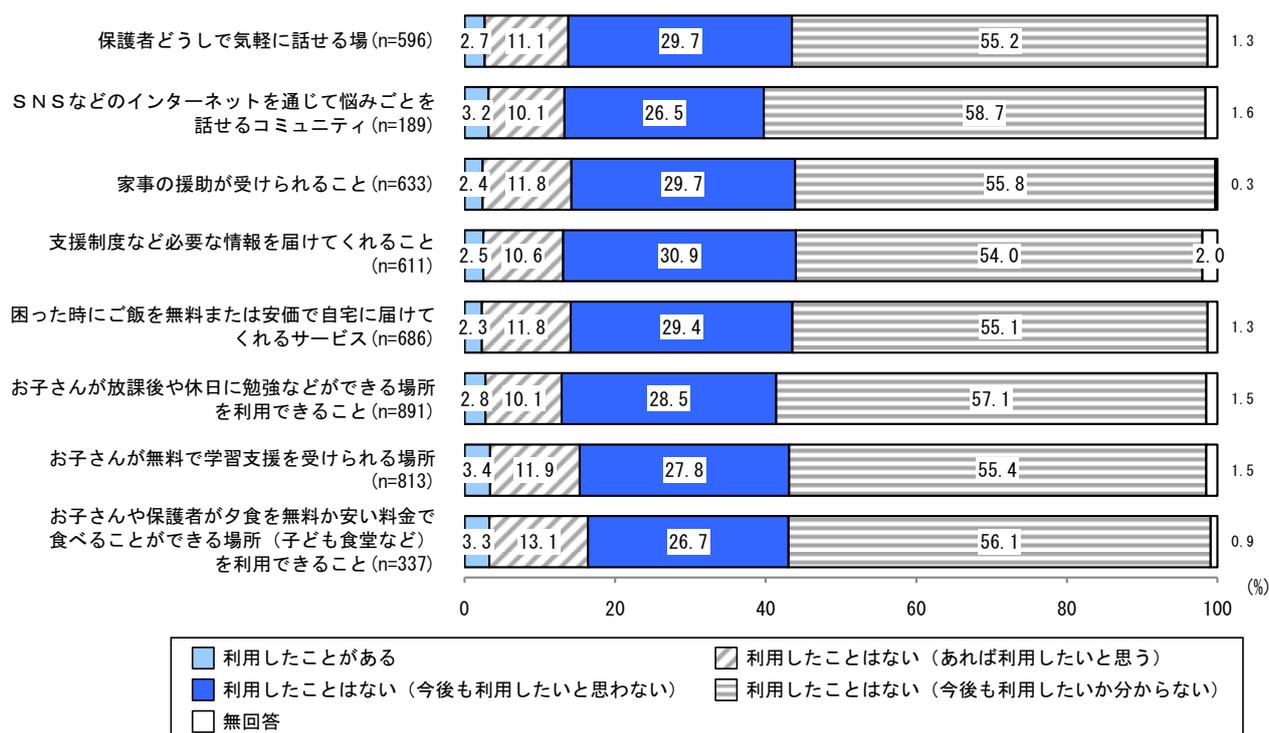
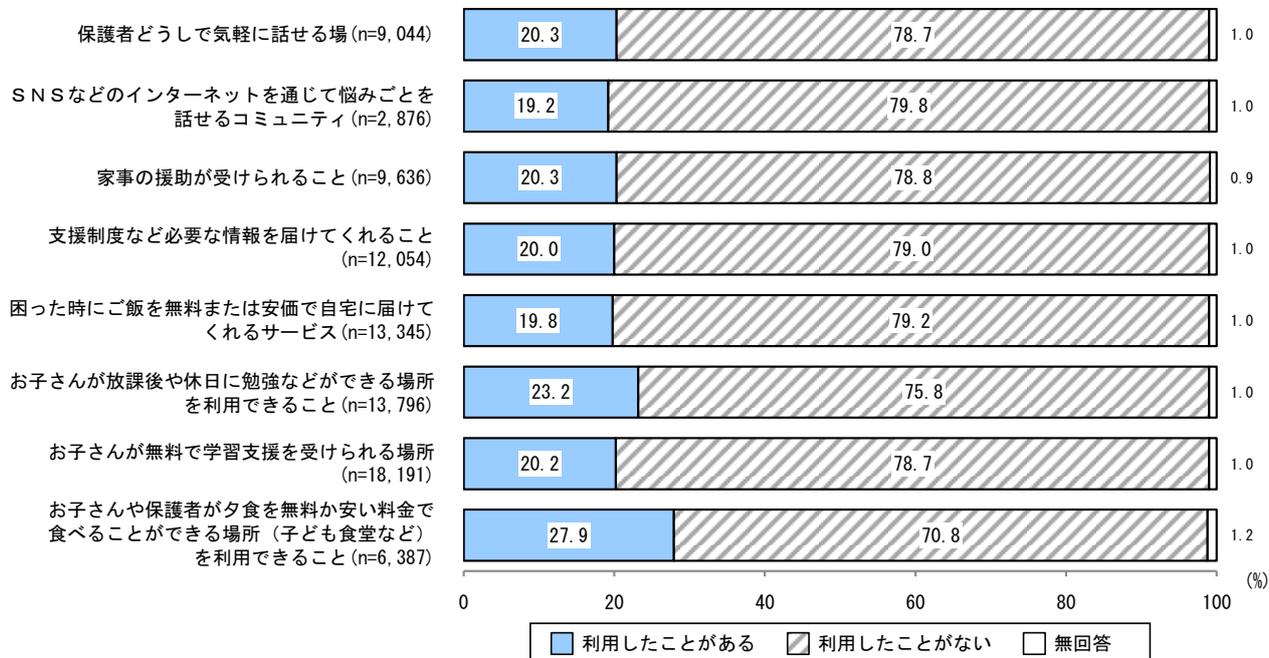


図 192. 身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所

身近にあるといいと思うこと別に何でも相談できる場所を見ると、「利用したことはない (あれば利用したいと思う)」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所 (子ども食堂など) を利用できること」が13.1%で最も高くなっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無
 (保護者票問 20×保護者票問 16(1))

<大阪府内全体>



<豊中市>

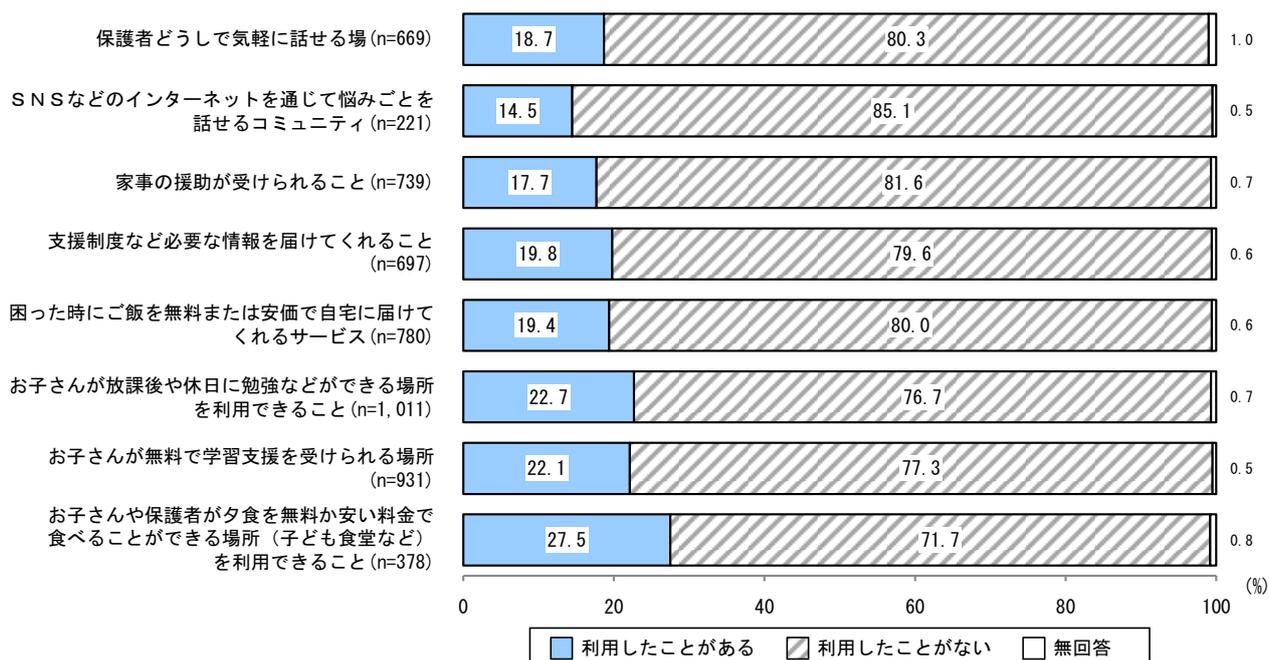
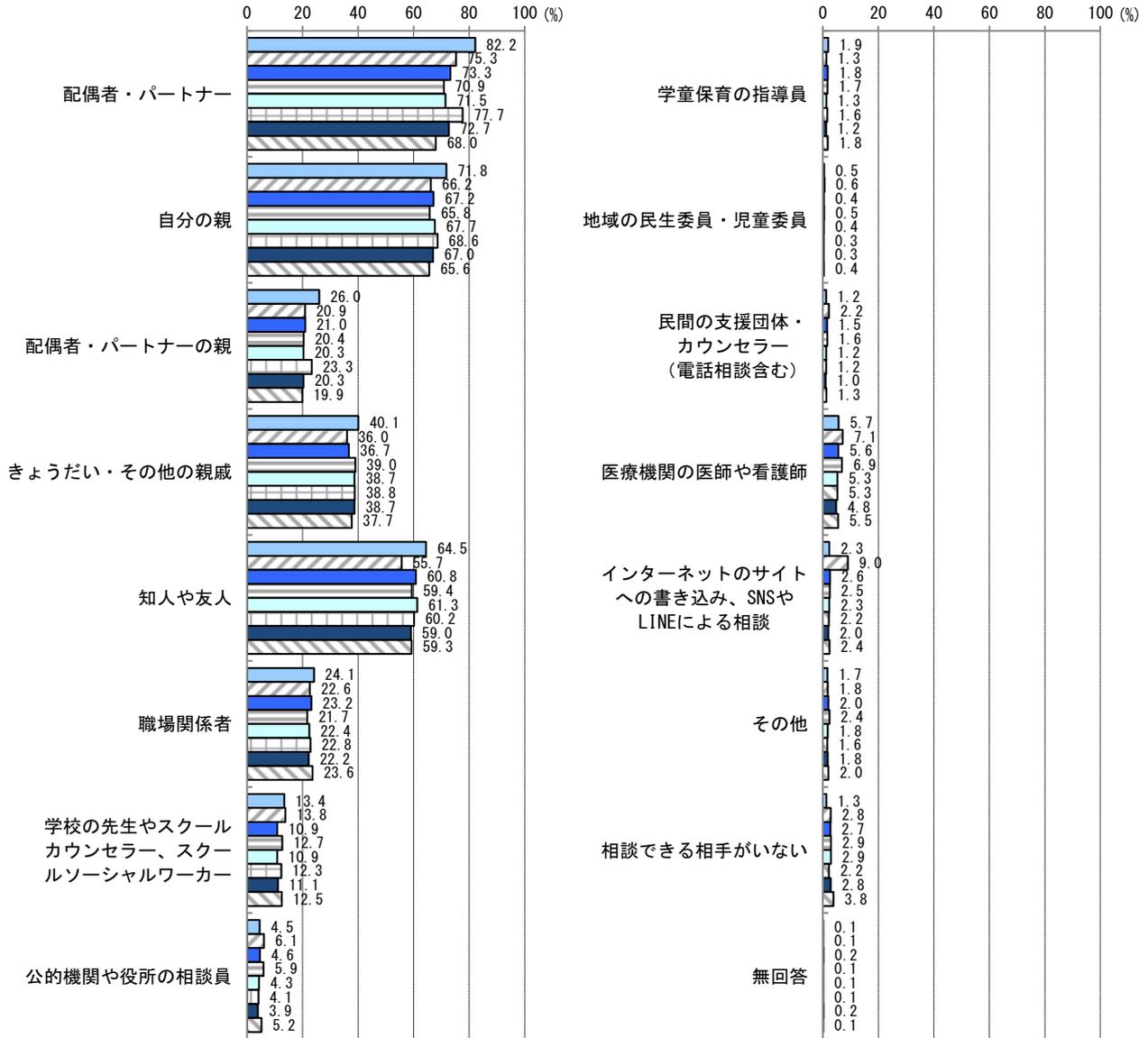


図 193. 身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無

身近にあるといいと思うこと別に子どもの居場所の利用有無を見ると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、「お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金を食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること」が27.5%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が22.7%となっている。

身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先（保護者票問 20×保護者票問 19）

<大阪府内全体>



- 保護者どうして気軽に話せる場 (n=9,044)
- SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ (n=2,876)
- 家事の援助が受けられること (n=9,636)
- 支援制度など必要な情報を届けてくれること (n=12,054)
- 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス (n=13,345)
- お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること (n=13,796)
- お子さんが無料で学習支援を受けられる場所 (n=18,191)
- お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）を利用できること (n=6,387)

<豊中市>

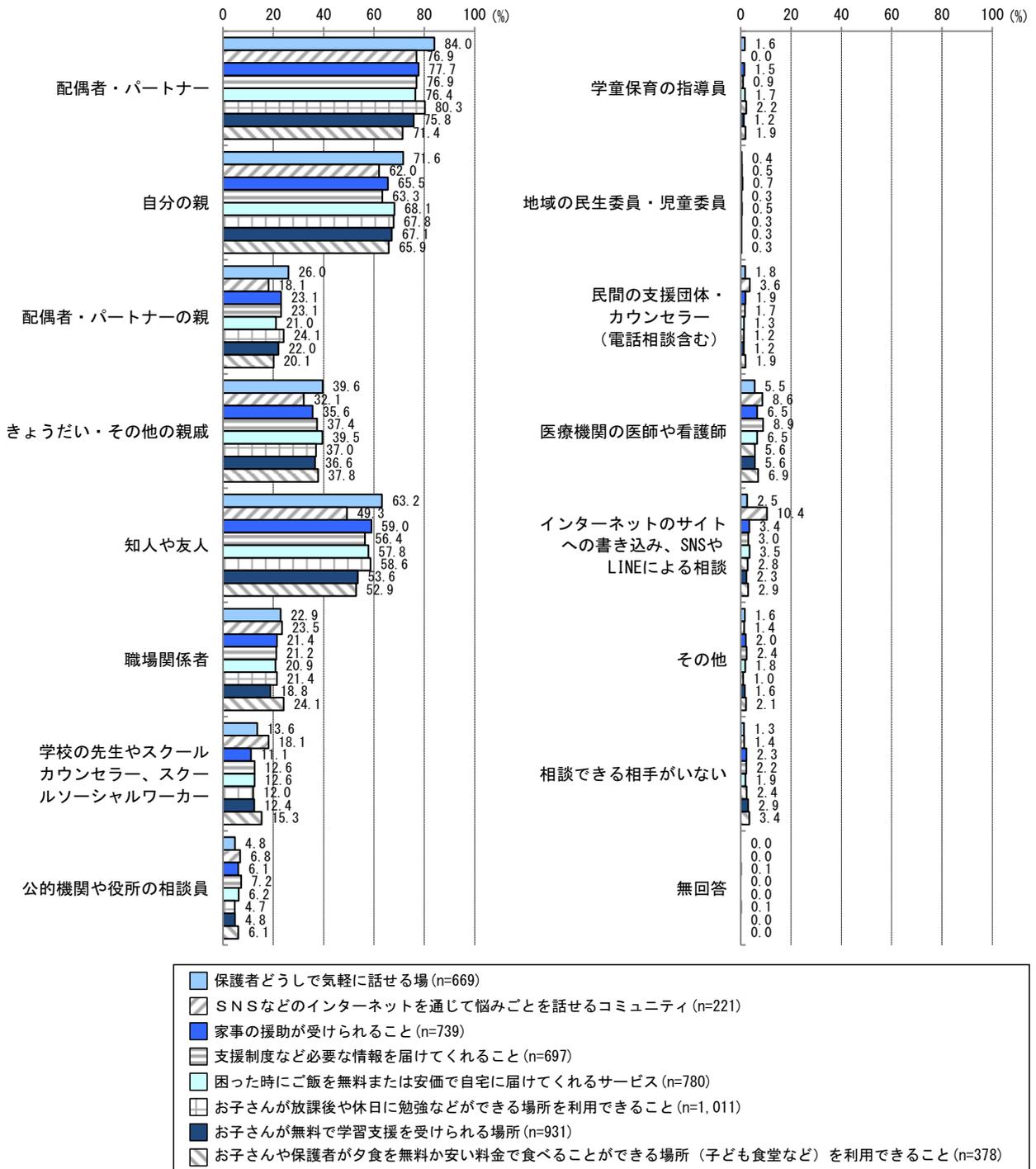


図 194. 身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先

身近にあるといいと思うこと別に本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先を見ると、「配偶者・パートナー」と回答した人の割合は、「保護者どうして気軽に話せる場」が84.0%で最も高く、次いで「お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」が80.3%となっている。

<対人関係に関する考察>

中央値以上群と困窮度Ⅰ群間の差が大きい項目に着目し分析結果を以下にまとめる。子どもが放課後に過ごす場所では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「塾」(44.2%対25.1%)と「習いごと」(40.3%対25.5%)の利用が15ポイント以上高くなっている一方、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「学校(クラブ活動・部活動など)」(43.3%対36.5%)の利用が5ポイント以上高くなっている。子どもが「放課後を一緒に過ごす人」では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「おうちの大人の人」(64.6%対58.6%)、「おうちの人以外の大人」(28.1%対19.0%)が5ポイント以上高くなっている。毎日の生活で楽しいことでは、中央値以上群は困窮度Ⅰ群と比べ、「学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき」(58.0%対47.5%)が10ポイント以上、「ともだちと一緒に過ごしているとき」(82.4%対77.6%)、「今、住んでいる地域の行事に参加しているとき」(18.2%対9.5%)、「塾や習いごとで過ごしているとき」(27.9%対21.3%)が5ポイント以上高くなっている。一方、悩んでいることでは、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、「自分のこと(外見や体型など)」(22.8%対15.6%)、「学校や勉強のこと」(23.6%対18.0%)が5ポイント以上高くなっている。また、子どもの自己効力感では、中央値以上群は困窮度Ⅰ群よりも高く(平均点8.62対8.09)、放課後一人で過ごさない子どもは過ごす子どもよりも高くなっている(平均点8.61対7.95)。これらの結果から、経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会交流や人間関係を築く機会の減少だけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆される。

子どもが放課後や休日に自分や友達の家以外で利用した場所では、困窮度Ⅰ群は中央値以上群と比べ、子どもの居場所を「利用したことがある」(21.2%対14.0%)が5ポイント以上高く、さらに「平日の夜や休日に過ごすことができる場所(学童保育など)」(29.3%対23.6%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所(子ども食堂など)」(11.8%対7.2%)、「勉強や無料か安い料金でみてる場所」(8.7%対3.2%)で5ポイント以上高くなっている。嫌なことや悩んでいるときの相談相手は、自分が世話をしている人がいる子ども群はいない群と比べ、「きょうだい」(18.6%対16.5%)、「学校の先生」(21.7%対18.7%)が高く、「平日の夜や休日に過ごすことができる場所(学童保育など)」(28.8%対25.2%)、「昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所(子ども食堂など)」(12.3%対8.0%)、「勉強を無料か安い料金でみてる場所」(9.7%対4.3%)、「何でも相談できる場所」(5.0%対2.3%)を利用している割合が高くなっている。これらの結果から、経済的困難な家庭や子どもが家族の世話を担っているケースでは、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆される。

自分が世話をしていることの影響では、ほぼ毎日群は1か月に数日群と比べ、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」(45.3%対17.6%)が25ポイント以上、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」(41.4%対23.5%)が15ポイント以上、「おうちの人が健康に過ごすことができる」(23.6%対11.8%)、「『お世話』にやりがいを感じる」(34.0%対20.6%)、「いらいらしやすい」(20.2%対8.8%)が10ポイント以上高くなっている。悩んでいることでは、自分が世話をしている人がいる子ども群はいない群と比べ、「学校や勉強のこと」(27.2%対18.8%)が5ポイント以上、「おうちのこと」(8.4%対5.2%)、「自分のこと(外見や体型など)」(20.4%対16.5%)、が高くなっている。これらの結果から、自分が世話をしている人がいる子どもは家族との対話や家族のことを考える時間が多いが、社会と関わる時間が制限されストレスを抱える傾向にあることが示唆される。

本当に困ったときや悩みがあるときの保護者の相談相手・相談先では、子どもの居場所を利用したことがある群は無い群と比べ、「知人や友人」(58.1%対52.7%)、「学校の先生やスクールカ

ウンセラー、スクールソーシャルワーカー」(14.3%対9.2%)が5ポイント以上、「きょうだい・その他の親戚」(37.9%対33.9%)、「配偶者・パートナーの親」(24.6%対21.4%)、「医療機関の医師や看護師」(7.6%対4.4%)、「公的機関や役所の相談員」(5.9%対3.5%)、「学童保育の指導員」(2.9%対0.7%)が高くなっている。これらの結果から、子どもの居場所が様々な専門家や機関との連携を可能にしており、総合的なサポート体制として機能していると考えられる。

※参照データについては一部資料編に掲載

Ⅲ 総合考察

本報告書における「子どもの貧困」概念の捉え方であるが、基本的に、2016年度の調査で扱った貧困概念に基づいている。簡単に述べると、子どもの貧困を相対的貧困で捉えた上で、①所得や資産などの経済的資本、②健康や教育などのヒューマン・キャピタル、③つながりやネットワークなどのソーシャル・キャピタルの3つのキャピタルの欠如を枠組みとしている。この数年で、「子どもの貧困」「相対的貧困」概念も十分に知られるようになったことから、詳細な説明はここでは割愛するが、山野則子編著（2019）を参照されたい。

次に、総合考察においては大阪府および共同実施市町で実施した調査結果に基づく数値で検討を行う（府が直接実施した調査は25市町村分であり、前回比較は2016年度実施の30市町村分で行う）。各ページにはグラフコメントやクロス分析を考察したセクションコメント（経済状況、雇用、健康、家庭状況制度、家庭生活と学習、対人関係）を記載している。総合考察においては、これらセクションコメントを踏まえ、2016年度と比較し変化のあるものや新規項目などを中心に記載している（一部、要望により同傾向でも記載あり）。単純集計はセクションコメントに出ないため、可能な限り数字を入れて説明する。

1) 大阪府共同実施調査の意義

本市の調査のみならず大阪府内43自治体と共同で調査を実施して把握したことは、合計の回答者数の多さにおいても都道府県レベルで域内すべての自治体の対象者が入っている点においても、意義がある。その上で、大阪府内全自治体の結果は、豊中市の調査結果の傾向を裏付けるものであった。これは無作為抽出であっても全体と比較してみることで、傾向の把握が可能であり、信頼性があることを示すものとなった。

本報告では、すべての項目に大阪府内全自治体のグラフを入れることで、結果をわかりやすくしている。本調査は、子どもの貧困対策の評価につながる基礎調査である。

2) 単純集計

<経済面・家庭状況制度面>

豊中市では、2016年度の前回調査（以後、前回調査とする）では20.1%の世帯が赤字であったが、今回はやや低くなり、17.4%であった。この数値は、前回は、中2の世帯が小5の世帯よりも高くなっており、3.6ポイントの差があったが、今回は両者がほぼ同じ数値（17.8%対17.1%）となっている。この結果から、前回明らかにした、クラブや塾など小学生よりも中学生の方が家計を圧迫していることに対応がなされていることが示唆された。また、子どものための貯蓄をしたいができない状態が、前回28.3%が今回24.7%であった。持ち家率は前回67.9%だったのが、今回74.5%とやや上がった結果である。持ち家率の上昇については、コロナも含め災害が多発することで持ち家への価値観が変化してきたかとも考えられるが、家庭の経済状況の改善も一因と考えられる。経済的な理由で経験できなかったこと（はく奪項目）について、生活における食費の切りつめやレジャーを控えるなどの項目は、2016年に比較して該当率が下がっている。それに呼応して、どれにもあてはまらないという回答は前回30.0%、今回34.1%とやや高くなっている。以上より、家計の赤字の数も減り、子どものための貯蓄や持ち家率の上昇等、全体を見たときに、2016年度から少しではあるが、好転しているようにとらえられる。

経済的理由による子どもに関する経験（子どものはく奪）に関しては、「子どもを医療機関に

受診させることができなかつた」が前回1.7%、今回0.3%である。この結果について、特に子どものいる世帯における医療面での施策が、豊中市においても確実に実施され、その成果が出たものと思われる。この他、「子どもに新しい服や靴を買うことができなかつた」が前回8.2%、今回6.8%、「子どもを習い事に通わすことができなかつた」が前回10.3%、今回9.1%、「子どもを学習塾に通わすことができなかつた」が前回11.0%、今回9.8%と減少しているが、ほかは残念ながら好転がみられない（「子どものための本や絵本が買えなかつた」が前回3.9%、今回3.9%、「子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかつた」前回0.6%、今回0.4%など）。

また、子どもが持っているものや使えるものを見ると、本は前回83.7%、今回77.2%、子ども部屋は前回76.9%、今回72.6%、自転車が前回92.5%、今回86.7%と下がっているものが多い中、極端に上がったのは、スマートフォンやタブレット機器は前回52.0%、今回79.4%であり、これらは市立小中学校児童生徒への一人一台のタブレット端末の配備の成果と思われる。

以上から、家計の状況は少し改善がみられ、子どもを医療機関に受診させることができなかつた割合も減少するなど、一部ではあるが家計の改善を子どもに回す余裕もみられる。したがって今後は、経済的理由で子どもの活動が制限されたことによりできなかつた経験（上記に挙げたようなこと）がどの家庭でも実現できるような、さらなる方策が非常に重要である。

前回調査では、養育費の取り決めについては設問を入れていなかったため、豊中市での正確な比較はできないが、今回、養育費の取り決めをして受け取っているのは39.4%と約4割であった。反面、養育費を取り決めていないのは18.1%と約2割であった。2016年度全国ひとり親世帯等調査（厚生労働省2017）では、ひとり親家庭のうち養育費についての取決めをしている割合が母子世帯で62.9%、父子世帯で20.8%、そのうちひとり親家庭で養育費を受け取っていない子どもの割合が、母子世帯69.8%、父子世帯90.2%という値であり、今回の結果は、養育費関連の施策の成果はあつたのではないかと推測される。

<雇用・家庭状況（制度等）>

保護者の就業状況については、今回調査は前回調査と比べて、父親より母親の就業状況でより大きな変化が確認できる。何らかの仕事をしている母親は、前回71.6%、今回80.4%と約10ポイント上昇している。そのなかで、正規職員が前回15.4%、今回25.5%で約10ポイント増えている。同時に就業状況に影響があると考えられる学歴についても、母親の学歴を見ると、高校卒業が前回18.6%、今回13.4%で約5ポイント減少、大学卒業が前回29.3%、今回40.5%、約10ポイント上昇した。雇用に関する結果は、世の中の人手不足と相まって働く人が増加したことにより、可処分所得も増加したことと関連するであろう。社会の認識の変化や政策による変化があつたのではないかと考えられる。子どもの貧困の世論が広まり、各所に出された政策の効果と考えられよう。

支援制度の利用状況は、就学援助は前回12.8%、今回8.8%、児童扶養手当が前回9.8%、今回10.6%、生活保護が前回2.2%、今回0.5%であった。就学援助制度について、「利用したことがない」との回答が前回61.2%、今回82.8%とかなり増加しており、今回調査ではその理由を聞いているが、「自身が該当しない」が93.8%でほぼ皆がそう思っていることがわかつた。この数値は、もっと受けることができる世帯があると思われるが、受けていないことを示唆している。前回は「あなたが受けることができる権利がある」メッセージを必要な人にどう届けるのか大きな課題であつたが、改善には至っていない。各制度を正しく知らせ、他人ごとにせず、そこでのスティグマを無くし受けやすくする工夫がさらに必要である。

<健康・家庭生活・学習・対人関係>

まず、食事については「朝食を食べない」（週に1回も食べていない）が前回1.4%、今回1.7%とほぼ変わらない。食べない理由には「用意されていないから」が、前回2.9%、今回3.4%、「食べる習慣がない」が前回4.4%、今回9.1%と約5ポイント増加している。

家族と関わる設問は、前回調査と傾向はほぼ変わらなかった。放課後過ごす場所は、「友だちの家」が前回25.9%、今回19.8%、「学校（クラブ活動など）」が前回43.6%、今回37.9%と減っており、コロナの影響による社会的交流が減ったことからの可能性が考えられる。友人との関係性が薄れることは、孤立や孤独へ向かう懸念も生じる。

勉強に関しては、今回調査から「授業がわからなくなった時期」について調査し、小学生では3、4年生（55.4%）、中学生では1年生（51.0%）でつまづいていることがわかった。相談相手では、誰にも相談できない、相談したくないと感じている子どもは、前回14.3%、今回は9.7%と前回調査よりも減っている。前は身体や気持ちで気になること、今回は身体の状態で気になること、「この1週間の気持ちの状況」で気になることを聞いているため単純に比較はできないが、「特に気になるところがない」が前回25.5%、今回は38.0%（体調）、「やる気が起きない」において「そんなことはない」が30.8%であった。

悩みについては、前回調査と数値も傾向も変わらない。最も多いのが、「学校や勉強のこと」について「自分のこと（外見や体型のこと）」「進学・進路のこと」であった。

制度やサービスでいうと、子どもの居場所において、「平日の夜や休日過ごす居場所」の利用では小5が26.1%、中2が20.6%の子どもが利用したことがあり、「食事提供の居場所」は小5が10.0%、中2が7.0%、「学習支援の居場所」は小5が4.0%、中2が6.5%、「何でも相談できる場所」は、小5が2.8%、中2が2.7%の子どもが利用したことがあった。これらを併せた居場所の効果として「友だちの増加」が小学生で32.1%、中学生で34.3%、「生活の中に楽しみなことが増えた」は小5が14.2%、中2が8.1%、「気軽に話せる大人が増えた」は小5で14.6%、中2で6.4%という結果であった。このことは今後の展開に大きな意味をなすであろう。ただし、中学2年生は、友達が増えたと回答する反面、同じくらい「特に変化なし」（31.4%）と回答している。そのため、早期に居場所に繋ぎ、居場所が誰にとっても当たり前の選択肢にすることが望ましい。

「平日の夜や休日過ごせる居場所」以外に、利用したことがある居場所は「食事提供の居場所」8.6%、「学習支援の居場所」約5%、「何でも相談できる場所」は2.7%と少なくなり、将来の利用に関する積極的な利用希望も「食事提供の居場所」が小中合わせて15.9%、「学習支援の居場所」が小中合わせて13.1%になり、子どもたちの希望があるととらえられる。「放課後過ごす場所」において、「友だちの家」や「学校（クラブ活動など）」が減少していることと併せて、子どもたちに多くの選択肢を提供できる方がよいと考えられること、自分には関係ないとする傾向があるかもしれないこと、などから居場所の充実とより自然な提供が望まれる。最後にヤングケアラーの項目である「家族に世話をしている人」がいるかどうかについては、厚生労働省の研究事業として実施された調査結果と比べると、小学生6.5%（日本総研2022）、中学生5.7%（MURC2021）という値よりはるかに高い、小5が19.2%、中2が10.9%であり、内容もきょうだいの世話が最も多く、小5は73.9%（小学6年生28.5%：日本総研2022）、中2が74.4%（中学生79.8%：MURC2021）である。家事は複数の質問にまたがっていることや複数回答可にしていることから単純に比較できないが、国の結果35.2%より高いと予想できる。時間をみると1時間以内が最も多く、定義のあいまいさが子どもに答えにくくさせていると思われる。今後、イギリスのように定義を明確にしていくことも検討を行うことが望ましい。

今回調査で保護者が身近にあるといいと思うことは、上位3つが「放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること」37.0%、「無料で学習支援が受けられる場所」34.0%、「困っ

たときにご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス」28.5%であった。学習に関して特に身近にあるといいと考えていることがわかり、これらのサービスを利用している率の低さから、身近に届けられるような工夫が必要である。

3) クロス集計

各セクションコメントでは、2023年度の項目のみで確認してきたが、ここでは可能な限り前回調査と比較する。まず経済面では、できなかつた経験（はく奪指標）として、2016年度も検討してきた項目から確認する。

まずは、経済面から確認する。「家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある」「電話（固定・携帯）など通信料の支払いが滞ったことがある」「国民年金の支払いが滞ったことがある」などの項目では前回調査よりも減少、特に困窮度Ⅰ群においては半減に近い減少がみられる。ただし、「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」の減少は大きくはなく、将来への不安感の解消にまで至っていない。子どものはく奪に関して、「お子さんの進路を変更した」は2016年度と比較して増加している。これは、コロナ禍となったこともあり、経済的リスクのしわ寄せが子どもに向かった可能性があるが、避けなければならないことであり、対策を講ずべきである。また、家計を住居の所有状況別にみると、「府営・市営の住宅」において、家計が赤字の世帯の割合が約4～6割（前回61.2%、今回38.7%）、子どものために「貯蓄したいが、できていない」割合が約4～7割（前回71.6%、今回45.2%）と他と比較して家計の厳しさが示されたと言える。

支援制度に関しては、まず就学援助制度は、申請すれば利用できるはずの困窮度Ⅰ群であっても利用したことがない人が、前回調査では16.8%であったが、今回調査では36.7%と増加している。現在利用している人をみても、前回調査57.1%だったところ今回調査は50.2%と減少している。児童扶養手当（ひとり親）も困窮度Ⅰ群で利用したことがない人が、前回調査8.5%から今回調査14.0%と約5ポイント増加している。「生活保護制度」について、困窮度Ⅰ群において「利用している」が前回調査9.0%から今回調査2.9%と約6ポイント減少しており、やはり利用は全体的に少なくなっている。これら設問の文言（例「受けたことがある」→「利用したことがある」など）の違いはあるものの、困窮度Ⅰ群にとって、制度利用は十分に進んでおらず、さらに厳しい状況となったとも推察できる。

子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況は、本調査において全体で3.9%、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金は0.7%である。全国レベルのデータを見ると、2020年コロナ発生後の10月の調査（厚生労働科学特別研究）において、収入200万未満の世帯で利用率は35.6%（山野研究室2021）である。これらの数値を直接比較することはできないが、いずれにおいても割合の低さから、2016年以降子どもの貧困が周知されるようになり、コロナ禍となって、さらに支援制度の広がりや周知が今まで以上になされたが、大阪府においてもその活用が広がりきらなかったということが考えられ、今後利用が減少した要因を探る必要がある。

10代で親になった世帯の生活の厳しさは、前回調査と同様であり、たとえば母親の最終学歴について初めて親となった年齢別では、中卒（「中学校卒業」および「高等学校中途退学」）が半数近く、他の年齢群に比べて高い割合を示している。また、就労状況において正規社員の割合が、他の年齢群と比べて低くなっている。出産などによって学業を中断せざるを得なかった10代への教育支援や就業支援もさることながら、そもそもの予防的支援として、自分を大切にすることや将来を見ずえるような教育的支援が望まれる。例えば、小学生から高校生まで、性教育含む生きる教育（西澤・西岡ほか2022）の積極的な導入を進めるべきである。またスウェーデンで行われる、実際の社会問題と向き合い、制度を知り選択できる力を養う社会科授業の実施など、思い切っ

た根本的な教育改革が必要である。

雇用に関しては、質問形態が異なるため単純に前回調査と比較できないが、非正規雇用の方が、困窮度が増すことや、最終学歴が低いほど困窮度Ⅰ群に占める割合が高くなる傾向は前回調査と同じである。世帯構成と就労状況の関係をみると、ふたり親世帯と比べて、母子世帯では非正規雇用の割合が前回調査31.6%、今回調査29.2%とやや低くなった。また困窮度Ⅰ群では、「非正規」群が高くなっている点も変わらない。基本的に、さらにひとり親世帯への重点支援を検討すべきである。

健康に関する傾向は、前回調査からほぼ変わらない。つまり困窮度が増すほど身体面、精神面不調が高くなる。セクションコメントで述べてきたように、毎日の規則正しい朝食・昼食摂取が、保護者と子どもがよりよい関係となって、子どもの自己効力感を高める可能性があり、自己肯定感や将来の夢や目標があるほど、日常生活の中で元気に過ごしているという傾向があることから、基本的な生活習慣を維持できるような取り組み、将来の夢や目標が持てるような取り組みの工夫が必要である。

家庭生活や学習に関する傾向も前回調査と変わらない。セクションコメントで述べてきたように、経済状況が保護者と子ども間のコミュニケーションや子どもの生活リズムに影響を及ぼしうると考えられる。経済的に困難な世帯の子どもは、通学が難しくなっているほか、学習習慣や家庭内での文化活動の習慣がなく、結果的に学習理解が不十分となっている可能性が示された。また、子ども自身も保護者も大学以上の高いレベルの教育を望まなくなっており、これは経済的事情と学習理解の低さのいずれもが要因となっている可能性がある。子どもの将来に関して、困窮度Ⅰ群と中央値以上群の差は前回調査から変わっていない。つまり、将来への希望が持つことができている状況に。

生活習慣や学習習慣・読書習慣の形成に影響が出ている可能性が示唆された。また、生活習慣が身につけていないと遅刻につながり、学習理解に影響が出ている可能性がある。こうしたことから学習習慣と家庭状況は大きく関係するため、横断的に判断できて支援に繋ぐような、例えば家庭学習を補完するためにも、学習支援や学校での少し先輩である就学前児童なら小学生、小学生なら中学生、中学生なら高校生、など年齢の近い年上の子ども・若者を各所で導入する仕組みを作ったり、校内でサポートを展開するメンターの導入などが望ましい。(イギリスやアメリカで活用されるメンター制度など)

対人関係においては前回調査と傾向について大きくは変わらない。ただし、放課後過ごす人の回答は「学校以外の友だち」が今回、困窮度Ⅰ群が6.5%、中央値以上群が10.8%であり、前回の差(困窮度Ⅰ群が7.9%と中央値以上群が10.5%)に比べてわずかに差が広がった。また場所としても前回は困窮度Ⅰ群対中央値以上群ではコンビニ1.8%対1.7%、ゲームセンター1.5%対0.8%が特徴的で困窮度Ⅰ群の方が高かったが、今回は同じく、ゲームセンター1.5%対0.7%、一方、コンビニ3.4%対4.7%とやや逆転した。塾や習い事は、前回は困窮度Ⅰ群対中央値以上群では塾19.1%対43.0%、習い事27.3%対42.7%が、今回同じく塾25.1%対44.2%、習い事25.5%対40.3%となった。

経済状況によって、子どもの教育的な活動へのアクセス、家族以外の社会的交流や人間関係を築く機会が制限されるだけでなく、子どもの自己効力感にも影響を及ぼす可能性があることが示唆された。また、経済的困難な家庭では、子どもが家族の世話を担っているケースが多く、家族の世話をしている子どもにとって、周りの支えが重要であり、社会的支援を必要としていることが示唆された。経済状況や世帯構成によって保護者の相談相手が異なり、とくに困難な経済状況にある世帯や特定の世帯構成の保護者が支えや相談相手の不足を経験していることが示された。

最後に、子どもが保護者以外に話せる機会が必要である。しかし、家庭と学校しかソーシャル

キャピタルを持たない子どもたちにとって、今回の調査において、「おうちの人に関する悩み」は「おうちの人」と「学校の友だち」に話しにくいという結果であった。これは、ますます経済的に厳しい子どもたちを孤立させ、ソーシャルキャピタルを欠如させてしまう。おうちの人や学校の友だちに相談すること自体難しいと考えられるが、おうちの人や友だちに話しにくいという今回の結果から、自然と話せるような場や人材を確保し、すべての子どもが自然に通う、学校から自然に構えずに参加できる、流れるような仕組みを創設または充実させることが望ましい。

まとめ

今回の調査結果から、子どもの貧困に関する対策の結果として、親の就労や学歴、所得状況は改善がみられ、中央値は上昇する結果であった。これは2021年度の厚生労働省の国民生活基礎調査の結果をみても同様の傾向である。

しかし、その分が子どもに回っておらず、物価高の影響等々考えられる。肝心の困窮度Ⅰ群の世帯あるいは子どもの状況の改善は見られず、悪化している部分もあった。このことは子どもの貧困を考える立場にとっては厳しい結果である。この解決には、国が縦割りを解消しようとして子ども家庭庁を設立し、データ連携等々新たな動きをしているなか、同様に教育や福祉という既存の枠組みを越えて、子どもをまんやかに実行できる体制や制度設計を早急に考えるべきである。以下のような覚悟ある対策をとる必要がある。

- ①経済面：母子世帯への支援や収入のアップを企業側が実行できるような施策が必要である。
- ②学習面：学校だけでなく、しかしすべての子どもが通う学校と連携した学びの保障を検討する。方策として、コミュニティスクールや学習支援、無料塾の創設などの活用である。保護者のニーズのある無料塾は、例えば沖縄で導入している。貧困調査の結果から支援員を大々的に投入し、訪問による給付や支援の申請書書きのサポートなどの人的支援方策を実施した。そういう方法を検討する必要がある。あるいはそれをクラウドデータで行えるようなデータ連携と社会資源を選択できるよう可視化と自治体内でどこか部署でも所持するような共有化が必要である。
- ③無償化の対象にならない部活の費用などの補助を行う。塾代助成のような方策を検討し、かつ申請しなくても必要な人には使用できるよう、塾側に措置費のような形で配分する枠組みの提示や方策の提案を行う。
- ④価値の創造：教育の力はすべての子どもに影響することが出来る。年齢に応じて子どもの人権や生きる価値など人間尊重の理念から獲得できるような学びとその方法を導入する。小学1年生から体験的に教育を受ける生きる教育（西澤・西岡2022）やブレインストーミングのように子どもたちと対話で進めるフィンランドの教育（北川2005）、実際的な生活課題から制度やサービス、権利に関して体験的に学ぶスウェーデンの社会科（リンドクウィスト・ウエステル1997）のように、その年齢に合わせて体験型であり、自身の意見を出し、周りの意見を聞きながら進めるレクチャー型ではない教育の進め方を根本から検討すべきである。そのことによって10代の妊娠やいじめ、ヤングケアラーなど家庭状況を抱えるようになってからも早期にSOSが出せたり、自身で支援を選択できる力を養うことができる。
- ⑤地域資源：支援の場所を周知することである。自治体のパンフなど見やすい形で拡充する必要がある。子ども食堂に限らず、様々な機能（駄菓子屋や公園などほっと寄れるような場を使ったたまり場など）を持つ居場所や体験交流できる場かつ子どもが自力で行ける小学校区に必要である。学校が場所を開放するのがベストである。その場所が子どもにとっても親にとってもわかりやすく、行きやすい場所にあり、選択肢が増え、可視化し利用しやすくする必要がある。相談機関を増やしても子どもや親からの相談の数値は決して上がらず、居場所などの場の方が

有効である。

- ⑥連携の考え方：連携とは個人情報共有をしなければできないわけではない。個人情報は把握しないまま連携することが重要である。これが社会資源を知らない教師と個人情報を持ってない地域の居場所の新しい連携の方法であり、これらを周知徹底させることである。
- ⑦すべての子どもを視野に入れ、そこから自然につながる仕組みなど、今までの縦割りとは次元の違う支援の仕組みが必要である。
- ⑧社会福祉協議会など居場所の中間支援を行う機関の役割を明確化し、機能的に促進させる。社会教育分野が持つ公民館や図書館や博物館なども場であり、さらなる協働を明確にする。(子ども食堂等居場所の活動団体が無料で入れる、利用できるなど)
- ⑨全数からの仕組み：必要な子どもが確実に発見され自然につながるためには、スクリーニングから繋ぐ機能まで持った、例えば文部科学省推奨(2020)のYOSSスクリーニング(山野研究室2021)の仕組みが必要である。今回の調査で2016年からの比較によってアウトリーチでは乗り越えられなかった壁が明かになった。相談ではなく、自然に伴走する支援を厳しい家庭の保護者や子どもたちは求めていることがわかった。必要な子どもを早期に発見し、伴奏しながら、必要な制度や仕組みを紹介し、利用を増やすことで生活の改善をはかることと、伴奏することで子どもや保護者本人の力をアップさせ、資源を活用できるようにする機能が必要である。
- ⑩システム化：洩れなく持続可能に巡回させるためには、人に頼るだけでなく、福祉と学校のデータ連携を推奨し、地域資源の可視化のためにクラウド化することも考慮すべき点である。クラウドによっていち早く支援場所や居場所が学校にもすぐにわかり、地域活動と支援の必要な子どもを結び、支援提供を展開する必要がある。
- ⑪人材：これら学校においてすべての子どもの検討、発見から支援に繋ぐ校内の体制作りができる人材養成に力を入れる必要がある。スキルを取得する訓練講座の予算化や新たな認定制度になる子ども家庭ソーシャルワーカー養成制度の活用などである。
- ⑫その専門職の1つがスクールソーシャルワーカーである。各校に1名配置できるよう、正規職化への働きかけ、あるいは各自治体での正職化計画を立てる必要がある。
- ⑬法制化：これらは連携ではなく仕組み作りであり、制度化である。要項や規定を作成し、自治体や機関として動きやすいように作成すべきである。
- ⑭制度設計：デジタル化のために補助金や助成金を検討することも必要である。なぜなら、どこに必要な子どもが存在するのかわからない。データ連携することでどこに必要な子どもが存在し、様々な制度を活用してどうだったかを検証できるように作りこむことである。これらのシステム費用がベンダーロックにより莫大な金額がかかる課題がある。企業を巻き込むと同時に自治体や政府からクラウド化に向けた助成制度を創設する必要がある。

引用・参考文献

アーネ・リンドクウィスト&ヤン・ウェステル, 川上 邦夫(翻訳)(1997)『あなた自身の社会: スウェーデンの中学教科書』新評論.

大阪府(2023)「大阪府子ども(子育て世帯)に対する食費支援事業(第2弾)」

(<https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/20980/00457638/2-9.pdf>)

大阪府立大学(2017)「大阪府子どもの生活実態調査」

北川達夫(2005)「図解フィンランド・メソッド入門」経済界.

- 厚生労働省 (2004) 「ワークシェアリング導入促進に関する秘訣集及びリーフレットについて」
(<https://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/06/h0630-2.html>)
- 厚生労働省 (2017) 「平成 28 年度 全国ひとり親世帯等調査結果報告」
(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11923000-Kodomokateikyoku-Kateifukishika/0000190325.pdf>)
- 厚生労働省 (2022) 「2022 (令和 4) 年国民生活基礎調査の概況」
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>)
- 柴田悠 (2016) 『子育て支援が日本を救う—政策効果の統計分析』 勁草書房.
- 内閣府 (2010) 「平成 21 年度インターネットによる子育て費用に関する調査」
(https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13024511/www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/cyousa21/net_hiyo/mokuji_pdf.html)
- 西澤哲・西岡加名恵ほか (2022) 『「『生きる』教育」：自己肯定感を育み,自分と相手を大切に
する方法を学ぶ』 日本標準.
- 日本総研 (2022) 「令和 3 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業：ヤングケアラーの実態に
関する調査研究」 厚生労働省.
- 三菱 UFJ リサーチコンサルティング (株) (2021) 「令和 2 年度子ども・子育て支援推進調査研
究事業：ヤングケアラーの実態に関する調査研究」 厚生労働省.
- 文部科学省 (2023) 「令和 5 年度就学援助の実施状況」
(https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt_shuugaku-000013450_27.pdf)
- 文部科学省・山野研究室 (2020) 「スクリーニング活用ガイド」
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/_icsFiles/afieldfile/2020/03/27/20200327_mxt_kouhou02_2.pdf)
- 山野則子編著 (2019) 『子どもの貧困調査—子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの』
明石書店.
- 山野則子 (2018) 『学校プラットフォーム』 有斐閣.
- 山野則子研究室 (2021) 「コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究 保護
者調査・子ども調査報告書」 厚生労働省.
- 山野則子研究室 (2021) 「スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向
けた調査研究」 文部科学省.
- 柳澤靖明・福島尚子 (2019) 『隠れ教育費：公立小中学校でかかるお金を徹底検証』 太郎次郎社
エディタス.
- UNESCO(2020) ‘International technical guidance on sexuality education: an evidence-
informed approach (jpn)’ (<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000374167>)

図表目次

図 1. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験	183
図 2. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験	185
図 3. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるもの	187
図 4. 困窮度別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均	188
図 5. 困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均	189
図 6. 困窮度別に見た、持っているもの、使うことができるものの該当数の平均	190
図 7. 困窮度別に見た、世帯員の構成	191
図 8. 困窮度別に見た、世帯員の構成（2016 年度調査との比較）	192
図 9. 世帯構成別に見た、家計の状況	193
図 10. 困窮度別に見た、子どもの人数	194
図 11. 困窮度別に見た、住居形態	195
図 12. 困窮度別に見た、家計の状況	196
図 13. 困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	197
図 14. 困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無	198
図 15. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況	201
図 16. 困窮度別に見た、就学援助の利用状況（2016 年度調査との比較）	202
図 17. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	203
図 18. 困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）（2016 年度調査との比較）	204
図 19. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況	205
図 20. 困窮度別に見た、生活保護の利用状況（2016 年度調査との比較）	206
図 21. 困窮度別に見た、離婚相手との養育費の取り決めや受け取り（ひとり親世帯のみ）	207
図 22. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢	208
図 23. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢（母親の回答者のみ）	209
図 24. 初めて親となった年齢別に見た、お母さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	210
図 25. 初めて親となった年齢別に見た、お父さんの最終学歴（母親の回答者のみ）	211
図 26. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況（母親の回答者のみ）	212
図 27. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること（母親の回答者のみ）	214
図 28. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数（母親の回答者のみ）	216
図 29. 住居形態別に見た、家計の状況	217
図 30. 住居形態別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況	218
図 31. 子どもの居場所の利用経験別に見た、就学援助の利用状況	219
図 32. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活保護の利用状況	220
図 33. 子どもの居場所の利用経験別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	221
図 34. 子どもの居場所の利用経験別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	222
図 35. 子どもの居場所の利用経験別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	223
図 36. 子どもの居場所の利用経験別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	224
図 37. 子どもの居場所の利用経験別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	225
図 38. 学校や学校の行事等の状況別に見た、就学援助の利用状況	227
図 39. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活保護の利用状況	229
図 40. 学校や学校の行事等の状況別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	231
図 41. 学校や学校の行事等の状況別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	233
図 42. 学校や学校の行事等の状況別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	235
図 43. 学校や学校の行事等の状況別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	237
図 44. 学校や学校の行事等の状況別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	239
図 45. 身近にあるといいと思うこと別に見た、就学援助の利用状況	240
図 46. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活保護の利用状況	241
図 47. 身近にあるといいと思うこと別に見た、生活困窮者の自立支援相談窓口の利用状況	242
図 48. 身近にあるといいと思うこと別に見た、児童扶養手当の利用状況（ひとり親世帯のみ）	243
図 49. 身近にあるといいと思うこと別に見た、母子家庭等就業・自立支援センターの利用状況	244
図 50. 身近にあるといいと思うこと別に見た、低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金の利用状況	245

図 51. 身近にあるといいと思うこと別に見た、新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）の利用状況	246
図 52. 困窮度別に見た、就労状況	248
図 53. 困窮度別に見た、お母さんの最終学歴	249
図 54. 困窮度別に見た、お父さんの最終学歴	250
図 55. お母さんの最終学歴別に見た、就労状況	251
図 56. お父さんの最終学歴別に見た、就労状況	252
図 57. 世帯構成別に見た、就労状況	253
図 58. 就労状況別に見た、家計の状況	254
図 59. 困窮度別に見た、朝食の頻度	256
図 60. 就労状況別に見た、朝食の頻度	257
図 61. 朝食の頻度別に見た、子どもへの信頼度	258
図 62. 朝食の頻度別に見た、子どもとの会話頻度	259
図 63. 朝食の頻度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	260
図 64. 朝食の頻度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	261
図 65. 朝食の頻度別に見た、子どもの将来への期待度	262
図 66. 朝食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	263
図 67. 休日の昼食の頻度別に見た、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）	264
図 68. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	265
図 69. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	266
図 70. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	267
図 71. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	268
図 72. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	269
図 73. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	270
図 74. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	271
図 75. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	272
図 76. 困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	273
図 77. 困窮度別に見た、自分の体の状態で気になること	275
図 78. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ①楽しみにしていることがたくさんある	276
図 79. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ②遊びにでかけるのが好きだ	277
図 80. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ③元気いっぱいだ	278
図 81. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ④やろうと思ったことがうまくできる	279
図 82. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする	280
図 83. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑥不安な気持ちになる	281
図 84. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑦まわりが気になる	282
図 85. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑧やる気が起きない	283
図 86. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑨いらいらする	284
図 87. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体の状態で気になること	286
図 88. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること	288
図 89. 経済的な理由による経験の該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること	290
図 90. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	291
図 91. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点	292
図 92. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）	293
図 93. 困窮度別に見た、心の状態（将来に対して希望を持っているか）	294
図 94. 困窮度別に見た、心の状態（ストレスを発散できるものがあるか）	295
図 95. 困窮度別に見た、心の状態（自分が幸せだと思うか）	296
図 96. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか	299
図 97. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか	300
図 98. 困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか	301
図 99. 困窮度別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか	302
図 100. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がある日）	303
図 101. 困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間（学校がない日）	304

図 102.	困窮度別に見た、授業以外の読書時間	305
図 103.	困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの	306
図 104.	子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値(学校がある日)	307
図 105.	子ども部屋の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間の平均値(学校がない日)	308
図 106.	起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間(学校がある日)	309
図 107.	起床時間の規則性別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間(学校がない日)	310
図 108.	朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間(学校がある日)	311
図 109.	朝食の頻度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間(学校がない日)	312
図 110.	起床時間の規則性別に見た、授業以外の読書時間	313
図 111.	朝食の頻度別に見た、授業以外の読書時間	314
図 112.	困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間(学校がある日)と学習理解度の関連	315
図 113.	困窮度別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間(学校がない日)と学習理解度の関連	316
図 114.	学校への遅刻別に見た、子どもへの信頼度	317
図 115.	学校への遅刻別に見た、子どもとの会話頻度	318
図 116.	学校への遅刻別に見た、平日での子どもとの関わり時間	319
図 117.	学校への遅刻別に見た、休日での子どもとの関わり時間	320
図 118.	学校への遅刻別に見た、子どもの将来への期待度	321
図 119.	困窮度別に見た、子どもの将来への期待度	322
図 120.	困窮度別に見た、希望する進学先	323
図 121.	困窮度別に見た、希望する進学先(2016年度調査との比較)	324
図 122.	困窮度別に見た、子どもに希望する進学	325
図 123.	困窮度別に見た、学校への遅刻	326
図 124.	困窮度別に見た、子どもの通学状況	327
図 125.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか	328
図 126.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか	329
図 127.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人に宿題(勉強)をみてもらうか	330
図 128.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と学校のできごとについて話すか	331
図 129.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりするか	332
図 130.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話すか	333
図 131.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と文化活動をするか	334
図 132.	学校への遅刻別に見た、おうちの大人の人と一緒に外出するか	335
図 133.	学校への遅刻別に見た、嫌なことや悩んでいること	337
図 134.	学校への遅刻別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	338
図 135.	学校への遅刻別に見た、子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)	339
図 136.	学校への遅刻別に見た、希望する進学先	340
図 137.	学校への遅刻別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの	341
図 138.	子どもの通学状況別に見た、嫌なことや悩んでいること	343
図 139.	子どもの通学状況別に見た、悩んだ時の対処を教えてくれる人のいない割合	344
図 140.	子どもの通学状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数	345
図 141.	子どもの通学状況別に見た、子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)	346
図 142.	子どもの通学状況別に見た、希望する進学先	347
図 143.	困窮度別に見た、保護者が家にいる時間帯	348
図 144.	困窮度別に見た、子どもへの信頼度	349
図 145.	困窮度別に見た、子どもとの会話頻度	350
図 146.	困窮度別に見た、平日での子どもとの関わり時間	351
図 147.	困窮度別に見た、休日での子どもとの関わり時間	352
図 148.	自分が世話をしている人の有無別に見た、学校や学校の行事等の状況	354
図 149.	自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間(学校がある日)	355
図 150.	自分が世話をしている人の有無別に見た、授業時間以外の1日あたりの勉強時間(学校がない日)	356
図 151.	困窮度別に見た、放課後を過ごす場所	360
図 152.	困窮度別に見た、放課後を一緒に過ごす人	362

図 153.	困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと	364
図 154.	困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいること	366
図 155.	困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	368
図 156.	困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	370
図 157.	困窮度別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先 (2016 年度調査との比較)	371
図 158.	世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合	372
図 159.	世帯構成別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先がない割合 (2016 年度調査との比較)	372
図 160.	困窮度別に見た、子どもの自己効力感 (セルフ・エフィカシー)	373
図 161.	子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どもの自己効力感 (セルフ・エフィカシー)	374
図 162.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの手伝いをしているか	375
図 163.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとに宿題 (勉強) をみてもらうか	376
図 164.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと学校のできごとについて話すか	377
図 165.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと遊んだり、体を動かしたりするか	378
図 166.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひととニュースなど社会のできごとについて話すか	379
図 167.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと文化活動をするか	380
図 168.	地域社会に相談相手がいるかどうかと、おうちの大人のひとと一緒に外出するか	381
図 169.	困窮度別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	382
図 170.	困窮度別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	383
図 171.	困窮度別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	384
図 172.	困窮度別に見た、何でも相談できる場所	385
図 173.	困窮度別に見た、子どもの居場所の利用経験	386
図 174.	平日の夜や休日を過ごすことができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	388
図 175.	昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	390
図 176.	勉強を無料か安い料金でみてくれる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	392
図 177.	何でも相談できる場所別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	394
図 178.	自分が世話をしている人の有無別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	396
図 179.	自分が世話をしている人の有無別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	397
図 180.	自分が世話をしている人の有無別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	398
図 181.	自分が世話をしている人の有無別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	399
図 182.	自分が世話をしている人の有無別に見た、何でも相談できる場所	400
図 183.	子どもの居場所の利用経験別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	402
図 184.	学校や学校の行事等の状況別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手	404
図 185.	学校や学校の行事等の状況別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	406
図 186.	学校や学校の行事等の状況別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	408
図 187.	学校や学校の行事等の状況別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	410
図 188.	学校や学校の行事等の状況別に見た、何でも相談できる場所	412
図 189.	身近にあるといいと思うこと別に見た、平日の夜や休日を過ごすことができる場所	414
図 190.	身近にあるといいと思うこと別に見た、昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金で食べることができる場所	416
図 191.	身近にあるといいと思うこと別に見た、勉強を無料か安い料金でみてくれる場所	418
図 192.	身近にあるといいと思うこと別に見た、何でも相談できる場所	420
図 193.	身近にあるといいと思うこと別に見た、子どもの居場所の利用有無	422
図 194.	身近にあるといいと思うこと別に見た、本当に困ったときや悩みがあるときの相談相手・相談先	424

IV 資料編

<健康に関する考察> 参照データ

保護者_問22 自分の体や気持ちで気になること

(上段：実数、下段：%)

子ども_問8①おうちの大人の人と一緒に朝食を食べているか

	調査数	ねむれない	よく頭がいたくなる	歯がいたい	不安な気持ちになる	ものを見づらい	聞こえにくい	よくおなかがいたくなる	よくかぜをひく	よくかゆくくなる	まわりが気になる	やる気が起きない	イライラする	よく肩がこる	よく腰がいたくなる	ろくに気にになるところはない	その他	わからない	無回答
全体	2414	278	499	73	589	360	136	212	43	232	270	493	756	1011	619	357	103	48	48
	100.0	11.5	20.7	3.0	24.4	14.9	5.6	8.8	1.8	9.6	11.2	20.4	31.3	41.9	25.6	14.8	4.3	2.0	2.0
ほとんど毎日	1210	137	246	35	268	172	67	100	22	86	113	219	348	505	280	199	50	22	30
	100.0	11.3	20.3	2.9	22.1	14.2	5.5	8.3	1.8	7.1	9.3	18.1	28.8	41.7	23.1	16.4	4.1	1.8	2.5
週に4～5回	152	19	33	8	39	27	6	17	5	16	25	37	60	72	49	17	7	3	-
	100.0	12.5	21.7	5.3	25.7	17.8	3.9	11.2	3.3	10.5	16.4	24.3	39.5	47.4	32.2	11.2	4.6	2.0	-
週に2～3回	247	36	49	4	58	34	12	20	3	30	21	51	75	102	61	34	14	4	5
	100.0	14.6	19.8	1.6	23.5	13.8	4.9	8.1	1.2	12.1	8.5	20.6	30.4	41.3	24.7	13.8	5.7	1.6	2.0
週に1回程度	138	15	34	4	40	16	7	13	2	11	20	29	40	60	40	18	1	5	1
	100.0	10.9	24.6	2.9	29.0	11.6	5.1	9.4	1.4	8.0	14.5	21.0	29.0	43.5	29.0	13.0	0.7	3.6	0.7
月に1～2回	56	6	11	1	16	6	4	4	-	6	3	19	19	19	19	4	2	3	1
	100.0	10.7	19.6	1.8	28.6	10.7	7.1	7.1	-	10.7	5.4	33.9	33.9	33.9	33.9	7.1	3.6	5.4	1.8
ほとんどない	345	39	77	14	99	62	22	31	9	48	52	78	124	147	98	42	18	7	5
	100.0	11.3	22.3	4.1	28.7	18.0	6.4	9.0	2.6	13.9	15.1	22.6	35.9	42.6	28.4	12.2	5.2	2.0	1.4
まったくない	215	22	45	7	59	38	16	22	2	31	33	50	74	86	61	36	9	3	5
	100.0	10.2	20.9	3.3	27.4	17.7	7.4	10.2	0.9	14.4	15.3	23.3	34.4	40.0	28.4	16.7	4.2	1.4	2.3
無回答	51	4	4	-	10	5	2	5	-	4	3	10	16	20	11	7	2	1	1
	100.0	7.8	7.8	-	19.6	9.8	3.9	9.8	-	7.8	5.9	19.6	31.4	39.2	21.6	13.7	3.9	2.0	2.0

保護者_問22 自分の体や気持ちで気になること

(上段：実数、下段：%)

子ども_問8②おうちの大人の人と一緒に夕食を食べているか

	調査数	ねむれない	よく頭がいたくなる	歯がいたい	不安な気持ちになる	ものを見づらい	聞こえにくい	よくおなかがいたくなる	よくかぜをひく	よくかゆくくなる	まわりが気になる	やる気が起きない	イライラする	よく肩がこる	よく腰がいたくなる	ろくに気にになるところはない	その他	わからない	無回答
全体	2414	278	499	73	589	360	136	212	43	232	270	493	756	1011	619	357	103	48	48
	100.0	11.5	20.7	3.0	24.4	14.9	5.6	8.8	1.8	9.6	11.2	20.4	31.3	41.9	25.6	14.8	4.3	2.0	2.0
ほとんど毎日	1860	218	387	54	464	280	114	170	36	177	209	389	578	783	459	277	85	36	38
	100.0	11.7	20.8	2.9	24.9	15.1	6.1	9.1	1.9	9.5	11.2	20.9	31.1	42.1	24.7	14.9	4.6	1.9	2.0
週に4～5回	242	20	57	11	58	38	8	27	6	21	29	46	74	98	63	35	9	6	5
	100.0	8.3	23.6	4.5	24.0	15.7	3.3	11.2	2.5	8.7	12.0	19.0	30.6	40.5	26.0	14.5	3.7	2.5	2.1
週に2～3回	185	31	32	4	41	23	8	6	1	22	21	38	61	75	60	25	4	5	4
	100.0	16.8	17.3	2.2	22.2	12.4	4.3	3.2	0.5	11.9	11.4	20.5	33.0	40.5	32.4	13.5	2.2	2.7	2.2
週に1回程度	25	-	4	2	6	5	1	2	-	5	3	5	9	13	11	3	1	-	-
	100.0	-	16.0	8.0	24.0	20.0	4.0	8.0	-	20.0	12.0	20.0	36.0	52.0	44.0	12.0	4.0	-	-
月に1～2回	15	1	4	-	4	2	-	-	-	-	2	2	3	9	4	3	1	-	-
	100.0	6.7	26.7	-	26.7	13.3	-	-	-	-	13.3	13.3	20.0	60.0	26.7	20.0	6.7	-	-
ほとんどない	31	3	9	2	5	5	2	2	-	4	3	6	14	13	8	7	1	-	-
	100.0	9.7	29.0	6.5	16.1	16.1	6.5	6.5	-	12.9	9.7	19.4	45.2	41.9	25.8	22.6	3.2	-	-
まったくない	10	2	2	-	2	2	1	-	-	-	-	1	2	2	3	1	-	-	-
	100.0	20.0	20.0	-	20.0	20.0	10.0	-	-	-	-	10.0	20.0	20.0	30.0	10.0	-	-	-
無回答	46	3	4	-	9	5	2	5	-	3	3	6	15	18	11	6	2	1	1
	100.0	6.5	8.7	-	19.6	10.9	4.3	10.9	-	6.5	6.5	13.0	32.6	39.1	23.9	13.0	4.3	2.2	2.2

保護者_問22 自分の体や気持ちで気になること

(上段：実数、下段：%)

子ども_問8⑥おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すか

	調査数	ねむれない	よく頭がいたくなる	歯がいたい	不安な気持ちになる	ものを見づらい	聞こえにくい	よくおなかがいたくなる	よくかぜをひく	よくかゆくくなる	まわりが気になる	やる気が起きない	イライラする	よく肩がこる	よく腰がいたくなる	ろくに気にになるところはない	その他	わからない	無回答
全体	2414	278	499	73	589	360	136	212	43	232	270	493	756	1011	619	357	103	48	48
	100.0	11.5	20.7	3.0	24.4	14.9	5.6	8.8	1.8	9.6	11.2	20.4	31.3	41.9	25.6	14.8	4.3	2.0	2.0
ほとんど毎日	1034	104	204	26	241	157	54	76	21	87	116	197	297	429	247	178	51	17	22
	100.0	10.1	19.7	2.5	23.3	15.2	5.2	7.4	2.0	8.4	11.2	19.1	28.7	41.5	23.9	17.2	4.9	1.6	2.1
週に4～5回	391	41	83	13	99	60	17	37	6	37	33	77	118	175	91	50	20	7	5
	100.0	10.5	21.2	3.3	25.3	15.3	4.3	9.5	1.5	9.5	8.4	19.7	30.2	44.8	23.3	12.8	5.1	1.8	1.3
週に2～3回	389	53	90	14	95	51	26	40	9	43	53	92	131	160	99	57	10	9	6
	100.0	13.6	23.1	3.6	24.4	13.1	6.7	10.3	2.3	11.1	13.6	23.7	33.7	41.1	25.4	14.7	2.6	2.3	1.5
週に1回程度	195	30	47	6	58	30	15	18	4	27	22	49	73	86	58	25	5	4	5
	100.0	15.4	24.1	3.1	29.7	15.4	7.7	9.2	2.1	13.8	11.3	25.1	37.4	44.1	29.7	12.8	2.6	2.1	2.6
月に1～2回	87	9	18	2	20	15	3	13	-	8	9	18	20	30	28	11	5	4	1
	100.0	10.3	20.7	2.3	23.0	17.2	3.4	14.9	-	9.2	10.3	20.7	23.0	34.5	32.2	12.6	5.7	4.6	1.1
ほとんどない	188	26	39	8	41	26	14	13	3	22	25	36	73	84	56	22	8	5	5
	100.0	13.8	20.7	4.3	21.8	13.8	7.4	6.9	1.6	11.7	13.3	19.1	38.8	44.7	29.8	11.7	4.3	2.7	2.7
まったくない	74	11	13	4	24	13	5	7	-	5	7	16	24	22	26	8	2	1	3
	100.0	14.9	17.6	5.4	32.4	17.6	6.8	9.5	-	6.8	9.5	21.6	32.4	29.7	35.1	10.8	2.7	1.4	4.1
無回答	56	4	5	-	11	8	2	8	-	3	5	8	20	25	14	6	2	1	1
	100.0	7.1	8.9	-	19.6	14.3	3.6	14.3	-	5.4	8.9	14.3	35.7	44.6	25.0	10.7	3.6	1.8	1.8

保護者_問22 自分の体や気持ちで気になること
 子ども_問8⑨おうちの大人の人と文化活動をするか

(上段：実数、下段：%)

	調査数	ねむれない	よく頭がいたくなる	菌がいたい	不安な気持ちになる	ものを見づらい	聞こえにくい	よくおなかがいなくなる	よくかぜをひく	よくかゆくなる	まわりが気になる	やる気が起きない	イライラする	よく肩がこる	よく腰がいたくなる	ろくに気になるところはない	その他	わからない	無回答
全体	2414	278	499	73	589	360	136	212	43	232	270	493	756	1011	619	357	103	48	48
	100.0	11.5	20.7	3.0	24.4	14.9	5.6	8.8	1.8	9.6	11.2	20.4	31.3	41.9	25.6	14.8	4.3	2.0	2.0
ほとんど毎日	68	9	11	3	18	12	1	6	4	6	6	15	20	25	11	14	5	-	-
	100.0	13.2	16.2	4.4	26.5	17.6	1.5	8.8	5.9	8.8	8.8	22.1	29.4	36.8	16.2	20.6	7.4	-	-
週に4～5回	13	1	2	1	4	3	1	-	1	-	2	4	4	3	1	5	1	-	-
	100.0	7.7	15.4	7.7	30.8	23.1	7.7	-	7.7	-	15.4	30.8	30.8	23.1	7.7	38.5	7.7	-	-
週に2～3回	39	4	8	5	9	1	1	4	-	4	3	6	13	16	12	7	3	3	-
	100.0	10.3	20.5	12.8	23.1	2.6	2.6	10.3	-	10.3	7.7	15.4	33.3	41.0	30.8	17.9	7.7	7.7	-
週に1回程度	127	17	34	4	32	23	7	9	1	17	10	28	39	57	24	19	3	2	1
	100.0	13.4	26.8	3.1	25.2	18.1	5.5	7.1	0.8	13.4	7.9	22.0	30.7	44.9	18.9	15.0	2.4	1.6	0.8
月に1～2回	678	73	133	15	134	82	33	50	12	39	61	118	195	297	171	116	27	12	20
	100.0	10.8	19.6	2.2	19.8	12.1	4.9	7.4	1.8	5.8	9.0	17.4	28.8	43.8	25.2	17.1	4.0	1.8	2.9
ほとんどない	969	108	206	29	242	151	58	88	18	96	123	199	306	390	236	139	41	22	22
	100.0	11.1	21.3	3.0	25.0	15.6	6.0	9.1	1.9	9.9	12.7	20.5	31.6	40.2	24.4	14.3	4.2	2.3	2.3
まったくない	468	62	101	16	139	83	33	50	7	66	62	114	162	203	151	51	20	8	4
	100.0	13.2	21.6	3.4	29.7	17.7	7.1	10.7	1.5	14.1	13.2	24.4	34.6	43.4	32.3	10.9	4.3	1.7	0.9
無回答	52	4	4	-	11	5	2	5	-	4	3	9	17	20	13	6	3	1	1
	100.0	7.7	7.7	-	21.2	9.6	3.8	9.6	-	7.7	5.8	17.3	32.7	38.5	25.0	11.5	5.8	1.9	1.9

<家庭生活・学習に関する考察> 参照データ

子ども_問7 学校への遅刻 (上段：実数、下段：%)
 子ども_問26 (1) 自分が世話をしている人の有無

	調査数	毎日またはほとんど	週に4〜5回	週に2〜3回	週に1回程度	遅刻はしない	無回答
全体	2483 100.0	77 3.1	18 0.7	28 1.1	113 4.6	2196 88.4	51 2.1
いる	382 100.0	21 5.5	4 1.0	6 1.6	23 6.0	320 83.8	8 2.1
いない	2072 100.0	56 2.7	13 0.6	22 1.1	89 4.3	1851 89.3	41 2.0
無回答	29 100.0	-	1 3.4	-	1 3.4	25 86.2	2 6.9

子ども_問16 学校や学校の行事等の状況 (上段：実数、下段：%)
 子ども_問26 (1) 自分が世話をしている人の有無

	調査数	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	習いごとを休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	運動会や遠足などの学校行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校ではひとりで過ごすことが多い	べりもだちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にな	無回答
全体	2483 100.0	191 7.7	229 9.2	470 18.9	72 2.9	341 13.7	20 0.8	25 1.0	19 0.8	157 6.3	178 7.2	1513 60.9	88 3.5
いる	382 100.0	36 9.4	46 12.0	89 23.3	19 5.0	67 17.5	2 0.5	2 0.5	4 1.0	28 7.3	31 8.1	210 55.0	11 2.9
いない	2072 100.0	155 7.5	180 8.7	372 18.0	51 2.5	269 13.0	18 0.9	23 1.1	15 0.7	126 6.1	144 6.9	1292 62.4	71 3.4
無回答	29 100.0	-	3 10.3	9 31.0	2 6.9	5 17.2	-	-	-	3 10.3	3 10.3	11 37.9	6 20.7

<対人関係に関する考察> 参照データ

子ども_問17 悩んでいること (上段：実数、下段：%)

子ども_問26 (1) 自分が世話をしている人の有無

※家庭生活・学習に関する考察でも参照

	調査数	おうちのこと	学校や勉強のこと	クラブ活動や部活動のこと	自分のこと(外見や体型など)	ともだちのこと	好きな人のこと	進学・進路のこと	その他のこと	いやなことや悩んでいることはない	わからない	無回答
全体	2483 100.0	141 5.7	496 20.0	210 8.5	422 17.0	369 14.9	144 5.8	394 15.9	170 6.8	905 36.4	369 14.9	100 4.0
いる	382 100.0	32 8.4	104 27.2	32 8.4	78 20.4	50 13.1	34 8.9	61 16.0	31 8.1	117 30.6	51 13.4	13 3.4
いない	2072 100.0	108 5.2	389 18.8	178 8.6	341 16.5	316 15.3	110 5.3	329 15.9	136 6.6	776 37.5	314 15.2	81 3.9
無回答	29 100.0	1 3.4	3 10.3	-	3 10.3	3 10.3	-	4 13.8	3 10.3	12 41.4	4 13.8	6 20.7

子ども_問26 (7) 世話をしていることの影響

(上段：実数、下段：%)

子ども_問26 (5) 世話をする頻度

	調査数	おうちのひとと話したり遊んだりすることが増える	時間の使い方を工夫できる	家の中で気持ちよく過ごすことができる	おうちの人が健康に過ごすことができる	「お世話」にやりがいを感じる	おうちの人以上と話す時間が減る	自分のことをする時間がない	とても疲れることがある	いらいらしやすい	気持ちが落ち込む	学校を欠席や遅刻、早退することがある	その他	特にない	無回答
全体	382 100.0	155 40.6	66 17.3	146 38.2	81 21.2	107 28.0	10 2.6	37 9.7	79 20.7	73 19.1	22 5.8	4 1.0	16 4.2	67 17.5	16 4.2
ほぼ毎日	203 100.0	92 45.3	35 17.2	84 41.4	48 23.6	69 34.0	8 3.9	22 10.8	42 20.7	41 20.2	15 7.4	4 2.0	6 3.0	30 14.8	5 2.5
週に3日～5日	68 100.0	28 41.2	12 17.6	30 44.1	15 22.1	18 26.5	-	5 7.4	16 23.5	11 16.2	3 4.4	-	1 1.5	9 13.2	2 2.9
週に1日または2日	59 100.0	24 40.7	12 20.3	23 39.0	12 20.3	11 18.6	2 3.4	8 13.6	16 27.1	17 28.8	3 5.1	-	6 10.2	7 11.9	-
1か月に数日	34 100.0	6 17.6	7 20.6	8 23.5	4 11.8	7 20.6	-	1 2.9	5 14.7	3 8.8	1 2.9	-	2 5.9	17 50.0	1 2.9
無回答	18 100.0	5 27.8	-	1 5.6	2 11.1	2 11.1	-	1 5.6	-	1 5.6	-	-	1 5.6	4 22.2	8 44.4

おおさかふ こ せいかつ かん じったいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査

しょうがくせい ちゅうがくせい む ちようさ ちようきひょう とよなかし
小学生・中学生向け調査 調査票【豊中市】

ちようさ きょうりょく ねが
< 調査への協力のお願い >

- ◆この調査は、大阪府内の小学生・中学生のみなさんの学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望などについてたずねるものです。（豊中市は大阪府と共同でこの調査を実施します。）
- ◆この調査は、小学生または中学生のあなたが自分で答えてください。
- ◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
- ◆答えたくない質問は答える必要はありません。
- ◆答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
- ◆あなたが答えた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
豊中市はこの調査結果を参考に、子どもたちのために何ができるかを考えていきますので、ご協力を
お願いします。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年9月15日までに回答してください。

うえぶ かいとう
(1) Webによるご回答

- >この調査は、Webから回答することができます。
- >回答方法は、16ページをごらんください。
- ※Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

かみ ちようさひょう かいとう
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「小学生・中学生用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、おうちの人に渡してください。

◆期限： 令和5年9月15日（金曜日）◆

ちようさ かん といあわ さき
【調査に関するお問合せ先】

とよなかし こども みらいぶ せいさくか
豊中市こども未来部こども政策課

でんわ 06-6858-2259 ※8:45~17:15 土・日曜日・祝日を除く

ふあくしみり
ファクシミリ 06-6854-9533

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように答えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」など書いてありますので、それにしてください。

あなたについておたずねします。

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生ですか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 小学生	2. 中学生
--------	--------

あなたのふだんの生活のことについておたずねします。

問2 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時刻に起きていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 起きている	3. あまり、起きていない
2. どちらかといえば、起きている	4. 起きていない

問3 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 午後9時より前	4. 午後11時台	7. きまっていない
2. 午後9時台	5. 午前0時台	
3. 午後10時台	6. 午前1時より後	

問4 朝食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、朝食を食べていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが朝食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問5 夕食についておたずねします。

(1) あなたは、週にどのくらい、夕食を食べていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 食べない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	

(2) 前の質問で「1. 毎日またはほとんど毎日」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが夕食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問6 お休みの日の昼食についておたずねします。

(1) あなたは、学校がお休みの日に昼食を食べますか。(夏休みなどの長期のお休みの日もふくみます。)(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 必ず食べる	3. 食べないことが多い	5. わからない
2. 食べる人が多い	4. 食べない	

(2) 前の質問で「1. 必ず食べる」に○をつけた方以外におたずねします。あなたが、学校がお休みの日に昼食を食べない理由はなんですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 時間がない	3. 用意されていない	5. わからない
2. おなかがすいていない	4. 食べる習慣がない	

問7 あなたは、学校に遅刻することがありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 毎日またはほとんど毎日	3. 週に2～3回	5. 遅刻はしない
2. 週に4～5回	4. 週に1回程度	



とい 問8 あなたは、次のようなことをどのくらいしていますか。(①～⑩それぞれについて、あてはまる番号
ばんごう
ひと まる
1つに○をつけてください)

	ほとんど毎日 まいにち	週に4～5回 しゅうに4～5かい	週に2～3回 しゅうに2～3かい	週に1回程度 しゅうに1かい程度	月に1～2回 つきに1～2かい	ほとんどない	まったくない
① おうちの大人の人と一緒に朝食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
② おうちの大人の人と一緒に夕食を食べていますか。	1	2	3	4	5	6	7
③ おうちの大人の人に朝、起こしてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
④ おうちの手伝いをしていますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑤ おうちの大人の人に宿題(勉強)をみてもらいますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑥ おうちの大人の人と学校のできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑦ おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑧ おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話しますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑨ おうちの大人の人と文化活動(図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど)をしますか。	1	2	3	4	5	6	7
⑩ おうちの大人の人と一緒に外出しますか。(散歩する・買い物に出かける・外食をするなど)	1	2	3	4	5	6	7

とい 問9 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいと思いますか。
まいにち せいかつ たの おも
(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちの人と一緒に過ごしているとき	5. 今、住んでいる地域の行事に参加しているとき
2. ともだちと一緒に過ごしているとき	6. 塾や習いごとで過ごしているとき
3. 学校生活やクラブ活動・部活動に参加しているとき	7. 特に楽しいと思うときはない
4. ひとりで過ごしているとき	8. その他

とい
問10 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、だれと過ごしますか。
 （あてはまる番号すべてに○をつけてください）

- | |
|--|
| 1. おうちの大人の人（お母さん・お父さん・おばあちゃん・おじいちゃん・親せきなど） |
| 2. きょうだい |
| 3. おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など） |
| 4. 学校のともだち |
| 5. クラブ活動・部活動の仲間 |
| 6. 学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど） |
| 7. ひとりである |
| 8. その他の人 |

とい
問11 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。
 （あてはまる番号すべてに○をつけてください）

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 自分の家 | 9. コンビニエンスストア |
| 2. おばあちゃん・おじいちゃんの家 | 10. ゲームセンター |
| 3. ともだちの家 | 11. 図書館や公民館など公共の施設 |
| 4. 塾 | 12. 地域の居場所（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所） |
| 5. 習いごと | 13. 学童保育（※） |
| 6. 学校（クラブ活動・部活動など） | 14. その他 |
| 7. 公園・広場 | |
| 8. スーパーやショッピングモール | |

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会（室）」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」もふくみます。

とい
問12 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。
 ※勉強には学校の宿題もふくみます。（あてはまるものすべてに○をつけてください）

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 自分で勉強する | 6. おうちの人に教えてもらう |
| 2. 塾で勉強する | 7. ともだちと勉強する |
| 3. 学校の補習を受ける | 8. その他 |
| 4. 家庭教師に教えてもらう | 9. 学校の授業以外で勉強はしない |
| 5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する | |

とい じゆぎょうじかん いがい にち じかん べんきょう
問13 あなたは、授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。
 (塾などの時間もふくみます。) (①、②それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	わからない
① 学校がある日 (月～金曜日)	1	2	3	4	5	6	7
② 学校がない日 (土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6	7

はんぶん
あと半分だよ。
がんばってね!

とい がっこう べんきょう
問14 学校の勉強についておたずねします。
 (1) 学校の勉強について、一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。
 (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくわかる	3. あまりわからない	5. わからない
2. だいたいわかる	4. ほとんどわからない	

(2) 前の質問で「3. あまりわからない」「4. ほとんどわからない」「5. わからない」に○をつけた方に
 おたずねします。いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください)

1. 小学1・2年生のころ	3. 小学5年生になってから	5. 中学1年生のころ
2. 小学3・4年生のころ	4. 小学6年生のころ	6. 中学2年生になってから

とい がっこう じゆぎょうじかん いがい にち じかん どりょく
問15 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。
 (教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます。) (あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. まったくしない	5. 2時間以上、3時間より少ない
2. 30分より少ない	6. 3時間以上
3. 30分以上、1時間より少ない	7. わからない
4. 1時間以上、2時間より少ない	

とい 問16 あなたは、^{がっこう}学校や^{がっこう}学校の^{ぎょうじ}行事等で次のようなことがありますか。

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{じゅぎょうちゆう} 授業中に ^ね 寝てしまうことが多い	7. ^{うんどうかい} 運動会や ^{えんそく} 遠足などの ^{がっこうぎょうじ} 学校行事を ^{けっせき} 欠席する
2. ^{しゅくだい} 宿題ができていないことが多い	8. ^{ほけんしつ} 保健室で ^す 過ごすことが多い
3. ^も 持ち物の ^{わす} 忘れ物が ^{もの} 多い	9. ^{がっこう} 学校では ^{ひとり} ひとりで ^す 過ごすことが多い
4. ^{なら} 習いごとを ^{やす} 休むことが ^{おほ} 多い	10. ^{ともだち} ともだちと ^{あそ} 遊んだり、 ^{おしゃべり} おしゃべりしたりする ^{じかん} 時間が
5. ^{ていしゅつぶつ} 提出物を出すのが ^だ 遅れることが ^{おく} 多い	^{すく} 少ない
6. ^{しゅうがくりょこう} 修学旅行などの ^{しゅくはくぎょうじ} 宿泊行事を ^{けっせき} 欠席する	11. ^{とく} 特にない

とい 問17 今、あなたは、^{いま}いやなことや^{なや}悩んでいることはありますか。

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{おうち} のこと	6. ^す 好きな ^{ひと} 人のこと
2. ^{がっこう} 学校や ^{べんきょう} 勉強のこと	7. ^{しんがく} 進学・ ^{しんろ} 進路のこと
3. ^{くらぶ} クラブ活動や ^{ぶかつどう} 部活動のこと	8. ^た その他のこと
4. ^{じぶん} 自分のこと (外見や ^{がいけん} 体型など)	9. ^{なや} いやなことや悩んでいることはない
5. ^{ともだち} のこと	10. ^{わから} ない

とい 問18 あなたは、^{なや}いやなことや悩んでいることがあるとき、^{そうだん}だれかに相談しますか。(だれに^{はな}話しますか。)

(^{ばんごう}あてはまる番号^{まる}すべてに○をつけてください)

1. ^{おや} 親	12. ^{いんたーねっと} インターネットや ^{さいと} サイトなどを ^{つうし} 通じて知り ^あ あった
2. ^{きょうだい} きょうだい	^{ちよくせつ} 直接 ^あ 会ったことのない ^{ひと} 人
3. ^{しん} 親せき	13. ^{きんじよ} 近所の ^{ひと} 人
4. ^{がっこう} 学校の ^{ともだち} ともだち	14. ^{ちいき} 地域の ^{しえんだんたい} 支援団体
5. ^{がっこういがい} 学校以外の ^{ともだち} ともだち	(^{がくしゅうしえん} 学習支援の ^ば 場や ^こ 子ども ^{しょくどう} 食堂など ^{ちいき} 地域で
6. ^{がっこう} 学校の ^{せんせい} 先生	^{おなとし} 同じ年ごろの ^こ 子どもが ^{あつ} 集まるところの ^{ひと} 人)
7. ^{すくー} スクール ^{かうんせらー} カウンセラー、 ^{そーしゃるわーかー} ソーシャルワーカー	15. ^た その他の ^{ひと} 人
8. ^{じゅく} 塾や ^{なら} 習いごとの ^{せんせい} 先生	16. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談できない
9. ^{がくどうほいく} 学童保育の ^{せんせい} 先生 (※)	17. ^{だれ} だれにも ^{そうだん} 相談したくない
10. ^こ 子ども ^{せんよう} 専用の ^{でんわ} 電話 ^{そうだん} 相談	18. ^{わから} ない
11. ^{えすえぬえす} SNSなどの ^{いんたーねっと} インターネットや ^{らいん} LINEの ^{そうだん} 相談	

※「学童保育」とは、「^{がくどうほいく}放課後児童クラブ」、「^{ほうかごじどうくらぶ}いきいき放課後児童クラブ」、「^{ほうかごじどうくらぶ}留守家庭児童会 (室)」、「^{がくどうくらぶ}学童クラブ」、「^{なかよ}仲良し^{くらぶ}クラブ」もふくみます。

問19 わたしたちは、楽しい日ばかりではなく、ちょっとさみしい日も、楽しくない日もあります。あなたが、この一週間、どんな気持ちや状況だったのか、教えてください。良い答え、悪い答えはありません。思ったとおりに教えてください。

(①～⑨それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	そいつ うだも	ときどき そうだ	そんな ないこと
① 楽しみにしていることがたくさんある	1	2	3
② 遊びにでかけるのが好きだ	1	2	3
③ 元気いっぱいだ	1	2	3
④ やろうと思ったことがうまくできる	1	2	3
⑤ 一人ぼっちのような気がする	1	2	3
⑥ 不安な気持ちになる	1	2	3
⑦ まわりが気になる	1	2	3
⑧ やる気が起きない	1	2	3
⑨ いらいらする	1	2	3

問20 あなたは、自分の体の状態で気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	6. よくかゆくなる
2. よく頭がいたくなる	7. とくに気になるところはない
3. 歯がいたい	8. その他
4. よくおなかがいたくなる	9. わからない
5. よくかぜをひく	



答えたくない質問は答える必要はないよ。

答えに迷うときは、あなたの気持ちや考えに

できるだけ近いものを選んでね。

とい **問21** あなたが、持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 本 がっこう きょうかしょ まんが ざっし (学校の教科書やマンガ・雑誌はのぞく)	8. テレビ
2. マンガ・雑誌	9. けいたい電話 でんわ
3. 子ども部屋 (ひとり部屋やきょうだいと いっしょ つか へや 一緒に使っている部屋など)	10. スマートフォン・タブレット機器 すまーとふぉん たぶれっときき
4. インターネットにつながるパソコン いんたーねっと ぱそこん (学校のパソコンはのぞく)	11. 化粧品・アクセサリ けしょうひん あくせさりー
5. 運動用具 (ボール・ラケットなど) うんどうようぐ ぼーる らけっと	12. 習いごとなどの道具 (ピアノなど) なら いごとなどの どうぐ (ぴあの)
6. ゲーム機 げーむき	13. 自分で選んだ服 じぶん えら ぶく
7. 自転車 じてんしゃ	14. キャラクターグッズ きゃらくたーぐっず
	15. その他 た
	16. あてはまるものはない

あなたが、ふだん かんが 考 えていることについておたずねします。

とい **問22** あなたは、つらいことがあってもすぐ立ち直ることができますか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. そう思う おも	3. どちらかというとおもわない おも
2. どちらかというとおもう おも	4. そう思わない おも

とい **問23** あなたがふだん かんが 考 えていることについて、次の (1) ~ (3) について 教 えてください。
おし

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

(1) 自分に自信がある
じぶん じしん

1. ある	3. どちらかというとな ない
2. どちらかというところ ある	4. ない

(2) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

1. できる	3. どちらかというとできない
2. どちらかというとできる	4. できない

(3) 自分の将来の夢や目標を持っている

1. 持っている	3. どちらかというと持っていない
2. どちらかというと持っている	4. 持っていない

問24 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 中学校	6. 留学 (外国で長い期間勉強すること)
2. 高校	7. 専門学校 (美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など) ・高等
3. 短期大学	専門学校
4. 大学	8. 考えたことがない
5. 大学院	9. わからない

あともう少しだよ！

がんばってね！



あなたのことについて、おたずねします。

問25 自分やともだちの家以外の場所についておたずねします。

(1) あなたは、次の①～④のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思いますか。

(①～④それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	利用したことがある	利用したことはない （あれば利用したい と思う）	利用したことはない （今後も利用したい と思わない）	利用したことはない （今後も利用したい か分からない）
① 平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育など）	1	2	3	4
② 昼食や夕食、お弁当を無料が安い料金で食べることができる場所（子ども食堂など）	1	2	3	4
③ 勉強を無料が安い料金でみてくれる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）	1	2	3	4
④ 何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）	1	2	3	4

(2) 前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。そこを利用したことで、次のような変化がありましたか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. ともだちが増えた	6. 勉強がわかるようになった
2. 気軽に話せる大人が増えた	7. 勉強する時間が増えた
3. 生活の中で楽しみなことが増えた	8. その他
4. ほっとできる時間が増えた	9. 特に変化はない
5. 栄養のある食事をとれることが増えた	

(3) 問25(1)の質問で、「利用したことがある」に○をつけた方以外におたずねします。利用したことがないのはなぜですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. どこにあるか知らないから	7. Wi-fi (インターネット通信環境) がないから
2. 家の近く(ひとりで行ける場所)にないから	8. 行きたいと思わないから
3. 家で過ごしたいと思うから	9. 何をしているかわからないから
4. 楽しくなさそうだから	10. 利用していることを近所の人やともだちに知られたくないから
5. 「行ってはいけない」と親などの大人に言われるから	11. その他
6. 行きたい日・時間に開いていないから	

問26 あなたがおうちでしているお世話の様子についておたずねします。

(1) おうちの人のなかあなたがお世話をしている人はいますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. いない
-------	--------

(2) 前の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。誰のお世話をしていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじいちゃん
2. お父さん	5. きょうだい
3. おばあちゃん	6. その他

(3) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。あなたがやっているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 料理や買い物、食器洗いなど	5. 病院へ一緒に行くことやお風呂・トイレのお世話、見守りをする、話し相手になる、通訳をする、お金の管理、薬の管理など
2. 洗濯など	6. その他
3. そうじやゴミ捨てなど	
4. きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど	

(4) 前の質問で「6. その他」に○をつけた方は、具体的な内容を書いてください。

--

(5) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をするのはどれくらいありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. ほぼ毎日	3. 週に1日または2日
2. 週に3日～5日	4. 1か月に数日

(6) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。学校がある日に、お世話を1日のうちどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 1時間より少ない	4. 3時間以上、5時間より少ない
2. 1時間以上、2時間より少ない	5. 5時間以上、7時間より少ない
3. 2時間以上、3時間より少ない	6. 7時間より多い

(7) 問26(1)の質問で「1. いる」に回答した方におたずねします。お世話をしていることによつて次のようなことがありますか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. おうちの人と話したり遊んだりすることが増える	8. とても疲れることがある
2. 時間の使い方を工夫できる	9. いろいろしやすい
3. 家の中で気持ちよく過ごすことができる	10. 気持ちが落ち込む
4. おうちの人健康に過ごすことができる	11. 学校を欠席や遅刻、早退することがある
5. 「お世話」にやりがいを感じる	12. その他
6. おうちの人以外と話す時間が減る	13. 特にない
7. 自分のことをする時間がない	

問27 あなたの性別をえらんでください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 男子	3. その他
2. 女子	4. 答えたくない

質問はこれで終わりです。調査にご協力いただきありがとうございました。

「小学生・中学生用」と書いてある封筒に入れ、シールをはがしてフタを閉じて、保護者の方に渡してください。

相談窓口のご案内

○〈とよなかっ子ダイヤル〉

みんなのきもち、きかせてね。どんなことでもいいよ。

あなたの話や気持ちをじっくり聞こう。

TEL : 0 1 2 0 - 3 0 7 - 8 7 4

2 4 時間 3 6 5 日

○〈とよなかっ子ライン〉

LINEで気軽に相談できるよ。

お役立ち情報も定期配信。友だち追加お願いします(右の二次元コードから)。

LINEアプリ公式アカウントからIDを検索することでも友だち追加ができます。

ID : @112lcyxz

水曜日の17時から21時(受付は20時半まで)



○〈ヤングケアラー相談窓口〉

家族のお世話をしている家族のことや自分のことで悩んでいたら・・・。

TEL : 0 6 - 6 8 5 2 - 5 5 4 4

月曜日～金曜日 : 9時～17時15分 (※祝日・年末年始を除く)

WEBによる回答

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！>

■ WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。

■ 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

- ◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



- ◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src2/2700082>

- ◆ 最初の画面がでてきたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

- ◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

- ◆ WEBでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

おおさかふ こ せいかつ かん じつたいちようさ
大阪府子どもの生活に関する実態調査
ほごしや む ちようさ ちようさひよう とよなかし
保護者向け調査 調査票 【豊中市】

ちようさ きようりよく ねが
< 調査への協力をお願い >

- ◆この調査は、保護者の方に家庭状況などをお聞きし、豊中市の子どものための支援策に役立てるために実施します。皆様からの回答を支援策の充実や改善につなげていきたいと考えていますので、お忙しい中お手数ですが、調査への協力をお願いします。（豊中市は大阪府と共同で本調査を実施します。）
- ◆調査の対象は、小学5年生と中学2年生の児童・生徒とその保護者です。
- ◆お名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◆この調査で「お子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。「お子さん」と書かれた質問には調査票を受け取ったお子さんについてのみお答えください。
- ◆ごきょうだいなどで、この調査用紙が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについて、それぞれの調査用紙（またはWebフォーム）に回答してください。
- ◆回答するときには、お子さんと別々に、お互いの回答を見ないように記入してください。
- ◆Webまたは紙の調査票のどちらかで令和5年9月15日までに回答してください。

うえぶ かいとう
(1) Webによるご回答

- > この調査は、Webから回答することができます。
- > 回答方法は、16ページをごらんください。
※ Webでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

かみ ちようさひよう かいとう
(2) 紙の調査票によるご回答

- ・調査票に記入後、「保護者用」と書かれた封筒に入れ、シールをはがして封をしてください。お子さんの回答の入った「小学生・中学生用封筒」と「保護者用封筒」を返信用封筒にまとめて入れ、期限までに返信してください。切手は不要です。

きげん れいわ ねん がつ にち きんようび
◆ 期限： 令和5年9月15日（金曜日） ◆

ちようさ かん といあわ さき
【調査に関するお問合せ先】

とよなかし みらいぶ せいさくか
豊中市子ども未来部 政策課

でんわ 電話 06-6858-2259 ※8:45~17:15 土・日曜日・祝日を除く

ふあくしみり ファクシミリ 06-6854-9533

質問の回答方法について

◆それぞれの質問について次のように教えてください。

(例) あなたの好きな色は何色ですか。

1. 赤色	3. 緑色
2. 黄色	4. その他の色

※答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

※○のつけかたは、質問文の終わりに「あてはまる番号 1 つに○をつけてください」や「あてはまる番号すべてに○をつけてください」などを書いてありますので、それにしたがってください。

最初に、あなたとお子さんの関係についておたずねします。

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください)

1. お母さん	4. おじ、おばなど親戚
2. お父さん	5. 施設職員・ファミリーホーム・里親
3. おじいさん・おばあさん	6. その他の人

世帯の状況についておたずねします。

※あなたの世帯について、令和5年4月1日現在の状況を教えてください。

※世帯とは、普段、住居と生計を共にしている方々(世帯員)の集まりをいいます。血縁関係のない人でも同居していれば世帯に含んでください。また、単身赴任の方も含まれます。

※世帯員には、旅行や出張などで一時的に自宅を離れている人や船員など就業場所を移動する人を含みます。

※また、病院・診療所に入院している人を含みますが、住民登録を病院・診療所に移している人は除きます。さらに、学業で世帯を離れている人、老人福祉施設などの社会福祉施設に入所している人を除きます。

問2 あなたの世帯の構成と人数をお答えください。(①～⑧それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください) (⑧は、あなたや対象のお子さんを含んだ人数をお答えください。)

①おばあさん	②おじいさん	③お母さん	④お父さん	⑧合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人	0. いない 1. 1人	1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上
⑤姉・兄	対象のお子さん (本人) (※)	⑥妹・弟	⑦その他	
0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	1人	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	

※「対象のお子さん」とは、調査票を受け取ったお子さんのことです。

問3 お子さんと同居し、生計を共にしている親の婚姻状況を教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 結婚している (再婚や事実婚を含む。)	4. 未婚
2. 離婚	5. わからない
3. 死別	6. いない

問4 前の質問で「2. 離婚」に○をつけた方におたずねします。

離婚相手とお子さんの養育費の取り決めをしていますか。

また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 取り決めをしており、受け取っている
2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている
3. 取り決めをしているが、受け取っていない
4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問5 あなたの住居は、次のどれにあてはまりますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 持ち家（親・きょうだいの名義を含む）	4. 民間の賃貸住宅
2. 府営・市営の住宅	5. 官舎・社宅
3. UR賃貸住宅・公社賃貸住宅	6. その他

問6 あなたの家計の収支状況についておたずねします。

(1) 前年（2022年）の1年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 貯蓄ができています	3. 赤字でもなく黒字でもない
2. 赤字である	4. わからない

(2) お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 貯蓄をしている	3. 貯蓄をするつもりはない
2. 貯蓄をしたいが、できていない	

問7 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 食費を切りつめた	13. 鉄道やバスの利用を控え、自転車を使ったり歩くようにした
2. 電気・ガス・水道などが止められた	14. 電話（固定・携帯）などの通信料の支払いが滞ったことがある
3. 医療機関を受診できなかった	15. 家賃や住宅ローンの支払いが滞ったことがある
4. 国民健康保険料の支払いが滞ったことがある	16. 趣味やレジャーの出費を減らした
5. 国民年金の支払いが滞ったことがある	17. 冷暖房の使用を控えた
6. 金融機関などに借金をしたことがある	18. 友人・知人との外食を控えた
7. クレジットカードの利用が停止になったことがある	19. 敷金・保証金などを用意できないので、住み替え・転居を断念した
8. 新しい衣服・靴を買うのを控えた	20. 理髪店・美容院に行く回数を減らした
9. 新聞や雑誌を買うのを控えた	21. 子ども部屋が欲しかったがつくれなかった
10. スマートフォンへの切替・利用を断念した	22. 1～21の項目には、どれもあてはまらない
11. 冠婚葬祭のつきあいを控えた	
12. 生活の見通しがたたなくて不安になったことがある	

問8 お子さんのお母さんとお父さんの最後に通った学校を教えてください。(あてはまる番号1つに○をつけてください) (現在、ひとりでお子さんを育てている場合(ひとり親の場合)はあてはまる方だけに○をつけてください。)

お母さん	お父さん
1. 中学校卒業	1. 中学校卒業
2. 高等学校中途退学	2. 高等学校中途退学
3. 高等学校卒業	3. 高等学校卒業
4. 高専、短大、専門学校等卒業	4. 高専、短大、専門学校等卒業
5. 大学卒業	5. 大学卒業
6. 大学院修了	6. 大学院修了
7. その他の教育機関卒業	7. その他の教育機関卒業
8. 答えたくない	8. 答えたくない

問9 お子さんの保護者の方の現在の就業状況についておたずねします。(複数か所にお勤めされている方はあてはまる番号をすべて選んでください)

※お母さん、お父さん以外の方が主として家計を支えている場合、「お母さん、お父さん以外の方」にもご記入をお願いします。

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号を選んでください。

お母さん	1. いる	2. いない
------	-------	--------



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 勤め(常勤・正規職員) 2. 勤め(パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務) 3. 勤め(パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務) 4. 自営業・家業 5. その他の就業形態 6. 仕事を探している	7. 仕事を探していない ①家事や育児に専念したため ②学生のため ③おうちの人の介護や介助のため ④病気療養のため ⑤年金収入があるため ⑥家賃収入、株式運用などの収入があるため ⑦その他
---	--

とう お父さん	1. いる	2. いない
------------	-------	--------



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

<p>1. 勤め（常勤・正規職員）</p> <p>2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）</p> <p>3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）</p> <p>4. 自営業・家業</p> <p>5. その他の就業形態</p> <p>6. 仕事を探している</p>	<p>7. 仕事を探していない</p> <p>① 家事や育児に専念したため</p> <p>② 学生のため</p> <p>③ おうちの人の介護や介助のため</p> <p>④ 病気療養のため</p> <p>⑤ 年金収入があるため</p> <p>⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため</p> <p>⑦ その他</p>
--	--

かあ とう いがい しゅ かけい さき かた お母さん、お父さん以外に主として家計を支えている方（おばあさん、おじいさん、おじ、おば、親戚など）	
1. いる	2. いない



「1. いる」に回答された方は、次のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

「7. 仕事を探していない」に○をつけた方は、仕事を探していない主な理由について①～⑦のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

<p>1. 勤め（常勤・正規職員）</p> <p>2. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で1か所に勤務）</p> <p>3. 勤め（パートまたはアルバイト、非正規職員で2か所以上に勤務）</p> <p>4. 自営業・家業</p> <p>5. その他の就業形態</p> <p>6. 仕事を探している</p>	<p>7. 仕事を探していない</p> <p>① 家事や育児に専念したため</p> <p>② 学生のため</p> <p>③ おうちの人の介護や介助のため</p> <p>④ 病気療養のため</p> <p>⑤ 年金収入があるため</p> <p>⑥ 家賃収入、株式運用などの収入があるため</p> <p>⑦ その他</p>
--	--

問10 お子さんの保護者の方が家にいる時間帯で、多い時間帯を選んでください（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※保護者の方には、おばあさん、おじいさん、おじ、おばなど親戚を含みます。

※自宅が仕事場の場合は、お仕事が終わる時間帯を選んでください。

1. お子さんの学校からの帰宅時間には家にいる	4. お子さんが寝た後に帰ってくる
2. お子さんの夕食時間には家にいる	5. 帰宅時間が決まっていない
3. お子さんの寝る時間には家にいる	6. その他

問11 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

お子さんに関することについておたずねします。

問12 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。（おおむね1年の間でお考えください。）（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

1. お子さんを医療機関に受診させることができなかった	9. お子さんを学習塾に通わせることができなかった
2. お子さんの進路を変更した	10. お子さんの誕生日を祝えなかった
3. お子さんのための本や絵本が買えなかった	11. お子さんにお年玉をあげることができなかった
4. お子さんにおこづかいを渡すことができなかった	12. お子さんの学校行事などに参加することができなかった
5. お子さんに新しい服や靴を買うことができなかった	13. 子ども会、地域の行事（祭りなど）の活動に参加することができなかった
6. お子さんを学校の遠足や修学旅行へ参加させることができなかった	14. 家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった
7. お子さんを習い事に通わすことができなかった	15. 1～14の項目には、どれにもあてはまらない
8. お子さんを学校のクラブ活動・部活動に参加させられなかった	

問13 あなたとお子さんとの関係について、次の項目でもっとも近いものを選んでください。

(1) あなたは、お子さんを信頼していますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. とても信頼している	3. あまり信頼していない
2. 信頼している	4. 信頼していない

(2) あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よくする	3. あまりしない
2. する	4. しない

(3) あなたがお子さんと一緒に何かをしたり、相手をしたりしている時間は、1日あたり平均すると、だいたいどれくらいになりますか。(平日、休日それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

平日	休日
1. 0～15分未満	1. 2時間未満
2. 15分～30分未満	2. 2時間～4時間未満
3. 30分～1時間未満	3. 4時間～6時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 6時間～8時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 8時間～10時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 10時間以上
7. 4時間以上	

(4) あなたは、お子さんの将来に期待していますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. とても期待している	3. あまり期待していない
2. 期待している	4. 期待していない

(5) お子さんの授業参観や運動会などの学校行事に参加していますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. よく参加している	3. あまり参加していない
2. ときどき参加している	4. まったく参加していない

問14 あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 中学校	4. 大学	7. 専門学校・高等専門学校
2. 高校	5. 大学院	8. 考えたことがない
3. 短期大学	6. 留学	9. わからない

問15 お子さんの通学状況について、もっとも近いもの1つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日通っている
2. 欠席は年間30日未満である
3. 欠席が年間30日以上、60日未満である
4. 欠席が年間60日以上、1年未満である
5. 欠席が1年以上続いている
6. わからない

問16 子どもの居場所について、おたずねします。

(1) あなたのお子さんは、次のような「子どもの居場所」を利用したことがありますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- ・自宅や学校以外の場所で、子どもたちが本を読んだり、みんなで遊んだりできるような場所
- ・子どもが無料又は低額で食事ができる場所 (子ども食堂)
- ・自宅や学校、塾以外の場所で、無料でボランティアの方などが勉強を教える学習支援の場

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 利用したことがある | 2. 利用したことがない |
|--------------|--------------|

(2) 前の質問で「1. 利用したことがある」と答えた方におたずねします。

お子さんが子どもの居場所を利用することで良いと思うことは何ですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1. 地域の人とつながれるから | 6. 宿題など勉強を見てくれるから |
| 2. お子さんが一人でご飯を食べなくてすむから | 7. お子さんが楽しんでいるから |
| 3. 栄養バランスのとれた食事がとれるから | 8. 特になし |
| 4. 運営者が相談に乗ってくれるから | 9. その他 |
| 5. 低額 (または無料) でご飯が食べられるから | |

(3) 問16 (1) の質問で「2. 利用したことがない」と答えた方におたずねします。

子どもの居場所を利用しないのはなぜですか。(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. どこにあるか知らないから | 6. 行きたい日・時間に開いていないから |
| 2. 家の近く (小学校区内) にないから | 7. 利用したいと思わないから |
| 3. 家で過ごしてほしいと思うから | 8. 何をしているかわからないから |
| 4. 居場所のイメージがよくないから | 9. その他 |
| 5. お子さんが「行きたくない」と言っているから | |

あなたのことについておたずねします。

問17 初めて親となった年齢はいくつですか。(実子以外も含みます)

(あてはまる番号1つに○をつけてください)

1. 10代	3. 24～26歳	5. 31～34歳	7. 40歳以上
2. 20～23歳	4. 27～30歳	6. 35～39歳	

問18 次の①～⑦について、おうちの方を含め(お子さんは除く)、あなたを支えてくれて、手伝ってくれる人はいますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

	いる	いない	わからない
① 心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人	1	2	3
② あなたの気持ちを察して思いやってくれる人	1	2	3
③ 趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人	1	2	3
④ お子さんとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人	1	2	3
⑤ お子さんの学びや遊びをゆたかにする情報を教えてくれる人 (運動や文化活動)	1	2	3
⑥ お子さんの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人	1	2	3
⑦ 留守を頼める人	1	2	3

問19 あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. 配偶者・パートナー	9. 学童保育の指導員(※)
2. 自分の親	10. 地域の民生委員・児童委員
3. 配偶者・パートナーの親	11. 民間の支援団体・カウンセラー(電話相談含む)
4. きょうだい・他の親戚	12. 医療機関の医師や看護師
5. 知人や友人	13. インターネットのサイトへの書き込み、SNSやLINEによる相談
6. 職場関係者	14. その他
7. 学校の先生やスクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	15. 相談できる相手がない
8. 公的機関や役所の相談員	

※「学童保育」とは、「放課後児童クラブ」、「いきいき放課後児童クラブ」、「留守家庭児童会(室)」、「学童クラブ」、「仲良しクラブ」も含みます。

とい つぎ みぢか おも なん ばんごう まる
問20 次のうち、身近にあるといいと思うことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

<p>1. 保護者どうして気軽に話せる場</p> <p>2. SNSなどのインターネットを通じて悩みごとを話せるコミュニティ</p> <p>3. 家事の援助が受けられること</p> <p>4. 支援制度など必要な情報を届けてくれること</p> <p>5. 困った時にご飯を無料または安価で自宅に届けてくれるサービス</p>	<p>6. お子さんが放課後や休日に勉強などができる場所を利用できること</p> <p>7. お子さんが無料で学習支援を受けられる場所</p> <p>8. お子さんや保護者が夕食を無料か安い料金で食べることができるところ（子ども食堂など）を利用できること</p>
---	---

とい こころ じょうたい
問21 あなたの心の状態についておたずねします。

(1) 生活を楽しんでいますか。（仕事や家事、育児など）
 （あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. とても楽しんでいる	3. あまり楽しんでいる	5. わからない
2. 楽しんでいる	4. 楽しんでいる	

(2) 将来に対して希望を持っていますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. 希望が持てる	3. 希望が持てない
2. 希望が持てる時もあれば、持てないときもある	4. わからない

(3) ストレスを発散できるものがありますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. ある	3. ない
2. あるときもあれば、ないときもある	4. わからない

(4) あなたは、ご自分が幸せだと思いますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください）

1. とても幸せだと思う	4. 幸せだと思わない
2. 幸せだと思う	5. わからない
3. あまり幸せだと思わない	

とい
問22 あなたは、自分の体や気持ちで気になることはありますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください)

1. ねむれない	10. まわりが気になる
2. よく頭 <small>あたま</small> がいたくなる	11. やる気 <small>き</small> が起きない
3. 歯 <small>は</small> がいたい	12. イライラ <small>いらいら</small> する
4. 不安 <small>ふあん</small> な気持ち <small>きもち</small> になる	13. よく肩 <small>かた</small> がこる
5. ものを見 <small>み</small> づらい	14. よく腰 <small>こし</small> がいたくなる
6. 聞 <small>き</small> こえにくい	15. とくに気 <small>き</small> になるところはない
7. よくおなか <small>な</small> がいたくなる	16. その他 <small>た</small>
8. よくかぜをひく	17. わからない
9. よくかゆくなる	

こた 答えこたたくない質問しつもんに答こたえる必要ひつようはありません。

こた 答えこたに迷まよう場合ばあいには、あなたあなたの気きもちや考かんがえにできるちかだけ近ちかいものえらを選ぶえらようえらにしてください。

問23 あなたの世帯では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

(a～gそれぞれについて、1～3のあてはまる番号1つに○をつけてください)

また、「3 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまる番号1つに○をつけてください)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の 自立支援相談窓口 ※3	d 児童扶養手当 ※4	e 母子家庭等就業・ 自立支援センター ※5	f 低所得の子育て世帯に対する子育て 世帯生活支援特別給付金 ※6	g 新型コロナウイルス感染症に伴う 生活福祉資金(貸付金) ※7
現在利用している	1	1	1	1	1	1	1
現在利用していないが、 以前利用したことがある	2	2	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3	3	3
制度の対象外 (収入などの条件を 満たさない) だと思 うから	①	①	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に 利用したいと思わな かったから	②	②	②	②	②	②	②
利用したいが、今まで この支援制度を知ら なかったから	③	③	③	③	③	③	③
利用したいが、手続が わからなかったり、 利用しにくいから	④	④	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

①～⑤のあてはまるもの1つに○をつけてください
3つ○をつけた場合

(参考)

※1 就学援助：経済的理由により子どもの就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。

- ※ 2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※ 3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※ 4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
- ※ 5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けることができる。
- ※ 6 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金：新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、低所得の子育て世帯（児童扶養手当受給者など）に対し子育て世帯生活支援特別給付金を支給する制度。
- ※ 7 新型コロナウイルス感染症に伴う生活福祉資金（貸付金）：新型コロナウイルス感染症の発生による休業や失業などにより、一時的又は継続的に収入減少した世帯を対象に、生活福祉資金貸付制度における生活支援費などを支給する制度。

世帯の経済状況についておたずねします。

問24 前年（2022年）のあなたの世帯の手取り収入の合計額は、およそいくらでしたか。

（あてはまる番号1つに○をつけてください）

※収入には、働いて得た給料だけでなく、株式配当や副収入を含めて合計してください。

税金や社会保険料を払ったあとの額でお答えください。

※また、公的な援助手当や養育費・仕送りを含んだ額でお答えください。

1. 50万円未満	12. 550～600万円未満	23. 1,200～1,300万円未満
2. 50～100万円未満	13. 600～650万円未満	24. 1,300～1,400万円未満
3. 100～150万円未満	14. 650～700万円未満	25. 1,400～1,500万円未満
4. 150～200万円未満	15. 700～750万円未満	26. 1,500～1,750万円未満
5. 200～250万円未満	16. 750～800万円未満	27. 1,750～2,000万円未満
6. 250～300万円未満	17. 800～850万円未満	28. 2,000～2,250万円未満
7. 300～350万円未満	18. 850～900万円未満	29. 2,250～2,500万円未満
8. 350～400万円未満	19. 900～950万円未満	30. 2,500～2,750万円未満
9. 400～450万円未満	20. 950～1,000万円未満	31. 2,750～3,000万円未満
10. 450～500万円未満	21. 1,000～1,100万円未満	32. 3,000万円以上
11. 500～550万円未満	22. 1,100～1,200万円未満	33. わからない

新型コロナウイルスの感染状況についておたずねします。

問25 この1年間でお子さんを含め、同居家族が新型コロナウイルスに感染したのべ回数を教えてください。(例：母 1回、長男 1回 ⇒ 2回とお答えください。)

回

問26 あなたの住居環境についておたずねします。

(1) あなたがお住まいの住居の間取りは、次のどれにあてはまりますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1. ワンルーム | 3. 居室2部屋 (2K、2DK、2LDK) |
| 2. 居室1部屋 (1K、1DK、1LDK) | 4. 居室3部屋 (3K、3DK、3LDK) 以上 |

(2) その住居には、何人でお住まいですか。(□に数字をお書きください。)

人

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございました。

相談窓口のご案内

○子ども総合相談窓口(すこやかプラザ)

TEL：06-6852-5172
24時間 365日

0歳から18歳になるまでの子どもと家庭にかかわるさまざまな相談をお聞きし、課題の整理をお手伝いしながら、必要な情報を提供したり、問題解決に向けて一緒に考えたりする窓口です。

○子ども・教育総合相談窓口(庄内コラボセンター)

TEL：06-6398-9211
来所は月～金 10時～17時 *来所(要予約)での相談のみ

18歳になるまでの子どもと家庭に関わるさまざまな相談をお聞きします。特に学習や学習環境に関するお悩みや問い合わせをお聞きします。

○その他の相談窓口は、右の二次元コードから



WEBによる回答

パソコン・スマートフォン・タブレット端末でも回答できます！>

- WEBで回答された場合は、同封の調査票の返送は不要です。
- 携帯電話（ガラケー）では回答できませんのでご注意ください。

◆ スマートフォン・タブレット端末の場合は、カメラで次の二次元バーコードを読み取ってください。

[二次元バーコード]



◆ パソコンの場合は、次のURL（「https…」から始まるアドレス）を検索画面に手入力し、エンターキーを押してください。

[URL] <https://src.webcas.net/form/pub/src2/2700081>

◆ 最初の画面が表示されたら、次のIDを入力し、「次へ」ボタンを押し、ログインしてください。

◇ ID

※ IDは、個人を特定するものではありません。

◆ ログイン後は、質問の番号順に沿って回答してください。

◆ WEBでの回答は1回限りです。回答を送信すると、そのあとの修正はできません。

子ども・保護者のみなさまに本調査にご協力いただきました。ご多忙の中快くお引き受けくださりご協力くださいましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。

豊中市子どもの生活に関する実態調査

令和7年（2025年）2月

豊中市

調査研究業務 受注者

公立大学法人大阪 大阪公立大学